

武蔵国分寺跡発掘調査概報

26

—北方地区・平成8～10年度 西国分寺地区土地区画整理事業及び泉町
公園事業に伴う調査—

〔本文編〕

2002年3月

国分寺市遺跡調査会

序

武蔵国分僧寺跡の北方の台地上には、寺地の北限を示す溝が東西方向に遺存していることが知られている。その溝の存在については、昭和20年代の後半から同30年代の初頃にかけての発掘調査によって確認され、その後、溝を隔てた北方に古代の竪穴住居跡などが検出された。

このように後背の台地上には国分僧寺と密接な関係にあった遺構が残されているが、一方、西方には南北に走る東山道武蔵路が発掘され、さらに東山道の西側は武蔵国分尼寺跡の後背地に連なり、国分僧・尼寺の実態を検討するとき等閑視することができない地域である。

この地は、崖線寄りの南側は旧郵政省宿舍の用地、その北側は、旧国鉄中央鉄道学園の用地として利用されていたが、その西南方に国分寺市立小学校（第四小学校の移築）が、北方に都立公園（泉町公園、後に武蔵国分寺公園と改称）が建設されることとなり、二つの用地内における埋蔵文化財の発掘調査が平成8年から同13年にわたって実施された。

発掘調査は、建設用地のなかの必要範囲を対象として行われ、予期した通り大きな成果が挙げられた。調査地の東方、悪ヶ窪谷の近くからは旧石器時代の遺物が出土し、この台地が旧石器時代の後期から生活の舞台として利用されたことが明らかにされ、また縄文時代の遺構としては中期の五領ヶ台式土器を伴う竪穴住居が発掘され、さらに土坑などの存在も確認されて、中期縄文人の生活の痕跡が明らかになった。古代の遺構としては、40軒の竪穴住居跡、11棟の掘立柱建物跡、墓4基のほか土坑・溝が検出され、武蔵国分寺の営まれた時代以降にこの地域が利用されていたことが明瞭にされたのである。

発掘調査の契機が特定住宅市街地総合整備促進事業に伴う土地区画整理事業及び公園事業に伴うものであったため、必ずしも武蔵国分僧寺の北方台地上における遺跡のあり方を充分に知るにはいたらなかったが、この地域における空間利用の一斑を具体的に認識することができたことは今後の国分寺の調査と研究に大きな示唆をあたえる資料を学会に提供するにいった。

なお、特記すべきは「泉町公園」が平成14年4月1日付で「武蔵国分寺公園」と改称されることになったことである。歴史的な由緒をもった地域の公園名として誠に相応しい名であり、ことにあった関係機関に対して敬意を表するにやぶさかではない。

本冊は平成8年から10年にかけての報告であり、平成11年から13年の報告は続刊されることになっている。報告書の刊行にあたり、万般のご高配とご協力を下さった関係の諸機関と各位に対して、厚く御礼を申し上げさせて頂きたいと思う。

平成14年3月

国分寺市遺跡調査会
会長 坂詰 秀一

例 言

1 本書は、東京福因寺市泉町2丁目と西元町1丁目他に所在した、旧中央鉄道学園及び旧郵政省住宅跡地に計画された特定住宅市街地総合整備促進事業のうち、土地区画整理事業及び泉町公園事業に伴う発掘調査報告書で「本文編」「遺構編」「遺物編」の「本文編」である。

今回報告する調査は平成8～10年度に実施した次数の調査をまとめたもので、平成11～13年度の調査については別途刊行する。

各地区の名称・次数・実施年度は以下の通りである。

8年度	421次調査	泉町公園北地区(5地区)
	428次調査	国7・5・1号道路地区
	431次調査	小学校予定地区1次
	437次調査	国3・4・3号道路北側拡幅に伴う事前調査地区
9年度	442次調査	泉町公園北側池木体地区
	443次調査	泉町公園南側橋脚基礎地区
	444次調査	国3・4・3号道路北側拡幅地区1次
	445次調査	国3・4・3号道路南側拡幅地区1次
	446次調査	小学校予定地区2次
	449次調査	泉町公園北側洗面所地区
10年度	459次調査	都施設用地地区1次
	460次調査	小学校予定地区3次

2 調査は、平成8年4月から、平成13年10月まで実施し、整理は、調査と並行して園分寺遺跡調査会西園分寺事務所において随時実施した。

3 本書の執筆・編集は、吉田格・永峯光一・大川清・坂越秀一の監修のもとに、上村昌男・吉田好孝・吉岡秀範・中山哲也が担当し、有吉重蔵・福田信夫・上敷俊久・木下さおりがこれを助けた。

4 発掘作業及び整理作業に参加・協力いただいた方及び機関は次の通りである。(敬称略・順不同)

発掘調査

荒 順、井口正利、稲井 亮、桂 弘美、高田智博、鈴木靖彦、豊泉好一、藤崎 努、荒井美紀、秋本真治郎、安部幸子、雨野昇正、有岡博美、安藤純人、飯田尚武、飯野重喜、五十嵐祐司、池内美津子、池田幸夫、石川太郎、石立幸三、板谷美佐子、伊藤直子、伊藤祐介、井上利明、井上義幸、猪又 稔、今井博規、射落 誠、岩倉祐子、岩松泰生、上野亀次郎、卯月裕治、梅田善光、梅本孝義、江成一男、遠藤清登、大井 史、大石重光、大川照代、大木信一、大平得子、岡崎伸弘、尾上泰二、岡本 清、小川静夫、小田倉麻子、上條靖幸、上中 隆、川津佐知子、川部作美、川俣誠之、川村 誠、木内永子、菊池 章、木下純芳、木村 勉、木村秀子、釘田幸子、草葉一雅、久保田晴彦、倉持京子、栗原孝充、栗山 寛、来栖昭夫、小泉利男、郡道代、古賀真由美、小坂紀夫、小平忠治、後藤秀子、小林哲也、小松伸行、小山明利、斉藤謙仁、斉藤宏之、三枝豊光、坂本 啓、桜井由夫、佐藤朱美、佐藤恵子、佐藤潤一、佐藤久志、沢森 清、志野光司、藤崎知子、清水 潤、清水早織、清水良子、下井葉子、陣野嗣人、新村幸成、菅原美子、杉谷瑞夫、杉山知浩、鈴

木 裕、鈴木恵美子、鈴木久晴、鈴木宏美、角田葉子、関 美男、高橋 修、高橋修司、高橋はるみ、高橋正人、高橋利一、高山亜希子、竹内富男、武富道隆、竹ノ内和陽、竹原 弦、田島雅子、伊達正剛、田中亮、谷村とめ子、塚本昭二郎、津田 稔、土屋美智夫、都筑庸子、寺原千恵子、戸厩 功、中島政美、中野土朗、中間廣見、中間靖幸、中村 弘、中村浩司、中村陽子、西岡義久、西城 学、西脇尚人、布谷昌義、乃一政志、野田定男、橋本 想、浜野重成、林田重成、日塔龍也、平木芳徳、平山より子、深沢紀男、深田信男、福崎雅代、古澤かや、古澤賢豪、古谷英之、堀井彩世、木田孝子、政木九一、舛田謙司、松井和夫、松本健児、松山寛三、丸山和子、三浦十七三、三浦真智子、三嶋大雄、清祐子、峰岸良行、宮岡久美子、宮下常夫、三好裕美、三輪 浩、村松山貴、安岡哲平、安ヶ川 盛、山田 秀、湯田五郎、横田 功、吉井知生、吉岡雅敏、渡辺敬之介、渡辺チイ 白木建設工業㈱、森永建設㈱、加藤重機建設㈱、關こうそく（名称は当時のもの）

整理作業

井村みゆき、岩崎正枝、大下ゆみ、大羽正子、岡島チツエ、唐沢順子、川岸満子、川越裕子、木村初江、小林たづ子、小林幸江、佐藤謙佐子、志摩明子、宿谷紗貴子、千葉則子、塚田典枝、對馬律子、内藤靖子、榎岡ゆう子、長江春葉、東 清子、村山賢子、山口啓子、合田敏子、石原三貴子、井出尻直子、伊藤多恵子、伊藤直子、國應聡子、太田景子、大西志子、工藤麗子、寒河江かほり、佐藤志子、杉山やよい、鈴木恵美子、鈴木宏美、武田志奈、野口衣子、望月百代、波多野ヒロ子、服部良子、福本礼子、矢田美知子、山崎芳春、山本啓子、和田由紀、渡辺かおる

凡 例

1. 遺構は、各遺構（小穴を除く）毎には正確認順に連続番号を付し、下記の遺構記号を付して表示する。本文内では表題においては、「SI437住居」・「SK1654土坑」のように表記し、その他は遺構記号・番号のみで表記する。その番号は本誌全体における登録番号であって、本調査区のみで完結しない。

歴史時代	SB	掘立柱建物	SI	竪穴住居	SD	溝	SK	土坑
	SX	性格不明遺構	SZ	墓	P	小穴		
縄文時代	SI	J	竪穴住居	SS	集石・集石土坑	SK	J	土坑
							PJ	小穴
旧石器時代	ST	石器集中部（ユニット）	SK	P	土坑	PP		小穴

2. 小穴は各次数、地区毎に完結するが、421次調査、小学校地区（431・446・460次調査）のように複数地区の場合、重複を防ぐため小穴番号の頭に次数もしくは地区名を冠して表記した。また遺構配置図には遺物が出土したもののみ番号を記入し位置を明確にした。
3. 本文中及び遺構配置図表示の数字は発掘基準線からの距離を表わす。発掘基準線と僧寺金堂の中心点の関係は、前者の南北基準線上、中心点南26.276mに後者がある。また、僧寺中軸線の方は発掘南北基準線と一致し、真北から $7^{\circ} 07' 01''$ 、磁北から $0^{\circ} 37' 01''$ それぞれ西偏する。
4. 遺物はすべて一覧表とした。表は各時代ごとに調査次数でまとめてあり、一部異なるものがあるが原則として図面番号順に列記している。
5. 表中の計測値のうち括弧の無いものは完数値、() は残存数値、[] は復元数値、— は計測不可を示す。また単位は表記しないものはすべてcmである。

本文目次

序

例言

凡例

I 調査の概要	1
1. 調査に至る経緯	1
2. 調査経過	7
3. 基本層序と確認面	7
4. 調査の方法	15
II 遺跡をとりまく環境	16
1. 地理的環境	16
2. 周辺の遺跡と歴史的環境	16
III 各地区の調査	18
1. 421次調査(平成8年度泉町公園事業 管理棟・池護岸地区他3地区)	18
(1) 概要	18
(2) 歴史時代の調査	19
(3) 縄文時代の調査	26
(4) 包含層の出土遺物	36
(5) 旧石器時代の調査	37
2. 428次調査(平成8年度土地区画整理事業 国7・5・1号道路地区)	38
(1) 概要	38
(2) 歴史時代の調査	38
(3) 縄文時代の調査	39
(4) 包含層の出土遺物	45
(5) 旧石器時代の調査	46
3. 431(494)・446・460次調査(平成8～10年度土地区画整理事業 小学校予定地区 1～3次)	47
(1) 概要	47
(2) 歴史時代の調査	47
(3) 縄文時代の調査	85

(4) 包含層の出土遺物	111
(5) 旧石器時代の調査	113
4. 437次調査(平成8年度土地区画整理事業 国3・4・3号道路北側拡幅に伴う 事前調査地区)	115
(1) 概要	115
(2) 歴史時代の調査	115
(3) 縄文時代の調査	116
(4) 包含層の出土遺物	117
5. 442次調査(平成9年度泉町公園事業 池本体地区)	118
(1) 概要	118
(2) 歴史時代の調査	118
(3) 縄文時代の調査	122
(4) 包含層の出土遺物	132
(5) 旧石器時代の調査	133
6. 443次調査(平成9年度泉町公園事業 南側橋脚基礎地区)	135
(1) 概要	135
(2) 歴史時代の調査	135
(3) 縄文時代の調査	135
(4) 包含層の出土遺物	136
7. 444次調査(平成9年度土地区画整理事業 国3・4・3号道路北側拡幅地区1次)	137
(1) 概要	137
(2) 歴史時代の調査	137
(3) 縄文時代の調査	152
(4) 包含層の出土遺物	159
(5) 旧石器時代の調査	160
8. 445次調査(平成9年度土地区画整理事業 国3・4・3号道路南側拡幅地区1次)	161
(1) 概要	161
(2) 歴史時代の調査	161
(3) 縄文時代の調査	162
(4) 包含層の出土遺物	162
9. 449次調査(平成9年度泉町公園事業 洗面所地区)	164
(1) 概要	164

(2) 歴史時代の調査	164
(3) 縄文時代の調査	164
(4) 包含層の出土遺物	164
10. 459次調査（平成10年度土地区画整理事業 都施設用地地区1次）	166
(1) 概要	166
(2) 歴史時代の調査	166
(3) 縄文時代の調査	168
(4) 包含層の出土遺物	172
(5) 旧石器時代の調査	173
IV 小結	175
V 総括	180

挿 図 目 次

第1図 遺跡の位置	6
第2図 調査区位置図及び調査次数	9
第3図 基本層序1	12
第4図 基本層序2	13
第5図 基本層序3	14

表 目 次

第1表 平成8～10年度調査工程	8
第2表 次数別調査面積及び確認遺構	8

遺物一覧表目次

421次調査 歴史時代土器一覧	191
428次調査 歴史時代土器一覧	193
431・446・460次調査 歴史時代土器一覧	193
437次調査 歴史時代土器一覧	218
442次調査 歴史時代土器一覧	219
442次調査 中世陶器一覧	221
444次調査 歴史時代土器一覧	221
445次調査 歴史時代土器一覧	229

459次調査	中世陶器一覽	229
421次調査	鏡瓦一覽	231
421次調査	男瓦一覽	231
421次調査	女瓦一覽	232
421次調査	塼一覽	233
428次調査	字瓦一覽	233
431・446・460次調査	鏡瓦一覽	234
431・446・460次調査	字瓦一覽	234
431・446・460次調査	男瓦一覽	234
431・446・460次調査	女瓦一覽	239
431・446・460次調査	熨斗瓦一覽	249
431・446・460次調査	塼一覽	249
437次調査	字瓦一覽	250
437次調査	男瓦一覽	250
437次調査	女瓦一覽	250
437次調査	塼一覽	251
442次調査	男瓦一覽	251
442次調査	女瓦一覽	252
444次調査	鏡瓦一覽	252
444次調査	字瓦一覽	253
444次調査	男瓦一覽	253
444次調査	女瓦一覽	254
444次調査	塼一覽	257
445次調査	男瓦一覽	258
445次調査	女瓦一覽	258
445次調査	塼一覽	258
459次調査	女瓦一覽	258
421次調査	鉄製品一覽	259
431・446・460次調査	鉄製品一覽	269
442次調査	鉄製品一覽	261
444次調査	鉄製品一覽	262
459次調査	鉄製品一覽	263

428次調査	石製品一覧	263
431・446・460次調査	石製品一覧	263
442次調査	石製品一覧	263
444次調査	石製品一覧	264
442次調査	土製品一覧	264
421次調査	縄文土器一覧	265
428次調査	縄文土器一覧	266
431・446・460次調査	縄文土器一覧	267
437次調査	縄文土器一覧	271
442次調査	縄文土器一覧	271
443次調査	縄文土器一覧	272
444次調査	縄文土器一覧	273
445次調査	縄文土器一覧	273
449次調査	縄文土器一覧	274
459次調査	縄文土器一覧	274
446・460次調査	土製円板一覧	275
421次調査	石器一覧	276
428次調査	石器一覧	276
431・446・460次調査	石器一覧	277
437次調査	石器一覧	283
442次調査	石器一覧	283
443次調査	石器一覧	284
444次調査	石器一覧	284
445次調査	石器一覧	285
449次調査	石器一覧	285
459次調査	石器一覧	286
421次調査	スタンプ形石器一覧	287
428次調査	スタンプ形石器一覧	287
431次調査	スタンプ形石器一覧	287
446次調査	スタンプ形石器一覧	288
460次調査	スタンプ形石器一覧	289
437次調査	スタンプ形石器一覧	289

442次調査	スタンプ形石器一覽	290
443次調査	スタンプ形石器一覽	290
444次調査	スタンプ形石器一覽	290
449次調査	スタンプ形石器一覽	290
459次調査	スタンプ形石器一覽	290
428次調査	旧石器時代石器一覽	291
446・460次調査	旧石器時代石器一覽	291
442次調査	旧石器時代石器一覽	292
444次調査	旧石器時代石器一覽	292
459次調査	旧石器時代石器一覽	292

遺構編

図面1～図面193

図版1～図版239

遺物編

図面1～図面191

図版1～図版96

I 調査の概要

1. 調査に至る経緯

J R 西国分寺駅の南東側に位置する旧国鉄中央学園跡地（旧国鉄清算事業団用地）および旧郵政省宿舍用地の約32.4haの区域は、国分寺市内はもとより東京都内でもきわめて希少な大規模空地で、J R 中央線とJ R 武蔵野線の交差する西国分寺駅に近接しているという利便性や地域周辺には史跡武蔵国分寺跡をはじめとして、国分寺崖線周辺の緑地帯や崖線下の湧水群など、環境資源に恵まれている地域である。

国分寺市は、当該地の開発に当たり、どのように活用することが都民や市民にとって有効であるか検討を重ねた結果、特定住宅市街地総合整備促進事業を活用し、周辺環境との調和と景観形成に配慮しつつ、住宅・公園・公益施設（福祉施設、小学校）・道路を一体に整備することで、より良い居住環境を創出する内容とすることとした。

本地域は武蔵国分寺跡（国分寺市№19遺跡）及び日影山遺跡（国分寺市№9遺跡）に該当しており、開発計画策定にあたり埋蔵文化財の取り扱いについて事前協議を行い、覚書、協定書を取り交わし発掘調査に着手している。以下協議の経過を記す。

平成3年8月14日～同年12月6日 旧国鉄中央学園跡地の開発に先駆けて「当該地の埋蔵文化財の内容を把握し、文化財保護の上で必要な措置をとるための基礎資料を得る」ために、試掘調査（第364・369次調査）を2回にわたり実施した。試掘調査の対象範囲は旧国鉄中央学園跡地内の公園部分を除いた16.7haを対象に行う。調査の結果、東山道武蔵路をはじめとする奈良・平安時代の遺構と縄文時代中期の遺構・遺物、旧石器時代の遺物が検出された。

平成5年5月21日 試掘調査結果をもとに東京都と埋蔵文化財の取り扱いについて協議を開始する。

平成5年7月 旧国鉄中央学園跡地の西側を、国分寺市を含む4事業者で行う特定住宅市街地総合整備促進事業区域と、郵政省宿舍用地を含む東側を東京都多摩都市整備本部が行う土地地区画整理事業区域に分割される。

平成5年8月26日 東京都から特定住宅市街地総合整備促進事業区域の埋蔵文化財発掘調査を東京都の遺跡調査会で、土地地区画整理事業区域を東京都埋蔵文化財センターでの対応を提示される。

平成5年10月27日 特定住宅市街地総合整備促進事業区域6.7haを調査対象とする西国分寺地区遺跡調査会が設立される。

平成5年11月15日 特定住宅市街地総合整備促進事業区域の調査を開始する。

平成6年4月20日 土地区画整理事業区域の調査分担に合意する。東京都埋蔵文化財センターは、旧国鉄中央学園跡地の北側の6.2haの埋蔵文化財の発掘調査を受け持ち、平成7年度より着手する。国分寺市遺跡調査会は旧郵政省宿舍用地を含む、南側部分と公園用地部分の5.8ha＋公園用地部分を受け持ち、平成8年度より調査に着手することとなる。

平成6年5月24日 西国分寺土地区画整理事業区域事業推進連絡会議を設置し、年度別調査について調整を始める。

平成7年3月16日 土地区画整理事業区域の調査について東京都多摩都市整備本部、東京都教育委員会、国分寺市教育委員会の三者により覚書の内容について協議を行う。

調査期間については、事業終了年の平成12年との兼ね合いから現場作業3年間、整理作業2年間の計5年間とすることが提示される。埋蔵文化財センターは、平成7年～11年度で対応が可能である。国分寺市遺跡調査会は平成8年～12年度で対応可能か今年度中に検討することとなる。

平成7年3月28日 「西国分寺土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財発掘調査範囲に関する覚書」「西国分寺土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財発掘調査に関する協定書」を東京都多摩都市整備本部、東京都教育委員会、東京都教育文化財団の三者で締結する。

平成7年3月28日 「西国分寺土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財発掘調査範囲に関する覚書」を東京都多摩都市整備本部、東京都教育委員会、国分寺市教育委員会の三者で締結する。

平成7年4月1日 東京都埋蔵文化財センターは調査の準備に入る。

平成7年5月17日 東京都多摩都市整備本部より埋蔵文化財発掘届け、57条3の通知がされる。国教社文収第97号にて事前調査の意見をつけ東京都教育委員会に递送する。

平成7年5月30日 東京都教育委員会より7教生文埋第144号にて事前の発掘調査を実施するよう通知がある。

平成8年1月より3月 東京都多摩都市整備本部建設計画部武蔵野整備室の担当と調査現場及び調査費の積算についての協議に入る。調査費の積算については既に調査に着手している東京都埋蔵文化財センターの積算に準ずるよう要望が出される。

平成8年3月13日 「西国分寺土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財発掘調査に関する協定書」東京都多摩都市整備本部、国分寺市教育委員会、国分寺市遺跡調査会の三者で締結する。

平成8年3月19日 7多建武第279号にて平成8年度西国分寺地区土地区画整理事業区域内の埋蔵文化財発掘調査経費の見積り依頼がある。

平成8年3月26日 国遺調収第6号にて平成8年度西国分寺地区土地区画整理事業区域内の埋蔵文化財発掘調査経費の見積りを回答する。

平成8年4月1日 「平成8年度西国分寺土地区画整理事業及び泉町公園事業埋蔵文化財発掘調査委託」の契約を締結し、公園北側地区の盛土部分の試掘確認調査の準備に入る。

国分寺市遺跡調査会組織

平成14年3月現在

—役員及び監事—

会 長	坂 詰 秀 一	国分寺市文化財保護審議会委員長
副会長	吉 田 格	元国分寺市文化財保護審議会委員
理 事	永 峯 光 一	元國學院大学教授
〃	大 川 清	国士館大学名誉教授
〃	星 野 信 夫	国分寺市長
〃	大 平 恵 吾	国分寺市教育委員会委員長
〃	野 村 武 郎	国分寺市教育委員会教育長
〃	藤 間 恭 助	元国分寺市文化財保護審議会委員
〃	星 野 亮 雅	元国分寺市社会教育委員
〃	本 多 寅太郎	国分寺市文化財保護審議会副委員長
〃	古 関 豊	国分寺市文化財保護審議会委員
〃	関 口 雄基臣	国分寺市文化財保護審議会委員
〃	北 原 進	国分寺市文化財保護審議会委員
〃	坂 東 雅 樹	東京都教育庁生涯学習部文化課長
〃	木 俣 健 明	国分寺市教育委員会社会教育部長
監 事	榎 戸 深	元国分寺市社会教育委員
〃	可 児 通 宏	東京都教育庁生涯学習部文化課課長補佐兼埋蔵文化財調整係長

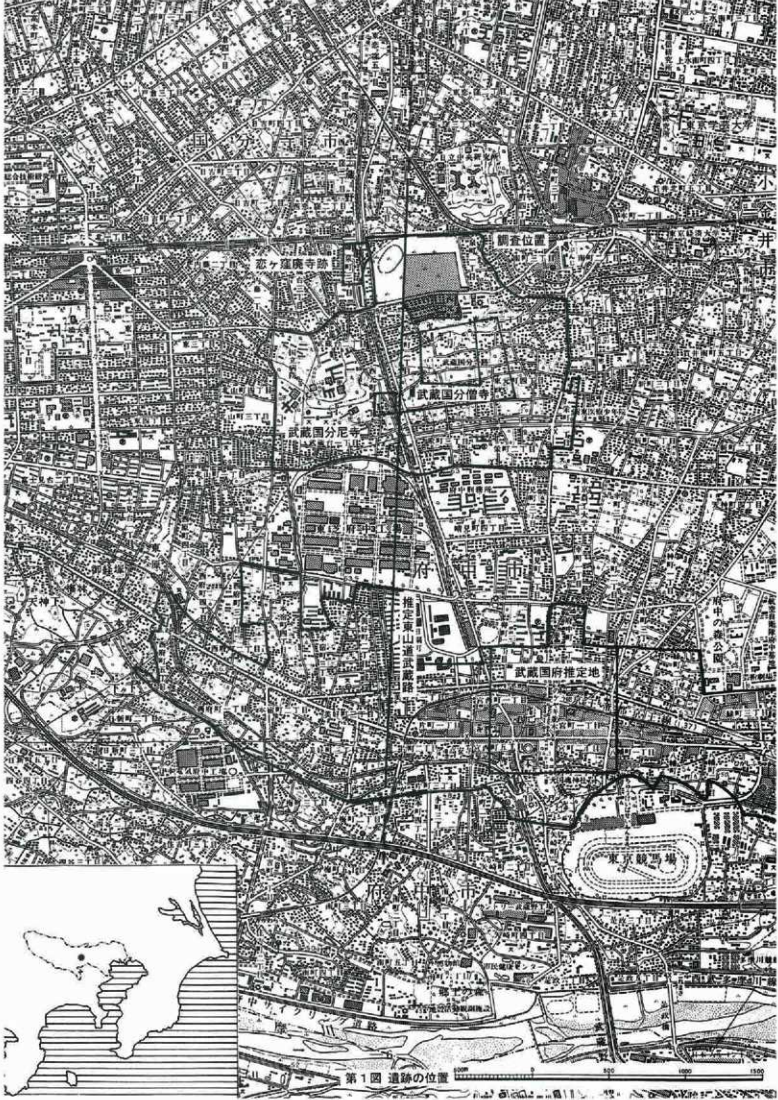
—武蔵国分寺跡調査・研究指導委員会—

委員長	吉 田 格	(考古)
委 員	永 峯 光 一	(〃)
〃	坂 詰 秀 一	(〃)
〃	大 川 清	(〃)
〃	宮 本 敏	(古代史)
〃	金 丸 義 一	(建築史)

—事 務 局—

事務局長	有 吉 重 蔵	国分寺市教育委員会社会教育部文化財課長
事務局員	豊 泉 文 夫	国分寺市教育委員会社会教育部文化財課文化財保護係長
〃	木 村 ゆう子	国分寺市教育委員会社会教育部文化財課文化財保護係員

”	松崎 亜希子	国分寺市教育委員会社会教育部文化財課埋蔵文化財係員
事務総括	稲井 亮	国分寺市遺跡調査会
		一調査団一
調査団長	吉田 格	元国分寺市文化財保護審議会委員
主任調査員	福田 信夫	国分寺市教育委員会社会教育部文化財課埋蔵文化財係長
調査員	上村 昌男	国分寺市教育委員会社会教育部文化財課埋蔵文化財係員
”	上敷領 久	国分寺市教育委員会社会教育部文化財課埋蔵文化財係員
”	岩崎 玲子	国分寺市教育委員会嘱託職員
”	木下 さおり	国分寺市遺跡調査会
”	板倉 歆之	国分寺市遺跡調査会
”	吉田 好孝	日本竊業史研究所
”	吉岡 秀範	日本竊業史研究所
”	中山 哲也	日本竊業史研究所（平成13年10月退任）



第1回遺跡の位置

2. 調査経過

調査は当初平成8年度から10年度の3か年で終了する予定であったが、工事計画及び地権者の関係や予算上の問題から調査期間を延長し、同13年までの6か年で行った。今回報告するのはこのうち8～10年度の調査分であり、以下当該年度分の調査を概観する。

平成8年度は、4月からまず421次調査（泉町公園地区の盛土部分の試掘調査、排水管部分の調査、北側橋脚基礎部分の調査、管理棟の調査）を行った。また、この間工事計画の変更により、公園の池護岸部分を行うこととなり調査を開始し、421次調査は10月9日に終了した。428次調査（国7・5・1号道路部分の調査）は7月1日から11月29日まで行い、一部並行して、431次調査（小学校予定地第1次調査）を行い、翌年の3月25日にすべての調査を終了した。

平成9年度は、4月1日から442次調査（池本体部分の調査）と443次調査（南側橋脚基礎部分の調査）を行い、443次調査は5月31日、442次調査は9月30日に終了した。また一部並行して444次調査（国3・4・3号道路北側拡幅第1次調査）、8月6日から445次調査（国3・4・3号道路南側拡幅第1次調査）を開始し445次調査は10月27日に、444次調査は3月3日に終了した。この間当初予定になかったが公園洗面所の設計の変更により、埋蔵文化財に影響を与えるため急遽449次調査（洗面所部分の調査）として9月3日から調査を行い10月24日に終了した。また446次調査（小学校予定地第2次調査）を10月1日から開始し、翌年の3月25日にすべての調査を終了した。

平成10年度は、当初の予定では調査最終年度であったが、計画が大幅に変更となったため459次調査（都施設用地第1次調査）と460次調査（小学校予定地第3次調査）の2か所の調査を行った。459次調査は郵政省（当時）の換地予定地の東山道武蔵路が保存されることになり、その代替地として調査を行うこととなったもので、5月6日に開始したがテニスコートにより破壊されている部分が多く、8月12日に終了した。460次調査は8月17日に開始し、翌年の3月29日にすべての調査を終了した。

3. 基本層序と確認面

基本層序はこれまでに本調査会での周辺の調査の結果に基づき、これらを踏襲して用いた。表土は調査員ないし補助員立会いのもと、重機によりⅡ層下部ないしⅢ層を別途除去した。その後人力により除去し、歴史時代の遺構はⅢ層上部での確認を別途とした。その後歴史時代の遺構の調査終了後、人力によりⅢ層の除去を行った、除去に際しては遺物や層位を確認しながら、1ないし2面つつ除去し、その途中で遺構が確認できた場合は、その面で止め、遺構の

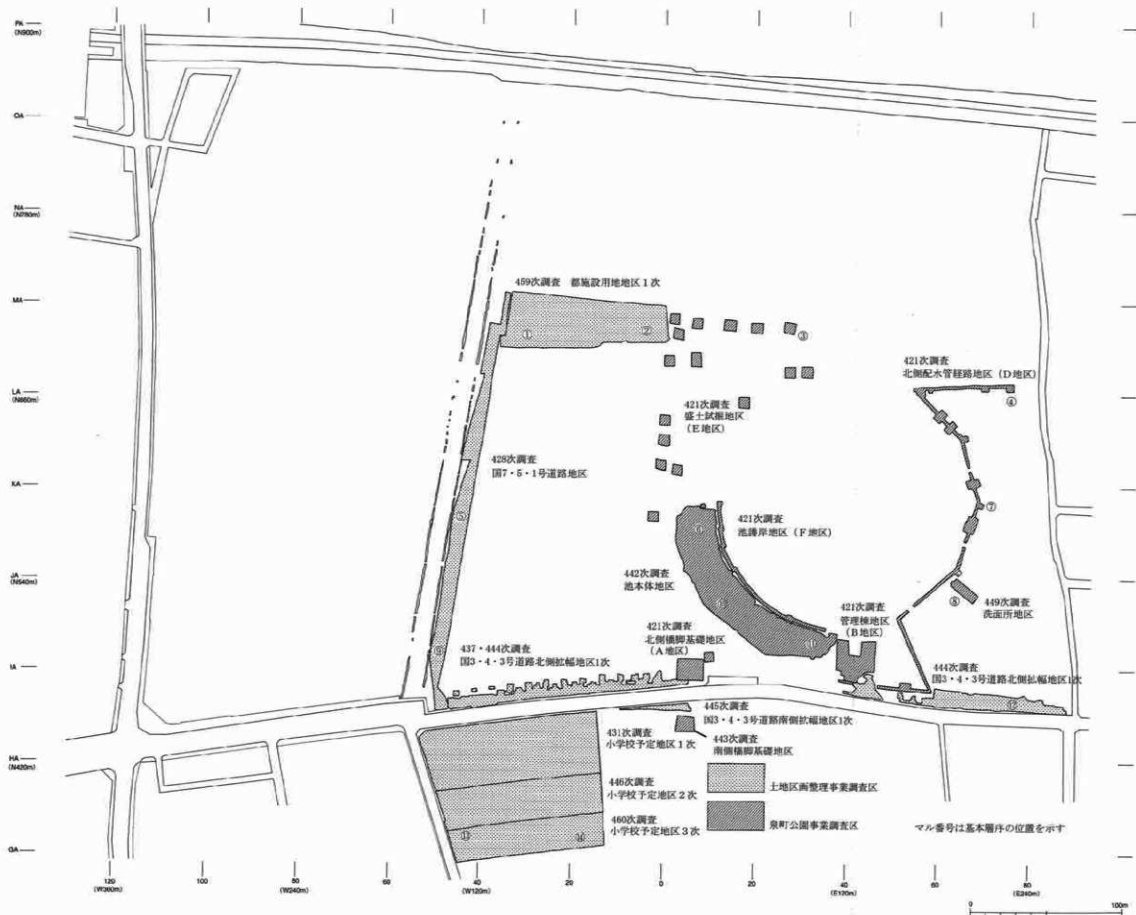
第1表 平成8～10年度調査工程

年度	区 数・地 区	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
平成 8年度	421次調査 泉町公園北地区(5地区)												
	428次調査 国・5・1号道路地区												
	431次調査 小学校予定地地区1次												
平成	437次調査 国3・4・3号道路沿線に伴う事前調査地区												
	442次調査 池本地区												
	443次調査 南朝橋副基礎地区												
9年度	444次調査 国3・4・3号道路北側高橋地区1次												
	445次調査 国3・4・3号道路南側高橋地区1次												
	446次調査 小学校予定地地区2次												
平成 10年度	449次調査 茨面所地区												
	459次調査 都瀬設用地地区1次												
	460次調査 小学校予定地地区3次												

第2表 水取別調査面積及び確認業務

年度	調査次数	調査面積(㎡)	歴史時代			縄文時代			旧石器時代				
			竪穴住居	土坑	隆格不明	竪穴	竪穴生周	土坑	小穴	ユニッド	土坑	小穴	
平成8年度	421次調査	2,418.80	1	9	14	1	68	1	4	41(2)	164	1	1
	428次調査	2,412.90		2	3		17			33(1)	123		
	431次調査	4,545.00	2	11	4	2	613			50(7)	480		
	437次調査	239.00	1	1	1		70				1	64	
	442次調査	3,481.15	1	2	3	8	40			56(6)	425	1	1
平成9年度	443次調査	113.90					10			2(1)	28		
	444次調査	1,929.17	11	3	24	5	139			39(2)	328		1
	445次調査	115.00	1			1	82				1	6	
	446次調査	2,737.00	2	2	15		1	471		45(10)	521	2	
	449次調査	105.00			1		15				25		
平成10年度	459次調査	3,246.60		3	8		23			1	20(2)	75	1
	460次調査	2,188.90	8	11	1	31	3	148		1	32(8)	163	
	合 計	23,332.42	11	40	27	134	9	4	1696	2	5	320(39)	2402

縄文時代の(数字)は輪穴



第2図 調査区位置図及び調査回数

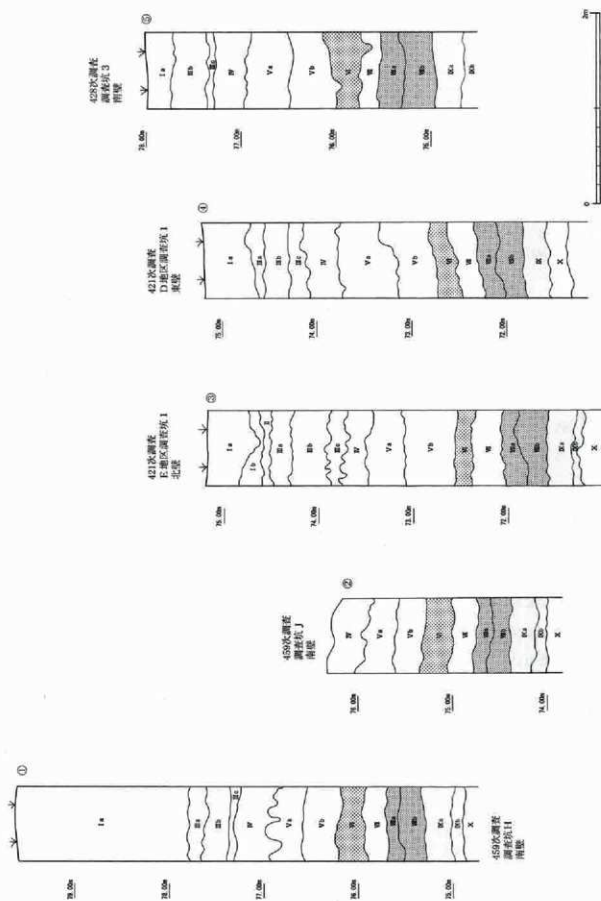
調査を行った。

調査区域は東西、南北約420mと広く、3か年に亘る各地区の層位の状況(第2～5図参照)から、東西、南北方向の地形を見ると、東西方向は、全体に西から東に向かって傾斜して低くなっている。その状況は西側(428次調査区)から中央付近(442次調査区)までが50cm前後、中央付近から東側(421次調査区D地区中央、444次調査区東側)にかけて130～220cmと傾斜が強くなる。南北方向は、中央付近(442次調査区)から北方向(421次調査盛土試験地区北側)に向かって150～300cmと大きく傾斜して低くなっており、谷が入り込んでいるものと推測される。また、多喜窪通り(国3・4・3号道路)以南が僅かに傾斜して低く(50cm前後)なっている。

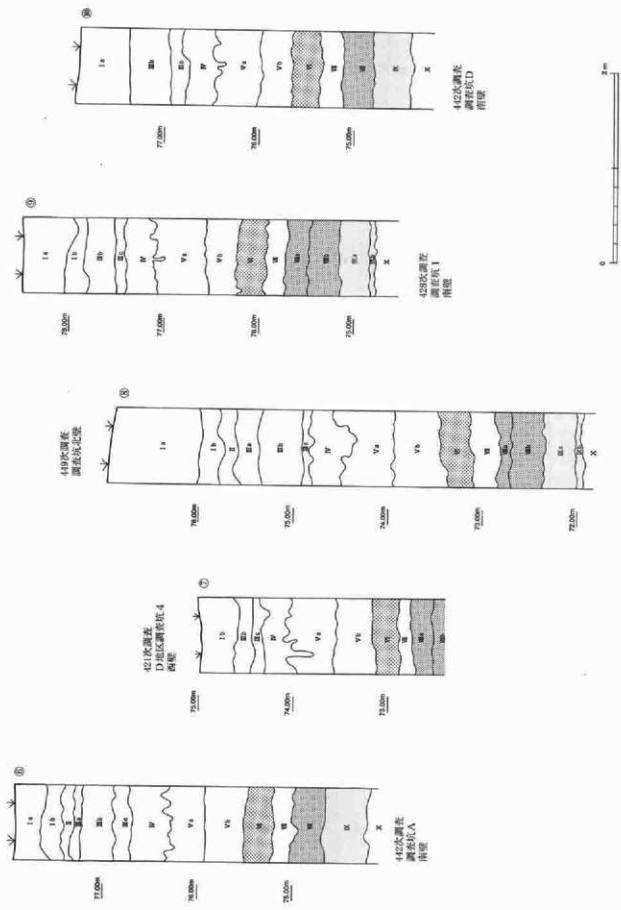
調査地区の基本層序は次のとおりである。

層序

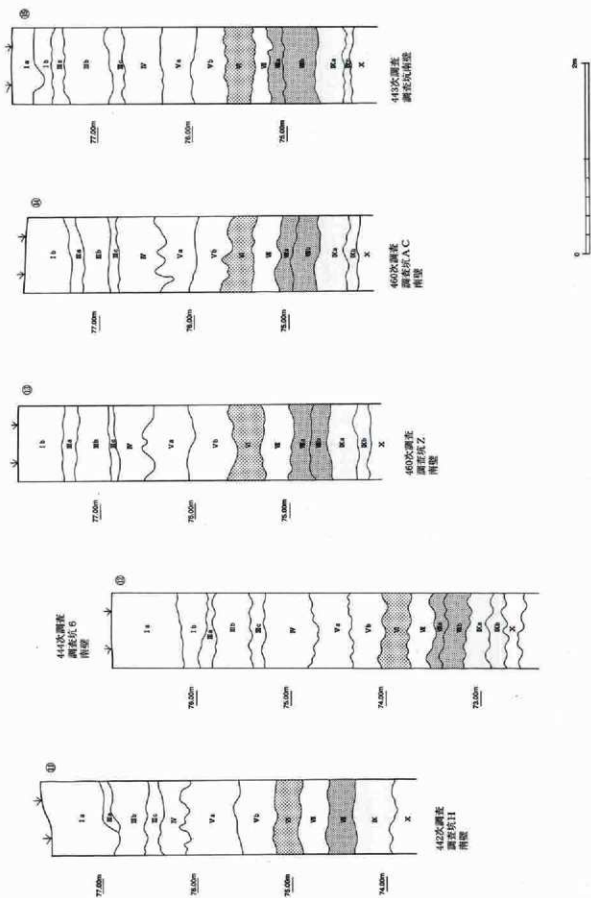
- I a層 盛土。ローム、砂利その他の客土。
- I b層 表土。耕作土。乾燥するとバサつき、崩れやすくなる。
- II層 黒褐色土。粒子粗く、粘性に欠ける。歴史時代の遺構内の堆積土に酷似する。
- III a層 黒褐色土。やや茶褐色味を帯びる。締まり、粘性あり、III層の上部で、II層に近い部分。II層・III b層との境は漸移的。縄文時代の遺物を出土する。
- III b層 暗茶褐色土。下部にいくに従い褐色味が強く、粘性を増す。縄文時代の遺物を多く出土する。歴史時代の遺構の大半が該層上面にて検出し易くなる。
- III c層 茶褐色土。ローム漸移層。上部に赤色スコリアを多く含み、IV層との境は凹凸が激しい。縄文時代の遺物を若干出土する。縄文時代の遺構は本層上面にて検出がやや容易になる。
- IV層 暗黄褐色土ローム。ソフトローム。赤色スコリア粒を含む。III c層との境はやや不明瞭である。縄文時代の遺構の大半が、本層上面にて検出が容易となる。
- V a層 黄褐色土ローム。ハードローム。下部にいくに従って黄褐色味が乏しくなり、灰色味を増す。赤色、黒色スコリア粒を多く含む。
- V b層 黄褐色土ローム。ハードローム。V a層に比べスコリア粒が少なく、暗い。
- VI層 暗褐色土ローム。立川ローム第一黒色帯。黒色・赤色・青色スコリアを含み、粒は細かく、密度は高い。また粘性も強い。
- VII層 明黄褐色土ローム。始良・丹沢火山灰層(AT層)を含む層と考えられる。明るいローム。上部において径2～5cm大で、ブロック状で明るい。
- VII a層 褐色土ローム。黒色・赤色スコリアを含む。
- VII b層 暗褐色土ローム。立川ローム第二黒色帯。VII a層よりさらに黒色味増す。黒色・赤色・青色・白色スコリアを多く含み、粒子は細かく、密度も高い。また粘性も増す。



第3図 基本層序 1



第4図 基本層序2



第5図 基本断片3

IXa層 暗褐色土ローム。立川ローム第二黒色帯。VIII層よりさらに黒色味増す。粒子は細かく、密度も高い。また粘性も増す。

IXb層 暗黄褐色土ローム。立川ローム第二黒色帯。成分はIXa層と同じで、IXa層より明るい。

X層 黄褐色土。粒子は極めて細かく、密度は高い。また粘性も強い。

4. 調査の方法

調査は基本的に工事計画に沿って行った。工事予定地では影響範囲全体を調査した。しかし公園予定地については基本的に現況を保存しながら整備を進めるため、工事が直接埋蔵文化財に影響を与える部分に限定して調査を行った。このため公園地区では変則的な調査区が多い。遺構が調査範囲外に延びる場合、溝跡を除きその遺構の全体を調査できる最小の範囲に限定して拡張し調査を行った。また盛土が行われる場合は、遺構の分布状況を把握するため試掘調査を実施した。基本的には遺構の掘り下げは行わず、確認のみで止め、遺構の確認されない部分を選び、III層を除去し、縄文時代の遺構確認と、旧石器時代の調査を行った。

発掘基準線は武蔵国分寺跡全体で用いている極地座標を用い、また遺構番号も武蔵国分寺跡で用いている番号を用いた。ただし、小穴については多数に及ぶため次数ごとに番号を付した。この極地座標は武蔵国分寺金堂と講堂の主軸線を南北線に、この中央を基準点として四方に拡大したもので、発掘基準線中心点と僧寺金堂中心点の位置関係は前者の南北基準線上中心点南26.276mに後者がある。また、僧寺中軸線の方位は発掘南北基準線と一致し、真北から $7^{\circ} 07' 01''$ 、磁北から $0^{\circ} 37' 01''$ それぞれ西偏する。

グリットはこの基準線をもとに四分割し、これを象限と呼称し、これを象限ごとに60mの大グリットとし、さらに3mの小グリットに分割し、南北をアルファベット、東西を算用数字で表した。

遺物は遺構内、包含層から出土したものは小片を除き基本的に全て残し、トータルステーションにより出土位置、高さを記録した後取り上げた。ただし、表土・確認面から出土した遺物については出土グリットごとに取り上げた。

II 遺跡をとりまく環境

1. 地理的環境

本調査地区は国分寺市西元町及び泉町に所在する。北側にJR中央線が東西方向に走り、西側には府中街道、遺跡のほぼ中央を国3・4・3号道路（多喜窪通り）が東西に横切っている。標高は77～79mで、遺跡は現状でほぼ平坦である。この地区は武蔵野台地の南端に位置し、すぐ南に国分寺崖線があり、立川段丘を臨む。立川段丘との標高差は約10mである。また北側から東側にかけて、国分寺崖線を北西から南東方向に切りこんだ野川による開析谷（恋ヶ窪谷）が60mの幅をもって走行し、武蔵野段丘を分断している。この恋ヶ窪谷と国分寺崖線により舌状に突出した丘陵の南東端に所在する。また国分寺崖線や恋ヶ窪谷の下辺部に沿って豊かな湧水が点在している。本調査地区付近にも、真姿弁財天を祀る真姿の池をはじめ、6か所の湧水地点が確認されている。

2. 周辺の遺跡と歴史的環境

本遺跡は武蔵国分寺跡の北方地区に位置し、武蔵国分寺と一体の遺跡である。武蔵国分寺跡は僧寺金堂を中心として、東西2.0km、南北1.5km程の範囲で遺構の分布が認められる。現行行政区の国分寺市西元町1～4丁目を中心とし、南方域は府中市にまで達している。北方域はおおむね多喜窪通り周辺まで歴史時代の遺構が多く確認されている。

僧・尼寺の主要遺構は武蔵野段丘の下位である立川段丘上に位置するが、僧寺伽藍地を区画する溝は武蔵野段丘上にまで延びていることが確認されており、この北方地区とは僧寺伽藍地の溝の北側一帯を称している。

本地区の周辺ではこれまでも多くの調査が行われているが、主なものを列記すると次の調査が実施された。第3次調査（リオン厚生会館建設地）、第51次調査（国際電信電話株式会社国分寺寮建設地）、第72次調査（国鉄中央鉄道学園新幹線実習館建設地）、第107次調査（佐藤国分寺共同住宅建設地）、第168・190次調査（国鉄中央鉄道学園内下水道工事に伴う調査）、第201次調査（佐藤国分寺共同住宅第2期建設地）、第218次調査（いずみプラザ建設地）、第249次調査（信濃建設・豊和住販住宅建設地）、第427次調査（動物病院建設地）、第429次調査（三菱地所側共同住宅建設地）、このほかに今回の区画整理事業に伴う調査としては、西国分寺地区遺跡調査会による日影山遺跡の調査、（財）東京都埋蔵文化財センターによる公園予定地北側部分の調査がある。（これらの調査範囲は調査に至る経緯参照）

周辺の調査地区を概観すれば、歴史時代の遺構では、第3次調査では住居7、土坑4、第51次調査では掘立柱建物5、住居4、溝2、道路状遺構1、土坑19、第72次調査では掘立柱建物1、住居7、溝2、土坑19、第107次調査では住居5、道路状遺構1（第51次調査において確認されたものの延長部分）、土坑3、第168・190次調査で掘立柱建物2、住居3、溝8、土坑7、第201次調査では掘立柱建物2（うち1は第51次調査において確認した建物と同一建物の西半分）、住居4、火葬墓1、土坑8、第218次調査では火葬墓1が検出されている。第427次調査では東山道武蔵路の東側側溝、第429次調査では住居6、土坑42、地下式横穴墓1、特殊遺構2が確認されている。西国分寺地区遺跡調査会による日影山遺跡の調査では、東山道武蔵路や溝、土坑等が確認されている。(財)東京都埋蔵文化財センターによる公園予定地北側部分の調査では住居、溝、土坑等が確認されている。

縄文時代の遺構は第3次調査では土坑1、第51次調査では住居1、配石1、埋甕2、集石・集石土坑10、土坑20、第107次調査では土坑4、第201次調査では土坑2、第429次調査では集石1、集石土坑1、土坑16が確認されている。西国分寺遺跡調査会の調査区では住居、土坑が確認され、(財)東京都埋蔵文化財センターによる調査では住居、積集中部、土坑等が確認されている。

旧石器時代においては、第51次調査でIV層、Va層、VI層において石器集中部(ユニット)が認められ、また第107次調査でもVa層で石器集中部(ユニット)1が検出されている。日影山遺跡ではV層から4枚の文化層と多数の礫群、石器ブロックが確認され、北側の(財)東京都埋蔵文化財センターの調査区からは現在整理中のため詳細は不明であるが多量の石器群が確認されている。これらの遺物の多くはいずれも沓ヶ窪谷に近接した部分で確認されている。

このように、本調査地区は、歴史時代の遺構については僧寺伽藍地外の北方にあり、寺院地内に比べると遺構数の密度は低いが、それでもほぼ全域から遺構が検出され、縄文時代・旧石器時代については、国分寺崖線上の武蔵野段丘縁近くで当該時期の遺構や遺物が比較的多く分布していることが確認されている。

Ⅲ 各地区の調査

1. 421次調査(平成8年度泉町公園事業 管理棟・池護岸地区他3地区)

(1) 概要

本調査対象調査区は、北側橋脚基礎地区(A地区)、管理棟地区(B地区)、北側排水管経路地区(D地区)、北側盛土試験地区(E地区)、池護岸地区(F地区)の5地区に分かれ、調査総面積は2,418.8㎡で、各地区の調査面積は、A地区が230㎡、B地区が495㎡、D地区が824.5㎡、E地区が591.9㎡、F地区が277.4㎡である。E地区は盛土部分の試験調査であるため、盛土をする範囲に6×6mの調査坑を17か所設定し調査を実施した。その際、歴史時代の遺構が確認された試験坑8か所(試験坑13の一部を除く)を除く9か所で縄文時代の調査を実施した。

旧石器時代の調査はA・B地区で6×6mの調査坑を各1か所、D・E地区では3×3mを基本に調査坑を6か所設定し、X層まで調査を実施した。

5地区で確認された遺構は、歴史時代が竪穴住居1軒、溝9条、土坑14基、地下式横穴墓1基、小穴68個で、縄文時代が竪穴住居1軒、集石4基、土坑41基(うち陥穴2基)、小穴164個で、各地区の確認遺構の内訳は次のとおりである。

A地区の遺構は、歴史時代が小穴19個、縄文時代が集石1基、土坑6基、小穴43個である。

B地区の遺構は、歴史時代が竪穴住居1軒、溝1条、土坑9基、小穴39個、縄文時代が土坑11基、小穴44個である。

D地区の遺構は、歴史時代が溝3条、土坑1基、小穴7個、縄文時代が竪穴住居1軒、土坑13基(うち陥穴2基)、小穴41個である。

E地区は歴史時代の溝3条(試験坑10・13・14・15)、土坑4基(試験坑4・5・7・9)、小穴1個(試験坑14)を確認し、遺構の一部を調査した。縄文時代は集石3基(試験坑3・13)、土坑3基(試験坑2・3・12)、小穴25個(試験坑1～3・11～13・16)、旧石器時代は土坑1基(調査坑2)を確認した。本地区の遺構の深さは一部を除きボーリング調査によるものである。

F地区の遺構は、歴史時代が溝2条、地下式横穴墓1基、小穴2個で、縄文時代が土坑8基、小穴11個である。

なお、溝は同一のものと推測されるものは同一番号として扱った。

本次数の調査区は国分寺極地座標第Ⅰ象限と第Ⅳ象限にまたがって位置することからアルファベットグリッド表示の頭に「Ⅰ・Ⅳ」を付した。

(2) 歴史時代の調査

竪穴住居

SI537住居(図面7・8、1~4 図版7・8、1・2)

B地区、IHT~IA40~42区に所在し、僧寺中軸線の北476~480m、東122~126mに位置する。北東部分が一部削平され、SK1668、P-9と重複し、切られている。規模は東西3.58m、南北3.5mの方形を呈する。壁はほぼ垂直に立ち上がり、深さは40cmである。壁下には幅5~14cm、床面からの深さ12cmの周溝が北壁東側の一部を除き圍繞している。床面はローム直床でほぼ平らで、中央部分と北東隅周辺が硬く締まっていた。主軸方向は僧寺中軸より20°東偏している。覆土は明黒褐色土を主体とした自然堆積である。

カマドは北壁中央に壁を掘り込んで施設されていた。SK1668、P-9と重複し、切られているため形状が崩れているが、壁外への掘り込みは、幅70cm、奥行き48cmの楕円形で、側壁の火表部分に女瓦を据え付けて白色粘土混じりの暗茶褐色土で構築され、袖は壁から長さ30~40cm、幅20~24cm程作り出されていた。火床は76×62cm、深さ16cmの楕円形に粗掘りした後、暗茶褐色土、ロームブロック等で床面よりやや窪む程度まで埋め戻して使用していた。火床中央からやや奥には長さ13cm、幅8cmの棒状の川原石が直立した状態で検出され、支脚に使用されたものと考えられるが、火床上にあり、据え付けられた状況でないことから、廃棄時に抜き取られ、火床上に置かれたものと推測される。主軸方向は僧寺中軸より20°東偏している。覆土は白色粘土、焼土混じりの明黒褐色土である。

北東隅には48×38cm、床面からの深さ20cmの小穴が認められ、位置、形状から貯蔵穴と考えられる。また、西壁中央付近の床面上から焼土、炭化物が認められ、焼失住居の可能性もある。

遺物はほぼ全体から出土しているが、概して中央部に多く、層的には床面からも出土しているが、覆土上層のものと接合関係にある。カマドには多くの瓦が遺存しており、これらは接合したものが多い。また、一部住居外の遺物と接合している。なおカマド覆土からは須恵器Bが多く出土している。

遺物出土総数は191点で、土師器・甕32、台付甕2、須恵器A・坏43、高台付坏1、壺1、甕1、甕23、須恵器B・坏5、埴1、土師質土器・坏41、皿1、灰釉陶器・甕3、鉄製品・鏃、鏃、鉄滓、不明鉄製品各1、男瓦9、女瓦15、埴4、不明5、その他に礫10、焼礫24点であった。

溝

SD170溝(図面9 図版9)

E地区、試掘坑14・15で確認され、I・IVKC~KE2~4区に所在し、僧寺中軸線の北611~616m、西6m~東12mに位置する。本跡は168次調査(鉄道学園内下水工事に伴う調査)にて確認

されたSD170の西側延長上に当たると推測されることから同一番号を使用した。また試掘坑14の西端で一部掘削調査を行ったのみで、他は未調査である。確認全長は20.0m、上面幅1.84m、底面幅0.4m、深さ80cmの東西に延びる溝である。断面形は逆台形で、底面はやや凹凸が認められるがほぼ平らである。主軸方向は僧寺中軸より79°西偏している。覆土は明黒褐色土主体の自然堆積である。

SD174溝 (図面9、4 図版9)

E地区、試掘坑10で確認され、ILC~LE30~32区に所在し、僧寺中軸線の北670~675m、東92~96mに位置する。本跡は168次調査(鉄道学園内下水工事に伴う調査)にて確認されたSD174の北側延長上に当たると推測されることから同一番号を使用した。北・南側が調査区外に延び、北側の一部が削平されている。南側の一部の掘削調査を行ったのみで、他は未調査である。確認全長6.2m、上面幅2.75m、底面幅1.35m、深さ60cmの南北に延びる溝である。断面形は逆台形で、底面はやや凹凸が認められる。主軸方向は僧寺中軸より15°東偏している。覆土は明黒褐色土主体の自然堆積である。

遺物は覆土中より八葉半弁の甃瓦片1点(図面4-6)が出土した。

SD317溝 (図面8 図版11)

D地区、IKG-KH65-66区に所在し、僧寺中軸線の北620~622m、東196~198mに位置する。東・西側は調査区外に延びる東西溝で、規模は確認全長2.1m、上面幅0.95m、底面幅0.48m、深さ20cmである。断面形は逆台形で、底面は平らである。底面には小穴が4個認められた。主軸方向は僧寺中軸より73°西偏している。覆土は明黒褐色土主体の自然堆積である。

SD318溝 (図面10、4 図版10)

B地区、IHT~IG38-39区に所在し、僧寺中軸線の北479~499m、東115~119mに位置する。北・南側は調査区外に延び、一部削平されている。規模は確認全長19.7m、上面幅1.0~1.46m、底面0.7m、深さ40~50cmの南北溝である。断面形は丸みのある逆台形である。南側の西壁周辺には小穴が認められたが、本跡に伴うものか否かは明らかでない。また中央付近の底面には長方形の掘り込みが認められた。主軸方向は僧寺中軸より8.5°東偏している。覆土は明黒褐色土を主体とした自然堆積である。

遺物は覆土中より土師器・甃13、台付甃2、不明3、須恵器A・坏10、高台付坏1、甃1、須恵器B・坏1、土師質土器・坏3、男瓦1、女瓦3点が出土した。

SD319溝 (図面9、4・5 図版11・12)

D地区、IHP~HR52-53区に所在し、僧寺中軸線の北467~471m、東156~161mに位置する。北・南側は調査区外に延び、南側の延長部分は51次調査(国際電信電話株式会社国分寺寮建設に伴う調査)、429次調査(三菱地所(株)共同住宅建設に伴う調査)他で確認されたSX6道路状

遺構に当たるものと考えられるが、今回確認された遺構の形態が溝状で、51次調査で確認されたように硬質面を伴うものでなかったことから溝として捉え、番号を与えた。東側でSK1615と重複し、切られている。本跡は北西から南東方向に延びる溝で、規模は確認全長6.6m、上面幅1.13m、底面幅0.66m、深さ16cmである。断面形は逆台形で、底面は平らである。主軸方向は僧寺中軸より31°西偏している。覆土は明黒褐色土主体の自然堆積である。

遺物は覆土中より土師器・甕15、不明7、須恵器A・坏7、壺1、甕8、須恵器B・坏3、高台付坏1、不明1、灰釉陶器・甕3、土師質土器・坏20、高台付坏2、男瓦4、女瓦5、窯9、焼窯7点が出土した。

SD320溝 (図面8 図版9)

E地区、試掘坑13で確認され、IVKK1区に所在し、僧寺中軸線の北632・633m、西1～3mに位置する。西側が調査区外に延び、東側は立ち上がりが見止まっていると推測される。確認部分中央付近の一部の掘削調査を行ったのみで、他は未調査である。規模は確認全長1.96m、上面幅0.9m、底面幅0.74m、深さ24cmの東西に延びる溝である。断面形は逆台形で、底面はほぼ平らである。主軸方向は僧寺中軸より76.5°西偏している。覆土は明黒褐色土主体の自然堆積である。

SD321溝 (図面10 図版12)

D地区、IJD64・65区に所在し、僧寺中軸線の北549～551m、東193～195mに位置する。東・西側は調査区外に延びているほか、西側の大半が削平されている。規模は確認全長1.52m、上面幅1.04m、底面幅0.34m、深さ18cmの東西溝である。断面形は半円形で、底面は平らである。主軸方向は僧寺中軸より84.5°西偏している。覆土は明黒褐色土主体の自然堆積である。

SD322溝 (図面10、5)

F地区、I JH12区に所在し、僧寺中軸線の北562m、東36～38mに位置する。東・西側は調査区外に延びる東西溝で、規模は確認全長2.2m、上面幅0.64m、底面幅0.42m、深さ8～14cmである。断面形は半円形で、底面はほぼ平らである。主軸方向は僧寺中軸より88°西偏している。覆土は明黒褐色土主体の自然堆積である。

遺物は土師器・甕1、須恵器A・坏片が1点出土した。

SD323溝 (図面10 図版12)

F地区、IJD・JE13区に所在し、僧寺中軸線の北550～554m、東39・40mに位置する。南・北側は調査区外に延びる南北溝で、南側で隣接する442次調査区(池本体地区)に延び、その延長部分が確認されている。また、P-2と重複し、切っている。規模は確認全長3.9m、上面幅0.9m、底面幅0.7m、深さ9cmである。断面形は半円形で、底面はほぼ平らである。主軸方向は僧寺中軸より15°東偏している。覆土は明黒褐色土主体の自然堆積である。

土坑

SK1564土坑 (図面11、5 図版13)

B地区、IHT43区に所在し、僧寺中軸線の北478・479m、東129・130mに位置する。上面規模は長軸1.08m、短軸0.72m、底面規模は長軸0.9m、短軸0.54mで、平面形は上面、底面ともに不整長方形を呈する。深さは18cmで、断面形は逆台形である。底面は西側に向かってやや低くなっている。主軸方向は僧寺中軸より7°東偏している。覆土は明黒褐色土を主体とした自然堆積である。

遺物は土師器・甕4、土師質土器・坏1、礫2点が覆土中から出土した。

SK1565土坑 (図面11 図版13)

B地区、IHT・IA42・43区に所在し、僧寺中軸線の北479・480m、東128・129mに位置する。上面規模は長軸0.9m、短軸0.88m、底面規模は径0.74mで、平面形は上面、底面ともに円形を呈する。深さは40cmで、断面形は逆台形である。底面はほぼ平らである。主軸方向は僧寺中軸より13°東偏している。覆土は明黒褐色土主体で、人為的な埋め戻しが認められる。

遺物は礫1点が出土した。

SK1566土坑 (図面11、5 図版13)

B地区、IIA42区に所在し、僧寺中軸線の北480m、東127mに位置する。上面規模は長軸0.8m、短軸0.68m、底面規模は長軸0.48m、短軸0.44mで、平面形は上面が円形、底面が不整形円形を呈する。深さは18cmで、断面形は半円形である。上面の主軸方向は僧寺中軸より78°西偏し、底面の主軸方向は35.5°西偏している。覆土は明黒褐色土を主体とした自然堆積である。

遺物は覆土中より男瓦1点が出土した。

SK1567土坑 (図面11、5 図版13・15)

B地区、IIA41・42区に所在し、僧寺中軸線の北480・481m、東125・126mに位置する。西側の一部が削平されている。上面規模は長軸0.74m、残存短軸0.72m、底面規模は残存長軸0.48m、短軸0.48mで、平面形は上面が隅丸方形、底面が不整形を呈する。深さは21cmで、断面形は逆台形である。底面はほぼ平らである。主軸方向は僧寺中軸より2°東偏している。覆土は明黒褐色土主体で、一部層の乱れが認められ、人為的な埋め戻しが考えられる。

遺物は覆土中より土師質土器の坏2点が出土した。

SK1568土坑 (図面11、5 図版15、2)

B地区、IIA41区に所在し、僧寺中軸線の北480・481m、東124・125mに位置する。SI537、P-9と重複し、SI537を切っている。上面の残存規模は長軸0.64m、短軸0.58m、底面規模は残存長軸0.48m、短軸0.42mで、平面形は不整形を呈する。深さは20cmで、断面形は逆台形で

ある。底面はほぼ平らである。上面の主軸方向は僧寺中軸より46°東偏している。覆土は明黒褐色土主体で、人為的な埋め戻しが認められる。

遺物は覆土中より須恵器A・甕1、土師質土器・坏1、女瓦3、礫2点が出土した。

SK1572土坑 (図面11 図版14)

E地区、試掘坑4で確認され、I LN13・14区に所在し、僧寺中軸線の北702m、東41・42mに位置する。南側半分の掘削調査を行い、北側は未調査である。上面の確認規模は長軸1.14m、短軸0.73m、底面規模は長軸0.99mで、平面形は上面、底面ともに長方形を呈する。深さは44cmで、断面形は逆台形である。底面はほぼ平らである。主軸方向は僧寺中軸より79°西偏している。覆土は明黒褐色土主体の自然堆積である。

SK1573土坑 (図面11 図版14)

E地区、試掘坑5で確認され、I LM・LN20区に所在し、僧寺中軸線の北701・702m、東61・62mに位置する。南側半分の掘削調査を行い、北側は未調査である。上面の確認規模は長軸1.22m、短軸0.8m、底面規模は長軸0.9mで、平面形は長方形を呈する。深さは37cmで、断面形は逆台形である。底面は東側に向かってやや低くなっているが、ほぼ平らである。主軸方向は僧寺中軸より78°西偏している。覆土は明黒褐色土主体の自然堆積である。

SK1574土坑 (図面12 図版14)

E地区、試掘坑7で確認され、I LE・LF0・1区に所在し、僧寺中軸線の北677・678m、東2～4mに位置する。本跡は平面確認のみで未調査である。南側は調査区外に延びている。上面の規模は確認長軸1.22m、確認短軸1.06mで、平面形は長方形を呈すると推測される。深さはボーリング調査により33cmと推測される。覆土は明黒褐色土主体である。

SK1575土坑 (図面12 図版14)

E地区、試掘坑9で確認され、I LC・LD23区に所在し、僧寺中軸線の北671～673m、東82・83mに位置する。本跡は未調査で、上面の確認規模は長軸1.12m、短軸0.96m、底面規模は長軸0.99mで、平面形は長方形を呈する。主軸方向は僧寺中軸より23°東偏している。覆土は明黒褐色土主体である。

SK1612土坑 (図面11)

B地区、I HT39・40区に所在し、僧寺中軸線の北478・479m、東119・120mに位置する。南・東側の一部が削平されており、上面の残存規模は長軸1.6m、短軸0.78m、底面の残存規模は長軸1.48m、短軸0.7mで、平面形は上面、底面ともに円形を呈すると推測される。深さは14cmで、断面形は逆台形である。覆土は明黒褐色土を主体とした自然堆積である。

SK1613土坑 (図面12 図版15)

B地区、I HT・IA42区に所在し、僧寺中軸線の北479・480m、東127・128mに位置する。南側

半分が調査区外に延びているほか、一部が削平されている。上面の規模は長軸0.58m、短軸0.48m、底面規模は長軸0.44m、短軸0.38mで、平面形は円形を呈する。深さは10cmで、断面形は逆台形である。底面はほぼ平らである。覆土は明黒褐色土を主体とした自然堆積である。

SK1614土坑 (図面12、5 図版15)

B地区、IHR40・41区に所在し、僧寺中軸線の北472m、東122・123mに位置する。南側半分が調査区外に延びているほか、一部が削平されている。上面の残存規模は長軸0.54mで、平面形は円形を呈すると推測される。深さは20cmで、断面形は逆台形である。底面はほぼ平らである。覆土は明黒褐色土を主体とした自然堆積である。

遺物は覆土中より土師器・甕2、須恵器・甕2、土師質土器・坏1、礎2点が出土した。

SK1615土坑 (図面12、5)

D地区、IHQ52・53区に所在し、僧寺中軸線の北468・469m、東158～160mに位置する。西側でSD319と重複し、切っている。上面の残存規模は長軸1.75m、短軸1.05mで、平面形は不整形を呈すると推測される。深さは14cmで、底面は凹凸が認められる。東壁際には35×30cmの範囲に粘土が分布していた。覆土は明黒褐色土を主体とし、層にやや乱れが認められることから人為的な埋戻しと考えられる。

遺物は覆土中より土師器・甕1、須恵器A・壺1、甕1、土師質土器・坏1、礎1点が出土した。

SK1664土坑 (図面12)

B地区、IHT42区に所在し、僧寺中軸線の北477・478m、東128mに位置する。上面規模は長軸0.72m、短軸0.64m、底面規模は長軸0.6m、短軸0.38mで、平面形は上面、底面ともに不整形円形を呈する。深さは15cmで、断面形は逆台形である。底面はほぼ平らである。主軸方向は僧寺中軸より54°西偏している。覆土は明黒褐色土を主体とした自然堆積である。

地下式横穴墓

SZ1地下式横穴墓 (図面13・14、6・7 図版16～21、2)

F地区、IIK・II27区に所在し、僧寺中軸線の北511～514m、東81～83mに位置する。南側に入口部の竪坑を掘り、その北側に墓室をもつもので、北側の上部が大きく削平されており、天井部は中央付近で僅かに遺存するのみであった。全長は中軸線上で2.71m、幅は入口部下端で0.6m、中央付近は最大幅1.12m、奥壁付近(A-A')は最大幅1.22m、奥壁部分が0.97mで、墓室の奥に向かってやや広がっている。入口部には東西2.27m、南北1.4m、深さ15～42cmの楕円形の掘り込みが認められ、土層断面(C-C')では楕円形の掘り込みを人為的に埋め戻した後に、竪坑が掘り込まれているが、この掘り込みが本跡の入口施設に関連するものか、無関係のものかは判断し難い。竪坑の規模は東西0.77m、南北0.74～0.96m、深さは確認面から

99cm(Ⅲ層上面から157cm)で、Vb層上層まで掘り込まれていた。底面は、入口部堅穴底面と墓室との境は明確ではなく、ほぼ平らに続き、入口部付近と一部を除き5~10cm大の円礫が敷き詰められていた。側壁は東側側壁が入口部から中央付近までほぼ垂直で、中央付近から奥壁にかけてはやや袋状に内湾し、西側側壁は全体にやや内傾している。天井部はほとんど遺存していないが、中央付近の状況から半円形状を呈していたものと推測される。また、底面から天井部までの高さは、中央付近の掘り方底面から77cmであることから、頂部は90cm前後であったと考えられる。西側側壁の奥壁付近には、底面からの高さ20cmのところ幅70cm、奥行き36cm、残存高32cmの柵状の掘り込みが認められ、底面はほぼ平らで、奥は袋状に広がっている。主軸方向は僧寺中軸より8°東偏している。

覆土は暗茶褐色土を主体とし、暗茶褐色土ブロックとロームブロックを含んだものである。

遺物は、柵状の掘り込み下部の床面上から完形の土師器の坏(図面6-1)・須恵器Aの坏(図面6-4)各1点を入れ子状に重ねて伏せ、その脇に須恵器Bの坏(図面6-2)が上を向けて置かれたような状況で出土した。また、奥壁やや西寄りの床面からは完形の須恵器Bの坏(図面6-3)が上を向けて置かれたような状況で出土し、その東側に土師質土器の坏(図面6-5)が潰れた状態で出土した。入口部の覆土上面からは2/3大の女瓦と10cm大の女瓦が出土したほか、墓室覆土中より土師器・坏1、須恵器A・壺1、須恵器B・坏1、土師質土器・坏1、男瓦1、女瓦5と鉄製品・釘小片1、礫11点が出土した。

小穴(図面1~6、7 図版3)

A地区調査区内で19個が認められた。調査区の歴史時代面の大半が削平されていたが、1HR8区で13個と多くが認められた。一部のものに重複が認められ、時期的な差の存在が考えられる。規模は径20~30cm前後の円形もしくは楕円形のものほとんどであるが、深さは40cmを超えるもの(P-1・2・4・6・8・13・19)と、40cmに満たないものに分かれる。覆土は明黒褐色土主体であるが、柱痕跡の堆積を示すものが9個(P-1・2・4・6・8・12~15)認められ、深さ40cmを超えるもの大半がこれに含まれる。

遺物はP-2の覆土中から須恵器の坏片が出土した。

B地区調査区内で39個が確認され、そのうちの多くがSD318の周辺に位置し、一部は重複していた。径16~68cmで、平面形は楕円形または円形で、深さは12~82cmである。大半は径20~30cm、深さ30cm前後のものであるが、P-30・31・38・39は径42~68cmとやや大形のものや、P-2・4・8・10・13・25・30のように深さが50cmを超えるものも認められる。覆土は明黒褐色土を主体とした自然堆積である。

遺物はP-30・32の覆土中から須恵器の坏、P-34から女瓦2、P-35から男瓦が出土した。

D地区調査区内で7個が確認され、うち6個がHQ52・53区に位置する。規模は径40cmを超え

るものが4個(P-3・7~9)で、他の3個は20~30cm前後である。深さは8~33cmである。覆土は明黒褐色土を主体としたものである。

E地区では試掘坑14で1個確認されたのみである。規模は34×26cmで、平面形は楕円形を呈し、深さは24cmである。覆土は明黒褐色土主体である。

F地区では2個が確認されたのみで、P-1は径46cmで、深さは22cmである。P-2はSD323と重複し、切られていた。覆土は明黒褐色土を主体とした自然堆積である。

(3) 縄文時代の調査

竪穴住居

S1543J住居(図面21・22、9 図版29・30、3)

D地区、I KA-KB67・68区に所在し、僧寺中軸線の北600~603m、東201~205mに位置する。中央、西側が削平されており遺存状況は悪い。規模は南北3.74m、東西は北辺付近で残存長2.6mの不整形を呈する。壁はほぼ垂直に立ち上がり、深さは10cmで、床面はほぼ平らである。床面中央よりやや北東寄りに埋甕炉が認められた。埋甕炉は床をやや掘り窪めた後、底部を打ち欠いた深鉢を直立させて埋め込んでいるが、その下部に規模1.52×1.6mの不整形で、深さ45cmと炉体土器を埋設するにはやや大きい掘り込みが認められた。掘り込みは底面に凹凸が認められるほか、炉体土器が掘り込みの中央付近ではなく、北側に寄っていることから土器埋設に伴うものではなく、別な遺構である可能性も考えられるが、土層断面からは明確な区別をし得なかった。炉体土器内には焼土がほとんど認められなかった。覆土は暗茶褐色土を主体とした自然堆積である。

遺物は炉体土器に使用された深鉢のほか、縄文土器の深鉢の小片、磨石1、石鏝1、剥片1、砕片3、礫4、焼礫6が出土した。住居の時期は、出土土器から五領ヶ台式期と考えられる。

集石

SS57集石(図面23 図版31)

E地区、試掘坑3で確認され、I LP7区に所在し、僧寺中軸線の北705~707m、東21~23mに位置する。IIIb層上層で確認され、83×87cmの範囲に5~17cm大の礫が集中し、その東側に広がり認められた。礫の下部からは掘り込み等は認められなかった。

遺物は礫94点が出土した。

SS58集石(図面22 図版31)

E地区、試掘坑13で確認され、IVKH-KI1・2区に所在し、僧寺中軸線の北626~628m、西2~4mに位置し、東側に近接してSS59が存在する。試掘坑の南西部で確認されたため、西・南側は調査区外に延びている。礫は5cm大で、東西2.1m、南北2.3mの範囲に分布し、その中央

付近に50×90cmの範囲に集中部分が認められる。垂直の分布状況はⅡ層中からも認められるが、分布の中心はⅢa層下層からⅢb層上層にかけてと考えられ、垂直方向の幅は約30cmである。礫の下部からは掘り込み等は認められなかったが、垂直方向の分布状況から掘り込みが存在した可能性はある。

遺物は礫のほかは出土しなかった。

SS59集石 (図面23、10 図版31、3)

E地区、試掘坑13で確認され、I KH・KIO区に所在し、僧寺中軸線の北626・627m、東0・1mに位置し、西側に近接してSS58が存在する。調査坑の南側で確認されたため、南側は調査区外に延びている。Ⅲb層上層で確認され、東西0.85m、南北1.5mの範囲に径5cm大の礫が607点分布し、礫が集中する下部からは掘り込みが認められた。掘り込みの規模は長軸0.83m、短軸0.63m、平面形は楕円形で、深さは15cmである。断面形は半円形で、Ⅲc層まで掘り込まれている。北壁部分には37×30cm、深さ42cmの小穴が認められたが、集石の掘り込みに伴うものかどうかは明らかではない。礫は覆土中層まで含まれていたが、下層では認められなかった。また、中層で焼土が認められたことから、掘り込みを若干埋め戻して使用されたものと推測される。

遺物は礫のほかに、縄文土器深鉢片が1点出土した。

SS60集石 (図面23、10 図版32、3)

A地区、I HR・HS4・5区に所在し、僧寺中軸線の北471～474m、東12～15mに位置する。調査区南端で確認されたため、南側は調査区外に延び、東側は削平されている。Ⅲb層上層で確認され、東西3.2m、南北2.6mの範囲に5～10cm大の礫が933点分布し、その南東部分に、1.07×0.82mの範囲で集中する箇所が認められた。礫の集中部分には15cm大のものも含まれ、その下部には掘り込みが認められた。掘り込みの規模は東西の残存長1.67m、南北の確認長1.3mで、平面形は円形を呈すると推測される。深さは43cmで、Ⅳ層上層まで掘り込まれている。覆土は人為的な埋め戻しが施され、掘り込み中央付近の中層まで礫が含まれていた。

遺物は覆土中より縄文土器深鉢片が出土した。土器片の時期は中期後半の加曾利E式期のほか、図示はしなかったが中期前半の五額ヶ台式期のものが1点認められた。

土坑

SK1569J土坑 (図面24 図版33)

D地区、I LA・LB57・58区に所在し、僧寺中軸線の北662～664m、東173・174mに位置する。上面規模は長軸1.62m、短軸0.58m、底面規模は長軸1.58m、短軸0.42mで、平面形は上面、底面ともに長方形を呈する。深さは71cmで、断面形は箱形である。底面はⅤa層下部まで掘り込まれており、平らである。底面中央には径10cm、深さ3～6cmの小穴が2個認められた。主

軸方向は僧寺中軸より33°西偏している。覆土は、下部にロームブロックを含み人為的に埋め戻されたと考えられる層が認められるが、上部は暗茶褐色土を主体とした自然堆積である。形状から陥穴と考えられる。

SK1570J土坑 (図面24 図版33)

D地区、I KP59・60区に所在し、僧寺中軸線の北646・647m、東179・180mに位置する。上面規模は長軸1.06m、短軸0.76m、底面規模は長軸1.01m、短軸0.68mで、平面形は上面、底面ともに楕円形を呈する。深さは26cmで、断面形は逆台形である。底面はIV層中層まで掘り込まれており、中央付近が低くなっている。主軸方向は僧寺中軸より54°西偏している。覆土は暗茶褐色土を主体とした自然堆積である。

遺物は焼礫1点が出土した。

SK1571J土坑 (図面24 図版33)

D地区、I KP60区に所在し、僧寺中軸線の北646・647m、東180～182mに位置する。東側の一部が削平されている。上面規模は長軸1.12m、短軸1.08m、底面規模は長軸0.78m、短軸0.6mで、平面形は上面が円形、底面が不整形を呈する。深さは67cmで、断面形は半円形である。底面はVa層上層まで掘り込まれており、北側に向かって低くなっている。底面中央には径17cm、深さ17cmの小穴が1個認められた。主軸方向は僧寺中軸より50°東偏している。覆土は暗茶褐色土を主体とした自然堆積である。

SK1576J土坑 (図面30)

E地区、試掘坑2で確認され、I LM3・4区に所在し、僧寺中軸線の北699・700m、東11・12mに位置する。本跡は確認のみである。上面の確認規模は長軸0.76m、短軸0.54mで、平面形は不整形を呈する。深さはボーリング調査で52cmを測る。覆土は暗茶褐色土を主体としたものである。

SK1577J土坑 (図面30)

E地区、試掘坑3で確認され、I L07・8区に所在し、僧寺中軸線の北705・706m、東23・24mに位置する。本跡は確認のみである。上面の確認規模は長軸1.3m、短軸1.12mで、平面形は不整形を呈する。深さはボーリング調査で40cmを測る。覆土は暗茶褐色土を主体としたものである。

SK1578J土坑 (図面31)

E地区、試掘坑12で確認され、I KR16・17区に所在し、僧寺中軸線の北655・656m、東50・51mに位置する。本跡は確認のみである。上面の確認規模は長軸1.08m、短軸0.92mで、平面形は不整形を呈する。深さはボーリング調査で38cmを測る。主軸方向は僧寺中軸より27°東偏している。覆土は暗茶褐色土を主体としたものである。

SK1616J土坑 (図面24 図版33)

D地区、I LB70区に所在し、僧寺中軸線の北614・615m、東210・211mに位置する。北側半分が上面を削平されており、上面規模は長軸1.2m、残存短軸0.98m、底面規模は長軸0.8m、短軸0.72mで、平面形は円形を呈すると推測される。深さは52cmで、断面形は逆台形である。底面はIV層下層まで掘り込まれており、南側が15cmほど低くなっている。主軸方向は僧寺中軸より6°西偏している。覆土は暗茶褐色土を主体で、やや層に乱れが認められ、人為的な埋戻しとも考えられる。

SK1617J土坑 (図面24 図版33)

D地区、I JK66区に所在し、僧寺中軸線の北571・572m、東198・199mに位置する。上面規模は長軸1.05m、短軸0.78mで、平面形は不整楕円形を呈する。深さは27cmで、断面形は半円形である。底面はIV層下層まで掘り込まれており、中央部分が12cm程低くなっている。主軸方向は僧寺中軸より20°東偏している。覆土は暗茶褐色土を主体とした自然堆積で、中央部分で小穴に切られている感が見て取れる。

SK1618J土坑 (図面24 図版33・34)

D地区、I K0・KP60区に所在し、僧寺中軸線の北644・645m、東180・101mに位置する。上面規模は長軸1.12m、短軸1.1m、底面規模は長軸0.5m、短軸0.48mで、平面形は上面、底面ともに不整円形を呈する。深さは61cmで、断面形は半円形である。底面はVa層上層まで掘り込まれている。上面の主軸方向は僧寺中軸より73.5°東偏し、底面の主軸方向は53°東偏している。覆土は暗茶褐色土を主体とした自然堆積である。

SK1619J土坑 (図面24 図版34)

D地区、I KN・K060区に所在し、僧寺中軸線の北641・642m、東180・181mに位置する。東側半分が調査区外に延びており、上面規模は確認長軸1.06m、短軸0.7m、底面規模は確認長軸0.78m、短軸0.58mで、平面形は楕円形を呈すると推測される。深さは39cmで、断面形は半円形である。底面はVa層上面まで掘り込まれており、凹凸が認められる。主軸方向は僧寺中軸より43.5°西偏している。覆土は暗茶褐色土を主体とした自然堆積である。

遺物は焼礫が1点出土した。

SK1620J土坑 (図面25 図版34)

D地区、I KK65区に所在し、僧寺中軸線の北631・632m、東196～197mに位置する。上面規模は長軸1.28m、短軸1.13m、底面規模は長軸0.81mで、平面形は不整円形を呈する。深さは50cmで、断面形は半円形である。底面はIV層下層まで掘り込まれており、凹凸が認められ、中央部分がもっとも窪んでいる。上面の主軸方向は僧寺中軸より71°東偏し、底面の主軸方向は8°西偏している。覆土は暗茶褐色土を主体とした自然堆積である。

SK1621J土坑 (図面25 図版34)

D地区、IJK66・67区に所在し、僧寺中軸線の北570～572m、東199～201mに位置する。上面規模は長軸1.68m、短軸1.32m、底面規模は長軸1.08m、短軸0.6mで、平面形は上面が不整形長方形、底面が長方形を呈する。深さは100cmで、断面形は逆台形である。底面はVb層まで掘り込まれており、平らである。底面中央やや東側には径12～25cm、深さ8～20cmの小穴が4個認められた。主軸方向は僧寺中軸より68°西偏している。覆土は黒味の強い暗茶褐色土を主体とした自然堆積である。形状から陥穴と考えられる。

SK1622J土坑 (図面25 図版34)

D地区、IJK・JL66区に所在し、僧寺中軸線の北572・573m、東199・200mに位置する。上面規模は長軸1.02m、短軸0.72m、底面規模は長軸0.32m、短軸0.12mで、平面形は上面、底面ともに楕円形を呈する。深さは22cmで、断面形は半円形である。底面はIV層まで掘り込まれており、東に向かって低くなっている。主軸方向は僧寺中軸より74.5°西偏している。覆土は暗茶褐色土を主体とした自然堆積である。

SK1623J土坑 (図面25 図版34)

D地区、IHP58区に所在し、僧寺中軸線の北465・466m、東175mに位置する。上面規模は長軸1.04m、短軸0.78m、底面規模は長軸0.58m、短軸0.4mで、平面形は上面が楕円形、底面が不整形楕円形を呈する。深さは27cmで、断面形は逆台形である。底面はIV層下層まで掘り込まれており、ほぼ平らである。主軸方向は僧寺中軸より56.5°西偏している。覆土は暗茶褐色土を主体とした自然堆積である。

SK1624J土坑 (図面25 図版35)

A地区、IIA・IB3・4区に所在し、僧寺中軸線の北482～484m、東10～12mに位置する。西側でSK1750Jと重複し、切っている。上面の残存規模は長軸2.3m、短軸0.66m、底面規模は長軸2.01m、短軸1.02mで、平面形は長方形を呈する。深さは72cmで、底面はVa層下部まで掘り込まれている。主軸方向は僧寺中軸より28°西偏している。覆土は褐色土主体である。

SK1625J土坑 (図面26 図版35)

A地区、IHT5区に所在し、僧寺中軸線の北477・478m、東17mに位置する。上面規模は長軸1.52m、短軸0.66m、底面規模は長軸1.04m、短軸0.44mで、平面形は上面、底面ともに楕円形を呈する。深さは16cmで、断面形は逆台形である。底面はIV層まで掘り込まれており、ほぼ平らである。主軸方向は僧寺中軸より2°東偏している。覆土は暗茶褐色土主体で、下層にやや層の乱れが認められるがおおむね自然堆積と考えられる。

SK1626J土坑 (図面26 図版35)

A地区、IHT・IA7・8区に所在し、僧寺中軸線の北479・480m、東23・24mに位置する。上面

規模は長軸0.76m、短軸0.74m、底面規模は長軸0.56m、短軸0.48mで、平面形は上面、底面ともに円形を呈する。深さは21cmで、断面形は逆台形である。底面はIV層まで掘り込まれ、ほぼ平らである。主軸方向は僧寺中軸より6°西偏している。覆土は暗茶褐色土主体の自然堆積である。

SK1627J土坑(図面26 図版35)

A地区、IHS-HT3区に所在し、僧寺中軸線の北476~478m、東9・10mに位置する。南側が一部削平されている。上面規模は長軸1.82m、短軸1.26m、底面規模は長軸0.92m、短軸0.54mで、平面形は上面、底面ともに不整楕円形を呈する。深さは31cmで、断面形は逆台形である。底面はIV層下層まで掘り込まれており、やや凹凸が認められる。主軸方向は僧寺中軸より30.5°西偏している。覆土は暗茶褐色土主体で、中層でやや層の乱れが認められるがおおむね自然堆積である。

SK1628J土坑(図面26 図版35)

A地区、IHT2・3区に所在し、僧寺中軸線の北477~479m、東8・9mに位置する。西側が調査区外に延びており、上面規模は確認長軸が1.17m、確認短軸が0.35mで、平面形は不整楕円形を呈すると推測される。確認面からの深さは37cmであるが、調査区断面から推測される本跡の掘り込みはIIIb層上層まで認められ、その深さは60cmである。底面はIV層下層まで掘り込まれており、中央が窪んでいる。主軸方向は僧寺中軸より27°西偏している。覆土は暗茶褐色土主体で中層にやや層の乱れが認められるがおおむね自然堆積である。

SK1629J土坑(図面26 図版35)

B地区、IIA・IB39区に所在し、僧寺中軸線の北481~483m、東117~119mに位置する。上面規模は長軸1.48m、短軸1.18mで、平面形は不整楕円形を呈する。深さは34cmで、断面形は長軸で半円形である。底面はIV層下部まで掘り込まれており、中央部がもっとも低くなっている。主軸方向は僧寺中軸より76°西偏している。覆土は暗茶褐色土主体で、下層にやや乱れが認められる。形状から倒木痕と考えられる。

SK1630J土坑(図面26 図版35)

B地区、IHT・IA40区に所在し、僧寺中軸線の北479~481m、東120~122mに位置する。上面規模は長軸1.92m、短軸1.16m、底面規模は長軸1.25m、短軸0.63mで、平面形は上面、底面ともに不整楕円形を呈する。深さは27cmで、断面形は半円形である。底面はIV層下層まで掘り込まれている。上面の主軸方向は僧寺中軸より32°東偏し、底面の主軸方向は40°東偏している。覆土は暗茶褐色土主体で、断面の状況から北側で小穴等との重複が考え得るものである。

SK1631J土坑(図面26 図版36)

B地区、IHT41・42区に所在し、僧寺中軸線の北477~479m、東125・126mに位置する。上面

規模は長軸1.18m、短軸0.9mで、平面形は上面、底面ともに不整形を呈する。深さは26cmで、断面形は逆台形である。底面はVa層上部まで掘り込まれている。上面の主軸方向は僧寺中軸より21°東偏し、底面の主軸方向は47°東偏している。覆土は暗茶褐色土主体で、層に乱れが認められる。形状から倒木痕と考えられる。

SK1632J土坑 (図面27 図版36)

B地区、IIB・IC40・41区に所在し、僧寺中軸線の北485・486m、東122・123mに位置する。上面規模は長軸1.2m、短軸1.08m、底面規模は長軸1.02m、短軸0.68mで、平面形は上面、底面ともに楕円形を呈する。深さは35cmで、断面形は半円形である。底面はVa層上部まで掘り込まれており、ほぼ平らであるが、中央部がやや窪んでいる。上面の主軸方向は僧寺中軸より53°西偏し、底面の主軸方向は71°西偏している。覆土は暗茶褐色土主体の自然堆積である。

遺物は覆土中よりスタンプ形石器1、石皿1、不明石器1、鏝2、焼礫2点が出土した。

SK1633J土坑 (図面27 図版36)

B地区、IIB39・40区に所在し、僧寺中軸線の北483・484m、東119～121mに位置する。上面規模は長軸1.44m、短軸1.3mで、平面形は不整形を呈する。深さは49cmで、底面はVa層上部まで掘り込まれており、凹凸が認められた。主軸方向は僧寺中軸より4°東偏している。覆土は暗茶褐色土主体で層に乱れが認められる。形状から倒木痕と考えられる。

SK1634J土坑 (図面27 図版36)

B地区、IIB38区に所在し、僧寺中軸線の北483・484m、東115・116mに位置する。東側の一部が削平されている。上面規模は長軸0.72m、短軸0.46m、底面規模は長軸0.46m、短軸0.26mで、平面形は上面、底面ともに楕円形を呈する。深さは15cmで、断面形は半円形である。底面はIV層まで掘り込まれており、ほぼ平らである。主軸方向は僧寺中軸より7°西偏している。覆土は暗茶褐色土主体で、層の乱れが認められる。

SK1635J土坑 (図面27 図版36)

B地区、IIC39区に所在し、僧寺中軸線の北486・487m、東117・118mに位置する。上面規模は長軸0.8m、短軸0.68m、底面規模は長軸0.57m、短軸0.28mで、平面形は上面が不整形楕円形、底面が楕円形を呈する。深さは14cmで、断面形は逆台形である。底面はIV層まで掘り込まれており、ほぼ平らである。主軸方向は僧寺中軸より43.5°西偏している。覆土は暗茶褐色土主体の自然堆積である。

SK1636J土坑 (図面27)

B地区、IIB43区に所在し、僧寺中軸線の北484・485m、東129・130mに位置する。上面規模は長軸0.83m、短軸0.62m、底面規模は長軸0.26m、短軸0.16mで、平面形は上面、底面ともに不整形楕円形を呈する。深さは26cmで、断面形は半円形である。底面はVa層まで掘り込ま

れている。上面の主軸方向は僧寺中軸より61°西偏し、底面の主軸方向は35°東偏している。覆土は暗茶褐色土主体で層の乱れが認められる。

SK1637J土坑 (図面27 図版36)

B地区、I 1B・IC39区に所在し、僧寺中軸線の北485・486m、東118・119mに位置する。北側でSK1638Jと重複し、切られている。上面規模は残存長軸0.98m、短軸0.68m、底面規模は残存長軸0.46m、短軸0.18mで、平面形は上面、底面ともに楕円形を呈する。深さは14cmで、断面形は半円形である。底面はIV層上層まで掘り込まれており、北に向かってやや低くなっている。上面の主軸方向は僧寺中軸より17.5°西偏し、底面の主軸方向は5°西偏している。覆土は暗茶褐色土主体で自然堆積と考えられる。

SK1638J土坑 (図面27 図版36)

B地区、I IC39区に所在し、僧寺中軸線の北486・487m、東118・119mに位置する。南側でSK1637Jと重複し、切っている。上面規模は長軸0.93m、短軸0.69m、底面規模は長軸0.64m、短軸0.2mで、平面形は上面、底面ともに楕円形を呈する。深さは21cmで、断面形は半円形である。底面はIV層まで掘り込まれており、北側に向かってやや低くなっている。上面の主軸方向は僧寺中軸より55°西偏し、底面の主軸方向は63°西偏している。覆土は暗茶褐色土主体で層の乱れが認められることから人為的な埋め戻しが考えられる。

SK1639J土坑 (図面27 図版36)

F地区、I I133区に所在し、僧寺中軸線の北505・506m、東99・100mに位置する。上面規模は長軸0.62m、短軸0.54m、底面規模は長軸0.3m、短軸0.28mで、平面形は上面、底面ともに円形を呈する。深さは22cmで、断面形は半円形である。底面はIV層中層まで掘り込まれている。主軸方向は僧寺中軸より75°西偏している。覆土は暗茶褐色土主体の自然堆積である。

SK1640J土坑 (図面27 図版37)

F地区、I I131区に所在し、僧寺中軸線の北507・508m、東94・95mに位置する。上面規模は長軸0.84m、短軸0.8m、底面規模は長軸0.46m、短軸0.42mで、平面形は上面、底面ともに円形を呈する。深さは17cmで、断面形は半円形である。底面はIV層中層まで掘り込まれ、平らである。主軸方向は僧寺中軸より18°東偏している。覆土は暗茶褐色土主体の自然堆積である。

SK1641J土坑 (図面28 図版37)

F地区、I IK28区に所在し、僧寺中軸線の北511・512m、東84・85mに位置する。上面規模は長軸1.62m、短軸0.98m、底面規模は長軸1.32m、短軸0.71mで、平面形は楕円形を呈する。深さは60cmである。底面はVa層上層まで掘り込まれており、中央には径68cm、深さ30cmの小穴が1個認められた。主軸方向は僧寺中軸より12°東偏している。覆土は暗茶褐色土主体の自然堆積である。

SK1642J土坑 (図面28 図版37)

F地区、I1Q・IR18・19区に所在し、僧寺中軸線の北529～531m、東55～57mに位置する。西側が調査区外に延びているほか、中央部分が削平されており、規模、形状は明確にし難い。確認面からの深さは27cmである。底面はIV層中層まで掘り込まれており、ほぼ平らである。覆土は暗茶褐色土主体である。

SK1643J土坑 (図面28)

F地区、I JF12区に所在し、僧寺中軸線の北555・556m、東38mに位置する。東側半分が削平されており、上面の残存規模は長軸0.8m、短軸0.27m、底面の残存規模は長軸0.58m、短軸0.2mで、平面形は楕円形を呈すると推測される。深さは17cmで、断面形は半円形である。底面はIV層まで掘り込まれており、ほぼ平らである。覆土は暗茶褐色土主体の自然堆積である。

SK1644J土坑 (図面28 図版37)

F地区、I JK11区に所在し、僧寺中軸線の北571・572m、東34mに位置する。西側半分が調査区外に延びており、上面の確認規模は長軸0.9m、短軸0.42m、底面の確認規模は長軸0.62m、短軸0.13mで、平面形は円形を呈すると推測される。深さは19cmで、断面形は半円形である。底面はIV層まで掘り込まれていた。主軸方向は僧寺中軸より15.5°西偏している。覆土は暗茶褐色土主体の自然堆積である。

SK1645J土坑 (図面28)

F地区、I JM・JN12区に所在し、僧寺中軸線の北578・579m、東35・36mに位置する。一部が調査区外に延びており、上面の規模は長軸0.78m、短軸0.69m、底面の規模は長軸0.3m、短軸0.29mで、平面形は上面が隅丸方形、底面は円形を呈すると推測される。深さは38cmで、断面形は半円形である。底面はIV層下層まで掘り込まれていた。主軸方向は僧寺中軸より39°東偏している。覆土は褐色土主体で、若干層の乱れが認められる。

SK1646J土坑 (図面28)

F地区、I JD・JE13区に所在し、僧寺中軸線の北551・552m、東41mに位置する。東側の一部が調査区外に延びており、北側が削平されている。上面規模は残存長軸0.97m、短軸0.7m、底面規模は残存長軸0.8m、短軸0.34mで、平面形は上面、底面ともに楕円形を呈すると推測される。深さは20cm、断面形は逆台形である。底面はIV層まで掘り込まれており、ほぼ平らである。主軸方向は僧寺中軸より4°東偏している。覆土は暗茶褐色土主体で、全体に層の乱れが認められる。

SK1750J土坑 (図面25 図版35)

A地区、I IA・IB3・4区に所在し、僧寺中軸線の北481～484m、東9～12mに位置する。東側でSK1624Jと重複し、切られている。本跡は一部未調査である。上面の残存規模は長軸3.22

m、短軸2.7mで、平面形は不整形を呈する。深さは60cmである。底面はVb層中層まで掘り込まれており、凹凸が認められる。主軸方向は僧寺中軸より28°西偏している。覆土は暗茶褐色土主体で層の乱れが認められる。形状から倒木痕と考えられる。

SK1751J土坑 (図面29)

D地区、I KL~KN61~63区に所在し、僧寺中軸線の北655~660m、東185~189mに位置する。本跡は一部未調査であるほか、一部調査区外に延びており、上面規模は長軸3.82m、確認短軸3.73mで、平面形は不整形を呈すると推測される。深さは61cmで、底面はVa層まで掘り込まれており、凹凸が認められた。主軸方向は僧寺中軸より45°東偏している。覆土は暗茶褐色土を主体であるが、黒味の強い暗茶褐色土が混じり込んでいるほか、ローム(地山)が動かされたような層が確認されるなど、層の乱れが認められる。形状から倒木痕と考えられる。

SK1752J土坑 (図面29)

D地区、I JL・JM67・68区に所在し、僧寺中軸線の北572~578m、東201~205mに位置する。上面規模は長軸6.16m、短軸3.36mで、平面形は不整形を呈する。深さは119cmである。底面はVb層まで掘り込まれており凹凸が認められる。主軸方向は僧寺中軸より20°東偏している。覆土は暗茶褐色土主体であるが、黒味の強い暗茶褐色土が混じり込んでいるほか、ローム(地山)が動かされたような層が確認されるなど、層の乱れが認められる。形状から倒木痕と考えられる。

遺物は礫が2点出土した。

SK1812J土坑 (図面28)

B地区、I IF・IG38区に所在し、僧寺中軸線の北496~498m、東114~115mに位置する。西側は調査区外に延びており、上面規模は長軸2.16m、確認短軸1.12mで、平面形は不整形を呈すると推測される。底面はVb層上部まで掘り込まれており、深さは67cmである。主軸方向は僧寺中軸より1°西偏している。覆土は黒褐色土と褐色土主体で、下層で層の乱れが認められるが、上層は自然堆積と考えられる。形状から倒木痕と考えられる。

小穴(図面15~20、10 図版3)

A地区は調査区内で43個が認められた。径40cmを超えるものはPJ-6・29・30・36・39~41の7個で、大半が20~30cm前後のものである。また深さは大半が20cm前後で、径が40cmを超える7個の小穴も、この範囲に含まれ、深さ40cmを超えるものはPJ-43のみである。覆土は暗茶褐色土を主体とする自然堆積が大半であった。

B地区は調査区内全体に散在して44個が確認された。規模は径13~90cm、平面形が楕円形で、深さが11~28cmである。大半は径20~30cm、深さ20cm前後である。覆土は暗茶褐色土を主体とした自然堆積である。

D地区調査区内で41個が認められた。規模は11～116cm、深さは10～61cmで、平面形は円形または楕円形である。規模が30cm以下のものが26個で、50cmを超えるものはPJ-6・11～13・21・26・31・41の8個である。また、深さが20cm前後のものが21個と半数を占め、40cmを超えるものはPJ-5・6・25・27・32・34の6個である。規模が50cmを超える8個は深さが11～29cmと浅く、覆土は茶褐色土を主体としたものが多い。

E地区では、25個が確認され、試掘坑1で4個、2、3で各1個、11で3個、13で10個、16で6個である。すべて確認のみで規模、重複等は明確ではないが、径12～106cm、深さはボーリング調査で15～47cmを測る。覆土は暗茶褐色土を主体としたものである。

F地区調査区内全体に散在して11個が確認された。規模は径20～52cm、平面形は楕円形または円形で、深さは12～47cmである。PJ-2のようにやや大きいものも存在するが、大半のものは径30cm、深さ20cm前後である。覆土は自然堆積である。

(4) 包含層出土の遺物 (図面10～13 図版3～6)

本地区は一括して取り扱っているが前述のようにA地区・北側橋脚基礎地区、B地区・管理棟地区、D地区・北側排水管路地区、E地区・北側盛土試掘地区、F地区・池護岸地区に分かれている。

縄文土器

早期の遺物は47点出土(内12点を図示)し、ほとんどが無文の土器である。口縁部の破片は1点のみである。条痕文系土器は4点、織維土器は2点出土した。

前期の土器は6点出土(内4点を図示)し、いずれも小片である。

中期の土器は80点出土(内28点を図示)し、五領ヶ台式土器が18点、勝坂式土器8点、加曾利E式土器17点で、その他は形式不明であるが多くは中期前半期の資料である。

後期の土器は13点出土(内10点を図示)したが多くがF地区南側から出土したものである。小片が多く、文様の全体は不明であるが、口縁部や胎土から壺之内式土器と考えられる。

石器

石鏃1点(図面11-16)はE6区から出土し、無茎で基部に抉り込みが認められる。

削器は3点出土し、D2、D6、D7区から1点ずつ出土(内2点を図示)した。周縁に細かな調整を施し、裏面は自然面を遺している。側面に連続して細かな調整が認められる。

打製石斧は7点出土(内5点を図示)し、A地区1点、B地区3点、E地区2点、F地区1点である。短冊形のもの、分銅形のもの、壘形のものがある。図面11-22は欠損後再利用したらしく欠損部に調整痕がある。

礫器は1点出土し、側面と下部に調整と考えられる剥離が認められるため、礫器とした。

磨石は2点出土し、ともにA地区出土である。図示したものは楕円形の礫を用いたもので全体に崩れており遺存状況は不良である。この他はいずれも破片であった。

スタンプ形石器は6点出土し内5点を図示した。このうち3点がE地区、2点はF地区からの出土である。この他ではB地区歴史時代の土坑の覆土から破片が出土した。

石匙はチャート製で横型のもので、D7区の歴史時代の小穴覆土中からの出土である。

剥片は21点出土し、内6点を図示した。大形礫を薄く剥離させたもので、裏面に自然面を遺しているものが多い。小形のものはい頁岩製で散発的に分布している。

(5) 旧石器時代の調査

土坑

SK1579P (図面44 図版38・39)

E地区、試掘坑6で確認され、I LN・L026区に所在し、僧寺中軸線の北704・705m、東78・79mに位置する。確認面はIX層中層で、規模は東西0.75m、南北1.1mで、平面形は不整楕円形である。深さは59cmで、断面形は半円形である。主軸方向は僧寺中軸より21°東偏している。覆土は茶褐色土主体である。

2. 428次調査(平成8年度土地区画整理事業 国7・5・1号道路地区)

(1) 概要

本調査地区は、現在都指定史跡として整備保存された東山道武蔵路の東側に隣接した道路部分で、南北に長い調査区である。調査区の中央付近は旧鉄道学園のグラウンド等による削平がIV層まで達し、歴史時代の遺構面が遺存していたのは北・南側の地区のみであった。調査面積は2,412.9㎡で、確認された遺構は、歴史時代が溝2条、土坑3基、小穴17個で、縄文時代が土坑33基(うち陥穴1基)、小穴123個である。旧石器時代の調査は調査区の状況に応じて5×5m等の調査坑を7か所設定して実施した。

なお、本調査区の西側は西国分寺地区遺跡調査会によって調査が実施された地区である。

(2) 歴史時代の調査

溝

SD170溝(図面39 図版41・42)

KM-KN41～43区に所在し、僧寺中軸線の北638～640m、西123～127mに位置する。本跡の西側は調査区外に延びており、その部分は既に西国分寺地区遺跡調査会によってSD5溝として調査され、当該地区の溝はその東側部分に当たる。また、168次調査(鉄道学園内下水調査)、421次調査(北側盛土試掘調査)で確認された溝の、西側延長部分と推測されることからその溝と同一番号を使用した。上部は大きく削平されており、確認面はIV層で、中央付近で南北に延びるSD324と重複し、切っている。規模は確認全長4.04m、上面幅は東側で1.04m、西端で0.6m、底面幅は東側で0.8m、西端で0.24mである。底面西端はほぼ平らで、深さは15cm、断面形は逆台形である。中央付近から東側にかけては凹凸が認められ、深さも中央付近で39cm、東側で15cmと中央部分が極端に深くなり、土層断面B-B'では小穴状の掘り込みが認められるなど、中央付近から東側にかけては、西側と比べやや様相の変化が認められる。主軸方向は僧寺中軸より71°西偏している。覆土は明黒褐色土主体の自然堆積と考えられる。

SD324溝(図面38・39 図版41・42)

KN-LP38～42区に所在し、僧寺中軸線の北639～706m、西113～124mに位置する。本跡の北側(僧寺中軸線の北672m以北)部分は既に西国分寺地区遺跡調査会によってSD33溝として調査されている。南側は上部が大きく削平され、確認面はIV層で、底面が途切れ途切れに残存するのみである。南端で東西に延びるSD170と重複し、切られている。同調査会が調査を実施した部分の再確認全長は84.5mで、上面幅は0.9～1.7m、底面幅は0.22～0.64mで、深さは36～50cm、断面形は逆台形であった。672m以南の規模は、確認全長41.2m(672m以北を含めた確認

全長は167.8m)で、残存最大幅は0.3m、深さ2~7cmである。主軸方向は僧寺中軸より9°東偏している。覆土はロームを含む暗茶褐色土である。

土坑

SK1722土坑 (図面39 図版42)

LE38・39区に所在し、僧寺中軸線の北673・674m、西114・115mに位置する。本跡の上部は刮平されており、確認面はⅢb層下層である。上面規模は径1.14m、底面規模は長軸0.8m、短軸0.72mを測り、平面形は不整形円形を呈する。深さは35cmで、断面形は半円形である。底面はIV層まで掘り込まれている。主軸方向は僧寺中軸より15°東偏している。覆土は明黒褐色土主体の自然堆積である。

SK1723土坑 (図面39 図版42)

IJ・LK38区に所在し、僧寺中軸線の北689・690m、西113・114mに位置する。上面規模は長軸1.08m、短軸0.64m、底面規模は長軸0.71m、短軸0.4mを測り、平面形は上面、底面ともに楕円形を呈する。深さ17cmで、断面形は半円形である。底面には凹凸が認められる。主軸方向は僧寺中軸より68°東偏している。覆土は明黒褐色土主体の自然堆積である。

SK1724土坑 (図面39 図版42)

LM38区に所在し、僧寺中軸線の北696・697m、西112・113mに位置する。上面規模は長軸0.76m、短軸0.7m、底面規模は長軸0.46m、短軸0.42mを測り、平面形は上面、底面ともに円形を呈する。深さは15cmで、断面形は半円形である。主軸方向は僧寺中軸より82°西偏している。覆土は明黒褐色土主体の自然堆積である。

小穴 (図面37、14)

調査区内で散在して17個が確認された。規模は20~60cm、深さは13~43cmで、平面形は円形または楕円形である。大半のものは径30cm前後、深さ20cm前後で、径が40cmを超えるものはP-8・10・13・16の4個で、深さが30cmを超えるものはP-10・15の2個である。覆土は明黒褐色土を主体としたもので、柱穴状の堆積を示すものはP-4・8・10・17の4個で、他は自然堆積である。

遺物はP-10の覆土中より不明石器1、礫が1点出土したのみである。

(3) 縄文時代の調査

土坑

SK1691J土坑 (図面41 図版45)

HQ50区に所在し、僧寺中軸線の北470m、西149mに位置する。上面規模は長軸0.92m、短軸0.32mで、平面形は楕円形を呈する。深さは28cmで、底面はIV層下層まで掘り込まれ、南側が

一段深くなっている。主軸方向は僧寺中軸より21°東偏している。覆土は暗茶褐色土主体の自然堆積である。

SK1692J土坑 (図面41 図版45)

IA・IB49・50区に所在し、僧寺中軸線の北482~484m、西147~149mに位置する。上面規模は長軸1.22m、短軸1.2m、底面規模は長軸0.43m、短軸0.39mで、平面形は上面、底面ともに円形を呈する。深さは52cmで、断面形は半円形である。底面はVa層まで掘り込まれている。主軸方向は僧寺中軸より4°西偏している。覆土は暗茶褐色土主体で、やや層に乱れがあるが自然堆積と考えられる。

SK1693J土坑 (図面41 図版45)

IC・ID50区に所在し、僧寺中軸線の北488・489m、西148・149mに位置する。上面規模は長軸0.64m、短軸0.62m、底面規模は長軸0.44m、短軸0.4mで、平面形は上面、底面ともに円形を呈する。深さは18cmで、断面形は逆台形である。底面はIV層まで掘り込まれ、東に向かってやや低くなっている。主軸方向は僧寺中軸より63°西偏している。覆土は暗茶褐色土主体の自然堆積である。

SK1694J土坑 (図面41 図版45)

IM46区に所在し、僧寺中軸線の北516・517m、西137・138mに位置する。上面規模は長軸1.3m、短軸1.22mで、平面形は不整楕円形を呈する。深さは31cmで、底面はVa層まで掘り込まれ、凹凸が認められるほか、東側が一段高くなっている。主軸方向は僧寺中軸より2°東偏している。覆土は暗茶褐色土主体で、層に乱れが認められる。形状から倒木痕と考えられる。

SK1695J土坑 (図面41 図版45)

IJ・IK48・49区に所在し、僧寺中軸線の北509・510m、西144・145mに位置する。上面規模は長軸1.02m、短軸0.74m、底面規模は長軸0.81m、短軸0.47mで、平面形は上面、底面ともに楕円形を呈する。深さは34cmで、断面形は逆台形である。底面はVa層上層まで掘り込まれ、中央付近がやや窪んでいるが全体的にはほぼ平らである。主軸方向は僧寺中軸より87°西偏している。覆土は暗茶褐色土主体の自然堆積である。

遺物は焼礫2点が出土した。

SK1696J土坑 (図面41 図版45)

IF50区に所在し、僧寺中軸線の北497m、西148mに位置する。上面規模は長軸0.66m、短軸0.6m、底面規模は長軸0.4m、短軸0.36mで、平面形は上面、底面ともに円形を呈する。深さは31cmで、断面形は半円形である。底面はIV層まで掘り込まれ、主軸方向は僧寺中軸より87°西偏している。覆土は暗茶褐色土主体の自然堆積である。

遺物は礫1点が出土した。

SK1697J土坑 (図面41 図版45)

JC16区に所在し、僧寺中軸線の北546・547m、西137・138mに位置する。上部は削平されており、確認面はIV層中層である。上面の残存規模は長軸1.1m、短軸0.74m、底面規模は長軸0.63m、短軸0.5mで、平面形は上面、底面ともに楕円形を呈する。深さは31cmで、断面形は逆台形である。底面はVa層まで掘り込まれ、中央付近と南壁付近に径10cm、深さ10cmの小穴が2個認められた。主軸方向は僧寺中軸より19°東偏している。覆土は暗茶褐色土主体の自然堆積と推測される。

SK1698J土坑 (図面41 図版45)

IF48区に所在し、僧寺中軸線の北496・497m、西142・143mに位置する。上面規模は長軸0.92m、短軸0.82m、底面規模は長軸0.24m、短軸0.18mで、平面形は上面が円形、底面が楕円形を呈する。深さは35cmで、断面形は半円形である。底面はIV層下層まで掘り込まれている。主軸方向は僧寺中軸より18°西偏している。覆土は暗茶褐色土主体の自然堆積である。

SK1699J土坑 (図面41 図版46)

IB48区に所在し、僧寺中軸線の北484・485m、西144mに位置する。東側半分が削平されており、上面の残存規模は長軸1.14m、短軸0.64m、底面の残存規模は長軸0.94m、短軸0.46mで、平面形は楕円形を呈すると推測される。深さは29cmである。底面はIV層下層まで掘り込まれ、北に向かって低くなっている。覆土は暗茶褐色土主体の自然堆積である。

SK1700J土坑 (図面42 図版46)

IJ48区に所在し、僧寺中軸線の北507・508m、西143mに位置する。上面規模は長軸0.74m、短軸0.6m、底面規模は長軸0.39m、短軸0.18mで、平面形は上面、底面ともに楕円形を呈する。深さは33cmで、断面形は半円形である。底面はIV層下層まで掘り込まれている。主軸方向は僧寺中軸より42°東偏している。覆土は暗茶褐色土主体で層にやや乱れが認められた。

SK1701J土坑 (図面42 図版46)

HO49・50区に所在し、僧寺中軸線の北462～464m、西147～149mに位置する。上面規模は長軸2.12m、短軸1.34mで、平面形は楕円形を呈する。深さは72cmで、断面形は半円形である。底面はVa層下層まで掘り込まれ、東に向かって低くなっている。主軸方向は僧寺中軸より71°西偏している。覆土は暗茶褐色土主体の自然堆積である。

SK1702J土坑 (図面42)

HS49区に所在し、僧寺中軸線の北474・475m、西146・147mに位置する。南側の大半が削平されており、上面の残存規模は長軸が1.14m、短軸が0.25m、底面の残存規模は長軸が0.94m、短軸が0.17mで、平面形は楕円形を呈すると推測される。深さは19cmで、底面はIV層まで掘り込まれ、ほぼ平らである。覆土は暗茶褐色土主体の自然堆積である。

SK1703J土坑 (図面42 図版46)

IK47・48区に所在し、僧寺中軸線の北509～511m、西141～143mに位置する。上面規模は長軸2.2m、短軸0.94m、底面規模は長軸2.09m、短軸0.42mで、平面形は上面、底面ともに長い楕円形を呈する。深さは85cmで、断面形は長軸が箱形、短軸が逆台形である。底面はVa層まで掘り込まれており、平らで、長軸上に径14cm、深さ43～48cmの小穴2個が認められ、棒状痕と考えられる。主軸方向は僧寺中軸より58°西偏している。覆土は暗茶褐色土主体の自然堆積で、上層は黒色味が強く、下層は褐色味が強い。形状から陥穴と考えられる。

遺物は礫が1点出土した。

SK1704J土坑 (図面42 図版46)

IK・IL49区に所在し、僧寺中軸線の北512・513m、西146・147mに位置する。上面規模は長軸0.88m、短軸0.6m、底面規模は長軸0.65m、短軸0.33mで、平面形は上面、底面ともに楕円形を呈する。深さは41cmで、断面形は半円形である。底面はVa層上面まで掘り込まれており、南に向かってやや低くなっている。主軸方向は僧寺中軸より21°東偏している。覆土は暗茶褐色土主体の自然堆積である。

遺物は礫が1点出土した。

SK1705J土坑 (図面42)

IS46区に所在し、僧寺中軸線の北534・535m、西137mに位置する。上面規模は長軸0.81m、短軸0.6mで、平面形は隅丸長方形を呈する。深さは41cmで、断面形は半円形である。底面はVa層上面まで掘り込まれており、中央が窪んでいる。主軸方向は僧寺中軸より41°西偏している。覆土は暗茶褐色土主体で、中央に小穴が重複している感が見取れる。

SK1706J土坑 (図面43)

JB45区に所在し、僧寺中軸線の北543・544m、西134・135mに位置する。上部と東側が削平されており、確認面はIV層中層である。上面の残存規模は長軸1.4m、短軸1.16m、底面の残存規模は長軸0.62m、短軸0.42mで、平面形は楕円形を呈すると推測される。深さは33cmで、断面形は半円形である。底面はVa層まで掘り込まれている。覆土は暗茶褐色土主体の自然堆積である。

SK1707J土坑 (図面42 図版46)

HQ49・50区に所在し、僧寺中軸線の北468～470m、西145～148mに位置する。上面規模は長軸2.93m、短軸1.42mで、平面形は不整形を呈する。深さは63cmである。底面はVa層まで掘り込まれており、凹凸が激しい。主軸方向は僧寺中軸より56°東偏している。覆土は暗茶褐色土主体である。形状から倒木痕と考えられる。

SK1708J土坑 (図面43 図版47)

JG45区に所在し、僧寺中軸線の北559・560m、西133・134mに位置する。東側の一部が削平されており、上面規模は長軸0.98m、短軸0.88m、底面規模は長軸0.5m、短軸0.46mで、平面形は円形を呈すると推測される。深さは44cmで、断面形は半円形である。底面はVa層まで掘り込まれている。主軸方向は僧寺中軸より16°東偏している。覆土は暗茶褐色土主体の自然堆積である。

SK1709J土坑 (図面43 図版47)

JJ45区に所在し、僧寺中軸線の北567・568m、西133・134mに位置する。上面規模は長軸1.02m、短軸0.98m、底面規模は長軸0.48m、短軸0.46mで、平面形は上面、底面ともに円形を呈する。深さは57cmで、断面形は半円形である。底面はVa層まで掘り込まれている。主軸方向は僧寺中軸より24°西偏している。覆土は暗茶褐色土主体の自然堆積である。

SK1710J土坑 (図面43 図版47)

JH47区に所在し、僧寺中軸線の北562・563m、西139・140mに位置する。上面規模は長軸0.74m、短軸0.6m、底面規模は長軸0.4m、短軸0.26mで、平面形は上面、底面ともに楕円形を呈する。深さは30cmで、断面形は半円形である。底面はIV層まで掘り込まれている。主軸方向は僧寺中軸より13°東偏している。覆土は暗茶褐色土主体で、やや層の乱れが認められる。

SK1711J土坑 (図面43 図版47)

JL43・44区に所在し、僧寺中軸線の北574・575m、西129・130mに位置する。上面規模は長軸0.92m、短軸0.62mで、平面形は楕円形を呈する。深さは20cmで、断面形は半円形である。底面はIV層まで掘り込まれており、西に向かって低くなっている。主軸方向は僧寺中軸より90°東偏している。覆土は暗茶褐色土主体でやや層の乱れが認められる。形状から倒木痕と考えられる。

SK1712J土坑 (図面43)

JN45区に所在し、僧寺中軸線の北579・580m、西133・134mに位置する。北側の一部が削平されており、上面規模は長軸0.86m、残存短軸0.54m、底面規模は長軸0.48m、短軸0.3mで、平面形は上面、底面ともに楕円形を呈する。深さは16cmで、断面形は半円形である。底面はIV層まで掘り込まれており、東に向かってやや低くなっている。主軸方向は僧寺中軸より74°西偏している。覆土は暗茶褐色土主体で、層にやや乱れが認められる。

SK1713J土坑 (図面43 図版47)

JO・JP46区に所在し、僧寺中軸線の北584・585m、西136・137mに位置する。上面規模は長軸0.72m、短軸0.58mで、平面形は円形を呈する。深さは46cmで、底面はVa層まで掘り込まれており、凹凸が認められる。主軸方向は僧寺中軸より78°東偏している。覆土は暗茶褐色土主体で、層の乱れが認められる。形状から倒木痕と考えられる。

SK1714J土坑 (図面43)

JP・JQ44・45区に所在し、僧寺中軸線の北587・588m、西132~134mに位置する。上面規模は長軸1.64m、最大短軸0.78mで、平面形は不整形を呈する。深さは24cmで、底面はIV層下層まで掘り込まれており、凹凸が認められる。主軸方向は僧寺中軸より69°西偏している。覆土は暗茶褐色土主体で、層に乱れが認められる。形状から倒木痕と考えられる。

SK1715J土坑 (図面43 図版48)

JQ44・45区に所在し、僧寺中軸線の北588・589m、西132・133mに位置する。上面規模は長軸1.02m、短軸0.68mで、平面形は不整形を呈する。深さは20cmである。底面はIV層まで掘り込まれており、西側がやや窪んでいる。主軸方向は僧寺中軸より69°西偏している。覆土は暗茶褐色土主体で、やや層の乱れが認められる。

SK1716J土坑 (図面44)

JP・JQ43区に所在し、僧寺中軸線の北587・588m、西127・128mに位置する。上面規模は長軸0.62m、短軸0.52m、底面規模は長軸0.4m、短軸0.23mで、平面形は上面、底面ともに楕円形を呈する。深さは21cmで、断面形は半円形である。底面はIV層まで掘り込まれており、やや南に向かって低くなっている。主軸方向は僧寺中軸より44°東偏している。覆土は暗茶褐色土主体の自然堆積である。

SK1717J土坑 (図面44)

JS44区に所在し、僧寺中軸線の北596m、西131・132mに位置する。上面規模は長軸0.68m、短軸0.48m、底面規模は長軸0.36m、短軸0.22mで、平面形は上面、底面ともに楕円形を呈する。深さは20cmで、断面形は半円形である。底面はIV層まで掘り込まれている。主軸方向は僧寺中軸より87°東偏している。覆土は暗茶褐色土主体の自然堆積である。

SK1718J土坑 (図面44 図版48)

KA43区に所在し、僧寺中軸線の北600m、西128・129mに位置する。上面規模は長軸0.68m、短軸0.6m、底面規模は長軸0.38m、短軸0.36mで、平面形は上面、底面ともに円形を呈する。深さは26cmで、断面形は半円形である。底面はIV層まで掘り込まれており、中央付近に径14cm、深さ6cmの小穴1個が認められた。主軸方向は僧寺中軸より71°西偏している。覆土は暗茶褐色土主体で、やや層に乱れが認められる。

SK1719J土坑 (図面44)

KB43区に所在し、僧寺中軸線の北604m、西129mに位置する。上面規模は長軸0.56m、短軸0.48m、底面規模は長軸0.32m、短軸0.18mで、平面形は上面、底面ともに楕円形を呈する。深さは15cmで、断面形は半円形である。底面はIV層上層まで掘り込まれていた。主軸方向は僧寺中軸より1°西偏している。覆土は暗茶褐色土主体の自然堆積である。

SK1720J土坑 (図面44)

KE・KF41区に所在し、僧寺中軸線の北614・615m、西122・123mに位置する。上面規模は長軸0.92m、短軸0.88m、底面規模は長軸0.46m、短軸0.44mで、平面形は上面が不整形、底面が円形を呈する。深さは28cmで、断面形は半円形である。底面はIV層まで掘り込まれている。主軸方向は僧寺中軸より46°東偏している。覆土は暗茶褐色土主体の自然堆積である。

SK1721J土坑 (図面44 図版48)

KF・KG44・45区に所在し、僧寺中軸線の北616～620m、西130～133mに位置する。西側が調査区外に延びており、上面規模は長軸3.46m、確認短軸2.2mで、平面形は不整形を呈する。深さは88cmである。底面はVa層下層まで掘り込まれており、凹凸が認められるほか、径10cm前後の小穴が全体に14個認められた。主軸方向は僧寺中軸より11°東偏している。覆土は茶褐色土主体で層に乱れが認められる。形状から倒木痕と考えられる。

SK1725J土坑 (図面44 図版48)

LG・LH38区に所在し、僧寺中軸線の北680・681m、西112mに位置する。上面規模は長軸1.04m、短軸0.86m、底面規模は長軸0.42m、短軸0.26mで、平面形は上面、底面ともに楕円形を呈する。深さは37cmで、断面形は半円形である。底面はVa層上面まで掘り込まれている。主軸方向は僧寺中軸より8°西偏している。覆土は暗茶褐色土主体の自然堆積である。

SK1726J土坑 (図面44 図版48)

LJ37区に所在し、僧寺中軸線の北687・688m、西110mに位置する。上面規模は長軸0.74m、短軸0.42m、底面規模は長軸0.42m、短軸0.32mで、平面形は上面、底面ともに楕円形を呈する。深さは18cmで、断面形は逆台形である。底面はIV層まで掘り込まれており、ほぼ平らである。主軸方向は僧寺中軸より79°西偏している。覆土は暗茶褐色土主体の自然堆積である。

小穴 (図面40)

調査区全体に散在し、57個が確認された。規模は19～63cmの円形もしくは楕円形で、深さは8～64cmである。これらのうち径30cm以下のものが27個で約半数を占め、深さは30cm以下のものが37個で半数を超える。覆土は暗茶褐色土を主体とした自然堆積である。

遺物はPJ-122から焼礫が1点出土した。

(4) 包含層出土の遺物 (図面14～16、14～16 図版7・8)

本調査区は南北に細長く、またグラウンド等により削平されていたため包含層の遺物は少ない。歴史時代の遺物は図示した3点のみであった。

図面14-2は中世陶器の可能性のある口縁部の破片。図面14-3は宇瓦の破片で文様は唐草の一部であるが全容は不明である。

縄文時代の遺物も65点と少ない。このうち土器は38点で、早期と中期以外の時期のものは認められなかった。

早期の土器は24点出土（内6点を図示）し、18点が無文の土器である。このうち口縁部は図面14-5の1点のみで、口縁部下に沈線がある。その他の土器は外面に擦痕が認められる。また軽装な胎土の土器も認められる。条痕文系土器は1点のみの出土である。

中期の土器は14点出土（内7点を図示）し、阿玉台式土器、勝坂式土器、加曾利E式土器などが少量ずつ認められる。

石鏃は1点のみ出土し、無茎で、基部にわずかに抉り込みがある。

打製石斧は3点出土し、短冊形のもの、分銅形ものが認められる。また局部磨製石斧が1点認められ、完形で全体をよく磨いている。

削器は4点出土（内3点を図示）し、主剝離面の下部に連続して調整を行い、裏面には自然面を残す。

磨石は5点出土し、円形、楕円形の礫を用い、中には表裏の中央に僅かな窪みのあるものも認められた。

スタンプ形石器は6点出土し、内5点を図示した。量は少ないが、形状は様々で、底面に磨面のあるものが多かった。

石皿は2点出土し、扁平な円礫を用いていた。いずれも破片で、図面16-4はスタンプ形石器の転用と思われる。

剥片は5点出土し、内2点を図示した。

不明石器は1点出土し、破片であるが磨面が認められた。石皿、磨石ともいえず不明石器とした。この他に礫57点が出土し、このうち焼礫は24点であった。

(5) 旧石器時代の調査（図面45、16 図版8）

調査は5×5mを3か所、6×6m、4×8m、4×6m、3×10mを各1か所の計7か所調査坑を設定し、行った。その結果、遺構は確認されなかったが、調査坑7のVII層中より剥片2点が出土した。また、VII層からX層にかけて2～3cm大の小礫が50個認められたが、これらは自然礫と考えられる。

3. 431(494)・446・460次調査(平成8～10年度土地区画整理事業 小学校予定地区1～3次)

(1) 概要

小学校地区は平成8～12年度にかけて7次に亘る調査を実施し、総面積は13,439.54㎡に及ぶ。本書ではそのうちの1～3次(431・446・460次調査)で確認された遺構を掲載した。また、SI544・551の北側が調査区外に延び、その部分を494次調査(国3・4・3号道路南側拡幅3次)で調査を行ったため、これを含めて掲載した。

3か年の調査面積は19,470.90㎡で、確認された遺構は歴史時代が掘立柱建物10棟、竪穴住居24軒、溝5条、土坑75基、墓3基、性格不明遺構3基、小穴1,232個、縄文時代が竪穴住居1軒、土坑127基(うち陥穴25基)、小穴1,164個、旧石器時代が石器集中部(ユニット)2か所で、各年度の調査面積、確認遺構は次の通りである。

8年度(1次)調査は調査面積4,545.0㎡で、確認された歴史時代の遺構は、掘立柱建物2棟、竪穴住居11軒、溝4条、土坑29基、墓2基、小穴613個、縄文時代の遺構が土坑50基(うち陥穴7基)、小穴480個である。

9年度(2次)の調査は調査面積2,737.0㎡で、確認された歴史時代の遺構は、竪穴住居2軒、溝2条、土坑15基、墓1基、小穴471個、縄文時代の遺構が土坑45基(うち陥穴10基)、小穴521個である。

10年度(3次)の調査は調査面積2,188.9㎡で、確認された歴史時代の遺構は掘立柱建物8棟、竪穴住居11軒、溝1条、土坑31基、性格不明遺構3基、小穴148個、縄文時代の遺構が竪穴住居1軒、土坑32基(うち陥穴8基)、小穴163個である。

旧石器時代の調査は6×6mの調査坑を調査区に均等に30か所配置し、Ⅹ層まで実施した。それにより、9年度(2次)の調査で石器集中部(ユニット)2か所を確認した。

(2) 歴史時代の調査

掘立柱建物

SB157掘立柱建物(図面47・48、17 図版56)

IB～HD28～30区に所在し、僧寺中軸線の北423～431m、西82～89mに位置する。北東部、柱穴4-4付近が削平されている。東西3間×南北3間の総柱式の南北棟で、規模は、桁行が6.1m、梁行が5.75mで、柱間は桁行東側が南から2.16m+2.3m+ α 、西側が南から1.58m+2.66m+1.86m、梁行は南側で西から2.09m+2.15m+1.51m、北側が西から2.12m+1.89m+ α である。柱穴は24～54cmの円形もしくは楕円形を呈する。深さは28～82cmでⅤa層まで掘

り込まれているものも認められる。主軸方向は僧寺中軸より9°東偏している。

遺物は柱穴1-2の柱痕跡から土師器・甕1、土師質土器・坏1、不明1、2-1から男瓦1、2-2から須恵器A・坏1、女瓦1、3-1から須恵器A・坏1、柱穴4-1から土師器・甕1、須恵器A・坏1、甕1点、4-3の埋積土中より須恵器Aの坏等の破片が出土した。

SB158 掘立柱建物 (図面49、17 図版56)

IB~ID25~27区に所在し、僧寺中軸線の北424~431m、西74~81mに位置する。東西3間×南北2間の総柱式の東西棟で、規模は、桁行が5.92m、梁行が4.48mで、柱間は桁行が南側で西から2.02m+1.9m+2.0m、北側で西から1.84m+2.0m+1.95m、梁行は東側で南から2.22m+2.12m、西側で2.1m+2.1mである。柱穴は24~54cmの円形もしくは楕円形、深さは28~82cmでVa層まで掘り込まれているものも認められる。主軸方向は僧寺中軸より20°西偏している。

遺物は柱穴1-3の柱痕跡より男瓦片が出土した。

SB160 掘立柱建物 (図面48、17 図版57)

GC~GE13-14区に所在し、僧寺中軸線の北368~372m、西37~42mに位置する。東側は調査区外に延びており、確認された桁行は南側3間、北側1間である。平面形は桁行3間×梁行1間の側柱式の東西横である。主軸方向は僧寺中軸より71°西偏している。規模は桁行が4.98m、梁行が3.52mで、柱間は南側で西から1.66m+1.66m+1.66mの等間隔で、北側も同様である。確認された梁行は1間(3.52m)であるが、桁行の柱間から推測すると2間であったと考えられる。柱穴は20~36cmの円形もしくは楕円形を呈する。深さは南側桁行の両隅が26~34cmと深い、他は2~7cmと浅い。柱痕跡は柱穴2-1を除くすべての柱穴から認められた。

遺物は柱穴1-1の埋積土中より土師器・坏1、土師質土器・坏1、高台付坏1、須恵器B・坏2点が出土した。

SB161 掘立柱建物 (図面50、17 図版58)

GB~GE19~22区に所在し、僧寺中軸線の北364~371m、西57~64mに位置する。北西部分の柱穴が一部削平されているが、平面形は桁行3間×梁行2間の側柱式で四面庇の南北棟である。主軸方向は僧寺中軸より9°東偏している。身舎の規模は、桁行西側が南から1.72m+1.5m+1.7mの4.92m、東側が南から1.64m+1.62m+1.64mの4.9m、梁行は南側が西から1.54m+1.8mの3.34m、北側が西から1.76m+1.64mの3.4mである。身舎の柱穴は26~76cmの円形もしくは楕円形を呈する。深さは26~68cmである。柱痕跡は認められなかった。

遺物は柱穴2-3から須恵器B・坏1、土師質土器・坏3、女瓦1、焼礫1、3-2から土師器・坏1、男瓦1、4-3から土師器・坏1点が出土した。

SB162 掘立柱建物 (図面51、17 図版59-60、9)

FS~GA37~39区に所在し、僧寺中軸線の北354~361m、西109~116mに位置する。南側でSI 592・593と重複し、切られている。平面形は桁行3間×梁行2間の側柱式で南側に庇を持つ、片面庇の東西棟である。主軸方向は僧寺中軸より78°西偏している。規模は、桁行の柱間は南側が西から1.92m+1.92m+2.0mの5.84m、北側が西から1.94m+1.82m+2.2mの5.96m。梁行の柱間は南側が西から1.84m+1.84m等間の3.68m、東側が南から1.74m+1.8mの3.54m。柱穴は住居、攪乱により上部が削平されたものを除くと38~50cmの円形もしくは楕円形を呈する。深さは26~44cmである。柱痕跡は柱穴1-2、2-2、1-4、2-4、3-4、4-4で確認された。

遺物は柱穴3-4柱痕跡から須恵器A・坏の完形が1点出土したほか、1-2から須恵器A・坏1、1-4から須恵器B・坏1点が出土した。

SB163掘立柱建物(図面52 図版60)

GB~GD39~41区に所在し、僧寺中軸線の北364~371m、西117~122mに位置する。平面形は桁行3間×梁行2間の側柱式の南北棟である。主軸方向は僧寺中軸より22.5°東偏している。規模は、桁行が西側で南から2.0m+1.74m+2.14mの5.88m、東側が南から2.02m+1.5m+1.9mの5.42m、梁行が南側で西から2.0m+1.48mの3.48m、北側が西から1.56m+1.76mの3.32mである。柱穴は20~52cmの円形もしくは楕円形を呈する。深さは7~36cmで北辺の柱穴が8~26cmと浅い。柱痕跡は柱穴1-1、3-2、3-3で認められた。

遺物は柱穴1-1、1-2の埋積土中より灰釉陶器の残各一点が出土した。

SB164掘立柱建物(図面53、17 図版61)

FT~GB34・35区に所在し、僧寺中軸線の北359~367m、西101~105mに位置する。平面形は桁行3間×梁行2間の側柱式の南北棟である。主軸方向は僧寺中軸より2°東偏している。規模は、桁行西側が南から2.3m+2.35m+2.5mの7.15m、東側が南から2.45m+2.24m+2.68mの7.37m。梁行は南側が1間で3.5m、北側が西から1.54m+1.66mの3.2mである。柱穴は24~56cmの円形もしくは楕円形を呈する。深さは10~74cmでVa層上部まで掘り込まれているものも認められ、南・西側の柱穴が64~74cmと深く、北側が10~16cmと浅い。

遺物は柱穴1-1の柱痕跡より須恵器A・坏1、土師質土器・坏1点が出土した。

SB165掘立柱建物(図面54、17 図版62~64、9)

GC~GE16~18区に所在し、僧寺中軸線の北367~372m、西46~54mに位置する。北東側でSI 587、SK2070と重複し、切られている。桁行4間×梁行2間のやや歪んだ総柱式の東西棟である。主軸方向は南辺で僧寺中軸より87°西偏している。規模は、桁行が南側6.8m、北側6.4mで、柱間は南側が西から2.04m+1.54m+1.48m+1.74m、北側が西から1.64m+1.54m+1.74m+1.48m。梁行は西側3.36m、東側3.42mで、柱間は西側が南から1.82m+1.54m、東

側が南から1.86m+1.56mである。柱穴は西・南・東側のものが径36~50cmの円形もしくは楕円形で、深さは10~47cmであるが、東部分(柱穴2~4-2)、北側(柱穴2~4-3)は径64~140cmの円形もしくは楕円形と規模がやや大きくなり、Va層まで掘り込まれているものも認められる。柱穴2-3、3-3のように掘り方の一部に更に径50cm程の掘り方を掘り込んで柱穴としているものも認められたほか、柱穴3-2、4-2のように大形で浅い柱穴も存在し、柱穴に不統一が認められる。

遺物は柱穴2-2の埋積土中より土師器・甕2、須恵器A・坏1、須恵器B・坏1、土師質土器・坏1、2-3から土師器・甕1、須恵器A・坏1、須恵器B・坏1、礫1、4-2から土師器・甕2、不明1、須恵器A・坏4、須恵器B・坏1、土師質土器・坏3、4-3から須恵器A・坏1、須恵器B・坏1、土師質土器・坏1、礫1点が出土した。

SB166掘立柱建物(図面55、17 図版64)

GD・GE15~17区に所在し、僧寺中軸線の北370~373m、西44~49mに位置する。本跡はSI587の壁際に重複し、一見住居に伴う柱穴と推測されたが、柱穴2-2が同住居の床面下から検出されたことから別の遺構として捉えた。平面形は桁行2間×梁行2間の総柱式の東西棟である。主軸方向は僧寺中軸より85°西偏している。規模は、桁行が4.04mで、柱間は南側が西から2.02m+2.02mの等間、北側が西から2.1m+1.94m。梁行が2.9mで、柱間は西側が南から1.24m+1.66m、東側が南から1.36m+1.54mである。柱穴は24~48cmの円形もしくは楕円形を呈し、深さは48~68cmで、規模、深さはほぼ均一であるが、柱穴2-2はその中でも径48cmと大きく、深さは上面が住居により削平されているが残存で68cmとVa層まで掘り込まれていた。柱痕跡は柱穴1-1、3-1、3-2で認められた。

遺物は柱穴1-1から土師器・甕1、須恵器A・坏1、須恵器B・坏1、土師質土器・坏6、2-1から土師質土器・坏1、2-3から土師器・甕1、土師質土器・坏1点が出土した。

SB167掘立柱建物(図面56、17 図版64、9)

GE・GF16・17区に所在し、僧寺中軸線の北372~377m、西46~51mに位置する。SI587・588、SK2072・2089と重複し、切られている。平面形は桁行2間×梁行2間の総柱式の東西棟である。主軸方向は僧寺中軸より72°西偏している。規模は、桁行の南側が西から2.17m+2.03mの4.2m、北側が西から1.88m+2.12mの4.0mである。梁行が3.34mで、柱間は西側が南から1.74m+1.6m、東側が南から1.6m+1.84mである。柱穴は24~54cmの円形もしくは楕円形を呈する。深さは28~82cmでVa層まで掘り込まれているものも認められる。柱痕跡は認められなかった。

遺物は柱穴2-3の埋積土中より土師器・坏6、甕1、土師質土器・坏2、3-2から須恵器・坏1点が出土した。

竪穴住居

S1544住居 (図面57・58、18～20 図版65・66、9・10)

HJ・HK21・22区に所在し、僧寺中軸線の北447～451m、西61～66mに位置する。北側の一部は494次(国3・4・3号道路南側拡幅3次)調査区に延び、別々に調査を実施したが、同一遺構であるため一括し記述することとした。

規模は東西3.44m、南北3.0mの長方形で、壁はほぼ垂直に立ち上がり、深さは40cmである。壁下には幅16～35cm、床面からの深さは5～10cmの周溝が圍繞している。床面は南側の一部を除きローム直床で、南側の一部は暗茶褐色土で埋め戻して貼床とし、ほぼ平らである。長軸方向は僧寺中軸より75°西偏している。覆土は明黒褐色土を主体とした自然堆積である。

カマドは東壁中央よりやや南寄りに壁を掘り込んで構築されていた。掘り込みは幅86cm、奥行き116cmの三角形で、瓦と暗茶褐色土を主体とした土で構築されていた。火床は深さ10cm程粗掘りした後暗茶褐色土で平らに埋め戻して使用しており、中央付近が15×12cm、厚さ5cmの範囲で赤く焼けていた。支脚等は認められなかった。

床面を精査した結果、北壁より40cm程南側で周溝と推測される溝と、カマドの火床と考えられる焼土が認められたため、北壁で拡張が行われたと考えられる。

拡張前の住居(A期)の規模は、東西3.44m、南北約2.6mの長方形で、周溝は北壁部分を除き拡張後の住居(B期)と同一と推測される。

A期のカマドは北壁ほぼ中央に壁を掘り込んで構築されていたと推測される。壁外への掘り込みは拡張時に削平され、50×19cm、厚さ3cmの範囲が赤く焼けた火床を確認したのみである。

遺物は覆土のほぼ南に集中して出土した。カマドには瓦などが多く遺存し、また土器片も出土しているが、覆土のものと接合している。カマド内の男・女瓦等は構築材として使用していたものをカマド廃棄時に投げ込んだものと考えられる。

出土遺物総数は164点で、土師器・甕69、台付甕1、須恵器A・坏35、高台付坏2、壺1、B・坏9、土師質土器・坏19、宇瓦1、男瓦7、女瓦16、鉄製品・刀子1、釘2、不明鉄製品1、その他に礫が2点出土した。

S1545住居 (図面59・60、21・22 図版66・67、11)

GT・RA15・16区に所在し、僧寺中軸線の北417～421m、西43～47mに位置する。南側の一部が削平されており、規模は東西3.07m、南北3.0mの方形で、深さは18cmである。壁はほぼ垂直に立ち上がり、壁下には幅10～34cm、床面からの深さは4～6cmの周溝が東壁の一部を除き圍繞している。床面はローム直床で、ほぼ平らである。四隅及び床面中央付近に小穴が認められ、規模はP-1が31×25cmの楕円形で、深さは45cm、P-2が48×34cmの楕円形で、深さは45cm、P-3が32×28cmの楕円形で、深さは32cm、P-4が37×28cmの楕円形で、深さは38cm、P-5

が24×20cmの楕円形で、深さは24cmである。これらのうちP-3・4を除く小穴は土層断面で柱痕跡が確認されていることや、位置等から柱穴と推測される。長軸方向は僧寺中軸より63°西偏している。覆土は明黒褐色土を主体とした自然堆積である。

カマドは東壁中央からやや南寄りに壁を掘り込んで構築されていた。壁外への掘り込みは幅70cm、奥行き36cmの半円形で、奥壁に瓦を平積みして芯として使用し、幅10～15cm程を暗茶褐色土で造り出していた。側壁には一部瓦が火表部分に補強材として用いられていた。火床は75×44cmの楕円形で深さ10～20cm粗掘りした後、焚き口が床面より10cm程窪んだ状況に埋め戻し火床として使用されており、その中央付近が38×18cm、厚さ4cmの範囲で赤く焼けていた。主軸方向は僧寺中軸より117°東偏している。

遺物はカマド付近と中央付近から多く出土し、層位的には床面ないし覆土下層から多く出土している。

出土遺物総数は88点で、土師器・甕18、須恵器A・坏19、甕1、須恵器B・坏4、土師質土器・坏20、灰釉陶器・壺3、宇瓦2、男瓦5、女瓦12、鉄製品・釘1、不明鉄製品1、台石の可能性のある礎2、その他に礎が9点出土した。

S1546住居 (図面60・61、23 図版67・68、12)

GS・GT17・18区に所在し、僧寺中軸線の北415～419m、西50～53mに位置する。南側の一部が削平されており、規模は東西2.92m、南北2.84mの方形で、壁はほぼ垂直に立ち上がり、深さは22cmである。壁下には幅13～27cm、床面からの深さは4～10cmの周溝が東壁の一部を除き圍繞している。床面はローム直床で、ほぼ平らである。長軸方向は僧寺中軸より59°西偏している。覆土は明黒褐色土を主体とした自然堆積である。

カマドは東壁中央よりやや南寄りに壁を掘り込んで構築されていた。壁外への掘り込みは幅65cm、奥行き40cmの丸味のある方形である。火床は廃棄時に大半が壊されており80×70cm、深さ22cmの粗掘りの痕跡が確認されたのみであった。主軸方向は僧寺中軸より127°東偏している。

遺物はカマド付近と中央付近から多く出土した。

出土遺物総数は69点で、土師器・坏1、甕27、台付甕1、須恵器A・坏8、須恵器B・坏2、土師質土器・坏25、高台付坏1、高台付壺2、女瓦2、その他に礎18点が出土した。

S1547住居 (図面62・63、24～27 図版68～70、12～14)

GS・GT22・23区に所在し、僧寺中軸線の北415～419m、西65～69mに位置する。規模は東西2.72m、南北3.42mの方形で、深さは22cmである。壁はほぼ垂直に立ち上がり、西・北壁の一部の壁下には幅15～24cm、床面からの深さ4cmの周溝が認められた。床面は粗掘りの後暗茶褐色土で埋め戻して貼床とし、ほぼ平らである。東隅を除く3か所には小穴が認められ、南隅の

P-3はカマドの火床と考えられ、焼土を削り込んで掘り込まれていた。規模はP-1が54×40cmの楕円形で、深さは8cm、P-2が61×51cmの楕円形で、深さは36cm、P-3が径64cmの不整形円形で、深さ42cmで、覆土は暗茶褐色土を主体としたもので人為的な埋め戻しが認められる。長軸方向は僧寺中軸より44°東偏している。覆土は明黒褐色土を主体とした自然堆積である。

カマドは東壁北端と南東隅の2か所で認められ、残存状況から、南東隅から東壁北端に造り替えられたと考えられる。

東壁北端のカマドは、壁外への掘り込みが幅110cm、奥行き29cmの丸味のある方形である。側壁は半円上に女瓦を直立させて据え付け、白色粘土と暗茶褐色土で裏込めをして構築していた。袖部は調査段階では明確ではなかったが、土層断面や白色粘土の遺存状況から幅40～50cm、壁からの長さ15～30cm程が白色粘土等で作り出されていたと推測される。火床は65×70cm、深さ9cm程粗掘りした後暗茶褐色土で平らに埋め戻して使用し、中央付近が38×30cm、深さ3cmの範囲で赤く焼けていた。火床の東端には塼が直立した状態で認められ、下部が埋められた状況であることから支脚として使用されたものと考えられる。覆土中から長さ52cm、幅16cm、厚さ8cmの川原石が認められ、焚口天井部に掛け渡されていたものと考えられる。また、壁外への掘り込み端部から長さ31cm、幅10cmの掘り込みが認められ、当初煙道とも考えられたが、土層断面の状況からカマド構築段階で埋め戻されたものであった。主軸方向は僧寺中軸より119°東偏している。

南東隅のカマドは大半がP-3に削平されており、火床と壁外の掘り込みの一部が遺存するのみであった。火床は東西残存長30cm、南北60cm、深さ8cm程粗掘りした後暗茶褐色土で平らに埋め戻して使用しており、わずかに赤化した部分と、熱を受けガサガサした部分が認められた。また、南東隅の壁には幅13cm、奥行き15cm程の掘り込みが認められ、煙道の痕跡と推測される。主軸方向は僧寺中軸より166°東偏している。

遺物はカマド覆土からまとまって出土し、4個体以上が接合した。覆土からはほぼ全体的に出土したがかなり離れたものとの接合が多く認められた。

出土遺物総数は167点で、土師器・坏5、高台付坏1、甕64、台付甕2、須恵器A・坏2、壺1、不明2、須恵器B・坏11、高台付坏2、土師質土器・坏39、高台付坏4、高台付甕2、灰釉陶器・甕1、壺1、宇瓦1、男瓦10、女瓦17、塼1、台石1、その他に裸15点が出土した。

S1548住居（図面64～66、28～32 図版71・72、15～17）

GT-HB29・30区に所在し、僧寺中軸線の北417～423m、西86～90mに位置する。規模は東西3.1m、南北5.0mの長方形で、壁はほぼ垂直に立ち上がり、深さは44cmである。壁下には幅25～35cm、床面からの深さ6cmの周溝が圍繞している。床面は中央付近がローム直床で、その周囲は粗掘りの後暗茶褐色土で埋め戻された貼床で、ほぼ平らである。南東隅には50×53cm、深

さ13cmの方形の小穴が認められ、位置、形状から貯蔵穴と考えられる。この貯蔵穴は造り替えが認められ、当初の規模は明確ではないが造り替え後の規模を含めて112×56cm、深さ13cmの長方形で、覆土は人為的に埋め戻され上部が硬く締まっていた。カマド北脇の東壁北側には、壁からの幅55cm、確認面から20cm程低くなったテラス状の平坦面が認められ、床面からテラス状の平坦面までの高さは25cmである。これが、壁上端が崩れたものかテラス状の施設なのかは明確ではない。長軸方向は僧寺中軸より11°東偏している。覆土は明黒褐色土を主体とした自然堆積である。

カマドは東壁中央よりやや南寄りに壁を掘り込んで構築されていた。壁外への掘り込みは幅150cm、奥行き91cmの三角形形状である。側壁は女瓦等を火表部分に使用し白色粘土と暗茶褐色土で構築していた。袖は幅35～75cm、壁からの長さ28～33cm程白色粘土と暗茶褐色土で造り出されていた。火床は62×50cm、深さ13cmの不整楕円形に粗掘りした後暗茶褐色土で平らに埋め戻して使用され、中央付近が55×46cm、厚さ7cmの範囲で赤く焼けていたほか、その周囲のローム（地山）が熱を受けガサガサした状況であった。主軸方向は僧寺中軸より103°東偏している。また、住居中央付近には25×30cmの範囲で焼土が認められ、焼土の周囲の床が熱でガサガサしていることから炉と推測される。

遺物は住居全体から出土し、層位的には床面付近と覆土上層から多く認められたほか、テラス状の平坦面部分からも出土した。出土遺物総数は569点で、土師器・坏2、甕157、台付甕1、須恵器A・坏91、高台付坏2、壺1、甕7、不明1、須恵器B・坏31、高台付坏1、土師質土器・坏131、高台付坏6、灰軸陶器・塊6、壺4、不明1、瓦1、男瓦19、女瓦90、不明瓦1、炭化種子1、磨痕石1、鉄滓4、不明10、その他に糠が74点出土した。

SI549住居（図面67～70、32～35 図版71～73、18・19）

HF・HG27～29区に所在し、僧寺中軸線の北435～439m、西84～89mに位置する。東側でSI550と重複し、切られ、カマドの西側が削平されている。規模は東西5.0m、南北3.85mの長方形で、壁はほぼ垂直に立ち上がり、深さは34cmである。周溝は北壁の西側と南西隅付近で認められなかったほかは、壁下で認められ、幅は20～30cm、床面からの深さは8cmである。床面は一部を除きローム直床で、ほぼ平らである。床面を除去したところ、カマド前面から規模54×86cm、深さ24cmの長方形の掘り込み（P-9）が認められ、覆土は人為的に埋め戻され上面が硬く締まっていた。また、住居壁際で焼土が確認され、焼失住居とも考えられるが、床面等で熱を受けた部分や、炭化物も認められないことから、断定は難しい。長軸方向は僧寺中軸より79°西偏している。覆土は明黒褐色土を主体とした自然堆積である。

カマドは北壁中央に壁を掘り込んで構築され、西側の一部が削平されていた。壁外への掘り込みは幅103cm、奥行き58cmの楕円形である。左袖は幅30cm、壁からの長さ27cm程が白色粘土

と暗茶褐色土で造り出されていたが、側壁・火床は遺存状況から廃棄時に壊されたものと推測される。また、カマド構築土をすべて除去したところ、壁際に周溝と考えられる掘り込みが認められたことから、壁下に周溝を掘り込んだ後にカマドを構築したものと考えられる。主軸方向は僧寺中軸より13°東偏している。

本跡では壁際には焼土の地積が見られたが、ほとんどの遺物は焼土の上層から出土している。

遺物はカマドを中心に全体に見られたが、カマド及び北側に土師器甕が多く、瓦は全体に分布している。また離れたものと接合したものが多い。

出土遺物総数685点で、土師器・坏1、甕324、台付甕8、不明6、須恵器A・坏103、高台付坏5、壺1、高台付壺1、壺1、甕1、不明3、須恵器B・坏43、高台付坏2、土師質土器・坏100、高台付坏1、灰釉陶器・壺2、壺1、男瓦48、女瓦26、不明瓦4、砥石1、鉄製品・刀子2、不明鉄製品1、その他に礫34点が出土した。

S1550住居（図面67～69、36・37 図版74、19・20）

HF・HG27～29区に所在し、僧寺中軸線の北435～439m、西80～85mに位置する。西側でS1549と重複し、切っている。規模は東西3.9m、南北3.0mの長方形で、壁はほぼ垂直に立ち上がり、深さは40cmである。壁下には幅15～30cm、床面からの深さは12cmの周溝が圍繞しており、床面は中央がローム直床で、東・西壁周辺が粗掘りの後暗茶褐色土で埋め戻された貼床で、ほぼ平らである。長軸方向は僧寺中軸より70°東偏している。覆土は明黒褐色土を主体とした自然堆積である。

カマドは東壁中央よりやや南寄りに壁を掘り込んで構築されていた。壁外への掘り込みは幅72cm、奥行き52cmの丸味のある方形で、奥壁部分の構築土中には1/2大の女瓦を芯材として直立させ、煙道部には縦半分に打ち割った女瓦を横方向に渡していた。袖は幅28～30cm、壁からの長さ20cm、高さ8～13cm程ロームブロック混じりの暗茶褐色土で造り出されていた。火床は50×50cm、厚さ3cmの範囲で赤く焼けていた。火床の北端には男瓦を2枚凹面を重ね合わせ、直立した状況のものが認められ、下部が埋められた状況であることから支脚として使用されたものと考えられる。主軸方向は僧寺中軸より70°東偏している。

遺物はカマド覆土と南東部に集中して出土し、両者において接合したものが多く認められた。また、カマド覆土からは土師器甕4個体が出土した。

出土遺物総数は294点で、土師器・甕118、台付甕6、須恵器A・坏66、高台付坏2、壺2、甕1、須恵器B・坏14、高台付坏2、土師質土器・坏57、宇瓦1、男瓦18、女瓦6、磨痕石1、その他に礫が38点出土した。

S1551住居（図面71・72、38・39 図版75～77、20）

III・IIJ33・34区に所在し、僧寺中軸線の北444～447m、西98～102mに位置する。北側は494次

調査区に及び、別々に調査を実施したが、同一遺構であることから一括して記述することとした。北側の一部が削平されており、規模は東西3.48m、南北3.23mの長方形で、壁はほぼ垂直に立ち上がり、深さは25cmである。壁下には幅16~24cm、床面からの深さ6~14cmの周溝が圍繞している。床面は全体が粗掘りの後茶褐色土で埋め戻した貼床で、ほぼ平らである。主軸方向は僧寺中軸より10°東偏している。覆土は明黒褐色土を主体とした自然堆積である。

カマドは東壁ほぼ中央に壁を掘り込んで構築されていた。壁外への掘り込みは幅120cm、奥行き76cmの凸形で、袖の作り出しは認められなかった。火床は65×50cm、深さ10cm楕円形に粗掘りした後、暗茶褐色土で平らに埋め戻して使用され、30×40cm、厚さ6cmの範囲で赤く焼けていた。中央付近には塙が直立した状態で認められ、下部が埋められた状況であることから支脚として使用されたものと考えられる。

南東隅には、規模が56×50cmの円形で、深さが22cmの小穴があり、形状等から貯蔵穴と考えられる。

また、北東隅付近では44×35cmの範囲で焼土が認められ、僅かながら床面が熱を受け赤化した状況であることから炉跡とも考えられる。

遺物はカマド内と南東部から出土し、北東部は攪乱が多く出土しなかった。

出土遺物総数は131点で、土師器・甕57、台付甕2、須恵器A・坏16、甕2、土師質土器・坏13、高台付坏1、灰陶碗器2、男瓦11、女瓦22、熨斗瓦1、埴1、鉄製品・釘1、不明鉄製品1、磨痕石1、その他に礫が3点出土した。

S1552住居(図面73・74、39~45 図版77・78、20~22)

HD~HF36・37区に所在し、僧寺中軸線の北431~435m、西107~111mに位置する。規模は東西2.9m、南北4.1mの長方形で、壁はほぼ垂直に立ち上がり、深さは32cmである。壁下には幅22~32cm、床面からの深さ14cmの周溝が圍繞していた。床面は中央付近がローム直床で硬く締まっているほかは褐色土の貼床で、ほぼ平らである。床面の中央には径38cm、床面からの深さ14cm(P-1)、北東隅付近に径24cm、床面からの深さ14cm(P-2)の小穴が認められた。東西壁には径12~18cmの小穴が各3個の計6個が認められ、壁際の施設に付随するものとも考えられる。南壁の西側には径18cm、床面からの深さ12~15cmの小穴が2個認められ、ともに南に向かって斜めに掘り込まれていた。また、床面下からはP-3~5の小穴が3個認められた。主軸方向は僧寺中軸より20°東偏している。覆土は明黒褐色土を主体とした自然堆積である。

カマドは北壁中央からやや東寄りに壁を掘り込んで構築されていた。掘り込みは幅90cm、奥行き55cmの楕円形で、右側壁部分から男瓦が認められ、構築材として使用されたものと考えられる。火床は28×27cm、厚さ4cmの範囲で赤く焼け、その中央付近に凹面を重ね合わせて直立した状況で女瓦が2点確認された。これは火床に埋め込まれておらず、置かれたような状況で

あったため断定はできないが、支脚として捉えた。

床面中央やや西寄りの26×30cmの範囲が赤く焼けており、その周辺が熱を受けガサガサした状況であることから炉と推測される。

遺物はカマド付近とほぼ全体から出土したが、南・西壁付近からは少なかった。層的には床面付近と覆土上層のものに分けられ、上下のもので接合するものは少ない。また一部確認した住居上端部外から遺物が出土し、覆土のもので接合するが、この部分まで住居なのか、棚状の施設があったのか明確にし得なかった。

出土遺物総数は592点で、土師器・坏4、鉢1、甕201、台付壺7、不明7、須恵器A・坏96、高台付坏2、蓋1、壺6、甕12、須恵器B・坏36、高台付坏1、甕1、土師質土器・坏76、高台付坏1、灰釉陶器・碗2、小瓶1、甕1、男瓦64、女瓦67、埴1、不明瓦1、磨痕石1、不明3、その他に礫が23点出土した。

SI553住居（図面75・76、46～49 図版78～80、23）

IB～HD37・38区に所在し、僧寺中軸線の北425～429m、西109～112mに位置する。規模は東西3.04m、南北3.13mの長方形で、壁はほぼ垂直に立ち上がり、深さは24cmである。壁下には幅18～26cm、床面からの深さ4～8cmの周溝が圍繞していた。床面は全体を10～30cm粗掘りした後、茶褐色土で埋め戻した貼床で、ほぼ平らである。主軸方向は僧寺中軸より19°東偏している。覆土は明黒褐色土を主体とした自然堆積である。

カマドは北壁中央よりやや東寄りに壁を掘り込んで構築されていた。掘り込みは幅135cm、奥行き40cmの凸形で、側壁を暗茶褐色土で構築し、右側壁の火表部分に女瓦が構築材として使用されていた。火床は70×80cm、深さ12cmの楕円形に粗掘りした後、暗茶褐色土で平らに埋め戻して使用され、中央付近が30×28cm、厚さ5cmの範囲で赤く焼けていた。火床の北端には男瓦と女瓦が2枚凹面を重ね合わせ、直立させた状態で認められ、下部が埋められた状況であることから支脚として使用されたものと考えられる。カマドの構築土を除去したところ、袖下部にあたる部分で周溝の延びが確認されたことから、住居の形を整えた後にカマドの場所を決め、構築したものと考えられる。

遺物はカマド付近から集中し、覆土中からは散発的に出土し、カマド覆土からは土師器の甕が集中して出土した。

出土遺物総数は255点で、土師器・甕96、不明8、須恵器A・坏58、壺1、甕8、須恵器B・坏12、高台付坏1、土師質土器・坏33、高台付坏1、男瓦14、女瓦21、埴1、磨痕石1、その他に礫が23点出土した。

SI554住居（図面72、49 図版80、23）

IB・IC44・45区に所在し、僧寺中軸線の北422～426m、西130～133mに位置する。北東部分が

削平されている。規模は東西3.0m、南北3.4mの方形で、壁はほぼ垂直に立ち上がり、深さは18cmである。壁下には幅13～36cm、床面からの深さ18cmの周溝が圍繞していた。床面はローム直床でほぼ平らである。主軸方向は僧寺中軸より11°東偏している。カマドなどの付属施設は認められなかった。覆土は明黒褐色土主体の自然堆積である。

遺物は中央部の床面付近から土師器の台付甕が出土し、ほぼ全体が復元できたほかは、散発的に出土しているのみで、遺物は少ない。

出土遺物総数は6点で、土師器・甕、台付甕、土師質土器・坏、男瓦、女瓦、鉄製品・釘各1、その他に礫が6点出土した。

S1576住居（図面76・77、50 図版81・82、24）

GK・GL40・41区に所在し、僧寺中軸線の北392～395m、西118～122mに位置する。北西隅付近でP-1・2・353と重複し、切られている。規模は東西3.1m、南北2.72mで、平面形は東西に長い長方形を呈する。壁はほぼ垂直に立ち上がり、深さは24cmで、周溝は幅16～25cm、床面からの深さ8～14cmで、カマド部分を除き壁下を圍繞している。床面はロームによる貼床でほぼ平らで、北東部分が硬く締まっていた。床面中央やや南寄りP-1・2が認められた。長軸方向は僧寺中軸より25.5°西偏している。覆土は明黒褐色土主体の自然堆積で、壁際の層には暗茶褐色土が若干含まれていた。

カマドは東壁中央やや南寄りに、壁を掘り込んで施設されていた。壁外への掘り込みは、幅130cm、奥行き25cmの不整楕円形で、白色粘土で袖を作り出し構築されていた。袖は壁からの長さが51～61cm、幅約42cm、床面からの高さが5～10cm程遺存していた。火床は床面から10cm程掘り込み、暗茶褐色土で平らに埋め戻されて使用されており、49×39cmの範囲が赤く焼けていた。煙道部分はやや外傾して立ち上がる。

構築土を除去したところ、住居周溝と考えられる溝が壁下に認められたことから、住居の形を整えた後に壁を掘り込んでカマドを構築したものと推測される。

遺物はカマド及びその前面から土師器・甕が3個体以上出土した。

出土遺物総数41点で、土師器・甕5、台付甕13、須恵器A・坏2、高台付甕2、甕1、須恵器B・坏6、土師質土器・坏8、灰釉陶器・碗1、女瓦3、その他に礫が5点出土した。

S1577住居（図面78・79、50・51 図版83、24）

GK・GL37・38区に所在し、僧寺中軸線の北390～393m、西110～113mに位置する。北東部分と中央付近が削平されている。規模は東西3.3m、南北2.7mのやや隅に丸味のある長方形で、壁はほぼ垂直に立ち上がり、深さ22cmである。周溝は幅23～34cm、床面からの深さ10～14cmで、カマド部分を除き壁下を圍繞している。床面はロームによる貼床でほぼ平らで、中央付近が硬く締まっていた。長軸方向は僧寺中軸より24.5°西偏している。覆土は明黒褐色土主体の自然

地積で、壁際の層には暗茶褐色土が若干含まれていた。

カマドは東壁中央やや南寄りに壁を掘り込んで施設されていた。壁外への掘り込みは、幅80cm、奥行き30cmの三角形で、左側壁の一部は男瓦を使用して構築されていた。火床は10cmほど掘り窪めたあと暗茶褐色土で平らに埋め戻して使用されており、36×32cmの範囲が赤く焼けていた。煙道部は緩やかに外傾して立ち上がっていた。袖、支脚などは認められなかった。

遺物はカマド付近と南北の壁付近から多く出土し、カマド内のものと南壁付近出土のものとで接合したものが多く、いずれも床面付近出土である。

出土遺物総数149点で、土師器・坏7、甕32、須恵器A・坏22、高台付壺1、鉢1、甕2、須恵器B・坏42、高台付坏1、土師質土器・坏31、灰釉陶器・壺3、男瓦3、女瓦3、砥石1、その他に礫が5点出土した。

SI585住居（図面79・80、52 図版84・85、24）

GF・GG14・15区に所在し、僧寺中軸線の北375～379m、西41～45mに位置する。規模は東西3.32mで、南北は東辺で3.4m、西辺で3.83m、平面形は南辺がやや壺んだ台形状を呈する。壁はほぼ垂直に立ち上がり、深さは約24cmである。壁下には幅14～28cm、床面からの深さは4～9cmの周溝が圍繞しているが、北壁中央付近で4cmほどの段差が認められるほか、ズレが認められる。また、北西隅付近の周溝は壁よりやや内側に施設され、壁と周溝の間に僅かではあるが平坦面が認められる。床面はローム直床でほぼ平らで、中央からカマド前面にかけて硬く締まっている。南西隅を除く三隅で小穴が認められ、規模はP-1が5.6×5.2cm、深さ23.5cmの円形、P-2が5.4×5.0cm、深さ21cmの円形、P-3が5.4×3.4cm、深さ14cmの楕円形である。また、床面中央に径28cm、深さ40cmの円形の小穴P-4が認められ、位置、形状から柱穴と推測される。

カマドは東壁中央やや南寄りに壁を掘り込んで施設されていた。壁外への掘り込みは幅82cm、奥行き40cmの台形状で、袖部分は褐色土と白色粘土を用いて構築されていた。左袖では須恵器の破片が認められ、出土状況から袖の補強材として使用されたものと推定される。火床は粗掘りの後、褐色土とロームで平らに埋め戻され使用されており、45×31cm、厚さ3cmの範囲が赤く焼けていたほか、下部の構築土、地山のロームが熱を受けガサガサしていた。カマドの前面には62×51cm、深さ23cmの不整形の掘り込みが認められ、土層断面の状況から火床が作られた後に掘り込まれ、その後埋め戻されたものと考えられるが、どのような目的で掘り込まれたものかは不明である。

遺物はカマド付近と北西部から多く出土した。

出土遺物総数240点で、土師器・甕41、須恵器A・坏24、高台付坏2、甕4、不明2、須恵器B・坏70、高台付坏2、土師質土器・坏61、高台付坏1、壺2、高台付壺2、灰釉陶器・壺

5、緑釉陶器・壺1、男瓦4、女瓦17、鉄製品・釘1、鉄滓1、その他に礫16点が出土した。

S1586住居（図面81、53～56 図版86～88、25～27）

GD・GE15・16区に所在し、僧寺中軸線の北370～373m、西43～47mに位置する。S1587・SB166・SX180と重複し、ともに切っている。本跡は前記の遺構の覆土中に掘り込まれており、明確な住居の形状を捉えることが出来なかった。そのため土層断面等より形状を推定復元した。推定規模は東西2.3m、南北2.6mの長方形で、深さは16cm、壁下には周溝が圍繞していたと考えられる。覆土は明黒褐色土主体の自然堆積である。

カマドは壁の痕跡が明確でないため正確な位置は判然としないが、東壁南寄りに瓦を用いて半円形に構築されていたと考えられる。規模は、左壁構築材の女瓦や構築材（瓦）摺え付け痕と考えられる溝状の掘り込み等から考えて外幅60cm、奥行き72cmと推測される。火床は42×51cm、深さ7cmの楕円形に粗掘りした後、茶褐色土で平らに埋め戻して使用され、中央付近が25×19cm、厚さ4cmの範囲で赤く焼けていた。構築材には女瓦と白色粘土が用いられており、左袖の瓦は下部1/3が埋め込まれていた。また、奥壁、右側壁部分にも瓦が認められたが倒れたような状況で、カマドの廃棄時に壊され動いたものと推測される。火床中央には長さ11cm、幅8cm、厚さ6cmの川原石の下部1/4が埋め込まれ、直立した状態で認められたことから支脚として使用されたと考えられる。

遺物はカマド付近に集中しているほかは、散漫な分布状況を示している。

出土遺物総数162点で、土師器・坏10、高台付坏1、甕53、須恵器A・坏5、壺1、甕2、須恵器B・坏15、土師質土器・坏29、高台付坏1、灰釉陶器・坏4、緑釉陶器・壺1、宇瓦2、男瓦7、女瓦27、台石1、磨痕石3、その他に礫が2点出土した。

S1587住居（図面82・83、57 図版88・89）

GD・GE15～17区に所在し、僧寺中軸線の北370～373m、西45～49mに位置する。北西側でSI588・SB167、南側でSB165・SB166と重複し、切っている。また東側でS1586・SX180、北西側でSK2087・2088と重複し、切られている。規模は東壁が削平されていて明確ではないが東西推定4.1m、南北3.1mで、平面形は長方形を呈する。壁はほぼ垂直に立ち上がり、深さは14cmで、周溝は認められなかった。長軸方向は僧寺中軸より88°東偏している。覆土は明黒褐色土を主体とした自然堆積である。

カマドは北壁西寄りの壁を掘り込んで施設されていたが、SK2087・2088に大半が削平されており規模、形状は明確ではない。火床は床面より12cmほど窪んでおり、僅かに赤化した部分が認められた。主軸方向は僧寺中軸より8.5°東偏している。

床面下を精査したところ住居の床面と考えられる硬質面を確認したため、拡張前の住居をA期、拡張後の住居をB期として調査を実施した。

A期の住居の規模は東西3.4m、南北2.5mで、平面形は長方形を呈する。壁は上部の住居によって削平されていた。壁下には幅10～26cm、床面からの深さ4～6cmの周溝がカマド部分を除き圍繞していた。床面はローム直床で平らで、硬く締まっていた。

カマドは東壁ほぼ中央に壁を掘り込んで施設されていたが、上面がSI586もしくは拡張後の住居(B期)によって削平され、僅かに下部が遺存しているのみであった。火床は床面を5cm程粗掘りした後、暗茶褐色土で平らに埋め戻して使用されており、17×15cmの範囲が赤く焼けていた。主軸方向は僧寺中軸より115°東偏している。

拡張前住居(A期)の遺物については床面付近出土のもののみを本跡出土のものとしたため、出土量は少ない。

出土遺物総数24点で、土師器・坏2、甕3、須恵器A・坏3、須恵器B・坏4、土師質土器・坏6、灰釉陶器・碗5、女瓦1、その他に礫2点が出土した。

拡張後の住居(B期)は土坑等によって攪乱されているため遺物は少ないが、北西部付近に多く認められた。

出土遺物総数190点で、土師器・坏1、甕25、須恵器A・坏24、壺1、甕2、須恵器B・坏44、高台付坏3、土師質土器・坏73、高台付坏1、灰釉陶器・碗6、不明3、男瓦2、女瓦5、その他に礫が8点出土した。

SI588住居(図面83・84、57～59 図版89・90、27・28)

GE・GF16・17区に所在し、僧寺中軸線の北373～377m、西46～51mに位置する。SB167と重複し、切っている。また南東側でSI587、中央でSK2068と重複し、切られている。規模は東西4.0m、南北3.59mで、平面形は方形を呈する。壁はほぼ垂直に立ち上がり、深さは10cmである。南・西壁と東・北壁の一部の壁下には幅10～28cm、床面からの深さ8～14cmの周溝が認められた。床面は大半がローム直床で、一部粗掘りの後暗茶褐色で平らに埋め戻した貼床である。貼床は部分的に2枚確認され、住居の造り替えが成されたと考えられるが、拡張の痕跡は認められなかった。

カマドは東壁北寄りに壁を掘り込んで施設されているが、上部の大半が削平され、僅かに火床等が残存するのみであった。主軸方向は僧寺中軸より114°東偏している。

南東付近の床面から29×22cmの範囲で焼土が認められ、焼土の周囲が熱を受けガサガサしていることから炉と考えられる。

遺物は造り替え前住居の床面(A期)のものと、作り直し後の床面(B期)のものと区別して捉えた。

作り直し前住居の出土遺物総数は63点で、土師器・坏1、甕5、須恵器A・坏8、須恵器B・坏11、土師質土器・坏33、灰釉陶器・碗1、女瓦2、不明製製品1、不明1、その他に礫が3

点出土した。

造り替え後住居の遺物は中央付近に散漫に分布している。

出土遺物総数は187点で、土師器・坏4、甕22、須恵器A・坏10、甕4、須恵器B・坏22、土師質土器・坏74、高台付坏4、灰釉陶器・壺4、壺1、緑釉陶器・壺1、男瓦8、女瓦23、不明瓦2、鉄製品・刀子4、鉄滓2、不明鉄製品2、その他に礫が7点出土した。

S1589住居 (図面84・85、60 図版90・91、28)

GF・GG25・26区に所在し、僧寺中軸線の北375～378m、西73～77mに位置する。北、南壁の一部とカマドの大半が削平されている。規模は東西3.14m、南北3.12mで、平面形は方形を呈し、西・南壁で30～40cmの拡張が認められた。壁はほぼ垂直に立ち上がり、深さは24cmである。壁下には幅16～22cm、床面からの深さ14～21cmの周溝が西壁を除き認められた。床面はローム混じり暗茶褐色土で埋め戻して貼床を施し、ほぼ平らである。東壁の方向は僧寺中軸より12.5°東偏している。

カマドは東壁ほぼ中央に壁を掘り込んで施設されており、壁外への掘り込みは幅102cm、奥行き99cmの槽形で、煙道付近は完形の女瓦を芯材として暗茶褐色土を主体とした土で構築され、袖は左袖部分が長さ18cm、幅20cmほど白色粘土が主体で壁から作り出されていた。中央部分が攪乱により大きく削平されていた。火床部分は中央部分の攪乱により削平され認められなかった。覆土は明黒褐色土を主体とした自然堆積である。

床面下を精査した結果、西・南壁で拡張が認められたため拡張前の住居をA期、拡張後の住居(前述)をB期として調査を実施した。

拡張前の住居(A期)の規模は東西2.74m、南北2.75mで、平面形は方形を呈する。壁はほぼ垂直に立ち上がり、深さは24cmである。壁下には幅20cm、床面からの深さが14～21cmの周溝が東・北壁の一部を除き囲繞している。床面はローム混じり暗茶褐色土で貼床を施し、ほぼ平らである。

カマドは確認されなかったが、拡張後住居のカマドの前面に痕跡と考えられる掘り込みが認められることから、東壁に施設されていたと推測される。

遺物はカマド及びカマド前面南側から多く出土したほか、他の部分からも認められたが、多くは覆土上層からの出土である。

出土遺物総数43点で、土師器・甕7、須恵器A・坏13、甕1、須恵器B・坏6、土師質土器・坏8、男瓦5、女瓦2、磨痕石1、その他に礫2点が出土した。

S1590住居 (図面86、60 図版92)

GF・GG27・28区に所在し、僧寺中軸線の北375～378m、西81～84mに位置する。全体的に上部が削平されており遺存状況は良くない。確認規模は東西2.4m、南北2.54mで、平面形は方形

を呈する。壁はほぼ垂直に立ち上がり、深さは11cmである。壁下には幅12~40cm、床面からの深さが4~6cmの周溝が東壁の一部を除き圍繞している。床面はローム直床で、ほぼ平らである。主軸方向は僧寺中軸より97.5°東偏している。覆土は明黒褐色土を主体とした自然堆積と考えられる。

カマドは東壁中央や南寄りに壁を掘り込んで施設されていた。上部の大半が削平されており、火床部分の構築時の掘り込みが遺存しているのみである。掘り込みは83×75cmの不整形円で、深さは8cm、ローム主体の土で平らに埋め戻し、火床を造り出しており、その中央付近が51×43cm、厚さ5cmの範囲で赤く焼けていた。

カマドの北側に26×30cmの範囲で焼土が認められ、焼土の下部の床(地山)が熱を受けガサガサしていることから、その場で火を使用したものと考えられるが、焼土の性格に関しては、周溝が手前で止まっていることからカマドの火床の残存とも考えられるが断定はし難い。

遺物は壁際から散発的に出土した。多くは覆土下層からで、ほとんどが小片であった。

出土遺物総数34点で、須恵器A・坏5、甕1、須恵器B・坏4、土師質土器・坏17、男瓦2、女瓦5、その他に礫が5点出土した。

SI591住居(図面87、60 図版93、28)

GD・GE37・38区に所在し、僧寺中軸線の北359~372m、西110~114mに位置する。東壁の中央付近が大きく削平されている。規模は東西3.09m、南北2.75mで、平面形は長方形を呈する。壁はほぼ垂直に立ち上がり、深さは西壁が4cm、北壁が14cmである。周溝は東壁を除く壁下で認められ幅20cm、床面からの深さ14~21cmである。床面はローム混じりの褐色土で貼床が施され、ほぼ平らである。東壁の方向は僧寺中軸より12.5°東偏している。覆土は明黒褐色土を主体とした自然堆積である。

カマド等の火処は認められず、削平されている東壁に施設されていたものと推測される。床面中央付近で1.0×0.9mの範囲に焼土が認められたが床面が焼けた状況は認められず、性格は不明である。

床面下を精査した結果、東壁で拡張が認められたため拡張前の住居(A期)として調査を実施した。また、拡張後の住居(前述)はB期とした。

拡張前の住居(A期)規模は東西2.74m、南北2.75mで、平面形は方形を呈する。壁はほぼ垂直に立ち上がり、深さは西壁が6cm、東壁が24cmである。壁下には幅20cm、床面からの深さ14~21cmの周溝がカマド部分を除き圍繞している。床面はローム混じりの褐色土で貼床をし、ほぼ平らである。

カマドは南東隅に壁を掘り込んで施設されていたと推測されるが、大半が拡張後の住居によって削平されており、僅かに火床の構築土が残存しているのみである。主軸方向は僧寺中軸より

135° 東偏している。

遺物は南半部から散発的に出土し、多くは覆土下層から認められた。

出土遺物総数47点で、土師器・坏1、甕4、須恵器A・坏7、高台付坏1、甕1、須恵器B・坏14、高台付坏1、高台付甕1、土師質土器・坏11、灰釉陶器・甕1、高台付皿1、男瓦1、女瓦2、鉄製品・釘1、その他に炭化種子2、礫5点が出土した。

S1592住居 (図面88～90、61 図版94、29)

FS・FT37・38区に所在し、僧寺中軸線の北355～357m、西109～113mに位置する。西側でSI593、南西隅でSB162・SK2073と重複し、SI593に切られ、他は切っている。規模は東西3.3m、南北2.33mで、平面形はやや歪んだ長方形を呈する。壁はほぼ垂直に立ち上がり、深さは12cmである。壁下には幅12～16cm、床面からの深さが4～12cmの周溝がカマド周辺を除き圍繞している。床面はローム主体の土で貼床が施されており、ほぼ平らである。主軸方向は僧寺中軸より95° 東偏している。覆土は明黒褐色土主体の自然堆積である。

カマドは東壁中央やや南寄りに壁を掘り込んで施設されていた。壁外への掘り込みは幅62cm、奥行き38cmで、平面形は丸みを帯びた方形を呈する。火床は8cmほど楕円形に掘り込んだ後ロームブロックを主体とした暗茶褐色土で平らに埋め戻して使用され、47×41cm、厚さ9cmの範囲で赤く焼けていた。支脚、袖などは認められなかった。

遺物はカマド覆土から出土したほかは散発的に出土している。

出土遺物総数87点で、土師器・坏7、甕6、須恵器A・坏16、高台付坏2、甕2、須恵器B・坏24、土師質土器・坏20、高台付坏1、男瓦5、女瓦3、塀1、その他に礫が10点出土した。

S1593住居 (図面88～90、61・62 図版95、29)

FS・FT37～39区に所在し、僧寺中軸線の北356～359m、西111～115mに位置する。東側でSI592、南側でSB162、西側でP-1と重複し、SB162・SI592を切り、P-1に切られている。規模は東西3.24m、南北3.2mで、平面形は方形を呈する。壁はほぼ垂直に立ち上がり、深さは23cmである。壁下には幅10～20cm、床面からの深さが4～6cmの周溝が圍繞している。床面は中央と南西の一部が貼床であるほかはローム直床で、ほぼ平らである。主軸方向は僧寺中軸より67° 西偏している。覆土は明黒褐色土の自然堆積である。

カマドは東壁ほぼ中央に壁を掘り込んで施設されていた。壁外への掘り込みは幅約100cm、奥行き48cmの楕円形で、袖部は白色粘土を含む暗茶褐色土で構築されていた。袖は壁外への掘り込みの側壁から作り出され、右袖が長さ37cm、幅14cm、左袖は長さ27cm、幅15cm程遺存していた。火床は15cm程楕円形に掘り窪めた後ローム主体の土で床面より7cm程低く平らに埋め戻して使用され、その中央付近が41×27cm、厚さ3cmの範囲で赤く焼けていた。火床の中央やや奥には縄文時代のスタンプ形石器が直立した状態で出土したことから、支脚に使用されたもの

と考えられる。主軸方向は僧寺中軸より105°東偏している。

遺物はカマド南側付近から集中して出土したが、散漫な分布状況である。遺物数量は多いが、小片がほとんどである。

出土遺物総数218点で、土師器・坏9、甕28、須恵器A・坏15、甕4、不明1、須恵器B・坏32、高台付坏2、土師質土器・坏69、高台付坏2、高台付甕2、灰陶陶器・甕3、壺1、男瓦19、女瓦17、鉄製品・釘1、鉄滓1、不明鉄製品2、その他に礫32点が出土した。

S1594住居(図面91～93、63～65 図版95～98、29～31)

FR～FT41～43区に所在し、僧寺中軸線の北353～357m、西123～128mに位置する。本跡の覆土を掘り込んでSX159が重複している。規模は東西4.4m、南北3.58mで、平面形は長方形を呈する。壁は南壁西側が中程まで垂直に立ち上がった後、上部が大きく開きテラス状になっているほかは、ほぼ垂直である。深さ40cmで、壁下には幅26～42cm、床面からの深さ6～10cmの周溝が東壁下を除き圍繞している。床面は四隅を一段窪ませて粗掘りした後褐色土とロームを主体とした土で埋め戻し、貼床を施し、ほぼ平らで、中央付近、カマド周辺が硬く締まっていた。また貼床を除去したところ、中央付近で硬質部分が確認され、床面の作り替えが行われたものと考えられる。また、西・北壁付近の土層断面で周溝状の掘り込みが認められることから、住居の拡張が行われたと推測される。長軸方向は僧寺中軸より62°西偏している。覆土は明黒褐色土の自然堆積である。

カマドは東壁中央に壁を掘り込んで施設されていた。壁外への掘り込みは幅93cm、奥行き70cmの不整形円形である。火床は楕円形に粗掘りした後ローム主体の土で平らに埋め戻して作り出しており、その中央付近が68×47cm、厚さ7cmの範囲で赤く焼けていた。赤化部分の中央には長さ18cm、幅12cm、厚さ7cmの川原石の下半が埋め込まれ、直立した状態で確認されたことから、支脚と推測される。煙道は約25°で緩やかに立ち上がる。袖は削平されており確認できなかった。

カマドの両脇は、長さ60～80cm、幅33～37cm、深さ7～16cmの不整形長方形でテラス状に掘り込まれていた。この掘り込みがカマドに伴う施設であるかは断定し難いが、住居の何らかの施設であると推定される。主軸方向は僧寺中軸より112°東偏している。

南東隅には規模が38×43cmで、平面形が楕円形の小穴が認められた。断面は逆凸形で、深さは中央で31cmである。覆土は住居の覆土と同様であることから、生活時には開口していたと考えられ、位置、形状等から貯蔵穴と推測される。

遺物は概して壁寄りに多く、中央部に少ない。また、離れたものと接合する傾向が認められた。

出土遺物総数は257点で、土師器・坏5、甕42、台付甕5、須恵器A・坏49、甕2、須恵器

B・坏27、土師質土器・坏68、灰釉陶器・壺3、壺1、男瓦19、女瓦31、鉄製品・刀子1、不明鉄製品4、その他に炭化種子2、礫が40点出土した。

S1595住居(図面94、66 図版98・99、31・32)

GB・GC45・46区に所在し、僧寺中軸線の北363～366m、西135～137mに位置する。北西、南東部分が削平されており、規模は東西2.62m、南北3.4mで、平面形は丸味を帯びた長方形を呈する。壁はほぼ垂直に立ち上がり、深さは15cmである。壁下には幅17～24cm、床面からの深さが6～9cmの周溝がカマドの周辺を除き圍繞している。床面は粗掘りの後ローム主体の土で埋め戻し貼床されており、中央がやや低くなっているがほぼ平らである。長軸方向は東壁で僧寺中軸より22°東偏している。覆土は明黒褐色土主体の自然堆積である。

カマドは東壁中央から南寄りに壁を掘り込んで施設されていた。壁外への掘り込みは幅57cm、奥行き30cmの楕円形で、袖は右袖が褐色土を主体とした土で長さ30cm、幅17cm、高さ9cmほどで造り出し、火表部分に凸面を外側に向けて女瓦を据え付けていた。左袖は削平されて認められなかった。煙道は垂直に粗掘りした後埋め戻して緩やかに立ち上がる。火床は7cm程楕円形に粗掘りした後、ローム主体の土で平らに埋め戻して造り出してあり、その中央付近が37×22cm、厚さ5cmの範囲で赤く焼けていた。主軸方向は僧寺中軸より127.5°東偏している。

遺物は覆土中より土師器壺、土師質土器坏片が出土した。カマド内からは土師器壺、土師質土器高台付坏、女瓦等が出土し、瓦はカマド構築材として使用されていたものが廃棄時に投げ込まれたものと考えられる。

出土遺物総数46点で、土師器・壺13、須恵器A・坏2、須恵器B・坏8、高台付壺1、土師質土器・坏11、男瓦4、女瓦7点が出土した。

溝

SD325溝(図面95、67 図版100)

GP～GS26～41区に所在し、僧寺中軸線の北405～415m、西78～123mに位置する。本跡の西側は1・2次調査(431・446次調査)区にまたがって北西から南東方向に延びており、全長は45.2m、上面幅0.4～0.9m、底面幅0.25～0.55mで、深さは西側で16～24cm、東側で6～8cmと東に向かつてやや浅くなっている。断面形は逆台形で、主軸方向は僧寺中軸より80°西偏している。また、本跡の南脇には並行して小穴群が列を成すように延びているが、本跡と小穴群がどのような関係にあるか明確ではない。覆土は明黒褐色土を主体とした自然堆積である。

遺物は覆土中より男瓦1、女瓦2、礫1点が出土した。

SD326溝(図面96、67 図版101・102、32)

GQ～GS43～51区に所在し、僧寺中軸線の北410～414m、西128～151mに位置する。西側は削平されているほか、GR47区付近でSD327と重複し、切られている。全長23.1m、上面幅0.64～

1.38m、底面幅0.3~1.0m、深さ10~23cmで、ほぼ直線的に東西に延びる溝である。断面形は半円形で、主軸方向は僧寺中軸より82°西偏している。覆土は明黒褐色土を主体とした自然堆積である。

遺物は覆土中より須恵器A・B、土師質土器の完形の坏・高台付坏が各1点出土したほか、須恵器Aの坏5、甕1、B・坏2、男瓦2、女瓦1、礫6、焼礫4点が出土した。

SD327溝 (図面96、67 図版102・103)

GP~HH41~49区に所在し、僧寺中軸線の北405~442m、西123~147mに位置する。北側は調査区外(481次調査区)に延び、南端で削平を受けている。本跡は北から南に延び、GR43区付近で西に向きを変え、GR48区で再び南に曲がり、更にGP49区で僅かながら西に向きを変え、立ち上がる。GR47・48区付近でSD326、GQ-GR48区でSZ4と重複し、共に切っている。全長は51.36m、上面幅1.1~1.96m、底面幅0.6~1.5m、深さ10~20cmである。断面形は半円形で、東側の南北に延びる部分の主軸方向は僧寺中軸より17°東偏し、GR43~GR48区の東西部分は僧寺中軸と直交、GR48~GP49区の南北部分は25°東偏、南端部分で75°東偏している。覆土は明黒褐色土を主体とした自然堆積である。

遺物は覆土中より土師器・甕4、須恵器A・坏1、男瓦3、女瓦5、礫3点が出土した。

SD328溝 (図面98 図版104)

HB~HE48・49区に所在し、僧寺中軸線の北424~433m、西143~145mに位置する。中央付近が一部削平されている。全長は9.1m、上面幅0.4~1.2m、底面幅0.28~1.06m、深さ10cmの南北に延びる溝である。断面形は半円形で、主軸方向は僧寺中軸より20°東偏している。覆土は明黒褐色土を主体とした単層である。

SD336溝 (図面97 図版105・106)

GG・GH21~45区に所在し、僧寺中軸線の北379~383m、西61~135mに位置する。2次調査区と3次調査区にまたがり、所々途切れつつ東西に延びる溝で、確認延長74.14m、上面幅0.26~0.88m、底面幅0.12~0.58m、深さ4~13cmである。断面形は半円形で、主軸方向は僧寺中軸より82.5°西偏している。覆土は明黒褐色土を主体とした単層である。

土坑

SK1667土坑 (図面98、68 図版106)

GR17・18区に所在し、僧寺中軸線の北412・413m、西50~52mに位置する。上面規模は長軸1.45m、短軸1.16m、底面規模は長軸1.4m、短軸1.1mで、平面形は上面、底面ともに長方形を呈する。深さは20cmで、断面形は逆台形である。底面はIIIb層まで掘り込まれ、ほぼ平らである。主軸方向は僧寺中軸より85°西偏している。覆土は人為的な埋め戻しが認められる。

遺物は覆土上層より土師器・坏1、須恵器A・坏1、B・坏2、土師質土器・坏1点が出土

した。

SK1668土坑 (図面98 図版106)

HA・HR22・23区に所在し、僧寺中軸線の北422・423m、西66・67mに位置する。南側の一部が削平されている。上面規模は長軸0.97m、短軸0.93m、底面規模は長軸0.75m、短軸0.73mで、平面形は上面、底面ともに円形を呈する。深さは20cmで、断面形は逆台形である。底面はⅢb層まで掘り込まれ、南側に向かってやや低くなっている。主軸方向は僧寺中軸より6°東偏している。覆土は明黒褐色土主体で人為的な埋め戻しが考えられる。

SK1669土坑 (図面98、68 図版106)

HB・HC24区に所在し、僧寺中軸線の北425・426m、西70・71mに位置する。上面規模は長軸1.0m、短軸0.98m、底面規模は長軸0.86m、短軸0.82mで、平面形は上面、底面ともに不整形円形を呈する。深さは29cmで、断面形は逆台形である。底面はⅢb層まで掘り込まれ、ほぼ平らである。主軸方向は僧寺中軸より69°東偏している。覆土は明黒褐色土を主体とした自然堆積である。

遺物は覆土上層より土師器・坏1、土師質土器・坏1、女瓦3、台石1、不明1、礫3点が出土した。

SK1670土坑 (図面98、68 図版106)

HB24区に所在し、僧寺中軸線の北423・424m、西71・72mに位置する。上面規模は長軸0.94m、短軸0.85m、底面規模は径0.74mで、平面形は上面、底面ともに不整形円形を呈する。深さは15cmで、断面形は逆台形である。底面はⅢb層まで掘り込まれ、中央がやや高くなっているが、ほぼ平らである。覆土は明黒褐色土を主体とした自然堆積である。

遺物は覆土中層から下層にかけて土師器・坏2、須志器B・坏1、土師質土器2点、女瓦が出土した。

SK1671土坑 (図面98、68 図版107、32)

HR25区に所在し、僧寺中軸線の北424m、西75mに位置する。上面規模は長軸0.82m、短軸0.81m、底面規模は長軸0.68m、短軸0.67mで、平面形は上面が円形、底面が不整形円形を呈する。深さは24cmで、断面形は逆台形である。底面はⅢb層まで掘り込まれ、ほぼ平らである。主軸方向は僧寺中軸より35°東偏している。覆土は明黒褐色土を主体とした自然堆積である。

遺物は覆土上層から中層にかけて土師器の高台付坏、甕1、須志器A・坏1、甕1、土師質土器・坏3、女瓦1、礫1点が出土した。

SK1672土坑 (図面98、68 図版107)

HA26区に所在し、僧寺中軸線の北420・421m、西77・78mに位置する。北東部が削平されている。上面規模は長軸0.84m、短軸0.81m、底面規模は長軸0.74m、短軸0.68mで、平面形は不

整方形を呈する。深さは17cmで、断面形は逆台形である。底面はⅢb層まで掘り込まれ、ほぼ平らである。主軸方向は僧寺中軸より2°東偏している。覆土は明黒褐色土主体であるが、人為的な埋め戻しが認められる。

遺物は覆土上層から中層にかけて土師器・坏1、須恵器A・坏2、B・坏2点が出土した。

SK1673土坑 (図面99、68 図版107、32)

HC26・27区に所在し、僧寺中軸線の北426・427m、西78・79mに位置する。上面規模は長軸1.11m、短軸0.97m、底面規模は長軸0.54m、短軸0.48mで、平面形は上面、底面ともに楕円形を呈する。深さは36cmで、断面形は半円形である。底面はⅢc層まで掘り込まれている。上面の主軸方向は僧寺中軸より34°東偏し、底面の主軸方向は25°東偏している。覆土は明黒褐色土主体であるが、人為的な埋め戻しが認められる。

遺物は覆土上層から中層にかけて土師器・坏2、甕8、須恵器A・坏4、B・坏2、土師質土器・小皿1点、緑釉陶器の小壺のほか不明鉄製品が出土した。

SK1674土坑 (図面99、69 図版107)

HC27区に所在し、僧寺中軸線の北427・428m、西80mに位置する。上面規模は長軸1.09m、短軸0.9m、底面規模は長軸0.46m、短軸0.38mで、平面形は上面、底面ともに不整楕円形を呈する。深さは35cmで、断面形は半円形である。底面はⅢc層まで掘り込まれ、南側が一段浅くなっている。上面の主軸方向は僧寺中軸より10.6°東偏し、底面の主軸方向は僧寺中軸とほぼ同一である。覆土は明黒褐色土主体であるが、人為的な埋め戻しが認められる。

遺物は覆土上層より須恵器A・坏1、B・坏2、土師質土器・坏1、礫1点が出土した。

SK1675土坑 (図面99、69 図版108)

HG・HH30区に所在し、僧寺中軸線の北440・441m、西87～89mに位置する。上面規模は長辺1.14m、短辺1.11m、底面規模は長辺1.0m、短辺0.98mで、平面形は上面、底面ともに方形を呈する。深さは28cmで、断面形は逆台形である。底面はⅢb層まで掘り込まれ、ほぼ平らである。主軸方向は僧寺中軸より20°東偏している。覆土は明黒褐色土を主体とした自然堆積である。

遺物は覆土中層から下層にかけて土師器・坏6、甕2、須恵器A・坏3、B・坏3、土師質土器・高台付坏1、灰陶器・壺1、男瓦1、女瓦1点が出土した。

SK1676土坑 (図面99、69 図版108)

HD・HE34区に所在し、僧寺中軸線の北431・432m、西101～103mに位置する。西側が削平されており、上面規模は残存長辺1.22m、短辺0.92m、底面規模は残存長辺1.12m、短辺0.7mで、平面形は長方形を呈すると推測される。深さは25cmで、断面形は逆台形である。底面はⅢb層まで掘り込まれ、ほぼ平らである。主軸方向は僧寺中軸より77°西偏している。覆土は明黒褐

色土を主体とした自然堆積である。

遺物は覆土中より土師器の甕2、須恵器A・坏2、土師質土器・坏1、男瓦4、女瓦2、不明瓦1点が出土した。

SK1727土坑 (図面99、69 図版108)

HD34・35区に所在し、僧寺中軸線の北429・430m、西102・103mに位置する。上面規模は長辺1.18m、短辺0.95mで、平面形は長方形を呈する。深さは47cmである。底面はIV層まで掘り込まれ、凹凸が認められる。主軸方向は僧寺中軸より49°西偏している。覆土は明黒褐色土が主体であるが、人為的な埋め戻しが認められる。

遺物は覆土中より女瓦2点が出土した。

SK1728土坑 (図面99、70 図版108、32)

GT14・15区に所在し、僧寺中軸線の北419m、西42・43mに位置する。上面規模は長軸0.6m、短軸0.57m、底面規模は長軸0.24m、短軸0.22mで、平面形は上面、底面ともに不整形を呈する。深さは29cmで、断面形は逆台形である。底面はIIIb層まで掘り込まれ、ほぼ平らである。主軸方向は僧寺中軸より66°西偏している。覆土は明黒褐色土を主体とし、人為的な埋め戻しの感がある。

遺物は覆土中より土師質土器・坏1点が出土した。

SK1729土坑 (図面99 図版109)

HE25・26区に所在し、僧寺中軸線の北432・433m、西74～76mに位置する。上面規模は長軸1.18m、短軸0.93m、底面規模は長軸0.74m、短軸0.7mで、平面形は隅丸長方形を呈する。深さは59cmで、断面形は逆台形である。底面は北に向かってやや低くなっており、東壁際に径30cm、深さ6cmの小穴が1個認められた。主軸方向は僧寺中軸より46°東偏している。覆土は明黒褐色土主体で人為的な埋め戻しの感がある。

遺物は覆土中より土師器・坏1点が出土した。

SK1730土坑 (図面99)

GT・HA20区に所在し、僧寺中軸線の北418～420m、西61・62mに位置する。北側でP-614と重複し、切られている。上面規模は長軸1.18m、短軸1.13m、底面規模は長軸0.85m、短軸0.76mで、平面形は不整形を呈する。深さは38cmである。底面はIIIc層まで掘り込まれ、中央部分が溝状に低くなっている。上面の主軸方向は僧寺中軸より42°西偏し、底面の主軸方向は67°東偏している。覆土は明黒褐色土を主体とし、人為的な埋め戻しの感がある。

遺物は覆土中より礫1点が出土した。

SK1731土坑 (図面99、70)

HD28・29区に所在し、僧寺中軸線の北431m、西84・85mに位置する。南側の一部が削平され

ている。上面規模は長軸0.64m、短軸0.58m、底面規模は長軸0.58m、短軸0.53mで、平面形は上面、底面ともに不整形を呈する。深さは14cmで、断面形は逆台形である。底面はほぼ平らである。主軸方向は僧寺中軸より49°東偏している。覆土は明黒褐色土主体で人為的な埋め戻しの感がある。

遺物は覆土中より土師器・坏2、須恵器A・坏2、礫1点が出土した。

SK1732土坑 (図面100 図版109)

GR47区に所在し、僧寺中軸線の北411・412m、西138・139mに位置する。上面規模は長軸0.66m、短軸0.64m、底面規模は長軸0.5m、短軸0.44mで、平面形は上面が円形、底面は不整形を呈する。深さは19cmで、断面形は逆台形である。底面はⅢb層まで掘り込まれ、ほぼ平らである。主軸方向は僧寺中軸より15°西偏している。覆土は明黒褐色土を主体とした自然堆積である。

SK1734土坑 (図面100 図版109)

HF44区に所在し、僧寺中軸線の北435～437m、西130・131mに位置する。上面規模は長軸1.18m、短軸1.14m、底面規模は長軸0.77m、短軸0.66mで、平面形は上面が円形、底面が楕円形を呈する。深さは26cmで、断面形は半円形である。底面はⅢb層まで掘り込まれている。主軸方向は僧寺中軸より43°東偏している。覆土は明黒褐色土を主体とした自然堆積である。

遺物が礫1点が出土した。

SK1735土坑 (図面100)

GS46区に所在し、僧寺中軸線の北415m、西135・136mに位置する。東側でP-616と重複し、切られている。上面規模は長軸0.78m、短軸0.7mで、平面形は上面が方形、底面が不整形を呈する。深さは10cmである。主軸方向は僧寺中軸と同一である。覆土は明黒褐色土の単層である。

SK1736土坑 (図面100)

GQ43・44区に所在し、僧寺中軸線の北409m、西129・130mに位置する。上面規模は長軸0.87m、短軸0.46mで、平面形は楕円形を呈する。深さは41cmである。底面はⅣ層まで掘り込まれ、南に向かって低くなっている。主軸方向は僧寺中軸より42°西偏している。覆土は明黒褐色土が主体であるが、人為的な埋め戻しの感がある。

SK1739土坑 (図面100、70 図版110、32)

HA・HB41区に所在し、僧寺中軸線の北422～424m、西122・123mに位置する。上面規模は長軸2.13m、短軸0.72m、底面規模は長軸1.91m、短軸0.58mで、平面形は上面、底面ともに長楕円形を呈する。深さは24cmである。底面はⅢb層まで掘り込まれ、底面はほぼ平らである。主軸方向は僧寺中軸より6°東偏している。覆土は明黒褐色土を主体とした自然堆積である。

遺物は底面上より土師質土器の完形の坏が1点出土した。

SK1740土坑 (図面100)

GR40区に所在し、僧寺中軸線の北411・412m、西119・120mに位置する。北側でP-615と重複し、切られている。上面規模は長軸0.7m、短軸0.45mで、平面形は楕円形を呈する。主軸方向は僧寺中軸より2°西偏している。覆土は明黒褐色土を主体とした自然堆積である。

SK1742土坑 (図面100)

G037区に所在し、僧寺中軸線の北404m、西109mに位置する。上面規模は長軸0.61m、短軸0.51mで、平面形は円形を呈する。深さは35cmである。底面はIIIc層まで掘り込まれている。主軸方向は僧寺中軸より76°東偏している。覆土は明黒褐色土を主体とした自然堆積である。

SK1743土坑 (図面100、70 図版109)

HF36区に所在し、僧寺中軸線の北436m、西107・108mに位置する。上面規模は長軸0.96m、短軸0.8m、底面規模は長軸0.83m、短軸0.66mで、平面形は上面、底面ともに楕円形を呈する。深さは20cmで、断面形は逆台形である。底面は中央がやや低くなっているが、ほぼ平らである。主軸方向は僧寺中軸より74°西偏している。覆土は黒褐色土を主体とした自然堆積である。

遺物は覆土中より土師器・甕12、須恵器A・坏4、壺1、土師質土器・坏3、男瓦4、女瓦2、礫6点が出土した。

SK1744土坑 (図面100 図版109)

HA51・52区に所在し、僧寺中軸線の北421・422m、西153~155mに位置する。東側が削平されており、上面規模は長軸1.22m、短軸1.17m、底面規模は長軸1.06m、短軸1.04mで、平面形は上面、底面ともに円形を呈する。深さは28cmで断面形は逆台形である。底面はIIIb層下層まで掘り込まれ、ほぼ平らである。主軸方向は僧寺中軸より25°西偏している。覆土は明黒褐色土主体で人為的な埋め戻しの感がある。

SK1745土坑 (図面101)

HD29区に所在し、僧寺中軸線の北430・431m、西85~87mに位置する。東側の一部が削平されている。上面規模は長軸1.52m、短軸1.24mで、平面形は不整形を呈する。深さは54cmである。底面はIV層下層まで掘り込まれ、凹凸が認められる。主軸方向は僧寺中軸より32°東偏している。覆土は明黒褐色土が主体であるが、人為的な埋め戻しのような感がある。

SK1746土坑 (図面101)

GS31区に所在し、僧寺中軸線の北414・415m、西91・92mに位置する。上面規模は長軸1.14m、短軸1.04mで、平面形は不整形を呈する。深さは39cmである。底面はIV層まで掘り込まれ、凹凸が認められる。主軸方向は僧寺中軸より58°西偏している。覆土は明黒褐色土が主体である。

が、人為的な埋め戻しが認められる。

遺物は須恵器Aの小片が出土した。

SK1747土坑 (図面101、70)

HB24・25区に所在し、僧寺中軸線の北424・425m、西72・73mに位置する。上面規模は長軸0.63m、短軸0.58mで、平面形は円形を呈する。深さは17cmである。底面はⅢb層まで掘り込まれ、凹凸が認められる。主軸方向は僧寺中軸より87°西偏している。覆土は明黒褐色土主体で人為的な埋め戻しの感がある。

遺物は覆土中層より土師器・坏2、女瓦1点が出土した。

SK1748土坑 (図面101)

HB30区に所在し、僧寺中軸線の北424m、西89・90mに位置する。上面規模は長軸0.66m、短軸0.48m、底面規模は長軸0.22m、短軸0.21mで、平面形は上面、底面ともに楕円形を呈する。深さは17cmで、断面形は半円形である。主軸方向は僧寺中軸より25°東偏している。覆土は明黒褐色土主体で人為的な埋め戻しの感がある。

SK1749土坑 (図面101 図版109)

HI28・29区に所在し、僧寺中軸線の北444～446m、西83～85mに位置する。上面規模は一辺1.7mで、平面形は不整形を呈する。深さは70cmである。底面はVa層上面まで掘り込まれ、凹凸が認められる。主軸方向は僧寺中軸より25°東偏している。覆土は明黒褐色土が主体で、人為的な埋め戻しが認められる。

SK1914土坑 (図面101、70 図版111)

GJ-GK21・22区に所在し、僧寺中軸線の北389・390m、西63・64mに位置する。上面規模は長軸1.02m、短軸0.92m、底面規模は長軸0.88m、短軸0.8mで、平面形は上面、底面ともに円形を呈する。深さは15cmで、断面形は逆台形である。底面はほぼ平らである。主軸方向は僧寺中軸より20°東偏している。覆土は明黒褐色土を主体とした自然堆積である。

遺物は覆土中より土師器・甕1、不明1、女瓦1点が出土した。

SK1915土坑 (図面101 図版111)

GK22区に所在し、僧寺中軸線の北390・391m、西64・65mに位置する。南側の一部が削平されており、上面規模は長軸1.06m、短軸0.78mで、平面形は不整形を呈する。深さは58cmで、底面には凹凸がある。主軸方向は僧寺中軸より26°東偏している。覆土は明黒褐色土を主体とした自然堆積である。

SK1916土坑 (図面103)

GL26区に所在し、僧寺中軸線の北394・395m、西76～78mに位置する。上面規模は長軸1.62m、短軸1.2m、底面規模は長軸1.15m、短軸0.76mで、平面形は不整形を呈する。深さは

79cmである。底面には5個の小穴が認められたほか、凹凸が激しい。主軸方向は僧寺中軸より50°西偏している。覆土は明黒褐色土主体で、一部の小穴とは重複関係が存在する感も看取される。

遺物は炭化米が出土した。

SK1917土坑 (図面101、70 図版111、33)

G037・38区に所在し、僧寺中軸線の北402・403m、西111・112mに位置する。上面規模は長軸1.02m、短軸1.0m、底面規模は長軸0.76m、短軸0.74mで、平面形は上面、底面ともに円形を呈する。深さは45cmで、断面形は逆台形である。底面はほぼ平らである。主軸方向は僧寺中軸とほぼ同一である。覆土は明黒褐色土が主体で、全体にローム粒を多く含むほか、一部にロームブロックを含む層が認められることから、人為的な埋め戻しが成されたものと考えられる。

遺物は覆土中より須恵器A・坏1、土師質土器・坏3のほか焼礫2点が出土した。

SK1918土坑 (図面102、71・72 図版112～114、33・34)

G1・GJ29区に所在し、僧寺中軸線の北386～388m、西85～87mに位置する。西、北側の一部削平されている。上面規模は長軸2.2m、短軸1.58m、底面規模は長軸1.72m、短軸1.18mで、平面形は楕円形を呈する。深さは40cmで、断面形は逆台形である。底面には小穴が5個認められ、P-1は径38cm、深さ24cm、P-2は径64×52cm、深さ23cm、P-3は径32cm、深さ22cm、P-4は径34×30cm、深さ35cm、P-5は径44×27cm、深さ26cm、P-6は径34×39cm、深さ38cmである。また底面の中央付近は、焼土は認められなかったが、熱を受けガサガサしたような状況であった。主軸方向は僧寺中軸より65°西偏している。覆土は上層が明黒褐色土、下層が茶褐色土を主体とし、全体に焼土粒が含まれ、下層の一部の層は焼土を多量に含む層が認められた。また上層には炭化物が含まれていた。これらの状況から人為的な埋め戻しが成されたものと考えられる。

遺物は覆土中層から須恵器A・坏12、高台付壺1、広口壺1、土師質土器・坏1、高台付坏1などがほぼ完形で出土した。この他に須恵器A・坏2、長頸壺1、甕1、土師質土器13、女瓦4点と炭化米が出土した。出土状況から人為的に投棄されたものと考えられる。

SK1919土坑 (図面103)

GJ・GK26・27区に所在し、僧寺中軸線の北389～391m、西78・79mに位置する。東・南側の一部が削平されている。上面規模は残存長軸1.7m、短軸1.36m、底面規模は残存長軸1.28m、短軸1.12mで、平面形は上面、底面ともに不整楕円形を呈する。深さは45cmで、断面形は逆台形である。底面は東に向かってやや低くなっている。主軸方向は僧寺中軸より15°東偏している。覆土は明黒褐色土を主体とした自然堆積である。

遺物は女瓦が1点出土した。

SK1920土坑 (図面103、73 図版111)

GK27区に所在し、僧寺中軸線の北391・392m、西81・82mに位置する。南西側の一部が削平されている。上面規模は残存長軸1.16m、短軸1.1m、底面規模は残存長軸1.0m、短軸0.9mで、平面形は上面、底面ともに円形を呈する。深さは25cmで、断面形は逆台形である。底面はほぼ平らである。主軸方向は僧寺中軸より65°東偏している。覆土は明黒褐色土を主体とした自然堆積である。

遺物は覆土中より須恵器A・甕1点が出土した。

SK1921土坑 (図面103 図版115)

GJ・GK30区に所在し、僧寺中軸線の北388・389m、西89mに位置する。底面の一部が攪乱を受けている。上面規模は長軸1.2m、短軸0.98m、底面規模は長軸0.96m、短軸0.5mで、平面形は上面、底面ともに隅丸長方形を呈する。深さは20cmで、断面形は半円形である。主軸方向は僧寺中軸より19°東偏している。覆土は明黒褐色土を主体とした自然堆積である。

SK1922土坑 (図面103、73 図版115)

GJ32・33区に所在し、僧寺中軸線の北388・389m、西96・97mに位置する。上面規模は長軸1.02m、短軸0.98m、底面規模は長軸0.82m、短軸0.76mで、平面形は上面、底面ともに円形を呈する。深さは15cmで、断面形は逆台形である。底面はほぼ平らである。主軸方向は僧寺中軸より22°東偏している。覆土は明黒褐色土を主体とし、僅かではあるが暗茶褐色土ブロックを含んでいる。

遺物は覆土中より土師質土器・坏1点が出土した。

SK1923土坑 (図面103 図版115)

GN・G034区に所在し、僧寺中軸線の北401・402m、西101・102mに位置する。西側の一部が削平されている。上面規模は長軸1.16m、残存短軸0.98m、底面規模は長軸0.82m、残存短軸0.8mで、平面形は上面、底面ともに円形を呈すると推測される。深さは30cmで、断面形は逆台形である。底面はほぼ平らである。主軸方向は僧寺中軸より26°西偏している。覆土は明黒褐色土主体で、一部に暗茶褐色土を含む層が認められることから、人為的な埋め戻しも推測される。

SK1926土坑 (図面103 図版115)

GG・GH36区に所在し、僧寺中軸線の北379～381m、西106・107mに位置する。上面規模は長軸1.08m、短軸1.06m、底面規模は長軸0.9m、短軸0.86mで、平面形は上面、底面ともに円形を呈する。深さは17cmで、断面形は逆台形である。底面はほぼ平らである。主軸方向は僧寺中軸より7°西偏している。覆土は明黒褐色土主体でローム粒、暗茶褐色土を含む層が認められることから、人為的な埋め戻しも推測される。

遺物は土師質土器が1点出土した。

SK1927土坑 (図面103 図版116)

GK33区に所在し、僧寺中軸線の北387・388m、西98・99mに位置する。上面規模は長軸1.05m、短軸0.96m、底面規模は長軸0.9m、短軸0.76mで、平面形は上面、底面ともに円形を呈する。深さは23cmで、断面形は逆台形である。底面はほぼ平らである。主軸方向は僧寺中軸より45°東偏している。覆土は明黒褐色土を主体とした自然堆積である。

SK1928土坑 (図面104 図版116)

G137区に所在し、僧寺中軸線の北384・385m、西110・111mに位置する。上面規模は長軸1.1m、短軸1.06m、底面規模は長軸0.96m、短軸0.88mで、平面形は上面、底面ともに円形を呈する。深さは9cmで、断面形は逆台形である。底面はほぼ平らである。主軸方向は僧寺中軸より41°西偏している。覆土は明黒褐色土を主体とした自然堆積である。

SK1929土坑 (図面104、73 図版116)

GH37区に所在し、僧寺中軸線の北382・383m、西109・110mに位置する。上面規模は長軸0.98m、短軸0.92m、底面規模は長軸0.84m、短軸0.8mで、平面形は上面、底面ともに円形を呈する。深さは43cmで、底面は凹凸が認められる。主軸方向は僧寺中軸より29°東偏している。覆土は明黒褐色土主体で全体に僅かではあるが暗茶褐色土ブロックを含んでいる。

遺物は覆土中より土師器・甕1、土師質土器1、男瓦1、女瓦1点が出土した。

SK1930土坑 (図面104 図版116)

GF・GG42・43区に所在し、僧寺中軸線の北377・378m、西126・127mに位置する。上面規模は長軸1.56m、短軸0.98m、底面規模は長軸1.4m、短軸0.86mで、平面形は上面、底面ともに不整長方形を呈する。深さは17cmで、断面形は逆台形である。底面はほぼ平らである。主軸方向は僧寺中軸より88°西偏している。覆土は明黒褐色土主体の単層である。

SK2059土坑 (図面104、73 図版117)

GB30区に所在し、僧寺中軸線の北363・364m、西89・90mに位置する。西側の一部が削平されている。上面規模は径1.24m、底面規模は長軸1.12m、短軸1.09mで、平面形は上面、底面ともに円形を呈する。深さは25cmで、断面形は逆台形である。上面の主軸方向は僧寺中軸より85°西偏し、底面の主軸方向は80°西偏している。覆土は明黒褐色土を主体とした自然堆積である。

遺物は覆土中より須恵器A・坏1点が出土した。

SK2060土坑 (図面104、73 図版117、34)

GA44・45区に所在し、僧寺中軸線の北360m、西135・136mに位置する。上面規模は長軸0.63m、短軸0.59m、底面規模は長軸0.28m、短軸0.27mで、平面形は円形を呈する。深さは17cm

で、断面形は半円形である。主軸方向は僧寺中軸より40°西偏している。覆土は明黒褐色土を主体とし、人為的な埋め戻しが認められる。

遺物は須恵器の甕が1個体分割された状況で出土したほか、同壺片、女瓦1片が出土した。甕は大形の破片が底面上に認められ、その上に破片が乗せられたような状況で出土し、完形のもので土圧で潰れた状況とは異なっていた。甕内より須恵器B・坏3、土師質土器・坏1、灰軸陶器・甕1点の小片が出土した。

SK2061土坑 (図面104、73 図版117)

GD40・41区に所在し、僧寺中軸線の北370・371m、西120・121mに位置する。南側が削平されている。上面規模は残存長軸1.08m、短軸0.99m、底面規模は径0.76mで、平面形は円形を呈すると推測される。深さは60cmで、断面形は逆台形である。主軸方向は僧寺中軸より23°西偏している。覆土は明黒褐色土を主体とした自然堆積である。

遺物は土師器・坏1、須恵器A・坏3、B・坏3、女瓦2、罎1点出土した。

SK2062土坑 (図面104、74 図版117、35)

GF30区に所在し、僧寺中軸線の北376・377m、西90mに位置する。上面規模は長軸0.79m、短軸0.66m、底面規模は長軸0.5m、短軸0.41mで、平面形は上面、底面ともに楕円形を呈する。深さは19cmで、断面形は逆台形である。主軸方向は僧寺中軸より38°東偏している。覆土は明黒褐色土を主体とした自然堆積である。

遺物は覆土中より須恵器A・甕2、B・坏1、土師質土器・坏1、男瓦2、女瓦4、焼礫2点出土した。

SK2063土坑 (図面104、75 図版118、35)

FR・FS44区に所在し、僧寺中軸線の北353・354m、西130mに位置する。上面規模は長軸0.8m、短軸0.73m、底面規模は長軸0.56m、短軸0.55mで、平面形は上面、底面ともに楕円形を呈する。深さは45cmで、断面形は逆台形である。底面は平らで、南東の壁際には径17×20cm、深さ10cmの小穴が1個確認された。上面の主軸方向は僧寺中軸より55°東偏し、底面の主軸方向は60°西偏している。覆土は一部人為的な埋め戻しが認められるが、全体としては明黒褐色土を主体とした自然堆積である。

遺物は覆土中より土師器・甕2、須恵器A・坏9、壺1、B・坏10、高台付坏1、土師質土器・坏6、灰軸陶器・甕1、女瓦3、焼礫2点出土した。

SK2064土坑 (図面104 図版118)

FT39区に所在し、僧寺中軸線の北358・359m、西117mに位置する。上面規模は長軸0.9m、短軸0.82m、底面規模は長軸0.76m、短軸0.72mで、平面形は上面、底面ともに円形を呈する。深さは15cmで、断面形は逆台形である。主軸方向は僧寺中軸より20°東偏している。覆土は明

黒褐色土を主体とした自然堆積である。

SK2065土坑 (図面105 図版118)

GE・GF35・36区に所在し、僧寺中軸線の北374・375m、西105～107mに位置する。上面規模は長辺1.43m、短辺0.97m、底面規模は長辺1.28m、短辺0.84mで、平面形は上面、底面ともに長方形を呈する。深さは23cmで、断面形は逆台形である。底面は平らである。主軸方向は僧寺中軸より85°東偏している。覆土は明黒褐色土を主体とした自然堆積である。

遺物は土師器・坏1、須恵器A・坏1、B・坏2点が出土した。

SK2066土坑 (図面105 図版118)

GC35区に所在し、僧寺中軸線の北366・367m、西103・104mに位置する。P-46と重複している。上面規模は長辺1.46m、短辺0.92m、底面規模は長辺1.28m、短辺0.62mで、平面形は上面、底面ともに長方形を呈する。深さは15cmで、断面形は逆台形である。底面は平らである。主軸方向は僧寺中軸より87.5°東偏している。覆土は明黒褐色土を主体とした自然堆積である。

SK2067土坑 (図面105 図版118・119)

GA35区に所在し、僧寺中軸線の北360・361m、西103・104mに位置する。上面規模は長軸0.9m、短軸0.79m、底面規模は長軸0.64m、短軸0.43mで、平面形は上面、底面ともに楕円形を呈する。深さは37cmで、断面形は逆台形である。底面は平らである。主軸方向は僧寺中軸より44°西偏している。覆土は明黒褐色土を主体とした自然堆積である。

SK2068土坑 (図面105、75 図版119、35・36)

GF16・17区に所在し、僧寺中軸線の北375・376m、西48・49mに位置する。SI588の床面で確認され、住居を切っている。上面規模は長軸1.04m、短軸1.02m、底面規模は長軸0.68m、短軸0.58mで、平面形は上面が不整形、底面が長方形を呈する。深さは68cmで、断面形は逆台形である。主軸方向は僧寺中軸より85°西偏している。覆土は一部人為的な埋め戻しが認められるが、全体としては明黒褐色土を主体とした自然堆積である。

遺物は覆土中より土師器・坏5、甕4、須恵器A・甕1、B・坏9、土師質土器・坏31、高台付坏1、女瓦4、鉄製品・釘2、鉄滓が3、その他に炭化種子1点が出土した。

SK2069土坑 (図面105、76 図版119)

GE17区に所在し、僧寺中軸線の北372・373m、西50mに位置する。上面規模は長軸0.9m、短軸0.86mで、平面形は円形を呈する。深さは48cmで、断面形は半円形である。主軸方向は僧寺中軸より22.5°東偏している。覆土は黒褐色土を主体とした自然堆積である。

遺物は覆土中より須恵器B・坏1、土師質土器・坏3、男瓦1、女瓦1、台石1、環1点が出土した。

SK2070土坑 (図面105、76 図版119)

GD16・17区に所在し、僧寺中軸線の北370・371m、西48・49mに位置する。SI587の床面で確認され、住居を切っている。またSK2071と重複している。上面の残存規模は径0.8m、底面規模は長軸0.38m、短軸0.34mで、平面形は上面、底面ともに円形を呈する。深さは45cmで、断面形は逆台形である。主軸方向は僧寺中軸より69°東偏している。覆土は人為的な埋め戻しが認められる。

遺物は覆土中より土師器・坏4、須恵器A・坏3、男瓦1点が出土した。

SK2071土坑 (図面105、76 図版119)

GD16区に所在し、僧寺中軸線北371m、西47・48mに位置する。SI587の床面で確認され、住居を切っている。またSK2070と重複している。上面の残存規模は長軸0.69m、短軸0.5m、底面規模は長軸0.5m、短軸0.33mで、平面形は上面、底面ともに楕円形を呈する。深さは13cmで、断面形は逆台形である。上面の主軸方向は僧寺中軸より6°西偏し、底面の主軸方向は30°西偏している。覆土は黒褐色土を主体とした自然堆積である。

遺物は覆土中より土師質土器・坏2点が出土した。

SK2072土坑 (図面105、76 図版120)

GE16区に所在し、僧寺中軸線の北372・373m、西47mに位置する。SI587の床面で確認され、住居を切っている。上面規模は長軸0.72m、短軸0.7m、底面規模は長軸0.3m、短軸0.2mで、平面形は上面が円形、底面が楕円形を呈する。深さは21cmで、断面形は逆台形である。覆土は人為的な埋め戻しが認められた。

遺物は覆土中より土師器・坏2、須恵器A・坏1、B・坏2、土師質土器・坏3、女瓦1点が出土した。

SK2073土坑 (図面105、76 図版120)

FS38区に所在し、僧寺中軸線の北355m、西112・113mに位置する。SI587・592、SB162と重複し、切られている。上面の残存規模は長軸0.82m、短軸0.63m、底面規模は残存長軸0.26m、短軸0.25mで、平面形は楕円形を呈すると推測される。深さは23cmで、断面形は逆台形である。覆土は明黒褐色土を主体とした自然堆積である。

遺物は土師質土器・坏2点が出土した。

SK2074土坑 (図面106)

FT・GA28区に所在し、僧寺中軸線の北359・360m、西84mに位置する。上面規模は長軸0.96m、短軸0.61m、底面規模は長軸0.78m、短軸0.45mで、平面形は上面、底面ともに楕円形を呈する。深さは7cmで、断面形は逆台形である。主軸方向は僧寺中軸より3.5°西偏している。覆土は黒褐色土を主体とした自然堆積である。

SK2075土坑 (図面106 図版120)

GG32区に所在し、僧寺中軸線の北378・379m、西95・96mに位置する。東側が削平されており、上面規模は長軸0.86m、残存短軸0.79m、底面規模は長軸0.53m、短軸0.52mで、平面形は上面、底面ともに円形を呈する。深さは12cmで、断面形は逆台形である。上面の主軸方向は僧寺中軸より26°西偏し、底面の主軸方向は65°東偏している。覆土は明黒褐色土を主体とした自然堆積である。

SK2076土坑 (図面106、76 図版120)

GB31・32区に所在し、僧寺中軸線の北363～365m、西93・94mに位置する。上面規模は長軸1.38m、短軸0.98m、底面規模は長軸1.17m、短軸0.46mで、平面形は上面、底面ともに隅丸長方形を呈する。深さは20cmで、断面形は逆台形である。主軸方向は僧寺中軸と同一である。覆土は明黒褐色土を主体とした自然堆積である。

遺物は覆土中より須恵器B・坏1、土師質土器・坏2、女瓦1点が出土した。

SK2077土坑 (図面106)

GA31区に所在し、僧寺中軸線の北360・361m、西92・93mに位置する。上面規模は長軸1.0m、短軸0.67m、底面規模は長軸0.77m、短軸0.36mで、平面形は上面、底面ともに楕円形を呈する。深さは21cmで、断面形は逆台形である。底面は平らで、北西隅の壁際に径29×24cm、深さ4cmの小穴が1個認められた。主軸方向は僧寺中軸より3°東偏している。覆土は明黒褐色土を主体とした自然堆積である。

SK2078土坑 (図面106、76 図版120、36)

FT・GA29・30区に所在し、僧寺中軸線の北359～361m、西87・88mに位置する。P-64と重複している。上面規模は長軸1.2m、短軸1.15m、底面規模は長軸0.97m、短軸0.94mで、平面形は上面、底面ともに円形を呈する。深さは21cmで、断面形は逆台形である。上面の主軸方向は僧寺中軸より67°西偏し、底面の主軸方向は35°東偏している。覆土は明黒褐色土を主体とした自然堆積である。

遺物は覆土中より土師器・甕2、須恵器A・壺1点が出土した。

SK2079土坑 (図面106)

GA29区に所在し、僧寺中軸線の北361・362m、西85・86mに位置する。東側が削平されており、上面規模は長軸1.46m、残存短軸0.7m、底面規模は長軸1.24m、残存短軸0.63mで、平面形は上面、底面ともに楕円形を呈する。深さは17cmで、断面形は逆台形である。主軸方向は僧寺中軸より9°西偏している。覆土は明黒褐色土を主体とした自然堆積である。

遺物は土師器・坏2点が出土した。

SK2080土坑 (図面106 図版120)

GE・GF30区に所在し、僧寺中軸線の北374・375m、西88・89mに位置する。東、西側が削平さ

れており、上面規模は長軸0.75m、残存短軸0.7m、底面規模は長軸0.3m、短軸0.24mで、平面形は上面、底面ともに円形を呈する。深さは29cmで、断面形は逆台形である。上面の主軸方向は僧寺中軸より7°東偏し、底面の主軸方向は6°西偏している。覆土は明黒褐色土を主体とした自然堆積である。

SK2081土坑 (図面106 図版121)

GE17区に所在し、僧寺中軸線の北372m、西50・51mに位置する。上面規模は長軸0.96m、短軸0.63m、底面規模は長軸0.66m、短軸0.39mで、平面形は上面が不整楕円形、底面が楕円形を呈する。深さは19cmで、断面形は逆台形である。主軸方向は僧寺中軸より81°東偏している。覆土は明黒褐色土を主体とした自然堆積である。

SK2082土坑 (図面106 図版121)

GC18区に所在し、僧寺中軸線の北367・368m、西52・53mに位置する。南側が削平されており、上面規模は残存長軸0.72m、短軸0.96m、底面規模は長軸0.45m、短軸0.36mで、平面形は上面、底面とも楕円形を呈する。深さは10cmで、断面形は逆台形である。上面の主軸方向は僧寺中軸より11°西偏し、底面の主軸方向は5°西偏している。覆土は明黒褐色土を主体とした自然堆積である。

SK2083土坑 (図面107、76 図版121)

GB16・17区に所在し、僧寺中軸線の北364・365m、西48・49mに位置する。上面規模は長軸1.02m、短軸0.94m、底面規模は長軸0.75m、短軸0.65mで、平面形は上面、底面ともに円形を呈する。深さは31cmで、断面形は逆台形である。主軸方向は僧寺中軸より43°東偏している。覆土は明黒褐色土を主体とした自然堆積である。

遺物は土師器・甕6、須恵器A・坏1、B・坏3、土師質土器・坏1、灰釉陶器・碗1、男瓦1、焼礫1点が出土した。

SK2084土坑 (図面107)

GB16区に所在し、僧寺中軸線の北365m、西46・47mに位置する。上面規模は長軸0.81m、短軸0.75m、底面規模は長軸0.54m、短軸0.43mで、平面形は上面が楕円形、底面が不整形を呈する。深さは12cmで、断面形は逆台形である。主軸方向は僧寺中軸より27°東偏している。覆土は明黒褐色土を主体とした自然堆積である。

SK2085土坑 (図面107、77)

GD・GE15区に所在し、僧寺中軸線の北371・372m、西46mに位置する。S1587の床面から確認された。上面規模は長軸0.68m、短軸0.54m、底面規模は長軸0.36m、短軸0.24mで、平面形は不整楕円形を呈する。深さは21cmで、断面形は逆台形である。主軸方向は僧寺中軸より45°西偏している。覆土は人為的な埋め戻しが認められる。

遺物は覆土中より須恵器B・坏2点が出土した。

SK2086土坑 (図面107、77 図版121)

GF・GG15区に所在し、僧寺中軸線の北377・378m、西44mに位置する。SI585の床面から確認され、上面が削平されている。確認された上面規模は長軸0.82m、短軸0.64m、底面規模は長軸0.36m、短軸0.33mで、平面形は楕円形を呈する。深さは59cmで、断面形は逆台形である。上面の主軸方向は僧寺中軸より11°西偏し、底面の主軸方向は20°西偏している。覆土は明黒褐色土を主体とした自然堆積である。

遺物は覆土中より土師器・甕2、須恵器・甕1、土師質土器・坏1、男瓦1、女瓦1点が出土した。

SK2087土坑 (図面107、77 図版121、36)

GE16区に所在し、僧寺中軸線の北373m、西47・48mに位置する。SI588、SK2088と重複し、共に切っている。上面の残存規模は長軸0.69m、短軸0.64m、底面規模は長軸0.4m、短軸0.27mで、平面形は円形を呈すると推測される。深さは30cmで、断面形は逆台形である。上面の主軸方向は僧寺中軸より32°東偏し、底面の主軸方向は54°西偏している。覆土は明黒褐色土を主体とした自然堆積である。

遺物は覆土中より土師器・甕3、須恵器A・坏3、高台付坏1、甕3、B・坏10、土師質土器25、灰軸陶器・埴6、男瓦5、女瓦3、鉄製品・刀子1、釘2、鉄洋1、不明鉄製品2点、その他に炭化種子が出土した。

SK2088土坑 (図面107、77 図版36)

GE16区に所在し、僧寺中軸線の北373・374m、西48mに位置する。SI588、SK2087、P-143と重複し、SI588、P-143を切り、SK2087に切られている。上面規模は残存長軸1.24m、短軸0.5m、底面規模は残存長軸1.16m、短軸0.39mで、平面形は上面が長方形、底面は隅丸長方形を呈すると推測される。深さは18cmで、断面形は逆台形である。主軸方向は僧寺中軸より69.5°西偏している。覆土は明黒褐色土を主体とした自然堆積である。

遺物は覆土中より土師質土器・坏1、高台付坏1、灰軸陶器・皿1、男瓦1点が出土した。

SK2089土坑 (図面107、77 図版121)

GF16区に所在し、僧寺中軸線の北375・376m、西47・48mに位置する。SI588、SB167と重複し、切られている。上面規模は長軸0.82m、短軸0.8m、底面規模は長軸0.52m、短軸0.49mで、平面形は上面が楕円形、底面が不整形を呈する。深さは12cmで、断面形は逆台形である。上面の主軸方向は僧寺中軸より68°西偏し、底面の主軸方向は89°東偏している。覆土は人為的な埋め戻しが認められる。

遺物は覆土中より須恵器B・坏2点が出土した。

性格不明遺構

SX159性格不明遺構 (図面108、78 図版125・126、36)

FS42区に所在し、僧寺中軸線の北355・356m、西124～126mに位置する。本跡はSI594の覆土を掘り込んで作られている。上面規模は長軸2.86m、短軸1.41m、底面規模は長軸2.69m、短軸1.22mで、平面形は上面、底面ともに不整形円形を呈する。底面はSI594の床面まで平らに掘り込まれ、さらに中央付近と東端が一段深く掘り込まれてVa層上面まで達している。深さは住居の床面までで40cm、中央付近の最深部が82cmである。主軸方向は僧寺中軸より85°西偏し、覆土は黒褐色土主体で、一部の断面(A-A')から2基の土坑が重複した感が見受けられるが、他の部分では明確でなく重複の有無は判断し難い。

遺物は覆土中より土師器・甕7、須恵器A・坏10、埴1、高台付坏1、B・坏5、土師質土器・坏21、男瓦4、女瓦5、不明瓦1、礫1、焼礫5点が出土した。

SX160性格不明遺構 (図面82、78 図版126)

GD・GE15区に所在し、僧寺中軸線の北369～373m、西43～45mに位置する。SI586・587、SB166と重複し、両住居に切られている。規模は東西推定1.6m、南北3.88mで、平面形は不整形長方形を呈すると推測される。壁はほぼ垂直に立ち上がり、深さは20cmである。底面は一部粗掘りの後茶褐色土で平らに埋め戻され、上部が住居の床面と同様硬く締まった部分が認められた。火処は認められなかった。

遺物は覆土中より土師器・坏3、甕6、須恵器A・坏1、B・坏3、土師質土器・坏12、男瓦1、女瓦2、不明瓦3点が出土した。

SX162性格不明遺構 (図面108 図版126)

GC・GD14・15区に所在し、僧寺中軸線の北366～369m、西41～43mに位置する。東、南側の一部が削平されている。東西2.0m、南北2.27m、平面形は不整形で、掘り込み内に硬質土ブロックが含まれていた。掘り込みは浅く3～5cm前後で、その中には7個の小穴が認められた。

墓

SZ3火葬墓 (図面109、78 図版122)

HE52区に所在し、僧寺中軸線の北433m、西154mに位置する。土師器甕を骨蔵器とした火葬墓で、上部の大半が削平されており、下部が僅かに遺存しているのみであった。確認された掘り込みは、規模が東西51cm、南北48cmの円形、深さ5cmで、その中央やや北側に倒立した状態で埋納された土師器甕の口辺部分が認められ、甕の外側には炭化物が充填されており、内側からは炭化物に混じって僅かながら骨片が検出された。

遺物は骨蔵器として使用された土師器甕の口辺部分が出土した。

SZ4地下式土墳墓 (図面109、78 図版123、36・37)

GQ・GR48区に所在し、僧寺中軸線の北410・411m、西143～144mに位置する。上部はやや削平されているほか、底面に攪乱が数か所認められた。規模は上面が東西0.6m、南北1.21mの隅丸長方形で、深さ54cmである。東壁は奥行き24cm、底面からの高さ18～25cm程挟り込まれており、所謂「L字蓋」、「側壁挟り込み土坑」と推測される。西壁はほぼ垂直、もしくはやや外傾して立ち上がり、底面はほぼ平らである。覆土は明黒褐色土主体で、ロームブロック、暗茶褐色土ブロックを含む層が認められ、人為的な埋め戻しが行われていた。

遺物は側壁挟り込み部分の南隅の底面上に、逆位にした完形の須恵器蓋(図面78-15)の上に同坏(図面78-13)が重ねられた状態で出土したほか、それらの北脇から完形の須恵器碗(図面78-14)が側壁に立てかけられたような状態で出土した。

SZ5土壙墓(図面109、78 図版124、37)

GL・GM24・25区に所在し、僧寺中軸線の北397～399m、西72・73mに位置する。上面規模は長軸2.73m、短軸1.03m、底面規模は長軸1.96m、短軸0.6mで、平面形は上面、底面ともに楕円形を呈する。深さは53cmで、断面形は逆台形である。底面はほぼ平らである。主軸方向は僧寺中軸より7.5°西偏している。覆土は明黒褐色土主体で、各層にはロームブロック、暗茶褐色土ブロックが含まれ、人為的な埋め戻しがなされている。

遺物は底面中央やや西壁より鉄製刀子が1点のほか、中央やや南寄りの西壁際と東壁際から須恵器Aの完形の皿(図面78-17)とB・坏(図面78-16)が各1点出土した。これらはほぼ底面直上からの出土である。

小穴(図面46、79～83 図版127、37)

1次～3次調査の総計で1230個が確認された。これらは、列・群を形成する傾向が見られ、5地区で6列の小穴列が認められた。1次調査区東端のGS～HM14～20区付近(僧寺中軸線北416～458m付近、西42～62m付近)の範囲では総数414個の小穴が南北方向に延びる2条の列を形成し、東側の列は僧寺中軸より39°東偏、西側のものは27°東偏している。1次調査区西側のSD326に沿う形で東西に延びるものは総数31個の小穴で形成され、僧寺中軸より83°西偏し、1・2次調査区にまたがって延びるSD325に沿う形で東西方向に延びるものは総数222個の小穴で形成され、僧寺中軸より78°西偏している。1～3次調査区西端のFS～GR42～45区付近(僧寺中軸線北355～413m付近、西124～135m付近)を南北に延びるものは総数201個の小穴で形成され、僧寺中軸より7°東偏している。また2次調査区中央付近のGE～GP25～27区(僧寺中軸線北374～407m、西75～80m)を南北に延びるものは総数37個の小穴で形成され、僧寺中軸より7°東偏している。また、3次調査区S1588付近のGE～GH15～19区(僧寺中軸線北373～382m付近、西45～55m付近)には58個の小穴が認められ、一群を形成しており、掘立柱建物の可能性も考えられたが、明確な柱の並びが認められなかった。

6列確認された小穴列がどのような性格を持つものか、また、SD325のように小穴群に沿うように掘られた溝との関係など、明確ではないが、これらの在り方をみるとコ字状になる箇所が認められることから、区面をなすという推測も出来るが現段階では断定はし難い。

覆土は明黒褐色土を主体としたもので、住居などの覆土と比較し、やや締まりがないものが多く認められた。

遺物は1次調査では、P-156から土師器・坏、P-163・337・362・405・485から土師器・甕、P-7から土師器・不明、P-390・485から須恵器A・坏、P-74から須恵器A・壺、P-157・161・269・489から須恵器A・甕、P-75・238・546から須恵器B・坏、P-338から須恵器B・高台付坏、P-14から土師質土器・坏、P-170土師質土器・高台付坏、P-338灰軸陶器・壺、P-272灰軸陶器・壺、P-361、灰軸陶器・甕、P-131・180・210・349・362・371・390・398・495・512・613から男瓦、P-3・139・148・164・280・347・399・478・485・488・489・502から女瓦、P-165から磚、P-335から鉄製鈴が、P-75・111・165・170・216・230・495から礫が出土した。

2次調査では、P-200から土師器・甕14、須恵器A・坏1、須恵器B・坏4、土師質土器・坏1、女瓦4点が、P-210から須恵器B・坏1、土師質土器・坏3点、P-289から須恵器A・坏2、男瓦1、女瓦1点、P-290から土師器・甕1、須恵器B・坏3、礫1点、が出土。その他ではP-349土師器・坏、P-151・266・303から土師器・甕、P-348から土師器・不明、P-97・120・123・192・297から須恵器A・坏、P-129・259・262から須恵器A・壺、P-107・132・133・135・155・301から須恵器B・坏、P-173・303から須恵器B・高台付坏、P-134・192・312・317・351から土師質土器・坏、P-211から土師質土器・高台付坏が、P-348から土器不明、P-86・120・157・268から男瓦が、P-18・20・110・122・126・132・134・179・258・259・262・268・269から女瓦、P-165から磚、P-75・96・111・121・151・165・170・173・216・220・230・243・262・271・330・495から礫が出土した。

3次調査では、P-44から土師器・甕2、須恵器A・B坏各1点、P-97須恵器B・坏1、土師質土器・坏2点、P-37・147から土師器・甕、P-56・110から須恵器A・坏、P-37・44から須恵器B・坏、P-25・103・124・141から土師質土器・坏、P-88から土師質土器・高台付坏、P-131から灰軸陶器・壺、P-147から宇瓦、P-110・147から男瓦、P-78・147から女瓦、P-124から鉄滓2点、P-37・43・95から焼礫が出土した。

(3) 縄文時代の調査

竪穴住居

S1604J住居 (図面111・112、88・89 図版135～138、39)

GC～GE19～21区に所在し、僧寺中軸線の北368～374m、西57～62mに位置する。全体を確認

し得たのはⅢb層中層の下部で、南側は確認の段階で削平され、南壁の一部を確認したのみである。上面規模は東西5.24m、南北5.56mで、平面形はやや丸みを帯びた四角長方形を呈する。壁はほぼ垂直に立ち上がり、深さは確認面より10cmである。床面は粗掘りの後茶褐色土で平らに埋め戻して床としており、炉の周辺は締まっていたが、壁際はやや軟弱であった。床面からは20個の小穴が認められ、P-2・4・6・12・14・17・19~21の9個が深さ30cmを超え、位置などから柱穴と考えられる。

埋焼炉は住居ほぼ中央で認められ、東西74cm、南北83cm、深さ12cmの楕円形の掘り方の中央から北側を35×54cm、深さ13cm程を更に掘り窪め、底部を打ち欠いた深鉢を中央に、その北脇に深鉢の上半部を打ち欠いた土器を埋設し、中央の深鉢の上部が8cm程露出する程度まで埋め戻して使用していた。炉体土器内部からは炭化物、焼土はほとんど認められなかったが、北側の炉体土器周辺には焼土が認められたほか、土器下部の土は熱を受けガサガサした状況であった。

遺物は炉体土器2点のほか細文土器片77、黒曜石の調整剥片石器5、磨石2、剥片5、砂片3、石核1点が出土した。時期は炉体土器の深鉢により五領ヶ台式期と考えられる。

土坑

SK1753J土坑 (図面113 図版139)

HC42区に所在し、僧寺中軸線の北426・427m、西124・125mに位置する。上面規模は長軸1.0m、短軸0.98m、底面規模は長軸0.78m、短軸0.76mを測り、平面形は上面、底面ともに四角長方形を呈する。確認面はⅢb層で、Ⅲc層まで掘り込まれており、深さは35cmである。断面形は逆台形で、底面はほぼ平らである。主軸方向は僧寺中軸と同一である。覆土は暗茶褐色土主体の自然堆積である。

SK1754J土坑 (図面113 図版139)

HC49区に所在し、僧寺中軸線の北438・439m、西146・147mに位置する。上面規模は長軸0.8m、短軸0.58m、底面規模は長軸0.28m、短軸0.26mを測り、平面形は上面が楕円形、底面が不整楕円形を呈する。深さは48cmで、断面形は逆台形である。底面はⅣ層下層まで掘り込まれている。主軸方向は僧寺中軸より25°西偏している。覆土は茶褐色土主体で、形状から倒木痕と考えられる。

SK1755J土坑 (図面113 図版139)

HE・HF48区に所在し、僧寺中軸線の北434~436m、西142・143mに位置する。上面規模は長軸1.12m、短軸0.8m、底面規模は長軸0.7m、短軸0.26mを測り、平面形は上面が不整楕円形、底面が楕円形を呈する。確認面はⅢb層で、Ⅳ層上層まで掘り込まれている。深さは23cmで、断面形は半円形である。主軸方向は僧寺中軸より16°西偏している。覆土は暗茶褐色土主体の

自然堆積である。

SK1756J土坑 (図面113 図版139)

HE・HF51区に所在し、僧寺中軸線の北434・435m、西151～153mに位置する。上面規模は長軸2.12m、短軸1.12m、底面規模は長軸1.38m、短軸の中央で0.44m、北側で0.5mを測り、平面形は上面が楕円形、底面は中央がややくびれた長方形を呈する。深さは115cmで、断面形は上半がやや開く逆台形である。底面はVb層上面まで掘り込まれ、平らである。上面の主軸方向は僧寺中軸より41°東偏し、底面の主軸方向は56°東偏している。覆土は上層が暗茶褐色土主体の自然堆積で、下層はロームを多量に含む層が一部に認められることから人為的な埋め戻しが成されたものと推測される。形状から陥穴と考えられる。

SK1757J土坑 (図面113 図版139)

GR50区に所在し、僧寺中軸線の北412・413m、西148・149mに位置する。上面規模は長軸0.97m、短軸0.74m、底面規模は長軸0.29m、短軸0.22mを測り、平面形は上面、底面ともに楕円形を呈する。深さは32cmで、断面形は半円形である。底面はIV層まで掘り込まれている。上面の主軸方向は僧寺中軸より68°東偏し、底面の主軸方向は46°西偏している。覆土は暗茶褐色土主体で、やや層に乱れが認められるが自然堆積と考えられる。

SK1758J土坑 (図面113 図版139)

GQ・GR44・45区に所在し、僧寺中軸線の北410～412m、西132～134mに位置する。南側でPJ-35と重複している。上面規模は長軸2.26m、短軸2.04mを測り、平面形は不整形を呈する。深さは46cmで、底面はVa層まで掘り込まれ、凹凸が認められる。主軸方向は僧寺中軸より10°西偏している。覆土は上層が暗茶褐色土、下層が茶褐色土主体で、形状から倒木痕と考えられる。

SK1759J土坑 (図面113)

GR44・45区に所在し、僧寺中軸線の北412・413m、西132・133mに位置する。上面規模は長軸1.06m、短軸0.83m、底面規模は径0.46mを測り、平面形は上面が楕円形、底面が円形を呈する。深さは28cmで、断面形は半円形である。底面はIV層まで掘り込まれ、主軸方向は僧寺中軸より30°東偏している。覆土は暗茶褐色土主体の自然堆積である。

SK1760J土坑 (図面113 図版139)

HE46区に所在し、僧寺中軸線の北432・433m、西136・137mに位置する。上面規模は長軸0.92m、短軸0.67m、底面規模は長軸0.36m、短軸0.19mを測り、平面形は上面、底面ともに楕円形を呈する。深さは26cmで、断面形は半円形である。底面はIV層まで掘り込まれ、主軸方向は僧寺中軸より35°東偏している。覆土は茶褐色土主体の自然堆積である。

SK1761J土坑 (図面114 図版139)

HC43・44区に所在し、僧寺中軸線の北427・428m、西129・130mに位置する。上面規模は長軸0.84m、短軸0.76m、底面規模は長軸0.4m、短軸0.36mを測り、平面形は上面、底面ともに円形を呈する。深さは19cmで、断面形は半円形である。底面はIV層まで掘り込まれている。主軸方向は僧寺中軸より44°東偏している。覆土は暗茶褐色土主体の自然堆積である。

SK1762J土坑 (図面114 図版140)

HB48・49区に所在し、僧寺中軸線の北423・424m、西144～146mに位置する。上面規模は長軸1.82m、短軸1.13m、底面規模は長軸0.67m、短軸0.46mを測り、平面形は楕円形を呈する。深さは46cmで、底面はIV層まで掘り込まれ、東側が浅く、西側が一段深くなっている。主軸方向は僧寺中軸より83°西偏している。覆土は暗茶褐色土主体の自然堆積である。

SK1763J土坑 (図面114 図版140)

HA48・49区に所在し、僧寺中軸線の北421・422m、西147・148mに位置する。上面規模は長軸1.18m、短軸0.9m、底面規模は長軸1.38m、最大短軸0.43m、最小短軸0.34mを測り、平面形は上面が長楕円形、底面は楕円形を呈する。深さは147.5cmで、断面形は上部がやや開く逆台形である。底面はVb層まで掘り込まれ、南に向かってやや低くなっている。長軸上には径8cm、深さ26～28cmの小穴2個が認められ、棒状痕と考えられる。主軸方向は僧寺中軸より25°西偏している。覆土は上層が暗茶褐色土主体の自然堆積であるが、下層は一部にロームブロックを含む層が認められることから、人為的な埋め戻しが成されたものと考えられる。形状から陥穴と考えられる。

SK1764J土坑 (図面114 図版140)

HG40・41区に所在し、僧寺中軸線の北439・440m、西119～121mに位置する。上面規模は長軸1.83m、短軸1.4m、底面規模は長軸0.94m、短軸0.67mを測り、平面形は上面が不整楕円形、底面が長方形を呈する。深さは84cmで、断面形は上半が大きく開く逆台形である。底面はVa層中層まで掘り込まれ、中央がやや低くなっている。上面の主軸方向は僧寺中軸より68°東偏し、底面の主軸方向は47°東偏している。覆土は上層が暗茶褐色土主体の自然堆積であるが、下層はロームを多く含む人為的な埋め戻しが成されたものと考えられる。形状から陥穴と考えられる。

SK1765J土坑 (図面114、89 図版140、40)

GQ・GR47区に所在し、僧寺中軸線の北410・411m、西139・140mに位置する。SK1766Jと重複し、切っている。上面規模は長軸1.3m、短軸0.8m、底面規模は長軸0.85m、短軸0.38mを測り、平面形は上面が楕円形、底面が長方形を呈する。深さは101cmで、断面形は逆台形である。底面はVb層まで掘り込まれ、平らである。主軸方向は僧寺中軸より57°西偏している。覆土は上層が暗茶褐色土主体の自然堆積で、下層はロームを多く含む層が認められ、人為的な埋め戻し

が成されたものと考えられる。形状から陥穴と考えられる。

遺物は覆土中より縄文土器・深鉢片1、磨石1点が出土した。

SK1766J土坑(図面114 図版140)

GQ47区に所在し、僧寺中軸線の北409・410m、西139・140mに位置する。SK1765Jと重複し、切られている。上面規模は残存長軸1.0m、短軸1.02m、底面規模は一辺0.3mを測り、平面形は上面、底面ともに楕円形を呈すると推測される。深さは47cmで、断面形は半円形である。底面はVa層上層まで掘り込まれ、ほぼ平らである。主軸方向は僧寺中軸より33°西偏している。覆土は茶褐色土主体の自然堆積である。

SK1767J土坑(図面114)

HA39区に所在し、僧寺中軸線の北421・422m、西116mに位置する。PJ-77と重複し、切られている。上面規模は長軸1.16m、短軸0.77m、底面規模は長軸0.53m、短軸0.45mを測り、平面形は上面、底面ともに楕円形を呈する。深さは30cmで、断面形は逆凸形である。底面はIV層下層まで掘り込まれている。主軸方向は僧寺中軸より17°西偏している。覆土は暗茶褐色土主体の自然堆積である。

SK1768J土坑(図面114、89 図版141、40)

GQ39・40区に所在し、僧寺中軸線の北408m、西117・118mに位置する。上面規模は長軸0.78m、短軸0.74m、底面規模は長軸0.52m、短軸0.48mを測り、平面形は上面が円形、底面が不整形円形を呈する。深さは41cmで、断面形は逆台形である。底面はVa層上層まで掘り込まれ、ほぼ平らである。主軸方向は僧寺中軸より42°西偏している。覆土は暗茶褐色土主体の自然堆積である。

遺物は覆土中より縄文土器の深鉢片が1点出土した。時期は縄文時代中期後半の加留利E式期と考えられる。

SK1769J土坑(図面115 図版141)

GR38・39区に所在し、僧寺中軸線の北412・413m、西113～115mに位置する。上面規模は長軸2.32m、短軸0.97m、底面規模は長軸0.67mを測り、平面形は長楕円形を呈する。深さは43cmである。底面はIV層下層まで掘り込まれ、西に向かって低くなっている。主軸方向は僧寺中軸より59°東偏している。覆土は茶褐色土主体で、層に乱れが認められる。

SK1770J土坑(図面115 図版141)

GP・GQ37区に所在し、僧寺中軸線の北405～410m、西110・111mに位置する。北側でPJ-476、南側でPJ-477と重複し、PJ-476に切れ、PJ-477を切っている。上面規模は長軸4.36m、短軸1.73mを測り、平面形は長楕円形を呈する。深さは54cmで、底面はVa層まで掘り込まれ、凹凸が認められる。主軸方向は僧寺中軸より16°東偏している。覆土は暗茶褐色土主体の自然堆

積である。

遺物は礫が2点出土した。

SK1777J土坑 (図面115 図版141)

GQ・GR37区に所在し、僧寺中軸線の北410・411m、西110・111mに位置する。上面規模は長軸0.86m、短軸0.77m、底面規模は長軸0.69m、短軸0.48mを測り、平面形は上面が楕円形、底面が不整楕円形を呈する。深さは18cmで、断面形は半円形である。底面はIV層まで掘り込まれ、中央がやや低くなっている。主軸方向は僧寺中軸より44°西偏している。覆土は茶褐色土主体の自然堆積である。

遺物は礫が1点出土した。

SK1778J土坑 (図面115 図版141)

HB36・37区に所在し、僧寺中軸線の北423～425m、西107～109mに位置する。上面規模は長軸1.38m、短軸0.96m、底面規模は長軸0.7m、短軸0.6mを測り、平面形は上面、底面ともに不整楕円形を呈する。深さは25cmで、断面形は半円形である。底面はIV層まで掘り込まれており、東に向かってやや低くなっている。上面の主軸方向は僧寺中軸より68°西偏し、底面の主軸方向は36°西偏している。覆土は茶褐色土主体で層に乱れが認められることから人為的な埋め戻しと考えられる。

SK1779J土坑 (図面115 図版141)

HA・HB36区に所在し、僧寺中軸線の北422・423m、西106・107mに位置する。上面規模は長軸0.88m、短軸0.6m、底面規模は長軸0.46m、短軸0.22mを測り、平面形は上面、底面ともに楕円形を呈する。深さは27cmで、断面形は半円形である。底面はIV層まで掘り込まれ、東に向かって低くなっている。主軸方向は僧寺中軸より46°東偏している。覆土は茶褐色土主体の自然堆積である。

SK1780J土坑 (図面115)

GO・GP36区に所在し、僧寺中軸線の北404・405m、西106・107mに位置する。上面規模は長軸1.1m、短軸0.92m、底面規模は一辺0.13mを測り、平面形は不整円形を呈する。深さは82cmで、断面形は長軸でV字状である。底面はVb層上層まで掘り込まれている。主軸方向は僧寺中軸より43°西偏している。覆土は暗茶褐色土主体で、やや層に乱れが認められるが自然堆積であると考えられる。

SK1781J土坑 (図面116 図版142)

GP48区に所在し、僧寺中軸線の北405～407m、西143・144mに位置する。北側でPJ・105と重複し、切られている。上面規模は残存長軸2.14m、短軸1.18m、底面規模は残存長軸1.79m、短軸0.86mを測り、平面形は上面、底面ともに楕円形を呈する。深さは28cmで、断面形は逆台

形である。底面はIV層上層まで掘り込まれ、ほぼ平らである。主軸方向は僧寺中軸より6°西偏している。覆土は暗茶褐色土主体の自然堆積である。

SK1782J土坑 (図面115 図版142)

GR34・35区に所在し、僧寺中軸線の北411~413m、西102~104mに位置する。上面規模は長軸2.18m、短軸0.81m、底面規模は長軸1.46m、短軸0.36mを測り、平面形は上面、底面ともに長楕円形を呈する。深さは27cmで、断面形は半円形である。底面はIV層まで掘り込まれ、南に向かってやや低くなっている。主軸方向は僧寺中軸より32°東偏している。覆土は暗茶褐色土主体の自然堆積である。

SK1783J土坑 (図面116 図版142)

HA・HB34区に所在し、僧寺中軸線の北422・423m、西101・102mに位置する。上面規模は長軸1.5m、短軸0.54m、底面規模は長軸1.6m、最大短軸0.45m、最小短軸0.34mを測り、平面形は上面が隅丸長方形、底面は楕円形を呈する。深さは116cmで、底面はVb層上面まで掘り込まれ、平らである。底面の長軸上に径7~15cm、深さ30~33cmの小穴が2個認められ、棒状痕と考えられる。断面形は長軸方向が袋形で、短軸方向は上部が開く逆台形である。主軸方向は僧寺中軸より9°東偏している。覆土は上層が暗茶褐色土主体の自然堆積であるが、下層は一部にロームブロックを多く含む層が認められ、人為的な埋め戻しが成されたものと考えられる。形状から陥穴と考えられる。

SK1784J土坑 (図面116)

HD34区に所在し、僧寺中軸線の北430・431m、西101・102mに位置する。西側でPJ-148と重複している。上面規模は長軸1.09m、短軸0.9m、底面規模は長軸0.3m、短軸0.26mを測り、平面形は不整形を呈する。深さは27cmで、底面はVa層まで掘り込まれている。主軸方向は僧寺中軸より34°東偏している。覆土は茶褐色土主体の自然堆積である。

遺物は覆土中から礫1点が出土した。

SK1785J土坑 (図面116 図版143)

HI31・32区に所在し、僧寺中軸線の北444・445m、西93~95mに位置する。上面規模は長軸1.22m、短軸1.05m、底面規模は長軸0.46m、短軸0.39mを測り、平面形は円形を呈する。深さは42cmで、底面はVa層まで掘り込まれている。上面の主軸方向は僧寺中軸より77°東偏し、底面の主軸方向は32°東偏している。覆土は茶褐色土主体で、一部層の乱れが認められるが、おおむね自然堆積と考えられる。

SK1786J土坑 (図面116 図版143)

HI32区に所在し、僧寺中軸線の北441・442m、西94・95mに位置する。上面規模は長軸1.12m、短軸1.0mを測り、平面形は不整形を呈する。深さは41cmである。底面は凹凸が認められ、

Va層まで掘り込まれている。主軸方向は僧寺中軸と同一である。覆土は茶褐色土主体で、形状から倒木痕と考えられる。

SK1787J土坑 (図面116 図版143)

GT32区に所在し、僧寺中軸線の417・418m、西94・96mに位置する。上面規模は長軸1.2m、短軸1.15m、底面規模は長軸0.36m、短軸0.29mを測り、平面形は円形を呈する。深さは44cmで、断面形は半円形である。底面はVa層上面まで掘り込まれている。主軸方向は僧寺中軸より28°東偏している。覆土は上層が暗茶褐色土、下層が茶褐色土主体の自然堆積である。

SK1788J土坑 (図面116 図版143)

GQ・GR29区に所在し、僧寺中軸線の北410・411m、西85～87mに位置する。中央部分でPJ・471と重複し、切られている。上面規模は長軸1.57m、短軸1.1m、底面規模は長軸1.0mを測り、平面形は上面が楕円形、底面が不整楕円形を呈する。深さは41cmで、断面形は半円形である。底面はIV層下層まで掘り込まれている。主軸方向は僧寺中軸より21°東偏している。覆土は茶褐色土主体の自然堆積である。

SK1789J土坑 (図面117 図版143)

HB29・30区に所在し、僧寺中軸線の北423～425m、西87・88mに位置する。上面規模は長軸1.68m、短軸1.16m、底面規模は径0.42mを測り、平面形は上面が楕円形、底面が円形を呈する。深さは35cmで、壁の立ち上がりは階段状になっている。底面はVa層上層まで掘り込まれている。主軸方向は僧寺中軸より68°東偏している。覆土は暗茶褐色土主体の自然堆積である。

SK1790J土坑 (図面117 図版143)

HF・HG30・31区に所在し、僧寺中軸線の北437～439m、西90・91mに位置する。北側の一部が削平されている。上面規模は長軸1.6m、短軸1.06m、底面規模は長軸1.26m、短軸0.52mを測り、平面形は上面が楕円形、底面が長方形を呈する。深さは88cmで、断面形は逆台形である。底面はVb層上層まで掘り込まれ、平らである。主軸方向は僧寺中軸より8°東偏している。覆土は上層が暗茶褐色土主体の自然堆積で、下層は一部にロームを多く含む層が認められることから人為的な埋め戻しが成されたものと考えられる。形状から陥穴と考えられる。

SK1791J土坑 (図面117 図版143)

HF27区に所在し、僧寺中軸線の北435・436m、西79～81mに位置する。上面規模は長軸1.38m、短軸1.33m、底面規模は長軸0.85m、短軸0.57mを測り、平面形は上面が不整楕円形、底面が楕円形を呈する。深さは47cmで、断面形は逆台形である。底面はVa層上層まで掘り込まれ、ほぼ平らである。主軸方向は僧寺中軸より43°西偏している。覆土は褐色土主体で、やや層に乱れが認められる。

SK1792J土坑 (図面117)

HI29・30区に所在し、僧寺中軸線の北445・446m、西87・88mに位置する。上面規模は長軸1.16m、短軸0.9mを測り、平面形は楕円形を呈する。深さは48cmである。底面はVa層上層まで掘り込まれ、中央と北壁際には小穴状の窪みが認められる。主軸方向は僧寺中軸より7°西偏している。覆土は茶褐色土主体で、層に乱れが認められる。形状から倒木痕と考えられる。

SK1793J土坑 (図面117)

GS・GT26区に所在し、僧寺中軸線の北416・417m、西77・78mに位置する。上面規模は長軸0.88m、短軸0.82mを測り、平面形は円形を呈する。深さは26cmである。底面はIV層中層まで掘り込まれ、凹凸が認められる。主軸方向は僧寺中軸より42°東偏している。覆土は茶褐色土主体で、形状から倒木痕と考えられる。

SK1794J土坑 (図面118 図版143)

HH～HJ24・25区に所在し、僧寺中軸線の北443～447m、西71～75mに位置する。上面規模は長軸4.3m、短軸4.06mを測り、平面形は不整形を呈する。深さは86cmで、底面はVa層下層まで掘り込まれており、凹凸が認められる。主軸方向は僧寺中軸より56°東偏している。覆土は暗茶褐色土主体でロームブロックが各層に含まれ、層に乱れが認められる。形状から倒木痕と考えられる。

SK1795J土坑 (図面116)

HD23区に所在し、僧寺中軸線の北429・430m、西68・69mに位置する。上面規模は長軸1.14m、短軸1.04mを測り、平面形は不整形円形を呈する。深さは26cmで、底面はIV層下層まで掘り込まれ、凹凸が認められる。主軸方向は僧寺中軸より83°東偏している。覆土は暗茶褐色土主体で、形状から倒木痕と考えられる。

SK1796J土坑 (図面117)

GQ21区に所在し、僧寺中軸線の北409・410m、西61～63mに位置する。上面規模は長軸1.34m、短軸0.94mを測り、平面形は不整形楕円形を呈する。深さは31cmで、底面はIV層下層まで掘り込まれ、凹凸が認められる。主軸方向は僧寺中軸より60°西偏している。覆土は茶褐色土主体で、形状から倒木痕と考えられる。

SK1797J土坑 (図面117 図版144)

HC21区に所在し、僧寺中軸線の北426・427m、西62・63mに位置する。上面規模は長軸1.14m、短軸0.6m、底面規模は長軸0.85m、短軸0.24mを測り、平面形は上面、底面ともに長方形を呈する。深さは132cmで、断面形は逆台形である。底面はVb層中層まで掘り込まれ、平らで、長軸上に径9～15cm、深さ31～46cmの小穴が2個認められ、棒状痕と考えられる。主軸方向は僧寺中軸より47°西偏している。覆土はおおむね暗茶褐色土主体の自然堆積であるが、壁際の層と最下層でロームを多く含む層が認められ、一部で人為的な埋め戻しが成されたものと考え

られる。形状から陥穴と考えられる。

SK1798J土坑 (図面118 図版144)

HG21区に所在し、僧寺中軸線の北438・439m、西62・63mに位置する。上面規模は長軸1.9m、短軸0.94mを測り、平面形は不整楕円形を呈する。深さは31cmで、断面形は半円形である。底面はIV層まで掘り込まれている。主軸方向は僧寺中軸より5°東偏している。覆土は暗茶褐色土主体の自然堆積である。

SK1800J土坑 (図面118 図版144)

HD20・21区に所在し、僧寺中軸線の北430・431m、西60・61mに位置する。中央部分でPJ-615と重複し、切られている。上面規模は長軸1.28m、短軸0.98m、底面規模は長軸0.74m、短軸0.44mを測り、平面形は上面、底面ともに楕円形を呈する。深さは35cmで、断面形は長軸で上部が開く逆台形である。底面はやや北に向かって低くなっているがほぼ平らで、Va層まで掘り込まれている。上面の主軸方向は僧寺中軸と同一で、底面の主軸方向は8°東偏している。覆土は暗茶褐色土主体の自然堆積である。

SK1801J土坑 (図面119 図版144・145)

GT19区に所在し、僧寺中軸線の北417～419m、西55・56mに位置する。上面規模は長軸1.93m、短軸0.5m、底面規模は長軸1.74m、短軸は最大0.61m、最小0.42mを測り、平面形は長楕円形、底面形は楕形を呈する。深さは119cmで、断面形は逆台形である。底面はVb層下層まで掘り込まれ、ほぼ平らである。主軸方向は僧寺中軸より31°西偏している。覆土は暗茶褐色土主体で、上層が自然堆積であるが中層から下層一部でロームを多く含む層が認められることから、人為的な埋め戻しが成されたものと考えられる。形状から陥穴と考えられる。

SK1802J土坑 (図面118 図版145)

HB17区に所在し、僧寺中軸線の北423・424m、西49・50mに位置する。上面規模は長軸1.25m、短軸1.2m、底面規模は一辺0.78mを測り、平面形は上面、底面ともに不整円形を呈する。深さは44cmで、断面形は逆台形である。底面はVa層中層まで掘り込まれ、ほぼ平らで、中央付近に径30cm、深さ6cmの小穴が1個認められた。主軸方向は僧寺中軸より44°西偏している。覆土は茶褐色土主体で、層にやや乱れが認められ、人為的な埋め戻しが推測される。

SK1803J土坑 (図面119 図版145)

HF16区に所在し、僧寺中軸線の北436・437m、西47・48mに位置する。上面規模は長軸1.1m、短軸0.84m、底面規模は長軸0.82m、短軸0.43mを測り、平面形は上面が長方形、底面が不整楕円形を呈する。深さは28cmで、断面形は逆台形である。底面はVa層上面まで掘り込まれ、ほぼ平らで、中央付近に径27cm、深さ12cmの小穴が1個認められた。主軸方向は僧寺中軸より59°東偏している。覆土は茶褐色土主体の自然堆積である。

SK1804J土坑 (図面119 図版145)

HE15・16区に所在し、僧寺中軸線の北433・434m、西44～46mに位置する。上面規模は長軸1.62m、短軸1.08m、底面規模は長軸0.69m、短軸0.5mを測り、平面形は上面が不整形、底面が楕円形を呈する。深さは32cmで、断面形は半円形である。底面はVa層上層まで掘り込まれ、ほぼ平らである。上面の主軸方向は僧寺中軸と直交し、底面の主軸方向は72°西偏している。覆土は暗茶褐色土主体の自然堆積である。

SK1805J土坑 (図面119 図版145)

HE15・16区に所在し、僧寺中軸線の北432・433m、西45・46mに位置する。上面規模は長軸1.21m、短軸1.12m、底面規模は長軸0.7mを測り、平面形は上面が円形、底面が楕円形を呈する。深さは32cmで、断面形は逆台形である。底面はVa層上面まで掘り込まれ、ほぼ平らである。北壁際には径40cm、深さ14cmの小穴が1個認められた。主軸方向は僧寺中軸より65°西偏している。覆土は茶褐色土主体の自然堆積である。

SK1806J土坑 (図面119)

GS14区に所在し、僧寺中軸線の北415・416m、西40・41mに位置する。上面規模は長軸1.02m、短軸0.9m、底面規模は長軸0.54m、短軸は0.42mを測り、平面形は上面が円形、底面が楕円形を呈する。深さは26cmで、断面形は半円形である。底面はVa層上面まで掘り込まれ、北に向かってやや低くなっている。主軸方向は僧寺中軸より4°西偏している。覆土は褐色土主体の自然堆積である。

SK1807J土坑 (図面119 図版145)

HJ22区に所在し、僧寺中軸線の北449m、西64mに位置する。上面規模は長軸0.9m、短軸0.58m、底面規模は一辺0.28mを測り、平面形は上面が楕円形、底面が円形を呈する。深さは40cmで、壁の立ち上がりは、西・南壁に比べ北・東壁は緩やかである。断面形は逆台形である。底面はIV層下層まで掘り込まれ、ほぼ平らである。主軸方向は僧寺中軸より71°西偏している。覆土は暗茶褐色土主体の自然堆積である。

SK1808J土坑 (図面119 図版145)

HB51・52区に所在し、僧寺中軸線の北424・425m、西153・154mに位置する。上面規模は長軸1.36m、短軸1.0m、底面規模は一辺0.19mを測り、平面形は上面が楕円形、底面が円形である。深さは42cmで、断面形は半円形である。底面はVa層上層まで掘り込まれている。主軸方向は僧寺中軸より69°西偏している。覆土は暗茶褐色土主体の自然堆積である。

SK1809J土坑 (図面119 図版145)

GT34・35区に所在し、僧寺中軸線の北418・419m、西102・103mに位置する。東側の削平が激しく、規模、形状は不明瞭である。上面の残存規模は長軸1.32m、短軸1.26mを測り、平面形

は楕円形と推測される。底面はVa層中層まで掘り込まれ、凹凸が認められる。覆土は暗茶褐色土主体の自然堆積である。

SK1961J土坑 (図面120 図版146)

GM・GN14・15区に所在し、僧寺中軸線の北397~399m、西41~43mに位置する。上面規模は長軸2.06m、短軸0.86m、底面規模は長軸1.77m、短軸0.63mを測り、平面形は上面、底面ともに長楕円形を呈する。深さは中央部分で53cm、断面形は長軸方向で逆凸形である。底面はVa層まで掘り込まれている。主軸方向は僧寺中軸より36°東偏している。覆土は茶褐色土を主体とした自然堆積と考えられる。

SK1962J土坑 (図面120)

GK・GL15区に所在し、僧寺中軸線の北392~393m、西43~44mに位置する。上面規模は長軸1.06m、短軸0.8m、底面規模は長軸0.68m、短軸0.5mを測り、平面形は上面、底面ともに楕円形を呈する。深さは32cmで、断面形は逆台形である。底面はIV層下層まで掘り込まれており、ほぼ平らである。上面の主軸方向は僧寺中軸より53°東偏し、底面の主軸方向は45°東偏している。覆土は暗茶褐色土を主体とした自然堆積である。

SK1963J土坑 (図面120 図版146)

GM・GN16区に所在し、僧寺中軸線の北398~399m、西46~47mに位置する。上面規模は長軸1.14m、短軸1.0m、底面規模は長軸0.48m、短軸0.4mを測り、平面形は上面、底面ともに楕円形を呈する。深さは33cmで、断面形は半円形である。底面はIV層まで掘り込まれている。上面の主軸方向は僧寺中軸より18°東偏し、底面の主軸方向は55°西偏している。覆土は暗茶褐色土を主体とした自然堆積である。

SK1964J土坑 (図面120 図版146)

GM・GN15区に所在し、僧寺中軸線の北397~399m、西43~44mに位置する。上面規模は長軸2.34m、短軸0.76m、底面規模は長軸2.04m、短軸0.47mを測り、平面形は上面、底面ともに長方形を呈する。深さは115cmで、断面形は逆台形である。底面はVb層上面まで掘り込まれており、平らで、長軸上に径15cm、深さ32~38cmの小穴2個が認められ、棒状痕と考えられる。主軸方向は僧寺中軸より27°東偏している。覆土は上層が暗茶褐色土を主体とした自然堆積で、下層はロームブロックを含む層が認められることから人為的な埋戻しが成されたものと考えられる。形状から陥穴と考えられる。

SK1965J土坑 (図面120)

GP16・17区に所在し、僧寺中軸線の北405~406m、西48~49mに位置する。上面規模は長軸1.02m、短軸0.86m、底面規模は長軸0.78m、短軸0.64mを測り、平面形は上面、底面ともに楕円形を呈する。深さは16cmで、断面形は逆台形である。底面はIV層まで掘り込まれ、東に向

かってやや低くなっている。主軸方向は僧寺中軸より89°西偏している。覆土は暗茶褐色土を主体とした自然堆積である。

SK1966J土坑 (図面120 図版146)

GQ・GR15区に所在し、僧寺中軸線の北410・411m、西44・45mに位置する。上面規模は長軸0.76m、短軸0.7m、底面規模は長軸0.52m、短軸0.5mを測り、平面形は上面、底面ともに円形を呈する。深さは26cmで、断面形は逆台形である。底面はIV層まで掘り込まれ、ほぼ平らである。主軸方向は僧寺中軸より44°西偏している。覆土は暗茶褐色土を主体とした自然堆積である。

SK1967J土坑 (図面120 図版146)

GL17区に所在し、僧寺中軸線の北394・395m、西49・50mに位置する。上面規模は長軸1.2m、短軸0.96m、底面規模は長軸0.58m、短軸0.48mを測り、平面形は上面、底面ともに楕円形を呈する。深さは38cmで、断面形は逆台形である。底面はIV層まで掘り込まれ、ほぼ平らである。主軸方向は僧寺中軸より34°西偏している。覆土は暗茶褐色土を主体とした自然堆積である。

SK1968J土坑 (図面121 図版146)

GK・GL17・18区に所在し、僧寺中軸線の北392～394m、西51・52mに位置する。上面規模は長軸2.2m、短軸0.84m、底面規模は長軸2.16m、短軸が中央で0.58m、北側で0.66mを測り、平面形は上面が長方形、底面が楕形を呈する。深さは61cmで、断面形は逆台形で、北壁は袋状に立ち上がる。底面はVa層中層まで掘り込まれ、ほぼ平らである。主軸方向は僧寺中軸より4°西偏している。覆土は上層が暗茶褐色土を主体とした自然堆積で、下層はロームブロックを含む層が認められることから、人為的な埋め戻しが成されたものと考えられる。形状から陥穴と考えられる。

SK1969J土坑 (図面121 図版147)

GN19区に所在し、僧寺中軸線の北400・401m、西56・57mに位置する。上面規模は長軸1.06m、短軸0.8m、底面規模は長軸0.44m、短軸0.32mを測り、平面形は上面、底面ともに楕円形を呈する。深さは35cmで、断面形は半円形である。底面はIV層下層まで掘り込まれている。主軸方向は僧寺中軸より9°東偏している。覆土は暗茶褐色土を主体とした自然堆積である。

SK1970J土坑 (図面121 図版147)

GJ21・22区に所在し、僧寺中軸線の北387～389m、西63～66mに位置する。南西側が一部削平されている。上面規模は残存長軸2.42m、短軸2.18mを測り、平面形は不整形を呈する。深さは78cmである。底面はVa層まで掘り込まれ、凹凸が認められる。主軸方向は僧寺中軸より53°東偏している。覆土は黒褐色土と茶褐色土を主体としたもので、層にやや乱れが認められる。形状から倒木痕と考えられる。

SK1971J土坑 (図面120 図版147)

GP20・21区に所在し、僧寺中軸線の北406・407m、西60・61mに位置する。上面規模は長軸1.06m、短軸0.74m、底面規模は長軸1.24m、短軸0.44mを測り、平面形は上面、底面ともに楕円形を呈する。深さは31cmで、断面形は半円形である。底面はIV層まで掘り込まれている。主軸方向は僧寺中軸より18°西偏している。覆土は暗茶褐色土を主体とした自然堆積である。

SK1972J土坑 (図面121 図版147)

GP21区に所在し、僧寺中軸線の北403・404m、西62・63mに位置する。上面規模は長軸1.52m、短軸0.86m、底面規模は長軸1.28m、短軸は中央で0.44m、東側で0.5mを測り、平面形は上面が楕円形、底面が楕形を呈する。深さは110cmで、断面形は逆台形である。底面はVb層中層まで掘り込まれ、平らである。主軸方向は僧寺中軸より57°東偏している。覆土は上層が暗茶褐色土を主体とした自然堆積で、下層はローム粒を多く含む層が認められることから人為的な埋め戻しが成されたものと考えられる。形状から陥穴と考えられる。

SK1973J土坑 (図面121)

GL・GM21区に所在し、僧寺中軸線の北395・396m、西62・63mに位置する。上面規模は長軸1.08m、短軸0.64m、底面規模は長軸0.7m、短軸0.32mを測り、平面形は上面が楕円形、底面が不整楕円形を呈する。深さは29cmで、断面形は逆台形である。底面はIV層まで掘り込まれ、南側に向かってやや低くなっている。主軸方向は僧寺中軸より83°東偏している。覆土は暗茶褐色土を主体とした自然堆積である。

SK1974J土坑 (図面122 89 図版147、40)

GJ25・26区に所在し、僧寺中軸線の北388・389m、西75・76mに位置する。上面規模は長軸1.8m、短軸0.78m、底面規模は長軸1.64m、短軸0.48mを測り、平面形は上面が楕円形、底面が長方形を呈する。深さは96cmで、断面形は逆台形である。底面はVa層下層まで掘り込まれ、ほぼ平らで、長軸上に径10cm、深さ9～21cmの小穴3個が認められ、棒状痕と考えられる。主軸方向は僧寺中軸より80°東偏している。覆土は暗茶褐色土を主体とした自然堆積である。

遺物は覆土中より縄文土器の深鉢片が出土した。時期は出土土器から縄文時代早期前半と考えられる。

SK1975J土坑 (図面121 図版147)

GM・GN23・24区に所在し、僧寺中軸線の北398・399m、西69・70mに位置する。上面規模は長軸0.76m、短軸0.72m、底面規模は長軸0.6m、短軸0.47mを測り、平面形は上面が円形、底面が楕円形を呈する。深さは18cmで、断面形は逆台形である。底面はIV層上層まで掘り込まれ、中央がやや低くなっているがほぼ平らである。主軸方向は僧寺中軸と同一である。覆土は暗茶褐色土を主体とした自然堆積である。

SK1976J土坑 (図面121 図版147)

GM・GN22・23区に所在し、僧寺中軸線の北398・399m、西66～68mに位置する。東側でSK2007Jと重複し、切られている。上面規模は長軸1.64m、短軸0.74m、底面規模は長軸1.3m、短軸0.98mを測り、平面形は上面、底面ともに楕円形を呈する。深さは27cmで、断面形は逆台形である。底面はIV層まで掘り込まれ、ほぼ平らである。上面の主軸方向は僧寺中軸より74°東偏し、底面の主軸方向は82°東偏している。覆土は暗茶褐色土を主体とした自然堆積である。

SK1977J土坑 (図面122 図版148)

GN・G023・24区に所在し、僧寺中軸線の北401・402m、西69・70mに位置する。中央付近を歴史時代の小穴と重複している。上面規模は長軸1.26m、短軸0.88m、底面規模は長軸0.8m、短軸0.44mを測り、平面形は上面、底面ともに楕円形を呈する。深さは37cmで、断面形は逆台形である。底面はIV層まで掘り込まれ、南西側に向かってやや低くなっている。上面の主軸方向は僧寺中軸より85°西偏し、底面の主軸方向は78°西偏している。覆土は暗茶褐色土を主体とした自然堆積である。

SK1978J土坑 (図面122, 89 図版148, 40)

GN・G034区に所在し、僧寺中軸線の北401～403m、西100・101mに位置する。上面規模は長軸1.72m、短軸1.04m、底面規模は長軸1.36m、短軸0.43mを測り、平面形は上面、底面ともに楕円形を呈する。深さは83cmで、断面形は逆台形である。底面はVa層まで掘り込まれ、ほぼ平らである。上面の主軸方向は僧寺中軸より19°東偏し、底面の主軸方向は26°東偏している。覆土は上層が暗茶褐色土を主体とした自然堆積で、下層はローム粒を多く含む層が認められることから人為的な埋め戻しが成されたものと考えられる。形状から陥穴と考えられる。

遺物は覆土中より縄文土器の深鉢片とスタンプ形石器が出土した。時期は出土土器から縄文時代早期前半と考えられる。

SK1979J土坑 (図面122 図版148)

G025区に所在し、僧寺中軸線の北403・404m、西74・75mに位置する。上面規模は長軸0.88m、短軸0.82m、底面規模は長軸0.58m、短軸0.46mを測り、平面形は上面が円形、底面が楕円形を呈する。深さは30cmで、断面形は逆台形である。底面はIV層まで掘り込まれ、東に向かってやや低くなっている。主軸方向は僧寺中軸より74°東偏している。覆土は暗茶褐色土を主体とした自然堆積である。

SK1980J土坑 (図面123 図版148)

G025・26区に所在し、僧寺中軸線の北403・404m、西75～77mに位置する。上面の一部が削平されている。上面の残存規模は長軸1.56m、短軸0.7m、底面規模は長軸0.54m、短軸0.46mを測り、平面形は上面が長楕円形、底面は長方形を呈する。深さは83cmで、断面形は逆台形である。

ある。底面はVa層下層まで掘り込まれ、平らである。主軸方向は僧寺中軸より38°西偏している。覆土は上層が暗茶褐色土を主体とした自然堆積で、下層はロームを多く含む層が認められることから人為的な埋め戻しが成されたものと考えられる。形状から陥穴と考えられる。

SK1981J土坑 (図面123 図版148)

GM25区に所在し、僧寺中軸線の北396・397m、西73・74mに位置する。南東側でSK2008Jと重複し、切られている。上面規模は残存長軸1.04m、短軸0.96m、底面規模は残存長軸0.73m、短軸0.63mを測り、平面形は上面、底面ともに楕円形を呈すると推測される。深さは25cmで、断面形は逆台形である。底面はIV層まで掘り込まれ、南に向かってやや低くなっている。主軸方向は僧寺中軸より57°西偏している。覆土は上層が暗茶褐色土、下層が暗黄褐色土を主体としたものである。

SK1982J土坑 (図面123 図版148)

GJ・GK27区に所在し、僧寺中軸線の北389・390m、西79・80mに位置する。上面規模は長軸1.3m、短軸0.98mを測り、平面形は楕円形を呈する。深さは46cmである。底面はVa層上層まで掘り込まれ、凹凸が認められる。主軸方向は僧寺中軸より64°西偏している。覆土は茶褐色土を主体とし、ロームブロックを含み、層に乱れが認められた。形状から倒木痕と考えられる。

SK1983J土坑 (図面122)

GK28区に所在し、僧寺中軸線の北391・392m、西83・84mに位置する。上面規模は長軸1.24m、短軸0.96mを測り、平面形は楕円形を呈する。深さは43cmで、断面形は半円形である。底面はVa層上層まで掘り込まれ、凹凸が認められる。主軸方向は僧寺中軸より39°東偏している。覆土は暗茶褐色土を主体とした自然堆積である。

SK1984J土坑 (図面122 図版149)

G028区に所在し、僧寺中軸線の北402～404m、西83・84mに位置する。上面規模は長軸1.38m、短軸0.96m、底面規模は長軸1.04m、短軸0.38mを測り、平面形は上面が楕円形、底面が長方形を呈する。深さは90cmで、断面形は逆台形である。底面はVb層上層まで掘り込まれ、平らである。主軸方向は僧寺中軸より1°東偏している。覆土は上層が暗茶褐色土を主体とした自然堆積で、下層はロームブロックを含む層が認められることから人為的な埋め戻しが成されたものと考えられる。形状から陥穴と考えられる。

SK1985J土坑 (図面122 図版149)

GG・GH31・32区に所在し、僧寺中軸線の北380・381m、西93・94mに位置する。上面規模は長軸0.99m、短軸0.96m、底面規模は長軸0.59m、短軸0.42mを測り、平面形は上面が不整形、底面が楕円形を呈する。深さは46cmで、断面形は半円形である。底面はVa層まで掘り込まれている。主軸方向は僧寺中軸より36°西偏している。覆土は暗茶褐色土を主体とした自然堆積

である。

SK1986J土坑 (図面123)

GG・GI32区に所在し、僧寺中軸線の北380・381m、西95・96mに位置する。上面規模は長軸0.94m、短軸0.68m、底面規模は長軸0.38m、短軸0.16mを測り、平面形は上面、底面ともに楕円形を呈する。深さは23cmで、断面形は半円形である。底面はIV層まで掘り込まれている。上面の主軸方向は僧寺中軸より44°東偏し、底面の主軸方向は58°東偏している。覆土は暗茶褐色土を主体とした自然堆積である。

SK1987J土坑 (図面123)

GJ32・33区に所在し、僧寺中軸線の北387・388m、西96・97mに位置する。上面規模は長軸1.36m、短軸0.88m、底面規模は長軸0.44m、短軸0.2mを測り、平面形は上面、底面ともに楕円形を呈する。深さは34cmで、断面形は半円形である。底面はIV層まで掘り込まれている。主軸方向は僧寺中軸より38°東偏している。覆土は上層が暗茶褐色土、下層が茶褐色土を主体としたものである。

SK1988J土坑 (図面123 図版149)

GG・GL32・33区に所在し、僧寺中軸線の北392・393m、西95～97mに位置する。西側の一部が削平されている。上面規模は長軸1.94m、短軸1.28m、底面規模は長軸1.0m、短軸0.9mを測り、平面形は不整形を呈する。深さは59cmである。底面はVa層まで掘り込まれ、東に向かって低くなっている。主軸方向は僧寺中軸より87°西偏している。覆土は上層が暗茶褐色土主体で、下層がローム粒を多く含む茶褐色土で、層にやや乱れが認められる。

SK1989J土坑 (図面123 図版149)

GJ33区に所在し、僧寺中軸線の北388・389m、西97・98mに位置する。南側でPJ-291と重複し、切られている。上面規模は残存長軸0.74m、短軸0.7m、底面規模は残存長軸0.74m、短軸0.52mを測り、平面形は円形を呈する。深さは34cmで、断面形は半円形である。底面はIV層まで掘り込まれ、ほぼ平らである。主軸方向は僧寺中軸より33°東偏している。覆土は暗茶褐色土を主体とした自然堆積である。

SK1990J土坑 (図面124 89 図版149、40)

GG・GH40区に所在し、僧寺中軸線の北379～381m、西119・120mに位置する。東側でSK2009Jと重複し、切っている。上面規模は長軸1.99m、短軸1.13mを測り、平面形は楕円形を呈する。深さは65cmで、断面形は逆台形である。底面は南側でVa層まで掘り込まれ、ほぼ平らであるが、北側は86×70cm、深さ30cm程一段深く掘り込まれ、Vb層まで達している。主軸方向は僧寺中軸より32°東偏している。覆土は上層が暗茶褐色土主体の自然堆積で、下層はローム粒・ブロックを多く含む層が認められることから人為的な埋め戻しが成されたものと考えられる。

遺物は覆土中より縄文土器の深鉢片1、剥片1、不明石器1点が出土した。時期は出土土器より縄文時代早期前半と考えられる。

SK1991J土坑 (図面125 図版149)

GK36・37区に所在し、僧寺中軸線の北391・392m、西108・109mに位置する。南側でPJ-339と重複している。上面規模は長軸1.22m、短軸0.9m、底面規模は長軸1.05m、短軸0.63mを測り、平面形は上面、底面ともに楕円形を呈する。深さは29cmで、断面形は逆台形である。底面はIV層まで掘り込まれ、ほぼ平らである。中央から南壁付近には径28～34cm、深さ10～34cmの小穴が3個認められた。主軸方向は僧寺中軸より72°西偏している。覆土は暗茶褐色土を主体とし、ロームを多く含み、層に乱れが認められる。形状から倒木痕と考えられる。

SK1992J土坑 (図面125 図版149・150)

GL-GM35・36区に所在し、僧寺中軸線の北395～397m、西105・106mに位置する。上面規模は長軸1.55m、短軸0.86m、底面規模は長軸1.06m、短軸0.55mを測り、平面形は上面が楕円形、底面が長方形を呈する。深さは97cmで、断面形は逆台形である。底面はVb層上層まで掘り込まれ、平らである。主軸方向は僧寺中軸より37°西偏している。覆土は暗茶褐色土を主体とした自然地積である。形状から陥穴と考えられる。

SK1993J土坑 (図面124)

GM-GN35区に所在し、僧寺中軸線の北398・399m、西103・104mに位置する。上面規模は長軸1.33m、短軸1.04m、底面規模は長軸0.85m、短軸0.45mを測り、平面形は楕円形を呈する。深さは49cmで、断面形は長軸方向で逆凸形である。底面はVa層まで掘り込まれている。上面の主軸方向は僧寺中軸より17°西偏し、底面の主軸方向は6°西偏している。覆土は上層が暗茶褐色土、下層がロームを多く含む茶褐色土主体である。形状から倒木痕と考えられる。

SK1994J土坑 (図面124 図版150)

G035区に所在し、僧寺中軸線の北402・403m、西103・104mに位置する。上面規模は長軸1.12m、短軸0.82m、底面規模は長軸0.78m、短軸0.49mを測り、平面形は上面、底面ともに楕円形を呈する。深さは37cmで、断面形は逆台形である。底面はIV層まで掘り込まれ、ほぼ平らである。北壁際で径30cm、深さ6cmの小穴が1個認められた。主軸方向は僧寺中軸より48°東偏している。覆土は暗茶褐色土を主体とし、中層でロームを多く含む黒茶褐色土層が認められることから人為的な埋め戻しが成されたものと考えられる。

SK1995J土坑 (図面124 図版150)

GK41区に所在し、僧寺中軸線の北391・392m、西121・122mに位置する。上面規模は長軸1.24m、短軸0.62m、底面規模は長軸0.95m、短軸0.29mを測り、平面形は上面、底面ともに楕円形を呈する。深さは29cmで、断面形は逆台形である。底面はIV層まで掘り込まれ、西に向かっ

てやや低くなっている。主軸方向は僧寺中軸より 48.5° 東偏している。覆土は暗茶褐色土を主体としたものである。

SK1996J土坑 (図面124)

GG-GH43区に所在し、僧寺中軸線の北 $380\cdot381\text{m}$ 、西 $127\cdot128\text{m}$ に位置する。上面規模は長軸 0.98m 、短軸 0.88m 、底面規模は長軸 0.64m 、短軸 0.53m を測り、平面形は上面、底面ともに円形を呈する。深さは 30cm で、北側が一段高くなっている。底面はIV層まで掘り込まれ、ほぼ平らである。上面の主軸方向は僧寺中軸より 2.5° 東偏し、底面の主軸方向は 87° 西偏している。覆土は上層が暗茶褐色土、下層がロームを多く含む明茶褐色土を主体としたものである。

SK1997J土坑 (図面124)

GH43区に所在し、僧寺中軸線の北 $382\cdot383\text{m}$ 、西 $127\cdot128\text{m}$ に位置する。西側でPJ-444と重複している。上面規模は長軸 0.8m 、短軸 0.78m 、底面規模は長軸 0.55m 、短軸 0.25m を測り、平面形は楕円形を呈する。深さは 22cm で、断面形は逆台形である。底面はIV層まで掘り込まれ、中央がやや低くなっている。上面の主軸方向は僧寺中軸より 13° 東偏し、底面の主軸方向は 29° 東偏している。覆土は暗茶褐色土を主体としたものである。

SK1998J土坑 (図面124 図版150)

GF45区に所在し、僧寺中軸線の北 $375\sim377\text{m}$ 、西 $133\sim135\text{m}$ に位置する。西側でSK1999Jと重複している。上面規模は長軸 1.01m 、短軸 1.08m 、底面規模は長軸 1.14m 、短軸 0.58m を測り、平面形は上面が隅丸長方形、底面が長方形を呈する。深さは 62cm で、断面形は逆台形である。底面はVa層まで掘り込まれ、ほぼ平らである。主軸方向は僧寺中軸より 58.5° 東偏している。覆土は下層にややロームを多く含む層が認められるが、おおむね暗茶褐色土を主体とした自然堆積である。形状から陥穴と考えられる。

SK1999J土坑 (図面124)

GF45区に所在し、僧寺中軸線の北 $375\cdot376\text{m}$ 、西 135m に位置する。東側でSK1998Jと重複している。上面規模は長軸 1.01m 、短軸 0.82m 、底面規模は長軸 0.84m 、短軸 0.65m を測り、平面形は上面、底面ともに楕円形を呈する。深さは 13cm で、断面形は逆台形である。底面はIV層まで掘り込まれ、ほぼ平らである。主軸方向は僧寺中軸より 21° 東偏している。覆土は暗茶褐色土を主体とした自然堆積である。

SK2000J土坑 (図面125)

GJ46区に所在し、僧寺中軸線の北 $387\cdot388\text{m}$ 、西 $137\cdot138\text{m}$ に位置する。上面規模は長軸 0.96m 、短軸 0.86m 、底面規模は長軸 0.67m 、短軸 0.56m を測り、平面形は上面、底面ともに楕円形を呈する。深さは 24cm で、断面形は半円形である。底面はIV層まで掘り込まれている。主軸方向は僧寺中軸より 24° 東偏している。覆土は上層が暗茶褐色土、下層が茶褐色土を主体とし

た自然堆積である。

SK2005J土坑 (図面125 図版150)

GK45区に所在し、僧寺中軸線の北390・391m、西134・135mに位置する。上面規模は長軸1.08m、短軸0.74mを測り、平面形は楕円形を呈する。深さは47cmである。底面はVa層まで掘り込まれている。主軸方向は僧寺中軸より49°西偏している。覆土は上層が暗茶褐色土、下層がロームを多く含む茶褐色土を主体としたものである。

SK2006J土坑 (図面125 図版150)

GI47区に所在し、僧寺中軸線の北385～387m、西139・140mに位置する。上面規模は長軸1.12m、短軸1.12mを測り、平面形は不整形を呈する。深さは32cmで、断面形は半円形である。底面はIV層まで掘り込まれ、南に向かって低くなっている。主軸方向は僧寺中軸より48°東偏している。覆土は暗茶褐色土を主体とした自然堆積である。

SK2007J土坑 (図面121 図版147)

GN22・23区に所在し、僧寺中軸線の北399・400m、西66・67mに位置する。南側でSK1976Jと重複し、切っている。上面規模は長軸0.9m、短軸0.74m、底面規模は長軸0.55m、短軸0.36mを測り、平面形は上面、底面ともに楕円形を呈する。深さは24cmで、断面形は逆台形である。底面はIV層まで掘り込まれ、南に向かってやや低くなっている。主軸方向は僧寺中軸より21°東偏している。覆土は暗茶褐色土を主体とした自然堆積である。

SK2008J土坑 (図面123 図版148)

GM24・25区に所在し、僧寺中軸線の北396・397m、西72～74mに位置する。北西側でSK1981Jと重複し、切っている。上面規模は長軸1.31m、短軸1.02m、底面規模は長軸0.69m、短軸0.48mを測り、平面形は上面が楕円形、底面が長方形を呈する。深さは39cmで、断面形は逆台形である。底面はIV層下層まで掘り込まれ、北に向かってやや低くなっている。上面の主軸方向は僧寺中軸より57°東偏し、底面の主軸方向は63°東偏している。覆土は上層が暗茶褐色土、下層がロームを多く含む茶褐色土を主体としたもので、人為的な埋め戻しが成されたものと考えられる。

SK2009J土坑 (図面124 図版149)

GG40区に所在し、僧寺中軸線の北379・380m、西118・119mに位置する。西側でSK1990Jと重複し、切られている。上面規模は残存長軸0.95m、短軸0.83m、底面規模は残存長軸0.86m、短軸0.46mを測り、平面形は上面、底面ともに楕円形を呈すると推測される。深さは20cmで、断面形は逆台形である。底面はIV層まで掘り込まれ、南に向かって低くなっている。主軸方向は僧寺中軸より63°西偏している。覆土は暗茶褐色土を主体とした自然堆積である。

SK2102J土坑 (図面125 図版151)

GC・GD45区に所在し、僧寺中軸線の北368・369m、西133・134mに位置する。上面規模は長軸1.17m、短軸0.64m、底面規模は長軸0.75m、短軸0.34mを測り、平面形は上面、底面ともに楕円形を呈する。深さは17cmで、断面形は逆台形である。底面はIV層まで掘り込まれ、南に向かってやや低くなっている。主軸方向は僧寺中軸より82°西偏している。覆土は茶褐色土主体の自然堆積である。

SK2103J土坑 (図面125)

GC45・46区に所在し、僧寺中軸線の北367・368m、西135・136mに位置する。PJ-2と重複し、切っている。上面規模は長軸1.25m、短軸1.05m、底面規模は長軸1.04m、短軸0.56mを測り、平面形は上面が不整形、底面が不整楕円形を呈する。深さは27cmで、断面形は長軸で逆台形である。底面はIV層まで掘り込まれ、ほぼ平らである。主軸方向は僧寺中軸より90°東偏している。覆土は茶褐色土主体の自然堆積である。

SK2105J土坑 (図面125 図版151)

FT45区に所在し、僧寺中軸線の北357～359m、西133・134mに位置する。北側でPJ-521と重複し、切っている。上面規模は長軸1.14m、短軸1.02m、底面規模は長軸0.52m、短軸0.48mを測り、平面形は上面が不整形、底面が円形を呈する。深さは31cmで、断面形は半円形である。底面はIV層まで掘り込まれている。主軸方向は僧寺中軸より11°西偏している。覆土は茶褐色土主体の自然堆積である。

SK2106J土坑 (図面126 図版151)

GA・GB42・43区に所在し、僧寺中軸線の北362～364m、西126～128mに位置する。上面規模は長軸2.11m、短軸1.56mを測り、平面形は不整楕円形を呈する。深さは56cmである。底面は南側が一段深くしており、Va層まで掘り込まれている。主軸方向は僧寺中軸より33°東偏している。覆土は茶褐色土主体の自然堆積である。

SK2108J土坑 (図面126)

GE・GF41・42区に所在し、僧寺中軸線の北373～375m、西123～125mに位置する。上面規模は長軸2.39m、短軸1.24m、底面規模は長軸2.47m、短軸0.53mを測り、平面形は上面が不整楕円形、底面が楕円形を呈する。深さは30cmで、断面形は逆台形である。底面はIV層まで掘り込まれ、北、東に向かってやや低くなっている。上面形の主軸方向は僧寺中軸より57°東偏し、底面形の主軸方向は52°東偏している。覆土は茶褐色土主体の自然堆積である。

SK2109J土坑 (図面126 図版151)

GE38・39区に所在し、僧寺中軸線の北372～374m、西114・115mに位置する。中央やや北側でPJ-1、北側でPJ-61と重複し、前者に切られ、後者を切っている。上面規模は長軸1.55m、短軸1.07m、底面規模は長軸0.72m、短軸0.53mを測り、平面形は上面、底面ともに楕円形を呈

する。深さは42cmで、断面形は逆台形である。底面はIV層まで掘り込まれ、ほぼ平らである。上面の主軸方向は僧寺中軸より30°東偏し、底面の主軸方向は46°西偏している。覆土は暗茶褐色土主体の自然堆積である。

SK2110J土坑 (図面126 図版151)

GE41区に所在し、僧寺中軸線の北372・373m、西121・122mに位置する。上面規模は長軸1.47m、短軸1.24m、底面規模は長軸0.49m、短軸0.32mを測り、平面形は上面、底面ともに不整形円形を呈する。深さは38cmで、IV層まで掘り込まれて、底面には凹凸が認められる。上面の主軸方向は僧寺中軸より30°東偏し、底面の主軸方向は47°西偏している。覆土は暗茶褐色土主体で、形状から倒木痕と考えられる。

SK2111J土坑 (図面126 図版151)

GC42区に所在し、僧寺中軸線の北367・368m、西125・126mに位置する。上面規模は長軸1.1m、短軸1.03mを測り、平面形は円形を呈する。深さは51cmで、断面形は半円形である。底面はVa層まで掘り込まれ、やや凹凸が認められる。主軸方向は僧寺中軸より90°東偏している。覆土は褐色土主体の自然堆積である。

SK2112J土坑 (図面126 図版151)

GA41区に所在し、僧寺中軸線の北361・362m、西121～123mに位置する。上面規模は長軸1.34m、短軸0.77m、底面規模は長軸1.02m、短軸0.57mを測り、平面形は楕円形を呈する。深さは40cmで、断面形は短軸で逆台形、長軸で逆凸形である。底面はVa層上層まで掘り込まれ、中央が58×57cm、深さ13cm程深くなっている。主軸方向は僧寺中軸より74°東偏している。覆土は暗茶褐色土主体の自然堆積である。

SK2113J土坑 (図面127 図版151・152)

GB38区に所在し、僧寺中軸線の北363～365m、西112～114mに位置する。上面規模は長軸1.84m、短軸1.01m、底面規模は長軸1.84m、短軸0.85mを測り、平面形は上面北側の隅がやや突出した長方形、底面は四隅がやや突出した長方形を呈する。深さは85cmで、断面形は短軸で中央がくびれた袋状で、長軸は南側がやや袋状を呈するがおおむね箱形である。また、北西、南西隅は袋状を呈している。底面はVb層まで掘り込まれ、ほぼ平らである。長軸上には径8～13cm、深さ11～14cmの小穴3個が認められ棒状痕と考えられる。主軸方向は僧寺中軸より64°東偏している。覆土は暗茶褐色土主体の自然堆積である。形状から陥穴と考えられる。

SK2114J土坑 (図面127 図版152)

FT-GA38区に所在し、僧寺中軸線の北359・360m、西112・113mに位置する。上面規模は長軸1.68m、短軸0.91m、底面規模は長軸1.46m、短軸0.62mを測り、平面形は上面、底面ともに隅丸長方形を呈する。深さは92cmで、断面形は逆台形である。底面はVa層まで掘り込まれ、

平らである。長軸上に径6~10cm、深さ6~14cmの小穴2個が認められ、棒状痕と考えられる。主軸方向は僧寺中軸より43.5°西偏している。覆土は暗茶褐色土主体の自然堆積である。形状から陥穴と考えられる。

遺物は糠が1点出土した。

SK2115J土坑(図面128)

GA36区に所在し、僧寺中軸線の北361・362m、西107・108mに位置する。上面規模は長軸1.86m、短軸1.2mを測り、平面形は不整形を呈する。深さは60cmである。底面はVa層まで掘り込まれ、凹凸が認められた。主軸方向は僧寺中軸より67°東偏している。覆土は暗茶褐色土主体の自然堆積である。形状から倒木痕と考えられる。

SK2116J土坑(図面126 図版152)

FT-GA35区に所在し、僧寺中軸線の北358~360m、西105mに位置する。上面規模は長軸1.31m、短軸0.56m、底面規模は長軸1.12m、短軸0.42mを測り、平面形は上面、底面ともに長方形を呈する。深さは52cmで、断面形は逆台形である。底面はVa層まで掘り込まれ、平らである。長軸上に径6~10cm、深さ4~10cmの小穴4個が認められ、棒状痕とも考えられるが大きさから疑問も残る。主軸方向は僧寺中軸より4.5°西偏している。覆土は暗茶褐色土主体の自然堆積である。形状から陥穴と考えられる。

SK2117J土坑(図面127 図版152・153)

GF35区に所在し、僧寺中軸線の北375・376m、西104・105mに位置する。上面規模は長軸1.57m、短軸0.89m、底面規模は長軸1.3m、短軸0.52mを測り、平面形は上面、底面ともに隅丸長方形を呈する。深さは116cmで、断面形は上半が大きく開く逆台形で、南西隅がわずかであるが袋状である。底面はVI層上面まで掘り込まれ、ほぼ平らである。上面の主軸方向は僧寺中軸より62°東偏し、底面の主軸方向は69.5°東偏している。覆土は暗茶褐色土主体の自然堆積である。棒状痕等の小穴は認められなかったが、形状から陥穴と考えられる。

SK2118J土坑(図面127 図版153)

GF33区に所在し、僧寺中軸線の北376・377m、西98・99mに位置する。上面規模は長軸1.3m、短軸0.82m、底面規模は長軸0.93m、短軸0.33mを測り、平面形は上面が楕円形、底面はわずかに楕形を呈する。深さは88cmで、断面形は逆台形である。底面はVa層まで掘り込まれ、ほぼ平らである。長軸上に径9cm、深さ8~22cmの小穴2個が認められ、棒状痕と考えられる。主軸方向は僧寺中軸より41°西偏している。覆土は暗茶褐色土主体の自然堆積である。形状から陥穴と考えられる。

SK2119J土坑(図面129 図版153)

GB33・34区に所在し、僧寺中軸線の北363~365m、西99・100mに位置する。上面規模は長軸

1.5m、短軸0.63m、底面規模は長軸1.24m、短軸0.39mを測り、平面形は隅丸長方形を呈する。深さは17cmで、断面形は逆台形である。底面はIV層まで掘り込まれ、北側が一部覆んでいるがほぼ平らである。主軸方向は僧寺中軸より29°東偏している。覆土は暗茶褐色土主体の自然堆積である。

SK2120J土坑 (図面128、89 図版40)

GE20・21区に所在し、僧寺中軸線の北373m、西60・61mに位置する。S1604Jの床面から確認され、切られている。確認された規模は、上面長軸0.79m、短軸0.67m、底面長軸0.53m、短軸0.4mを測り、平面形は上面、底面ともに楕円形を呈する。深さは17cmで、断面形は逆台形である。底面はIV層まで掘り込まれている。上面の主軸方向は僧寺中軸より67°西偏し、底面の主軸方向は78°西偏している。覆土は暗茶褐色土主体の自然堆積である。

遺物は覆土中より縄文土器の深鉢片2点が出土した。

SK2121J土坑 (図面128 図版153)

GA28・29区に所在し、僧寺中軸線の北361・362m、西83～85mに位置する。上面規模は長軸2.44m、短軸1.48mを測り、平面形は不整楕円形を呈する。底面はVb層まで掘り込まれ、深さは80cmである。主軸方向は僧寺中軸より83°西偏している。覆土は暗茶褐色土主体で、形状から倒木痕と考えられる。

SK2122J土坑 (図面128 図版153)

GB29区に所在し、僧寺中軸線の北363・364m、西85～87mに位置する。西側でPJ-162と重複し、切っている。上面規模は長軸1.2m、短軸は小穴との重複で不明瞭である。底面規模は長軸0.74m、短軸0.61mを測り、平面形は上面が楕円形、底面が長方形を呈する。深さは94cmで、断面形は上部が大きく開く逆台形である。底面はVb層まで掘り込まれ、ほぼ平らである。主軸方向は僧寺中軸より48.5°西偏している。覆土は暗茶褐色土主体の自然堆積である。棒状痕等の小穴は認められなかったが形状から陥穴と考えられる。

遺物は縄文土器が1点出土した。

SK2123J土坑 (図面128 図版153)

GA・GB26区に所在し、僧寺中軸線の北362・363m、西77・78mに位置する。上面規模は長軸1.55m、短軸0.76m、底面規模は長軸1.06m、短軸0.33mを測り、平面形は不整楕円形を呈する。深さは52cmである。底面はVa層まで掘り込まれ、凹凸がある。上面の主軸方向は僧寺中軸より47°東偏し、底面の主軸方向は53°東偏している。覆土は暗茶褐色土主体で、形状から倒木痕と考えられる。

SK2124J土坑 (図面128)

GC25区に所在し、僧寺中軸線の北366・367m、西73mに位置する。上面規模は長軸1.06m、

短軸0.8m、底面規模は長軸0.39m、短軸0.23mを測り、平面形は上面、底面ともに楕円形を呈する。深さは27cmで、断面形は半円形である。底面はIV層まで掘り込まれている。主軸方向は僧寺中軸より53°東偏している。覆土は暗茶褐色土主体の自然堆積である。

SK2125J土坑 (図面129)

GD24・25区に所在し、僧寺中軸線の北370・371m、西72・73mに位置する。上面規模は長軸1.28m、短軸1.01m、底面規模は長軸1.05m、短軸0.8mを測り、平面形は上面、底面ともに不整形楕円形を呈する。深さは31cmで、底面はIV層まで掘り込まれ、やや凹凸が認められる。主軸方向は僧寺中軸より46°東偏している。覆土は暗茶褐色土主体で、形状から倒木痕と考えられる。

SK2126J土坑 (図面129)

GF22区に所在し、僧寺中軸線の北375～377m、西64・65mに位置する。上面規模は長軸1.36m、短軸0.7m、底面規模は長軸1.18m、短軸0.46mを測り、平面形は上面、底面ともに不整形楕円形を呈する。深さは21cmで、断面形は逆台形である。底面はIV層まで掘り込まれ、北側が5cm程度窪んでいる。主軸方向は僧寺中軸より24°東偏している。覆土は暗茶褐色土主体で、形状から倒木痕と考えられる。

SK2127J土坑 (図面129 図版154)

GC18区に所在し、僧寺中軸線の北367・368m、西52・53mに位置する。上面規模は長軸1.11m、短軸0.98m、底面規模は長軸0.7m、短軸0.52mを測り、平面形は上面が楕円形、底面が不整形を呈する。深さは44cmで、底面はIV層まで掘り込まれ、凹凸が認められる。上面の主軸方向は僧寺中軸より63°東偏し、底面の主軸方向は56°東偏している。覆土は暗茶褐色土主体の自然堆積で、形状から倒木痕と考えられる。

SK2128J土坑 (図面129)

GB・GC18区に所在し、僧寺中軸線の北365・366m、西53・54mに位置する。上面規模は長軸1.27m、短軸1.1m、底面規模は長軸0.68m、短軸0.52mを測り、平面形は上面、底面ともに楕円形を呈する。深さは27cmで、断面形は半円形である。底面はIV層まで掘り込まれ、南壁際に小穴が認められ窪んでいる。上面の主軸方向は僧寺中軸より83°東偏し、底面の主軸方向は90°東偏している。覆土は暗茶褐色土主体で、形状から倒木痕と考えられる。

SK2129J土坑 (図面130 図版154)

GH-GI15・16区に所在し、僧寺中軸線の北382～384m、西45・46mに位置する。上面規模は長軸1.82m、短軸0.86m、底面規模は長軸1.5m、短軸は南側で0.48m、中央で0.39mを測り、平面形は上面が隅丸長方形、底面が楕形を呈する。深さは88cmで、断面形は逆台形である。底面はVa層まで掘り込まれ、平らである。底面の中央付近には径6cm、深さ4～14cmの小穴6

個が認められた。主軸方向は僧寺中軸より 10° 東偏している。覆土は下部がロームブロックを含む人為的な埋め戻しが認められるが、上部は暗茶褐色土主体の自然堆積である。形状から陥穴と考えられる。

SK2130J土坑 (図面129 図版154)

GC・GD15区に所在し、僧寺中軸線の北368・369m、西43・44mに位置する。西側でPJ-157と重複し、切られている。上面規模は残存長軸1.0m、短軸0.83m、底面規模は残存長軸0.42m、短軸0.42mを測り、平面形は楕円形を呈する。深さは35cmで、IV層まで掘り込まれている。底面は東側がやや窪んでいる。主軸方向は僧寺中軸より 59.5° 東偏し、底面形の主軸方向は 66° 東偏している。覆土は褐色土主体の自然堆積である。

SK2131J土坑 (図面129、89 図版154、40)

GB・GC16区に所在し、僧寺中軸線の北364～366m、西46・47mに位置する。南側でPJ-158と重複している。上面規模は長軸1.9m、短軸1.28m、底面規模は長軸1.24m、短軸0.62mを測り、平面形は上面が楕円形、底面が隅丸長方形を呈する。深さは111cmで、断面形は上部が大きく開く逆台形である。底面はVb層まで掘り込まれ、ほぼ平らである。長軸上には径10～15cm、深さ8～13cmの小穴が3個認められ、棒状痕と考えられる。主軸方向は僧寺中軸より 4.5° 東偏している。覆土は一部人為的な埋め戻しが認められるが、全体としては暗茶褐色土主体の自然堆積である。形状から陥穴と考えられる。

遺物は覆土中より調整剥片石器、剥片各1点が出土した。

SK2132J土坑 (図面130 図版154)

GE・GF13区に所在し、僧寺中軸線の北373～375m、西38・39mに位置する。上面規模は長軸1.86m、短軸0.98m、底面規模は長軸1.45m、短軸0.62mを測り、平面形は上面が楕円形、底面が隅丸長方形を呈する。深さは65cmである。底面はVa層まで掘り込まれ、ほぼ平らである。長軸上には径24～26cm、深さ40～42cmの小穴が2個認められ、棒状痕と考えられるが、小穴の覆土からはその痕跡は認められなかった。主軸方向は僧寺中軸より 19° 西偏している。覆土は一部人為的な埋め戻しが認められるが、全体としては暗茶褐色土主体の自然堆積である。形状から陥穴と考えられる。

SK2133J土坑 (図面129)

GG13・14区に所在し、僧寺中軸線の北379・380m、西39・40mに位置する。上面規模は長軸0.98m、短軸0.9mを測り、平面形は不整形を呈する。深さは35cmで、IV層まで掘り込まれている。底面は凹凸が認められる。主軸方向は僧寺中軸より 31° 東偏している。覆土は褐色土主体で、形状から倒木痕と考えられる。

SK2134J土坑 (図面130)

GC22区に所在し、僧寺中軸線の北367・368m、西64・65mに位置する。上面規模は長軸1.12m、短軸0.94m、底面規模は長軸0.36m、短軸0.31mを測り、平面形は上面、底面ともに楕円形を呈する。深さは21cmで、断面形は半円形である。底面はIV層まで掘り込まれている。上面形の主軸方向は僧寺中軸より4°西偏し、底面形の主軸方向は14°西偏している。覆土は褐色土主体の自然堆積である。

SK2135J土坑 (図面130)

GE21区に所在し、僧寺中軸線の北372・373m、西62・63mに位置する。SI604Jと重複し、切っ
ているほか、南側が削平されている。上面規模は長軸1.03m、底面規模は長軸0.66m、短軸
0.57mを測り、平面形は上面が円形、底面が楕円形を呈すると推測される。深さは16cmで、IV
層まで掘り込まれている。底面の中央に径27×23cm、深さ10cmの小穴が1個認められた。主軸
方向は僧寺中軸より56°西偏している。覆土は暗茶褐色土主体の自然堆積である。

小穴 (図面110)

調査区全体に散在しており、1164個が認められた。深さは30cm以下のものが957個で全体の
82%を占め、50cmを超えるものは18個で僅か1.5%である。断面形は大きくU字状と半円形状
に分けられ、U字状のものが1164個中598個と全体の51%である。そのうち深さが40cmを超え
るものは63個(約10%)とごく僅かである。覆土は暗茶褐色土を主体としたものが大半である。

(4) 包含層出土の遺物 (図面131、90~130 図版133・134、40~62)

縄文土器

すべて小片で接合したものや、全体を何い知れるものは少ない。出土総数348点で、このう
ち大半を占めるのが早期と中期前半期の資料である。分布状況は包含層の遺存状態によっても
影響されるが、分布図から見ると遺物は調査区全体から出土している。部分的に疎密の差があ
り、431次調査地区東側の分布が少ないが、この部分からは歴史時代の住居、溝、小穴群等が
多く確認されておりこのためとも考えられる。全体的には、北西部に集中して認められる。早
期の土器は南側ほど分布密度が濃くなる。中期の土器は概して南側にも多く分布しているが、
この付近から五領ヶ台式期の住居が確認されており、この影響と考えられる。

早期の資料は185点のうち103点を図示。燃糸文系土器が13点、しかしこのうち図面90-3~
9は出土位置もほぼ近接し、同一個体の可能性が高い。図面90-10は口縁端部が肥厚し井草式
に該当するものと考えられるが、その他は不明である。その他は無文土器が167点と大半を占
める。口縁部の遺存するものは12点、このうち口縁部直下に沈線が巡るものが図面90-14~23
の10点でいわゆる東山式土器に該当すると思われる。その他の無文土器は、他の燃糸文系土器

や条痕文系土器等の無文部の可能性があるが、断定は出来ないものの、外面に擦痕を有するものが多く、図面90-24~26の口縁部の存在から平板式に該当するものと考えられる。ちなみに摺糸文系土器と胎土は異なっている。条痕文系土器は5点で、表裏ともに条痕文のもの、表面のみ条痕文のものがある。

前期の土器は縄文のみものと竹管の沈線文による山形文のものがある。

中期の資料は140点出土、うち39点を図示。このうち42点が五領ヶ台式土器で、阿玉台式土器7点、勝坂式土器10点、加曾利E式土器が26点出土している。その他は小片のため形式は不明であるが、胎土から五領ヶ台式土器と共通するものが多い。

後期の土器は3点と少ないが、図面93-2のように14点に割れ、出土したが、ほとんどが1か所から集中して出土したものである。

その他に土製円板2点が出土。いずれも土器片を再利用したものである。

石器

総数631点出土。分布状況は土器とほぼ同様であり、概して南側が多い。

尖頭器は1点のみ出土で、木葉型である。先端の一部を欠くがほぼ完形である。

石鏃は4点出土。うち3点は無茎で基部に抉り込みのあるもので、1点是有茎鏃である。

削器・掻器は43点出土、うち30点を図示。黒曜石製は1点のみで、他は剥片の一部の片面に調整を加えており両面調整のものは少ない。またほとんどのものが自然面を残している。

打製石斧は43点出土、うち29点を図示。小形で方形のもの、短冊形のもの、撥形のもの、分銅形のものがある。完形のもの半分は満たないが、図示したものは完形がほとんどである。短冊形のものが多いがその形態は様々で、多くは自然面を残している。

磨製石斧は2点のみの出土。いずれも破片であるが図面98-8は形態的に石棒の可能性もある。

調整剥片石器は32点出土、うち22点を図示。ほとんどは剥片の一部に僅かな調整を加えたもので、削器と明確に分類出来ないが、全体の形態が整っていないものや、調整面が連続していないものを調整剥片石器とした。中には摩擦のため調整痕の不明瞭なものもあるが、調整した可能性のあるものも広く含めた。大きさもまちまちで3cm程のものから8cm程のものまでである。

礫器は26点出土、うち15点を図示。大形礫の一部に調整を加えたもので、片面調整のもの、両面調整のものがある。また自然面をそのまま残したものが多く。

叩き石は7点出土、うち6点を図示。自然の礫をそのまま使用したものと、一部平坦面を造ったものがある。

磨石は79点出土、うち50点図示。ほとんどは円礫を用いているが、方形礫や不整形の礫を用いたものも認められる。表面は磨かれているが、明瞭に磨いたものは少ない。また側面には細かな敲打痕の認められるものが多い。表面ないし、表裏に窪みのあるものが多いが、その多く

は数ミリから、僅かに蔽いた程度のものがほとんどで、凹石のような窪みのあるものは少ない。

凹石は2点出土。但し前述の様に磨石の中に窪みのあるものもいくつか認められる。図面107-6は磨石に比べ大形で形態も異なるため、凹石に含めたものである。

扶入磨石は2点のみの出土で、いずれも小片である。

スタンプ形石器は156点出土、うち90点図示。後述の剥片とあわせると石器類の約半数を占める。スタンプ形石器は多種多様にわたるため、説明の便宜上大きく4種類に分類した(詳細は遺物編凡例参照)。

このように多くのスタンプ形石器が認められたが、底面に磨面などがあるものは少なく、磨面は認められないが、底面の縁辺部に微細な剝離痕が認められるものがあつた。

石皿は41点出土、うち13点を図示。完形のもは1点のみでその他はほとんど破片であつた。中央部に窪みの認められるものは少なく、ほとんどが自然礫をそのまま用いていた。多くは扁平な礫を用いている。

台石は26点出土し、うち7点図示。形態は様々で、石皿に含めたように形態的に整つたもの以外で、一部に磨面や敲打痕の確認できたものを台石として取り扱つた。

石匙は1点のみ出土し、縦型で粗製大形のものである。

剥片は161点出土し、うち54点を図示。扁平に人為的に割つたものを一括して取り扱つた。中には石器の未製品や調整痕や使用痕の可能性のある剝離の認められるものも含まれる。またチャート・頁岩製のものもあり、石器製作を伺わせるものと考えられる。

石核と認められるものは1点のみの出土であつた。しかし同一母岩の剥片は認められない。

浮子は1点出土し、歴史時代の住居覆土中からの出土であるが、縄文時代の遺物として取り扱つた。表面は風化しているため明瞭な加工痕は認められないが、上部に径約6mm程の完通孔が認められる。

不明石製品としたものは6点出土、うち1点図示。一部に磨面らしきものなど自然面とは考えられない部分が認められるものを一括して取り扱つた。従つて用途は不明である。

礫は1009点出土し、他の遺物とほぼ同様な分布状況を示している。このうち明瞭に焼礫と認められるものは435点である。このように縄文時代包含層出土遺物の45%が礫であつた。人為的な剝離痕の認められないものはすべて礫として扱つた。用途は不明であるが、中にはチャート・頁岩等も多く認められた。

(5) 旧石器時代の調査

調査は6×6mの調査坑を調査区に均等に30か所配置し、X層まで実施した。

石器集中部(ユニット)

ST2ユニット (図面133、130・131 図版160・161、62・63)

調査坑T、GJ・GK26区に所在し、僧寺中軸線の北389～391m、西76～78mに位置する。確認された層位はVb層中層から下層にかけてで、平面的な広がりには1.5m×1.0m垂直方向の広がりには約20cmである。

遺物は18点出土。頁岩製の剥片が主体で15点、石核2・叩き石1点が出土した。

ST3ユニット (図面133、131・132 図版162・163、63)

調査坑W、GH・GI37・38区に所在し、僧寺中軸線の北381～386m、西109～113mに位置する。確認された層位はVa層上層で、平面的な広がりには3.7m×1.8m垂直方向広がりには約20cmである。

遺物は9点出土。黒曜石製ナイフ形石器2点が出土した。他は剥片で、一部僅かに調整痕のあるものも認められた。

その他に調査坑N、Q、R、ACから石器が他出土した。図面132-4～6は石核、図面132-7は剥片、図面132-8は石錐の先端と考えられる。出土層位は、調査坑N、Q、ACがV層、調査坑RがVI層である。

4. 437次調査（平成8年度土地区画整理事業 国3・4・3号道路北側拡幅に伴う 事前調査地区）

(1) 概要

本調査地区は国3・4・3号道路（多喜窪通り）の北側拡幅に伴う事前調査で、工事に支障の
でる箇所を撤去するものであるため変則的な調査区となっている。調査総面積は239.0㎡で、
確認された遺構は、歴史時代が竪穴住居1軒、土坑1基、小穴70個、縄文時代が土坑1基、小穴
64個である。

(2) 歴史時代の調査

竪穴住居

SI555住居（図面135、133・134 図版167、64）

HQ・HR 4・5区に所在し、僧寺中軸線の北470～472m、西10～13mに位置する。南西側の大半
が調査区外に延びているほか、北西側の一部が削平されている。規模は東西2.7m、南北は東
壁での確認長1.28mで、平面形は方形を呈すると推測される。壁はやや外傾して立ち上がり、
深さは16cmで、壁下には幅16cm、床面からの深さ9cmの周溝がカマド部分を除き囲繞している。
床面は粗掘りの後暗茶褐色土で平らに埋め戻した貼床で、カマド前面付近が硬く締まっていた。
主軸方向は僧寺中軸より32°東偏している。

カマドは北壁で2か所、東壁で1か所確認された。そのため便宜上東から順にA～Cカマド
として扱うこととする。

Aカマド 東壁中央から北寄りに壁を掘り込んで施設されていた。壁外への掘り込みは、幅
約80cm、奥行き約27cmの楕円形で、奥壁部分に女瓦が直立する形で出土し、構築材として使用
されたものと推測される。火床は56×45cm、深さ9cm程楕円形に粗掘りした後、暗茶褐色土で
平らに埋め戻して使用し、中央付近が20×25cm、厚さ5cmの範囲で赤く焼けていた。主軸方向
は僧寺中軸より114°東偏している。覆土は焼土混じりの明黒褐色土である。

Bカマド 北壁中央から東寄り、Cカマドの東側の壁を掘り込んで施設されていた。壁外
への掘り込みは、幅62cm、奥行き25cmの丸味のある方形で、奥壁部分に女瓦が直立する形で出
土し、構築材として使用されたものと推測される。火床は50×65cm、深さ12cm程楕円形に粗掘
りした後、暗茶褐色土で平らに埋め戻して使用し、中央付近が40×32cm、厚さ6cmの範囲で赤
く焼けていた。また、赤く焼けた部分の中央付近に長さ24cm、幅10cm、厚さ8cmの川原石の下
半分が埋め込まれ、直立した状態で検出された。状況から支脚として使用されたものと考えら
れる。主軸方向は僧寺中軸より35°東偏している。覆土は焼土混じりの明黒褐色土である。

Cカマド 北壁中央から東寄り、Bカマドの西側の壁を掘り込んで施設されていた。壁外への掘り込みは、幅約55cm、奥行き23cmの楕円形であったと推測される。火床は径35cm、深さ5cm楕円形に粗掘りした後、暗茶褐色土で平らに埋め戻して使用し、中央付近の35×32cm、厚さ5cmの範囲が赤く焼けていた。主軸方向は僧寺中軸より29°東偏している。覆土は焼土混じりの明黒褐色土である。

3か所のカマドの新旧関係は明確ではないが、支脚の遺存等からBカマドが最も新しく、A→Cの順と推測されるが断定は難しい。

遺物はカマド付近から集中して出土した。

出土遺物総数は104点で、土師器・坏15、甕26、不明1、須恵器A・坏13、須恵器B・坏11、土師質土器・坏12、高台付坏2、灰釉陶器・碗1、皿1、男瓦2、女瓦19、埴1、その他に磁が3点である。

土坑

SK1775土坑(図面135、134 図版167)

HP・HQ33区に所在し、僧寺中軸線の北467・468m、西97・98mに位置する。東側が調査区外に延びている。上面規模は確認長軸0.72m、短軸0.64m、底面規模は確認長軸0.56m、短軸0.25mで、平面形は上面、底面ともに長方形を呈する。深さは38cmで、断面形は逆台形である。底面はほぼ平らである。主軸方向は僧寺中軸より75°西偏している。覆土は明黒褐色土を主体とした自然堆積である。

遺物は覆土中より土師質土器の坏片が1点出土した。

小穴(図面134、134)

調査区中央付近で70個が確認された。規模は径24～51cm、平面形は楕円形、深さは16～67cmで、一部重複が認められる。規模は30cm前後のものが大半を占めるが、深さに関してはばらつきが認められる。これらは隣接して位置する444次調査区に延びており、東西方向(僧寺中軸とはほぼ直交)に列を形成しているように見られる。覆土は明黒褐色土を主体とした自然堆積である。

遺物はP-4・6から土師器・甕、P-26の覆土中より須恵器Bの坏片のほか、P-60から土師器・不明2、P-9・31・62から男瓦片が出土した。

(3) 縄文時代の調査

土坑

SK1774J土坑(図面177 図版215)

本跡は今次數で1/4を調査し、444次調査(国3・4・3号道路北側拉幅地区1次調査)で全体

を調査していることから、後述することとする。

小穴（図面134）

調査区全体から散在して64個が確認された。規模は径24～51cm、平面形は楕円形、深さは16～67cmで、一部重複が認められる。規模は30cm前後のものが大半を占めるが、深さに関してはばらつきが認められる。覆土は暗茶褐色土を主体とした自然堆積である。

(4) 包含層出土の遺物（図面135 図版64）

本調査区は変則的な調査であるため出土した遺物は少ない。

縄文土器は2点のみ出土で、早期の条痕文土器と中期の土器であったが、中期のものは遺存状況が不良なため図示しなかった。

打製石斧は1点出土し、短冊形であった。

礫器は1点出土し、大形礫の下部に連続して調整痕が認められたため、礫器とした、裏面は自然面を遺していた。

磨石は2点出土。図面135-5はスタンプ形石器に似るが、不明瞭ながら全体に磨面が認められるため磨石とした。

スタンプ形石器は4点出土、うち3点を図示。そのうち2点は欠損していた。いずれも形態は一定しない。また図面135-8はスタンプ形石器とするには疑問もあるが、底面が平らに割れていること、両側面が僅かに挟れる形態のため、スタンプ形石器とした。

礫は3点のみ出土し、このうち焼礫は2点であった。

5. 442次調査(平成9年度泉町公園事業 池本体地区)

(1) 概要

本調査地区は泉町公園北地区にある池部分の調査で、旧鉄道学園の建物等によって各所が削平されていた。調査面積は3,481.15㎡で、確認された遺構は歴史時代が掘立柱建物1棟、竪穴住居2軒(うち1軒は鍛冶工房)、溝3条、土坑8基、小穴40個、縄文時代が土坑56基(うち陥穴6基)、小穴425個である。また、旧石器時代の調査は6×6mの調査坑を8か所設定し実施した。確認された遺構は石器集中部(ユニット)1基、土坑1基である。

(2) 歴史時代の調査

掘立柱建物

SBI59掘立柱建物(図面137 図版171)

IC~IE26・27区に所在し、僧寺中軸線の北488~493m、東78~82mに位置する。南東の柱穴の西側が削平され、南側が調査区外に延びている。東西1間×南北2間の南北棟で、僧寺中軸より9°東偏している。規模は、桁行が4.08m、梁行が2.95mで、柱間は西側で南から2.2m+1.88m、東側で2.1m+1.98mである。柱穴は24~54cmの円形もしくは楕円形を呈する。深さは28~82cmでV_a層まで掘り込まれているものも認められる。柱痕跡は認められなかった。

竪穴住居

SI559住居(図面138・139、136~140 図版171~173、65~67)

IG・IH33・34区に所在し、僧寺中軸線の北498~502m、東100~104mに位置する。東側と西側の一部が削平されており、規模は東西3.32m、南北3.22mで、平面形は方形を呈する。壁はほぼ垂直に立ち上がり、深さは23cmで、壁下には幅16~24cm、床面からの深さ8~12cmの周溝が圍繞している。床面はローム直床でほぼ平らである。床面中央付近には鍛冶炉と考えられる焼土を含む小穴2個が認められたほか、その周辺から鉄滓、鍛造剥片が検出されたことから本跡は鍛冶工房と推測される。長軸方向は僧寺中軸より74°西偏している。覆土は明黒褐色土を主体とした自然堆積である。

鍛冶炉1は上面径34cm、底面径20cmの円形で、床面からの深さは13cm、断面形は丸味のある逆台形である。鍛冶炉2は上面規模が48×16cm、底面規模が39×9cmの長楕円形で、床面からの深さは11cm、断面形は逆台形である。2基の炉の遺存状況は悪く、炉内の壁面は熱を受けガサガサした状態であったが、赤化した部分は認められなかった。覆土中からは精査の結果、鉄滓、鍛造剥片、粒状滓が検出された。

カマドは東壁中央からやや南寄りで見られ、壁外への掘り込みは東壁の大半が削平されて

いるため明確ではないが、火床の位置などからごく僅かに掘り込まれていたか、掘り込みがなく屋内に施設されたものと推測される。袖等は壊されて遺存しているのは火床のみであった。火床は東西残存長90cm、南北66cm、深さ33cmで、楕円形に掘り込んだ後、暗茶褐色土で平らに埋め戻して使用されており、65×45cm、厚さ8cmの範囲で赤く焼けていた。主軸方向は僧寺中軸より106°東偏している。

遺物は中央部の床面付近から出土し、接合したものが多し。また、全体から焼酎鉄滓を含む鉄滓が多量に、しかも全体に大きいものが多く出土した。また覆土から多量の鍛造刺片が出土している。図面136-7・12の内面は高温のため発泡しており、取崩の可能性がある。また7の内面の一部には緑青が吹いている。

出土遺物総数は230点で、土師器・甕44、台付甕2、須恵器A・坏58、高台付坏1、蓋1、甕1、須恵器B・坏8、土師質土器・坏22、灰釉陶器・碗3、緑釉陶器・瓿碗1、男瓦5、女瓦25、不明瓦1、輪の羽口片10、鉄製品・釘6、鋳滓10、鉄滓28、不明鉄製品3、不明石製品1、その他に礫が34点出土した。

S1560住居 (図面140、141 図版174、67-68)

I0・IP16・17区に所在し、僧寺中軸線の北523～526m、東49～52mに位置する。北西側が削平されており、規模は東西2.76m、南北2.46mで、平面形は長方形を呈する。壁はほぼ垂直に立ち上がり、深さは35cmである。壁下には幅12～18cm、床面からの深さ3～8cmの周溝が北東隅の一部を除き圍繞している。床面は全体を約10cm粗掘りした後、暗茶褐色土で平らに埋め戻して貼床し、ほぼ平らである。長軸方向は僧寺中軸線より81°西偏している。

カマドは北壁中央より東寄りに壁を掘り込んで構築されていた。壁外への掘り込みは幅54cm、奥行き15cmの半円形で、袖は幅16～19cm、壁からの長さ20～25cm、高さ5cm程白色粘土混じりの暗茶褐色土で作られていた。火床は53×73cm、深さ20cmで楕円形に掘り込んだ後、暗茶褐色土で平らに埋め戻して使用され、中央付近が20×33cm、厚さ6cmの範囲で赤く焼けていた。焼土範囲北端には長さ16cm、厚さ5cmの棒状の川原石が倒れたような状況で確認され、使用状況は留めていないが支脚に使用されたものと考えられる。主軸方向は僧寺中軸より13°東偏している。

遺物はカマドの前面付近に集中し、多くが床面付近から出土した。

出土遺物総数66点で、土師器・坏1、甕27、須恵器A・坏3、須恵器B・坏13、高台付鉢1、土師質土器・坏11、灰釉陶器・碗2、男瓦3、女瓦3、炭化種子2、その他に礫が11点出土した。

溝

SD323溝 (図面141、142 図版175、68)

IL~JD11~13区に所在し、僧寺中軸線の北513~551m、東35~40mに位置する。SK1816と重複し、切っているほか、各所で削平を受け、旧状を留めていない箇所もある。北側は調査区外に延び、隣接する421次調査の池護岸地区でその延びが確認されている。規模は残存長38.32m、上面幅0.64~1.24m、底面幅0.54~1.02m、深さ5~13cmで、断面形は半円形である。JA~JC区は他の部分よりやや幅が広く、上面幅1.76m、底面幅1.36m、深さ37cmと他の部分と様相が異なる。主軸方向は僧寺中軸より6°東偏している。覆土は明黒褐色土の自然堆積である。

遺物は覆土上層から土師質土器の高台付坏片1のほか、女瓦1、不明鉄製品1、礫・焼礫各1点が出土した。

SD332溝 (図面143 図版175・176)

JC8~JG8・9区に所在し、僧寺中軸線の北548~559m、東26~29mに位置する。北、南端は削平されており、規模は残存全長11.52m、上面幅0.42~0.54m、底面幅0.24~0.36mで、やや弧を描くがほぼ直線で南北に延びている。深さ10~15cmで、断面形は半円形である。主軸方向は僧寺中軸より12°東偏している。覆土は明黒褐色土の自然堆積である。

SD333溝 (図面142、142 図版176~178、68)

IG17~IN19・20区に所在し、僧寺中軸線の北499~521m、東52~60mに位置する。南側は調査区外に延び、北端の東側のほか各所で削平を受けている。規模は確認全長23.32m、上面幅1.3~1.52m、底面幅0.78~0.9mで、ほぼ直線で南北に延び、1019区で東に折れている。底面はIV層まで掘り込まれ、断面形は中程に稜をもつ逆台形である。深さは南側で74cm、北側で47~53cmと北に向かってやや浅くなっている。溝中程には規模74×52cmの不整形で、底面からの深さ17cmの掘り込みが認められた。主軸方向は僧寺中軸より17°東偏している。覆土は明黒褐色土主体の自然堆積であるが、一部(E-E')で埋積土の掘り返し(溝さらい)をしたと考えられる痕跡が認められる。

遺物は北側の東側に折れ曲がる付近の覆土上層から土師器・甕15、須恵器A・坏2、壺5、B・坏8、土師質土器・坏10、高台付坏1、男瓦6、女瓦3、焼礫5のほか、南側の覆土上層から土師質土器のほぼ完形の高台付坏1点などが出土した。

土坑

SK1815土坑 (図面143 図版179)

JA・JB13・14区に所在し、僧寺中軸線の北541m、東41~42mに位置する。大半が削平されており、上面の残存規模は長軸0.74m、短軸0.32m、底面規模は長軸0.58m、短軸0.22mで、平面形は円形を呈すると推測される。深さは20cmで、断面形は逆台形である。覆土は明黒褐色土主体の自然堆積である。

SK1816土坑 (図面143)

IT12区に所在し、僧寺中軸線の北538m、東37mに位置する。SD323と重複し、切られている。上面の残存規模は径0.5mで、平面形は円形を呈すると推測される。深さは36cmである。覆土は明黒褐色土主体の自然堆積である。

SK1817土坑 (図面136)

IS13区に所在し、僧寺中軸線の北536m、東41mに位置する。大半が削平されており、上面の残存規模は長軸0.5m、短軸0.34mで、平面形は判断し難い。深さは24cmである。覆土は明黒褐色土主体の自然堆積である。

SK1818土坑 (図面143 図版179)

IO13・14区に所在し、僧寺中軸線の北523・524m、東40～42mに位置する。東側が削平されている。上面規模は残存長軸1.66m、短軸1.42m、底面規模は残存長軸1.02m、短軸1.0mで、平面形は上面、底面ともに円形を呈すると推測される。深さは33cmで、断面形は逆台形である。主軸方向は僧寺中軸より90°東偏している。覆土は明黒褐色土主体の自然堆積である。

SK1819土坑 (図面143 図版179)

IP18区に所在し、僧寺中軸線の北526・527m、東56mに位置する。上面規模は長軸0.72m、短軸0.54m、底面規模は長軸0.48m、短軸0.26mで、平面形は上面、底面ともに楕円形を呈する。深さは13cmで、断面形は逆台形である。主軸方向は僧寺中軸より79°東偏している。覆土は明黒褐色土主体の自然堆積である。

SK1820土坑 (図面143 図版179)

IP18・19区に所在し、僧寺中軸線の北526・527m、東56・57mに位置する。上面規模は長軸0.78m、短軸0.58m、底面規模は長軸0.42m、短軸0.28mで、平面形は上面、底面ともに楕円形を呈する。深さは18cmで、断面形は半円形である。主軸方向は僧寺中軸より17°西偏している。覆土は明黒褐色土主体の自然堆積である。

SK1821土坑 (図面143 図版177、179)

IN19・20区に所在し、僧寺中軸線の北520・521m、東59・60mに位置する。SD333と重複し、切っており、東側は削平されている。本跡はSD333の覆土中に掘り込まれており、上面の残存規模は長軸1.20m、短軸1.48m、底面規模は残存長軸0.89m、短軸0.72mで、平面形は隅丸長方形を呈すると推測される。深さは21cmで、断面形は逆台形である。主軸方向は僧寺中軸より82°東偏している。覆土は上部に焼土が認められたが、全体としては明黒褐色土主体の自然堆積である。

SK1822土坑 (図面143 図版179)

IH36区に所在し、僧寺中軸線の北502・503m、東109・110mに位置する。北、西側の大半が調査区外に延びており、上面の確認規模は東西1.1m、底面の確認規模は東西1.04mである。平

面形は上面、底面ともに円形を呈すると推測される。深さは15cmで、断面形は逆台形である。

覆土は明黒褐色土主体の自然堆積である。

小穴 (図面139、143)

調査区全体に散在して40個が確認された。上面規模10～70cm、深さ7～80cmで、上面規模40cm以下、深さ30cm以下のものが23個と半数を占める。また、断面形は半円形のもの29個と70%を超えている。覆土は明黒褐色土主体である。

遺物はP-7の覆土中より須恵器A・坏3、B・坏1、土師器土器・坏1、P-11から土師質土器の坏1点が出土した。

(3) 縄文時代の調査

土坑

SK1835J土坑 (図面145)

JN7区に所在し、僧寺中軸線の北580m、東21mに位置する。上面規模は長軸0.78m、短軸0.76m、底面規模は径0.22mで、平面形は上面、底面ともに円形を呈する。底面はIV層まで掘り込まれており、深さは21cmで、断面形は半円形である。主軸方向は僧寺中軸より29°西偏している。覆土は暗茶褐色土主体の自然堆積である。

SK1836J土坑 (図面145 図版181)

JN10区に所在し、僧寺中軸線の北579・580m、東30mに位置する。上面規模は長軸0.8m、短軸0.58m、底面規模は長軸0.34m、短軸0.24mで、平面形は上面、底面ともに楕円形を呈する。底面はIV層下部まで掘り込まれており、深さは36cmで、断面形は半円形である。主軸方向は僧寺中軸より39°西偏している。覆土は暗茶褐色土主体の自然堆積である。

SK1837J土坑 (図面145 図版181)

JM7区に所在し、僧寺中軸線の北576～578m、東22・23mに位置する。PJ-23と重複し、切られている。上面規模は長軸1.6m、短軸1.16m、底面規模は長軸0.36m、短軸0.24mで、平面形は上面、底面ともに楕円形を呈する。底面はVa層上面まで掘り込まれており、深さは42cmで、断面形は半円形である。主軸方向は僧寺中軸より18°西偏している。覆土は暗茶褐色土主体の自然堆積である。

SK1838J土坑 (図面145 図版181)

J1・JJ5・6区に所在し、僧寺中軸線の北566・567m、東17・18mに位置する。上面規模は長軸0.99m、短軸0.72m、底面規模は長軸0.24m、短軸0.18mで、平面形は上面、底面ともに楕円形を呈する。底面はVa層上面まで掘り込まれており、深さは36cmで、断面形は半円形である。主軸方向は僧寺中軸より42°東偏している。覆土は褐色土主体の自然堆積である。

SK1839J土坑 (図面145 図版181)

JE・JG 6・7区に所在し、僧寺中軸線の北556～558m、東20～22mに位置する。PJ-69と重複し、切られている。上面規模は残存長軸1.96m、短軸0.9m、底面規模は長軸1.12m、短軸0.38mで、平面形は上面、底面ともに長楕円形を呈する。深さは56cmで、断面形は逆台形である。底面はVa層まで掘り込まれ、やや凹凸が認められる。主軸方向は僧寺中軸より57°東偏している。覆土は暗茶褐色土主体の自然堆積である。

SK1840J土坑 (図面145 図版181)

JE・JF 6区に所在し、僧寺中軸線の北554・555m、東18・19mに位置する。北西側が一部削平されている。上面規模は長軸0.8m、短軸0.6m、底面規模は長軸0.2m、短軸0.19mで、平面形は上面が楕円形、底面が円形を呈する。底面はIV層の下層まで掘り込まれ、深さは30cmで、断面形は半円形である。主軸方向は僧寺中軸より50.5°東偏している。覆土は暗茶褐色土主体の自然堆積である。

SK1841J土坑 (図面145 図版181)

JG・JH 4区に所在し、僧寺中軸線の北560・561m、東12・13mに位置する。上面規模は長軸0.8m、短軸0.7mで、平面形は楕円形を呈する。底面はIV層まで掘り込まれ、南側がやや窪んでいる。深さは25cmで、主軸方向は僧寺中軸より48°西偏している。覆土は暗茶褐色土主体の自然堆積である。

SK1842J土坑 (図面145 図版182)

JE・JF 3・4区に所在し、僧寺中軸線の北554・555m、東11・12mに位置する。上面規模は長軸1.02m、短軸0.96mを測り、平面形は不整形を呈する。底面はIV層まで掘り込まれ、凹凸が認められる。深さは29cmで、主軸方向は僧寺中軸より86°西偏している。覆土は暗茶褐色土主体で、形状から倒木痕と考えられる。

SK1843J土坑 (図面145)

JE 4区に所在し、僧寺中軸線の北552・553m、東12～14mに位置する。上面規模は長軸1.36m、短軸0.96m、底面規模は長軸1.12m、短軸0.84mで、平面形は不整楕円形を呈する。底面はIV層上部まで掘り込まれ、深さは20cmである。断面形は逆台形で、底面の中央には深さ10cmの小穴が認められる。主軸方向は僧寺中軸より60°東偏している。覆土は暗茶褐色土主体の自然堆積である。

SK1844J土坑 (図面146)

JE 6・7区に所在し、僧寺中軸線の北553・554m、東20・21mに位置する。南東側の大半が削平されており、上面の残存規模は長軸1.06m、短軸0.34mで、平面形は楕円形を呈すると推測される。底面はIV層下部まで掘り込まれており、深さは34cmである。覆土は暗茶褐色土主体の

自然堆積である。

SK1845J土坑 (図面146)

JD 5 区に所在し、僧寺中軸線の北550・551m、東15・16mに位置する。上面規模は長軸0.82m、短軸0.72m、底面規模は長軸0.28m、短軸0.2mで、平面形は上面、底面ともに不整形円形を呈する。底面はIV層まで掘り込まれ、深さは29cmで、断面形は半円形である。主軸方向は僧寺中軸より45°西偏している。覆土は暗茶褐色土主体の自然堆積である。

SK1846J土坑 (図面146)

JD 5 区に所在し、僧寺中軸線の北550・551m、東17mに位置する。上面規模は長軸0.94m、短軸0.8m、底面規模は長軸0.82m、短軸0.68mで、平面形は上面、底面ともに楕円形を呈する。深さは23cmで、断面形は逆台形である。底面はIV層中層まで掘り込まれ、中央がやや窪んでいる。主軸方向は僧寺中軸より21°東偏している。覆土は暗茶褐色土主体の自然堆積である。

SK1847J土坑 (図面146)

JE 7 区に所在し、僧寺中軸線の北552・554m、東22・23mに位置する。上面規模は長軸2.38m、短軸0.94mを測り、平面形は不整形楕円形を呈する。底面はIV層まで掘り込まれ、凹凸が認められる。深さは26cmで、主軸方向は僧寺中軸より46°東偏している。覆土は暗茶褐色土主体の自然堆積である。

SK1848J土坑 (図面146)

JE 7・8 区に所在し、僧寺中軸線の北552・553m、東23・24mに位置する。上面規模は長軸1.64m、短軸1.26mで、平面形は不整形を呈する。深さは34cmで、断面形は逆台形である。底面はIV層下層まで掘り込まれ、凹凸が認められた。主軸方向は僧寺中軸より22°東偏している。覆土は暗茶褐色土主体で、形状から倒木痕と考えられる。

SK1849J土坑 (図面146 図版182)

JD・JE 8 区に所在し、僧寺中軸線の北551・552m、東25mに位置する。上面規模は長軸0.82m、短軸0.74m、底面規模は長軸0.32m、短軸0.16mを測り、平面形は上面、底面ともに円形を呈する。深さは36cmで、断面形は半円形である。底面はVa層上層まで掘り込まれている。上面の主軸方向は僧寺中軸より65°東偏し、底面の主軸方向は25°西偏している。覆土は暗茶褐色土主体の自然堆積である。

SK1850J土坑 (図面146 図版182)

JC 5 区に所在し、僧寺中軸線の北547・548m、東16・17mに位置する。東側の一部が削平されている。上面規模は長軸1.62m、短軸0.92m、底面規模は長軸1.42m、短軸0.36mで、平面形は上面、底面ともに隅丸長方形を呈する。深さは55cmで、断面形は逆台形である。底面はVa層まで掘り込まれており、平らである。主軸方向は僧寺中軸より31°西偏している。覆土は暗

茶褐色土主体の自然堆積である。形状から陥穴と考えられる。

SK1851J土坑 (図面146 図版182)

JJ8・9区に所在し、僧寺中軸線の北568m、東26・27mに位置する。上面規模は長軸0.88m、短軸0.8m、底面規模は長軸0.26m、短軸0.24mで、平面形は上面が不整円形、底面が円形を呈する。深さは32cmで、断面形は半円形である。底面はVa層まで掘り込まれている。主軸方向は僧寺中軸より41°西偏している。覆土は暗茶褐色土主体の自然堆積である。

SK1852J土坑 (図面146 図版182)

IQ・IR9区に所在し、僧寺中軸線の北530・531m、東28・29mに位置する。上面規模は長軸0.88m、短軸0.86m、底面規模は長軸0.58m、短軸0.5mを測り、平面形は上面、底面ともに円形を呈する。底面はIV層の下層まで掘り込まれており、深さは34cmで、断面形は半円形である。主軸方向は僧寺中軸より84°東偏している。覆土は暗茶褐色土主体の自然堆積である。

SK1853J土坑 (図面147)

IP12区に所在し、僧寺中軸線の北526・527m、東37mに位置する。SD323内にあり、切られている。IIIb層上層で確認され、上面規模は長軸0.86m、短軸0.38m、底面規模は長軸0.48m、短軸0.16mで、平面形は楕円形を呈する。深さは30cmで、IIIb層下層まで掘り込まれている。主軸方向は僧寺中軸より11°西偏している。覆土は暗茶褐色土主体の自然堆積である。

SK1854J土坑 (図面147)

IP・IQ9・10区に所在し、僧寺中軸線の北527・528m、東29～31mに位置する。上面規模は長軸1.3m、短軸0.94m、底面規模は長軸1.0m、短軸0.44mで、平面形は上面、底面ともに楕円形を呈する。深さは23cmで、断面形は半円形である。底面はIV層まで掘り込まれている。主軸方向は僧寺中軸より73°西偏している。覆土は暗茶褐色土主体の自然堆積である。

SK1855J土坑 (図面147 図版182)

IP・IQ13区に所在し、僧寺中軸線の北527・528m、東40・41mに位置する。PJ-139・141と重複し、ともに切られている。上面規模は残存長軸1.16m、短軸0.9m、底面規模は長軸0.64m、短軸0.5mで、平面形は上面、底面ともに楕円形を呈する。深さは40mで、断面形は逆台形である。底面はVa層まで掘り込まれており、平らである。主軸方向は僧寺中軸より28°西偏している。覆土は暗茶褐色土主体の自然堆積である。

SK1856J土坑 (図面147 図版182)

IP10区に所在し、僧寺中軸線の北526・527m、東32mに位置する。東半分が削平されている。上面規模は残存長軸0.68m、短軸0.5m、底面規模は残存長軸0.64m、短軸0.4mで、平面形は上面、底面ともに楕円形を呈すると推測される。深さは26cmで、断面形は逆台形である。底面はIV層まで掘り込まれており、平らである。主軸方向は僧寺中軸より58°西偏している。覆土

は暗茶褐色土主体の自然堆積である。

SK1857J土坑 (図面147)

IP12区に所在し、僧寺中軸線の北526・527m、東36・37mに位置する。上面規模は長軸0.96m、短軸0.74m、底面規模は長軸0.52m、短軸0.46mで、平面形は上面が楕円形、底面が円形を呈する。深さは32cmで、断面形は逆台形である。底面はVa層まで掘り込まれ、平らである。主軸方向は僧寺中軸より71°西偏している。覆土は暗茶褐色土主体の自然堆積である。

SK1858J土坑 (図面147、144 図版183、69)

IM・IN15・16区に所在し、僧寺中軸線の北518・519m、東47・48mに位置する。上面規模は長軸1.05m、短軸0.94m、底面規模は長軸0.84m、短軸0.66mで、平面形は円形、底面は楕円形を呈する。深さは32cmで、断面形は逆台形である。底面はIV層まで掘り込まれ、西側がやや窪んでいるが全体としては平らである。主軸方向は僧寺中軸より44°東偏している。覆土は暗茶褐色土主体の自然堆積である。

遺物は覆土中より縄文土器深鉢4片が出土した。時期は出土土器より称名寺I式期と考えられる。

SK1859J土坑 (図面147 図版183)

IM16区に所在し、僧寺中軸線の北516・517m、東48～50mに位置する。西側の一部が削平されている。上面規模は残存長軸1.46m、短軸0.88mで、平面形は不整楕円形を呈する。底面はIV層まで掘り込まれ、西側が一段深くなっている。深さは最も深い西側で33cmである。主軸方向は僧寺中軸より78°東偏している。覆土は暗茶褐色土主体の自然堆積である。

SK1860J土坑 (図面147)

IM・IN11・12区に所在し、僧寺中軸線の北517～520m、東34～37mに位置する。中央部と西側が削平されており、遺存状況は良くない。PJ-183と重複し、切られている。上面規模は残存長軸3.62m、短軸0.88m、底面規模は残存長軸3.51m、短軸0.65mで、平面形は上面、底面ともに長楕円形を呈すると推測される。底面はIV層上層まで掘り込まれ、やや凹凸が認められるが、ほぼ平らである。深さは15cmである。主軸方向は僧寺中軸より41°東偏している。覆土は暗茶褐色土主体の自然堆積である。

SK1861J土坑 (図面147)

IM12・13区に所在し、僧寺中軸線の北516～518m、東36～39mに位置する。中央部分、南側が削平されており、遺存状況は良くない。上面規模は長軸3.2m、短軸1.6m、底面規模は長軸1.6m、短軸1.38mを測り、平面形は上面、底面ともに不整楕円形を呈すると推測される。深さは29cmで、断面形は逆台形である。底面はIV層下層まで掘り込まれており、平らである。主軸方向は僧寺中軸より44°東偏している。覆土は暗茶褐色土主体の自然堆積である。

SK1862J土坑 (図面148 図版183)

IL12区に所在し、僧寺中軸線の北514・515m、東37mに位置する。東側が削平されている。上面の残存規模は長軸0.9m、短軸0.6m、底面の残存規模は長軸0.72m、短軸0.42mで、平面形は上面、底面ともに楕円形を呈すると推測される。深さは18cmで、断面形は逆台形である。底面はIV層上層まで掘り込まれており、平らである。主軸方向は僧寺中軸より35°東偏している。覆土は暗茶褐色土主体の自然堆積である。

SK1863J土坑 (図面148)

IL17区に所在し、僧寺中軸線の北514・515m、東52・53mに位置する。上面規模は長軸1.58m、短軸0.52m、底面規模は長軸1.28m、短軸0.16mで、平面形は上面、底面ともに長楕円形を呈する。底面はIV層まで掘り込まれている。深さは25cmで、断面形は半円形である。主軸方向は僧寺中軸より26°西偏している。覆土は暗茶褐色土主体の自然堆積である。

SK1864J土坑 (図面148 図版183)

IL17区に所在し、僧寺中軸線の北513・514m、東51・52mに位置する。上面規模は長軸1.06m、短軸0.94m、底面規模は長軸0.2m、短軸0.16mで、平面形は楕円形を呈する。底面はVa層まで掘り込まれている。深さは83cmで、断面形は半円形である。主軸方向は僧寺中軸より81°西偏している。覆土は暗茶褐色土主体の自然堆積である。

SK1865J土坑 (図面148 図版183)

IL18区に所在し、僧寺中軸線の北515m、東55・56mに位置する。上面規模は長軸1.0m、短軸0.66m、底面規模は長軸0.24m、短軸0.1mで、平面形は楕円形を呈する。深さは41cmで、断面形は半円形である。底面はIV層まで掘り込まれている。主軸方向は僧寺中軸より61°東偏している。覆土は褐色土主体の自然堆積である。

SK1866J土坑 (図面148 図版183)

IJ15区に所在し、僧寺中軸線の北508m、東46・47mに位置する。上面規模は長軸0.82m、短軸0.66m、底面規模は長軸0.55m、短軸0.38mで、平面形は上面、底面ともに楕円形を呈する。深さは33cmで、断面形は逆台形である。底面はIV層まで掘り込まれ、平らである。底面東側に径30cm、深さ12cmの小穴1個が認められた。主軸方向は僧寺中軸より78°西偏している。覆土は暗茶褐色土主体の自然堆積である。

SK1867J土坑 (図面148)

II17区に所在し、僧寺中軸線の北505・506m、東51・52mに位置する。PJ-228と重複し、切られている。上面規模は残存長軸1.3m、短軸0.65m、底面規模は残存長軸1.04m、短軸0.33mで、平面形は楕円形を呈する。深さは16cmで、断面形は逆台形である。底面はIV層まで掘り込まれており、南側がやや窪んでいる。主軸方向は僧寺中軸より26°西偏している。覆土は暗茶

褐色土主体の自然堆積である。

SK1868J土坑 (図面148 図版183)

IJ・IK22・23区に所在し、僧寺中軸線の北509・510m、東68～70mに位置する。上面規模は長軸1.45m、短軸0.78m、底面規模は長軸1.24m、短軸は西側で0.4m、中央で0.28mで、平面形は上面で楕円形、底面は撥形を呈する。深さは118cmで、Vb層まで掘り込まれており、断面形は逆台形である。底面は平らで、長軸方向に径11cm、深さ20～22cmの棒状痕が2個認められた。上面形の主軸方向は僧寺中軸より68°西偏し、底面形の主軸方向は75°西偏している。覆土は暗茶褐色土主体の自然堆積である。形状から陥穴と考えられる。

SK1869J土坑 (図面148 図版184)

IK18・19区に所在し、僧寺中軸線の北510・511m、東56・57mに位置する。西側の一部が削平されている。上面規模は長軸1.26m、残存短軸1.1m、底面規模は長軸0.8m、短軸0.62mを測り、平面形は上面、底面ともに楕円形を呈すると推測される。深さは37cmで、Va層上層まで掘り込まれており、断面形は半円形である。主軸方向は僧寺中軸より67°西偏している。覆土は暗茶褐色土主体の自然堆積である。

SK1870J土坑 (図面149)

IK23区に所在し、僧寺中軸線の北510・511m、東69・70mに位置する。上面規模は長軸0.82m、短軸0.64m、底面規模は長軸0.76m、短軸0.44mで、平面形は上面、底面ともに楕円形を呈する。深さは25cmで、断面形は逆台形である。底面はIV層下層まで掘り込まれており、平らである。主軸方向は僧寺中軸より85°東偏している。覆土は暗茶褐色土主体の自然堆積である。

SK1871J土坑 (図面149)

IH18区に所在し、僧寺中軸線の北502・503m、東54・55mに位置する。上面規模は長軸1.4m、短軸0.6m、底面規模は長軸1.14m、短軸0.18mで、平面形は上面、底面ともに長楕円形を呈する。底面はIV層まで掘り込まれており、深さは26cmで、断面形は半円形である。主軸方向は僧寺中軸より22°東偏している。覆土は暗茶褐色土主体の自然堆積である。

SK1872J土坑 (図面149)

IH19・20区に所在し、僧寺中軸線の北501・502m、東58～60mに位置する。上面規模は長軸1.34m、短軸0.58m、底面規模は長軸1.1m、短軸0.14mで、平面形は上面が長楕円形、底面が不整楕円形を呈する。深さは28cmで、断面形は半円形である。底面はIV層まで掘り込まれ、中央やや東側が窪んでいる。主軸方向は僧寺中軸より61°東偏している。覆土は暗茶褐色土を主体としたものである。

SK1873J土坑 (図面149 図版184)

IG・IH20区に所在し、僧寺中軸線の北500・501m、東60・61mに位置する。南側の一部が削平

されており、上面規模は長軸0.96m、残存短軸0.62m、底面規模は長軸0.56m、短軸0.3mで、平面形は上面、底面ともに楕円形を呈する。深さは24cmで、断面形は逆台形である。底面はIV層まで掘り込まれており、東側に向かってやや下がっている。主軸方向は僧寺中軸より57°東偏している。覆土は暗茶褐色土主体の自然堆積である。

SK1874J土坑(図面149 図版184)

IF・IG21区に所在し、僧寺中軸線の北497・498m、東63・64mに位置する。SK1888J、PJ-308と重複している。上面規模は長軸1.54m、短軸0.8mで、平面形は楕円形を呈する。深さは22cmである。底面はIV層まで掘り込まれており、凹凸が認められる。主軸方向は僧寺中軸より17°東偏している。覆土は暗茶褐色土主体の自然堆積である。

SK1875J土坑(図面149 図版184)

IE21区に所在し、僧寺中軸線の北494m、東64・65mに位置する。上面規模は長軸0.98m、短軸0.88m、底面規模は長軸0.34m、短軸0.3mで、平面形は上面が楕円形、底面が円形を呈する。深さは28cmで、断面形は半円形である。底面はIV層下層まで掘り込まれている。主軸方向は僧寺中軸より72°西偏している。覆土は暗茶褐色土主体の自然堆積である。

SK1876J土坑(図面149 図版184)

IG21・22区に所在し、僧寺中軸線の北498・499m、東65・66mに位置する。上面規模は長軸1.18m、短軸1.09m、底面規模は長軸0.7m、短軸0.68mで、平面形は上面、底面ともに不整楕円形を呈する。深さは41cmで、断面形は逆台形である。底面はVa層上層まで掘り込まれており、ほぼ平らである。主軸方向は僧寺中軸より1°東偏している。覆土は暗茶褐色土を主体としたものである。

SK1877J土坑(図面149)

ID22区に所在し、僧寺中軸線の北489m、東67・68mに位置する。南側半分が調査区外に延びている。上面の確認規模は長軸1.5m、短軸0.73mで、平面形は楕円形を呈すると推測される。深さは39cmで、IV層下層まで掘り込まれている。断面形は逆台形である。底面はほぼ平らで、中央付近に径57×40cm、深さ12cmの小穴1個が認められた。覆土は暗茶褐色土主体の自然堆積である。

SK1878J土坑(図面149 図版184)

IC・ID24区に所在し、僧寺中軸線の北489・490m、東73・74mに位置する。上面規模は長軸1.04m、短軸0.86m、底面規模は長軸0.4m、短軸0.33mで、平面形は上面、底面ともに楕円形を呈する。深さは39cmで、断面形は逆台形である。底面はVa層まで掘り込まれており、平らである。主軸方向は僧寺中軸より34°東偏している。覆土は暗茶褐色土主体の自然堆積である。

SK1879J土坑 (図面150 図版184)

IF25区に所在し、僧寺中軸線の北495・496m、東75・76mに位置する。上面規模は長軸1.56m、短軸1.02m、底面規模は長軸0.93m、短軸0.37mで、平面形は上面、底面ともに長方形を呈する。深さは104cmで、断面形は逆台形、短軸の一部で逆凸形である。底面はVb層まで掘り込まれており、平らで、長軸上に径10～18cm、深さ10～15cmの小穴が2個認められた。主軸方向は僧寺中軸より44°西偏している。覆土は暗茶褐色土主体の自然堆積である。形状から陥穴と考えられる。

SK1880J土坑 (図面150 図版185)

ID26・27区に所在し、僧寺中軸線の北490・491m、東80～82mに位置する。上面規模は長軸1.76m、短軸1.58m、底面規模は長軸1.2mで、平面形は不整形凹形を呈する。深さは38cmである。底面はVa層まで掘り込まれており、凹凸が認められる。主軸方向は僧寺中軸より20°東偏している。覆土は黒褐色土と暗茶褐色土を主体としたもので、形状等から倒木痕と考えられる。

SK1883J土坑 (図面151 図版185)

IC～IE27～29区に所在し、僧寺中軸線の北488～493m、東82～87mに位置する。上面規模は長軸4.92m、短軸3.24mで、平面形は不整形を呈する。深さは133cmである。底面はVb層まで掘り込まれている。主軸方向は僧寺中軸より6°東偏している。覆土は黒茶褐色土と暗茶褐色土を主体としたもので、形状等から倒木痕と考えられる。

SK1884J土坑 (図面150 図版185)

II・IJ28・29区に所在し、僧寺中軸線の北506～508m、東86～88mに位置する。南側と中央部分は底面まで溝状に削平されている。上面規模は残存長軸1.98m、短軸0.96m、底面規模は残存長軸1.86m、短軸0.67mで、平面形は上面、底面ともに長楕円形を呈する。深さは90cmで、断面形は逆台形である。底面はVa層まで掘り込まれており、平らで、長軸上に径10～14cm、深さ8～14cmの小穴がほぼ等間隔で3個認められ、棒状痕と考えられる。主軸方向は僧寺中軸より6°東偏している。覆土は暗茶褐色土主体の自然堆積である。形状から陥穴と考えられる。遺物は覆土中より礫が1点出土した。

SK1885J土坑 (図面150 図版185)

IE・IF30・31区に所在し、僧寺中軸線の北493～495m、東92・93mに位置する。上面規模は長軸2.44m、短軸0.9m、底面規模は長軸2.09m、短軸0.6mで、平面形は上面、底面ともに長楕円形を呈する。深さは44cmで、断面形は逆台形である。底面はVa層上面まで掘り込まれており、平らで、長軸上に径10～14cm、深さ7～27cmの小穴がほぼ等間隔に4個認められ、棒状痕と考えられる。主軸方向は僧寺中軸より6°西偏している。覆土は暗茶褐色土主体の自然堆積

である。形状から陥穴と考えられる。

SK1886J土坑 (図面150 図版185)

IF30区に所在し、僧寺中軸線の北495・496m、東91・92mに位置する。PJ-395と重複し、切っ
ている。上面規模は長軸1.28m、短軸1.12m、底面規模は長軸0.92m、短軸0.55mで、平面形
は上面、底面ともに楕円形を呈する。深さは22cmで、断面形は逆台形である。底面はIV層まで
掘り込まれており、西に向かって下がっている。主軸方向は僧寺中軸より63°東偏している。
覆土は暗茶褐色土主体の自然堆積である。

SK1887J土坑 (図面150 図版185)

IH19区に所在し、僧寺中軸線の北502・503m、東58・59mに位置する。PJ-269と重複し、切ら
れている。上面規模は長軸1.02m、短軸0.86m、底面規模は長軸0.22m、短軸0.15mで、平面
形は不整形形を呈する。深さは25cmで、断面形は半円形である。底面はIV層まで掘り込まれて
いる。主軸方向は僧寺中軸より45°西偏している。覆土は暗茶褐色土主体の自然堆積である。

SK1888J土坑 (図面149 図版184)

IG21区に所在し、僧寺中軸線の北498・499m、東63・64mに位置する。SK1874Jと重複してい
る。上面規模は長軸0.98m、短軸0.56m、底面規模は長軸0.8m、短軸0.32mで、平面形は上
面、底面ともに楕円形を呈する。深さは15cmで、断面形は逆台形である。底面はIV層まで掘り
込まれており、ほぼ平らである。主軸方向は僧寺中軸より50°東偏している。覆土は暗茶褐色
土主体の自然堆積である。

SK1889J土坑 (図面151)

IK18区に所在し、僧寺中軸線の北510・511m、東65・66mに位置する。東側は削平され、PJ-
320と重複し、切られている。上面の残存規模は長軸1.18m、短軸0.65m、底面の残存規模は
長軸1.0m、短軸0.11mで、平面形は不整形楕円形を呈すると推測される。深さは20cmである。
底面はIV層まで掘り込まれている。主軸方向は僧寺中軸より28°東偏している。覆土は暗茶褐
色土を主体としたものである。

SK1891J土坑 (図面151 図版185)

IF・IG34・35区に所在し、僧寺中軸線の北497～499m、東104・105mに位置する。上面規模は
長軸1.6m、短軸0.98m、底面規模は長軸1.32m、短軸0.42mで、平面形は上面、底面ともに
長方形を呈する。深さは123cmで、断面形は逆台形である。底面はVb層まで掘り込まれており、
平らで、長軸上に径10～14cm、深さ20～22cmの小穴がほぼ等間隔で3個認められ、棒状痕と考
えられる。主軸方向は僧寺中軸より46°東偏している。覆土は下部にロームブロックを含む人
為的な埋め戻しの層が認められるが、上部は暗茶褐色土主体の自然堆積である。形状から陥穴
と考えられる。

SK1892J土坑 (図面151)

IG37・38区に所在し、僧寺中軸線の北498・499m、東113・114mに位置する。東側が調査区外に延びている。上面規模は確認長軸0.83m、短軸0.85m、底面の規模は確認長軸0.66m、短軸0.54mで、平面形は上面、底面ともに楕円形を呈すると推測される。深さは24cmで、断面形は半円形と推測される。底面はIV層まで掘り込まれている。主軸方向は僧寺中軸より86°西偏している。覆土は暗茶褐色土主体の自然堆積である。

SK2023J土坑 (図面149)

IC32区に所在し、僧寺中軸線の北486・487m、東97・98mに位置する。上面の規模は長軸1.1m、短軸0.84m、底面の規模は長軸0.44m、短軸0.24mで、平面形は上面、底面ともに楕円形を呈する。深さは29cmで、断面形は半円形である。底面はIV層まで掘り込まれている。主軸方向は僧寺中軸より85°西偏している。覆土は暗茶褐色土主体の自然堆積である。

小穴 (図面144)

調査区全体に散在して425個が確認された。上面の規模は15～92cmの円形もしくは楕円形、深さは4～90cmで、径30cm以下のものが238個、深さ30cm以下のものが366個で、両者であるものが213個と約半数である。また、断面形が半円形のは264個で全体の60%を超える。他の小穴も断面が明確なU字状で、柱穴と考えられるものはごく僅かである。覆土は暗茶褐色土主体のものが大半である。

遺物はPJ-8から焼礫5点が出土したのみであった。

(4) 包含層出土の遺物 (図面152、144～150 図版69～73)

北側は攪乱が多かったが、ほぼ全体に遺物が分布しているが、南側のほうが分布は多い。

縄文土器

早期の土器は29点出土し、うち21点を図示。全体に分布しているが北側に集中している部分がある。燃系文系土器は1点のみ出土し、口縁部の破片で、肥厚は見られない。

その他では沈線文系土器が北側から7点まとまって出土している。胎土から図面144-22～24は同一個体と考えられる。いずれも沈線は細かく浅い。このほかの資料はすべて無文土器で口縁が2点、底部が1点で、外面に擦痕のある物が多い。

前期の土器は1点のみの出土で、文様は浮線文で、簡礫C式土器である。

中期の土器は21点出土し、うち12点を図示。五領ヶ台式土器2点、阿玉台・勝坂式土器各1点、加曾利E式土器10点である。

後期の土器は32点出土した。調査区のほぼ中央から集中して出土し、ほとんどが同一個体の可能性が高い。隣接する421次調査の池護岸地区(F地区)からも同一個体と思われる破片が出

土している。口縁部・底部は出土しているがかなり大きな土器のため復元までには至らなかった。

石器

尖頭器は1点出土。チャート製で、鐵としては大きいため尖頭器に含めた。下部が僅かに決られている。

石鎌は2点出土し、無茎で、下端に抉り込みがある。これらは南半から出土した。

削器は7点出土し、6点を図示。剥片の表面に連続して調整を行っており、裏面は自然面を遺しているものが多い。

打製石斧は6点出土し、4点を図示。短冊形と分銅形である。

調整剥片石器は3点出土し、2点を図示。図面146-9は小さな剥片の両側に調整を加え、図面146-8は円礫を割りその下部の周縁に連続して、調整を加えている。

礫器は6点出土し、3点を図示。大形礫に荒く片面調整を加えている。裏面は自然面を遺している。

叩き石は1点出土し、楕円形で、一部に磨面も認められる。

磨石は5点出土し、2点を図示。破片が多い。あまり明瞭な磨面は認められず、図面147-5は表面の中央部には窪み、周縁には敲打痕が認められる。

抉入磨石は1点出土し、両端を大きく打ち欠いているが、明瞭な磨面は認められない。

スタンプ形石器は13点出土し、8点を図示。ほとんどが南半からの出土である。

石皿は8点出土し、3点を図示。小さな扁平の石をそのまま用いている。中には大きめな礫を用いているものもあるが、これらは破片となって出土した。

台石は6点出土し、3点を図示。不整形のもので、摩擦痕等が認められるものを台石としたため、形状は様々である。割れているものが多い。

剥片は25点出土し、12点を図示。自然礫を薄く剥離させたもので、主剥離面だけのものと、複数の剥離が認められるもの、中には調整痕らしき剥離も認められるが、明瞭でないため剥片とした。

礫は75点出土し、このうち焼礫は49点であった。分布状況は遺物とほぼ同様で、やはり南半に多いようである。

(5) 旧石器時代の調査

石器集中部(ユニット)

ST1石器集中部(図面154、151・152 図版186・187、73~75)

調査坑Bで確認され、JE・JF5区に所在し、僧寺中軸線の北552~556m、東15~17mに位置

する。IV層下層からVa層上層で確認され、平面的な広がり東西1.95m、南北4.2mで、垂直方向の広がりは約30cmである。

遺物は黒曜石製の完形のナイフ形石器1点のほか、頁岩・チャート製の剥片19、砕片1、台石1、チャート製の原材2点が出土した。

土坑

SK1890P土坑 (図面154 図版187)

調査坑Aで確認され、JN7区に所在し、僧寺中軸線の北580・581m、東21mに位置する。VII層の上層にて確認され、上面規模は長軸0.81m、短軸0.74mで、平面形は円形を呈する。深さは18cmで、底面には凹凸が認められる。主軸方向は僧寺中軸より15°東偏している。覆土は褐色土主体で炭化物、焼土が含まれていた。

6. 443次調査 (平成9年度泉町公園事業 南側橋脚基礎地区)

(1) 概要

本調査地区は泉町公園北地区と南地区を結ぶ歩道橋の南側基礎部分に当たり、調査面積は113.9㎡である。確認された遺構は歴史時代が小穴10個、縄文時代が土坑2基(うち陥穴1基)、小穴28個である。旧石器時代の調査は6×6mの調査坑を設定し、X層上層まで実施したが遺構、遺物は認められなかった。

(2) 歴史時代の調査

小穴(図面158)

調査区全体に散在して10個が確認された。規模は径18～48cm、平面形が楕円形または円形で、深さは19～83cmである。大半のものが径30cm、深さ30cm前後だが、P-9が径37～48cm、深さ83cmと他のものより一回り大きい。覆土は明黒褐色土を主体とした自然堆積である。

遺物はP-5の覆土中から土師器・焼片2点が出土した。

(3) 縄文時代の調査

土坑

SK1813J土坑(図面158 図版189)

III・IIJ 5・6区に所在し、僧寺中軸線の北446～448m、東16～18mに位置する。上面規模は長軸2.78mを測るが、断面より1.76mと推測される。短軸は1.2m、底面規模は長軸1.39m、短軸0.37mで、平面形は上面、底面ともに不整楕円形を呈する。深さは37cmで、断面形は長軸で袋状、短軸で上部がやや開く逆台形である。底面はVa層下層まで掘り込まれており、ほぼ平らである。主軸方向は僧寺中軸より51°東偏している。覆土は暗茶褐色土主体で、下層の11～14層はロームブロックを含み、他の層と比較し、結まりのある層で、上層は下層より黒味の強い茶褐色主体で自然堆積である。形状から陥穴と考えられる。

SK1814J土坑(図面158 図版189)

III 5・6区に所在し、僧寺中軸線の北444・445m、東18・19mに位置する。上面規模は長軸1.43m、短軸1.4m、底面規模は長軸0.57m、短軸0.24mで、平面形は上面が円形、底面が不整楕円形を呈する。深さは24cmで、断面形は半円形である。底面はIV層まで掘り込まれている。主軸方向は上面が僧寺中軸より57°東偏し、底面が22°東偏している。覆土は茶褐色土主体で、形状から倒木痕と考えられる。

小穴 (図面158)

調査区全体に散在して28個が確認された。全体は径20～30cmの円形または楕円形、深さ20cmで、覆土は暗茶褐色土のものが大半を占める。なお、PJ-4は1mを超え、土坑とも捉えられるが、形状、覆土の状況から土坑とは考え難いため小穴とした。

(4) 包含層の出土遺物 (図面158、153 図版75)

一辺10mほどの狭い調査区であるため出土遺物は少ないが、遺物は南半に集中している。

縄文土器

早期の土器は11点出土し、5点を図示。ほとんどが無文土器で外面には擦痕が認められる。その他には条痕文系土器1、沈線文系土器2点が出土している。

中期の土器は39点出土し、9点を図示。出土土器の大半を占める。阿玉台式土器が2点でその他は加曾利E式土器が大半である。

石器

石器総数7点出土。削器2、挿器1点出土。

スタンプ形石器は1点のみ出土。あまり加工は施されていないが、底面外周には剥離痕が多く認められる。

石皿は1点のみ出土。

その他に剥片が2点出土したが、磨滅しており図示しなかった。

7. 444次調査 (平成9年度土地区画整理事業 国3・4・3号道路北側拡幅地区 1次)

(1) 概要

本調査地区は国3・4・3号道路(多喜程通り)北側部分の拡幅に伴うもので、公園歩道橋を挟んで東側と西側に調査区が分かれ、東端部で(財)東京都埋蔵文化財センターの調査区と接している。調査面積は1,929.17㎡で、確認された遺構は歴史時代が竪穴住居11軒、溝3条、土坑24基、性格不明遺構5基、小穴139個、縄文時代が土坑39基(うち陰穴2基)、小穴328個である。旧石器時代の調査は調査坑を8か所設定して基本的にはX層まで調査を実施したが、西側地区は調査区が狭く安全上からVI層付近で調査を終了したものもある。確認された遺構は土坑1基、小穴1個である。また、東側調査区東端付近では、168次調査(鉄道学園内下水工事に伴う調査)で歴史時代の住居1軒(SI304)と土坑1基(SK738)が調査されている。

なお、本調査地区は国分寺極地座標系第I象限と第IV象限にまたがっているため、アルファベットグリッド表示の頭に「I・IV」を付した。

(2) 歴史時代の調査

竪穴住居

SI564住居(図面157・158、154～156 図版193・194、76)

IVHQ～HS1～3区に所在し、僧寺中軸線の北469～474m、西2～7mに位置する。北・西壁の一部と、床面の一部が削平されている。規模は東西4.1m、南北3.3mで、平面形は長方形を呈する。壁はほぼ垂直に立ち上がり、深さは32cmで、壁下には幅14～24cm、床面からの深さ5～13cmの周溝がカマド周辺を除き閉鎖している。床面は暗茶褐色土を含む明黒褐色土で平らに埋め戻された貼床で、中央付近が硬く締まっていた。長軸方向は僧寺中軸より66°西偏している。覆土は明黒褐色土を主体とした自然堆積である。

カマドは東壁中央やや南寄りに壁を掘り込んで施設されていた。壁外への掘り込みは幅65cm、奥行き24cmの楕円形である。屋内への袖の作り出しは認められなかったが、袖と推定される部分が長さ33～36cm、幅15cm、深さ4cm程窪んでいることから、構築材の瓦を据え付けていた痕跡ではないかと考えられる。火床は62×64cm、深さ12cm程掘り込んだ後、暗茶褐色土とロームブロックで5cm程埋め戻して使用し、その中央が40×37cm、厚さ6cmの範囲で赤く焼けていた。火床やや奥には長さ15cm、幅6cmの棒状の川原石が1/3程埋め込まれ、直立した状態で検出されたことから支脚として使用されたものと考えられる。主軸方向は僧寺中軸より109°東偏している。

カマドの南壁で、住居の南東隅には45×31cm、厚さ6cmの範囲で焼土が認められ、その周辺及び下部のルームが熱を受けガサガサしており、状況からカマドの火床の残存と推測される。主軸方向は僧寺中軸より142°東偏している。

また、中央やや南側の床面下より30×24cm、厚さ3cmの範囲で焼土が認められ、その周辺のルームが熱を受けガサガサしていた。状況から炉であると推測される。

カマド前面の貼床下から規模49×37cmの楕円形に赤化した部分が認められ、状況により作り替え前のカマドの火床の可能性が考えられる。

本跡は構築段階の調査により東壁でわずかではあるが作り替えの痕跡が認められ、南東隅のカマドから東壁のカマドに作り替える際に、東壁を10～15cm程掘り直したものと推測される。また、床面下から炉が認められたことから、作り替え前段階の住居で使用されたものと考えられる。

遺物はカマドとその前面、北壁付近から多く出土した。全体に土師質土器の出土が多い。

出土遺物総数331点で、土師器・坏4、甕28、台付甕1、不明2、須恵器A・坏45、甕1、鉢1、甕1、須恵器B・坏52、高台付坏2、土師質土器・坏172、高台付坏1、灰結陶器・壺1、男瓦4、女瓦14、台石1、炭化種子1、その他に礫が18点出土した。

S1565住居（図面159、157 図版195・196、76）

IVH018・19区に所在し、僧寺中軸線の北462・463m、西53～57mに位置する。北側の大半が削平され、南側の大半が調査区外に延びており、確認されたのは東・南辺の一部である。確認された東辺は0.38m、南辺は1.02mのみであるが、壁下には幅16～32cm、床面からの深さ4cmの周溝が認められた。壁はほぼ垂直に立ち上がり、深さは14cmである。床面は粗掘りの後暗茶褐色土で平らに埋め戻して作り出され、やや凹凸が認められるが、ほぼ平らでやや硬く締まっていた。

カマドは東壁を掘り込んで施設されており、壁外への掘り込みは幅25cm、奥行き10cmの楕円形で、袖には構築材に瓦が使用されていた。火床は残存規模70×38cm、深さ7cmの楕円形に粗掘りした後、暗茶褐色土で平らに埋め戻して使用され、中央付近が径約25cm、厚さ4cmの範囲が赤く焼けていた。カマドの主軸方向は僧寺中軸より105°東偏している。

覆土は明黒褐色土を主体とした自然堆積である。

遺物は住居の一部しか調査し得なかったため少なく、ほとんどがカマド部分に集中して出土した。

出土遺物総数は31点で、土師器・甕8、須恵器A・坏3、須恵器B・坏5、土師質土器・坏6、宇瓦1、女瓦8、その他に礫が16点出土した。

S1566住居（図面159、157 図版196、76）

IVHP・HQ27区に所在し、僧寺中軸線の北466~469m、西80~81mに位置する。北側でSD80と重複し、切られているほか、東側の大半が調査区外に延びている。確認された西辺は2.7m、南辺は1.58mで、南西隅はやや丸味を有する。周溝は南壁下で確認され、幅20cm、床からの深さは9cmである。床面は2面確認され、上面の床は、下面の床を暗茶褐色土で4~6cm平らに埋めて使用され、中央付近が堅く締まっていた。下面の床面は中央付近を粗掘りの後褐色土で平らに埋め戻し使用されており、中央が貼床で硬く締まっていたが、その周囲はローム直床でやや締まりが無かった。主軸方向は西辺で僧寺中軸より27°東偏している。

カマド、炉などは認められなかった。

本跡は床が2面確認されたことから床の作り替えが行われたと考えられるが、壁の掘り直し(拡張)が成されたかは、明らかではない。

住居の一部分の調査であったが、遺物は全体から散漫に分布していた。

出土遺物総数は31点で、土師器・甕5、台付甕2、須恵器A・坏3、壺2、須恵器B・坏3、土師質土器・坏7、男瓦8、女瓦1、その他に磁が2点出土した。

S1567住居(図面160・161、158~160 図版197・198、76・77)

IHQ・HR44~46区に所在し、僧寺中軸線の北469~473m、東134~138mに位置する。北側、東側の一部と南側が削平されている。規模は東西3.3m、南北3.46mで、平面形は方形を呈する。壁はほぼ垂直に立ち上がり、深さは26cmで、壁下には幅14~32cm、床面からの深さ10cmの周溝がカマド周辺を除き圍繞している。床面は中央付近がローム直床であるほか、周囲は粗掘りの後暗茶褐色土で平らに埋め戻し、貼床を施し、中央部が硬く締まっていた。長軸方向は僧寺中軸より18°東偏している。覆土は壁際に褐色土ブロックを含む層が認められたほか、住居の大半を覆っている2層にはロームブロックが含まれており、明黒褐色土を主体とした人為的な埋め戻しの様相を示している。

カマドは東壁中央やや南寄りに壁を掘り込んで施設されていた。壁外への掘り込みは幅110cm、奥行き80cmの楕円形である。袖の作り出しは認められなかったが、側壁部分は幅30cm程白色粘土を主体とした土と女瓦を用いて構築されていた。火床は76×90cm、深さ20cm程掘り込んだ後、暗茶褐色土とロームブロックで平らに埋め戻して使用し、その中央が80×48cm、厚さ7cmの範囲が赤く焼けていた。主軸方向は僧寺中軸より102°東偏している。

北東隅、南西隅の床面やや上部から焼土が認められ、焼失住居の可能性も考えられるが、炭化物が検出されず、焼失による熱を受けた痕跡が認められなかったことから断定は難しい。

床面下の調査の結果四隅付近から7個の小穴が認められ、P-1~3は径約24cm、床面からの深さはP-1が38cm、P-2・3が20cmで、P-4~7は規模・形状から住居構築段階の粗掘りと推測される。また南・北壁付近に溝状の掘り込みが認められ、周溝の残存と考えられるこ

とから、四辺での住居の拡張が推測される。拡張前の住居の規模は、東西は明確ではないが、南北は約3.0mで、平面形は方形を呈すると推測される。壁はほぼ垂直に立ち上がり、深さは26cmで、床面は平らで、中央付近が硬く締まっていた。

遺物はカマドとその前面から多く出土した。またカマド内出土のものと覆土出土のものが接合している。

出土遺物総数は233点で、土師器・坏1、甕71、須恵器A・坏37、埴1、蓋1、甕5、須恵器B・坏16、土師質土器・坏37、高台付坏2、灰釉陶器・耳付埴1、男瓦21、女瓦34、塼2、不明瓦4、その他に礫が12点出土した。

S1568住居 (図面162、160・161 図版198・199、77)

I HN・H051・52区に所在し、僧寺中軸線の北461～464m、東154～157mに位置する。北側、東側中央部分が削平され、西側半分は調査区外に延びている。規模は東西の確認長1.92m、南北2.94mで、平面形は方形を呈すると推測される。壁はほぼ垂直に立ち上がり、深さは40cmで、壁下には幅11～20cm、床面からの深さ4cmの周溝がカマド周辺を除き圍繞している。床面は中央付近を110×80cm、深さ72cm程掘りした後、暗茶褐色土で埋め戻し、貼床を施しているが、他はローム直床で、ほぼ平らで、中央付近が硬く締まっていた。長軸方向は東辺で僧寺中軸より8°東偏している。覆土は明黒褐色土を主体とした自然堆積で、カマドに近い覆土にはカマドの崩壊土である白色粘土、焼土が多く含まれた層が認められる。

カマドは東壁中央やや南寄りに壁を掘り込んで施設されていた。壁外への掘り込みは残存幅61cm、奥行き52cmの楕円形である。袖は認められなかった。火床は60×48cm、深さ5cm程掘り込んだ後、暗茶褐色土とロームブロックで平らに埋め戻して使用し、その中央が44×35cm、厚さ5cmの範囲が赤く焼けていた。赤化部分東端から女瓦が直立した状態で認められ、位置等から支脚として使用されたものと考えられる。主軸方向は僧寺中軸より101°東偏している。

南東隅付近には径34～43cm、深さ16cmの小穴2個(P-1・2)が認められ、形状から貯蔵穴と推測される。

遺物は全体に分布しているが北側に多い。

出土遺物総数89点で、土師器・甕35、須恵器A・坏12、壺3、甕3、須恵器B・坏2、高台付坏1、土師質土器・坏13、灰釉陶器・埴1、鏡瓦1、男瓦4、女瓦9、不明瓦1、鉄滓2、不明鉄製品1、磨痕石1、その他に礫62点が出土した。

S1569住居 (図面163、162 図版199～201、77-78)

I HL・HM66・67区に所在し、僧寺中軸線の北454～456m、東199～202mに位置する。南側半分は調査区外に延びている。規模は東西3.6m、南北は確認長1.66mで、平面形は方形を呈すると推測される。壁はほぼ垂直に立ち上がり、深さは30cmで、壁下には幅14～24cm、床面からの

深さ5~14cmの周溝が圍繞している。床面は平らで、中央付近が硬く締まっていた。また床面は一部であるが2面認められた。主軸方向は北辺で僧寺中軸より82.5°西偏している。

炉は床面中央やや西寄りに構築されていた。規模は東西76cm、南北50cmの楕円形に赤く焼けており、その周囲5~10cmが熱を受けガサガサしていた。火床の南端には16×16cm大の扁平な川原石が認められ、枕石的な役割を有するものと推測される。断ち割り調査の結果、下部に僅かではあるが褐色土の間層を挟んで火床が認められたことから、同一の場所に作り直したものと考えられる。掘り方の規模は東西88cm、南北は確認長61cmの楕円形で、深さは19cmである。

北西隅には小穴(P-1)が認められ、規模は径約34cmの円形で、深さは19cmである。

覆土は床面直上には厚さ約8cmの焼土層が存在し、その上部を明黒褐色土主体の自然地積層が覆っている。焼土は床面ほぼ全体に広がっており、焼失住居とも推測されるが、炭化物が覆土中にほとんど含まれておらず、それと断定するのは難しい。また小穴P-1覆土は上層に焼土を多量に含む層が認められ、下層は暗茶褐色土である。

遺物は炉の西側から完形の坏が伏せた状況で出土したほか、土師器甕、甕などがまとまって出土した。またP-1の覆土中層より土師器甕片が出土した。

出土遺物総数は81点で、土師器・坏3、碗1、甕14、須恵器A・坏8、壺1、須恵器B・坏8、高台付坏1、土師質土器・坏27、高台付坏6、灰釉陶器・碗2、壺2、男瓦3、女瓦1、不明瓦2、磨痕石2、その他に礫5点が出土した。

SI570住居(図面164・165、163 図版201・202、78)

I HL-HM68-69区に所在し、僧寺中軸線の北454~456m、東205~208mに位置する。東側はSI571と重複し、切られているほか、南側は調査区外に延びている。規模は東西の残存長1.85m、南北の確認長2.14mで、平面形は方形を呈すると推測される。壁はほぼ垂直に立ち上がり、深さは16cmで、壁下には幅7~16cm、床面からの深さ5cmの周溝がカマド周辺を除き圍繞している。床面はローム直床で平ら、中央付近が硬く締まっていた。主軸方向は西辺で僧寺中軸より23°東偏している。

カマドは北壁中央に壁を掘り込んで施設されていた。壁外への掘り込みは残存部で幅55cm、奥行き53cmの楕円形である。側壁は右側壁で女瓦が3枚、凹面を内側に向けて並べ、下部が埋め込まれた状況で確認された。他の部分では瓦等の構築材は認められなかったが、奥壁、左壁付近には構築材の据え付け痕と考えられる窪みが認められたことから、右側壁同様瓦が使用されていたものと推測される。火床は径33cm、深さ5cmほど掘り窪められて使用されており、その端部に長さ15cm、幅10cmの川原石が下部1/3程埋められ、直立した状態で認められたことから支脚として使用されたものと考えられる。主軸方向は僧寺中軸より23.5°東偏している。

遺物はカマドと住居覆土中から散漫に分布した。

出土遺物総数57点で、土師器・甕14、須恵器A・坏9、蓋1、須恵器B・坏8、土師質土器・坏10、灰釉陶器・甕1、男瓦5、女瓦8、不明瓦1、その他に礫5点が出土した。

S1571住居（図面164・165、164・165 図版202・203、78・79）

I HL・HM69・70区に所在し、僧寺中軸線の北454～456m、東207～212mに位置する。西側でSI570と重複し、切っている。北側の一部は削平されているほか、南側半分は調査区外に延びている。規模は東西4.18m、南北の確認長1.72mで、平面形は方形を呈すると推測される。壁はほぼ垂直に立ち上がり、深さは40～45cmで、カマド周辺を除いた壁下には幅18～24cm、床面からの深さ6～8cmの周溝が圍繞している。床面は粗掘りの後暗茶褐色土を主体とした土で平らに埋め戻され、貼床としていた。中央付近が硬く締まり、北西隅付近がやや軟弱であった。主軸方向は北辺で僧寺中軸より79°西偏している。

北東隅には58×42cm、深さ15cmの楕円形の小穴が認められ、位置、形状から貯蔵穴と考えられる。

カマドは北壁中央やや東寄りに壁を掘り込んで施設されていた。壁外への掘り込みは残存で幅54cm、奥行き33cmの楕円形である。袖は認められなかったが、それと推定される部分がやや窪んでいることから、構築材の瓦を据え付けていた痕跡と考えられる。火床は残存長56×60cm、床面からの深さ9cm程掘り込んだ後、暗茶褐色土とロームブロックで平らに埋め戻して使用し、その中央が43×33cm、厚さ5cmの範囲が赤く焼けていた。赤化範囲の北端には長さ17cm、幅11cmの川原石が、下部1/2程が埋め込まれ直立した状態で出土したことから支脚として使用されたものと考えられる。主軸方向は僧寺中軸より7.5°東偏している。

床面下の調査を実施した結果、周溝状の掘り込みが確認されたことから、拡張が行われたものと推測される。また、拡張前のカマドと考えられる焼土が東側で認められた。そのため拡張前の住居をA期、拡張後の住居（前述）をB期とした。

拡張前の住居（A期）の推定規模は東西3.1m、南北は確認長1.6mで、床面は中央付近がローム直床で、周囲は粗掘りの後暗茶褐色土を主体とした土で平らに埋め戻して貼床が施されていた。

カマドは東壁を掘り込んで施設されており、壁外への掘り込みは奥行き30cm程で、上部は削平されており、火床の赤化部分が僅かに遺存していたのみである。

床面中央付近に径約66cmの範囲が床面より非常に硬く締まり、その中央に径16cm、深さ22cmの小穴が認められたほか、小穴の周囲が馬蹄形状に窪んでいた。これが住居に伴う何かの付属施設であるかどうかは判然としないが、その可能性は否定し得ない。

遺物はカマドと覆土全体に散漫に分布していた。

出土遺物総数152点で、土師器・甕32、台付甕1、須恵器A・坏18、高台付坏1、蓋1、須

恵器B・坏22、碗1、高台付坏1、甕2、土師質土器・坏46、高台付坏1、蓋1、灰釉陶器・碗1、宇瓦1、男瓦3、女瓦11、不明瓦1、鉄製品釘2、鉄滓5、不明鉄製品1、その他に種子1、礫3点が出土した。

S1572住居（図面166・167、165～168 図版204・205、79～81）

IHM・HN75・76区に所在し、僧寺中軸線の北457～460m、東226～230mに位置する。規模は東西3.5m、南北2.5mで、平面形は長方形を呈する。西・北壁の上端は大きく外傾し、北西隅付近は幅15～30cmの平坦部が認められた。壁はほぼ垂直に立ち上がり、深さは34cmで、東側半分を除き、壁下には幅18～20cm、床面からの深さ7～13cmの周溝が認められた。床面は粗掘りの後暗茶褐色土で平らに埋め戻して貼床を施し、中央付近が硬く締まっていた。長軸方向は僧寺中軸より88°東偏している。

カマドは東壁中央やや北寄りと北壁中央やや東寄りの2か所に壁を掘り込んで施設されていた。東カマドの壁外への掘り込みは幅65cm、奥行き51cmの楕円形である。袖は壁からの長さ20～27cm、幅11～18cm程白色粘土と暗茶褐色土で作り出され、左袖焚口付近には女瓦が補強材として、右袖の壁付近には川原石が芯材として使用されていた。また、左側壁も袖と同様な造りがされていた。火床は75×70cm、深さ13cm程掘り込んだ後、暗茶褐色土とロームブロックで平らに埋め戻して使用し、その中央が38×23cm、厚さ3cmの範囲が赤く焼けていた。左袖下部には構築時に掘り込まれたと推測される径約30cmの円形で、深さ19cmの掘り込みが認められた。主軸方向は僧寺中軸より90°東偏している。

北カマドの壁外への掘り込みは幅105cm、奥行き60cmの楕円形である。袖等は認められなかった。火床は52×72cm、深さ13cm程掘り込んだ後、暗茶褐色土とロームブロックで平らに埋め戻して使用されたと推測されるが、赤化した部分は認められなかった。前面に硬化した部分が僅かに認められた。主軸方向は僧寺中軸より18°東偏している。

床面下の調査により東壁で拡張が認められたため、拡張前の住居をA期、拡張後の住居（前述）をB期とした。

拡張前の住居（A期）の規模は東西2.98m、南北は明確ではないが約2.2mで、平面形は長方形を呈すると推測される。壁はほぼ垂直に立ち上がり、壁下には幅18～20cm、床面からの深さ10cmの周溝がカマド周辺を除き圍繞している。床面は平らで、中央付近が硬く締まっていた。

拡張前の住居に伴うカマドは、遺存状況から北壁に作られたものであると推測される。

遺物はカマドとその前面付近に集中し、床面上から鉄製品・釘、住居覆土中より鉸具、カマド覆土中より鉸具、鉄鏝、不明鉄製品が各1点出土した。また、構築土中より鉄滓が出土した。

出土遺物総数196点で、土師器・坏7、壺1、甕61、須恵器A・坏14、甕1、須恵器B・坏12、高台付坏3、甕1、土師質土器・坏51、高台付坏3、灰釉陶器・碗4、壺1、宇瓦1、男

瓦2、女瓦22、埴1、不明土器5、鉄製品・釘1、鎌1、鉸具2、鉄滓1、不明鉄製品1、その他に稜11点が出土した。

SI573住居 (図面161、169 図版206)

I HL・HM60区に所在し、僧寺中軸線の北455・456m、東181・182mに位置する。東側でSI574に切られ、西側でSK1898を切っており、南側の大半が調査区外に延びている。残存規模は北辺が2.2m、南辺が0.67mで、深さは45cmである。壁下には幅12～25cm、深さは床面より5cmの周溝が認められた。床面は貼床で硬く締まっており、ほぼ平らである。長軸方向は北辺で69°西偏している。覆土は明黒褐色土を主体とした自然堆積である。

カマドは北壁を掘り込んで構築されたと考えられるが、SI574に大半が削平され、同住居の床面に火床が僅かに残存しているのみである。

部分的な調査であったので遺物は極めて少ない。

出土遺物総数6点で、須恵器B・坏2、灰釉陶器・壺1、女瓦3点が出土した。

SI574住居 (図面161、169 図版206)

I III・HM60・61区に所在し、僧寺中軸線の北455・456m、東182～185mに位置する。西側でSI573を切っており、南側の大半が調査区外に延びている。確認規模は北辺が3.3m、西辺が0.58mで、深さは54cmである。床面はやや凹凸が認められるが、ほぼ平らである。周溝は認められなかった。カマドは北壁で確認されなかったことから、東壁に構築されているものと考えられる。長軸方向は北辺で80.5°西偏している。覆土は明黒褐色土を主体とした自然堆積である。

部分的な調査であったので遺物は極めて少ない。

出土遺物総数11点で、土師器・坏1、甕3、須恵器B・坏3、土師質土器4点が出土した。

溝

SD79溝 (図面168 図版207)

IVHN・H022区に所在し、僧寺中軸線の北461～463m、西64・65mに位置する。本跡は攪乱が激しく明確ではない。北端で立ち上がり、途切れるものと推測されるが、72次調査（鉄道学園幹線実習館建設に伴う調査）で確認された南北溝の南側延長部分と推測されることから同一番号を使用した。南側は調査区外に延びており、確認全長は1.7m、上面幅は0.57m、底面幅0.23mで、深さは22cmである。断面形は丸味のある逆台形で、底面はほぼ平らである。主軸方向は僧寺中軸より17°東偏している。覆土は明黒褐色土の自然堆積である。

遺物は女瓦1、礫4点が出土した。

SD80溝 (図面159・168 図版207)

IVHQ27区に所在し、僧寺中軸線の北469・470m、西80・81mに位置する。本跡は72次調査で確認された南北溝の南側延長部分に当たると推測されることから同一番号を使用した。SI566の

北側で重複し、切っている。北から延びる本跡は調査区内でほぼ直角に東に折れ調査区外へ延びている。確認全長は約0.9m、上面幅は0.32m、底面幅は0.16mで、深さ10cmである。断面形は逆台形で、底面はほぼ平らである。覆土はローム粒を多く含む明黒褐色土の単層である。

SD319溝 (図面168 図版207)

IHM~H064・55区に所在し、僧寺中軸線の北457~462m、東163~170mに位置する。本跡は421次調査(北側排水管路経路地区、D地区)で確認された南北溝の南側の延長部分に当たると推測されることから同一番号を使用した。北・南側は調査区外に延びており、南側の延長部分は51次調査(KDD株式会社国分寺寮建設に伴う調査)、429次調査(三菱地所(株)共同住宅建設に伴う調査)他で確認されたSX6道路状遺構に当たるものと考えられるが、今回確認された遺構の形態が溝状で、51次調査で確認されたように硬質面を伴うものでなかったことから溝として捉え、番号を与えた。確認全長は6.3m、上面幅は0.82m、底面幅は0.70mで、深さは8~10cmである。底面はほぼ平らである。主軸方向は僧寺中軸より32°西偏している。覆土は明黒褐色土の単層である。

土坑

SK1881土坑 (図面168、169 図版208)

IHM78・79区に所在し、僧寺中軸線の北456・457m、東237・238mに位置する。上面規模は長軸1.0m、短軸0.92m、底面規模は長軸0.72m、短軸0.63mで、平面形は上面、底面ともに不整形円形を呈する。深さは46cmで、断面形は逆台形である。底面は平らである。主軸方向は僧寺中軸より72°東偏している。覆土は明黒褐色土を主体とした自然堆積で、下層は暗茶褐色土を含むものである。

遺物は覆土中より土師器・甕2、須恵器A・坏1、灰釉陶器・碗1点が出土した。

SK1882土坑 (図面168 図版208)

IHM78・79区に所在し、僧寺中軸線の北457・458m、東236・237mに位置する。上面規模は長軸0.82m、短軸0.7mで、平面形は円形を呈する。深さは14cmで、断面形は半円形である。底面は北側がやや窪んでいる。主軸方向は僧寺中軸より86°東偏している。覆土は明黒褐色土を主体とした自然堆積である。

SK1893土坑 (図面168、169 図版208)

IHM・HN78区に所在し、僧寺中軸線の北458・459m、東234・235mに位置する。上面規模は長軸0.83m、短軸0.68m、底面規模は長軸0.76m、短軸0.62mで、平面形は上面、底面ともに楕円形を呈する。深さは26cmで、断面形は箱形である。底面は平らである。主軸方向は僧寺中軸より53°東偏している。覆土は明黒褐色土を主体とした自然堆積で、下層は暗茶褐色土を含むものである。

遺物は覆土中より須恵器B・坏1点が出土した。

SK1894土坑(図面168、169 図版208)

IHM77区に所在し、僧寺中軸線の北457・458m、東232・233mに位置する。上面規模は径0.84m、底面規模は径0.66mで、平面形は上面、底面ともに円形を呈する。深さは20cmで、断面形は逆台形である。底面は平らである。主軸方向は僧寺中軸より4°東偏している。覆土は明黒褐色土を主体とした自然堆積である。

遺物は覆土中より須恵器A・坏1、B・坏1、女瓦1点が出土した。

SK1895土坑(図171 図版208)

IVHS・HT2区に所在し、僧寺中軸線の北476・477m、西4mに位置する。西側が調査区外に延びている。上面規模は長軸1.34m、確認短軸0.7m、底面規模は長軸1.02m、確認短軸0.66mで、平面形は上面、底面ともに隅丸長方形を呈する。深さは27cmで、断面形は逆台形である。底面は平らである。主軸方向は僧寺中軸より27°東偏している。覆土は明黒褐色土を主体とした自然堆積である。

SK1897土坑(図面169、169 図版208・209)

IHL・HM64・65区に所在し、僧寺中軸線の北455・456m、東194・195mに位置する。北・南側の一部が削平されており、上面規模は長軸1.21m、残存短軸0.8m、底面規模は長軸0.9m、残存短軸0.66mで、平面形は楕円形を呈すると推測される。深さは37cmで、断面形は逆台形である。底面は平らである。主軸方向は僧寺中軸より51°西偏している。覆土は上層が明黒褐色土を主体とした自然堆積であるが、中層から下層にかけては暗茶褐色土、ロームブロックを含み、人為的な埋め戻しと推測される。

遺物は覆土中より土師質土器・坏1、女瓦1点が出土した。

SK1898土坑(図面169 図版209)

IHL・HM60区に所在し、僧寺中軸線の北455・456m、東180・181mに位置する。南側が調査区外に延びているほか、東側でSI573と重複し、切られている。上面の残存規模は長軸0.7m、短軸0.43m、底面の残存規模は長軸0.53m、短軸0.33mで、平面形は上面、底面ともに長方形を呈すると推測される。深さは14cmで、断面形は逆台形である。底面はほぼ平らである。主軸方向は僧寺中軸より69°西偏している。覆土は明黒褐色土を主体とした自然堆積である。

SK1899土坑(図面169 図版209)

IHM・HN54・55区に所在し、僧寺中軸線の458・459m、東164・165mに位置する。北・南側の一部が削平されており、上面の残存規模は長軸0.88m、短軸0.82m、底面規模は長軸0.72m、短軸0.68mで、平面形は上面、底面ともに楕円形を呈する。深さは56cmで、断面形は箱形である。底面には小穴3個が認められた。主軸方向は僧寺中軸より16°東偏している。覆土は暗茶褐色

土混じりの明黒褐色土を主体としたもので、人為的な埋め戻しが認められる。

SK1902土坑 (図面169 図版209)

I HN77区に所在し、僧寺中軸線の北459・460m、東231・232mに位置する。西側半分が削平されている。上面の残存規模は長軸0.8m、短軸0.7m、底面の残存規模は長軸0.54m、短軸0.48mで、平面形は楕円形を呈すると推測される。深さは15cmで、断面形は逆台形である。底面はほぼ平らである。主軸方向は僧寺中軸より52°東偏している。覆土は明黒褐色土を主体とした自然堆積である。

SK1903土坑 (図面169、169 図版209)

I HN77区に所在し、僧寺中軸線の北461m、東232mに位置する。上面規模は長軸0.64m、短軸0.46m、底面規模は長軸0.44m、短軸0.34mで、平面形は上面、底面ともに楕円形を呈する。深さは24cmで、断面形は逆台形である。底面はほぼ平らである。主軸方向は僧寺中軸より21°東偏している。覆土は明黒褐色土を主体とした自然堆積である。

遺物は覆土中より須恵器B・坏1、土師質土器・坏1、女瓦1、礫1点が出土した。

SK1904土坑 (図面169 図版209)

I HM・HN71区に所在し、僧寺中軸線の北458～460m、東214・215mに位置する。上面規模は長軸1.76m、短軸1.04m、底面規模は長軸1.3m、短軸0.88mで、平面形は上面、底面ともに両側がやや角張った楕円形を呈する。深さは2cmである。底面はほぼ平らである。主軸方向は僧寺中軸より5°東偏している。覆土は明黒褐色土を主体とした自然堆積である。

SK1905土坑 (図面169、169 図版209・210)

I HN・H070・71区に所在し、僧寺中軸線の北461・462m、東212～215mに位置する。SK1906と重複し、切られている。上面規模は長辺3.0m、短辺0.81m、底面規模は長辺2.68m、短辺0.68mで、平面形は上面、底面ともに長方形を呈する。深さは26cmで、断面形は逆台形である。底面は東側に向かって深くなっているが、ほぼ平らである。主軸方向は僧寺中軸より80°西偏している。覆土は大別3層に分かれ、暗茶褐色土ブロック混じりの暗褐色土による人為的埋め戻しが認められる。

遺物は覆土中より須恵器A・坏2、B・坏1、土師質土器・坏1、不明1、女瓦1点が出土した。

SK1906土坑 (図面169 図版209・210)

I HN・H071区に所在し、僧寺中軸線の461・462m、東213・214mに位置する。SK1905の中央付近で重複し、切っている。上面規模は長軸0.71m、短軸0.63m、底面規模は長軸0.45m、短軸0.34mで、平面形は上面が円形、底面が楕円形を呈する。深さは40cmで、断面形は逆台形である。底面は平らである。主軸方向は僧寺中軸より7°東偏している。覆土は暗茶褐色土ブロッ

ク、ロームブロック混じりの暗茶褐色土による人為的埋め戻しが認められる。

SK1907土坑 (図面169、169 図版210、81)

I H067区に所在し、僧寺中軸線の北462・463m、東201～203mに位置する。上面規模は長軸1.45m、短軸1.04m、底面規模は長軸1.11m、短軸0.74mで、平面形は上面、底面ともに楕円形を呈する。深さは24cmで、断面形は逆台形である。底面は平らである。主軸方向は僧寺中軸より52°東偏している。覆土は暗茶褐色土、ロームブロック混じりの明黒褐色土が主体で、人為的な埋め戻しが推測される。

遺物は覆土中より土師器・甕2、須恵器A・坏1、土師質土器・坏2、鉄滓1点が出土した。

SK1908土坑 (図面170、169 図版210)

I H065・66区に所在し、僧寺中軸線の北462～464m、東196～198mに位置する。上面規模は長軸1.54m、短軸1.38m、底面規模は長軸1.37m、短軸1.24mで、平面形は上面、底面ともに円形を呈する。深さは40cmで、断面形は箱形である。底面は中央がやや低くなっているが、ほぼ平らである。主軸方向は僧寺中軸より81°西偏している。覆土は暗茶褐色土ブロック、ロームブロック混じりの暗茶褐色土による人為的埋め戻しが認められる。

遺物は覆土中より土師器・甕3、須恵器A・坏1、高台付坏1、土師質土器・坏5、女瓦1点が出土した。

SK1909土坑 (図面170、169 図版210、81)

I HN・H065区に所在し、僧寺中軸線の北461・462m、東196・197mに位置する。西側半分が削平されている。上面規模は径1.04m、底面規模は長軸0.84m、短軸0.78mで、平面形は上面、底面ともに円形を呈する。深さは55cmで、断面形は逆台形である。底面は東側がやや低くなっているが、ほぼ平らである。主軸方向は僧寺中軸より1°東偏している。覆土は上層がローム粒を含む黒褐色土を主体とし、下層は暗茶褐色土、ロームブロックが混じる茶褐色土を主体としたもので、人為的な埋め戻しが行われている。

遺物は覆土中より土師器・甕1、須恵器A・坏1、B・坏4、土師質土器・坏6、鉄滓1点が出土した。

SK1910土坑 (図面170 図版210)

I HN65区に所在し、僧寺中軸線の北460・461m、東195・196mに位置する。北側が削平されており、上面規模は残存長軸0.94m、短軸0.6m、底面規模は残存長軸0.66m、短軸0.34mで、平面形は上面、底面ともに楕円形を呈すると推測される。深さは29cmで、断面形は逆台形である。底面は平らで、南端に径18cm、深さ12cmの小穴が1個認められた。主軸方向は僧寺中軸より8°東偏している。覆土は暗茶褐色土ブロック混じりの明黒褐色土を主体としたもので、人為的な埋め戻しが認められる。

遺物は須恵器B・坏1、土師質土器・坏3点が出土した。

SK1911土坑 (図面170、169 図版211)

IHM・HN65区に所在し、僧寺中軸線の北458・459m、東195・196mに位置する。北側でSK1912と重複し、切っている。上面規模は残存長軸0.72m、短軸0.77m、底面規模は径0.28mで、平面形は上面、底面ともに楕円形を呈する。深さは26cmで、断面形は逆台形である。底面はほぼ平らである。主軸方向は僧寺中軸より14.5°西偏している。覆土は暗茶褐色土ブロック混じりの明黒褐色土を主体としたもので、人為的な埋め戻しが認められる。

遺物は磨痕石1点が出土した。

SK1912土坑 (図面170 図版211)

IHN65区に所在し、僧寺中軸線の北459・460m、東195・196mに位置する。南側でSK1911と重複し、切られている。上面規模は残存長軸0.65m、短軸0.63m、底面規模は残存長軸0.59m、短軸0.53mで、平面形は上面、底面ともに長方形を呈すると推測される。深さは17cmで、断面形は逆台形である。底面は平らである。主軸方向は僧寺中軸より35°西偏している。覆土は暗茶褐色土ブロック混じりの暗褐色土を主体とした単層で、人為的な埋め戻しが認められる。

SK1913土坑 (図面170、169 図版211)

IHL・HM74・75区に所在し、僧寺中軸線の北455・456m、東224・225mに位置する。上面規模は長軸1.02m、短軸0.94m、底面規模は長軸0.86m、短軸0.46mで、平面形は上面、底面ともに楕円形を呈する。深さは32cmで、断面形は逆台形である。底面はほぼ平らである。主軸方向は僧寺中軸より29.5°東偏している。覆土は明黒褐色土を主体とした自然堆積である。

遺物は覆土中より土師質土器・坏2、女瓦1点が出土した。

SK1924土坑 (図面170、170)

IHL67・68区に所在し、僧寺中軸線の北454・455m、東203・204mに位置する。南側の大半が調査区外に延びている。上面の確認規模は長軸0.94m、短軸0.28m、底面の確認規模は長軸0.78m、短軸0.19mで、平面形は上面、底面ともに円形を呈すると推測される。深さは49cmで、断面形は箱形である。底面はほぼ平らである。覆土は暗茶褐色土ブロック・ロームブロック混じりの暗褐色土による人為的な埋め戻しが認められる。

遺物は覆土中より土師器・甕3、須恵器A・坏2、B・坏2、灰釉陶器・壺1、男瓦1、焼礫1点が出土した。

SK2003土坑 (図面170 図版211)

IVH036区に所在し、僧寺中軸線の北463・464m、西107・108mに位置する。西側は調査区外に延びている。上面規模は確認長辺0.88m、短辺1.02m、底面規模は確認長軸0.72m、短軸0.66mで、平面形は上面、底面ともに長方形を呈すると推測される。深さは20cmで、断面形は逆台

形である。東側がやや窪んでいるが、ほぼ平らである。主軸方向は僧寺中軸より81°東偏している。覆土は暗茶褐色土ブロック混じりの明黒褐色土による人為的埋め戻しが認められる。

遺物は覆土中より土師器・甕1、土師質土器1、焼礫1点が出土した。

SK2004土坑 (図面170、170 図版211、81)

IVH015区に所在し、僧寺中軸線の北463m、西44・45mに位置する。南側は調査区外に延びている。上面規模は確認長軸0.56m、短軸0.75m、底面規模は確認長軸0.38m、短軸0.6mで、平面形は上面・底面ともに長方形を呈すると推測される。深さは33cmで、断面形は逆台形である。底面はほぼ平らである。主軸方向は僧寺中軸より5°東偏している。覆土は暗茶褐色土、ロームブロック混じりの暗茶褐色土による人為的埋め戻しが認められる。

遺物は覆土中より土師器・甕7、須恵器A・坏2、B・坏1、土師質土器・坏6、男瓦1、女瓦2、鉄製鉸具1、礫1、焼礫2点が出土した。

SK2010土坑 (図面170)

IVH022・23区に所在し、僧寺中軸線の北462・463m、西65～67mに位置する。東・西端は削平されており、上面の残存規模は長軸1.28m、短軸1.08m、底面の残存規模は長軸1.28m、短軸0.84mで、平面形は上面・底面ともに楕円形を呈すると推測される。深さは18cmで、断面形は逆台形である。底面は中央がやや低くなっている。主軸方向は僧寺中軸より86°西偏している。覆土は明黒褐色土を主体とした自然堆積で単層であった。

遺物は覆土中より礫2点が出土した。

性格不明遺構

SX149性格不明遺構 (図面171、170-171 図版207)

IHM-HN68区に所在し、僧寺中軸線の北458・459m、東204・205mに位置する。Ⅲb層上層の東西0.67m、南北1.86mの範囲から須恵器A・坏1、甕1、土師質土器・坏2、高台付坏1、男瓦7、女瓦17、不明瓦1、台石2、8～20cm大の礫3、焼礫11点が出土した。明確な掘り込みが認められなかったため遺物溜りとした。

SX150性格不明遺構 (図面171)

IHM-HN66・67区に所在し、僧寺中軸線の北456～460m、西200～202mに位置する。本跡はⅢb層上層で確認された硬質部分である。硬質部分の範囲は東西1.78m、南北4.12mの不整長楕円形で、土層断面の状況から自然堆積層が変質して硬質な暗茶褐色土ブロック化したような感が認められる。また中央付近に径約1.1mの円形の掘り込みが認められ、覆土は暗茶褐色土を含み、人為的な埋め戻しが考えられる。

SX151性格不明遺構 (図面171)

IHN-H075区に所在し、僧寺中軸線の北460～462m、東226・227mに位置する。本跡はⅢb層

上層で確認された硬質面である。硬質部分の範囲は1.92×1.06mの不整形で、その下部に深さ38cm程の掘り込みが認められ、覆土は暗茶褐色土を主体としたものであった。土層断面より硬質部分は上層のみで、下層では認められなかった。

SX152性格不明遺構 (図面171)

I HN79区に所在し、僧寺中軸線の北457・458m、東238・239mに位置する。本跡はⅢb層上層で確認された硬質面で、東側の一部が削平されていた。範囲は1.14×0.98m、深さ17cmの楕円形の掘り込みの内側に0.82×0.58mの範囲で硬質部分が確認された。土層断面より暗茶褐色土の上層で硬質部が認められたが、下層では認められなかった。

SX155性格不明遺構 (図面171 図版207)

IVHP・HQ2区に所在し、僧寺中軸線の北467・468m、西4・5mに位置する。本跡はⅢb層上面で確認され、東西0.36m、南北0.39m、平面形は不整形楕円形を呈し、厚さ7cmの硬質部分で、中央が確認面より6cm程窪んでおり、掘り鉢状になっている。硬質部分は周囲と比較し非常に硬く締まっていた。

小穴 (図面159、172 図版81)

調査区内で139個が認められ、東・西側調査区で各1か所、群を成す部分が認められた。東側調査区はIH1～H072～74区、僧寺中軸線の北453～463m、東218～222m内で44個の小穴が不規則に南北方向の列状に認められた。小穴の規模は径16～51cm、深さ27～83cmで、深さ50cmを超えるものが27個と、比較的深いものが多い。一部重複しているものや、覆土に締まりのないものが認められた。列の主軸方向は僧寺中軸より5.5°東偏している。

西側の調査区はIVH0・HP25～27区、僧寺中軸線の北463～465m、西77～83m内で19個、隣接して調査を実施した437次調査区で確認された59個の小穴を含めると、IVH0・HP25～30区、僧寺中軸線の北463～467m、西76～90m内で78個の小穴が東西に列状に認められた。一部上面が削平され、規模が明確でないものが含まれるが、径8～48cm、深さ9～79cmで、一部重複しているもの、覆土に締まりがないものが認められた。列の主軸方向は僧寺中軸より78°西偏している。

また、この2か所と比較し、小穴の密度は低いが、やや列を形成しているような箇所が東側調査区の西端に認められる。これらはIH0～HP42～47区に所在し、僧寺中軸線の北462～470m、東128～141mに位置し、小穴26個で東西方向の列を成している。規模は径15～61cm、深さ9～77cmで、他の2か所に比べやや浅いものが多い。

遺物はP-9から土師器・坏1、須恵器A・坏1、礫1、P-10から須恵器B・坏1、女瓦1、P-15から須恵器A・坏1、女瓦1、不明土器1、P-33から須恵器A・坏1、土師質土器・坏1、P-38から須恵器B・坏2、不明土器1、そのほかP-70から土師器・台付甕が、P-69か

ら須恵器A・坏、P-18・71・104から土師質土器・坏、P-40から灰釉陶器・甃、P-3から緑釉陶器・甃が、P-12・13・35・81から女瓦が、P-16・29・92から甃が出土した。

(3) 縄文時代の調査

土坑

SK1774J土坑 (図面177 図版215)

IVHP27・28区に所在し、僧寺中軸線の北465～467m、西80～83mに位置する。北側は437次調査で確認されている。上面規模は長軸2.08m、短軸1.44m、底面規模は長軸1.3m、短軸0.75mで、平面形は上面・底面ともに楕円形を呈する。深さは107cmで、断面形は逆台形である。底面はVb層中層まで掘り込まれ、平らで、長軸上に径18～22cm、深さ8～13cmの小穴が3個認められ、うち両端の2個は棒状痕と考えられる。主軸方向は僧寺中軸より41°東偏している。覆土は暗茶褐色土主体で、一部人為的埋め戻しが認められた。形状から陥穴と考えられる。

SK1934J土坑 (図面173 図版215)

IVIM39区に所在し、僧寺中軸線の北466～468m、西115・116mに位置する。西側が削平されている。上面規模は残存長軸1.88m、短軸1.32m、底面規模は残存長軸1.26m、短軸0.46mで、平面形は楕円形を呈すると推測される。深さは51cmで、断面形は半円形である。底面はVa層まで掘り込まれており、やや凹凸が見られ、東側は深さ10cm程低くなっている。主軸方向は僧寺中軸より71°西偏している。覆土は暗茶褐色土主体で、下層に層の乱れが認められ、形状から倒木痕と考えられる。

SK1935J土坑 (図面173 図版215)

IHO42区に所在し、僧寺中軸線の北463・464m、東126・127mに位置する。上面規模は長軸1.22m、短軸0.98m、底面規模は長軸0.84m、短軸0.22mで、平面形は上面が楕円形、底面が不整楕円形を呈する。深さは30cmで、断面形は半円形である。底面はIV層まで掘り込まれ、ほぼ平らである。主軸方向は上面が僧寺中軸より30.5°西偏し、底面は10°西偏している。覆土は暗茶褐色土主体の自然堆積で、断面の状況から小穴が重複し、切られているようにも考えられる。

SK1936J土坑 (図面173 図版215)

IHQ42区に所在し、僧寺中軸線の北468・469m、東126・127mに位置する。中央付近でPJ-36・327と重複し、切られている。上面規模は長軸1.08m、短軸1.03m、底面規模は長軸0.73m、短軸0.64mで、平面形は上面、底面ともに円形を呈する。深さは29cmで、断面形は逆台形である。底面はIV層まで掘り込まれている。主軸方向は上面が僧寺中軸より66°西偏し、底面は11°東偏している。覆土は暗茶褐色土主体の自然堆積である。

SK1937J土坑 (図面173 図版215)

I HS44・45区に所在し、僧寺中軸線の北474~476m、東133~135mに位置する。南端でPJ-51、中央付近でPJ-54と重複し、切られている。上面規模は長軸1.67m、短軸1.15m、底面規模は長軸0.74m、短軸0.62mで、平面形は上面が楕円形、底面が不整形円形を呈する。深さは30cmで、断面形は逆台形である。底面はVa層上層まで掘り込まれ、ほぼ平らである。主軸方向は僧寺中軸より23°東偏している。覆土は暗茶褐色土主体の自然堆積である。

SK1938J土坑 (図面173 図版215)

I H043区に所在し、僧寺中軸線の北464m、東129・130mに位置する。北側の一部が削平されており、上面規模は長軸0.76m、残存短軸0.53m、底面規模は長軸0.27m、短軸0.17mで、平面形は上面、底面ともに楕円形を呈する。深さは28cmで、断面形は半円形である。底面はIV層まで掘り込まれている。主軸方向は上面が僧寺中軸より77°西偏し、底面は83°西偏している。覆土は暗茶褐色土主体の自然堆積である。

SK1939J土坑 (図面173 図版215・216)

I IN61・62区に所在し、僧寺中軸線の北459~461m、東165・166mに位置する。上面規模は長軸1.48m、短軸0.86m、底面規模は長軸0.9m、短軸0.32mで、平面形は不整形長方形、底面は長方形を呈する。深さは100cmで、壁の中程に不規則な掘り込みが数か所認められる。断面形は逆台形である。底面はVb層まで掘り込まれており、ほぼ平らで、中軸上に径8~12cm、深さ9~20cmの小穴が3個認められ、棒状痕と考えられる。主軸方向は上面が僧寺中軸より3.5°東偏し、底面は18.5°東偏している。覆土は壁際、下層は茶褐色土を主体としロームブロックを含む層が認められるほかは、中層が茶褐色土主体、上層が暗茶褐色土主体の自然堆積である。形状から陥穴と考えられる。

SK1940J土坑 (図面173 図版216)

I HM・HN64区に所在し、僧寺中軸線の北456~459m、東192~194mに位置する。PJ-109・110と重複している。上面規模は長軸2.08m、短軸2.06mで、平面形は不整形円形を呈する。深さは78cmで、断面形は半円形である。底面はVa層まで掘り込まれており、凹凸が認められる。主軸方向は僧寺中軸より44°東偏している。覆土はロームを多く含む茶褐色土が主体で、層に乱れが認められる。形状から倒木痕と考えられる。

SK1942J土坑 (図面174)

I HM・HN65・66区に所在し、僧寺中軸線の北456~460m、東196~200mに位置する。上面規模は長軸4.32m、短軸3.4m、底面規模は長軸3.79m、短軸2.6mで、平面形は上面、底面ともに不整形を呈する。深さは37cmである。底面はおおむねIV層で、一部Va上層まで掘り込まれており、中央付近及び西壁付近で小穴が4個認められた。主軸方向は僧寺中軸より19.5°東偏し

ている。覆土はロームブロックを含む茶褐色土で、層が非常に乱れている。形状から倒木痕と考えられる。

SK1943J土坑 (図面174 図版216)

I H070区に所在し、僧寺中軸線の北460・461m、東211・212mに位置する。上面規模は長軸1.14m、短軸1.02m、底面規模は長軸0.95m、短軸0.77mで、平面形は上面、底面ともに不整形円形を呈する。深さは26cmで、断面形は逆台形である。底面はIV層まで掘り込まれ、やや凹凸が認められる。主軸方向は僧寺中軸より47°東偏している。覆土は茶褐色土主体の自然堆積である。

SK1944J土坑 (図面174)

I HL69・70区に所在し、僧寺中軸線の北454・455m、東209・210mに位置する。南側が調査区外に延び、北側の一部が削平されている。上面規模は、確認長軸0.9m、短軸0.87m、底面規模は確認長軸0.8m、短軸0.6mで、平面形は不整形円形を呈すると推測される。深さは22cmである。底面はIV層まで掘り込まれており、凹凸が認められる。主軸方向は僧寺中軸より47°東偏している。覆土はロームを多く含む茶褐色土主体で、形状から倒木痕と考えられる。

SK1945J土坑 (図面174 図版216)

I HL70・71区に所在し、僧寺中軸線の北454・455m、東212・213mに位置する。上面規模は長軸1.24m、短軸0.94m、底面規模は長軸0.73m、短軸0.67mで、平面形は上面が楕円形、底面が不整形を呈する。深さは25cmで、断面形は逆台形である。底面はIV層下層まで掘り込まれており、ほぼ平らで、中央やや南側に径26cm、深さ6cmの小穴が1個認められた。主軸方向は僧寺中軸より6°東偏している。覆土は茶褐色土主体の自然堆積である。

SK1946J土坑 (図面176 図版216)

I HM74・75区に所在し、僧寺中軸線の北456・457m、東223～225mに位置する。中央でPJ-226と重複し、切られている。上面規模は長軸1.72m、短軸1.04mで、平面形は楕円形を呈する。深さは30cmで、断面形は長軸で半円形である。底面はVa層上面まで掘り込まれている。主軸方向は僧寺中軸より66°西偏している。覆土は茶褐色土主体の自然堆積である。

SK1947J土坑 (図面175 図版216)

I HM・HN74区に所在し、僧寺中軸線の北458・459m、東222・223mに位置する。上面規模は長軸1.27m、短軸1.19m、底面規模は長軸0.79m、短軸0.74mで、平面形は楕円形を呈する。深さは26cmで、断面形は半円形である。底面はIV層下層まで掘り込まれており、北東部分がやや低くなっている。主軸方向は僧寺中軸より43°東偏している。覆土は茶褐色土主体で、ロームを多く含む層である。

SK1948J土坑 (図面175 図版216)

I HN・H074区に所在し、僧寺中軸線の北461・462m、東222・223mに位置する。上面規模は長軸1.24m、短軸1.1m、底面規模は長軸0.68m、短軸0.56mで、平面形は上面、底面ともに円形を呈する。深さは22cmで、断面形は半円形である。底面はIV層まで掘り込まれている。主軸方向は僧寺中軸より43°東偏している。覆土は茶褐色土主体で、全体にロームを多く含む層である。

SK1949J土坑 (図面175 図版217)

I HN75区に所在し、僧寺中軸線の北459・460m、東225・226mに位置する。北東側でPJ-177と重複している。上面規模は長軸1.14m、短軸0.78mで、平面形は楕円形を呈する。深さは41cmで、断面形は半円形である。底面はVa層まで掘り込まれている。主軸方向は僧寺中軸より35°西偏している。覆土は茶褐色土主体で、やや層に乱れが認められる。

SK1950J土坑 (図面175 図版217)

I HM・HN77・78区に所在し、僧寺中軸線の北457～459m、東232・234mに位置する。PJ-228～231・328と重複し、PJ-228・229・328に切られている。上面規模は長軸2.1m、短軸1.44mで、平面形は不整長方形を呈する。深さは50cmである。底面はVa層上層まで掘り込まれており、凹凸が認められる。主軸方向は僧寺中軸より8°西偏している。覆土は茶褐色土主体の自然堆積である。

SK1951J土坑 (図面175)

I HM74区に所在し、僧寺中軸線の北467・468m、東223・224mに位置する。上面規模は長軸0.74m、短軸0.58m、底面規模は長軸0.54m、短軸0.36mで、平面形は上面、底面ともに楕円形を呈する。深さは26cmで、断面形は逆台形である。底面はIV層下層まで掘り込まれ、東側に向かって低くなっている。主軸方向は僧寺中軸より67°西偏している。覆土は茶褐色土主体の自然堆積である。

SK1952J土坑 (図面175)

I HM・HN78・79区に所在し、僧寺中軸線の北455・456m、東236・237mに位置する。上面規模は長軸0.9m、短軸0.86m、底面規模は長軸0.42m、短軸0.3mで、平面形は上面、底面ともに円形を呈する。深さは16cmで、断面形は半円形である。底面はIV層中層まで掘り込まれている。主軸方向は僧寺中軸より17°西偏している。覆土は茶褐色土主体の自然堆積である。

SK1953J土坑 (図面175)

I HN79区に所在し、僧寺中軸線の北459m、東238mに位置する。上面規模は長軸0.72m、短軸0.66m、底面規模は長軸0.42m、短軸0.3mで、平面形は上面が不整形、底面が楕円形を呈する。深さは16cmで、断面形は半円形である。底面はIV層中層まで掘り込まれている。主軸方向は僧寺中軸より67°東偏している。覆土は褐色土主体の自然堆積である。

SK1954J土坑 (図面176 図版217)

I HM79区に所在し、僧寺中軸線の北456・457m、東238・239mに位置する。上面規模は長軸0.88m、短軸0.83mで、平面形は円形を呈する。深さは24cmで、断面形は半円形である。底面はIV層中層まで掘り込まれている。主軸方向は僧寺中軸より87.5°東偏している。覆土は茶褐色土主体の自然堆積である。

SK1955J土坑 (図面176)

I HL80区に所在し、僧寺中軸線の北453・454m、東241mに位置する。東側でPJ-211と重複し、切っている。上面規模は長軸0.75m、短軸0.45mで、平面形は不整形を呈する。深さは44cmである。底面はVa層上層まで掘り込まれ、北側に向かって低くなっている。主軸方向は僧寺中軸より31°東偏している。覆土は茶褐色土主体の自然堆積である。

SK1956J土坑 (図面176 図版217)

I HM・HN82・83区に所在し、僧寺中軸線の北458・459m、東248・249mに位置する。北側の一部が削平されており、上面規模は長軸1.89m、短軸0.84m、底面規模は長軸1.64m、短軸0.34mで、平面形は上面、底面ともに不整形円形を呈する。深さは40cmで、断面形は半円形である。底面はIV層下層まで掘り込まれ、北側に向かって低くなっている。主軸方向は僧寺中軸より32.5°西偏している。覆土は茶褐色土主体で、層にやや乱れが認められる。

SK1957J土坑 (図面175 図版217)

I HM・HN83区に所在し、僧寺中軸線の北457～460m、東250・251mに位置する。北側の一部が削平されており、上面規模は残存長軸2.72m、短軸0.82m、底面規模は長軸2.36m、短軸0.14mで、平面形は不整形長方形を呈する。深さは50cmである。底面はVa層上層まで掘り込まれ、凹凸が認められる。主軸方向は僧寺中軸とほぼ同一である。覆土は茶褐色土主体で、人為的に埋め戻された感もある。

SK1958J土坑 (図面174)

I HM83区に所在し、僧寺中軸線の北456・457m、東249・250mに位置する。上面規模は長軸0.82m、短軸0.78mで、平面形は円形を呈する。深さは28cmで、断面形はV字形である。底面はIV層中層まで掘り込まれている。主軸方向は僧寺中軸と同一である。覆土は茶褐色土主体の自然堆積である。

SK1959J土坑 (図面174 図版217)

I HL86区に所在し、僧寺中軸線の北453・454m、東258・259mに位置する。上面規模は長軸0.76m、短軸0.68mで、平面形は楕円形を呈する。深さは31cmで、断面形はV字形である。底面はIV層中層まで掘り込まれている。主軸方向は僧寺中軸より2°西偏している。覆土は茶褐色土主体の自然堆積である。

SK1960J土坑 (図面174 図版217)

IHL87区に所在し、僧寺中軸線の北454・455m、東261・262mに位置する。上面規模は長軸0.82m、短軸0.62m、底面規模は長軸0.4m、短軸0.23mで、平面形は上面、底面ともに楕円形を呈する。深さは24cmで、断面形は半円形である。底面はIV層中層まで掘り込まれ、ほぼ平らで、東壁際に小穴が1個認められた。主軸方向は僧寺中軸より39°東偏している。覆土は茶褐色土主体で全体にロームブロックが多く含まれている。形状から倒木痕と考えられる。

SK2011J土坑 (図面176 図版217)

IVHM・HN30・31区に所在し、僧寺中軸線の北458・459m、西90～92mに位置する。南側が調査区外に延びており、上面の確認規模は長軸1.31m、短軸0.62m、底面の確認規模は長軸0.48m、短軸0.32mで、平面形は上面、底面ともに不整形を呈する。深さは30cmで、断面形は逆台形である。底面はIV層中層まで掘り込まれ、ほぼ平らである。覆土は茶褐色土主体で、ロームを多く含み、形状から倒木痕と考えられる。

SK2012J土坑 (図面176 図版218)

IVHN28区に所在し、僧寺中軸線の北459・460m、西82mに位置する。南側が調査区外に延びており、上面の確認規模は長軸0.95m、短軸0.48m、底面規模は確認長軸0.64m、短軸0.4mで、平面形は上面、底面ともに楕円形を呈する。深さは19cmで、断面形は逆台形である。底面はIV層まで掘り込まれ、ほぼ平らである。主軸方向は僧寺中軸より37°東偏している。覆土は茶褐色土主体の自然堆積である。

SK2013J土坑 (図面176 図版218)

IVHN・HO22区に所在し、僧寺中軸線の北461・462m、西65・66mに位置する。上面規模は長軸1.09m、短軸0.94m、底面規模は長軸0.36m、短軸0.35mで、平面形は上面、底面ともに円形を呈する。深さは67cmで、断面形は半円形である。底面はIV層まで掘り込まれ、ほぼ平らである。主軸方向は僧寺中軸より58°西偏している。覆土は暗茶褐色土主体で、断面の状況から小穴との重複が考えられる。

SK2014J土坑 (図面176)

IVHO21・22区に所在し、僧寺中軸線の北462・463m、西63・64mに位置する。上面規模は長軸1.2m、短軸0.9m、底面規模は長軸0.76m、短軸0.24mで、平面形は上面が楕円形、底面が不整形楕円形を呈する。深さは21cmである。底面はIV層まで掘り込まれ、東側がテラス状にやや高くなっている。主軸方向は僧寺中軸より82°西偏している。覆土は茶褐色土主体の自然堆積である。

SK2015J土坑 (図面176)

IVHO17・18区に所在し、僧寺中軸線の北462～464m、西51～53mに位置する。南側が調査区

外に延びており、北側が削平されている。上面の残存規模は長軸1.36m、短軸1.0m、底面の残存規模は長軸0.4m、短軸0.38mで、平面形は上面、底面ともに不整形を呈すると推測される。深さは19cmである。底面はIV層まで掘り込まれ、西側に向かって低くなっている。主軸方向は僧寺中軸より36°西偏している。覆土は暗茶褐色土主体で、全体にロームを多く含み、形状から倒木痕と考えられる。

SK2016J土坑 (図面177 図版218)

IVH015・16区に所在し、僧寺中軸線の北463・464m、西45・46mに位置する。東側でPJ-272と重複し、切られている。上面規模は残存長軸1.62m、短軸0.84mで、平面形は楕円形を呈する。深さは25cmである。底面はIV層上層まで掘り込まれ、凹凸が認められる。主軸方向は僧寺中軸より86°東偏している。覆土は茶褐色土主体で、形状から倒木痕と考えられる。

SK2017J土坑 (図面177 図版218)

IVH0・HP13区に所在し、僧寺中軸線の北464・465m、西37・38mに位置する。上面規模は長軸1.06m、短軸0.64m、底面規模は長軸0.6m、短軸0.3mで、平面形は上面、底面ともに楕円形を呈する。深さは21cmで、断面形は逆台形である。底面はIV層上層まで掘り込まれ、西側に向かってやや低くなっている。主軸方向は僧寺中軸より69.5°東偏している。覆土は茶褐色土主体でロームを多く含む層である。

SK2018J土坑 (図面177 図版218)

IVHP8・9区に所在し、僧寺中軸線の北466・467m、西24・25mに位置する。上面規模は長軸1.14m、短軸1.1m、底面規模は長軸0.48m、短軸0.4mで、平面形は上面、底面ともに楕円形を呈する。深さは43cmで、断面形は半円形である。底面はIV層下層まで掘り込まれ、北に向かってやや低くなっている。主軸方向は上面で僧寺中軸より33°東偏し、底面で16°西偏している。覆土は茶褐色土主体で、小穴との重複を考え得る部分が認められるがおおむね自然堆積である。

SK2019J土坑 (図面177 図版218)

IHQ・HR3・4区に所在し、僧寺中軸線の北470・471m、東11・12mに位置する。北東側でPJ-307と重複し、切っている。上面規模は残存長軸1.06m、短軸0.84m、底面規模は長軸0.3m、短軸0.08mで、平面形は上面、底面ともに楕円形を呈する。深さは31cmで、断面形は半円形である。底面はIV層下層まで掘り込まれている。主軸方向は上面で僧寺中軸より40°東偏し、底面で32°東偏している。覆土は茶褐色土主体の自然堆積である。

SK2020J土坑 (図面177 図版218)

IHQ4・5区に所在し、僧寺中軸線の北469・470m、東13～15mに位置する。南西側でPJ-308と重複し、切っている。上面規模は残存長軸1.23m、短軸0.92m、底面規模は長軸0.5m、短軸0.2mで、平面形は上面、底面ともに楕円形を呈する。深さは20cmで、断面形は半円形であ

る。底面はIV層まで掘り込まれ、西側がテラス状にやや高くなっている。主軸方向は上面で僧寺中軸より51°東偏し、底面で29°東偏している。覆土は茶褐色土主体の自然堆積である。

SK2021J土坑 (図面177 図版218)

IHQ1区に所在し、僧寺中軸線の北468m、東4・5mに位置する。南側が調査区外に延びており、西側でPJ-306、北側でPJ-326と重複し、切られている。上面規模は確認長軸0.88m、短軸0.8m、底面規模は確認長軸0.77m、短軸0.63mで、平面形は上面、底面ともに楕円形を呈すると推測される。深さは28cmである。底面はIV層中層まで掘り込まれ、ほぼ平らで、北側に径43cm、深さ12cmの小穴がある。主軸方向は僧寺中軸より34°東偏している。覆土は茶褐色土主体の自然堆積である。

SK2024J土坑 (図面177)

IHR1区に所在し、僧寺中軸線の北472・473m、西2・3mに位置する。上面規模は長軸1.2m、短軸0.74m、底面規模は長軸0.66m、短軸0.18mで、平面形は上面、底面ともに楕円形を呈する。深さは18cmである。底面はIV層上層まで掘り込まれ、ほぼ平らである。主軸方向は僧寺中軸より48°東偏している。覆土は茶褐色土主体の自然堆積である。

遺物は覆土中より礫2点が出土した。

小穴 (図面172)

調査区内全体から327個が確認された。規模は20～39cm、平面形は円形もしくは楕円形、深さ10～29cmのものが全体の80%近くを占めるが、そのなかでもPJ-25・64・66・127・230・252・256のように深さが50cmを超えるものも存在する。また、規模が40cmを超えるものは66個で、PJ-13・97のように深さが20cm前後と浅いものが多いなか、PJ-85・161・294・328のように深さ40cmを超えるものも僅かながら認められる。覆土は暗茶褐色土主体の自然堆積のものが大半を占めるが、PJ-229・328のように人為的な埋め戻しが認められるものも存在する。

(4) 包含層出土の遺物 (図面178、175～179 図版82～84)

縄文土器

早期の土器は17点出土し、10点を図示。図面175-1～4は西側出土。1は口縁下に沈線があり、その他は外面に捺痕が認められる。図面175-5～10が東側出土で、5・6は外面に摺糸文が認められ、その他は無文土器で、外面には捺痕が認められるものが多い。

前期の土器は3点のみで、小片のため詳細は不明である。

中期の土器は27点出土し、18点を図示。うち21点が前半期のもので、数量的には主体を占める。

後期の土器は2点のみ出土で、1点を図示。小片のため詳細は不明であるが、図面175-32の

沈線は深くしっかりしており初頭のものと考えられる。

石器

削器は1点のみ出土で、外周全体に調整を加えている。

打製石斧は9点出土し、5点を図示。西側で3点、東側で6点出土した。短冊形に分類されるが、様々な形態を示している。

調整剥片石器は2点出土。一部に調整を加えているため、調整剥片石器とした。

礫器は1点のみ出土し、下部と一部側面にも弧状に調整痕が認められる。

磨石は3点すべて東側から出土し、円形と、楕円形のものがある。側面に敲打痕が認められるものがある。

スタンプ形石器は6点全て東側から出土し、5点を図示。概して小形で加工痕の少ないものが多い。

石皿は4点出土し、1点のみ西側出土。完形のものはなく、いずれも小形のものである。

剥片は23点出土し、9点を図示。西側8点、東側15点で、図示した9点は全て東側出土のものである。裏面に自然面を遺したものが多い。

礫は129点出土し、うち焼礫は49点である。

(5) 旧石器時代の調査 (図面179、179 図版84)

調査区の状況に応じ、調査坑を8か所設定して調査を実施し、調査坑1のVa層から安山岩製のナイフ形石器1点、調査坑3で土坑1基、調査坑8で小穴1個を確認した。また、調査坑4のVa層中から黒曜石製の調整痕のある剥片1点が出土した。

土坑

SK2022P土坑 (図面179 図版220)

IVHO-HP14区に所在し、僧寺中軸線の北464・465m、西41・42mに位置する。Va層上層で確認され、Vb層下層まで掘り込まれている。上面規模は残存長軸1.08m、短軸1.08mで、平面形は不整楕円形を呈する。深さは60cmである。北西側の壁の一部は袋状になっている。主軸方向は僧寺中軸より31.5°東偏している。覆土は黄褐色土主体で僅かに層が乱れた感が見受けられる。形状、覆土の状況から人為的に掘られたものではなく、倒木痕ではないかと推測される。

8. 445次調査(平成9年度土地区画整理事業 国3・4・3号道路南側拡幅地区 1次)

(1) 概要

本調査地区は国3・4・3号道路(多喜窪通り)南側の拡幅部分で、道路に添って東西に長く、西側に行くにしたがって細くなっている。調査面積は115.0㎡である。確認された遺構は、歴史時代が竪穴住居1軒、性格不明遺構(硬質部分)1か所、小穴82個、縄文時代が土坑1基、小穴6個である。

なお、本調査地区は国分寺極地座標系第I象限と第IV象限にまたがって位置するため、アルファベットグリッド表示の頭に「I・IV」を付した。

(2) 歴史時代の調査

竪穴住居

SI575住居(図面180、180・181 図版221・222、85・86)

I HM3区に所在し、備寺中軸線の北456・457m、東8・9mに位置する。西側でP-73と重複し、切られている。大半が北側調査区外に延びており、カマドと南壁の一部を確認したのみである。壁はほぼ垂直に立ち上がり、深さは29cmで、壁下には幅8cm、床面からの深さ4cmの周溝が認められる。床面は粗掘りの後平らに埋戻されて使用されていた。

カマドは住居の南東隅に壁を掘り込んで構築されているものと推定される。本体はカマドを構築する段階で瓦を据えるために底面をやや掘り込み、そこに女瓦を立て暗褐色土を裏込めし、作られたものと考えられる。しかし、大半の瓦が廃棄時に抜き取られており、一部の瓦が使用時の状況を保っているのみであった。火床は平らで、中央付近に長さ17cmの川原石が直立していたことから、支脚に用いられたものと考えられる。

覆土は明黒褐色土を主体とした自然堆積で、大半がカマドの覆土であったため、焼土が多く含まれていた。

遺物はカマドの覆土中から土師質土器の完形の足高台付壺が1点出土した。

出土遺物総数17点で、土師器・甕1、須恵器A・坏1、B・坏2、土師質土器・坏5、足高台付壺1、男瓦1、女瓦6点が出土した。

性格不明遺構

SX153性格不明遺構(図面180 図版222)

I HL・HM0・1区に所在し、備寺中軸線の北455・456m、東2・3mに位置する。北側は調査区外に延びており、規模は東西1.3m、南北確認長1.17mで、不整長方形の範囲の上面に硬質土

が認められた。斯ち割り調査を実施した結果、明確な掘り込み等は確認されなかったが、周囲の自然体積層と比較し、ブロック状に硬質土が含まれていた。

小穴 (図面180 181)

IHK・IHL1～5区、僧寺中軸線の北452～456m、東4～16m内で82個が確認され、他の地区ではまったく確認されなかった。規模は径15～60cm、平面形は円形もしくは楕円形、深さは11～92cmで、多くは径30cm、深さ30cm前後である。また、P-6・26・45・49・63・77のように深さ70cmを超えるものも認められる。これらは重複しているものも認められたほか、北西から南東方向(僧寺中軸より69°西偏)に列を成すように広がっている。

覆土は明黒褐色土を主体としたもので、自然堆積である。

遺物はP-13から須恵器A・坏1、土師質土器・坏1、P-14の覆土中から罽1、P-27から女瓦1、P-44から土師器・坏1点が出土した。

(3) 縄文時代の調査

土坑

SK1925J土坑 (図面181 図版223)

IHL0区に所在し、僧寺中軸線の北453-454m、東0mに位置する。上面規模は長軸0.74m、短軸0.6mで、平面形は楕円形を呈する。深さは27cmで、断面形は逆台形である。底面はIV層上層まで掘り込まれ、北東に向かってやや低くなっている。主軸方向は僧寺中軸より52°東偏している。覆土は暗褐色土を主体とした自然堆積である。

小穴 (図面181)

調査区全体に散在して6個の小穴が確認された。規模が径18～62cmで、平面形は楕円形、深さは11～32cmで、覆土は暗褐色土を主体とした自然堆積である。

(4) 包含層の出土遺物 (図面182 図版86)

縄文土器

早期の土器は3点出土し、1点を図示。図面182-1は外面に縄文が認められる。

中期の土器は16点出土し、6点を図示。

石器

石器は数少ないため、すべて図示した。

削器は2点出土し、周縁に部分的な調整を行い、裏面に自然面を遺している。

礫器は2点が出土し、下端に大ききな調整を行っている。図面182-10は両面、図面182-11は片面調整である。

台石は2点出土し、平坦面を有し、僅かな磨面があるため台石とした。

剥片は1点のみ出土し、主剥離面は不明。不定形剥片である。

その他礫は45点出土し、うち焼礫は21点であった。

9. 449次調査（平成9年度泉町公園事業 洗面所地区）

(1) 概要

本調査地区は泉町公園北地区の洗面所部分で、調査面積は105.0㎡、確認された遺構は、歴史時代が土坑1基、小穴15個、縄文時代が小穴25個である。旧石器時代の調査は6×6mの調査坑を設定し、X層まで実施したが遺構、遺物は確認されなかった。

(2) 歴史時代の調査

土坑

SK1900土坑（図面182 図版224）

IS・IT63区に所在し、僧寺中軸線の北535～537m、東190・191mに位置する。上面規模は長軸1.34m、短軸1.13m、底面規模は長軸1.16m、短軸0.96mで、平面形は上面、底面ともに長方形を呈する。深さは24cmで、断面形は逆台形である。底面はほぼ平らである。主軸方向は僧寺中軸より2.5°東偏している。覆土は明黒褐色土を主体とした自然堆積である。

小穴（図面182）

調査区北西部分のIS・IT63～65区、僧寺中軸線の北536～538m、東191～195m内で15個が確認され、他の部分では確認されなかった。規模は径24～51cm、平面形は楕円形で、深さは16～67cmで、一部重複が認められる。規模は30cm前後のものが大半を占めるが、深さに関してはばらつきが認められる。これらは東西方向（僧寺中軸とほぼ直交）列を形成しているようにも見られる。覆土は明黒褐色土を主体とした自然堆積である。

(3) 縄文時代の調査

小穴（図面182）

調査区全体から散在して25個が確認された。大半が径20～30cm、深さ15～33cmの楕円形もしくは円形を呈しているが、うちPJ-15・16・20は斜めに掘り込まれていた（斜行ピット）。また、PJ-10・11・13・15・17・19は径30cmを超え、深さはPJ-10が36cm、PJ-15が32cmで比較的深い、他は16～21cmと浅い。覆土は全体が暗茶褐色土を主体にしたもので、自然堆積と考えられる。

(4) 包含層出土の遺物（図面182、183・184 図版87・88）

洗面所予定地であるため調査範囲は小面積であったが、遺物量は多い。

縄文土器

早期の土器は6点出土し、1点を図示。すべて無文土器で外面に擦痕が認められ、図示した図面183-1は内面に炭化物が付着している。

中期の土器は63点出土し、23点を図示。すべて小片で、詳細は不明である。接合せず、胎土から同一個体と考えられるものは少ないが出土状況は調査区のほぼ中央に集中している。ほとんどが前半期のもと考えられ、図面183-2～15は五領ヶ台式土器と考えられる。図面183-21・22は浅鉢と考えられ、内面に爪形文が認められる。なおこの破片は別個体である。

石器

削器は1点出土し、外周に細かな調整痕を連続して施し、裏面に自然面を遺している。

磨製石斧は1点出土し、完形である。両側縁は不明ながら稜があるため定角式と考えられる。

調整剥片石器は1点出土し、下端に調整を僅かに施している。

磨石は2点出土し、図面184-1は側面の一部に敲打痕があり裏面はほぼ平坦である。184-2は表面中央が僅かに窪んでいる。

スタンプ形石器は2点出土し、図面184-4は側面は加工していないが、下端の周縁に細かな剥離痕が認められる。

石皿は1点出土し、小片のため全容は不明であるが一部に磨面が認められる。

剥片は7点出土。磨滅等のため形状が明確でないことから図示しなかった。

礫は56点出土し、うち焼礫は45点と多数を占める。

10. 459次調査(平成10年度土地区画整理事業 都施設予定地地区1次)

(1) 概要

本調査地区は、泉町公園と東山道武蔵路に挟まれた東京都施設建設予定地北側の3,246.6m²で、調査区中央付近から東に向かって大きく傾斜して低くなっており、谷が入り込んでいる感がある。また、北側約2/3が旧鉄道学園のテニスコートによって西側が第一黒色帯まで削平されており、調査の対象となった面積は非常に少なかった。確認された遺構は、歴史時代が溝3条、土坑8基、小穴23個、縄文時代が集石1基、土坑20基(うち陥穴2基)、小穴75個である。旧石器時代の調査は、6×6mの調査坑を10か所調査区内に均等に設定し、X層上層まで実施し、石器集中部(ユニット)1基、土坑2基を確認した。

なお本調査地区は国分寺極地座標系第I象限と第IV象限にまたがって位置するため、アルファベットグリッド表示の頭に「I・IV」を付した。

(2) 歴史時代の調査

溝

SD153溝(図面185 図版228)

IVLJ~LM29~36区に所在する。僧寺中軸線の北689~696m、西85~106mに位置し、北西から南東方向に延びる溝である。西側は隣接する428次調査(国7・5・1号道路調査区)、西国分寺地区遺跡調査会の調査区に延びているが、削平が激しく延びは確認できなかった。東側も調査区外に延びており、確認全長は22.16mで、溝幅は上面で0.4~0.6m、底面で0.2~0.38m、深さ38~50cmで、断面形は逆台形を呈している。主軸方向は僧寺中軸線の北695m、西98m付近以西で僧寺中軸より82°西偏し、以東で64°西偏している。覆土は明黒褐色土を主体とした自然堆積である。

SD340溝(図面184 図版228)

IVLL~LT6~8区に所在する。僧寺中軸線の北695~718m、西16~24mに位置し、南北方向に延びる溝である。南側は調査区外に延びており、北側は(財)東京都埋蔵文化財センター調査区に延びている。僧寺中軸線の北702m以北は上面が削平されており、確認面は北705m付近がIV層、北718m付近がIIIb層下層、北702m以南がIIIb層上層である。また、上面が削平されているため、途切れた状況になっているが、確認全長は24.64mで、溝幅は遺存状況の良好な南側で上面が1.04m、底面が0.30mで、深さは南側で78cm、北側で92cmである。断面形は逆台形を呈している。底面は南側でIIIc層、中程でIV層上層、北側でVa層上層まで掘り込まれており、南から緩やかに北に向かって低くなり、北端で急に深くなっている。主軸方向は僧寺中軸より

16° 東偏している。覆土は明黒褐色土を主体とした自然堆積である。

SD341溝 (図面184 図版228)

IVLQ・LR4・5区に所在し、僧寺中軸線の北709~713m、西12~15mに位置する。上面が削平され、確認面はIV層で、中央付近でSK2035、南側でP-13と重複し、南北方向に延びる溝である。確認長は5.24mで、溝幅は上面で0.24~0.34m、底面で0.12~0.22m、深さは12cmで、断面形は逆台形を呈している。主軸方向は僧寺中軸より29° 東偏している。覆土は明黒褐色土を主体とした自然堆積である。

土坑

SK2029土坑 (図面185 図版229)

IVLL・LM32区に所在し、僧寺中軸線の北695・696m、西94~96mに位置する。上面規模は長辺1.96m、短辺0.92m、底面規模は長辺1.49m、短辺0.73mで、平面形は上面、底面ともに長方形を呈する。深さは25cmで、断面形は逆台形である。底面はほぼ平らである。主軸方向は僧寺中軸より72° 西偏している。覆土は明黒褐色土を主体とした自然堆積である。

SK2030土坑 (図面185 図版229)

IVLL30区に所在し、僧寺中軸線の北693・694m、西88・89mに位置する。上面規模は長辺1.36m、短辺0.9m、底面規模は長辺1.19m、短辺0.72mで、平面形は上面、底面ともに長方形を呈する。深さは22cmで、断面形は逆台形である。主軸方向は僧寺中軸より80° 西偏している。覆土は明黒褐色土を主体とした自然堆積である。

SK2031土坑 (図面186 図版229)

LK・LL28区に所在し、僧寺中軸線の北692・693m、西83・84mに位置する。上面規模は長辺1.06m、短辺0.92m、底面規模は長辺0.91m、短辺0.77mで、平面形は上面、底面ともに方形を呈する。深さは17cmで、断面形は逆台形である。底面は平らである。主軸方向は僧寺中軸より90° 東偏している。覆土は黒褐色土を主体とした自然堆積である。

SK2032土坑 (図面186 図版229)

IVLN33・34区に所在し、僧寺中軸線の北699m、西99・100mに位置する。北側の大半が削平されており、上面の残存規模は長軸1.01m、短軸0.22m、底面規模は長軸0.91m、短軸0.2mで、平面形は楕円形を呈すると推測される。深さは30cmで、断面形は逆台形である。覆土は明黒褐色土を主体とした自然堆積である。

SK2033土坑 (図面186 図版230)

IVLL5・6区に所在し、僧寺中軸線の北694・695m、西15・16mに位置する。南側が削平されており、上面規模は長軸0.72m、残存短軸は0.36m、底面規模は長軸0.61m、残存短軸は0.24mで、平面形は上面、底面ともに方形を呈すると推測される。深さは12cmで、断面形は逆台形

である。底面はほぼ平らである。主軸方向は僧寺中軸より78°西偏している。覆土は明黒褐色土を主体とした自然堆積である。

SK2034土坑 (図面186 図版230)

IVL0・LP6区に所在し、僧寺中軸線の北704・705m、西17・18mに位置する。上部は削平されており、確認面はIV層である。上面規模は長軸1.48m、短軸1.36m、底面規模は長軸1.3m、短軸1.24mで、平面形は上面、底面ともに円形を呈する。深さは29cmで、断面形は逆台形である。底面はほぼ平らである。主軸方向は僧寺中軸より21.5°東偏している。覆土は明黒褐色土とロームブロックを主体とした暗黄褐色土で、人為的に埋め戻されたものと考えられる。

SK2035土坑 (図面186 図版230)

IVLR5区に所在し、僧寺中軸線の北711～713m、西13・14mに位置する。SD341と重複しているほか上部が削平されており、確認面はIV層である。上面規模は残存長軸1.68m、短軸0.88m、底面規模は長軸1.39m、短軸0.66mで、平面形は上面、底面ともに楕円形を呈する。深さは14cmで、断面形は逆台形である。底面はほぼ平らである。主軸方向は僧寺中軸より18°東偏している。覆土は明黒褐色土を主体とした自然堆積である。

SK2036土坑 (図面186 図版230)

IVLL11区に所在し、僧寺中軸線の北693・694m、西31・32mに位置する。南側は調査区外に延びているほか、北側でP-21と重複し、切っている。上面規模は確認長軸0.88m、短軸0.56m、底面規模は確認長軸0.58m、短軸0.3mで、平面形は楕円形を呈すると推測される。深さは26cmで、断面形は逆台形である。底面は中央付近がやや窪んでいる。主軸方向は僧寺中軸より50°東偏している。覆土は明黒褐色土を主体とした自然堆積である。

小穴 (図面186)

調査区内で23個が確認された。規模は径24～64cm、深さは17～51cmで、平面形は円形または楕円形である。大半のものは径30cm前後、深さ20～30cm前後で、径40cmを超えるものは、P-5・10・11・13・21・23の6個である。また深さが40cmを超えるものはP-1・3・8・11・18・19の6個で、大形で深さのあるものはP-11・13の2個である。覆土は明黒褐色土を主体とした自然堆積である。

遺物はP-2の覆土中から礫が1点出土したのみである。

(3) 縄文時代の調査

集石

SS63集石 (図面188、185 図版234、89)

IVLL～LN31～34区に所在し、僧寺中軸線の北695～699m、西93～100mに位置する。北側は削平されており、規模は東西0.75m、南北3.76mの範囲に5～10cm大の礫130個が出土した。

礎の大半はⅢb層中層の厚さ15cm内で認められた。礎の下部からは掘り込み等は認められなかった。

遺物は縄文土器11、石鏡片1、石器1、剥片2、台石3、磨石1点が出土した。土器は五領ヶ台式・阿玉台式であった。

土坑

SK2037J土坑 (図面188 図版234)

ⅣLJ・LK31区に所在し、僧寺中軸線の北689～691m、西91～93mに位置する。南側が調査区外に延びている。上面規模は確認長軸3.1m、短軸1.51m、底面規模は確認長軸2.37m、短軸0.9mで、平面形は上面・底面ともに楕円形を呈すると推測される。深さは64cmで、断面形は逆台形である。主軸方向は僧寺中軸より51°東偏している。底面はVb層上面まで掘り込まれ、小穴状の凹凸が認められた。覆土は暗茶褐色土主体である。

SK2038J土坑 (図面189 図版234)

ⅣLL・LM31・32区に所在し、僧寺中軸線の北695～698m、西91～94mに位置する。南側でSK2039Jと重複し、切っている。上面規模は長軸2.98m、短軸1.44mで、平面形は楕円形を呈すると推測される。底面はVb層上面まで掘り込まれ、深さは105cmで、断面形は逆台形である。主軸方向は僧寺中軸より31°西偏している。覆土は上層が暗茶褐色土主体で、下層はロームブロックを含む暗茶褐色土である。

SK2039J土坑 (図面189 図版234)

ⅣLL・LM31・32区に所在し、僧寺中軸線の北695～698m、西91～94mに位置する。北側でSK2038Jと重複し、切られている。上面規模は残存長軸1.2m、短軸1.4m、底面規模は残存長軸1.0m、短軸1.1mで、平面形は楕円形を呈すると推測される。底面はVb層上面まで掘り込まれ、深さは47cmで、断面形は逆台形である。主軸方向は僧寺中軸より31°西偏している。覆土は暗茶褐色土主体で層に乱れが認められる。

SK2040J土坑 (図面188 図版234)

ⅣLM・LN27・28区に所在し、僧寺中軸線の北697～699m、西81・82mに位置する。上面規模は長軸1.73m、短軸1.31mで、平面形は不整形を呈する。底面はⅣ層下層まで掘り込まれ、深さは36cm。主軸方向は僧寺中軸より50°西偏している。覆土は暗茶褐色土主体で層に乱れが認められ、形状から倒木痕と考えられる。

SK2041J土坑 (図面188 図版234)

ⅣLK29区に所在し、僧寺中軸線の北690・691m、西85・86mに位置する。上面の規模は長軸1.28m、短軸0.94mで、平面形は楕円形を呈する。底面はVa層中層まで掘り込まれ、深さは46cmで、断面形は逆台形である。主軸方向は僧寺中軸より33°西偏している。覆土は暗茶褐色

土を主体とした自然堆積である。

SK2042J土坑 (図面189 図版235)

IVLL・LM22区に所在し、僧寺中軸線の北694～696m、西65・66mに位置する。上面規模は長軸1.16m、短軸0.99mで、平面形は楕円形を呈する。底面はVa層上層まで掘り込まれ、深さは52cmで、断面形は半円形である。主軸方向は僧寺中軸より12°西偏している。覆土は暗茶褐色土を主体とした自然堆積である。

SK2043J土坑 (図面189 図版235)

IVLM19区に所在し、僧寺中軸線の北696・697m、西56・57mに位置する。上面規模は長軸1.12m、短軸1.01mで、平面形は楕円形を呈する。深さは37cmで、断面形は半円形である。底面はIV層中層まで掘り込まれ、凹凸が認められる。主軸方向は僧寺中軸より25°西偏している。覆土は暗茶褐色土を主体とした自然堆積である。

SK2044J土坑 (図面189 図版235)

IVLK18区に所在し、僧寺中軸線の北690・691m、西52・53mに位置する。上面規模は長軸1.57m、短軸1.0m、底面規模は長軸1.24m、短軸0.61mで、平面形は上面が楕円形、底面が長方形を呈する。底面はVb層中層まで掘り込まれ、深さは99cmで、断面形は逆台形である。主軸方向は僧寺中軸より48°東偏している。覆土は上層が暗茶褐色土を主体とした自然堆積であるが、下層は一部にロームブロックを含む層が認められることから人為的な埋め戻しが成されたものと考えられる。形状から陥穴と考えられる。

SK2045J土坑 (図面189 図版235)

IVLK16区に所在し、僧寺中軸線の北691・692m、西47・48mに位置する。上面規模は長軸1.53m、短軸0.92m、底面規模は長軸0.66m、短軸0.11mで、平面形は上面・底面ともに楕円形を呈する。底面はIV層中層まで掘り込まれ、深さは25cmで、断面形は半円形である。主軸方向は僧寺中軸より23°東偏している。覆土は上層が暗茶褐色土、下層が茶褐色土を主体とした自然堆積である。

SK2046J土坑 (図面190 図版235)

IVLL・LM17・18区に所在し、僧寺中軸線の北695～697m、西50～52mに位置する。上面規模は長軸1.99m、短軸1.29m、底面規模は長軸1.45m、短軸1.03mで、平面形は不整形を呈する。深さは36cmで、底面はVa層下層まで掘り込まれ、凹凸が認められる。主軸方向は僧寺中軸より6°東偏している。覆土は暗茶褐色土主体で、層にやや乱れが認められる。形状から倒木痕と考えられる。

SK2047J土坑 (図面190 図版235)

IVLL14区に所在し、僧寺中軸線の北693・694m、西41・42mに位置する。上面規模は長軸1.29

m、短軸0.46m、底面規模は長軸0.68m、短軸0.16mで、平面形は楕円形を呈する。底面はVa層上層まで掘り込まれ、深さは35cmで、断面形は半円形である。主軸方向は僧寺中軸より24.5°東偏している。覆土は暗茶褐色土を主体とした自然堆積である。

SK2048J土坑 (図面190 図版235)

IVL10区に所在し、僧寺中軸線の北693・694m、西29・30mに位置する。南側が調査区外に延びており、上面の確認規模は長軸0.92m、確認短軸0.9mで、平面形は楕円形を呈すると推測される。底面はIV層中層まで掘り込まれ、深さは29cmで、断面形は半円形である。主軸方向は僧寺中軸より29°東偏している。覆土は暗茶褐色土を主体とした自然堆積である。

SK2049J土坑 (図面190 図版236)

IVLM・LN6・7区に所在し、僧寺中軸線の北697～699m、西18～20mに位置する。上面規模は長軸1.15m、短軸1.26m、底面規模は長軸0.79m、短軸0.58mで、平面形は不整楕円形を呈する。底面はVa層下層まで掘り込まれ、深さは69cmで、断面形は逆台形である。主軸方向は僧寺中軸より84.5°西偏している。覆土は暗茶褐色土主体で、全体にやや層の乱れが認められることから人為的な埋め戻しが成されたものと推測される。

遺物は覆土中より焼礫が1点出土した。

SK2050J土坑 (図面190 図版236)

IVLQ6区に所在し、僧寺中軸線の北708・709m、西16・17mに位置する。上面規模は径1.12mで、平面形は円形を呈する。底面はVa層上層まで掘り込まれ、深さ43cmで、断面形は半円形である。主軸方向は僧寺中軸より23°東偏している。覆土は茶褐色土を主体とした自然堆積である。

SK2051J土坑 (図面190 図版236)

IVLS10区に所在し、僧寺中軸線の北714m、西28・29mに位置する。上面規模は長軸1.0m、短軸0.55mで、平面形は不整形を呈する。底面はIV層中層まで掘り込まれ、深さは29cm。主軸方向は僧寺中軸より55°東偏している。覆土は茶褐色土主体で、形状から倒木痕と考えられる。

SK2052J土坑 (図面191 図版236)

IVLM・LN3区に所在し、僧寺中軸線の北698～700m、西7・8mに位置する。上面規模は長軸2.24m、短軸0.86m、底面規模は長軸2.18m、短軸0.2mで、平面形は長楕円形を呈する。深さは104cm。断面形は短軸方向で上部が大きく開く逆台形で、長軸の北側では袋状を呈する。底面はVI層上層まで掘り込まれ、平坦で非常に硬い。主軸方向は僧寺中軸より7°西偏している。覆土は暗茶褐色土を主体としたもので、下部でロームブロックを含む層が認められ、上部はローム粒を多く含む層が認められるほか、全体に層の乱れが認められることから、人為的な埋め戻しが成されたものと推測される。形状から陥穴と考えられる。

SK2053J土坑 (図面191 図版236)

IVLN・L01・2区に所在し、僧寺中軸線の北700～702m、西3～5mに位置する。上面規模は長軸2.02m、短軸1.67m、底面規模は長軸1.66m、短軸1.17mで、平面形は不整形楕円形を呈する。深さは37cmで、断面形は逆台形である。底面はIV層中層まで掘り込まれ、やや凹凸が認められる。主軸方向は僧寺中軸より3°東偏している。覆土は暗茶褐色土主体でやや層に乱れが認められ、形状から倒木痕と考えられる。

SK2054J土坑 (図面191 図版236)

IVLS4区に所在し、僧寺中軸線の北714・715m、西10・11mに位置する。上面規模は長軸1.5m、短軸1.04mで、平面形は不整形を呈する。深さは78cmで、底面はVb層上層まで掘り込まれ、凹凸が認められる。主軸方向は僧寺中軸より35°東偏している。覆土は茶褐色土主体で、形状から倒木痕と考えられる。

SK2055J土坑 (図面191 図版236)

ILS・LT0、IVLS・LT1区に所在し、僧寺中軸線の北715～718m、東1～西2mに位置する。北・東側が調査区外に延びており、上面の確認規模は長軸2.84m、短軸2.08mで、平面形は不整形を呈すると推測される。深さは78cmで、底面はVb層上層まで掘り込まれ、凹凸が認められる。覆土は茶褐色土主体で、層に乱れが認められ、形状から倒木痕と考えられる。

SK2058J土坑 (図面190)

IVIM34区に所在し、僧寺中軸線の北696～698m、西100・101mに位置する。上面規模は長軸1.5m、短軸0.89mで、平面形は楕円形を呈する。底面はVa層上層まで掘り込まれ、深さは61cmで、断面形は半円形である。主軸方向は僧寺中軸より32°西偏している。覆土は暗茶褐色土主体で、形状から倒木痕と考えられる。

小穴 (図面187)

調査区全体に散在して71個が確認された。規模は12～74cmの円形または楕円形で、深さは9～73cmである。これらのうち、径30cm以下のものが43個で、全体の半数以上を占めるが、50cmを超えるものも14個と多く、ばらつきが認められる。深さ20cm以下のものは24個で、30cm以下のものは66個と大半を占める。覆土は暗茶褐色土を主体とした自然堆積である。

(4) 包含層出土の遺物 (図面192、185～188 図版233、89～91)

北西部はテニスコートによって削平されていたため、遺物は包含層が遺存していた南側部分と、東側旧谷部分から出土した。

歴史時代の遺物

図面185-1は常滑の口辺部、図面185-2・3は常滑の体部片である。図面185-4は女瓦の小

片、図面185-5は鉄製品の釘片であるが時期は不明である。

縄文土器

いずれも小片である。

早期の土器は3点出土し、1点を図示。いずれも無文土器で、図面186-1の内面に擦痕が認められる。

中期の土器は26点出土し、10点を図示。ほとんどが前半期の土器である。図面186-11は撚糸文であるため加曽利E式土器と考えられる。これらの多くは南側の平坦な部分から多くが出土している。

石器

削器は2点出土し、下部には部分的に調整痕が認められる。

打製石斧は3点出土し、いずれも短冊形であるが形態は様々であり、図面186-14は外周のみの調整である。

礮器は1点出土し、下部に片面調整を施し、そのほかは自然面を遺す。

叩き石は1点出土し、自然礮をそのまま用い、下部の先端に敲打痕が認められる。

磨石は1点出土し、火を受けているため、剥離が認められるが、両面に磨面が認められる。

挟入磨石は1点出土し、完形である。両端に調整で挟りを入れ、下部は直線的に調整してある。

スタンプ形石器は6点出土し、形態は様々である。

台石は2点出土し、いずれも小片である。表面が平らで磨面が認められるが、平面形が不定形なため台石とした。

剥片は12点出土し、5点を図示。小さな剥片は2点で、その他は大ききな剥片が多く、図面188-5・7は石器の未製品ないしは失敗品の可能性が考えられる。

(5) 旧石器時代の調査

石器集中部（ユニット）

ST4石器集中部（図面193、189 図版239、91）

調査坑C、IVLR～LT13・14区に所在し、僧寺中軸線の北713～717m、西39・40mに位置する。Vb層上層～VI層上面から剥片9点と礮4点が出土し、平面的な広がり東西1.0m、南北4.0mで、垂直方向の広がり50cmである。

遺物は9点出土。剥片は概ね頁岩製、図面189-1は頁岩製の角錐状石器、図面189-9は凝灰岩製のナイフ形石器の基部の可能性が強い。

土坑

SK2056P土坑 (図面193 図版238)

調査坑A、IVLS・LT31区に所在し、僧寺中軸線の北716・717m、西92・93mに位置する。確認面はIXa層で、底面はIXb層上面まで掘り込まれていた。上面規模は長軸1.22m、短軸0.81m、底面規模は長軸0.54m、短軸0.35mで、平面形は上面、底面ともに楕円形を呈する。深さは24cmで、断面形は半円形である。主軸方向は僧寺中軸より74°東偏している。覆土は褐色土主体で、炭化物粒を含んでいた。

SK2057P土坑 (図面193 図版238)

調査坑B、IVLS23区に所在し、僧寺中軸線の北716m、西68・69mに位置する。上面規模は長軸1.05m、短軸0.82mで、平面形は楕円形を呈する。深さ32cmで、断面形は半円形である。主軸方向は僧寺中軸より50°東偏している。覆土は褐色土主体である。

IV 小 結

今回の報告は区画整理事業及び泉町公園事業に伴う第1冊目の報告であり、全体的なまとめは最終報告に於いて行うこととして、ここでは今回報告した部分の概要について時代ごとにふれてみたい。

歴史時代

本地区は僧寺寺域伽藍地の区画溝の北側に位置し、僧寺の主要な施設等の置かれた場所ではなかった。しかしながら、掘立柱建物が11棟確認されている。多くは2間×3間の東西棟であるが、中には4面ないし、1面に庇のある建物や総柱式建物等も確認されており、これらは何らかの施設であったことが伺い知れる。これらの建物に直接伴う遺物は少ないが、時期は僅かであるが、掘り方の覆土中から、南多摩窯跡群の編年（服部・福田1979、服部1983、）ではG25ないしG5窯期と推定される須恵器の坏が出土している。

住居跡は40軒を確認した。覆土中ないし層等から多量の土器・瓦等が出土した。これらの土器のうちもっとも古いと考えられるものは、SI559出土の須恵器坏442PK-02・03で、いずれも底部糸切り後、無整形で、口径は復元であるが13.4・13.8cm、底径は7cmほどで、胎土から見ると東金子窯跡群産の可能性が強く、国分僧寺塔再建瓦を焼成したとされる（坂路1984）、八坂前4・5号窯出土の坏に近似している。その他の須恵器坏は南多摩窯跡群産と考えられ、南多摩窯跡群の須恵器編年では、一部新しい様相の遺物も含んでいるが、G59ないしG25窯期と考えられる。この他の住居ではSI549で口径は復元のものが多いが口径12～13.8、底径5.6～6cmほどでG59～25窯期と考えられる。その他の多くはG25窯期以降で、これらの実年代を求めるのは難しいが、おおむね9世紀中葉～10世紀初頭と考えられ、僧寺伽藍の変遷ではII期（塔再建期）以降で、創建期の奈良時代と推定される遺構・遺物は発見されなかった。また塔再建の瓦を焼成したとされる八坂前4号窯と並行するとされるG37号窯期の須恵器は確認されず、SI559出土遺物も住居全体を考えるとG37号窯期よりは新しいと考えられ、他の住居では須恵器はG25窯期以降の遺物が主体的に出土している。このように今回の調査区では、G25号窯期以降に住居が多く造られたものであろう。

集落の終末であるが、SI572では須恵器をほとんど出土せず、土師器の坏が3点出土し、この坏は粘土紐の接合痕を残し、体部下半を横方向のヘラ削りで整形しており、ほぼ10世紀末から11世紀初頭頃と考えられる。SI547の土師器の高台付坏431-PH15は体部に指頭瓦痕を残し、下半に横方向のヘラ削りを施すもので、11世紀初頭の年代が考えられる。SI547・575・593では土師質土器の足高台坏431-PL15・17、445-PL04、460-PL71等が出土しており、本地区に

おいては、おおむね11世紀前半頃までの遺物が確認できる。なお住居の変遷は、全体の報告の中で考えてみたい。

今回の住居でもっとも北側で確認した住居は442次調査のSI560であるが、442次調査はかなりの広い調査区にもかかわらず、2軒のみ住居を確認した。すぐ南側の444次調査（多喜窪通り付近）では多くの住居を確認しており、僧寺伽藍北限溝の北250m付近が集落の北側の限界になると考えられる。

土坑も多くを確認したが、注目されるものとして住居の周辺で確認した平面円形の土坑がある。遺物はまれに完形の土器が認められるが、多くは破片のみ出土しており、しかもこれらが2～3基並んで確認されたものが多い。性格を論じるほどの資料に恵まれなかったが、覆土中に炭化物を少量含んでいる物も確認されたが、土層観察からは墓等と確証は得られず、住居の近くから確認されていることをあわせると貯蔵に関する遺構の可能性もある。またSK2060では須恵器の甕底部が据え置かれたような状況で確認され、口辺等には中に落ち込んでいたことから内部は廃棄時は空洞であり、肩部付近は発見されなかったが、廃棄時には完形であったと考えられる。全体が細かく割れ、底部までも割れており、自然の土圧等で割れたとは考えられず、廃棄時に人為的に割ったものである。この土坑は円形で、断面形は異なるが、前述の円形土坑の性格を考える手がかりとなるものと考えられる。

またSK1918は不整形の土坑内から多量の須恵器杯・壺等が出土し、割れているものもあったが、多くが接合した。覆土からは、炭化米や炭化物も出土しており、その性格は不明であるが、土器等の生産跡とは考えられず、その性格が注目される。出土した須恵器の杯は完形が12個体で、形態を見ると口縁の外反は弱く、口径、底径を見るとG25～G5期に該当すると考えられる。広口壺は小片に割れて出土したがほぼ完形となった、状況から考え人為的に割った物であろう。これらはおおむね一括廃棄遺物と考えられる。

墓跡は火葬墓・地下式横穴墓、地下式土坑墓・土坑墓が確認された。

火葬墓（SZ3）は土師器の甕を逆位に埋納し蔵骨器としたもので、口辺部のみ遺存し、時期は明確にしがたい。またこの北方地区ではこれまでも火葬墓が発掘されている（国分寺市史編纂委員会 1987、国分寺市遺跡調査団 1988）。

地下式横穴墓（SZ1）は後述するが429次調査や、府中市内のN49-SZ1（雪田1976、府中市教育委員会1988）が確認されており、この周辺では3例目である。出土遺物は敷石上から土師器・須恵器・土師質土器が出土している。出土位置からはPK22、PL12とPH04、PK23・24の2群に分けることが可能であるが、調査では追葬等の痕跡は確認されていない。しかしながら入り口部の土坑状遺構と切り合っていることをふまえると、可能性は捨てきれないものと考えられる。土師器の杯は体部に粘土紐の接合痕を残し、下半に横方向のヘラ削りを施しており、お

むね10世紀末から11世紀初頭、須恵器はG5窯期と考えられ、土師器の年代の齟齬を来すが、この土器は重ねられて出土している。このように須恵器と土師器・土師質土器の時期が一致せず、須恵器が古い時期を示している。須恵器はPK22・24は灯明皿として使用されており、伝世と考えることも可能であるが、今後の課題としたい。また壑坑部の覆土面から、2/3大の女瓦が置かれた様な状況で出土しており、埋め戻しの儀礼（閉塞）の可能性があり注目される。なお同じ北方地区で本調査区に近接した429次調査（国分寺市遺跡調査団1999）において地下式横穴墓が1基確認されている（SZ2）、全長3.8m、墓室は1.7×2.1mとSZ1に比べ大きく、遺物も須恵器坏2、灰釉陶器長頸壺1、皿3、埴2点と豊富な遺物が出土している。時期は須恵器がG5の古段階、灰釉陶器はO53窯期に並行とされており、SZ1より古く時期差がある。

地下式土壙墓（SZ4）はL字状土壙・L字墓・側壁扶込土坑・有天井土坑などとも呼ばれているもので、国分寺市内では初めての確認となった。遺物はずまみの付かない須恵器の蓋や、須恵器坏からおおむねG59号窯期と考えられ、土壙墓（SZ5）も高台の付かない皿や坏から、若干後出するもののほぼ同時期であろう、このように周辺の住居が本格的に造られる以前に墓が営まれたようである。しかし墓とはしなかったがSK1739も平面長方形で土坑の形状から、土壙墓の可能性が高く、時期はおおむね10世紀前半頃と推測される。また前述の429次調査においてもSK1595土坑は平面長方形で、覆土に炭化物・焼土が堆積し、覆土中から須恵器坏や灰釉陶器埴・瓦・釘・刀子等が出土しており墓である可能性は高く、時期は須恵器と灰釉陶器から、10世紀前半とされており、住居と墓が混在している様相が伺える。

溝は25条を確認した。しかし同一の溝を別々の回数で確認したものもあり実数は20条である。多くは東西ないし南北方向の溝で南北方向の溝は東山道武蔵路の方向に近く、東西溝はそれにほぼ直行するようである。また442次調査のSD333の様に直角に折れたり、途中でとぎれているものもあり、ある部分を区画していた可能性も考えられる。また多数確認した小穴の中には小学校地区のように「コ」の字状に不規則に分布しているもの等もあり、何らかの区画の可能性が高い。

縄文時代

確認した遺構は住居跡2軒、土坑304基、小穴2325個であった。住居はいずれも、五領ヶ台式期のもので、ともにほぼ中央に埋甕炉を伴っていた。SI543Jは削平されており、全容が明瞭ではない。SI604Jでは柱穴と考えられる小穴や埋甕炉の状況から、建て替えの可能性が考えられる。また埋甕炉の炉体土器の新旧は明瞭ではないが、状況から考えJE02が古くJE01が新しい物と考えられる。また覆土からは剥片、調整剥片石器、碎片、石核等も出土し、中にはAT03・04のように石鍬の未製品らしきものもあり、石器製作が伺える。

集石は5ヶ所を確認したが、このうち掘り込みを確認出来たのはSS57・60のみで、その他で

は確認できなかった。SS58は多数の小さな礫が多数集中していたもので、範囲も明瞭ではない。SS63も同様に範囲が明瞭では無いが、礫の集中度合いから範囲を推定したもので、このように土坑等を伴わずに礫が集中するが多かった。

土坑は304基を確認した。このうち陥穴と考えられるものは39基である。若干の粗密の差はあるがほぼ全域に分布している。また円形の土坑の中には若干であるが遺物・礫等が出土しているものがあるがその性格は不明である。これらの土坑以外は、遺物も出土しておらず、またその他の土坑の多くは不整形で底面も平らではなく、人為的な遺構との確証は得られなかったものが多い。

包含層出土遺物は総数3976点のうち、2195点が礫であった。

土器は864点出土で、時期のある程度わかるものの内、縄文早期が331点、中期前半が427点であり、この二つの時期で全体の87.7%を占める。その他は少量の前期・後期・時期不明のものである。

早期の土器は燃糸文と条痕文系土器が確認されたが、多くは無文土器である。また口辺部外面に沈線をもつものも確認されており、これらは東山式土器と考えられる。なかには擦痕・削りが認められるのも多く、これは燃糸文土器や、東山式土器等の無文部の可能性も否定できないが、多くは平板式に該当するものと考えられる。

中期の土器は今回の調査区内に2軒の五領ヶ台式期の住居が確認されており、その周辺からは五領ヶ台式土器が散発的に出土している。

このように出土土器群から見ると、本地区では縄文時代早期の燃糸文末期がその中心を占めるものと考えられる。

石器は総数911点のうち、スタンプ形石器200点、磨石101点、石皿57点で、この3種で39.3%を占める。

スタンプ形石器は燃糸文系土器群に伴う場合が多い石器とされており、本地区においても前述の土器群の様相から考えると、早期の土器群に伴う可能性が高い。スタンプ形石器には多種の形態があるが、多くは側縁加工のある物が多く、加工を施していないもの多くは、小型のものである。なお武蔵台遺跡においては、夏島式では側縁加工のないものが主体で、燃糸文末期には両側加工のものが主流となるとの見解が示されており（都立府中病院内遺跡調査団1999）、このあり方は本地区の土器群の様相から同様な傾向が伺える。

磨石も多くが出土したが、多くは円・楕円形のものであるが、中には長楕円形で複数の稜をもつ、特殊磨石と呼ばれている物に該当すると考えられるものもあり、やはり早期の土器群に伴うと考えられる。また円・楕円形のもの多くは側面に敲打痕のある物が多く、叩き石としても用いていたことが推測されるが、後述する剥片との関係も考えられる。また、表裏面に浅

い窪みをもつ物が多いが、凹石のような顕著な窪みをもつものは少ない。

石皿も多くが出土したがほとんどは小片で、形態のわかるものは扁平な川原石を使用した物が多く、加工の施されたものはない。また中央部に顕著な窪みをもつ物も少ない。

剥片は255点が出土した。大多数はホルンフェルス等を薄く剥離したものが多い。中には頁岩・チャート等の剥片類も多く出土しており、この剥片の多さは、前述の磨石の量や、磨石の側面に敲打痕を有する物が多いことを考え合わせると、これらの中には石器製作に関わったものもあると考えられる。

その他には多種の石器が出土したが、今回は一部の石器のみ観視した。

このような土器・石器群のあり方は今回の報告部分を概観したものであり、各地区ごとに様相もことなり、次回の報告で今回報告分も含め細かな検討を行ってみたい。なおこのほかに不明遺物が6点出土している。

旧石器時代

旧石器時代の遺構は石器集中部4ヶ所、土坑5基、小穴1個が確認された。

石器集中部からの出土石器は9～24点と小規模であった。立地はいずれも台地の縁辺部から離れており、このような台地内部においても、旧石器時代の遺構が分布している状況が確認された。また単独で石器が出土する場合もあり、これらの時期の領域の広さが伺える資料である。

また今回報告した土坑は、いずれも第1黒色体で明瞭に確認にできたが、これらが人為的な掘り込みであるとの確証は得られず、倒木痕等の自然の影響である可能性が高い。

以上今回報告した地区の中でいくつかの点について概観してみたが、詳細については最終報告の中で考えてみたい。

注1 遺構確認段階で瓦を確認したが、周辺は削平され、ほぼローム層上面で確認した。当時の地表面からは下になると考えられる。もっとも室部が空洞になっていた場合壘坑覆土が室内に崩壊し、それによって遺物が落ち込んでいた可能性も否定できない。もし地表面付近にあったとするならば、墓の日印と考えることも可能であるが瓦片を日印とは考えにくいと思われる。

注2 多高塚横穴（甲野1955）も近年の調査事例から見ると地下式土壘墓と考えられ、これを含めると2例目であるが、正式な調査例としては本例が最初である。また所在地は府中市であるが尼寺北側の武蔵野台地上の武蔵台東遺跡でも「L字墓」が1基報告されている（都営川越道住宅遺跡調査団 1999）、また因分寺の南側の府中市域でも「L字墓」が報告されており（松崎・深沢1995、武蔵国分寺関連（府中市計画道路3・2・2の2号線）遺跡調査団 1999）、因分寺跡全体では多くの地下式土壘墓が発掘されている。

V 総括

本報告は国分寺市西元町及び泉町に所在した、旧国鉄中央学園及び旧郵政住宅跡地の土地整理事業及び泉町公園事業に伴う発掘で、平成8～13年度の6年にわたる調査のうち前半の3年間分についての成果をまとめたものである。この地域は下水道管埋設工事に伴う調査や小規模な開発事業に伴う発掘調査を行ってきたが、今回のような大規模調査は調査会としても初めてであり、これだけの広い範囲の様相が明らかになった意義は大きい。

この地域は、僧寺の伽藍地を区画する北限溝の北側に位置するため、寺院の主要な施設が置かれた場所ではなかったが、周辺に広がる集落の一部として機能したのは明らかである。特に掘立柱建物跡等の存在は、寺院運営に関わる機能を有した施設と考えられ、今後これらの性格を追求してゆかねばならないであろう。また、堅穴住居跡等は創建期に該当する住居は今回報告の調査区からは確認されず、いずれも七重塔再建期以降のものである。今回は一部のみの報告のためこれらの遺構についての変遷等には触れていないが、次年度に刊行される報告書の中でこのような変遷や、個々の遺構の性格を明らかにし、この地域の武蔵国分寺内における位置付けや、寺院と周辺集落の関係について一端が明らかになるものと考えられる。

縄文時代の発見遺構は堅穴住居跡2軒と集石跡や土坑である。その他、遺物包含層より早期の土器片や石器が多量に出土した。住居はいずれも中期初頭の五領ヶ台式期の所産である。

この地域における縄文時代の遺跡の存在を知ったのは、昭和24年に武蔵野郷土館で現国分寺薬師堂の並びの台地上で奈良時代の堅穴住居跡を発掘した際に、早期の土器が少量出土したことからである。その翌年、薬師堂より西約150mの台地上を二度にわたり発掘調査を行い、中期の堅穴住居跡を発掘し土器や石器、土製品が多数発見された。これらの内、1号堅穴住居跡から出土した勝坂式土器と石器及び土製品は一括で国の重要文化財に指定されている。出土地点が国分寺町大字多喜窪に所在したので、多喜窪遺跡と称した。今回の調査区は多喜窪遺跡の北東側に当たり、昭和24～26年の調査時には不明であった北方台地上の様相が明らかになったといえよう。現在多喜窪遺跡は発見されている遺構や遺物によりA～D地点の4地点に区分されている。この内B地点の北側地域が調査区に該当し、中期においては単独で五領ヶ台式期の堅穴住居跡が存在し、早期では包含層から撚糸文土器・無文土器・スタンプ形石器・磨石・石皿等が調査区全体に散布する状況が明らかになった。

旧石器時代の調査は調査区全体に試掘坑を設定し発掘を行ったが、今回報告の調査区では石器集中部が4カ所確認できただけであった。これらの調査区はいずれも台地の中央部であり、従来の調査成果では旧石器時代の遺構、遺物は希薄になる地域と考えられていた。しかし数少

ないながら遺物が分布し、また、石器が単品で出土している状況より、当時の領域の広さを把握する上であらたな資料が追加され蓄積されたこととなる。

今回は、僧寺の北方台地上において広範囲の調査区で発掘を実施し、旧石器・縄文・歴史時代の遺構を検出し、遺物を多数収集することができた。国分寺跡周辺において、これほど大規模な面積の調査は全国的に見ても数少なく貴重な調査例である。今後これらの資料を分析することにより、寺院跡（主要伽藍）とその周辺集落跡との関係を究明するための良好な資料が提示されたものと考えられる。また、縄文時代については多喜窪遺跡の範囲を越えて遺構が分布し、遺物が発見されており再度遺跡の範囲や時期についての検討が必要である。

終わりに当たり、執筆に努力された調査員諸氏に謝意を表す。

調査団長 吉田 格

参考文献

- 甲野 勇 1960「武蔵国分寺址附近の竪穴住居（豫報）」『武蔵野』第30巻 第3・4号 武蔵野文化協会
- 吉田 格 1952「東京都国分寺町中期縄文式竪穴住居跡調査概報」『武蔵野』第32巻 第3・4号 武蔵野文化協会
- 吉田 格 1952「東京都国分寺町熊ノ郷、殿ヶ谷戸遺跡」『考古学雑誌』第38巻 第2号 日本考古学会
- 吉田 格 1954「武蔵野台地の縄文式以前の遺跡」『武蔵野』第33巻 第3・4号 武蔵野文化協会
- 甲野 勇 1955「武蔵国分寺横穴と絨輪帯」『武蔵野』第34巻 第2号 武蔵野文化協会
- 小林達雄 1966「縄文時代早期前半における問題」『多摩ニュータウン遺跡調査報告Ⅱ』多摩ニュータウン遺跡調査会
- 坂詰秀一編 1971『武蔵新久奈跡』雄山閣出版株式会社
- 雪田 孝 1976「東京都府中市発見の地下式横穴墓」『考古学ジャーナル』121号 ニューサイエンス社
- 服部敬史・福田健司 1979「南多摩窪地群出土の須恵器とその編年」『神奈川考古』第6号 神奈川考古同人会
- 武蔵国分寺遺跡調査団 1980『武蔵国分寺遺跡発掘調査概報Ⅳ』武蔵国分寺遺跡調査会
- 坂詰秀一編 1981『武蔵・天沼窪跡』立正大学考古学研究室
- 武蔵国分寺遺跡調査団 1982『武蔵国分寺跡発掘調査概報Ⅴ』武蔵国分寺遺跡調査会
- 服部敬史 1982「南武蔵における古代末期の土器様相」『東京考古』1 東京考古談話会
- 服部敬史 1983「南多摩の窪地 南多摩窪地群出土須恵器の編年」『神奈川考古』第14号 神奈川考古同人会
- 坂詰秀一編 1984『武蔵八坂前窪跡』雄山閣出版株式会社
- 福田信夫 1984「武蔵国分寺跡出土の土質土器について」『東京考古』2 東京考古談話会
- 山口辰一 1984「武蔵国府関連遺跡における土器編年試論」『武蔵国関連遺跡調査報告Ⅴ』府中市教育委員会
- 山口辰一 1984「武蔵国府関連遺跡における坏類の基礎的分類と変遷」『武蔵国関連遺跡調査報告Ⅵ』府中市教育委員会
- 武蔵国分寺遺跡調査団 1985『武蔵国分寺跡発掘調査概報Ⅵ』武蔵国分寺遺跡調査会
- 国分寺市遺跡調査団 1985『武蔵国分寺跡発掘調査概報Ⅶ』国分寺市遺跡調査会
- 今村啓爾 1985「五ヶヶ台式土器の編年—その細分及び東北地方との関係を中心に—」『東京大学文学部考古学研究室紀要』第4号 東京大学文学部考古学研究室
- 福田健司 1986「南武蔵における平安時代後期の土器群」『神奈川考古』第21号 神奈川考古同人会
- 国分寺市遺跡調査団 1987『武蔵国分寺跡発掘調査概報Ⅷ』国分寺市遺跡調査会
- 国分寺市遺跡調査団 1987『武蔵国分寺跡発掘調査概報ⅧⅠ』国分寺市遺跡調査会
- 国分寺市史編纂委員会 1987『国分寺市史 上巻』国分寺市
- 国分寺市遺跡調査団 1988『武蔵国分寺跡発掘調査概報ⅧⅢ』国分寺市遺跡調査会
- 府中市教育委員会 1988『武蔵国府関連遺跡調査報告10』府中市教育委員会
- 小林達雄・小川忠博 1988『縄文土器大観2 中期Ⅰ』小学館
- 小林達雄・小川忠博 1988『縄文土器大観3 中期Ⅱ』小学館
- 小林達雄・小川忠博 1989『縄文土器大観1 草創期 早期 前期』小学館

- 鶴川第2地区遺跡調査会 1989『真光寺・広袴遺跡群Ⅳ』鶴川第2地区遺跡調査会
- 国分寺市教育委員会 1989『見学ガイド 武蔵国分寺のはなし』国分寺市教育委員会
- 渡辺 一 1990「成果と問題点」『鳩山窯跡群Ⅱ』鳩山町教育委員会
- 渡辺 一 1990「南比企窯跡群の須恵器の年代」『埼玉考古』第27号 埼玉県考古学会
- 原田昌幸 1991『考古学ライブラリー61 撫余文系土器様式』ニューサイエンス社
- 南多摩窯跡群山野美容芸術短期大学構内埋蔵文化財発掘調査団 1992『南多摩窯跡群』学校法人山野学苑
- 東京造形大学宇津貫校地内埋蔵文化財発掘調査団 1992『南多摩窯跡群』東京造形大学宇津貫校地内埋蔵文化財発掘調査団
- 酒井清治 1993「生産地の様相と幅年 多摩・比企」『季刊考古学』第42号 雄山閣出版株式会社
- 国分寺市遺跡調査団 1994『武蔵国分寺跡発掘調査概報ⅩⅢ』国分寺市遺跡調査会
- 有古重載 1994「武蔵国分寺」『シンポジウム 関東の国分寺』関東古瓦研究会
- 斉藤孝正 1994「東海地方の施釉陶器生産—猿投窯を中心に—」『古代の土器研究—律令的土器様式の西・東3 施釉陶器—』古代の土器研究会
- 酒井清治・伊藤博幸編 1995『須恵器集成図録 第4巻 東日本編Ⅱ』雄山閣出版株式会社
- 大川 清・鈴木公雄・工塚善通編 1996『日本土器事典』雄山閣出版株式会社
- 松崎元樹・深沢靖幸 1995「東京都」『東日本における奈良・平安時代の墓制—墓制をめぐる諸問題—』東日本埋蔵文化財研究会栃木大会準備委員会
- 日野市落川遺跡調査会 1996『落川遺跡Ⅰ』日野市落川遺跡調査会
- 日野市落川遺跡調査会 1997『落川遺跡Ⅱ』日野市落川遺跡調査会
- 八王子市南部地区調査会 1997『南多摩窯跡群Ⅰ』八王子市南部地区調査会
- 国分寺市遺跡調査団 1999『武蔵国分寺跡発掘調査概報ⅩⅣ』国分寺市遺跡調査会
- 西国分寺地区遺跡調査会 1999『日影山遺跡・東山道武蔵路』西国分寺地区遺跡調査会
- 都営川越道住宅遺跡調査団 1999『武蔵台東遺跡』都営川越道住宅遺跡調査会
- 都立府中病院内遺跡調査団 1999『武蔵台遺跡Ⅳ』都立府中病院内遺跡調査会
- 八王子市南部地区調査会 1999『南多摩窯跡群Ⅱ』八王子市南部地区調査会
- 武蔵国分寺関連（府中市市計画道路3・2・2の2号線）遺跡調査団 1999『武蔵国分寺南西地区発掘調査報告』武蔵国分寺関連（府中市市計画道路3・2・2の2号線）遺跡調査会
- 斉藤孝正 2000『日本の美術Ⅵ №409 越州窯青磁と緑釉・灰釉陶器』至文堂
- 八王子市南部地区調査会 2000『南多摩窯跡群Ⅲ』八王子市南部地区調査会
- 八王子市南部地区調査会 2001『南多摩窯跡群Ⅳ』八王子市南部地区調査会

遺物一覽表

凡 例

- 1 一覧表は各時代ごと、次の種類の表ごとに調査次数別にまとめてある。

歴史時代土器、瓦罎類（次数ごと、鯉瓦、宇瓦、男瓦、女瓦、熨斗瓦、埴の順）、鉄製品、石製品、歴史時代土製品、縄文土器、土製品、石器、スタンプ形石器、旧石器時代石器に分け本文と同様に調査次数別にわけている。（小学校地区のみ本文と同様431・446・460と連続させて配置している。）

- 2 図面番号は遺物編の図面番号である。
 3 遺物番号は次数 - 遺物記号、番号の順で振り431-PK01の様に記載した。
 4 遺物記号は以下の通りである。

歴史時代

土師器	PH、	須恵器	PK、	土師質土器	PL、	灰軸陶器	PN、	緑軸陶器	PP、
中世陶器	PT、	鯉瓦	KA、	宇瓦	KB、	男瓦	KC、	女瓦	KD、
熨斗瓦	KE、	埴	KH、	羽口	TK、	砥石	GL、	石製品	GZ、
刀子	MI、	鎌	MJ、	釘	MM、	鏃	MN、	鉄滓	MY、
鉸具	MT、	不明鉄製品	MZ						

縄文時代

土器 早期前半 JB、早期後半 JC、前期 JD、中期前半 JE、中期後半 JF、後期 JG、土製円板 DE、尖頭器 AA、石鏃 AB、削器・搔器 AD、打製石斧 AG、磨製石斧 AH、調整剥片石器 AI、礮器 AJ、叩き石 AK、磨石 AL、凹石 AI、扶入磨石 AM、スタンプ形石器 AN、石皿 AP、台石 AR、石匙 AS、剥片 AT、砕片 AU、石核 AV、原材 AY、不明石器 AZ

旧石器時代

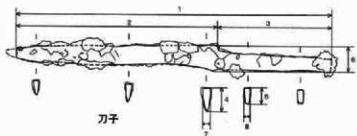
ナイフ形石器 FA、石核 FJ、剥片 FL、砕片 FM、叩き石 FN、石鏃 FQ、台石 FR、原材 FY

なお、表では須恵器で還元焙焼成のものをA、酸化焙焼成のものをBとして表記した。また磨痕石の名称は『落川遺跡Ⅱ 遺物編 第一分冊』落川遺跡調査会 平成9年に拠った。

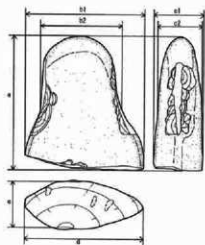
- 5 表中の計測値のうち、括弧の無いものは完数値、() は残存数値、(()) は復元数値、一は計測不可を示す。重さについては全て残存数値で区別はしていない。また、単位は特に表記しないものはすべてcm、重さはgである。
- 6 色調の色名は『新版標準土色帖』1997年度版 農林水産省農林水産技術会議事務局監修、財団法人日本色彩研究所色票監修に従った。

- 7 瓦の分類は「武蔵国分寺跡発掘調査概報XIV」国分寺市遺跡調査会 平成元年 に拠った。
- 8 スタンプ形石器は形態や磨滅等の状況が多岐にわたるため、下記に分類し、説明は省略した。

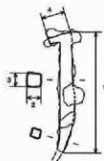
- 使用礫 I 扁平礫使用。 II 棒状礫使用。 III 小型のもの。
- 頂部調整 A 頂部に剥離痕。 B 頂部に敲打痕。 C 頂部に剥離痕・敲打痕。
D 側縁の調整痕が頂部にまで及んでいるもの。
E 頂部に敲打痕・剥離痕の無いもの。 F 全体に敲打痕・剥離痕の無いもの。
- 側面調整 1 両側面に剥離痕・敲打痕を持つもの。 2 両側面に剥離痕をもつもの。
3 両側面に敲打痕を持つもの。
4 片側に敲打痕・剥離痕、もう一方に敲打痕。
5 片側に敲打痕・剥離痕、もう一方に剥離痕。
6 片側のみに剥離痕・敲打痕を持つもの。 7 片側のみに剥離痕を持つもの。
8 片側のみに敲打痕を持つもの。 9 両側縁に磨って調整しているもの。
10 片側縁に磨って調整しているもの。
- 下端縁辺 a 小剥離痕が多く認められる。 b 小剥離痕が少量認められる。
c 小剥離痕が認められない。
- 底面の状況 a 磨面が多く認められる。 b 磨面が少量認められる。
c 磨面が極少量認められる。 d 磨面が認められない。
- 9 遺物一覧表のうち、代表的な物の計測部位を次に表す。なお不明鉄製品の計測部位は鎌・鉸具に準じている。



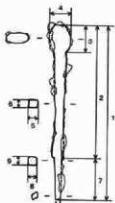
刀子



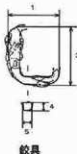
スタンプ形石器



釘



針



針

421 次調査歴史時代土器一覽

遺物番号 図面番号 図版番号	種別 器形	出土位置	口径 高さ 底径	重さ	遺存度	成・整形技法	胎土	内面色調 外面色調	備考
421-PI01 1-1	土師器 甕	SI537 覆土	((13.2) (4.5) —	23.8	小片	口辺横ナデ、体部 外面縦方向へツ削り	粗砂粒混入	にぶい黄褐色 にぶい黄褐色	内外面に縁に黒付着
421-PI02 1-2	土師器 台付甕	SI537 覆土	— (1.7) ((11.0))	10.4	小片	横ナデ	粗砂粒混入、 軟質	灰褐色 褐色	
421-PI03 1-3 1	須恵器A 坏	SI537 覆土	((12.6) 4.6 4.8	137.2	1/2	ロクロ整形、底部 糸切り	粗砂粒混入	淡黄色 淡黄色	
421-PI02 1-4	須恵器A 坏	SI537 カマド	— (1.0) 5.2	24.1	底部完形	ロクロ整形、底部 糸切り	粗砂粒混入	淡黄色 灰黄色	
421-PI03 1-5	須恵器A 坏	SI537 カマド	— (1.0) (5.2)	13.4	小片	ロクロ整形、底部 糸切り	粗砂粒混入	灰白色 灰白色	
421-PI04 1-6	須恵器B 坏	SI537 覆土	— (1.9) (5.5)	22.5	小片	ロクロ整形、底部 糸切り	粗砂粒混入	にぶい褐色 にぶい褐色	一部還元焙焼成
421-PI29 1-7 1	須恵器A 坏	SI537 覆土	((11.4) 4.0 (5.2)	44.2	1/3	ロクロ整形、底部 糸切り	粗砂粒混入	灰白色 灰白色	
421-PI06 1-8	須恵器A 高台付坏	SI537 覆土	— (3.0) 6.4	84.1	1/3	ロクロ整形、底部 糸切り、高台貼り 付け	細砂粒混入	灰色 灰色	
421-PI06 1-9 1	須恵器B 高台付坏	SI537 カマド	16.6 5.0 6.3	219.0	3/5	ロクロ整形、底部 糸切り、高台貼り 付け	細砂粒混入	浅黄褐色 浅黄褐色	
421-PI09 1-10	須恵器A 甕	SI537 覆土	— (1.6) (11.8)	75.2	小片		粗砂粒混入	灰色 灰色	内外面に自然釉
421-PI08 1-11	須恵器A 甕	SI537 覆土	— (5.1) —	38.1	小片	ロクロ整形	粗砂粒混入	黒色 暗灰色	
421-PI10 1-12 1	須恵器A 甕	SI537 カマド	— (11.2) —	138.2	小片	内面下部横方向へ ツ削り	粗砂粒混入、 軟質	灰白色 灰白色	
421-PI07 1-13	須恵器A 長頸甕	SI537 カマド	— (1.7) —	2.3	小片	ロクロ整形	粗砂粒混入、 緻密	灰白色 灰白色	
421-PI01 1-14	土師質土器 坏	SI537 カマド	— (1.8) (5.8)	15.4	小片	ロクロ整形、底部 糸切り	粗砂粒混入	浅黄褐色 にぶい黄褐色	
421-PI02 1-15 1	土師質土器 坏	SI537 覆土	11.8 5.0 5.9	166.8	完形	ロクロ整形、底部 糸切り、体部下 横方向へツ削り、 底部へツ削り	粗砂粒混入	にぶい褐色 にぶい褐色	
421-PI04 1-16 1	土師質土器 坏	SI537 覆土	12.0 5.0 5.6	161.2	完形	ロクロ整形、底部 糸切り、体部下 横方向へツ削り	粗砂粒混入	褐色 褐色	
421-PI03 1-17	土師質土器 坏	SI537 覆土	— (2.8) 5.5	53.8	1/3	ロクロ整形	粗砂粒混入	褐色 褐色	
421-PI05 1-18 1	土師質土器 坏	SI537 貯蔵穴	((12.0) 3.8 5.6	133.5	1/2	ロクロ整形、底部 糸切り、体部下 横方向へツ削り	粗砂粒混入	浅黄褐色 浅黄褐色	
421-PI07 1-19 1	土師質土器 甕	SI537 覆土	((12.8) 2.8 (6.8)	43.8	1/3	ロクロ整形	粗砂粒混入	褐色 灰色	
421-PI02 1-20	灰釉陶器 碗	SI537 覆土	((15.2) (2.6) —	6.6	小片	ロクロ整形	粗砂粒混入、 緻密	灰黄色 灰黄色	口縁内面に僅かに施 釉

遺物番号 図面番号 図版番号	種別 器形	出土位置	口径 器高 底径	重さ	遺存度	成・整形技法	粘土	内面色調 外面色調	備考
421-PN01 1-21 1	灰釉陶器 甗	S1537 覆土	— (4.1) 5.6	119.5	1/2	ロクロ整形、体部 外面回転ヘタ削り、 高台貼り付け	粗砂粒混入、 緻密	灰白色 灰白色	刷毛塗り
421-PK13 4-7	須恵器A 高台付坏	SD318 覆土	— (3.2) (5.6)	40.4	1/4	ロクロ整形、底部 糸切り、高台貼り 付け	粗砂粒混入、 軟質	灰白色 灰白色	
421-PK11 4-8	須恵器A 坏	SD318 覆土	— (1.1) (5.4)	12.4	小片	ロクロ整形、底部 糸切り	細砂粒混入	灰色 灰色	
421-PL13 4-9	土師質土器 坏	SD318 覆土	((11.4)) (4.1) (4.6)	20.2	小片	ロクロ整形、底部 糸切り	粗砂粒混入	褐色 褐色	
421-PL08 4-10	土師質土器 坏	SD318 覆土	— (1.2) (6.0)	27.7	底部1/2	ロクロ整形、底部 糸切り	砂粒混入	にぶい褐色 にぶい黄褐色	
421-PH03 4-11	土師器 甗	SD319 覆土	((19.2)) (3.5) —	38.0	小片	口辺横ナデ	細砂粒混入	灰黄褐色 褐色	
421-PK14 4-12	須恵器A 坏	SD319 覆土	— (1.8) (4.8)	21.5	1/6	ロクロ整形、底部 糸切り	粗砂粒混入	灰色 灰色	
421-PK31 4-13	須恵器B 高台付坏	SD319 覆土	— (1.7) (6.4)	14.2	小片	ロクロ整形、底部 糸切り、高台貼り 付け	粗砂粒混入	赤色 にぶい褐色	
421-PN03 4-14	灰釉陶器 甗	SD319 覆土	— (1.4) (7.6)	11.3	小片	ロクロ整形、高台 貼り付け	細砂粒混入	灰白色 灰白色	
421-PK30 5-5	須恵器A 坏	SD322 覆土	— (2.7) (5.5)	6.5	小片	ロクロ整形	粗砂粒混入	淡黄色 淡黄色	
421-PL14 5-6	土師質土器 坏	SK1564 覆土	((13.2)) (3.5) —	7.7	小片	ロクロ整形	粗砂粒混入	明赤褐色 明赤褐色	
421-PL11 5-8	土師質土器 坏	SK1667 覆土	((10.3)) (3.4) —	8.2	小片	ロクロ整形	粗砂粒混入	にぶい橙色 にぶい褐色	
421-PL15 5-9	土師質土器 坏	SK1568 覆土	((12.2)) (2.6) —	5.4	小片	ロクロ整形	粗砂粒混入	灰黄褐色 灰黄褐色	
421-PK17 5-10	須恵器A 甗	SK1688 覆土	— (4.7) —	35.6	小片	体部外面平行削り 、内面同心円文 瓦具痕	細砂粒混入	灰色 灰色	
421-PK18 5-13	須恵器A 坏	SK1614 覆土	((13.2)) (3.3) —	17.5	1/8	ロクロ整形	粗砂粒混入、 軟質	灰白色 灰白色	
421-PL16 5-14	土師質土器 坏	SK1616 覆土	— (1.6) (5.0)	5.1	小片	ロクロ整形	粗砂粒混入、 軟質	にぶい黄褐色 にぶい黄褐色	
421-PK21 5-15	須恵器A 甗	SK1615 覆土	— (5.2) —	45.2	小片	ロクロ整形	細砂粒混入	黄灰色 灰白色	
421-PH04 6-1 2	土師器 坏	SZ1 敷石上	11.6 4.4 4.1	146.7	ほぼ完形	口辺横ナデ、外面 体部下半横方向へ タ削り	粗砂粒混入、 軟質	暗灰色 暗灰色	外面に粘土紐の接合痕 を残す、余体に煤付着
421-PK23 6-2 2	須恵器B 坏	SZ1 敷石上	11.4 4.0 5.2	102.9	完形	ロクロ整形、底部 糸切り	細砂粒混入	にぶい褐色 にぶい褐色	内外面に煤付着
421-PK22 6-3 2	須恵器A 坏	SZ1 敷石上	11.3 4.1 5.0	112.0	完形	ロクロ整形、底部 糸切り、外面輪積 み痕	細砂粒混入	黄色 黄色	
421-PK24 6-4 2	須恵器B 坏	SZ1 敷石上	11.6 4.6 5.3	113.9	完形	ロクロ整形、底部 糸切り	粗砂粒混入	にぶい褐色 褐色	内外面に煤付着、口縁の 一部が片口状に広がっ ている。打明量として使用 したもの

遺物番号 図面番号 図版番号	種別 器形	出土位置	口径 器高 底径	重さ	遺存度	成・整形技法	胎土	内面色調 外面色調	備考
421-PL12 6-5 2	土師質土器 土師	S21 敷石上	((10.8)) 4.3 4.4	110.6	2/3	ロクロ整形、底部 糸切り	細砂粒混入	灰黄色 淡黄色	
421-PK27 7-5	須恵器B 坏	A区P-2 覆土	((11.5)) (2.8)	5.4	小片	ロクロ整形	粗砂粒混入	灰白色 灰白色	
421-PK25 7-6	須恵器A 坏	B区P-30 覆土	((11.4)) 2.4 (4.8)	16.3	小片	ロクロ整形、底部 糸切り	小石・粗砂粒 混入	灰色 灰色	
421-PK26 7-7	須恵器A 坏	B区P-32 覆土	((12.4)) (3.0)	20.0	1/6	ロクロ整形	小石・粗砂粒 混入	灰色 灰色	内外面に煤付着
421-PH05 7-11	土師器 台付甕	B区 表土	- (3.0)	14.5	小片	口辺横ナゲ	粗砂粒混入	灰赤色 灰赤色	
421-PK28 7-12	須恵器A 坏	B区 表土	((16.8)) (3.4)	11.3	小片	ロクロ整形	細砂粒混入	灰色	

428 次調査歴史時代土器一覧

遺物番号 図面番号 図版番号	種別 器形	出土位置	口径 器高 底径	重さ	遺存度	成・整形技法	胎土	内面色調 外面色調	備考
428-PK01 14-2	須恵器A 坏	J047 表土	- (3.6)	17.6	小片	ロクロ整形	細砂粒混入	灰白色 灰白色	中更陶器の可能性あり

431・446・460 次調査歴史時代土器一覧

遺物番号 図面番号 図版番号	種別 器形	出土位置	口径 器高 底径	重さ	遺存度	成・整形技法	胎土	内面色調 外面色調	備考
431-PK112 17-1	須恵器A 坏	SB157 2-2	- (1.3)	2.5	小片	ロクロ整形	細砂粒混入	淡黄褐色 淡黄褐色	
431-PK113 17-2	須恵器A 坏	SB157 3-1	- (1.6) (5.0)	7.2	小片	ロクロ整形、底部 糸切り	細砂粒混入	淡黄褐色 淡黄褐色	
431-PK114 17-3	須恵器A 坏	SB157 4-1	((12.8)) (1.9)	3.9	小片	ロクロ整形	細砂粒混入	灰黄色 灰黄色	
431-PK115 17-4	須恵器A 坏	SB167 4-3	((12.8)) (2.6)	4.6	小片	ロクロ整形	細砂粒混入 緻密	灰色 灰色	
460-PL66 17-8	土師質土器 高台付坏	SB160 1-1	- (2.4) (7.0)	24.0	底部 1/3	ロクロ整形、底部 糸切り、高台貼り 付け	粗砂粒混入	灰白色 淡黄褐色	
460-PK37 17-10	須恵器A 坏	SB162 1-2	((13.7)) (2.8)	11.2	小片	ロクロ整形	粗砂粒混入	暗灰色 灰色	
460-PK63 17-11 9	須恵器A 坏	SB162 3-4	12.4 3.9 4.9	128.3	完形	ロクロ整形、底部 糸切り	粗砂粒混入	灰黄褐色 灰黄褐色	
460-PL63 17-12	土師質土器 坏	SB164 1-1	((16.8)) (3.4)	10.3	小片	ロクロ整形	粗砂粒混入	にぶい褐色 にぶい褐色	
460-PK38 17-13 9	須恵器A 坏	SB165 2-2	13.2 4.4 5.4	116.3	4/5	ロクロ整形、底部 糸切り	粗砂粒混入	黄灰色 黒褐色	
460-PK39 17-14	須恵器A 坏	SB166 4-2	((13.8)) (4.0)	16.9	小片	ロクロ整形	細砂粒混入	灰色 灰色	口縁内面に僅かに煤付着

遺物番号 国函番号 図版番号	種別 器形	出土位置	口径 器高 底径	重さ	遺存度	成・整形技法	胎土	内面色調 外面色調	備考
460-PK40 17-15	須恵器A 坏	SB165 4-2	((13.8) — (3.1) —	9.8	小片	ロクロ整形	細砂粒混入	灰色 灰色	口縁部に僅かに自然輪 付着
460-PK41 17-16	須恵器A 坏	SB165 4-2	((13.7) — (3.0) —	7.7	小片	ロクロ整形	細砂粒混入	灰色 灰色	
460-PL54 17-17	土師質土器 坏	SB165 4-3	— (3.6) (6.0) —	21.6	小片	ロクロ整形、底部 糸切り	細砂粒混入	にぶい黄褐色 にぶい橙色	
460-PK44 17-18	須恵器B 坏	SB186 1-1	— (2.4) —	4.5	小片	ロクロ整形	粗砂粒混入	褐色 にぶい黄褐色	
460-PL55 17-19	土師質土器 坏	SB166 1-1	((10.8) — (1.7) —	7.1	小片	ロクロ整形	細砂粒混入	靑灰色 黄灰色	
460-PL57 17-20	土師質土器 坏	SB186 2-3	((11.6) — (2.2) —	4.7	小片	ロクロ整形	細砂粒混入	にぶい黄褐色 にぶい黄褐色	
460-PI31 17-21	土師器 甕	SB187 2-3	((22.6) — (2.5) —	31.4	小片	口辺横ナデ	粗砂粒混入	にぶい黄褐色 にぶい黄褐色	
460-PIK2 17-22 9	須恵器A 坏	SB167 3-2	((11.6) — 3.1 (4.8) —	27.6	1/3	ロクロ整形、底部 糸切り	細砂粒混入	灰色 灰色	
431-PI01 18-1	土師器 甕	SI544 覆土	((13.1) — (4.3) —	38.7	口辺1/3	口辺横ナデ、体部 外面横方向へナゲ 削り	細砂粒混入	褐色 褐色	
431-PI02 18-2	土師器 甕	SI544 覆土	((12.3) — (5.7) —	32.6	小片	口辺横ナデ、体部 外面横方向へナゲ 削り	細砂粒混入	褐色 褐色	
431-PI03 18-3	土師器 甕	SI544 覆土	— (4.7) —	21.6	小片	体部外面斜め方向 へナゲ削り	粗砂粒混入	暗赤灰色 にぶい褐色	外面に煤付着
431-PI04 18-4	土師器 甕	SI544 覆土	((18.8) — (6.5) —	61.0	口辺1/4	口辺横ナデ、体部 外面横方向へナゲ 削り、内面横方向へ ナゲ削り	粗砂粒混入	にぶい黄色 灰黄褐色	
431-PI05 18-5 9	土師器 甕	SI544 カマド	((19.8) — (10.8) —	56.6	口辺1/5	口辺横ナデ、体部 外面横方向へナゲ 削り、内面横方向へ ナゲ削り	粗砂粒混入	にぶい褐色 にぶい褐色	
431-PI06 18-6 9	土師器 甕	SI544 カマド	((24.3) — (9.3) —	184.1	口辺1/4	口辺横ナデ、体部 外面横方向へナゲ 削り、内面横方向へ ナゲ削り	粗砂粒混入	にぶい黄褐色 にぶい黄褐色	
431-PI07 18-7	土師器 甕	SI544 カマド	— (2.5) 6.4 —	138.0	底部完形	体部外面斜め方向へ ナゲ削り	粗砂粒混入	にぶい赤褐色 灰黄褐色	全体に二次堆成を受け ている
431-PK01 18-8	須恵器A 坏	SI544 覆土	— (2.6) (5.6) —	6.6	小片	ロクロ整形、底部 糸切り	粗砂粒混入	灰白色 灰白色	内外面煤付着
431-PIK2 18-9	須恵器A 坏	SI544 覆土	— (2.0) (5.6) —	15.3	1/8	ロクロ整形、底部 糸切り	細砂粒混入	にぶい黄褐色 灰白色	
431-PK128 18-10	須恵器B 坏	SI544 カマド	((14.4) — (4.2) —	24.5	1/8	ロクロ整形	砂粒混入	淡黄色 淡黄色	
431-PK07 18-11	須恵器A 坏	SI544 カマド	((14.4) — (3.3) —	8.6	小片	ロクロ整形	砂粒混入	灰白色 灰白色	
431-PK06 18-12	須恵器A 坏	SI544 カマド	((13.8) — (3.9) —	11.0	小片	ロクロ整形	砂粒混入	灰白色 淡黄色	

遺物番号 図面番号 図版番号	種別 器形	出土位置	口径 器高 底径	重さ	遺存度	成・整形技法	胎土	内面色調 外面色調	備考
431-PK03 18-13	須恵器A 坏	SI544 覆土	((11.8) (2.0) —	3.0	小片	ロクロ整形	緻密	灰褐色 灰褐色	一部酸化焙焼成
431-PK06 18-14	須恵器A 坏	SI544 P-1・覆土	((13.4) (3.9) —	18.6	1/10	ロクロ整形	砂粒混入	灰色 灰色	
431-PK04 18-15	須恵器A 坏	SI544 覆土	((11.6) (3.2) —	14.2	小片	ロクロ整形	砂粒混入	褐灰色 褐灰色	
431-PK09 18-16 9	須恵器B 坏	SI544 カマド	12.6 4.5 5.4	107.1	9/10	ロクロ整形、底部 糸切り	砂粒混入	浅黄褐色 褐色	
431-PK10 18-17	須恵器B 坏	SI544 カマド	((17.2) (2.6) —	14.2	小片	ロクロ整形	砂粒混入	にぶい褐色 にぶい褐色	
431-PK11 18-18	須恵器A 高台付坏	SI544 覆土	— (1.0) (7.4)	9.0	小片	ロクロ整形、底部 糸切り、高台貼り 付け	砂粒混入	灰黄色 灰色	
431-PK130 18-19	須恵器A 高台付坏	SI544 覆土	— (1.3) 7.5	63.4	底部完形	ロクロ整形、底部 糸切り、高台貼り 付け	砂粒混入	浅黄色 黒色	全体に炭化物付着
431-PK08 18-20	須恵器B 坏	SI544 カマド	— (1.7) (6.2)	22.6	小片	ロクロ整形、底部 糸切り	砂粒混入	赤色 赤褐色	
431-PK12 18-21	須恵器A 甕	SI544 覆土	— (12.8) —	243.0	小片	外面平行叩き、内 面宛具敷、板状工 具によるナデ	緻密	灰色 灰色	外面上部に自然釉
431-PL02 19-1	土師質土器 坏	SI544 覆土	— (3.1) (5.9)	23.5	1/9	ロクロ整形	砂粒混入	浅黄褐色 浅黄褐色	
431-PL03 19-2	土師質土器 坏	SI544 覆土	— (2.2) (7.0)	13.2	小片	ロクロ整形、底部 糸切り	細砂粒混入	にぶい褐色 にぶい褐色	
431-PH06 21-1	土師器 甕	SI545 カマド	— (13.9) —	175.9	1/6	体部外面縦方向へ ラ削り、内面横方 向へラナデ	粗砂粒混入	黒褐色 黄灰色	外面に僅かに煤付着
431-PH09 21-2	土師器 甕	SI545 覆土	— (2.5) (7.2)	30.6	小片	内面ナデ	粗砂粒混入	にぶい黄褐色 にぶい黄褐色	
431-PK13 21-3 11	須恵器A 坏	SI545 覆土	12.6 4.2 4.6	125.2	2/3	ロクロ整形、底部 糸切り	砂粒多量混入	にぶい黄褐色 にぶい黄褐色	底部が台状になってい る
431-PK14 21-4 11	須恵器A 坏	SI545 カマド	((13.6) 4.5 5.0	150.3	1/4	ロクロ整形、底部 糸切り	砂粒多量混入、 軟質	灰白色 灰白色	
431-PK16 21-5	須恵器A 坏	SI545 カマド	((13.2) (3.6) —	41.6	1/5	ロクロ整形	砂粒多量混入、 軟質	灰白色 灰白色	
431-PK16 21-6	須恵器A 坏	SI545 カマド	— (1.4) (4.8)	20.8	小片	ロクロ整形、底部 糸切り	砂粒多量混入、 軟質	灰白色 灰白色	
431-PL06 21-7 11	土師質土器 坏	SI545 覆土	11.0 4.2 (5.4)	60.1	1/2	ロクロ整形、底部 糸切り	細砂粒混入	褐色 褐色	
431-PL06 21-8	土師質土器 坏	SI545 覆土	— (1.7) (6.3)	15.2	小片	ロクロ整形、底部 糸切り	細砂粒混入	にぶい褐色 にぶい褐色	
431-PL07 21-9	土師質土器 坏	SI545 覆土	— (1.7) (5.8)	8.1	小片	ロクロ整形、底部 糸切り	砂粒混入	浅黄褐色 浅黄褐色	
431-PN03 21-10	灰釉陶器 甕	SI545 カマド	((11.6) (3.1) —	8.0	小片	ロクロ整形	緻密	灰白色 灰白色	漬け掛け

遺物番号 図面番号 図版番号	種別 器形	出土位置	口径 器高 底径	重さ	遺存度	成・整形技法	胎土	内面色调 外面色调	備考
431-PN01 21-11 11	灰輪陶器 甕	S1545 カマド	((13.2) 4.1 (6.3))	55.1	1/2	ロクロ整形、底部 糸切り、高台貼り 付け	麻密	灰白色 灰白色	漬け掛け、内面に重ね 燒き(高台)の痕跡あり
431-PN02 21-12 11	灰輪陶器 甕	S1545 P-3	((13.8) 3.9 7.1)	150.4	3/4	ロクロ整形、底部 糸切り、高台貼り 付け	麻密	灰白色 灰白色	漬け掛け、内面に重ね 燒き(高台)の痕跡あり
431-PH10 23-1	土師器 甕	S1546 カマド内	— (21.2) —	232.0	1/8	口辺横ナデ、体部 外面縦方向へラ削 り後ナデ、内面横 方向へラナデ	粗砂粒混入	にぶい橙色 黒色	外面全体に煤付着
431-PH11 23-2 12	土師器 甕	S1546 覆土	((26.6) (9.0) —	80.6	小片	口辺横ナデ、体部 外面ナデ、内面横 方向へラナデ	粗砂粒混入	にぶい褐色 灰赤色	口縁部に煤付着
431-PH12 23-3 12	土師器 甕	S1546 カマド	((22.6) (9.5) —	69.4	小片	口辺横ナデ、体部 外面ナデ、内面横 方向へラナデ	粗砂粒混入	にぶい褐色 にぶい赤褐色	外面に煤付着
431-PH13 23-4	土師器 台付甕	S1546 覆土	— (2.4) —	18.8	小片		粗砂粒混入	にぶい赤褐色 にぶい赤褐色	
431-PK17 23-5	須恵器A 坏	S1546 覆土	— (2.0) (7.0)	10.8	小片	ロクロ整形、底部 糸切り	砂粒混入、 麻密	灰白色 灰白色	
431-PK18 23-6	須恵器A 坏	S1546 覆土	— (1.1) (6.0)	4.6	小片	ロクロ整形、底部 糸切り	砂粒混入、 軟質	にぶい黄褐色 灰白色	
431-PL10 23-7	土師質土器 足高高台付 甕	S1546 覆土	— (3.3) (10.3)	9.0	小片	ロクロ整形	細砂粒混入	にぶい黄褐色 にぶい黄褐色	
431-PL08 23-8	土師質土器 坏	S1546 カマド	((17.4) (3.7) —	41.5	1/6	ロクロ整形	砂粒混入	浅黄褐色 浅黄褐色	
431-PL09 23-9	土師質土器 坏	S1546 覆土	((12.9) (3.8) —	11.5	小片	ロクロ整形	細砂粒混入	浅黄褐色 浅黄褐色	
431-PL11 23-10	土師質土器 高台付甕	S1546 覆土	— (3.7) —	23.4	小片	ロクロ整形	細砂粒混入	にぶい橙色 にぶい橙色	
431-PH14 24-1	土師器 坏	S1547 覆土	((15.7) (3.1) —	10.5	小片	口縁横ナデ、ヘラ 磨き	粗砂粒混入	黒色 にぶい黄褐色	外面に粘土紙の接合痕 を残す、内面黒色地埋
431-PH15 24-2 12	土師器 高台付坏	S1547 北東972'	((14.2) 6.3 (6.8))	229.0	2/3	体部外面横方向へラ 削り、高台貼り 付け	粗砂粒混入	浅黄色 黄色	体部外面に指痕圧痕が 僅かに残る
431-PH16 24-3	土師器 甕	S1547 P-2	((18.4) (4.9) —	60.7	小片	口辺横ナデ、体部 外面縦方向へラ削 り	粗砂粒混入	浅黄色 浅黄色	
431-PH17 24-4	土師器 甕	S1547 P-3	((26.2) (7.7) —	89.6	小片	口辺横ナデ、体部 外面縦方向へラ削 り	粗砂粒混入	黄灰色 黄灰色	
431-PH18 24-5	土師器 甕	S1547 北東972'	— (14.3) (5.6)	113.7	小片	体部横方向に浅い ヘラ削り、内面横 方向へラナデ、底 部ヘラ削り	粗砂粒混入	にぶい黄褐色 にぶい橙色	
431-PH20 24-6 12	土師器 甕	S1547 北東972'	((22.6) (12.2) —	979.0	口辺 1/2	口辺横ナデ、体部 外面横方向へラ削 り	粗砂粒混入	にぶい橙色 にぶい黄褐色	
431-PH19 24-7	土師器 台付甕	S1547 覆土	— (2.9) (10.4)	18.8	小片	横ナデ	粗砂粒混入	にぶい黄褐色 にぶい黄褐色	
431-PH21 24-8	土師器 台付甕	S1547 覆土	— (4.1) (11.7)	41.2	台部 1/5	横ナデ	粗砂粒混入	浅黄褐色 にぶい黄褐色	

遺物番号 図面番号 図原番号	種別 器形	出土位置	口径 器高 底径	重さ	遺存度	成・整形技法	胎土	内面色調 外面色調	備考
431-PK19 24-9	須恵器A 環	S1547 覆土	((14.0)) (4.0) —	12.4	小片	ロクロ整形	砂粒混入	にぶい黄褐色 にぶい黄褐色	
431-PK20 24-10	須恵器A 環	S1547 北東3+ト	((11.6)) (2.7) —	19.6	1/8	ロクロ整形	砂粒混入	にぶい黄褐色 にぶい黄褐色	一部酸化焙焼成
431-PK131 24-11	須恵器B 高台付環	S1547 覆土	— (2.8) 6.8	62.2	1/8	ロクロ整形、底部 糸切り、高台貼り 付け	砂粒混入	浅黄褐色 浅黄褐色	
431-PK132 24-12	須恵器B 高台付環	S1547 覆土	— (2.0) —	15.1	小片	ロクロ整形、底部 糸切り、高台貼り 付け	粗砂粒混入	褐色 にぶい黄褐色	
431-PK21 24-13 12	須恵器A 壺	S1547 覆土	— (7.4) —	165.8	小片	内面完具痕	砂粒混入	黄灰色 灰色	外面に自然釉
431-PL13 24-14	土師質土器 環	S1547 覆土	((14.4)) (4.4) —	19.8	小片	ロクロ整形	細砂粒混入	浅黄褐色 浅黄褐色	
431-PL12 24-15	土師質土器 環	S1547 覆土	((12.2)) 4.0 (5.8)	33.6	1/8	ロクロ整形、底部 糸切り	粗砂粒混入	赤褐色 赤褐色	
431-PL14 24-16	土師質土器 環	S1547 覆土	— (3.3) 5.9	72.6	1/3	ロクロ整形、底部 糸切り	砂粒混入	褐色 褐色	内面に螺旋状のロクロ 痕が明瞭に残る
431-PL15 24-17 12	土師質土器 足高高台付 壺	S1547 覆土	13.8 8.2 8.4	201.6	9/10	ロクロ整形、高台 貼り付け	細砂粒混入	浅黄褐色 浅黄褐色	
431-PL17 24-18 12	土師質土器 足高高台付 壺	S1547 P-3	14.7 6.8 9.0	352.0	9/10	ロクロ整形、高台 貼り付け	砂粒混入	褐色 褐色	
431-PL16 24-19	土師質土器 高台付壺	S1547 北東3+ト	((17.8)) (5.4) —	43.8	1/6	ロクロ整形	砂粒混入	褐色 褐色	
431-PL19 24-20	土師質土器 足高高台付 壺	S1547 北東3+ト	— (4.7) (11.4)	34.9	小片	ロクロ整形	粗砂粒混入	にぶい褐色 にぶい褐色	
431-PK04 24-21	灰釉陶器 長頸壺	S1547 覆土	((20.8)) (1.4) —	7.9	小片	ロクロ整形	緻密	灰白色 灰白色	全面に施釉
431-PK22 28-1	土師器 壺	S1548 覆土上層	— (4.9) —	15.9	小片	口辺横ナゲ、体部 外面横方向へラ削 り	粗砂粒混入	オリーブ色 にぶい黄褐色	
431-PK23 28-2	土師器 壺	S1548 カマド	((13.6)) (3.8) —	38.0	口辺1/5	口辺横ナゲ、体部 外面横方向へラ削 り	粗砂粒混入	にぶい黄褐色 にぶい黄褐色	
431-PK24 28-3	土師器 壺	S1548 覆土上層	— (2.8) (6.0)	24.9	底部1/3	体部外面縦方向へ ラ削り、下半部横 方向へラ削り	粗砂粒混入	にぶい黄褐色 褐色	
431-PK25 28-4 15	土師器 壺	S1548 覆土下層	((24.0)) (11.8) —	155.5	口辺1/2	口辺横ナゲ、体部 外面横方向・下半 部縦方向へラ削り	粗砂粒混入	褐色 灰黄褐色	外面に施付着
431-PK26 28-5	土師器 壺	S1548 カマド	— (7.1) —	45.6	小片	体部外面縦方向へ ラ削り、内面横方 向へラ削り	粗砂粒混入	灰黄褐色 にぶい黄褐色	外面に施付着
431-PK27 28-6	土師器 台付壺	S1548 貯蔵穴	— (2.3) —	58.1	小片	台部外面へラ削り	砂粒混入	にぶい黄褐色 にぶい黄褐色	
431-PK22 28-7	須恵器A 環	S1548 覆土上層	((14.8)) (2.5) —	25.2	1/8	ロクロ整形	砂粒混入	暗灰黄色 黄灰色	内面に自然釉
431-PK23 28-8	須恵器A 環	S1548 覆土下層	— (2.8) 4.5	54.3	1/3	ロクロ整形、底部 糸切り	粗砂粒混入	浅黄褐色 浅黄褐色	一部酸化焙焼成

遺物番号 図面番号 図版番号	種別 器形	出土位置	口径 器高 底径	重さ	遺存度	成・整形技法	胎土	内面色調 外面色調	備考
431-PK24 28-9	須恵器A 杯	S1548 覆土上層	— (1.2) (2.0)	20.2	小片	ロクロ整形、底部 糸切り	砂粒混入	灰黄色 灰白色	
431-PK25 28-10	須恵器A 杯	S1548 覆土上層	— (2.0) (6.8)	12.8	小片	ロクロ整形、底部 糸切り	緻密	灰色 灰色	
431-PK26 28-11	須恵器B 杯	S1548 覆土下層	— (11.9) (2.7)	8.7	小片	ロクロ整形	砂粒混入	にぶい棕色 にぶい橙色	
431-PK27 28-12	須恵器A 高台付杯	S1548 覆土下層	— (1.5) (7.0)	14.5	小片	ロクロ整形、底部 糸切り、高台貼り 付け	砂粒混入	にぶい黄褐色 灰白色	一部酸化焼成
431-PK133 28-13	須恵器B 杯	S1548 覆土上層	— (1.2) 5.7	33.3	底部完形	ロクロ整形、底部 糸切り	砂粒混入	灰黄色 明褐色	
431-PK134 28-14 15	須恵器B 高台付杯	S1548 覆土	— (3.5) 7.2	76.4	小片	ロクロ整形、底部 糸切り、高台貼り 付け	砂粒混入	褐色 褐色	
431-PK30 28-15 16	須恵器A 把手	S1548 覆土	— (6.4)	31.7	小片		砂粒混入、 軟質	灰白色 灰白色	
431-PK28 28-16	須恵器A 甕	S1548 覆土	— (4.8)	52.3	小片	ロクロ整形	砂粒混入	オリーブ黒色 暗灰色	
431-PK29 28-17	須恵器A 甕	S1548 覆土	— (6.2)	67.8	小片	ロクロ整形、底部 貼り付け	砂粒混入	灰色 灰色	
431-PL21 28-18 15	土師質土器 杯	S1548 覆土下層	— (3.5) 4.6	90.5	2/3	ロクロ整形、底部 糸切り	砂粒混入	浅黄色 黄色	
431-PL22 28-19	土師質土器 杯	S1548 貯蔵穴	— (2.4) (5.5)	44.7	1/5	ロクロ整形、底部 糸切り	細砂粒混入	浅黄褐色 浅黄褐色	
431-PL25 28-20	土師質土器 杯	S1548 覆土上層	— (11.8) (2.9)	26.0	小片	ロクロ整形	砂粒混入	にぶい黄褐色 にぶい黄褐色	
431-PL26 28-21	土師質土器 杯	S1548 覆土下層	— (13.8) (2.9)	13.3	小片	ロクロ整形	砂粒混入	にぶい褐色 にぶい褐色	
431-PL31 28-22	土師質土器 杯	S1548 貯蔵穴	— (12.8) (2.3)	8.2	小片	ロクロ整形	細砂粒混入	明褐色 明褐色	
431-PL29 28-23	土師質土器 高台付杯	S1548 覆土上層	— (1.9) (6.6)	24.4	1/8	ロクロ整形、底部 糸切り、高台貼り 付け	砂粒混入	灰白色 明黄褐色	
431-PL28 28-24	土師質土器 高台付杯	S1548 カマド	— (1.9) 6.5	55.3	底部完形	ロクロ整形、底部 糸切り、高台貼り 付け	砂粒混入	明黄褐色 褐色	二次焼成を受けている
431-PL24 28-25	土師質土器 杯	S1548 覆土	— (1.3) 8.8	43.0	底部完形	ロクロ整形、底部 糸切り	細砂粒混入	灰黄褐色 にぶい黄褐色	
431-PN05 29-1	灰陶器 壺	S1548 カマド	— (10.1)	104.1	小片	外面回転ヘラ削り	緻密	灰白色 オリーブ黄色	外面全体に施釉
431-PH27 32-6	土師器 杯	S1549 覆土	— (14.0) (1.4)	6.6	小片	口辺横ナゲ、体部 外面斜め方向ヘラ 削り	粗砂粒混入	にぶい褐色 褐色	
431-PH28 32-7 18	土師器 小房甕	S1549 カマド	— (13.5) (8.7)	49.8	口辺 1/6	口辺横ナゲ、体部 外面横方向ヘラ削り	粗砂粒混入	にぶい黄褐色 にぶい褐色	
431-PH29 32-8	土師器 甕	S1549 覆土	— (21.1) (9.1)	145.9	口辺 1/3	口辺横ナゲ、体部 外面斜め方向ヘラ削り	粗砂粒混入	黒褐色 にぶい黄褐色	

遺物番号 図面番号 図版番号	種別 器形	出土位置	口径 器高 底径	重さ	遺存度	成・整形技法	胎土	内面色調 外面色調	備考
431-PK34 32-9	土師器 台付甕	S1549 覆土	— (6.2)	28.0	小片	横ナデ	粗砂粒混入	にぶい赤褐色 にぶい赤褐色	
431-PK30 32-10	土師器 甕	S1549 覆土	((16.6)) (7.7) —	185.2	口辺 1/3	口辺横ナデ、体部 外面横方向へラ削り、 内面横方向へラナデ	粗砂粒混入	にぶい黄褐色 にぶい黄褐色	
431-PK31 32-11 18	土師器 甕	S1549 P-9	((17.8)) (7.2) —	43.5	小片	口辺横ナデ、体部 外面横方向へラ削り、 内面横方向へラナデ	粗砂粒混入	にぶい橙色 にぶい橙色	
431-PK35 32-12	土師器 台付甕	S1549 覆土	— (2.3)	25.3	小片	横ナデ	粗砂粒混入	灰黄褐色 にぶい黄褐色	
431-PK33 32-13	土師器 甕	S1549 覆土	((18.2)) (3.6) —	50.7	口辺 1/3	口辺横ナデ	粗砂粒混入	灰黄褐色 灰黄褐色	
431-PK32 32-14	土師器 甕	S1549 覆土	((18.2)) (4.8) —	40.3	小片	口辺横ナデ、体部 外面横方向へラ削り、 内面横方向へラナデ	粗砂粒混入	にぶい褐色 黒褐色	
431-PK32 32-15 18	須恵器A 坏	S1549 覆土	((12.2)) 3.7 (6.8)	109.5	1/3	ロクロ整形、底部 糸切り	砂粒混入、 緻密	灰白色 灰白色	重ね焼きの痕跡あり
431-PK33 32-16 18	須恵器A 坏	S1549 カマド	((12.6)) 4.2 (5.9)	47.6	1/3	ロクロ整形、底部 糸切り	砂粒混入、 緻密	灰黄色 灰白色	
431-PK31 32-17	須恵器A 坏	S1549 覆土	((13.3)) (4.7) —	47.5	1/4	ロクロ整形	砂粒混入、 緻密	暗灰色 灰色	内面に自然釉
431-PK34 33-1	須恵器A 坏	S1549 覆土	((13.2)) 3.9 (6.0)	39.0	1/5	ロクロ整形、底部 糸切り	砂粒混入	灰白色 灰黄色	
431-PK36 33-2	須恵器A 坏	S1549 覆土	((13.8)) 3.8 (6.8)	19.6	1/10	ロクロ整形、底部 糸切り	緻密	灰白色 極灰色	
431-PK36 33-3	須恵器A 坏	S1549 覆土	((12.8)) (4.1) (5.2)	23.4	小片	ロクロ整形、底部 糸切り	砂粒混入	黄灰色 黄灰色	
431-PK37 33-4	須恵器A 坏	S1549 覆土	((14.6)) (4.7) (5.8)	26.1	1/10	ロクロ整形、底部 糸切り	砂粒混入	灰色 灰色	
431-PK41 33-5	須恵器B 坏	S1549 覆土	— (2.8) 6.4	48.5	1/4	ロクロ整形、底部 糸切り	砂粒混入	にぶい黄褐色 にぶい黄褐色	一部還元焙焼成
431-PK42 33-6	須恵器B 坏	S1549 覆土	((12.0)) (3.9) 5.6	41.4	1/5	ロクロ整形、底部 糸切り	砂粒混入	褐色 褐色	
431-PK136 33-7	須恵器B 坏	S1549 覆土	((12.9)) (3.3) —	34.4	小片	ロクロ整形	砂粒混入	褐色 褐色	
431-PK43 33-8	須恵器A 坏	S1549 覆土	— (4.4) (5.6)	32.1	小片	ロクロ整形、底部 糸切り	砂粒混入	暗灰黄色 暗灰黄色	一部酸化焙焼成
431-PK38 33-9 18	須恵器A 坏	S1549 覆土	((15.0)) 5.6 (6.8)	57.9	1/3	ロクロ整形、底部 糸切り、高台貼り 付け	砂粒混入、 緻密	灰色 灰色	内面にわずかに自然釉
431-PK39 33-10 18	須恵器A 高台付坏	S1549 覆土	((13.8)) 5.6 (6.8)	61.3	1/4	ロクロ整形、底部 糸切り、高台貼り 付け	砂粒混入、 軟質	黄灰色 にぶい黄褐色	
431-PK44 33-11	須恵器A 高台付坏	S1549 覆土	— (4.0) (6.8)	43.3	1/5	ロクロ整形、底部 糸切り、高台貼り 付け	砂粒混入	灰色 褐色	一部酸化焙焼成

遺物番号 図面番号 写真番号	種別 器形	遺構名 層位	口径 器高 底径	重さ	遺存度	成・整形技法	胎土	内面色調 外面色調	備考
431-PK45 33-12	須恵器A 高台付坏	S1549 覆土	((14.4) (5.1) —	31.2	1/8	ロクロ整形、底部 糸切り	砂粒混入	黄灰色 黄灰色	一部酸化焙焼成
431-PK40 33-13	須恵器A 高台付坏	S1549 覆土	— (1.8) 6.9	79.7	底部完形	ロクロ整形、底部 糸切り、高台貼り 付け	細砂粒混入、 緻密	灰色 灰色	
431-PK46 33-14	須恵器A 長頸蓋	S1549 覆土	((13.1) (2.1) —	8.1	小片	ロクロ整形	砂粒混入	灰色 灰色	外面に自然釉
431-PL34 33-15 18	土師質土器 坏	S1549 P-7	12.6 4.6 5.4	55.0	1/2	ロクロ整形、底部 糸切り	細砂粒混入	橙色 橙色	
431-PL33 33-16	土師質土器 坏	S1549 覆土	((12.0) (4.8) (4.8)	26.3	小片	ロクロ整形	細砂粒混入	褐色 褐色	
431-PL37 33-17	土師質土器 坏	S1549 覆土	((13.2) (4.4) —	24.1	小片	ロクロ整形	砂粒混入	橙色 褐色	
431-PL32 33-18	土師質土器 坏	S1549 覆土	— (2.7) (5.2)	14.6	小片	ロクロ整形、底部 糸切り	粗砂粒混入	にぶい褐色 にぶい褐色	
431-PL35 33-19 18	土師質土器 坏	S1549 覆土	((12.7) 4.3 (6.7)	52.4	1/3	ロクロ整形、底部 糸切り	細砂粒混入	浅黄褐色 浅黄褐色	
431-PL38 33-20	土師質土器 高台付坏	S1549 P-6	((14.2) (6.0) —	39.7	小片	ロクロ整形	砂粒混入	にぶい褐色 にぶい褐色	
431-PK06 33-21	灰釉陶器 坏	S1549 覆土	((13.4) (4.3) —	22.6	小片	ロクロ整形	細砂粒混入	灰白色 灰白色	漬け掛け
431-PH39 36-1	土師器 甕	S1650 覆土	((20.2) (12.9) —	188.2	口辺 1/3	体部外面横・斜め 方向へラ削り、内 面横方向ナゲ	粗砂粒混入	にぶい褐色 にぶい褐色	外面に煤付着
431-PH37 36-2	土師器 小形甕	S1550 覆土	((13.5) (8.7) —	92.5	口辺 1/3	口辺横ナゲ、体部 外面横方向へラ削 り、内面横方向へ ラナゲ	粗砂粒混入	浅黄褐色 褐色	口辺部に粘土紐の接合 痕を残す
431-PH36 36-3	土師器 小形台付甕	S1550 覆土	((8.7) (4.2) —	35.0	口辺 1/2	口辺横ナゲ、体部 外面横方向へラ削 り	粗砂粒混入	褐色 褐色	外面に煤付着
431-PH38 36-4	土師器 甕	S1550 カマド	— (4.4) 5.1	77.9	底部完形	体部外面縦方向へ ラ削り、内面横方 向ナゲ、底部へラ 削り	小石・粗砂粒 混入	褐色 褐色	
431-PK47 36-5 19	須恵器A 坏	S1550 覆土	13.9 5.0 6.0	107.6	2/3	ロクロ整形、底部 糸切り	砂粒混入	灰白色 灰白色	
431-PK51 36-6 19	須恵器B 坏	S1550 覆土	((14.3) 8.1 (5.6)	77.1	1/2	ロクロ整形、底部 糸切り	砂粒混入	にぶい黄褐色 灰黄色	内外面に煤付着
431-PK49 36-7 19	須恵器A 坏	S1550 覆土	13.8 4.7 6.2	86.1	1/2	ロクロ整形、底部 糸切り	粗砂粒混入、 緻密	灰色 灰色	
431-PK48 36-8 19	須恵器A 坏	S1550 カマド	((12.1) 4.2 6.2	86.2	2/3	ロクロ整形、底部 糸切り	砂粒混入	灰色 灰オリーブ色	
431-PK52 36-9	須恵器B 高台付坏	S1550 覆土	— (2.9) 7.9	81.5	1/3	ロクロ整形、底部 糸切り、高台貼り 付け	細砂粒混入、 軟質	褐色 にぶい黄褐色	
431-PK53 36-10	須恵器B 高台付坏	S1550 覆土	— (2.9) (6.8)	36.6	1/6	ロクロ整形、底部 糸切り、高台貼り 付け	砂粒混入	褐色 褐色	

遺物番号 図面番号 図版番号	種別 器形	出土位置	口径 器高 底径	重さ	遺存度	成・整形技法	胎土	内面色調 外面色調	備考
431-PK54 38-11 19	須恵器A 高台付環	SI550 覆土	((13.5)) (5.5) —	54.8	1/4	ロクロ整形、底部 糸切り、高台貼り 付け	砂粒混入	灰色 灰色	
431-PK50 38-12	須恵器A 環	SI550 カマド	((14.3)) (4.1) —	23.5	1/8	ロクロ整形	細砂粒混入	灰白色 灰白色	
431-PK55 36-13	須恵器B 環	SI550 覆土	— (2.6) (5.4)	8.3	小片	ロクロ整形	砂粒混入	にぶい褐色 にぶい褐色	
431-PH40 38-1	土師器 台付環	SI551 カマド	— (6.4) (8.6)	58.8	小片	台部横方向ナデ、 体部外面縦方向へ ラ削り	粗砂粒混入	にぶい褐色 褐色	
431-PK56 38-2	須恵器A 環	SI551 覆土	((11.6)) (2.7) —	5.9	小片	ロクロ整形	砂粒混入、 軟質	灰白色 灰白色	
431-PK57 38-3	須恵器A 環	SI551 カマド	((14.8)) (3.5) —	13.2	小片	ロクロ整形	砂粒混入、 軟質	にぶい黄色 淡黄色	
431-PL40 38-4 20	土師質土器 環	SI551 カマド	((11.3)) 5.0 (5.8)	94.4	1/3	ロクロ整形、底部 糸切り	細砂粒混入	にぶい褐色 にぶい褐色	
431-PL41 38-5 20	土師質土器 高台付環	SI551 カマド	((14.4)) (6.1) 7.4	80.2	1/2	ロクロ整形、底部 糸切り、高台貼り 付け	細砂粒混入	にぶい褐色 にぶい黄褐色	
431-PH41 39-4	土師器 環	SI552 覆土	((12.4)) 4.2 (6.3)	23.4	1/5	口辺横ナデ、体部 外面下部横方向へ ラ削り、底部へラ 削り	細砂粒混入	にぶい褐色 にぶい褐色	全体に煤が厚く付着
431-PH42 39-5	土師器 鉢	SI552 カマド	((28.0)) (3.4) —	28.0	小片	口縁横ナデ	粗砂粒混入	褐色 褐色	
431-PH43 39-6	土師器 小形環	SI552 覆土	((12.4)) (7.0) —	36.9	口辺1/4	口辺横ナデ、体部 外面横方向へラ削 り	粗砂粒混入	暗灰黄色 褐色	
431-PH44 39-7	土師器 甕	SI552 P-1	((25.6)) (11.4) —	168.9	口辺1/5	口辺横ナデ、体部 外面横方向へラ削 り、内面横方向へ ラナデ	粗砂粒混入	にぶい黄褐色 灰黄褐色	
431-PH45 39-8	土師器 甕	SI552 覆土	((25.6)) (6.7) —	89.2	小片	口辺横ナデ、体部 外面横方向へラ削 り、内面横方向へ ラナデ	細砂粒混入	にぶい黄褐色 にぶい黄褐色	
431-PH46 39-9 20	土師器 台付甕	SI552 覆土	— (9.6) (13.2)	169.7	底部1/2	体部外面回転へラ 削り	粗砂粒混入	明赤褐色 にぶい赤褐色	体部全体に煤付着
431-PH47 39-10	土師器 台付甕	SI552 覆土	— (2.3) —	59.5	小片		細砂粒混入	にぶい褐色 淡黄褐色	
431-PH48 39-11	土師器 台付甕	SI552 覆土	— (3.5) —	56.9	1/5		粗砂粒混入	灰褐色 明褐色	
431-PH49 39-12	土師器 台付甕	SI552 覆土	— (5.4) —	47.6	小片		粗砂粒混入	にぶい黄褐色 明赤褐色	外面に煤付着
431-PK58 39-13 20	須恵器A 環	SI552 覆土	13.8 4.7 6.0	174.5	完形	ロクロ整形、底部 糸切り	砂粒混入	灰色 灰色	
431-PK59 39-14 20	須恵器A 環	SI552 覆土	14.2 4.8 6.3	169.8	ほぼ完形	ロクロ整形、底部 糸切り	砂粒混入	灰白色 灰白色	
431-PK60 39-15 20	須恵器A 環	SI562 カマド	11.8 3.7 5.2	67.6	4/5	ロクロ整形、底部 糸切り	砂粒混入	灰白色 灰白色	

遺物番号 図面番号 図版番号	種別 器形	出土位置	口径 器高 底径	重さ	遺存度	成・整形技法	胎土	内面色調 外面色調	備考
431-PK51 40-1 20	須志器A 坏	S1552 覆土	— 12.4 4.1 (4.8)	76.5	4/5	ロクロ整形、底部 糸切り	砂粒混入、 緻密	灰色 灰色	
431-PK65 40-2	須志器A 坏	S1552 覆土上層	— (3.3) (6.8)	35.2	小片	ロクロ整形、底部 糸切り	砂粒混入	灰白色 灰青色	外面の一部に煤付着
431-PK66 40-3	須志器A 坏	S1582 カマド	— (3.1) 3.8	90.3	1/4	ロクロ整形、底部 糸切り	砂粒混入	灰色 灰色	
431-PK67 40-4	須志器A 坏	S1552 覆土上層	— (2.0) (6.0)	13.7	1/10	ロクロ整形、底部 糸切り	砂粒混入	浅黄色 淡黄褐色	
431-PK62 40-5	須志器A 坏	S1582 覆土	— (15.0) (5.2)	48.9	1/5	ロクロ整形	砂粒混入、 緻密	暗オリーブ灰色 暗オリーブ灰色	内外面に火押
431-PK63 40-6	須志器A 坏	S1552 覆土下層	— (14.4) (4.4)	30.5	小片	ロクロ整形	砂粒混入、 緻密	灰色 灰色	
431-PK61 40-7	須志器A 坏	S1582 覆土上層	— (15.3) (5.0)	13.3	1/8	ロクロ整形	細砂粒混入	灰白色 灰白色	内外面に煤付着
431-PK73 40-8	須志器D 坏	S1532 覆土	— (13.4) (3.2)	13.0	小片	ロクロ整形	砂粒混入	橙色 橙色	
431-PK74 40-9	須志器B 坏	S1582 覆土上層	— (14.5) (4.6)	29.2	小片	ロクロ整形	砂粒混入	にぶい橙色 にぶい橙色	口縁の一部還元焼成
431-PK68 40-10	須志器A 坏	S1552 覆土上層	— (2.3) 2.4	61.9	1/3	ロクロ整形、底部 糸切り	砂粒混入	灰色 灰色	
431-PK72 40-11 20	須志器B 坏	S1582 カマド	— (10.9) 3.4 4.8	63.4	小片	ロクロ整形、底部 糸切り	砂粒混入	にぶい橙色 にぶい橙色	
431-PK137 40-12	須志器A 坏	S1552 伊	— (11.8) (3.9) (6.2)	61.4	1/2	ロクロ整形、底部 糸切り	砂粒混入	黒色 褐灰色	全体に炭化物付着
431-PK136 40-13	須志器B 坏	S1582 覆土上層	— (2.6) 3.9	49.4	1/3	ロクロ整形、底部 糸切り	砂粒混入	淡赤褐色 にぶい黄褐色	
431-PK138 40-14	須志器A 坏	S1552 覆土下層	— (11.9) (4.1)	16.8	小片	ロクロ整形	砂粒混入	灰白色 灰白色	
431-PK139 40-15	須志器B 坏	S1552 覆土上層	— (2.8) (5.6)	20.1	1/10	ロクロ整形、底部 糸切り	砂粒混入	にぶい橙色 にぶい橙色	
431-PK140 40-16	須志器A 坏	S1582 覆土上層	— (3.4) (4.4)	24.8	1/6	ロクロ整形、底部 糸切り	粗砂粒混入	浅黄色 灰色	
431-PK69 40-17	須志器A 高台付坏	S1552 覆土	— (2.8) 7.2	98.9	1/2	ロクロ整形、底部 糸切り、高台貼り 付け	細砂粒混入、 緻密	灰色 灰色	
431-PK75 40-18	須志器B 高台付坏	S1552 覆土	— (1.3) 6.2	51.6	底部完形	ロクロ整形、底部 糸切り、高台貼り 付け	砂粒混入	褐色 褐色	
431-PK70 40-19	須志器A 広口蓋	S1582 覆土上層	— (4.3)	55.9	小片	内面ナデ整形、頸 部貼り付け	細砂粒混入、 緻密	灰色 灰色	外面全体に自然釉
431-PK71 40-20	須志器A 蓋	S1552 覆土上層	— (17.9) (1.5)	8.9	小片	ロクロ整形	砂粒混入	暗灰色 灰褐色	
431-PL47 40-21	土師質土器 坏	S1552 覆土下層	— (3.1) (4.6)	11.1	1/6	ロクロ整形、底部 糸切り	細砂粒混入	淡黄褐色 淡黄褐色	

遺物番号 図面番号 図版番号	種別 器形	出土位置	口径 器高 底径	重さ	遺存度	成・整形技法	胎土	内面色調 外面色調	備考
431-P807 40-22 20	灰輪陶器 小瓶	S1582 覆土	— (6.6) —	34.8	小片	ロクロ整形	緻密	灰白色 オリーブ黄色	外面全体に施釉
431-P851 46-1	土師器 甕	S1583 カマド	— (21.7) (15.4) (3.6)	95.9	小片	口辺横ナデ、体部 外面上部斜め方向 ・下部縦方向ヘラ 削り、内面横方向 ヘラナデ	粗砂粒混入	黒褐色 黒褐色	外面全体に煤付着
431-P850 46-2 23	土師器 甕	S1553 覆土	— (19.6) (4.6) —	43.3	口辺 1/6	口辺横ナデ、体部 外面横方向ヘラ削り、内面横方向ヘ ラナデ	砂粒混入	にぶい褐色 明赤褐色	口辺外面に煤が僅かに 付着
431-P876 46-3 23	須恵器A 坏	S1583 カマド	— (12.2) 4.9 5.0	54.7	1/3	ロクロ整形、底部 糸切り	砂粒混入	灰白色 灰白色	
431-P877 46-4 23	須恵器A 坏	S1563 貼床下	— (13.6) 3.9 (6.0)	35.4	1/4	ロクロ整形、底部 糸切り	砂粒混入	灰白色 灰白色	
431-P878 46-5	須恵器A 坏	S1553 覆土	— (14.8) (5.3) —	22.2	1/4	ロクロ整形	砂粒混入	灰白色 灰白色	
431-P879 46-6	須恵器A 坏	S1583 カマド	— (2.0) 5.4	44.3	底部完形	ロクロ整形、底部 糸切り	粗砂粒混入	灰白色 灰白色	
431-P883 46-7	須恵器B 高台付坏	S1563 覆土	— (1.8) (6.2)	34.8	1/6	ロクロ整形、底部 糸切り、高台貼り 付け	砂粒混入	にぶい褐色 にぶい褐色	
431-P881 46-8	須恵器A 甕	S1553 覆土	— (24.0) —	670.0	小片	外面平行叩き、内 面宛具痕、体部に 接合痕あり	粗砂粒混入、 緻密	灰色 灰色	
431-P880 47-1	須恵器A 甕	S1563 覆土	— (14.2) —	580.0	小片	外面平行叩き、内 面宛具痕、	粗砂粒混入、 緻密	灰色 黒色	外面と内面下部に僅かに 自然釉
431-P882 47-2	須恵器A 甕	S1563 覆土	— (11.5) —	100.5	小片	ロクロ整形	砂粒混入	褐灰色 増褐色	
431-PL48 47-3 23	土師質土器 坏	S1583 貼床下	— (14.3) 5.0 (6.8)	77.8	1/3	ロクロ整形、底部 糸切り	粗砂粒混入	明褐色 にぶい黄褐色	口縁・底部に煤付着
431-PL49 47-4	土師質土器 高台付坏	S1563 カマド	— (2.3) 5.8	62.0	底部完形	ロクロ整形、底部 糸切り、高台貼り 付け	粗砂粒混入	浅黄色 浅黄色	
431-P853 49-7 23	土師器 台付甕	S1554 覆土	12.6 18.5 8.2	376.3	2/3	口縁横ナデ	粗砂粒混入	褐色 褐色	外面全体に煤付着
431-P852 49-8	土師器 甕	S1564 覆土	— (2.6) (10.8)	92.9	小片		粗砂粒混入	褐色 にぶい褐色	
431-PL50 49-9	土師質土器 坏	S1554 覆土	— (2.0) —	11.2	小片	ロクロ整形	粗砂粒混入	にぶい褐色 にぶい黄褐色	
446-P801 50-1 24	土師器 甕	S1576 カマド	— (14.6) (8.6) —	137.6	口辺 1/3	口辺横ナデ、体部 外面横方向ヘラ削り、内面ヘラナデ	粗砂粒混入	黒褐色 黒褐色	
446-P802 50-2 24	土師器 甕	S1576 カマド	— (13.4) (5.4) —	79.3	口辺 1/4	口辺横ナデ、体部 外面横方向ヘラ削り、内面ヘラナデ	粗砂粒混入	黒褐色 オリーブ黄色	内面口縁部に煤付着
446-P803 50-3	土師器 台付甕	S1576 カマド	— (2.8) —	64.9	小片		粗砂粒混入	にぶい褐色 にぶい褐色	
446-P804 50-4	土師器 台付甕	S1576 覆土	— (2.6) —	8.9	小片	横ナデ	粗砂粒混入	にぶい赤褐色 にぶい褐色	

遺物番号 図面番号 図版番号	種別 器形	出土位置	口径 器高 底径	重さ	遺存度	成・整形技法	胎土	内面色調 外面色調	備考
446-PK01 50-5 24	須恵器A 坏	S1576 カマド	13.2 5.5 4.8	83.9	4/5	ロクロ整形、底部 糸切り	細砂粒混入	黄灰色 灰白色	
446-PK02 50-6 24	須恵器B 坏	S1576 カマド	((13.1)) 4.5 4.5	64.6	2/3	ロクロ整形、底部 糸切り	細砂粒混入	淡黄色 淡黄色	
446-PK50 50-7 24	須恵器B 坏	S1576 カマド	12.4 3.5 4.5	108.2	完形	ロクロ整形、底部 糸切り	粗砂粒混入、 軟質	にぶい黄褐色 にぶい黄褐色	
446-PK42 50-8	須恵器A 罍	S1576 カマド	— (16.8) —	117.1	小片	外面平行叩き、内 面規具痕	粗砂粒混入	にぶい赤褐色 褐色	
446-PK40 50-9 24	須恵器A 高台付碗	S1576 カマド	((14.9)) (7.6) —	131.0	1/3	ロクロ整形、高台 貼り付け	粗砂粒混入、 軟質	黄灰色 灰色	
446-PL02 50-10 24	土師質土器 坏	S1576 覆土	11.1 4.9 4.8	117.3	4/5	ロクロ整形、底部 糸切り	細砂粒混入	橙色 褐色	
446-PL03 50-11 24	土師質土器 坏	S1576 カマド	((12.8)) 4.7 (6.1)	73.0	1/2	ロクロ整形、底部 糸切り	細砂粒混入	橙色 褐色	
446-PN01 50-12 24	灰釉陶器 碗	S1576 覆土	((14.9)) 4.2 (6.2)	122.4	1/4	ロクロ整形、底部 糸切り、高台貼り 付け	粗砂粒混入	灰白色 灰白色	刷毛塗り
446-PH05 50-13 24	土師器 甕	S1577 覆土	((19.2)) (5.7) —	112.7	口辺1/4	口辺横ナデ、体部 外面横方向ヘラ削 り、内面ヘラナデ	粗砂粒混入	灰黄褐色 灰黄褐色	外面に煤付着
446-PH06 50-14	土師器 甕	S1577 覆土	— (2.5) (4.7)	56.5	底部2/3	外面縦方向ヘラ削 り、底面ナデ、内 面ナデ	粗砂粒混入	灰黄褐色 にぶい黄褐色	外面に煤付着
446-PH07 50-15	土師器 甕	S1577 覆土	— (1.9) (1.5)	28.5	底部1/2	外面斜め方向ヘラ 削り、底部ナデ、 内面ナデ	粗砂粒混入	灰黄褐色 にぶい黄褐色	
446-PK04 50-16	須恵器B 坏	S1577 覆土	((16.7)) (4.6) —	28.5	1/6	ロクロ整形	粗砂粒混入	淡黄褐色 淡黄褐色	
446-PK03 50-17	須恵器A 坏	S1577 カマド	((12.6)) (2.0) —	8.8	小片	ロクロ整形	粗砂粒混入	灰白色 灰白色	
446-PK05 50-18	須恵器B 坏	S1577 周溝	((12.7)) 4.2 (4.9)	35.6	1/4	ロクロ整形、底部 糸切り	粗砂粒混入	にぶい赤褐色 灰黄褐色	
446-PK06 51-1	須恵器B 坏	S1577 覆土	— (1.7) (5.7)	13.5	小片	ロクロ整形、底部 糸切り	粗砂粒混入	褐色 褐色	
446-PK51 51-2	須恵器B 坏	S1577 P-8	((13.3)) (2.8) —	10.4	小片	ロクロ整形	粗砂粒混入	灰黄褐色 灰黄褐色	
446-PK08 51-3	須恵器A 钵	S1577 P-3	((13.2)) (3.2) —	25.3	小片	ロクロ整形	粗砂粒混入	淡黄色 灰黄色	
446-PK52 51-4	須恵器B 坏	S1577 覆土	— (1.8) (4.2)	15.8	小片	ロクロ整形、底部 糸切り	粗砂粒混入	明黄褐色 明黄褐色	
446-PK36 51-5 24	須恵器B 高台付坏	S1577 カマド	— (4.9) (7.3)	102.1	2/3	ロクロ整形、高台 貼り付け	粗砂粒混入	にぶい黄褐色 淡黄褐色	
446-PK07 51-6	須恵器A 高台付碗	S1577 覆土	— (3.0) 7.0	46.0	1/4	ロクロ整形、底部 糸切り、高台貼り 付け	粗砂粒混入	灰黄色 灰黄色	
446-PL04 51-7	土師質土器 坏	S1577 カマド	((11.4)) 4.4 (4.8)	40.6	1/3	ロクロ整形、底部 糸切り	粗砂粒混入	褐色 褐色	

遺物番号 図面番号 図版番号	種別 器形	出土位置	口径 器高 底径	重さ	遺存度	成・整形技法	胎土	内面色調 外面色調	備考
446-PL05 51-8 24	土師質土器 杯	SI677 カマド	((11.6)) 4.1 (5.1))	28.4	1/4	ロクロ整形、底部 糸切り	粗砂粒混入	褐色 褐色	
446-PN03 51-9 24	灰釉陶器 碗	SI677 カマド	((14.7)) 4.5 (7.0))	51.7	1/3	ロクロ整形、底部 糸切り、高台貼り 付け	細砂粒混入	灰白色 灰白色	刷毛塗り
446-PN02 51-10	灰釉陶器 杯	SI577 覆土	— (1.7) —	6.1	小片	ロクロ整形	細砂粒混入	灰白色 灰白色	刷毛塗り
460-PK01 52-1	須恵器A 杯	SI585 P-4	((11.6)) (2.9) (5.8))	17.0	小片	ロクロ整形、底部 糸切り	粗砂粒混入	黒褐色 黒褐色	
460-PK02 52-2	須恵器B 杯	SI585 覆土上層	((14.0)) (3.2) —	10.5	小片	ロクロ整形	小石・粗砂粒 混入	褐色 明赤褐色	
460-PK51 52-3	須恵器B 高台付杯	SI585 覆土下層	— (2.1) —	24.6	底部1/2	ロクロ整形、底部 糸切り、高台貼り 付け	粗砂粒混入	にぶい褐色 にぶい褐色	
460-PK52 52-4 24	須恵器A 高台付杯	SI585 覆土上層	— (3.2) 6.0	80.0	1/3	ロクロ整形、底部 糸切り、高台貼り 付け	粗砂粒混入	黒色 黒色	全体に炭化物付着
460-PK55 52-5	須恵器B 杯	SI585 覆土下層	— (1.6) 5.2	29.6	底部完形	ロクロ整形、底部 糸切り	粗砂粒混入	にぶい褐色 にぶい褐色	
460-PK56 52-6	須恵器B 高台付杯	SI585 カマド	— (1.8) 6.8	47.8	底部ほぼ 完形	ロクロ整形、底部 糸切り、高台貼り 付け	粗砂粒混入	にぶい褐色 明黄褐色	
460-PK50 52-7	須恵器A 壺	SI585 カマド内	— (11.6)	423.6	小片	内面平行叩き、内 面指ナゲ	粗砂粒・白色 針状物質混入	灰色 灰色	
460-PL01 52-8 24	土師質土器 杯	SI585 P-4	((11.8)) 3.4 (6.8))	41.9	1/2	ロクロ整形、底部 糸切り	粗砂粒混入	にぶい褐色 褐色	
460-PL03 52-9	土師質土器 杯	SI585 覆土上層	— (1.9) (6.0))	16.7	底部1/3	ロクロ整形、底部 糸切り	細砂粒混入	にぶい褐色 褐色	
460-PL70 52-10	土師質土器 碗	SI585 カマド	((16.2)) (6.6) —	40.8	口辺1/3	ロクロ整形	粗砂粒混入	明黄褐色 明黄褐色	
460-PP01 52-11	緑釉陶器 壺	SI585 覆土上層	— (2.3) —	3.1	小片	ロクロ整形	細砂粒混入	褐色 灰オリーブ色	内外面全体に施釉
460-PH01 53-1	土師器 杯	SI586 カマド	((12.4)) (2.9) —	16.3	小片		粗砂粒混入	灰黄褐色 灰黄褐色	体部外面に粘土粒の模 合痕を残す
460-PH02 53-2	土師器 杯	SI586 覆土	— (1.9) 4.0	49.0	底部完形	体部横方向ヘラ削 り	粗砂粒混入	褐色 明黄褐色	体部外面に粘土粒の模 合痕を残す
460-PH17 53-3 25	土師器 高台付杯	SI586 カマド	13.5 (5.1) —	196.5	高台欠	口辺横ナゲ、内面 ヘラ磨き	粗砂粒混入	黒色 暗灰黄色	内面黒色処理
460-PH19 53-4 25	土師器 壺	SI586 覆土	((15.3)) 17.5 (8.4))	580.3	2/3	口辺横ナゲ、体部 外面縦方向ヘラ削 り、内面横方向ヘ ラナゲ		灰黄褐色 灰黄褐色	外面下半部に部分的に 煤付着
460-PK03 53-5 25	須恵器A 高台付杯	SI586 覆土	((15.0)) 5.3 (8.0))	33.8	1/6	ロクロ整形、底部 糸切り、高台貼り 付け	小石・粗砂粒 混入、軟質	黄灰色 黄灰色	
460-PK57 53-6	須恵器A 壺	SI586 覆土	— (3.9) —	40.7	小片	ロクロ整形	粗砂粒混入	灰色 灰色	
460-PL06 53-7	土師質土器 杯	SI586 覆土	((13.6)) (4.0) —	29.1	小片	ロクロ整形	細砂粒混入	にぶい褐色 にぶい褐色	

遺物番号 図面番号 図版番号	種別 器形	出土位置	口径 器高 底径	重さ	遺存度	成・整形技法	胎土	内面色調 外面色調	備考
460-PL04 53-8	土師質土器 杯	SI586 カマド	(15.2) (3.9) —	25.2	小片	ロクロ整形	細砂粒混入	褐色 棕色	
460-PL07 53-9	土師質土器 高台付杯	SI586 カマド	— (2.0) —	59.6	小片	ロクロ整形、高台 貼り付け	細砂粒混入	褐色 褐色	
460-PL05 53-10	土師質土器 杯	SI586 覆土	— (2.0) (6.4)	27.1	底部1/3	ロクロ整形、底部 糸切り	細砂粒混入	にぶい褐色 にぶい黄褐色	
460-PK03 57-1	土師器 杯	SI587A 覆土	— (1.7) (4.5)	23.7	底部1/2	体部横方向へラ削り、 内面へタ磨き	粗砂粒混入	黒色 明黄褐色	内面黒色処理
460-PK04 57-2	須恵器B 杯	SI587A 覆土	— (3.5) (6.0)	23.8	1/5	ロクロ整形、底部 糸切り	小石・粗砂粒 混入	にぶい褐色 にぶい褐色	
460-PL08 57-3	土師質土器 杯	SI587A 覆土	— (2.2) (5.4)	27.4	底部1/3	ロクロ整形、底部 糸切り	粗砂粒混入	にぶい褐色 褐色	
460-PK05 57-4	須恵器A 杯	SI587B 覆土	(13.8) (4.4) —	19.2	小片	ロクロ整形	粗砂粒混入	灰白色 灰白色	
460-PK06 57-5	須恵器B 杯	SI587B カマド	— (1.3) (4.5)	21.4	小片	ロクロ整形、底部 糸切り	粗砂粒混入	褐色 明黄褐色	
460-PK67 57-6	須恵器B 高台付杯	SI587B 覆土	— (2.0) 6.5	57.2	底部完形	ロクロ整形、高台 貼り付け	粗砂粒混入	褐色 褐色	
460-PK04 57-8	土師器 杯	SI588A 覆土	— (3.7) —	8.2	小片	口辺横ナデ、体部 横方向へラ削り	粗砂粒混入	黒色 灰黄褐色	体部外面に粘土紐の 嵌合を残す
460-PK20 57-9	土師器 甕	SI588A 覆土	(24.0) (6.0) —	32.2	小片	口辺横ナデ、体部 内面へラナデ	粗砂粒混入	灰褐色 にぶい褐色	
460-PK08 57-10	須恵器A 杯	SI588A 覆土	— (1.6) (4.4)	18.4	底部1/2	ロクロ整形、底部 糸切り	粗砂粒混入	黄灰色 黄灰色	
460-PK48 57-11	須恵器A 杯	SI588A 伊内	— (1.2) (4.8)	9.8	小片	ロクロ整形	細砂粒混入	黄灰色 黄灰色	
460-PK47 57-12	須恵器A 杯	SI588A 覆土	(12.8) (2.6) —	5.0	小片	ロクロ整形	細砂粒混入	灰色 灰色	
460-PK68 57-13	須恵器B 杯	SI588A 覆土	(12.2) (3.2) —	16.8	口辺1/4	ロクロ整形	粗砂粒混入	にぶい黄褐色 にぶい黄褐色	内外面に煤付着
460-PK07 57-14 27	須恵器A 杯	SI588A 覆土	(11.6) 3.5 4.5	26.0	完形	ロクロ整形、底部 糸切り	粗砂粒混入	黒色 灰白色	
460-PK05 57-17 27	土師器 杯	SI588B 覆土	11.8 3.9 4.1	112.5	9/10	口辺横ナデ、体部 横方向へラ削り	細砂粒混入	にぶい赤褐色 明赤褐色	口辺内外面に煤付着
460-PK35 57-18	土師器 杯	SI588B 覆土	(16.6) (3.1) —	18.8	小片	口辺横ナデ、外面 体部横方向へラ削り	粗砂粒混入	にぶい赤褐色 にぶい赤褐色	
460-PK09 58-1 27	須恵器B 杯	SI588B 覆土	11.8 4.2 5.0	121.4	完形	ロクロ整形、底部 糸切り	小石・粗砂粒 混入	褐色 褐色	
460-PK12 58-2	須恵器A 杯	SI588B 覆土	(12.6) (2.2) —	10.3	小片	ロクロ整形	粗砂粒混入	灰黄色 にぶい黄褐色	
460-PK11 58-3	須恵器A 杯	SI588B 覆土	(12.7) (3.7) —	41.0	口辺1/3	ロクロ整形	粗砂粒混入	褐色 にぶい黄褐色	

遺物番号 図面番号 図版番号	種別 器形	出土位置	口径 器高 底径	重さ	遺存度	成・整形技法	胎土	内面色調 外面色調	備考
460-PK10 58-4	須恵器B 坏	S1588B 覆土	(1.8) (5.0)	20.2	底部2/3	ロクロ整形、底部 糸切り	粗砂粒混入	明赤褐色 にぶい褐色	
460-PK59 58-5	須恵器A 甕	S1588B 覆土	— (9.4)	250.0	小片	外面平行叩き、内 面磨り消し	粗砂粒混入	灰色 暗灰色	
460-PK69 58-6	須恵器B 坏	S1588B 覆土	((13.6)) (3.3)	24.4	底部1/3	ロクロ整形	粗砂粒混入	にぶい褐色 にぶい褐色	
480-PL12 58-7	土師質土器 坏	S1588B 覆土	— (2.6) 5.1	42.0	底部ほぼ 完形	ロクロ整形、底部 糸切り	粗砂粒混入	にぶい褐色 黄灰色	
460-PL13 58-8	土師質土器 坏	S1588B 覆土	— (2.0) 5.6	44.0	底部完形	ロクロ整形、底部 糸切り	細砂粒混入	褐色 褐色	
480-PL01 58-9	灰輪陶器 甕	S1588B 覆土	— (1.6) 3.3	30.2	底部完形	ロクロ整形、底部 糸切り、高台貼り 付け	粗砂粒混入、 濃密	灰白色 灰白色	
460-PH21 60-1 28	土師器 甕	S1589 カマド	((18.0)) (10.0)	141.1	口辺1/4	口辺横ナデ、体部 外面横方向へラ削 り、内面へラナデ	粗砂粒混入	黄灰色 黄灰色	全体に煤付着
460-PK13 60-2	須恵器A 坏	S1589 床直	((12.8)) (2.9)	8.5	小片	ロクロ整形	細砂粒混入	浅黄色 暗灰色	
480-PL14 60-3 28	土師質土器 坏	S1589 カマド	((14.0)) 5.6 6.8	163.1	2/3	ロクロ整形、底部 糸切り	細砂粒混入	褐色 褐色	
460-PL15 60-4 28	土師質土器 坏	S1589 床直	((13.4)) 4.4 (6.9)	41.7	1/4	ロクロ整形、底部 糸切り	細砂粒混入	にぶい黄褐色 にぶい黄褐色	内面口縁直下に煤付着
460-PL16 60-5 28	土師質土器 坏	S1589 床直	((12.9)) 3.8 (6.7)	31.6	1/4	ロクロ整形、底部 糸切り	細砂粒混入	にぶい褐色 褐色	
480-PL17 60-6	土師質土器 坏	S1589 カマド	((11.4)) (1.7)	5.4	小片	ロクロ整形	細砂粒混入	にぶい黄褐色 にぶい黄褐色	
460-PL19 60-9	土師質土器 坏	S1590 覆土	((13.9)) (2.6)	18.8	1/4	ロクロ整形	粗砂粒混入	黄褐色 黄褐色	
480-PL18 60-10	土師質土器 坏	S1590 床直	((15.4)) (2.3)	22.3	1/4	ロクロ整形	粗砂粒混入	灰黄褐色 にぶい黄褐色	
460-PK63 80-11 28	須恵器A 高台付坏	S1591 厨横内	((11.9)) 4.8 5.9	117.4	4/5	ロクロ整形、底部 糸切り、高台貼り 付け	粗砂粒混入	灰黄褐色 灰黄色	
460-PK70 80-12 28	須恵器B 高台付坏	S1591 床直	((14.6)) 6.6 6.6	159.0	3/5	ロクロ整形、底部 糸切り、高台貼り 付け	粗砂粒混入	にぶい褐色 にぶい黄褐色	
460-PL04 80-13 28-92	灰輪陶器 甕	S1591 覆土	13.4 3.0 6.4	67.9	3/4	ロクロ整形、外面 体部回転へラ削 り、高台貼り付け	細砂粒混入、 密着	灰黄色 灰黄色	刷毛塗り、底部高台内 に墨書、文字不明
460-PH06 61-1 29	土師器 坏	S1592 覆土下層	10.8 4.3 (4.4)	67.1	1/2	口辺横ナデ、体部 横方向へラ削り、 内面へラ磨き	粗砂粒混入	黒色 にぶい褐色	体部外面に粘土態の接 合痕を残す、内面黒色 処理
460-PH22 61-2 29	土師器 甕	S1592 カマド 火床土	((12.6)) (6.8)	76.1	口辺1/3	口辺横ナデ、体部 外面横方向へラ削 り、内面へラナデ	粗砂粒混入	褐色 にぶい黄褐色	
460-PK54 61-3	須恵器A 高台付坏	S1592 覆土下層	— (3.9) (6.2)	22.5	小片	ロクロ整形、底部 糸切り、高台貼り 付け	粗砂粒混入	灰黄色 灰黄色	
460-PL20 61-4	土師質土器 坏	S1592 カマド	((15.8)) (2.8)	10.9	1/5	ロクロ整形	細砂粒混入	にぶい黄褐色 にぶい黄褐色	

遺物番号 図面番号 図版番号	種別 器形	出土位置	口径 器高 底径	高さ	遺存度	成・整形技法	胎土	内面色調 外面色調	備考
460-PI21 61-5	土師質土器 杯	S1592 床直	(18.1) (4.6) —	24.8	小片	ロクロ整形	小石・粗砂粒 混入	橙色 橙色	
460-PI22 61-6	土師質土器 杯	S1592 覆土	(1.4) (6.6) —	11.0	小片	ロクロ整形、底部 糸切り	細砂粒混入	明赤灰色 淡赤褐色	
460-PI07 61-7	土師器 杯	S1593 覆土下層	(18.6) (2.5) —	12.1	小片	口辺横ナデ、体部 縦方向ヘラ削り	粗砂粒混入	淡黄褐色 淡黄褐色	
460-PI08 61-8	土師器 杯	S1593 カマド	(11.6) 3.7 (4.4)	4.8	1/5	口辺横ナデ、体部 横方向ヘラ削り	粗砂粒混入	にぶい黄褐色 灰黄褐色	体部外面に粘土紐の縦 合痕を残す
460-PI14 61-9	須恵器A 杯	S1593 カマド	(13.2) (4.8) —	39.0	口辺1/3	ロクロ整形	粗砂粒混入	灰白色 にぶい黄褐色	
460-PI71 61-10	須恵器B 杯	S1593 カマド	(11.4) 3.1 (5.1)	38.0	小片	ロクロ整形、底部 糸切り	細砂粒混入	橙色 橙色	
460-PI23 61-11	土師質土器 杯	S1593 覆土	(3.8) 5.7 —	59.9	底部ほぼ 完形	ロクロ整形、底部 糸切り	細砂粒混入	にぶい黄褐色 にぶい橙色	
460-PI24 61-12 29	土師質土器 杯	S1593 カマド	11.5 4.1 5.8	102.1	2/3	ロクロ整形、底部 糸切り	細砂粒混入	にぶい黄褐色 淡黄褐色	
460-PI71 61-13 29	土師質土器 高台付埴	S1593 覆土	(13.0) 6.2 7.3	118.9	2/5	ロクロ整形、底部 糸切り、高台貼り 付け	粗砂粒混入	黄色 橙色	
460-PI23 63-1 29	土師器 甕	S1594 カマド	(12.8) (8.2) —	94.8	口辺1/2	口辺横ナデ、体部 外面横方向ヘラ削り、 内面ヘラナデ	粗砂粒混入	にぶい赤褐色 にぶい黄褐色	全体に煤付着
460-PI24 63-2 29	土師器 甕	S1594 カマド	(11.8) (4.7) —	82.0	小片	口辺横ナデ、体部 外面横方向ヘラ削り、 内面ヘラナデ	粗砂粒混入	橙色 橙色	外面に煤付着
460-PI25 63-3	土師器 台付甕	S1594 覆土	(1.2) (10.9) —	9.0	小片	横ナデ	粗砂粒混入	にぶい橙色 灰褐色	
460-PI26 63-4 92	土師器 甕	S1594 覆土中層	(2.6) — —	6.5	小片	ヘラ削り	粗砂粒混入	橙色 橙色	墨書、文字不明
460-PI27 63-5	土師器 甕	S1594 覆土上層	(3.6) 6.4 —	40.0	底部1/2		粗砂粒混入	黒色 褐灰色	
460-PI33 63-6	土師器 台付甕	S1594 覆土	(2.8) — —	64.4	小片		粗砂粒混入	にぶい黄褐色 灰黄褐色	
460-PI15 63-7 29	須恵器A 杯	S1594 P-1	13.2 4.2 5.7	167.4	完形	ロクロ整形、底部 糸切り	小石・粗砂粒 混入	灰色 灰色	
460-PI16 63-8 29	須恵器A 杯	S1594 覆土下層	(12.6) 3.9 5.0	81.4	3/4	ロクロ整形、底部 糸切り	小石・粗砂粒 混入	灰白色 灰白色	
460-PI17 63-9 29	須恵器A 杯	S1594 P-1	(13.7) 4.4 5.7	71.5	2/3	ロクロ整形、底部 糸切り	細砂粒混入	灰白色 灰白色	
460-PI18 63-10	須恵器A 杯	S1594 覆土下層	(13.6) (3.1) —	34.5	口辺1/3	ロクロ整形	粗砂粒混入	灰白色 灰白色	
460-PI19 63-11 30	須恵器A 杯	S1594 覆土下層	(13.0) 4.8 (7.0)	22.5	1/5	ロクロ整形、底部 糸切り	小石・粗砂粒 混入	灰白色 灰白色	
460-PI20 63-12	須恵器A 杯	S1594 覆土中層	(14.8) (4.3) —	22.6	小片	ロクロ整形	細砂粒混入	黄灰色 灰色	

遺物番号 図面番号 図版番号	種別 器形	出土位置	口径 器高 底径	重さ	遺存度	成・整形技法	胎土	内面色調 外面色調	備考
460-PR21 63-13 30-92	須恵器A 坏	SI594 覆土	— (2.2) 5.7	42.2	1/5	ロクロ整形、底部 糸切り	細砂粒混入	灰色 灰色	外面体部に墨書文字不 明
460-PR22 63-14 30	須恵器B 坏	SI594 カマド	((14.8)) 5.7 (6.2)	72.1	2/5	ロクロ整形、底部 糸切り	細砂粒混入	にぶい橙色 にぶい黄橙色	
460-PR72 63-15 30	須恵器B 坏	SI594 覆土	((13.2)) 4.6 (5.6)	66.4	1/3	ロクロ整形、底部 糸切り	細砂粒混入	橙色 橙色	口縁から底部にかけて 油煙付着
460-PR73 63-16	須恵器B 坏	SI594 覆土	((13.0)) 4.4 (5.6)	26.2	小片	ロクロ整形、底部 糸切り	粗砂粒混入	にぶい橙色 橙色	
460-PL26 63-17 30	土師質土器 坏	SI594 覆土	((11.8)) 4.8 6.7	148.9	4/5	ロクロ整形、底部 糸切り	細砂粒混入	にぶい橙色 橙色	内面底部、外面体部中 央部に油煙付着
460-PL28 63-18	土師質土器 坏	SI594 覆土	((12.4)) (3.2) —	69.9	口辺1/2	ロクロ整形	細砂粒混入	橙色 褐色	
460-PL29 63-19	土師質土器 坏	SI594 覆土	((11.6)) (3.4) —	27.4	口辺1/3	ロクロ整形	細砂粒混入	褐灰色 灰褐色	内外面の口縁部と体部 の中央部に油煙付着
460-PL30 63-20	土師質土器 坏	SI594 覆土	((11.0)) (3.1) —	29.9	口辺1/2	ロクロ整形	細砂粒混入	灰黄褐色 灰黄褐色	内面と外面の一部に油 煙付着
460-PL32 63-21	土師質土器 坏	SI594 覆土	— (2.3) (8.2)	24.6	底部1/3	ロクロ整形、底部 糸切り	細砂粒混入	黒色 黒色	全体に油煙付着
460-PN05 63-22 30	灰輪陶器	SI594 P-1	((16.3)) 5.2 (8.2)	97.6	1/3	ロクロ整形、高台 貼り付け	細砂粒混入、 緻密	灰白色 灰白色	刷毛塗り
460-PR28 66-1 31	土師器 甕	SI595 覆土	20.2 (22.1) —	1074.6	2/3	口辺横ナデ、体部 内面横方向ヘラナ デ	粗砂粒混入	にぶい橙色 にぶい橙色	
460-PR29 66-2 31	土師器 甕	SI595 カマド	((24.6)) (24.7) —	769.4	小片	口辺横ナデ、体部 外面縦方向ヘラ削 り、内面横方向ヘ ラナデ	粗砂粒混入	黒色 オリーブ黒色	内面全体、外面上部に 煤付着
460-PR32 66-3 31	土師器 小形甕	SI595 カマド	((12.8)) (9.7) —	170.0	1/3	口辺横ナデ、体部 外面縦方向ヘラ削 り、内面横方向ヘ ラ磨き	粗砂粒混入	黒色 灰黄褐色	内面黒色処理、外面上 部に煤付着
460-PR74 66-4	須恵器B 坏	SI595 床直	((10.7)) (3.7) —	25.4	1/4	ロクロ整形	粗砂粒混入	にぶい黄橙色 褐色	
460-PR76 66-5	須恵器B 坏	SI595 覆土下層	— (2.0) 4.5	24.9	底部ほぼ 完形	ロクロ整形、底部 糸切り	粗砂粒混入	褐色 褐色	
460-PR76 66-6	須恵器B 高台付坏	SI595 カマド	— (3.3) (6.7)	47.6	底部2/3	ロクロ整形、底部 糸切り、高台貼り 付け	粗砂粒混入	赤褐色 明褐色	
460-PL35 66-7	土師質土器 坏	SI595 床直	((12.8)) (2.4) —	14.0	小片	ロクロ整形	粗砂粒混入	にぶい黄色 にぶい黄色	
431-PR84 67-3 32	須恵器A 坏	S0326 覆土	11.8 4.2 4.9	130.6	完形	ロクロ整形、底部 糸切り	砂粒混入	灰白色 灰白色	
431-PR86 67-4	須恵器A 甕	S0326 覆土	((17.6)) (4.8) —	17.3	小片	ロクロ整形	細砂粒混入、 緻密	灰色 灰色	
431-PR86 67-6	須恵器A 坏	S0326 覆土	— (1.3) 5.2	30.4	小片	ロクロ整形、底部 糸切り	砂粒混入	灰黄色 灰黄色	

遺物番号 図面番号 図版番号	種別 器形	出土位置	口径 器高 底径	重さ	遺存度	成・整形技法	胎土	内面色調 外面色調	備考
431-PK87 67-6	須恵器A 坏	SD326 覆土	— (1.4) (4.8)	18.5	小片	ロクロ整形、底部 糸切り	細砂粒混入、 緻密	灰黄色 灰白色	
431-PK88 67-7 32	須恵器B 坏	SD328 覆土	13.2 4.0 5.4	125.1	壳形	ロクロ整形、底部 糸切り	砂粒混入	褐色 褐色	底部内面に種子圧痕、 このため焼成前にヒビ 割れている
431-PK89 67-8 32	須恵器B 坏	SD326 覆土	13.8 5.1 8.0	101.8	3/4	ロクロ整形、底部 糸切り	砂粒混入	にぶい褐色 にぶい褐色	
431-PL51 67-9 32	土師質土器 高台付坏	SD329 覆土	14.8 5.4 5.9	154.1	9/10	ロクロ整形、底部 糸切り、高台貼り 付け	砂粒混入	灰白色 灰白色	全体に炭化物付着
431-PK90 67-12	須恵器A 坏	SD327 覆土	— (1.7) —	2.8	小片	ロクロ整形	細砂粒混入、 緻密	灰白色 灰白色	
431-PK141 68-1	須恵器B 坏	SK1667 覆土	— (2.0) —	1.6	小片	ロクロ整形	粗砂粒混入	にぶい褐色 にぶい褐色	
431-PL53 68-2	土師質土器 坏	SK1669 覆土	((11.8)) (2.6) —	12.9	小片	ロクロ整形	細砂粒混入	褐色 褐色	
431-PL55 68-3	土師質土器 坏	SK1669 覆土	— (2.2) (5.2)	6.8	小片	ロクロ整形、底部 糸切り	細砂粒混入	にぶい褐色 にぶい褐色	
431-PK92 68-7	須恵器B 坏	SK1670 覆土	— (1.2) —	1.0	小片	ロクロ整形	砂粒混入	にぶい黄褐色 褐灰色	
431-PL56 68-8	土師質土器 坏	SK1670 覆土	((12.4)) (1.3) —	1.4	小片	ロクロ整形	細砂粒混入	淡黄褐色 灰白色	
431-PH54 68-10 32	土師器 高台付坏	SK1671 覆土	15.1 4.8 6.2	151.3	3/4	口縁横ナデ、高台 貼り付け、体部外 面に指頭圧痕を殘 す	粗砂粒混入	褐色 褐色	
431-PK94 68-11	須恵器A 壶	SK1671 覆土	— (15.8) (11.8)	582.0	1/4	ロクロ整形、高台 貼り付け、体部外 面へラ削り	砂粒混入	暗灰黄色 暗灰黄色	
431-PK93 68-12	須恵器A 坏	SK1671 覆土	((12.3)) (1.0) —	2.2	小片	ロクロ整形	細砂粒混入、 緻密	灰黄褐色 灰黄褐色	
431-PL57 68-13	土師質土器 坏	SK1671 覆土	((10.8)) (4.0) —	7.7	小片	ロクロ整形	細砂粒混入	にぶい褐色 にぶい褐色	
431-PK96 68-15	須恵器A 坏	SK1672 覆土	— (1.4) —	2.0	小片	ロクロ整形	砂粒混入	灰白色 灰白色	
431-PH57 68-16	土師器 坏	SK1673 覆土	— (2.0) —	2.0	小片	口縁横ナデ	細砂粒混入	褐色 褐色	
431-PH56 68-17	土師器 坏	SK1673 覆土	— (1.4) —	1.4	小片	口縁横ナデ	粗砂粒混入	黒褐色 灰褐色	
431-PK98 68-18	須恵器A 坏	SK1673 覆土	— (1.4) (6.5)	8.1	小片	ロクロ整形、底部 糸切り	砂粒混入	淡黄色 淡黄色	
431-PL58 68-19	土師質土器 小皿	SK1673 覆土	1.3 (3.9)	7.6	小片	ロクロ整形、底部 糸切り	細砂粒混入	にぶい褐色 にぶい褐色	
431-PP01 68-20 32	緑釉陶器 小形壶	SK1673 覆土	— (7.7) 5.4	123.2	ほぼ壳形	ロクロ整形、底部 糸切り、浅い高台 貼り付け、体部外 面回転へラ削り	緻密	灰白色 灰白色	一部に二次焼成を受け ている

産物番号 図面番号 図版番号	種別 器形	出土位置	口径 器高 底径	長さ	遺存度	成・整形技法	胎土	内面色調 外面色調	備考
431-PK100 69-1	須恵器B 坏	SK1674 覆土	— (12.2) (1.8)	3.3	小片	ロクロ整形	砂粒混入	褐灰色 にぶい赤褐色	
431-PK99 69-2	須恵器A 坏	SK1674 覆土	— (1.3) (6.0)	11.2	小片	ロクロ整形、底部 糸切り	砂粒混入	灰黄褐色 灰黄褐色	
431-PI59 69-3	土師質土器 坏	SK1674 覆土	— (1.9)	3.7	小片	ロクロ整形	砂粒混入	にぶい橙色 にぶい橙色	
431-PI59 69-4	土師器 甕	SK1675 覆土	— (1.2) (3.6)	10.3	小片	体部外面斜め方向 ヘラ削り、内面横 方向ヘラナゲ	粗砂粒混入	褐灰色 褐灰色	
431-PK101 69-5	須恵器A 坏	SK1675 覆土	— (12.3) (2.1)	4.7	小片	ロクロ整形	細砂粒混入、 瀬密	灰色 灰色	
431-PK102 69-6	須恵器B 坏	SK1675 覆土	— (13.6) (1.1)	2.1	小片	ロクロ整形	砂粒混入	褐色 褐色	
431-PK102 69-7	須恵器A 坏	SK1675 覆土	— (1.3) (5.0)	4.6	小片	ロクロ整形、底部 糸切り	砂粒混入	灰色 灰色	
431-PI60 69-8	土師質土器 高台付坏	SK1675 覆土	— (2.9)	17.4	小片	ロクロ整形	砂粒混入	橙色 橙色	
431-PI60 69-9	灰輪陶器 壺	SK1675 覆土	— (3.0)	24.2	小片	ロクロ整形	瀬密	灰白色 オリブ黄色	外面全体に施釉
431-PI61 69-12	土師器 甕	SK1676 覆土	— (4.5)	8.1	小片	口辺横ナゲ、体部 外面縦方向ヘラ削り	細砂粒混入	灰黄褐色 褐色	
431-PI60 69-13	土師器 甕	SK1676 覆土	— (4.0) (11.6)	29.5	小片	体部外面斜め方向 ヘラ削り、内面横 方向ヘラナゲ	粗砂粒混入	にぶい橙色 にぶい橙色	
431-PK104 69-14	須恵器A 坏	SK1676 覆土	— (16.2) (2.9)	4.5	小片	ロクロ整形	細砂粒混入	灰白色 灰白色	
431-PK105 69-15	須恵器A 坏	SK1676 覆土	— (14.6) (1.9)	6.3	小片	ロクロ整形	細砂粒混入	灰オリブ色 灰オリブ色	
431-PI61 70-1 52	土師質土器 坏	SK1728 覆土	— 11.1 3.9 5.8	103.0	3/4	ロクロ整形、底部 糸切り	砂粒混入	褐色 褐色	
431-PK106 70-2	須恵器A 坏	SK1731 覆土	— (12.7) (2.1)	5.2	小片	ロクロ整形	細砂粒混入、 瀬密	灰色 灰色	
431-PI62 70-3 52	土師質土器 坏	SK1739 底面	— 12.2 4.4 4.9	128.6	壳形	ロクロ整形、底部 糸切り	細砂粒混入	褐色 褐色	内面に螺旋状のロクロ 痕が明確に残る
431-PI62 70-4	土師器 甕	SK1743 覆土	— (21.4) (2.7)	13.4	小片	口縁横ナゲ	細砂粒混入	黒褐色 灰褐色	
431-PI63 70-5	土師器 甕	SK1743 覆土	— (2.7) (9.4)	60.7	小片	体部外面ヘラナゲ	粗砂粒混入	にぶい黄褐色 にぶい黄褐色	
431-PK108 70-6	須恵器A 坏	SK1743 覆土	— (11.0) (1.7)	3.3	小片	ロクロ整形	細砂粒混入	灰黄色 灰黄色	
431-PK110 70-7	須恵器A 坏	SK1743 覆土	— (1.4)	1.1	小片	ロクロ整形	砂粒混入	淡黄色 淡黄色	
431-PK111 70-8	須恵器A 蓋	SK1743 覆土	— (5.6)	103.6	小片	ロクロ整形	細砂粒混入	灰色 灰色	

遺物番号 図面番号 図版番号	種別 器形	出土位置	口径 器高 底径	重さ	遺存度	成・整形技法	胎土	内面色調 外面色調	備 考
431-PL63 70-9	土師質土師 杯	SK1743 覆土	((15.5)) (4.1) —	21.3	小片	ロクロ整形	粒砂粒混入	浅黄褐色 灰白色	内面の一部に煤付着
431-PL64 70-14	土師器 杯	SK1747 覆土	— (1.1) —	1.4	小片	口縁横ナゲ	細砂粒混入	にぶい橙色 にぶい橙色	
446-PL09 70-17	須恵器A 杯	SK1917 覆土	— (3.2) (5.8)	15.6	小片	ロクロ整形、底部 糸切り	粗砂粒混入	灰白色 灰白色	
446-PL08 70-18 33	土師質土師 杯	SK1917 覆土	((12.0)) 4.5 (4.8)	69.2	1/2	ロクロ整形、底部 糸切り	粗砂粒混入	にぶい橙色 にぶい橙色	外面に煤付着
446-PL09 70-19	土師質土師 杯	SK1917 覆土	((12.2)) (3.5) —	25.0	口辺1/4	ロクロ整形	粗砂粒混入	橙色 橙色	
446-PL10 71-1 33	須恵器A 杯	SK1918 覆土	13.0 3.9 5.3	139.5	完形	ロクロ整形、底部 糸切り	粗砂粒混入	黄灰色 にぶい黄褐色	
446-PL11 71-2 33	須恵器A 杯	SK1918 覆土	12.8 3.8 5.1	118.1	ほぼ完形	ロクロ整形、底部 糸切り	粗砂粒混入	青灰色 青灰色	外面下部から底部の一 部に煤付着
446-PL12 71-3 33	須恵器A 杯	SK1918 覆土	12.8 4.2 5.0	145.2	4/5	ロクロ整形、底部 糸切り	粗砂粒混入	灰色 灰色	口辺部内外面の一部に 煤付着
446-PL13 71-4 33	須恵器A 杯	SK1918 覆土	14.1 4.7 6.2	191.5	完形	ロクロ整形、底部 糸切り	粗砂粒混入	黄灰色 黄灰色	内面口辺部・外面口縁 ～底部の一部に煤付着
446-PL14 71-5 33	須恵器A 杯	SK1918 覆土	11.6 4.7 5.6	198.4	完形	ロクロ整形、底部 糸切り	粗砂粒混入	灰色 灰色	内面の一部に煤付着
446-PL15 71-6 33	須恵器A 杯	SK1918 覆土	14.0 4.9 6.3	192.8	完形	ロクロ整形、底部 糸切り	粗砂粒混入	灰白色 灰白色	内外面の底部の一部に 煤付着
446-PL16 71-7 33	須恵器A 杯	SK1918 覆土	14.5 4.3 5.9	175.9	完形	ロクロ整形、底部 糸切り	粗砂粒混入	灰白色 灰白色	内面の底部に煤付着
446-PL17 71-8 33	須恵器A 杯	SK1918 覆土	14.7 5.3 5.8	213.1	完形	ロクロ整形、底部 糸切り	粗砂粒混入	灰白色 灰黄色	
446-PL18 71-9	須恵器A 杯	SK1918 P-2	((14.3)) (4.2) —	24.7	口辺1/5	ロクロ整形	粗砂粒混入	灰白色 灰白色	
446-PL19 71-10 33	須恵器A 杯	SK1918 覆土	13.6 4.0 5.5	135.8	ほぼ完形	ロクロ整形、底部 糸切り	粗砂粒混入	淡赤褐色 黄灰色	部分的に酸化焙焼成、 内外面の口辺の一部に 煤付着
446-PL20 71-11 33	須恵器A 杯	SK1918 覆土	13.8 4.9 5.6	168.9	ほぼ完形	ロクロ整形、底部 糸切り	粗砂粒混入	明赤灰色 明赤灰色	部分的に酸化焙焼成、 外面の口辺に斑点状に 煤付着、底部外面にへ ろ書き「×」
446-PL21 71-12 33	須恵器A 杯	SK1918 覆土	14.3 5.4 6.0	175.7	ほぼ完形	ロクロ整形、底部 糸切り	粗砂粒混入	浅黄褐色 浅黄褐色	部分的に酸化焙焼成、
446-PL22 71-13 33	須恵器A 杯	SK1918 覆土	13.8 5.3 5.7	180.1	4/5	ロクロ整形、底部 糸切り	粗砂粒混入	灰黄色 灰黄色	口辺以外は酸化焙焼成
446-PL39 71-14 33	須恵器A 碗	SK1918 覆土	15.1 7.0 6.9	307.8	完形	ロクロ整形、底部 糸切り、高台貼り 付け	粗砂粒混入、 軟膏	灰色 灰色	
446-PL45 71-15	須恵器A 長頸壺	SK1918 覆土	— (5.0) —	73.9	小片	ロクロ整形	細砂粒混入、 軟膏	灰色 にぶい黄色	外面全体に自然釉
446-PL43 72-1 34	須恵器A 壺	SK1918 覆土	— (31.0) (14.0)	1656.5	1/3	ロクロ整形、外面 平打叩き、内面陶 具痕	細砂粒混入、 軟膏	灰白色 黒色	外面上部と内面底部に 自然釉

遺物番号 図面番号 図版番号	種別 器形	出土位置	口径 器高 底径	重さ	遺存度	成・整形技法	胎土	内面色調 外面色調	備考
446-PK47 72-2 34	須恵器A 広口壺	SK1918 覆土	15.2 23.3 10.7	2099.2	完形	体部外面回転へつ 削り後口クロ整形	粗砂粒混入	灰色 灰色	上半部に一部自然釉
446-PL11 72-3	土師質土器 杯	SK1918 覆土	((13.3)) (3.1) —	16.5	小片	口クロ整形	細砂粒混入	にぶい褐色 にぶい褐色	
446-PL12 72-4 33	土師質土器 高台付碗	SK1918 覆土	16.8 7.3 8.0	296.9	4/5	口クロ整形、底部 糸切り、高台貼り 付付	粗砂粒混入	灰色 灰色	全体に煤が薄く付着
446-PK44 73-1	須恵器A 甕	SK1920 覆土	— (5.1) —	59.2	小片	口クロ整形	粗砂粒混入	褐色 黒色	
446-PL10 73-2	土師質土器 杯	SK1922 覆土	— (3.1) —	6.6	小片	口クロ整形	細砂粒混入	淡黄褐色 淡黄褐色	
460-PK27 73-4	須恵器A 杯	SK2059 覆土	((12.1)) (3.2) —	6.7	小片	口クロ整形	細砂粒混入	灰黄色 にぶい褐色	一部酸化塩焼成
460-PK60 73-5 34	須恵器A 大形甕	SK2060 底面	((35.2)) 72.0 —	9000.7	1/2	口辺部口クロ整 形、外面平行叩き、 内面須具痕が残 る、体部・底部に 接合痕が残る	粗砂粒混入	灰色 灰色	上半部及び内面底部に 自然釉
460-PK77 73-7	須恵器B 杯	SK2061 覆土	— (2.2) 4.7	37.7	1/3	口クロ整形、底部 糸切り	細砂粒混入	褐色 褐色	
460-PK28 73-1 35	須恵器A 杯	SK2063 覆土	((12.2)) 4.0 4.6	35.6	1/3	口クロ整形、底部 糸切り	細砂粒混入	灰白色 灰白色	
460-PK29 73-2 92	須恵器A 杯	SK2063 覆土	— (1.8) —	1.6	小片	口クロ整形	細砂粒混入	灰白色 灰白色	外面体部に墨書、文字 不明
460-PL41 73-3	土師質土器 杯	SK2063 覆土	((12.0)) (3.4) —	16.9	小片	口クロ整形	粗砂粒混入	にぶい黄褐色 黒色	
460-PK78 73-4	須恵器B 杯	SK2063 覆土	— (2.3) 4.8	36.5	底部完形	口クロ整形、底部 糸切り	粗砂粒混入	にぶい褐色 赤褐色	
460-PL43 73-5	土師質土器 杯	SK2063 覆土	— (2.8) (4.8)	29.9	底部1/2	口クロ整形、底部 糸切り	粗砂粒混入	にぶい黄褐色 にぶい黄褐色	
460-PL10 73-8	土師器 杯	SK2068 覆土	((11.8)) (3.6) —	13.1	小片	口辺横ナゲ、体部 横方向へつ削り	粗砂粒混入	にぶい褐色 にぶい褐色	
460-PK30 73-9	須恵器B 杯	SK2068 覆土	((13.6)) (3.0) —	14.5	小片	口クロ整形	粗砂粒混入	明赤褐色 明赤褐色	
460-PK31 73-10 35	須恵器B 杯	SK2068 覆土	((11.6)) 4.2 5.0	53.6	1/2	口クロ整形、底部 糸切り	粗砂粒混入	灰黄褐色 にぶい褐色	
460-PL44 73-11 35	土師質土器 杯	SK2068 覆土	11.8 3.9 4.6	107.9	4/5	口クロ整形、底部 糸切り	粗砂粒混入	にぶい黄褐色 にぶい褐色	
460-PL45 73-12 35	土師質土器 杯	SK2068 覆土	((12.4)) 3.5 (5.0)	34.2	1/3	口クロ整形、底部 糸切り	粗砂粒混入	黒色 にぶい褐色	
460-PL46 73-13	土師質土器 杯	SK2068 覆土	— (3.4) 5.5	65.8	1/2	口クロ整形、底部 糸切り	粗砂粒混入	褐色 褐色	内面に螺旋状の口クロ 痕を残す
460-PL51 73-14 35	土師質土器 杯	SK2068 覆土	11.3 4.4 5.0	108.6	4/5	口クロ整形、底部 糸切り	粗砂粒混入	にぶい黄褐色 にぶい黄褐色	

遺物番号 図面番号 図版番号	種別 器形	出土位置	口径 器高 底径	重さ	遺存度	成・整形技法	胎土	内面色調 外面色調	備考
460-PL67 75-15 35	土師質土器 高台付杯	SK2068 覆土	(115.7) 5.4 8.8	142.0	1/2	ロクロ整形、底部 糸切り、高台貼り 付け	粗砂粒混入	にぶい赤褐色 灰褐色	
460-PL47 76-1	土師質土器 杯	SK2099 覆土	— (1.9) (1.9)	20.7	1/5	ロクロ整形、底部 糸切り	細砂粒混入	褐色 褐色	
460-PH12 76-4	土師器 杯	SK2070 ・2072 覆土	(113.7) (3.7) —	13.8	小片	口辺横ナゲ	細砂粒混入	黄灰色 黄灰色	
460-PL48 76-6	土師質土器 杯	SK2071 覆土	(112.6) (2.6) —	6.6	小片	ロクロ整形	粗砂粒混入	灰黄色 灰黄色	
460-PH13 76-7	土師器 杯	SK2072 覆土	— (4.4) —	36.3	小片	内面ヘラ磨き	細砂粒混入	灰黄褐色 にぶい黄褐色	体部外面に粘土粒の接 合痕を残す
460-PK35 76-8	須恵器B 杯	SK2072 覆土	(112.7) (3.0) —	7.3	小片	ロクロ整形	粗砂粒混入	明赤褐色 明赤褐色	
460-PL68 76-10	土師質土器 杯	SK2073 覆土	— (1.8) (3.2)	23.2	底部1/2	ロクロ整形、底部 糸切り	粗砂粒混入	褐色 褐色	
460-PL49 76-11	土師質土器 杯	SK2076 覆土	(114.0) (3.4) —	9.0	小片	ロクロ整形	粗砂粒混入	にぶい黄褐色 褐色	
460-PH30 76-12 36	土師器 壺	SK2078 覆土	(22.2) (11.2) —	275.4	口辺1/3	口辺横ナゲ、体部 外面縦方向ヘラ削 り、内面横方向ヘ ラナゲ	粗砂粒混入	浅黄褐色 浅黄褐色	
460-PK58 76-13	須恵器A 壺	SK2078 覆土	— (8.5) —	81.7	1/5	ロクロ整形	細砂粒混入	灰色 灰色	外面上部に自然輪
460-PL50 76-14	土師質土器 杯	SK2083 覆土	— (2.9) (5.4)	27.0	底部1/2	ロクロ整形、底部 糸切り	粗砂粒混入	褐色 褐色	
460-PK33 77-1	須恵器B 杯	SK2085 覆土	(113.8) (4.8) —	15.0	小片	ロクロ整形	粗砂粒混入	にぶい黄褐色 浅黄褐色	
460-PK61 77-2	須恵器A 壺	SK2086 覆土	— (7.1) —	153.0	小片	外面平行引き、内 面磨り消し	粗砂粒混入	灰色 灰色	
460-PK34 77-3 36	須恵器A 杯	SK2087 覆土	(111.8) 4.0 4.5	69.7	2/3	ロクロ整形、底部 糸切り	小石・粗砂粒 混入	灰黄色 にぶい黄褐色	一部酸化輪焼成
460-PK56 77-4	須恵器A 高台付杯	SK2087 覆土	— (3.0) —	76.3	底部ほぼ 完形	ロクロ整形、高台 貼り付け	粗砂粒混入	淡褐色 にぶい褐色	
460-PN02 77-5	灰釉陶器 壺	SK2087 覆土	(112.6) (4.3) (6.6)	31.8	1/5	ロクロ整形、高台 貼り付け	細砂粒混入、 絞密	灰白色 灰白色	刷毛塗り
460-PL58 77-11	土師質土器 杯	SK2088 覆土	(111.6) (2.8) —	12.5	小片	ロクロ整形	細砂粒混入	赤灰色 赤灰色	
460-PL69 77-12	土師質土器 高台付杯	SK2088 覆土	— (2.2) 7.0	73.1	底部完形	ロクロ整形、底部 糸切り、高台貼り 付け	粗砂粒混入	浅黄褐色 にぶい褐色	
460-PN03 77-13 36	灰釉陶器 壺	SK2088 覆土	(113.0) 2.6 (6.8)	34.6	1/4	ロクロ整形、高台 貼り付け	細砂粒混入、 絞密	灰白色 灰白色	刷毛塗り
460-PK36 77-14	須恵器B 杯	SK2089 覆土	(113.0) (3.9) —	33.6	1/3	ロクロ整形	粗砂粒混入	にぶい黄褐色 にぶい黄褐色	
460-PK23 78-1	須恵器A 杯	SK159 覆土	— (2.4) 6.9	62.9	底部完形	ロクロ整形、底部 糸切り	粗砂粒混入	灰白色 灰白色	外面に煤付着

遺物番号 図面番号 図章番号	種別 器形	出土位置	口径 器高 底径	重さ	遺存度	成・整形技法	胎土	内面色調 外面色調	備考	
460-PK24 78-2	須恵器A 坏	SX159 覆土	— (1.6) 5.2	42.9		底面ほぼ 完形	ロクロ整形、底部 糸切り	細砂粒混入 灰色 灰色	外面に煤付着	
460-PK49 78-3	須恵器A 碗	SX159 覆土	((14.6)) (5.1) —	25.4	小片		ロクロ整形	粗砂粒混入 灰白色 灰褐色		
460-PK55 78-4	須恵器A 高台付坏	SX159 覆土	— (1.7) 7.2	88.7		底面完形	ロクロ整形、高台 貼り付け	細砂粒混入 灰色 灰色		
460-PL37 78-5 36	土師質土器 坏	SX159 覆土	((12.4)) 4.1 5.5	66.3	2/3		ロクロ整形、底部 糸切り	細砂粒混入 にぶい褐色 淡黄褐色	内面口縁直下に3ヶ所 灯明の芯跡あり	
460-PL38 78-6	土師質土器 坏	SX159 覆土	((12.0)) (3.2) —	22.2	1/5		ロクロ整形	細砂粒混入 黒色 暗灰黄色	全体に油煙付着	
460-PH09 78-8	土師器 坏	SX160 覆土	((11.4)) (3.0) —	9.3	小片	口辺横ナデ		細砂粒混入 褐色 褐色		
460-PK25 78-9	須恵器B 坏	SX160 覆土	((13.6)) (2.4) —	12.2	小片		ロクロ整形	粗砂粒混入 明赤褐色 明赤褐色	PK26と同一個体の可能 性あり	
460-PK26 78-10	須恵器B 坏	SX160 覆土	— (1.5) (5.1)	9.8	小片		ロクロ整形、底部 糸切り	粗砂粒混入 明赤褐色 明赤褐色	PK25と同一個体の可能 性あり	
460-PL39 78-11	土師質土器 坏	SX160 覆土	((14.2)) (3.7) —	34.8	口辺1/3		ロクロ整形	粗砂粒混入 浅黄色 にぶい褐色		
431-PH05 78-12	土師器 甕	S23 底面	((19.8)) (6.3) —	197.3	口辺2/3		体部斜め方向へラ 削り、内面横方向 へラナデ	細砂粒混入 にぶい褐色 にぶい褐色		
431-PK116 78-13 36	須恵器A 坏	S24 底面	11.9 3.7 6.3	136.7	完形		ロクロ整形、底部 糸切り	砂粒・小石混 入、白色針状 物質を多量に 含む	灰黄色 黄灰色	
431-PK118 78-14 37	須恵器A 碗	S24 底面	13.6 6.1 6.7	299.0	完形		ロクロ整形、底部 糸切り	細砂粒・小石 混入	灰白色 灰色	
431-PK117 78-15	須恵器A 盃	S24 底面	14.8 2.9 —	228.0	完形		ロクロ整形、上部 糸切り無整形	砂粒・小石混 入	灰白色 灰白色	喉類との重ね焼きの痕 跡があり
446-PK48 78-16 37	須恵器B 坏	S25 底面	12.6 4.0 6.2	140.0	完形		ロクロ整形、底部 糸切り	粗砂粒混入、 軟質	淡黄色 淡黄色	
446-PK38 78-17 37	須恵器A 盃	S25 底面	13.1 2.7 6.5	121.4	完形		ロクロ整形、底部 糸切り	粗砂粒混入、 軟質	灰黄褐色 灰黄褐色	
431-PL54 79-2	土師質土器 坏	P-14 覆土	— (2.8) (5.8)	16.4	小片		ロクロ整形	細砂粒混入 淡黄褐色 淡黄褐色		
431-PK119 79-3 37	須恵器A 盃	P-74 覆土	— (4.8) —	77.4	小片		外面平行叩き後、 ロクロ整形	細砂粒混入 灰色 灰色		
431-PH06 79-5	土師器 坏	P-166 覆土	((11.7)) (3.2) —	5.5	小片		口辺横ナデ、体部 外面に指頭圧痕を 残す	粗砂粒混入 灰黄褐色 灰黄褐色		
431-PK120 79-6	須恵器A 碗	P-157 覆土	— (5.0) —	117.6	小片		外面平行叩き後、 ロクロ整形、頸部 貼り付け	粗砂粒混入 オリーブ黒色 オリーブ黒色		
431-PK122 79-12	須恵器B 高台付坏	P-338 覆土	— (1.6) —	5.4	小片		ロクロ整形	砂粒混入 淡黄褐色 褐色		
431-PH09 79-13	灰釉陶器 碗	P-338 覆土	— (1.7) (7.6)	18.9	小片		ロクロ整形、高台 貼り付け	緻密 灰白色 灰白色		

遺物番号 図面番号 図版番号	種別 器形	出土位置	口径 器高 底径	高さ	遺存度	成・整形技法	胎土	内面色 外面色調	備 考
431-PK123 80-5	須恵器A 坏	P-390 覆土	((13.6)) (3.2) —	9.0	小片	ロクロ整形	砂粒混入	灰色 灰色	
446-PK34 81-4	須恵器A 坏	P-97 覆土	— (1.4) (6.2)	5.7	小片	ロクロ整形、底部 糸切り	細砂粒混入	浅黄色 黄灰色	
446-PK49 81-6	須恵器A 坏	P-120 覆土	— (0.9) (6.6)	13.8	小片	ロクロ整形、底部 糸切り	粗砂粒混入、 軟質	灰白色 灰白色	
446-PK23 81-10 37	須恵器B 坏	P-132 覆土	((11.6)) 4.1 4.6	47.2	1/2	ロクロ整形、底部 糸切り	粗砂粒混入	にぶい黄褐色 にぶい黄褐色	
446-PK24 81-12	須恵器B 坏	P-133 覆土	((11.8)) (1.9) —	4.9	小片	ロクロ整形	粗砂粒混入	にぶい黄褐色 にぶい黄褐色	
446-PL13 81-13	土師質土器 坏	P-134 覆土	— (1.5) (6.2)	31.3	1/5	ロクロ整形、底部 糸切り	細砂粒混入	棕色 にぶい棕色	
446-PK25 81-15	須恵器B 坏	P-155 覆土	((17.3)) (3.7) —	36.4	小片	ロクロ整形	細砂粒混入	浅黄褐色 浅黄褐色	
446-PL14 81-18	土師質土器 坏	P-192 覆土	— (2.8) —	4.9	小片	ロクロ整形	細砂粒混入	棕色 棕色	
446-PH08 82-1	土師器 甕	P-200 覆土	((17.0)) (8.0) —	17.1	小片	口辺横ナゲ、体部 外面横方向へ削り	細砂粒混入	浅黄褐色 にぶい黄褐色	
446-PK27 82-2	須恵器A 坏	P-200 覆土	((15.2)) (4.1) —	21.8	小片	ロクロ整形	細砂粒混入	にぶい黄褐色 灰黄褐色	
446-PL15 82-3	土師質土器 坏	P-200 覆土	((13.7)) (3.5) —	18.2	小片	ロクロ整形	細砂粒混入	浅黄色 にぶい棕色	
446-PL16 82-5	土師質土器 坏	P-210 覆土	— (2.0) —	9.1	小片	ロクロ整形	細砂粒混入	棕色 棕色	
446-PL17 82-7	土師質土器 坏	P-210 覆土	— (1.8) (6.0)	9.0	小片	ロクロ整形、底部 糸切り	細砂粒混入	棕色 にぶい棕色	
446-PL18 82-8	土師質土器 坏	P-210 覆土	— (1.2) (5.1)	5.5	小片	ロクロ整形、底部 糸切り	粗砂粒混入	にぶい黄褐色 にぶい黄褐色	
446-PL19 82-9	土師質土器 高台付坏	P-211 覆土	— (2.3) —	23.6	小片	ロクロ整形、底部 糸切り、高台貼り 付け	粗砂粒混入	棕色 棕色	
446-PH09 82-13	土師器 甕	P-286 覆土	((18.3)) (3.9) —	30.8	小片	口辺横ナゲ、体部 外面横方向へ削り	細砂粒混入	にぶい黄褐色 灰黄褐色	
446-PK28 82-17	須恵器A 坏	P-289 覆土	((13.2)) (3.7) —	14.5	小片	ロクロ整形	細砂粒混入	にぶい黄褐色 にぶい黄褐色	
446-PK29 82-18	須恵器A 坏	P-289 覆土	— (2.9) (6.8)	8.6	小片	ロクロ整形、底部 糸切り	細砂粒混入	灰赤色 明赤灰色	部分的に酸化塩徳成
446-PK32 83-1	須恵器B 坏	P-290 覆土	— (1.8) (6.4)	25.2	底部2/3	ロクロ整形、底部 糸切り	細砂粒混入	黄黄色 オリーブ色	
446-PK31 83-2 37	須恵器B 坏	P-290 覆土	((12.4)) 3.9 (6.2)	37.6	1/4	ロクロ整形、底部 糸切り	粗砂粒混入	にぶい黄褐色 にぶい黄色	

遺物番号 図面番号 図版番号	種別 器形	出土位置	口径 器高 底径	高さ	遺存度	成・整形技法	胎土	内面色調 外面色調	備考
446-PK30 83-3	須恵器B 坏	P-290 覆土	— (13.4) (4.2)	11.8	小片	ロクロ整形	粗砂粒混入	浅黄褐色 浅黄褐色	
446-PK33 83-4	須恵器B 坏	P-301 覆土	— (1.1) (5.8)	9.9	小片	ロクロ整形、底部 糸切り	細砂粒混入	にぶい褐色 にぶい黄褐色	
446-PH10 83-5 37	土師器 甕	P-303 覆土	— (14.6) (7.8)	58.7	口辺1/3	口辺横ナゲ、体部 外面上部横方向・ 下部縦方向へツ削り・ 内面ヘラナゲ	粗砂粒混入	にぶい褐色 浅黄褐色	外面に煤付着
446-PK37 83-6 37	須恵器B 高台付坏	P-303 覆土	— (14.6) 5.5 5.7	104.9	2/3	ロクロ整形、底部 糸切り、高台貼り 付け	粗砂粒混入	褐色 褐色	
446-PL20 83-7	土師質土器 坏	P-312 覆土	— (1.6) (4.6)	14.8	小片	ロクロ整形、底部 糸切り	細砂粒混入	にぶい褐色 にぶい褐色	
446-PL21 83-8	土師質土器 坏	P-317 覆土	— (11.6) (2.5)	4.0	小片	ロクロ整形	粗砂粒混入	にぶい黄褐色 にぶい黄褐色	
446-PH11 83-9	土師器 坏	P-349 覆土	— (13.4) (3.1)	29.7	口辺1/4	口辺横ナゲ	細砂粒混入	褐色 にぶい黄褐色	体部外面に粘土粒の検 合痕を窺す
446-PL22 83-10	土師質土器 坏	P-351 覆土	— (1.4) (6.0)	8.8	小片	ロクロ整形、底部 糸切り	細砂粒混入	褐色 褐色	
460-PL72 83-11	土師質土器 坏	P-25 覆土	— (12.4) (3.0)	9.4	小片	ロクロ整形	粗砂粒混入	にぶい黄褐色 にぶい褐色	
460-PK62 83-12	須恵器A 坏	P-56 覆土	— (13.7) (2.3)	3.5	小片	ロクロ整形	粗砂粒混入	灰白色 灰白色	
460-PK43 83-13	須恵器A 坏	P-110 覆土	— (13.8) (1.4)	2.7	小片	ロクロ整形	細砂粒混入	灰色 灰色	
460-PH14 84-1 38	土師器 坏	FS38 表土	— (11.7) 4.0 (4.2)	35.3	1/3	口辺横ナゲ、体部 横方向へツ削り	細砂粒混入	灰黄褐色 暗灰黄色	体部外面に粘土粒の検 合痕を窺す
460-PH16 84-2	土師器 坏	GC15 表土	— (10.2) (3.5)	13.9	小片	口辺横ナゲ、体部 外面縦方向へツ削り・ 内面へツ磨き	粗砂粒混入	黒色 明黄褐色	
460-PH16 84-3	土師器 坏	GF16 表土	— (16.7) (2.9)	11.2	小片	口辺横ナゲ、体部 外面縦方向へツ削り	細砂粒混入	褐色 褐色	体部外面に粘土粒の検 合痕を窺す
460-PH18 84-4	土師器 高台付坏	GC15 表土	— (3.4) 7.0	118.5	底部完形	内面ヘラ磨き、高 台貼り付け	粗砂粒混入	黒色 にぶい黄褐色	内面黒色処理
460-PH34 84-5	土師器 台付甕	GF17 表土	— (3.5) 9.7	88.2	台部ほぼ 完形	内面ヘラナゲ	粗砂粒混入	褐色 にぶい褐色	
431-PK124 84-6	須恵器B 坏	HB18 表土	— (13.6) (3.3)	8.3	小片	ロクロ整形	砂粒混入	明赤褐色 明赤褐色	
446-PK35 84-7	須恵器B 坏	GM44 攪乱	— (2.2) (4.3)	24.0	1/4	ロクロ整形、底部 糸切り	細砂粒混入	褐色 褐色	
460-PK44 84-8 38	須恵器A 坏	FS34 表土	— (10.5) 3.0 5.0	65.0	1/2	ロクロ整形、底部 糸切り	細砂粒混入	灰色 灰色	
460-PK15 84-9 92	須恵器A 坏	GF17 表土	— (2.6) —	5.0	小片	ロクロ整形	細砂粒混入	灰白色 灰白色	体部外面に墨書、文字 不明
460-PK46 84-10	須恵器A 坏	GF16 表土	— (2.1) (6.6)	17.0	底部1/3	ロクロ整形、底部 糸切り、高台貼り 付け	粗砂粒混入	灰白色 灰白色	一部酸化塩結成

遺物番号 図面番号 図版番号	種別 器形	出土位置	口径 器高 底径	重さ	遺存度	成・整形技法	胎土	内面色調 外面色調	備考
431-PK127 84-11	須恵器A 甕	G039 表土	(3.1) —	169.6	小片		砂粒・小石混入	灰色 黄灰色	内外面ともに散れている
431-PK125 84-12	須恵器A 壺	GS22 表土	(4.5) —	39.1	小片	口クロ整形、頸部 貼り付け	砂粒混入	灰色 灰色	
431-PK126 84-13 38	須恵器A 壺	HF15 表土	(5.0) —	81.1	小片	口クロ整形	粗砂粒混入	灰色 灰色	外面に自然釉、把手付き
446-PK11 84-14 38	須恵器A 大口壺	GJ26 表土	((10.8)) (6.8) —	69.1	小片	口クロ整形	細砂粒混入 緻密	黄灰色 暗オリーブ色	外面全体に自然釉
431-PL68 84-15	土師質土器 坏	HD17 表土	((13.7)) (3.5) —	29.6	小片	口クロ整形	粗砂粒混入	浅黄色 黄黄色	
431-PL66 84-16	土師質土器 坏	HA16 表土	(1.3) (5.8) —	22.3	小片	口クロ整形、底部 糸切り	細砂粒混入	浅黄褐色 にぶい褐色	
446-PL23 84-17	土師質土器 坏	表緑	((12.8)) (3.5) —	11.4	小片	口クロ整形	粗砂粒混入	にぶい褐色 にぶい褐色	
460-PL60 84-18	土師質土器 坏	GF17 表土	((12.2)) (3.3) —	15.6	小片	口クロ整形	粗砂粒混入	灰黄褐色 にぶい黄褐色	
460-PL59 84-19	土師質土器 坏	GF16 表土	(4.6) 5.8 —	68.3	1/3	口クロ整形、底部 糸切り	細砂粒混入	灰赤色 にぶい黄褐色	
460-PL61 84-20	土師質土器 坏	GD30 表土	(3.3) (5.9) —	49.6	1/5	口クロ整形、底部 糸切り	粗砂粒混入	にぶい褐色 にぶい褐色	
446-PN04 84-21	灰輪陶器 甕	GK35 表土	(1.6) (6.0) —	26.7	底部 1/2	口クロ整形、底部 糸切り、高台貼り 付け	細砂粒混入 緻密	灰白色 灰白色	
460-PN06 84-22	灰輪陶器 甕	GF16 表土	(2.3) (7.0) —	42.0	底部 1/2	口クロ整形、底部 糸切り、高台貼り 付け	細砂粒混入 緻密	灰色 灰黄褐色	
446-PN05 84-23	灰輪陶器 壺	G022 表土	(7.3) —	73.6	頸部 1/3	口クロ整形	細砂粒混入 緻密	黄灰色 黄灰色	刷毛塗り

437 次調査歴史時代土器一覽

遺物番号 図面番号 図版番号	種別 器形	出土位置	口径 器高 底径	重さ	遺存度	成・整形技法	胎土	内面色調 外面色調	備考
437-PH01 133-1	土師器 坏	S1555 薄土	((14.0)) (2.9) —	8.9	小片	口辺横ナゲ、体部 外面斜め方向へラ 削りに指頭圧痕を 残す	細砂粒混入	にぶい黄褐色 にぶい黄褐色	
437-PH02 133-2	土師器 甕	S1655 カマド	(7.6) (3.6) —	43.9	小片	体部外面縦方向へ ラ削り	粗砂粒混入	黒色 灰色	内外面に黒付着
437-PK01 133-3	須恵器A 坏	S1565 カマド	((15.0)) 4.1 (5.8) —	28.0	小片	口クロ整形	粗砂粒混入	灰黄色 灰黄色	
437-PK02 133-4	須恵器A 坏	S1555 カマド	(1.9) (4.6) —	29.8	1/4	口クロ整形、底部 糸切り	粗砂粒混入	灰白色 灰白色	
437-PK03 133-5 64	須恵器B 坏	S1555 カマド	12.7 3.5 4.6 —	84.1	2/3	口クロ整形、底部 糸切り	粗砂粒混入	浅黄褐色 浅黄褐色	燒歪みが激しい
437-PK04 133-6	須恵器B 坏	S1555 カマド	((13.8)) (2.8) —	18.0	口辺 1/4	口クロ整形	細砂粒を含む	浅黄褐色 浅黄褐色	

遺物番号 図面番号 図版番号	種別 器形	出土位置	口径 器高 底径	重さ	遺存度	成・整形技法	胎土	内面色調 外面色調	備考
437-PK05 133-7	須恵器B 坏	S1555 カマド	((13.4)) 4.2 (6.2)	22.7	1/8	ロクロ整形	粗砂粒混入	褐色 褐色	
437-PL01 133-8 94	土師質土器 坏	S1556 Aカマド	11.6 4.9 5.4	145.5	完形	ロクロ整形、底部 糸切り	細砂粒混入	褐色 褐色	
437-PL02 133-9	土師質土器 坏	S1555 カマド	— (2.0) 4.4	27.6	底部完形	ロクロ整形、底部 糸切り	細砂粒混入	褐色 褐色	
437-PL03 133-10	土師質土器 坏	S1555 カマド	— (1.7) (5.2)	29.3	底部1/2	ロクロ整形、底部 糸切り	細砂粒混入	にぶい褐色 にぶい褐色	
437-PN01 133-11	灰輪陶器 皿	S1555 カマド	((14.0)) (1.6) —	10.7	小片	ロクロ整形	細砂粒を含む 珪、微密	黄灰色 灰白色	漬け掛け
437-PL04 134-6	土師質土器 坏	SK1775 覆土	— (3.6) —	9.6	小片	ロクロ整形	粗砂粒混入	浅黄色 にぶい黄褐色	
437-PK07 134-8	須恵器B 坏	P-29 覆土	((12.2)) (1.6) —	2.7	小片	ロクロ整形	粗砂粒混入	浅黄褐色 浅黄褐色	
437-PK06 134-11	須恵器B 坏	12区 表土	((11.8)) (3.0) —	12.9	小片	ロクロ整形	粗砂粒混入	褐色 褐色	

442次調査歴史時代土器一覧

遺物番号 図面番号 図版番号	種別 器形	出土位置	口径 器高 底径	重さ	遺存度	成・整形技法	胎土	内面色調 外面色調	備考
442-PH01 136-1	土師器 甕	S1559 覆土	((21.6)) (2.9) —	18.5	小片	口辺横ナデ	粗砂粒混入	灰黄褐色 灰褐色	外面に煤付着
442-PH02 136-2	土師器 甕	S1559 床直	— (3.3) (4.4)	26.2	小片	体部外面縦方向へ ヘラ削り、内面ヘラ ナデ、底部ヘラ削 り	粗砂粒混入	にぶい褐色 黄灰色	
442-PK01 136-3 65	須恵器A 坏	S1559 下層	12.6 4.5 5.3	124.7	ほぼ完形	ロクロ整形、底部 糸切り	粗砂粒混入	灰色 灰色	
442-PK02 136-4 65	須恵器A 坏	S1559 P-4	((13.8)) 4.9 (7.0)	67.0	1/2	ロクロ整形、底部 糸切り	粗砂粒混入	灰色 灰色	
442-PK03 136-5 65	須恵器A 坏	S1559 覆土	((13.4)) 3.8 7.0	65.2	1/3	ロクロ整形、底部 糸切り	粗砂粒混入	灰白色 灰白色	
442-PK06 136-6	須恵器A 坏	S1559 覆土	((12.6)) (2.8) —	17.3	小片	ロクロ整形	粗砂粒混入	灰白色 灰白色	外面に煤付着
442-PK04 136-7	須恵器A 坏	S1559 覆土	— (2.6) 5.2	48.7	1/4	ロクロ整形、底部 糸切り	粗砂粒混入	灰色 灰色	二次的に被熱してい る。内面に銅滓?付着 取脱転用か?
442-PK18 136-8 65	須恵器A 坏	S1559 下層	((13.6)) 4.7 6.0	103.5	2/3	ロクロ整形、底部 糸切り	粗砂粒混入	浅黄色 灰黄褐色	内面口辺部に煤付着
442-PK07 136-9	須恵器A 坏	S1559 覆土	— (1.7) 4.0	25.9	1/6	ロクロ整形、底部 糸切り	粗砂粒混入	灰白色 灰白色	
442-PK05 136-10	須恵器A 坏	S1559 P-2	((12.7)) (4.6) —	13.6	小片	ロクロ整形	粗砂粒混入	灰色 灰色	
442-PK09 136-11 65	須恵器A 坏	S1559 床直	13.6 5.2 5.6	126.0	3/5	ロクロ整形、底部 糸切り	粗砂粒混入	灰白色 灰白色	

遺物番号 図面番号 図版番号	種別 器形	出土位置	口径 器高 底径	重さ	遺存度	成・整形技法	胎土	内面色調 外面色調	備 考
442-PK10 136-12 65	須恵器A 杯	S1559 覆土	— (2.7) —	9.5	小片	ロクロ整形	細砂粒混入	黒色 灰色	内面が発泡している。 取壊転用か?
442-PK08 136-13	須恵器A 杯	S1559 カマド 火床下部	— (3.5) (5.4)	26.3	1/4	ロクロ整形、底部 糸切り	粗砂粒混入	灰白色 灰黄色	
442-PL02 136-14	土師質土器 杯	S1559 攪乱	— (1.0) 5.4	35.4	底部完形	ロクロ整形、底部 糸切り	細砂粒混入	にぶい赤褐色 褐色	
442-PL03 136-16	土師質土器 杯	S1559 攪乱	— (12.5) (2.4) —	17.6	1/8	ロクロ整形	細砂粒混入	褐色 褐色	
442-PN01 136-16 65	灰釉陶器 碗	S1559 カマド 火床下部	— (16.2) 4.3 (8.0)	66.2	2/5	ロクロ整形、体部 外面、底部ヘラ削り、 高台貼り付け	粗砂粒混入	灰白色 灰白色	刷毛塗り
442-PN02 136-17	灰釉陶器 碗	S1559 カマド	— (18.0) (4.9) 7.8	115.0	1/2	ロクロ整形、底部 糸切り、高台貼り 付け	粗砂粒混入	灰白色 灰白色	刷毛塗り
442-PP01 136-18 66	緑釉陶器 模写	S1559 攪乱	— (3.2) —	16.2	小片	ロクロ整形、体部 外面回転ヘラ削り	細砂粒混入	緑色 淡緑色	全面に施釉
442-PN03 141-1 67	土師器 壺	S1560 カマド	— (19.2) (18.1) —	256.4	1/8	体部外面上部横方向、 縦方向ヘラ削り、 内面ヘラナゲ	粗砂粒混入	灰黄色 にぶい褐色	外面体部に煤付着
442-PN05 141-2	土師器 壺	S1560 カマド	— (3.6) 5.7	88.2	底部完形	体部外面横方向ヘラ 削り	粗砂粒混入	灰黄色 灰黄色	
442-PN04 141-3 67	土師器 壺	S1560 カマド	— (20.9) 26.3 (8.2)	805.1	2/3	体部外面上部横方向、 縦方向ヘラ削り、 内面ヘラナゲ	粗砂粒混入	にぶい黄褐色 灰黄色	
442-PK11 141-4	須恵器A 杯	S1560 カマド	— (13.6) (3.1) —	14.2	小片	ロクロ整形	粗砂粒混入	黄灰色 黄灰色	
442-PK12 141-5 68	須恵器A 杯	S1560 カマド	— (13.7) 4.2 (5.6)	44.0	1/3	ロクロ整形、底部 糸切り	粗砂粒混入	浅黄色 浅黄色	
442-PK19 141-6 68	須恵器B 高台付鉢	S1560 カマド	— (18.4) (7.1) —	140.7	1/3	ロクロ整形	粗砂粒混入	にぶい黄褐色 にぶい黄褐色	片口
442-PL04 141-7 68	土師質土器 杯	S1560 カマド	— 13.0 4.4 5.0	164.2	ほぼ完形	ロクロ整形、底部 糸切り	粗砂粒混入	にぶい褐色 にぶい褐色	底部外面にヘラ書き 「X」
442-PL05 141-8	土師質土器 杯	S1560 下層	— (14.2) (3.6) —	16.1	小片	ロクロ整形	粗砂粒混入	褐色 褐色	
442-PN03 141-9	灰釉陶器 碗	S1560 下層	— (13.8) (2.9) —	7.8	小片	ロクロ整形	粗砂粒混入	灰白色 灰白色	刷毛塗り
442-PL07 142-1	土師質土器 高台付杯	SD323 覆土	— (2.1) —	21.8	小片	ロクロ整形、底部 糸切り、高台貼り 付け	粗砂粒混入	浅黄褐色 浅黄褐色	
442-PN06 142-4	土師器 壺	SD333 覆土	— (19.7) (4.2) —	47.8	小片	口辺横ナゲ、体部 外面縦方向ヘラ削り、 内面ヘラナゲ	粗砂粒混入	にぶい黄褐色 にぶい黄褐色	
442-PK14 142-5	須恵器A 杯	SD333 覆土	— (2.6) (5.7)	21.9	1/6	ロクロ整形、底部 糸切り	粗砂粒混入	灰色 灰色	
442-PK13 142-6 68	須恵器A 杯	SD333 覆土	— 4.1 (6.0)	41.2	1/5	ロクロ整形、底部 糸切り	粗砂粒混入	灰白色 灰白色	
442-PK16 142-7	須恵器A 杯	SD333 覆土	— (13.2) (3.8) —	11.4	小片	ロクロ整形	粗砂粒混入	浅黄色 浅黄色	

遺物番号 図面番号 図版番号	種別 器形	出土位置	口径 器高 底径	重さ	遺存度	成・整形技法	胎土	内面色調 外面色調	備考
442-PK20 142-8 98	須恵器B 坏	SD333 覆土	((12.8)) 3.8 4.4	81.6	3/5	ロクロ整形、底部 糸切り	粗砂粒混入	浅黄褐色 浅黄褐色	体部内・外周下部に煤 付着
442-PL08 142-9	土師質土器 坏	SD333 覆土	— (2.6) 4.4	33.7	1/4	ロクロ整形、底部 糸切り	粗砂粒混入	にぶい黄褐色 褐色	
442-PL10 142-10 98	土師質土器 高台付坏	SD333 覆土	17.2 (7.2) —	427.7	高台欠	ロクロ整形、底部 糸切り、高台貼り 付け	粗砂粒混入	褐色 にぶい褐色	外面全体に煤付着
442-PL11 142-11	土師質土器 高台付坏	SD333 覆土	((15.2)) (4.5) —	51.8	1/3	ロクロ整形、高台 貼り付け	粗砂粒混入	褐色 褐色	
442-PK15 143-1	須恵器A 坏	P-7 覆土	— (2.0) (5.6)	26.6	1/6	ロクロ整形、底部 糸切り	粗砂粒混入	灰黄褐色 浅黄色	
442-PK17 143-2	須恵器A 坏	P-7 覆土	— (2.8) —	4.2	小片	ロクロ整形	粗砂粒混入	暗灰黄色 暗灰黄色	
442-PL12 143-3	土師質土器 坏	P-11 覆土	— (2.9) —	5.4	小片	ロクロ整形	粗砂粒混入	明赤褐色 にぶい黄褐色	
442-PL13 143-4	土師質土器 坏	II32 攪乱	((12.6)) (4.3) —	13.8	小片	ロクロ整形	粗砂粒混入	褐色 褐色	
442-PL15 143-6	土師質土器 高台付坏	IN15 攪乱	(1.5) (6.5) (6.5)	10.1	小片	ロクロ整形、底部 糸切り、高台貼り 付け	粗砂粒混入	にぶい褐色 にぶい褐色	
442-PL14 143-6	土師質土器 坏	IN20 攪乱	— (2.9) (9.8)	11.1	小片	ロクロ整形、底部 糸切り	粗砂粒混入	にぶい黄褐色 にぶい黄褐色	
442-PS04 143-7	反輪陶器 壺	1015 攪乱	— (11.3) —	137.8	小片	ロクロ整形、体部 外面回転ヘラ削り	粗砂粒混入	黄灰色 灰オリブ色	刷毛塗り

442 次調査中世陶器一覧

遺物番号 図面番号 図版番号	種別 器形	出土位置	口径 器高 底径	重さ	遺存度	成・整形技法	胎土	内面色調 外面色調	備考
442-PT01 143-8 98	中世陶器 甕	遺構外 表土	— (3.4) —	22.1	小片			灰黄褐色 にぶい赤褐色	破片を再利用してい る

444 次調査歴史時代土器一覧

遺物番号 図面番号 図版番号	種別 器形	出土位置	口径 器高 底径	重さ	遺存度	成・整形技法	胎土	内面色調 外面色調	備考
444-PI01 154-1 76	土師器 甕	SI564 東カマド	((21.4)) (8.6) —	105.6	小片	ロ切横ナデ、体部 外面横方向ヘラ削 り、内面横方向ヘ ラ削り	粗砂粒混入	灰褐色 にぶい赤褐色	
444-PI01 154-2 76	須恵器A 坏	SI564 南東軒1	((14.4)) 4.7 5.0	115.6	4/5	ロクロ整形、底部 糸切り	粗砂粒混入	灰白色 灰黄褐色	
444-PI02 154-3 76	須恵器A 坏	SI564 覆土	((12.4)) 4.0 (4.5)	35.5	1/3	ロクロ整形、底部 糸切り	粗砂粒混入	灰白色 灰白色	
444-PI03 154-4	須恵器A 坏	SI564 東カマド 炉2	((13.3)) (5.3) —	26.4	1/5	ロクロ整形	粗砂粒混入	灰白色 灰白色	
444-PI04 154-5	須恵器A 坏	SI564 東カマド 炉2	((10.6)) (4.3) —	33.7	1/6	ロクロ整形	粗砂粒混入	灰色 灰色	

遺物番号 図面番号 図版番号	種別 器形	出土位置	口径 器高 底径	重さ	遺存度	成・整形技法	胎土	内面色調 外面色調	備考
444-PK05 154-6	須恵器A 坏	SI564 東カマド	((13.6)) (3.1) —	94.9	小片	ロクロ整形	細砂粒混入	灰白色 灰白色	
444-PK07 154-7 76	須恵器A 坏	SI564 覆土	((12.0)) 4.1 (4.7)	27.6	1/4	ロクロ整形、底部 糸切り	粗砂粒混入	灰黄色 灰黄色	
444-PK08 154-8	須恵器A 坏	SI564 博士A・C	((14.1)) (6.4) —	23.0	1/5	ロクロ整形	細砂粒混入	灰黄褐色 灰黄褐色	
444-PK09 154-9 76	須恵器B 坏	SI564 東カマド	12.7 4.0 4.0	113.3	完形	ロクロ整形、底部 糸切り	粗砂粒混入	にぶい黄褐色 褐色	
444-PK10 154-10 76	須恵器B 坏	SI564 覆土	12.3 3.7 5.0	87.4	ほぼ完形	ロクロ整形、底部 糸切り	粗砂粒混入	褐色 褐色	
444-PK06 154-11	須恵器A 坏	SI564 東カマド	((12.1)) (4.0) (4.4)	35.0	1/4	ロクロ整形	粗砂粒混入	灰白色 灰白色	
444-PK11 154-12	須恵器B 坏	SI564 覆土	((12.4)) (3.6) —	27.9	1/4	ロクロ整形	小石・粗砂粒 混入	淡黄褐色 淡黄褐色	
444-PK12 154-13	須恵器B 坏	SI564 東カマド	((12.7)) 4.7 (5.3)	28.2	1/5	ロクロ整形、底部 糸切り	細砂粒混入	にぶい黄褐色 淡黄色	
444-PK59 154-14	須恵器A 坏	SI564 南東3号	((14.3)) (3.1) —	9.2	小片	ロクロ整形	粗砂粒混入	褐色 にぶい黄褐色	
444-PK61 154-15 76	須恵器B 坏	SI564 東カマド	((11.7)) 4.3 4.4	39.3	1/4	ロクロ整形、底部 糸切り	細砂粒混入	にぶい黄褐色 にぶい黄褐色	
444-PK60 154-16	須恵器B 坏	SI564 炉1	((12.0)) (1.9) —	4.3	小片	ロクロ整形	細砂粒混入	にぶい褐色 にぶい褐色	
444-PK62 154-17	須恵器B 坏	SI564 博士上層	((12.1)) (2.1) —	13.8	口縁1/4	ロクロ整形	粗砂粒混入	にぶい褐色 にぶい褐色	
444-PK63 154-18	須恵器B 坏	SI564 南東3号	((12.8)) (1.5) —	5.9	小片	ロクロ整形	粗砂粒混入	にぶい褐色 にぶい褐色	
444-PK64 154-19	須恵器B 高台付坏	SI564 覆土	— (2.4) (8.2)	70.3	1/5	ロクロ整形、高台 貼り付け	粗砂粒混入	にぶい褐色 にぶい褐色	
444-PK66 154-20	須恵器A 鉢	SI564 覆土	— (4.9) —	122.3	小片	ロクロ整形	粗砂粒混入	にぶい赤褐色 にぶい赤褐色	
444-PK66 154-21 76	須恵器B 高台付坏	SI564 覆土	((18.0)) 5.8 5.8	87.8	1/3	ロクロ整形、底部 糸切り、高台貼り 付け	細砂粒混入	褐色 褐色	
444-PK13 155-1	須恵器A 甕	SI564 覆土	— (15.4) —	154.7	小片	ロクロ整形、外面 平行叩き、内面周 心円文宛具痕	細砂粒混入、 緻密	灰色 灰色	
444-PL01 156-2 76	土師質土器 坏	SI564 覆土	11.8 3.6 4.9	68.3	4/5	ロクロ整形、底部 糸切り	粗砂粒混入	褐色 褐色	
444-PL02 156-3 76	土師質土器 坏	SI564 東カマド	((11.6)) 3.4 (5.2)	58.5	1/2	ロクロ整形、底部 糸切り	細砂粒混入	にぶい黄褐色 にぶい黄褐色	
444-PL10 156-4	土師質土器 坏	SI564 覆土B	((12.2)) (4.0) (5.8)	20.3	小片	ロクロ整形、底部 糸切り	細砂粒混入	にぶい褐色 にぶい褐色	内面底部に螺旋状にロ クロ痕を残す
444-PL11 155-5	土師質土器 坏	SI564 東カマド	— (4.0) 6.0	123.0	底部完形	ロクロ整形、底部 糸切り	粗砂粒混入	にぶい褐色 にぶい褐色	

遺物番号 図面番号 図版番号	種別 器形	出土位置	口径 器高 底径	重さ	遺存度	成・整形技法	胎土	内面色調 外面色調	備考
444-PL06 155-6	土師質土器 杯	SI564 覆土	((14.6)) (2.9)	22.5	口縁 1/4	ロクロ整形	粗砂粒混入	にぶい橙色 にぶい橙色	
444-PL07 155-7	土師質土器 杯	SI564 覆土	((14.7)) (3.3)	15.9	小片	ロクロ整形	粗砂粒混入	灰赤色 灰黄褐色	内面に煤付着
444-PH02 157-1	土師器 甕	SI565 カマド	((19.1)) (4.0)	121.9	口辺 1/3	口辺横ナデ、体部 外面横方向へテ削り、内面横方向へ テナデ	粗砂粒混入	暗赤褐色 暗赤褐色	
444-PK14 157-2	須恵器B 杯	SI565 カマド	((13.8)) 5.5 (6.4)	17.3	小片	ロクロ整形	粗砂粒混入	にぶい赤褐色 にぶい赤褐色	
444-PK15 157-3	須恵器B 杯	SI665 カマド	((14.2)) (4.7)	25.0	小片	ロクロ整形	小石・粗砂粒 混入	にぶい黄褐色 にぶい黄褐色	
444-PL15 157-4	土師質土器 杯	SI565 覆土	— (1.7) (4.3)	8.0	小片	ロクロ整形、底部 糸切り	粗砂粒混入	にぶい橙色 にぶい橙色	
444-PH03 157-9	土師器 甕	SI686 覆土	((19.3)) (2.3)	13.4	小片	口辺横ナデ	粗砂粒混入	褐灰色 にぶい橙色	
444-PK16 157-10	須恵器A 蓋	SI566 覆土	— (7.6)	44.0	小片	ロクロ整形	細砂粒混入	灰色 灰色	
444-PL16 157-11 76	土師質土器 杯	SI566 床面下	((12.6)) 3.8 5.4	52.5	1/3	ロクロ整形、底部 糸切り	細砂粒混入	にぶい橙色 にぶい橙色	
444-PL17 157-12	土師質土器 杯	SI686 覆土	((12.4)) (2.4)	9.5	小片	ロクロ整形	粗砂粒混入	浅黄褐色 浅黄褐色	
444-PH04 158-1 76	土師器 甕	SI567 床底	((16.8)) (9.2)	173.5	口辺 1/3	口辺横ナデ、体部 外面上部横方向・ 下部縦方向へテ削り、内面横方向へ テナデ	粗砂粒混入	褐灰色 褐灰色	体部外面に粘土紐の 接合痕を残す
444-PH05 158-2 77	土師器 甕	SI567 カマド	— (11.8) (3.4)	150.4	底部 1/2	体部外面下部縦方 向へテ削り	粗砂粒混入	褐色 褐色	外面一部煤付着
444-PH06 158-3	土師器 甕	SI567 カマド	— (5.4) (7.6)	115.0	底部 2/3	体部外面下部縦方 向へテ削り	粗砂粒混入	褐色 褐色	内外面煤付着
444-PK17 158-4 77	須恵器A 杯	SI567 覆土	((12.6)) 4.0 (6.1)	29.7	1/4	ロクロ整形、底部 糸切り	小石・粗砂粒 混入	明赤灰色 明赤灰色	
444-PK18 158-5	須恵器A 杯	SI567 貼床下	— (2.4) (6.2)	15.1	1/6	ロクロ整形、底部 糸切り	粗砂粒混入	灰色 灰色	
444-PK19 158-6	須恵器A 杯	SI567 貼床下	((14.6)) (3.9)	14.3	小片	ロクロ整形	細砂粒混入	灰白色 灰白色	
444-PK20 158-7	須恵器A 杯	SI567 貼床下	((14.6)) (3.0)	5.5	小片	ロクロ整形	細砂粒混入	灰白色 灰白色	
444-PK21 158-8	須恵器B 杯	SI567 カマド	((15.6)) (4.7)	77.7	小片	ロクロ整形	粗砂粒混入	浅黄色 浅黄色	
444-PK22 158-9	須恵器B 杯	SI567 貼床下	— (1.4) (5.8)	13.2	小片	ロクロ整形、底部 糸切り	粗砂粒混入	にぶい褐色 にぶい黄褐色	
444-PK23 158-10	須恵器B 杯	SI567 カマド	— (1.3) (5.4)	26.0	1/5	ロクロ整形、底部 糸切り	粗砂粒混入	にぶい黄褐色 にぶい黄褐色	

遺物番号 図面番号 図版番号	種別 器形	出土位置	口径 器高 底径	重さ	遺存度	成・整形技法	胎土	内面色調 外面色調	備考
444-PK24 158-11	須恵器B 杯	S1567 覆土	- (1.8) (5.5)	12.7	小片	ロクロ整形、底部 糸切り	粗砂粒混入	浅黄褐色 浅黄褐色	
444-PK25 158-12	須恵器B 杯	S1567 貼床下	- (0.8) (6.0)	11.8	底部1/3	ロクロ整形、底部 糸切り	粗砂粒混入	褐色 赤褐色	
444-PK26 158-13	須恵器A 壺	S1567 貼床下	- (1.4) -	3.3	小片	ロクロ整形	粗砂粒混入、 腺密	黄灰色 黄灰色	全体に自然輪付着
444-PL18 158-14	土師質土器 杯	S1567 カマド	((12.2)) (2.6) -	9.3	小片	ロクロ整形	細砂粒混入	にぶい黄褐色 にぶい黄褐色	
444-PL19 158-15	土師質土器 高台付杯	S1567 カマド	- (1.6) (7.5)	10.6	小片	ロクロ整形、高台 貼り付け	細砂粒混入	にぶい黄褐色 にぶい黄褐色	
444-PN01 158-16 77	灰釉陶器 耳付壺	S1567 焼土	- (1.8) -	7.8	小片	細砂粒混入、 腺密		灰白色 灰白色	
444-PH07 160-6 77	土師器 甕	S1568 P-3	((17.5)) (12.7) -	132.4	1/4	ロクロ横ナデ、体部 外面上部横方向・ 下部縦方向ヘラ削り	粗砂粒混入	黒褐色 黒褐色	
444-PH08 160-7	土師器 甕	S1568 覆土B	((19.6)) (13.2) -	55.1	小片	ロクロ横ナデ、体部 外面斜め方向ヘラ 削り	粗砂粒混入	にぶい褐色 にぶい褐色	外面に煤付着
444-PK27 160-8 77	須恵器A 杯	S1568 カマド	((13.0)) 4.2 (4.9)	61.8	1/2	ロクロ整形、底部 糸切り	粗砂粒混入	灰白色 灰白色	
444-PK28 160-9	須恵器A 杯	S1688 P-2	- (2.1) (5.4)	46.8	1/4	ロクロ整形、底部 糸切り	粗砂粒混入	灰白色 灰白色	
444-PK31 160-10	須恵器B 高台付杯	S1568 覆土	- (2.3) (7.6)	46.7	底部1/2	ロクロ整形、底部 糸切り、高台貼り 付け	細砂粒混入、 腺密	にぶい赤褐色 にぶい赤褐色	
444-PK29 160-11	須恵器A 杯	S1568 覆土	((12.2)) 4.5 (4.6)	37.1	1/6	ロクロ整形	細砂粒混入	灰白色 灰白色	
444-PK30 160-12	須恵器A 杯	S1568 覆土B	((10.6)) (3.0) -	22.5	1/4	ロクロ整形	細砂粒混入、 腺密	灰色 灰色	外面に自然輪付着
444-PL20 160-13 77	土師質土器 杯	S1688 P-2	13.8 4.7 7.1	178.9	ほぼ完形	ロクロ整形、底部 糸切り	細砂粒混入	褐色 褐色	
444-PH09 162-1	土師器 甕	S1589 伊火床下	((18.8)) (4.6) -	11.4	小片		粗砂粒混入	褐色 にぶい褐色	
444-PH10 162-2 77	土師器 甕	S1569 伊・P-1	((22.0)) (18.7) -	597.6	小片	外面板状工具による 縦方向ナデ、内 面横方向ナデ	粗砂粒混入	褐色 にぶい褐色	
444-PK32 162-3 77	須恵器A 杯	S1589 伊	11.2 3.6 5.0	99.1	ほぼ完形	ロクロ整形、底部 糸切り	粗砂粒混入	灰白色 浅黄色	内面及び外面の一部に 煤付着、部分的に酸化 塩成
444-PK33 162-4 77	須恵器B 高台付杯	S1589 伊	((13.9)) 5.9 (6.2)	162.4	4/5	ロクロ整形、底部 糸切り、高台貼り 付け	粗砂粒混入	にぶい黄褐色 にぶい黄褐色	
444-PL21 162-5 78	土師質土器 杯	S1569 伊	10.4 2.7 5.3	93.4	ほぼ完形	ロクロ整形、底部 糸切り	粗砂粒混入	褐色 褐色	内面に一部煤付着
444-PL23 162-6 78	土師質土器 高台付杯	S1569 伊土層	13.6 6.1 6.6	203.3	完形	ロクロ整形、底部 糸切り、高台貼り 付け	小石・粗砂粒 混入	褐色 褐色	
444-PL22 162-7	土師質土器 杯	S1689 覆土上層	((12.8)) (2.4) -	12.3	小片	ロクロ整形	粗砂粒混入	にぶい褐色 褐色	

遺物番号 図面番号 図章番号	種別 器形	出土位置	口径 器高 底径	重さ	遺存度	成・整形技法	胎土	内面色調 外面色調	備 考
444-PL24 162-8	土師質土器 高台付坪	SI569 炉火床下	— (15.0) (7.0)	216.1	2/3	ロクロ整形、高台 貼り付け	粗砂粒混入	にぶい褐色 灰黄褐色	
444-PL25 162-9	土師質土器 高台付坪	SI569 炉火床下	— (2.6) (6.4)	11.4	小片	ロクロ整形、高台 貼り付け	細砂粒混入	にぶい黄褐色 にぶい黄褐色	
444-PM02 162-10	灰輪陶器 埴	SI569 覆土	— (1.8) (7.0)	21.3	底部 1/3	ロクロ整形、高台 貼り付け	細砂粒混入、 緻密	灰白色 灰白色	刷毛塗り
444-PK34 163-1	須恵器A 坪	SI570 覆土	— (2.7) (5.6)	20.3	1/5	ロクロ整形、底部 糸切り	細砂粒混入、 緻密	黄灰色 にぶい赤褐色	
444-PK35 163-2	須恵器A 坪	SI570 床面下	— (2.3) —	2.8	小片	ロクロ整形	粗砂粒混入	灰色 灰色	
444-PK36 163-3	須恵器A 蓋?	SI570 覆土	— (2.0) —	2.7	小片	ロクロ整形	細砂粒混入、 緻密	灰色 灰色	
444-PL26 163-4	土師質土器 坪	SI570 カマド	— (14.6) (3.3)	31.7	口辺 1/3	ロクロ整形	細砂粒混入	にぶい黄褐色 にぶい黄褐色	
444-PL27 163-5	土師質土器 坪	SI570 覆土	— (11.0) (3.5)	10.8	小片	ロクロ整形	細砂粒混入	にぶい褐色 にぶい褐色	
444-PM03 163-6	灰輪陶器 埴	SI570 覆土	— (13.8) (3.2)	20.0	小片	ロクロ整形	細砂粒混入、 緻密	灰白色 灰白色	刷毛塗り
444-PH11 164-1 78	土師器 甕	SI571 覆土	— (10.8) (6.2)	33.4	口辺 1/5	口縁横ナデ、外面 板状工具による縦 方向ナデ、内面横 方向ナデ	粗砂粒混入	にぶい赤褐色 にぶい赤褐色	内面の一部に煤付着
444-PK37 164-2	須恵器A 坪	SI571 覆土上層	— (2.2) (6.0)	20.7	小片	ロクロ整形、底部 糸切り	細砂粒混入、 緻密	灰黄色 灰黄色	内面の一部に煤付着、 部分的に酸化焙焼成
444-PK39 164-3 78	須恵器B 坪	SI571 P-1	— 12.5 4.1 5.0	111.4	5/6	ロクロ整形、底部 糸切り	粗砂粒混入	浅黄褐色 明褐色	
444-PK38 164-4 92	須恵器A 坪	SI571 覆土	— — —	1.9	小片	ロクロ整形、底部 糸切り	細砂粒混入、 緻密	灰色 灰色	底部外面に墨書
444-PK67 164-5 78-92	須恵器B 埴	SI571 覆土	— (13.5) 5.3 (6.4)	74.3	1/2	ロクロ整形、底部 糸切り	細砂粒混入	にぶい黄褐色 にぶい黄褐色	内外面体部に同一の墨 書「#」
444-PK68 164-6	須恵器B 坪	SI571 床面下	— (2.0) 4.6	48.7	底部完形	ロクロ整形、底部 糸切り	粗砂粒混入	灰黄褐色 灰黄褐色	内面底部に煤付着
444-PK69 164-7	須恵器B 高台付坪	SI571 覆土上層	— (4.1) (7.8)	92.5	底部完形	ロクロ整形、底部 糸切り、高台貼り 付け	細砂粒混入、 緻密	にぶい黄褐色 にぶい黄褐色	
444-PK40 164-8	須恵器A 高台付坪	SI571 覆土	— (1.3) (7.7)	19.3	高台 2/3	ロクロ整形	粗砂粒混入	灰白色 灰白色	
444-PK41 164-9	須恵器B 甕	SI571 カマド	— (5.0) —	41.7	小片	外面平行叩き、内 面ナデ	粗砂粒混入	にぶい黄褐色 灰黄色	
444-PL30 164-10	土師質土器 坪	SI571 覆土	— (14.1) 4.8 (5.6)	34.0	1/6	ロクロ整形、底部 糸切り	細砂粒混入	浅黄褐色 浅黄褐色	
444-PL29 164-11 78	土師質土器 坪	SI571 覆土	— 12.0 4.3 6.6	126.3	ほぼ完形	ロクロ整形、底部 糸切り	細砂粒混入	にぶい褐色 にぶい褐色	
444-PL32 164-12	土師質土器 坪	SI571 床面下	— (1.4) (5.8)	28.8	小片	ロクロ整形、底部 糸切り	細砂粒混入、 緻密	にぶい赤褐色 にぶい褐色	

遺物番号 図面番号 図章番号	種別 器形	出土位置	口径 器高 底径	重さ	遺存度	成・整形技法	胎土	内面色調 外面色調	備考
444-PL34 164-13	土師質土器 盃	SI571 覆土	— (14.7) (1.4)	6.0	小片	ロクロ整形	粗砂粒混入	にぶい黄褐色 にぶい黄褐色	
444-PN04 164-14	灰輪陶器 碗	SI571 覆土	— (2.4) (9.0)	27.6	底部 1/4	ロクロ整形、高台 貼り付け	細砂粒混入、 緻密	灰白色 灰白色	刷毛塗り
444-PH12 165-4 79	土師器 坏	SI572 北カマド	((11.2)) 3.8 (4.4)	60.5	1/3	口縁横ナデ、体部 外面下部横方向へ ラ削り、外面に指 頭圧痕を残す	粗砂粒混入	にぶい褐色 にぶい褐色	体部外面に粘土紐の接 合痕を残す
444-PH13 165-5 79	土師器 坏	SI572 東カマド 北カマド	((11.4)) 3.8 (3.8)	46.7	1/4	口縁横ナデ、体部 外面下部横方向へ ラ削り、外面に指 頭圧痕を残す	粗砂粒混入	にぶい黄褐色 にぶい黄褐色	体部外面に粘土紐の接 合痕を残す
444-PH14 165-6 79	土師器 坏	SI572 覆土	((12.6)) 4.0 (5.8)	24.4	1/5	口縁横ナデ、体部 外面下部横方向へ ラ削り、外面に指 頭圧痕を残す、内 面ヘラ磨き	粗砂粒混入	黄灰色 黒色	内面黒色処理、粘土紐 の接合痕を残す
444-PH16 165-7 79	土師器 甕	SI572 覆土	((14.8)) (11.7) —	228.7	1/3	口縁横ナデ、内面 横方向ヘラナデ	粗砂粒混入	灰褐色 にぶい赤褐色	外面に煤付着
444-PH15 166-8 79	土師器 甕	SI572 北カマド	((23.2)) (17.2) —	811.9	2/3	口縁横ナデ、内面 横方向ヘラナデ	粗砂粒混入	にぶい黄褐色 褐灰色	
444-PH17 165-9 79	土師器 盃	SI572 覆土	— (4.9) —	62.2	小片		粗砂粒混入	灰白色 灰色	把手付
444-PE42 165-10	須恵器B 甕	SI572 覆土	— (10.5) —	182.0	小片	外面平行叩き、内 面同心円文刻み痕	粗砂粒混入	灰白色 灰白色	
444-PE70 166-1	須恵器B 高台付坏	SI572 北カマド	— (3.0) —	117.6	底部完形	ロクロ整形、底部 糸切り、高台貼り 付け	細砂粒混入	灰黄色 灰黄褐色	内面に煤付着
444-PE71 166-2	須恵器B 高台付坏	SI572 東カマド	— (3.7) (9.6)	60.6	底部 1/2	ロクロ整形、底部 糸切り、高台貼り 付け	粗砂粒混入	にぶい褐色 褐色	
444-PL36 166-3 79	土師質土器 坏	SI572 東カマド	11.1 4.0 4.8	106.9	ほぼ完形	ロクロ整形、底部 糸切り	細砂粒混入	淡黄褐色 褐色	内面底部に螺旋状にロ クロ痕を残す
444-PL36 166-4 79	土師質土器 坏	SI572 東カマド	((12.0)) 4.1 5.5	124.9	4/5	ロクロ整形、底部 糸切り	粗砂粒混入	にぶい黄褐色 にぶい黄褐色	
444-PL37 166-5	土師質土器 坏	SI672 床直	((10.5)) (3.1) —	14.9	小片	ロクロ整形	細砂粒混入	明黄褐色 明黄褐色	
444-PL38 166-6	土師質土器 坏	SI572 覆土	— (1.6) 5.5	38.0	底部完形	ロクロ整形、底部 糸切り	粗砂粒混入	にぶい褐色 にぶい褐色	
444-PL71 166-7	土師質土器 坏	SI672 覆土	— (1.5) 5.2	26.4	底部 1/2	ロクロ整形、底部 糸切り	粗砂粒混入	褐色 褐色	
444-PN05 166-8	灰輪陶器 盃	SI572 東カマド	((10.6)) (2.8) —	7.1	小片	ロクロ整形	細砂粒混入、 緻密	灰白色 暗オリーブ色	
444-PE72 169-1	須恵器B 坏	SI573 覆土中層	((13.0)) (3.3) —	11.9	小片	ロクロ整形	細砂粒混入	褐色 浅黄褐色	
444-PH18 169-3	土師器 坏	SI574 覆土	— (1.6) —	3.2	小片	口縁横ナデ	粗砂粒混入	暗灰黄色 灰黄褐色	
444-PE43 169-4	須恵器A 坏	SK1881 覆土	((12.0)) (2.2) —	5.4	小片	ロクロ整形	粗砂粒混入	灰色 灰色	

遺物番号 図面番号 図版番号	種別 器形	出土位置	口径 器高 底径	重さ	遺存度	成・整形技法	胎土	内面色調 外面色調	備考
444-PK73 169-5	須恵器B 坏	SK1893 覆土	((13.2) (1.8) —	3.4	小片	ロクロ整形	粗砂粒混入	灰白色 黄灰色	
444-PK74 169-6	須恵器B 坏	SK1894 覆土	((11.6) (1.7) —	2.0	小片	ロクロ整形	粗砂粒混入	灰黄色 浅黄色	
444-PL44 169-7	土師質土器 坏	SK1897 覆土	((13.5) (3.5) —	26.0	口辺1/4	ロクロ整形	粗砂粒混入	灰黄褐色 にぶい黄褐色	
444-PK75 169-9	須恵器B 坏	SK1903 覆土	((13.6) (1.2) —	3.3	小片	ロクロ整形	細砂粒混入	浅黄色 にぶい橙色	
444-PL46 169-10	土師質土器 坏	SK1903 覆土	((11.3) (3.0) —	5.8	小片	ロクロ整形	細砂粒混入	にぶい橙色 にぶい黄褐色	
444-PK44 169-11	須恵器A 坏	SK1905 覆土	((14.0) (2.1) —	5.0	小片	ロクロ整形	粗砂粒混入	灰色 灰色	
444-PK45 169-12	須恵器A 坏	SK1905 覆土	— (1.4) (6.0)	3.6	小片	ロクロ整形	粗砂粒混入	灰色 灰色	
444-PK46 169-14	須恵器A 坏	SK1907 覆土	— (1.2) (6.2)	10.3	小片	ロクロ整形、底部 糸切り	細砂粒混入、 緻密	灰色 灰色	
444-PL47 169-15	土師質土器 坏	SK1907 覆土	((11.6) (1.9) —	4.0	小片	ロクロ整形	粗砂粒混入	橙色 橙色	
444-PK76 169-17	須恵器A 高台付坏	SK1908 覆土	— (3.0) —	10.7	小片	ロクロ整形、高台 貼り付け	粗砂粒混入	灰黄褐色 灰黄褐色	
444-PL48 169-18	土師質土器 坏	SK1908 覆土	((12.0) (1.5) —	3.1	小片	ロクロ整形	粗砂粒混入	橙色 橙色	
444-PK77 169-19	須恵器B 坏	SK1909 覆土	((11.5) (1.7) —	9.3	小片	ロクロ整形	粗砂粒混入	にぶい黄褐色 にぶい黄褐色	
444-PL51 169-22	土師質土器 坏	SK1913 覆土	((11.1) (1.9) —	4.9	小片	ロクロ整形	細砂粒混入	にぶい橙色 にぶい黄褐色	
444-PK47 170-1	須恵器A 坏	SK1924 覆土	— (1.8) —	3.1	小片	ロクロ整形	粗砂粒混入	灰黄褐色 灰黄褐色	
444-PK48 170-2	須恵器B 坏	SK1924 覆土	— (1.0) (4.8)	5.6	小片	ロクロ整形、底部 糸切り	粗砂粒混入	赤褐色 赤褐色	
444-PK78 170-3	須恵器A 坏	SK1924 覆土	((11.8) (2.1) —	2.9	小片	ロクロ整形	細砂粒混入	灰黄色 灰黄色	
444-PK79 170-4	須恵器B 坏	SK1924 覆土	((11.9) (4.1) —	10.1	小片	ロクロ整形	細砂粒混入	にぶい黄褐色 にぶい橙色	
444-PN06 170-5	灰釉陶器 埴	SK1924 覆土	— (2.2) (6.8)	41.2	底部1/2	ロクロ整形、高台 貼り付け、外面体 部回転ヘラ削り	細砂粒混入	灰白色 灰白色	底部外面中央に暗赤褐色物質付着
444-PK49 170-7	須恵器A 坏	SK2004 覆土	((12.7) (2.4) —	5.3	小片	ロクロ整形	粗砂粒混入	灰色 灰色	
444-PK50 170-8	須恵器A 坏	SK2004 覆土	((12.8) (3.2) —	4.1	小片	ロクロ整形	粗砂粒混入	灰白色 灰白色	
444-PL56 170-9	土師質土器 坏	SK2004 覆土	— (2.7) 5.7	83.4	底部先形	ロクロ整形、底部 糸切り	細砂粒混入	浅黄褐色 にぶい黄褐色	内面底部に螺旋状にロクロ轆を残す、内面体部に煤付着

遺物番号 図面番号 図章番号	種別 器形	出土位置	口径 器高 底径	重さ	遺存度	成・整形技法	胎土	内面色調 外面色調	備考
444-PL57 170-10	土師質土器 杯	SK2004 覆土	— (0.9) (4.8)	23.1	底部完形	ロクロ整形、底部 糸切り	粗砂粒混入	褐色 褐色	内面底部に繻案状にロ クロ痕を残す
444-PL54 170-11	土師質土器 杯	SK2004 覆土	((12.4)) (2.3) —	4.9	小片	ロクロ整形	粗砂粒混入	にぶい褐色 にぶい褐色	
444-PL56 170-12	土師質土器 杯	SK2004 覆土	— (2.1) (6.2)	12.6	小片	ロクロ整形、底部 糸切り	細砂粒混入	浅黄褐色 にぶい黄褐色	
444-FK51 170-16	須恵器A 壺	SX149 覆土	— (8.3)	73.1	小片	外面平行叩き、内 面ナデ	細砂粒混入、 濃密	灰色 灰色	
444-PL58 170-17	土師質土器 高台付杯	SX149 覆土	— (3.6) —	58.0	1/5	ロクロ整形、高台 貼り付け	粗砂粒混入	浅黄褐色 浅黄褐色	
444-PP01 172-1 81	緑釉陶器 函	P-3 覆土	— (1.5) (8.0)	23.8	底部1/3	ロクロ整形、底部 外面回転ヘラ削り 高台貼り付け	細砂粒混入	灰オリーブ色 灰オリーブ色	
444-FK52 172-2	須恵器A 杯	P-9 覆土	— (2.4) (4.5)	7.9	小片	ロクロ整形	粗砂粒混入	灰色 灰色	
444-FK53 172-3 81	須恵器B 杯	P-10 覆土	((12.5)) 3.1 6.2	107.0	3/4	ロクロ整形、底部 糸切り	粗砂粒混入	褐色 褐色	焼き歪み、内面に煤付 着
444-FK54 172-6	須恵器A 杯	P-15 覆土	((13.6)) (1.4) —	2.3	小片	ロクロ整形	粗砂粒混入	暗灰黄色 暗灰黄色	
444-FK55 172-7	須恵器A 杯	P-33 覆土	((13.0)) (1.8)	3.8	小片	ロクロ整形	粗砂粒混入	灰黄色 灰白色	
444-PL59 172-8	土師質土器 杯	P-33 覆土	((12.7)) (2.4) —	17.0	小片	ロクロ整形	細砂粒混入	灰黄褐色 灰黄褐色	
444-FK50 172-10	須恵器B 杯	P-38 覆土	— (1.0) (4.8)	11.5	小片	ロクロ整形、底部 糸切り	粗砂粒混入	浅黄褐色 浅黄褐色	
444-PP10 172-11	灰釉陶器 長頸壺	P-40 覆土	— (4.4)	19.5	小片	ロクロ整形	細砂粒混入	灰白色 灰オリーブ色	
444-FK56 172-12	須恵器A 杯	P-69 覆土	((13.6)) (1.2) —	1.9	小片	ロクロ整形	細砂粒混入	灰白色 灰白色	
444-PP19 172-13	土師質 台付壺	P-70 覆土	— (2.0)	3.9	小片	横ナデ	粗砂粒混入	褐灰色 黒色	
444-PL61 172-14	土師質土器 杯	P-71 覆土	((11.5)) (2.5) —	4.1	小片	ロクロ整形	粗砂粒混入	褐色 褐色	
444-PL62 172-15	土師質土器 杯	P-104 覆土	((13.2)) (2.0) —	4.0	小片	ロクロ整形	粗砂粒混入	にぶい褐色 にぶい黄褐色	
444-FK57 173-1	須恵器A 杯	HM62 覆土	— (3.1) (5.6)	19.2	1/6	ロクロ整形、底部 糸切り	細砂粒混入	灰色 灰色	
444-FK58 173-2	須恵器B 杯	HM76 表土	((12.3)) (3.3) —	7.4	小片	ロクロ整形	粗砂粒混入	にぶい黄褐色 にぶい黄褐色	
444-FK58 173-3	須恵器B 高台付杯	HM72 表土	— (1.4) (6.5)	9.9	小片	ロクロ整形、高台 貼り付け	粗砂粒混入	褐色 褐色	
444-FK53 173-4	須恵器B 高台付杯	H044 表土	— (1.2) —	17.7	小片	ロクロ整形、底部 糸切り、高台貼り 付け	粗砂粒混入	にぶい黄色 にぶい黄色	

遺物番号 図面番号 図版番号	種別 器形	出土位置	口径 器高 底径	重さ	遺存度	成・整形技法	胎土	内面色調 外面色調	備考
444-P658 173-5 82	須恵器A 長頸壺	HM70 表土	— (9.5)	114.9	頸部のみ	ロクロ整形	細砂粒混入	灰色 灰白色	外面自然釉付着、内面に 輪積み痕を残す
444-PL64 173-6	土師質土器 坏	H016 攪乱	— (2.2) (6.9)	43.7	底部 1/2	ロクロ整形、底部 糸切り	細砂粒混入	にぶい黄褐色 にぶい褐色	
444-PL66 173-7	土師質土器 坏	HM76 表土	— (2.0) (6.0)	11.7	底部 1/4	ロクロ整形、底部 糸切り	粗砂粒混入	淡黄色 淡黄色	
444-PL68 173-8	土師質土器 高台付坏	HM79 表土	— (2.6)	26.9	小片	ロクロ整形、底部 糸切り、高台貼り 付け	粗砂粒混入	にぶい褐色 にぶい褐色	
444-PL70 173-9	土師質土器 高台付坏	— 表土	— (2.3)	29.8	底部 1/2	ロクロ整形、底部 糸切り、高台貼り 付け	粗砂粒混入	淡黄色 淡黄色	西側調査区出土
444-P907 173-10	灰輪陶器 瓿	HM74 表土	((16.0)) (2.8)	9.9	小片	ロクロ整形、外面 体部回転ヘラ削り	細砂粒混入	灰白色 灰白色	刷毛塗り
444-P909 173-11	灰輪陶器 壺	H016 攪乱	— (1.9) (10.9)	74.5	底部 1/4	ロクロ整形、高台 貼り付け	細砂粒混入	灰白色 灰黄褐色	内面に自然釉、外面に 釉の流れ跡あり

445 次調査歴史時代土器一覧

遺物番号 図面番号 図版番号	種別 器形	出土位置	口径 器高 底径	重さ	遺存度	成・整形技法	胎土	内面色調 外面色調	備考
445-PK01 180-1	須恵器B 坏	SI575 覆土	((13.8)) (3.7)	13.4	小片	ロクロ整形	粗砂粒混入	淡黄色 にぶい黄褐色	
445-PK04 180-2 85	須恵器B 坏	SI575 覆土	11.7 4.7 6.6	84.0	4/5	ロクロ整形、底部 糸切り	粗砂粒混入	にぶい褐色 にぶい褐色	
445-PL02 180-3	土師質土器 坏	SI575 覆土	((14.6)) (4.8)	47.9	1/4	ロクロ整形	粗砂粒混入	褐色 褐色	
445-PL03 180-4	土師質土器 坏	SI575 覆土	((13.4)) (4.6)	52.3	1/5	ロクロ整形	粗砂粒混入	褐色 にぶい褐色	
445-PL04 180-5	土師質土器 足高高台付坏	SI575 カマド	16.3 8.0 10.2	301.5	完形	ロクロ整形、高台 貼り付け	粗砂粒混入	褐色 褐色	
445-PL05 181-4	土師質土器 坏	P-13 覆土	— (1.7) (4.9)	8.5	小片	ロクロ整形、底部 糸切り	粗砂粒混入	褐色 にぶい褐色	
445-PH01 181-7	土師器 坏	P-44 覆土	— (1.0) (6.2)	16.4	底部 1/3	内面ヘラナゲ、体 部外面横方向ヘラ 削り	粗砂粒混入	黄灰色 黄灰色	
445-PK02 181-8	須恵器A 坏	HL2 攪乱	((12.3)) (3.5)	18.5	小片	ロクロ整形	粗砂粒混入	明赤灰色 明赤灰色	
445-PK03 181-9	須恵器A 坏	HL2 攪乱	— (2.2) (7.6)	15.7	小片	ロクロ整形、底部 糸切り	粗砂粒混入	灰色 灰色	

459 次調査中世陶器一覧

遺物番号 図面番号 図版番号	種別 器形	出土位置	口径 器高 底径	重さ	遺存度	成・整形技法	胎土	内面色調 外面色調	備考
459-PT01 185-1	中世陶器 壺	LM26 表土	— (4.1)	39.3	小片	ナゲ	砂粒多量混入	黒褐色 オリーブ黒色	常滑

遺物番号 図面番号 図版番号	種別 器形	出土位置	口径 器高 底径	重さ	遺存度	成・整形技法	胎土	内面色調 外面色調	備考
459-PT02 185-2	中世陶器 甕	LM16 表土	— (9.7) —	93.3	小片		長石粒多量混入	灰黄褐色 にぶい赤褐色	
459-PT03 185-3	中世陶器 甕	LM16 表土	— (4.3) —	37.4	小片		砂粒多量混入	灰黄褐色 灰黄褐色	

421 次調査鏡瓦一覽

遺物番号 出土位置 図面番号 図版番号	直 径 重 量	内 区				外 区					全 長	備 考	
		中房径 形 態	蓮子径 形 態	外区径 弁幅	弁径 形 態	幅	内 縁		外 縁				
							幅	文様	幅	高			文様
421-KA01 SD174 4-6	(4.3) 91.0	-	-	(1.9)	((8.0)) SC	2.2	0.6		1.6	0.8	a	(4.0)	

421 次調査男瓦一覽

遺物番号 出土位置 図面番号 図版番号	狭端径 広端径 全 長	厚 重 さ 重 量	素 材	布 目	凹面特徴	凸面叩き	凸面特徴	端面特徴	備 考
421-KC01 S1537 2-1	(4.7) - (22.8)	1.2 552.4	横粘土紐	21×18	広端縁一面ヘラ削り			ナデ	カマド出土
421-KC03 S1537 2-2	- (11.9) (21.1)	2.1 1017.6	横粘土紐	32×36	広端縁ヘラ削り、 棒状工具によるナデ		広端縁ヘラ削り	棒状工具によるナデ、 二面ヘラ削り	
421-KC02 S1537 2-3 I	12.0 - (18.4)	1.6 1090.6	横粘土紐	20×16	粘土紐の接合痕、 側端縁ヘラ削り	縄目	縄叩き後、縦方向の ヘラナデで磨り消し ている	ナデ	カマド出土 白色針状物質混入
421-KC04 S1537 2-4	(6.8) - (21.7)	1.5 796.7	横粘土紐	46×38	端縁一面ヘラ削り、 布かがり、粘土紐の 接合痕を指ナデで消している		端縁ヘラ削り、ヘラ ナデ痕あり?	ナデ	カマド出土
421-KC05 SD319 4-15	- - (8.9)	1.8 225.0	横粘土紐	31×33	粘土紐の接合痕・ 指ナデ痕あり			ヘラ削り	
421-KC06 SD319 5-1	- (7.5) (5.4)	1.6 111.3	横粘土紐	424×27	広端縁幅広くヘラ 削り、指ナデ痕あり		横方向のヘラナデ、 広端縁幅広くヘラ削り	ヘラ削り	白色針状物質混入
421-KC07 SK1966 5-7	- - (9.6)	1.3 150.0	横粘土紐	27×27	側端縁指ナデ	縄目	叩き目を磨り消し ている	ナデ	
421-KC08 S21 6-6	- - (11.3)	1.6 269.9	横粘土紐	21×27	側端縁ヘラ削り			ナデ	白色針状物質混入
421-KC09 B区 P-35 7-10	- (6.5) (5.6)	1.6 125.6	横粘土紐	421×24				側端縁ヘラ削り、 広端縁裏面時の圧 痕あり	
421-KC10 F区 IK28 7-13	(3.8) - (10.2)	1.2 119.3		23×25	塊骨痕、指ナデ痕 あり			側端縁ヘラ削り、 乾燥時の圧痕あり	
421-KC11 F区 I133 7-14	- - (8.1)	1.5 161.6	横粘土紐	25×33	側端縁幅広くヘラ 削り		自然輪が認められる	ヘラ削り	

421次調査女互一覽

遺物番号 出土位置 図面番号 図版番号	横端幅 全長	厚さ 重さ	素材	布目	凹面特徴	凸面叩き	凸面特徴	端面特徴	備考
421-KD03 S1537 2-5 1	- (6.8) (17.5)	2.5 684.3			全体的になでている	正格子		側端面ナデ、広端面ヘラ削り	カマド出土
421-KD01 S1537 3-1 1・85	- (15.0) (22.6)	1.7 1131.4	横粘土紐	14×20	側縁一面ヘラ削り	斜格子、「橋」押型	押型「橋」の逆字 191-22	ナデ	押型「橋」橋脚部 カマド出土
421-KD02 S1537 3-2	(16.1) - (18.0)	2.1 1298.6	横粘土紐	25×26	右側縁縁に開叩きあり、朱墨痕あり	罫目 L9本		側端面罫叩き痕有り	カマド内出土
421-KD04 S1537 3-3	- (12.6) (17.4)	2.5 1137.4	横粘土紐	26×36	側端縁幅広くヘラ削り、指ナデ痕有り	正格子		広端面ヘラ削り	カマド出土 白色針状物質混入
421-KD06 S1537 3-4 1・96	- (8.7) (9.7)	2.8 478.3	粘土板	20×18	広端縁ヘラ削り	押型「花」	押型「花」、指ナデ痕あり 191-21	ナデ	押型「花」花原郡 カマド出土
421-KD05 S1537 3-5	- (6.8) (19.3)	2.2 897.3	横粘土紐	21×23	広・側端縁一面ヘラ削り	正格子	叩き密	ナデ	カマド出土
421-KD07 SD319 5-2	- (5.5) (5.6)	2.0 74.1				罫目 L8本			
421-KD08 SD319 5-3	- (8.8)	1.2 97.7				罫目 L10本			
421-KD09 SD319 5-4	- (12.1)	2.4 240.0	粘土板	22×23	糸切り痕あり	罫目 L7本	指ナデ痕あり		
421-KD10 SK1568 5-11 2	- (15.5) (11.6)	2.6 791.7	粘土板	20×24	横方向ヘラ削り、側端縁ヘラ削り	正格子	ナデ痕あり	ヘラ削り	
421-KD11 SK1568 5-12	- (11.8) (9.5)	2.3 300.8			指ナデ痕あり	罫目 L9本	広・側端縁指ナデ、棒状圧痕あり	ナデ、乾燥時の圧痕あり	
421-KD12 SZ1 6-7 2・94	- (28.8) (30.7)	2.5 3180.0	横粘土紐	15×21	押印「高」、両側端縁ヘラ削り、ヘラナデ痕あり凸凹あり 191-5	罫目 L10本	ヘラナデ	ナデ	押印「高」高麗郡
421-KD13 SZ1 6-8	(7.9) - (14.8)	1.5 460.0	横粘土紐	20×24		罫目 L9本	狭・側端縁ナデ	ナデ	
421-KD14 SZ1 7-1	- (11.2)	3.0 510.0	横粘土紐	30×27	指ナデ痕あり	罫目 L8本	ヘラ状工具によるナデ		
421-KD15 SZ1 7-2	(7.2) - (10.3)	1.7 275.0				罫目 L10本		ナデ	
421-KD16 SZ1 7-3	(9.7) - (14.7)	1.7 530.0			側端縁わずかにヘラ削り	罫目 L9本		ナデ	

遺物番号 出土位置 図面番号 図版番号	狭幅幅 広幅幅 全長	厚 重 さ さ	素 材	布 目	凹面特徴	凸面叩き	凸面特徴	端面特徴	備 考
421-KD17 B区P-34 7-8	- (8.7) (9.7)	2.0 280.0	横粘土紙	19×21	指ナデ痕あり	縄目 L10本	指ナデ痕あり	ナデ、乾燥時の圧痕あり	
421-KD18 B区P-34 7-9	(10.7) - (15.6)	2.3 559.0		22×19	側縁一面ヘラ削り、指ナデ痕あり	縄目 L9本	棒状圧痕あり	ヘラ削り	
421-KD19 A区 7-15	- - (7.8)	2.2 122.3		28×30		縄目 L13本			
421-KD20 A区 7-16	- - (6.5)	2.1 64.9		{30×27}		縄目 L11本			
421-KD21 D区 8-1	- - (8.5)	1.9 164.8	粘土板	16×21	指の圧痕あり、布が重なっている可能性あり	縄目 L9本			
421-KD23 F区IK30 8-2	- - (9.0)	2.4 267.7		24×24		縄目 L10本	ヘラナデ痕あり		
421-KD24 F区I130 8-3	- - (8.8)	1.7 366.1	横粘土紙	13×17		縄目 L11本	部分的に指ナデ痕あり	ナデ	
421-KD22 F区IK28 8-4	- - (8.0)	2.3 189.8		26×18		縄目 L10本			

421次調査磚一覽

遺物番号 出土位置 図面番号 図版番号	長辺長 短辺長	厚 重 さ さ	素 材	上面特徴	下面特徴	側面特徴	備 考
421-KD101 ST537 4-1 ?	(13.1) 18.0	6.8 2219.9	粘土板	ヘラ削り	ヘラ削り	ヘラ削り	袖構部材 白色針状物質混入

428次調査字瓦一覽

遺物番号 出土位置 図面番号 図版番号	上・下弦 弧幅 弧深	厚 重 さ さ	内 区		外 区				端 区		全長	備 考
			厚さ	文様	上		下		幅	文様 深さ		
					厚さ	文様	厚さ	文様				
428-KB01 遺構外 14-3 7	- -	3.2 120.3	-	IK	(2.5)	-	-	-	-	0.2	(4.7)	

431・446・460次調査燈瓦一覽

遺物番号 出土位置 図面番号 図版番号	直 径 重 さ	内 区				外 区					全 長	備 考	
		中層径 形 態	蓮子数	弁区径 弁幅	弁数 形態	幅	内 縁		外 縁				
							幅	文様	幅	高			文様
431-KA01 S1545 29-2 15	((20.2)) 192.6	((6.2))	—	((15.2)) 2.1	(1) SA	2.5	—	—	2.5	1.4	a	2.9	覆土上層

431・446・460次調査字瓦一覽

遺物番号 出土位置 図面番号 図版番号	上・下弦 幅 厚 重 厚 さ	厚 重 厚 さ	内 区		外 区				脇 区		全長	備 考
			厚 さ	文様	上		下		幅	文様 厚 さ		
					厚 さ	文様	厚 さ	文様				
431-KB01 S1544 19-3 9	— —	4.6 116.7	2.1	H	1.3	a	1.2	a	1.1	0.2	(3.5)	ヘラ書き文 カマド出土 瓦の形態B-b
431-KB02 S1545 21-13 11	((12.7)) ((12.0)) ((2.8))	4.2 747.7	—	3G	—	—	—	—	—	0.2	(10.2)	重弧文 カマド出土 瓦の形態B2 技法D
431KB03 S1545 21-14	((8.8)) ((8.4)) ((1.6))	3.5 281.7	—	—	—	—	—	—	—	—	(7.0)	
431KB04 S1547 25-1 12	((9.6)) ((14.4)) —	6.4 964.0	4.1	KK	1.4	—	0.9	—	—	0.3	(12.9)	均正唐草文 瓦の形態B3 技法D
460KB01 S1588 53-11 25	— —	6.4 1424.6	3.0	KK	1.7	—	1.7	—	2.2	0.3	(6.6)	均正唐草文 瓦の形態B
460KB02 S1588 53-12 25	— —	6.1 904.8	3.0	KK	1.2	f	1.9	f	—	0.2	(5.7)	均正唐草文 瓦の形態B2-C 技法D
460KB03 P147 83-17 37	— —	4.5 1761.2	3.0	KK	0.2	a	1.3	a	1.8	0.6	(15.6)	均正唐草文 瓦の形態B2-C

431・446・460次調査男瓦一覽

遺物番号 出土位置 図面番号 図版番号	表端幅 広端幅 全 長	厚 重 厚 さ	素 材	布 目	図面特徴	凸面叩き	凸面特徴	端面特徴	備 考
431-KC18 SB157 17-5	— —	1.3 49.4	横粘土織	(21×27)				ヘラ削り	
431-KC19 SB158 17-7	— —	1.1 47.6		17×22			ヘラナデ	ナデ	
460-KC10 SB161 17-9	— —	1.2 186.3	横粘土織	27×21	粘土織の接合痕、 布合わせ目 Sa		ヘラナデ	ヘラ削り	
431-KC01 S1544 19-4 9	— —	1.2 1086.0	横粘土織	22×25	粘土織の接合痕を 滑ナデで消してい る		回転ヘラナデ	側端面ナデ、広 瀬洒落とし	カマド出土

遺物番号 出土位置 図面番号 図版番号	弥生幅 広幅幅 全長	厚 さ	素 材	布 目	凹面特徴	凸面叩き	凸面特徴	端面特徴	備 考
431-KC02 SI544 19-5 9	- (20.6)	1.3 466.9	横粘土紐	36×33	側端縁幅広くヘラ 削り、布合わせ目 Sb		側端縁部分的に ナデ		カマド出土
431-KC03 SI545 21-15	- (12.8)	1.3 286.1	横粘土紐	21×24	布合わせ目 Sb	罫目 L9本	全体にナデで、 叩き目を磨り消 している	側端面ナデ	カマド出土
431-KC04 SI547 25-2	- (9.3)	1.3 53.1	横粘土紐	19×23	側端縁ヘラ削り		側端縁幅狭く一 面ヘラ削り、ヘ ラナデ	側端面ナデ	
431-KC05 SI547 25-3	- (15.8)	1.1 308.1	横粘土紐	22×22	布合わせ目 Sb、模 骨痕あり	罫目	叩き目を磨り消 している	側端面ナデ	
431-KC06 SI547 25-4	- (9.1) (10.2)	1.6 326.2	横粘土紐	24×19	側端縁幅広く一面 ヘラ削り			側端面ヘラ削り、 広端面ナデ	白色針状物質混入
431-KC07 SI548 29-3	- (8.2) (14.4)	1.8 438.6	横粘土紐	22×22		罫目 L11本	叩き目を磨り消 している	ナデ	覆土上層
431-KC08 SI548 29-4	- (6.3) (25.6)	1.4 861.1	横粘土紐	22×17	粘土紐の接合痕を 指ナデで磨り消し ている、側端縁一 面ヘラ削り	罫目 L14本	叩き目を磨り消 している	側端面一面ヘラ 削り	カマド出土
431-KC09 SI548 29-5	- (12.4)	1.4 222.9	横粘土紐	33×26	側端縁一面ヘラ削り		側端縁ヘラナデ	側端面ナデ	カマド出土
431-KC12 SI549 34-1	- (10.3) (9.2)	1.1 277.2	横粘土紐	22×20	指ナデ痕あり、乾 燥時の圧痕あり	罫目 L(9)本	叩き目を磨り消 している	ナデ	
431-KC13 SI549 34-2	- (9.8)	1.3 321.2		《15×24》				ナデ	
431-KC10 SI549 34-3	- (11.8)	1.4 346.5	横粘土紐	31×25	粘土紐の接合痕を 指ナデしている、 布合わせ目 Sb			ナデ	カマド出土
431-KC15 SI549 34-4	- (14.1)	1.9 306.9	横粘土紐	25×28	粘土紐の接合痕を 指ナデしている、 側端縁ヘラ削り、 布継ぎ目あり			ナデ	カマド出土
431-KC14 SI549 34-5 18	10.4 (15.2)	0.7 339.1		23×17	布合わせ目 Sb			ナデ	カマド出土
431-KC18 SI549 34-6	- (10.3)	1.4 163.8	横粘土紐	23×22	朱墨書不明、模骨 痕あり	罫目	叩き目を磨り消 している		白色針状物質混入
431-KC16 SI549 34-7	(9.9) (17.1)	1.4 684.9		《21×18》	布合わせ目 Sb			ヘラ削り	カマド出土
431-KC17 SI549 35-1 18	10.0 (23.1)	1.5 724.0		14×19	側端縁幅広く一面 ヘラ削り、布合わ せ目 Sa		側端縁一面ヘラ 削り	ヘラ削り	カマド出土
431-KC21 SI550 36-14	- (25.7)	1.0 487.0	横粘土紐 ?	16×20	指ナデ痕あり	罫目	横方向にナデで 叩き目を磨り消 している	ナデ	カマド出土 支脚

遺物番号 出土位置 図面番号 図版番号	狭幅編 広幅編 全 共	厚さ 重さ	素材	布目	凹面特徴	凸面叩き	凸面特徴	端面特徴	備考
431-KC19 SI550 37-1	- (21.4)	1.0 386.1		18×21		縄目	叩き目を磨り消している	ナデ	
431-KC20 SI550 37-2	- (13.4) (10.4)	1.0 287.0	横粘土紐?	16×23	側端縁一面ヘラ削り	縄目	叩き目を磨り消している	乾燥時の圧痕あり、ヘラ削り	カマド出土 支脚
431-KC22 SI551 38-6	- (11.1) (9.6)	1.5 334.7			ヘラナデ		側端縁一面ヘラ削り	広端陥落し、ヘラ削り	カマド出土 白色針状物質混入
431-KC23 SI551 38-7	- (16.8) (12.0)	2.0 884.2	横粘土紐	18×29	布合わせ目 Sa、指ナデ痕あり	縄目	縄叩き後磨り消している	広端面乾燥時の圧痕あり、ヘラ削り	カマド出土
431-KC24 SI552 41-1	- (14.8) (8.8)	1.7 421.4		18×16	広端縁に布端部の痕跡あり		ヘラナデ	広端面乾燥時の圧痕あり、側端面ヘラ削り	覆土上層
431-KC25 SI552 41-2	(4.0) -	0.9 292.2	横粘土紐	18×15	粘土紐の接合痕あり、布合わせ目 Sb		ナデ	ヘラ削り	覆土上層
431-KC27 SI552 41-3	- (12.3) (9.4)	1.0 394.9	横粘土紐	17×17	一部自然軸付着	縄目 L(16)本	叩き目を磨り消している	ナデ	覆土下層
431-KC28 SI552 41-4	- (7.1)	1.4 197.3	横粘土紐	43×38	粘土紐の接合痕あり、側端縁幅広くヘラ削り		分刺痕あり	糸切り痕あり	覆土上層
431-KC29 SI552 41-5 20	- 20.3 (31.0)	1.5 1746.6	横粘土紐	18×23	粘土紐の接合痕あり、布合わせ目 Sa、側端縁ヘラ削り後ナデ、朱熱痕	縄目	縄叩き後磨り消している	ナデ	
431-KC26 SI552 42-1	10.4 -	1.6 957.1	横粘土紐	13×17	布合わせ目 Sa	縄目	叩き目を磨り消している	ナデ	
431-KC32 SI552 42-2	- (5.6) (7.8)	1.5 65.5	横粘土紐	23×18			ナデ	広端面乾燥時の圧痕あり	カマド出土 支脚
431-KC33 SI552 42-3	- (8.1)	1.2 119.1	横粘土紐	36×33	布合わせ目 Sb、側端縁一面ヘラ削り			ヘラ削り	カマド出土 支脚
431-KC30 SI552 42-4 21	(7.0) (4.7) 40.3	1.2 1097.3	横粘土紐	24×21	両側端縁ヘラ削り、広端縁幅広く指ナデ痕あり	縄目 LS本	側端縁ヘラ削り、叩き目を磨り消している	底・広端面ヘラ削り、右側端面ナデ、左側端面糸切り	
431-KC31 SI552 42-6	10.8 -	1.3 428.3	横粘土紐	27×25	粘土紐の接合痕を指ナデしている		ヘラナデ	ナデ	カマド出土
431-KC34 SI552P-2 43-1	- (15.9)	1.3 810.3	横粘土紐	27×24	粘土紐の接合痕を指ナデしている			ナデ	
431-KC35 SI552 43-2	- (6.2)	1.4 72.6		27×24	指ナデ痕あり			-	白色針状物質混入
431-KC36 SI553 47-5	(3.0) -	1.6 673.2		26×30	側端縁ヘラ削り・自然軸が認められる		側端縁ヘラ削り、自然軸が認められる	ヘラ削り	

遺物番号 出土位置 図面番号 図版番号	横幅 広端幅 全長	厚さ 重さ	素材	布目	図面特徴	凸面叩き	凸面特徴	端面特徴	備考
431-KC37 SI553 47-6	- - (19.5)	1.5 570.5	横粘土紐	20×25		縄目 L(9)本	叩き目を磨り消している	ナデ	カマド出土
431-KC38 SI553 47-7	- - (13.0)	1.0 272.4	横粘土紐	18×13		縄目 L(15)本	叩き目を磨り消している	ナデ	カマド出土 支脚
431-KC39 SI553 47-8	- (4.7) (13.9)	1.6 494.2	横粘土紐	《24×24》	布合わせ目 Sb、横骨痕あり			広端面乾燥時の 圧痕あり、側端 面ヘラ削り	
446-KC01 SI677 51-12	- - (13.5)	1.9 966.1	横粘土紐		側端縁一面ヘラ削り、全面縦方向のヘラナデ		側端縁一面ヘラ削り、全面縦方向のヘラナデ	側端面一面ヘラ削り	カマド出土 白色針状物質混入
446-KC02 SI577 51-13 26	- (2.1) (32.2)	1.3 911.4	横粘土紐	39×45	側端縁一面ヘラ削り、横骨痕あり	縄目 L12本	縄叩き後板状工具による横ナデ	二端面一面ヘラ削り、広端陥落し	
460-KC01 SI688 53-13	- 22.9 (35.7)	1.8 2085.8	横粘土紐	34×35	朱墨書不明、広・側端縁一面ヘラ削り、布合わせ目 Sa		広、側端縁一面ヘラ削り	ヘラ削り	カマド出土
460-KC02 SI587B 57-7	- (9.8) (27.1)	1.6 1030.5	横粘土紐	《24×21》	広・側端縁一面ヘラ削り、全面自然輪・縄叩き後縦ナデ	縄目 L(12)本	縄叩き後縦ナデ・広端縁ヘラ削り	広端面ヘラ削り、側端面自然輪の高削りが判らない	
460-KC03 SI589 60-7	(6.4) - (11.2)	1.7 282.8	横粘土紐	17×19	側端縁一部一面ヘラ削り、布合わせ目痕あり	縄目	縄叩き後横ナデ・側端縁一面ヘラ削り	ヘラ削り	
460-KC04 SI593 61-14 29	11.0 - (18.4)	1.7 1065.4		18×18	側端縁一面ヘラ削り、布合わせ目 Sa	縄目 L(12)本	縄叩き後ヘラナデ、側端縁を両方軽く削っている	ヘラ削り	
460-KC05 SI593 62-1	(5.2) - (11.9)	1.6 290.6		28×32	朱墨書不明、狭・側端縁一面ヘラ削り	縄目	縄叩き後横方向にヘラナデ 右側端縁小さくヘラ削り	ヘラ削り	カマド出土
460-KC06 SI594 64-1 30	- 20.5 (30.7)	2.0 2303.6	横粘土紐	18×22	粘土紐の接合痕を横ナデで磨り消している、端縁一面ヘラ削り		広端縁一面ヘラ削り、ヘラナデ	広端陥落とし、二端面一面ヘラ削り	カマド出土
460-KC07 SI594 64-2	- (20.5) (26.8)	1.5 1534.0	横粘土紐	24×25	広端側に棒状圧痕	縄目	縄叩き後ヘラナデ、側端縁一面ヘラ削り	側端面一面ヘラ削り、広端面ワラ状圧痕	カマド出土
431-KC40 SI326 67-10	- - (6.7)	1.3 88.1		23×27				ヘラ削り	
431-KC41 SI327 67-13	- - (7.8)	1.3 50.7		22×19			ナデ	-	白色針状物質混入
431-KC42 SK1675 69-10	- - (3.4)	1.1 19.1		《21×18》				-	
431-KC44 SK1676 69-16	- - (5.7)	1.5 68.7	横粘土紐	24×21	粘土紐の接合痕を横ナデしている、側端縁幅広くヘラ削り		ヘラナデ	ヘラ削り	白色針状物質混入
431-KC43 SK1676 69-17	- - (14.0)	1.6 440.0	横粘土紐	25×33	側端縁ヘラ削り、指ナデ痕あり	縄目	縦方向ナデ	ヘラ削り	

遺物番号 出土位置 図面番号 図版番号	狭幅幅 広端幅 全長	厚 重 さ	素 材	布 目	凹面特徴	凸面叩き	凸面特徴	端面特徴	備 考
431-KC46 SK1743 70-10	- (3.7) (4.6)	1.7 79.4		18×19				広端面結縛時の 圧痕あり、ヘラ 削り	
431-KC47 SK1743 70-11	- (5.0)	0.8 29.8		22×15	布の合わせ目痕 Sb			ナゲ	
446-KC03 SK1929 73-3	- (6.3)	1.5 107.6	横粘土紐	《27×30》	粘土紐の接合痕を 消している		縦ナゲ、側端縁 ヘラ削り	側端面一面ヘラ 削り	
460-KC08 SK2082 74-1	- (14.7)	1.4 265.5	横粘土紐	《24×21》	側端縁狭くヘラ 削り		ヘラ書不明、側 端縁一面ヘラ削 り、ヘラナゲ 190-13	側端面部分的に 二面ヘラ削り	白色針状物質混入
460-KC17 SK2069 76-2	- (13.5)	1.8 407.3	横粘土紐	30×33	接骨痕あり		側端縁一面ヘラ 削り、縦方向的 ヘラナゲ	ヘラ削り	
460-KC09 SK2070 76-5	(4.9) - (17.1)	1.1 228.8	横粘土紐	18×16	端縁一面ヘラ削り		ヘラナゲ	ヘラ削り	白色針状物質混入
431-KC50 P-210 79-9	- (8.7)	1.6 166.8	横粘土紐	41×45	指ナゲ痕あり			-	
431-KC51 P-349 80-2	- (5.7)	1.2 88.4	横粘土紐	41×41				-	
431-KC52 P-362 390 80-3	- (5.4)	1.0 55.4		28×26	布合わせ目 Sb	縄目	叩き目を磨り消 している	-	
431-KC53 P-371 80-4	- (9.1)	1.3 319.0		24×30	布合わせ目 Sb		ヘラナゲ	ヘラ削り	
431-KC54 P-512 80-13	- (6.4)	1.6 110.7		28×25			ヘラナゲ	ヘラ削り	
431-KC45 P-613 80-14	(5.3) - (5.6)	1.3 64.8		22×19	指ナゲ痕		ヘラナゲ	ヘラ削り	
446-KC08 P-86 81-3	- (6.0) (3.5)	1.5 82.6		《21×27》			横ナゲ	側端面一面ヘラ 削り、広端面ナ ゲ	
446-KC04 P-120 81-7	- (5.9)	1.5 83.1	横粘土紐	24×25			横方向ヘラナゲ	-	
446-KC05 P-157 81-16	- (6.2)	1.4 59.3		《18×15》	布合わせ目痕		ヘラナゲ	-	
446-KC06 P-268 82-14	(5.2) - (13.3)	1.4 306.6	横粘土紐	38×43	朱墨痕あり、狭端 縁一面ヘラ削り		ヘラナゲ	側端面点切り、 狭端面ナゲ	
446-KC07 P-289 82-19	- (5.3)	1.2 156.0	横粘土紐	18×18	側端縁一面ヘラ削 り		側端縁一面ヘラ 削り	ヘラ削り	

遺物番号 出土位置 図面番号 図版番号	狭幅幅 広幅幅 全長	厚 重 さ	素 材	布 目	凹面特徴	凸面叩き	凸面特徴	端面特徴	備 考
460-KC11 P-110 83-14	- - (7.7)	1.5 147.7	横粘土紐	19×22	側端縁一面ヘラ削り		ヘラナゲ・側端縁一面ヘラ削り	ヘラ削り	
460-KC12 P-147 83-18	- (10) (15.8)	0.8 498.2	横粘土紐	21×18	粘土紐の接合痕、広端縁に布端部の圧痕		横方向にヘラナゲ	側端縁一面ヘラ削り、広端面ワラ状圧痕	
431-KC65 HA18 85-1	- - (8.3)	1.5 136.3	横粘土紐	《27×24》	布合わせ目 Sb	縄目	側端縁一面ヘラ削り、叩き目を磨り消している	糸切り後ナゲ	
431-KC66 HE16 85-2	- - (14.1)	1.5 318.1		26×31		縄目	磨り消している		
431-KC67 HE47 85-3	- - (7.5)	1.9 91.0		30×25			押印「口瓦」不明 191-13	-	白色針状物質混入
431-KC68 HA35 85-4	- (5.0) (9.1)	1.0 133.1		20×16	布合わせ目 Sb	縄目	叩き目を磨り消している		
460-KC13 GB40 85-5	- - (13.4)	1.6 294.8	横粘土紐	26×25	朱墨書不明、側端縁一面ヘラ削り	縄目 L10本	縄叩き後ヘラナゲ	ヘラ削り	
460-KC14 GF32 85-6	- (7.1) (15.5)	2.1 653.8	横粘土紐	《27×30》	端縁一面ヘラ削り		側端縁一面ヘラ削り、一部布の圧痕あり、ヘラナゲ	ヘラ削り	
460-KC16 GC45 85-7	- (11.2) (9.8)	2.0 499.7	横粘土紐	24×24	粘土紐の接合痕を指ナゲで磨り消している、広・側端縁一面ヘラ削り	縄目 L10本	縄叩き後ナゲ・側端縁一面ヘラ削り	隅落とし、広端面ヘラ削り、側端面ナゲ	
460-KC15 GF15 85-8	(7.4) - (11.4)	1.5 350.2	横粘土紐	19×16	布合わせ目 Sb	縄目	縄目叩き後縦方向に磨っている、狭端縁ナゲ	側端面糸切り痕、狭端面ナゲ	

431(494)・446・460次調査女瓦一覽

遺物番号 出土位置 図面番号 図版番号	狭幅幅 広幅幅 全長	厚 重 さ	素 材	布 目	凹面特徴	凸面叩き	凸面特徴	端面特徴	備 考
431-KD83 SB187 2-2 17-6	- - (7.5)	2.2 139.3		31×30	指ナゲ痕あり	縄目 L14本	指ナゲ痕あり	-	
431-KD02 SI544 19-6 9	(8.4) - (18.5)	2.0 952.5	横粘土紐	24×19	模骨文字不明、側端縁幅狭くヘラ削り、指ナゲ痕	縄目 L10本	端縁指ナゲ	側端面指ナゲ	カナド出土
431-KD01 SI544 19-7 10	- (19.8) (14.2)	2.0 1007.6	横粘土紐	29×28	一部指ナゲ	縄目 L11本	端縁指ナゲ	ナゲ	カナド出土
431-KD03 SI544 20-1	(12.6) - (13.7)	2.4 810.1		21×30	側端縁二面ヘラ削り、狭端縁一面ヘラ削り、指ナゲ痕	縄目 L11本	部分的に指ナゲ	ヘラ削り	カナド出土
431-KD06 SI544 20-2	- - (9.5)	2.2 417.0		21×19	模骨「中」、側端縁幅狭くヘラ削り 191-34	縄目 L8本	側端縁ヘラナゲ	ナゲ	カナド出土

遺物番号 出土位置 図面番号 図版番号	接線幅 広さ 全長	厚さ	素材	布目	図面特徴	凸面向き	凸面特徴	端面特徴	備考
431-KD04 S1544 20-3	- { 8.5 (19.1)	2.6 746.9	粘土板	《27・27》	端縁付近指ナゲ、 糸切り痕	縦目 L5本		ナゲ	カマド出土
431-KD06 S1544 20-4 10	- (14.2)	2.2 737.5	横粘土紐	21×22	横骨文字不明、側 端縁幅狭く一面ヘ ラ削り、部分的に ナゲ 191-39	縦目 L10本	側端縁指ナゲ	側端面指ナゲ	横骨不明「大」か 「天」? カマド出土
431-KD07 S1544 20-5 10	(13.5) - (18.6)	2.5 1324.6	横粘土紐	31×38	側端縁幅広く一面 削り、狭増縁 ヘラナゲ	縦目 R13本	端縁指ナゲ	ヘラ削り	カマド内出土
431-KD11 S1545 21-16	- - (11.6)	2.4 360.5	横粘土紐	《21・21》	側端縁幅広くヘラ 削り、棒状圧痕あ り	縦目 L8本		ヘラ削り	カマド内出土 白色針状物質混入
431-KD08 S1545 22-1 11-93	- - (10.1)	1.7 584.6	横粘土紐	30×27	ヘラ書き「余」、 側端縁二面ヘラ削 り 裏付書 190-5	縦目 L10本		ヘラ削り	ヘラ書き「余戸」余 戸跡?
431-KD09 S1545 22-2 11	(14.2) - (19.7)	2.0 1209.7	横粘土紐	32×37	広・側端縁幅広く ヘラ削り	縦目 L10本	広・側端縁ナゲ	ヘラ削り	
431-KD12 S1545 22-3	- - (10.2)	2.1 369.8	粘土板	27×24	側端縁一面ヘラ削 り、縦方向のヘラ ナゲ	斜格子		ナゲ	カマド内出土
431-KD13 S1545 22-4	- (7.2) (14.1)	3.2 679.3	横粘土紐	《18・21》	広端縁幅広くヘラ 削り、一部に裏付 書	縦目 L8本	部分的にヘラナ ゲ	広端面乾燥時の 圧痕あり、広端 面ナゲ	白色針状物質混入
431-KD14 S1546 23-11 94	- - (6.5)	2.4 83.4		《18・21》	押印「多」 191-1	縦目 L(12)本	一面指ナゲ	-	押印「多」多層部
431-KD15 S1546 23-12	(10.2) - (15.9)	2.2 605.1	粘土板	23×22	押印文字不明、側 端縁幅狭い二面ヘ ラ削り、糸切り痕 191-15	縦目 L6本	指ナゲ痕あり	指ナゲ	
431-KD16 S1547 25-5 12	(11.8) - (21.3)	2.0 691.4	粘土板	18×21	端縁一面ヘラナ ゲ、横骨痕あり、 糸合わせ目30	縦目 L10本	ヘラナゲにより 磨り消している	ナゲ	
431-KD19 S1547 25-6 94	- (11.6) (10.3)	2.5 821.8	横粘土紐	18×17	ヘラ書き痕あり、 端縁狭い一面ヘラ 削り 190-24	縦目 L8本	広端縁ヘラ削 り、側端縁指ナ ゲ	広端面にヘラ書 き「4」、側端面 指ナゲ	
431-KD17 S1547 26-7 94	- - (10.7)	2.0 217.3	横粘土紐	17×22	押印「横」 191-9	縦目 L7本		-	押印「横」横沢部 カマド出土 白色針状物質混入
431-KD18 S1547 25-8	- - (19.8)	2.5 730.5		32×37	横骨文字不明 191-37	縦目 L9本		-	横骨不明「上」か
431-KD20 S1547 26-1 13-93	23.9 (17.6) 37.0	2.5 4998.8	横粘土紐	22×26	狭・広・側端縁ヘ ラ削り	縦目 L13本	棒状圧痕あり	狭・広端面にヘ ラ書き「足」、端 部ヘラ削り 190-7-8	カマド出土 ヘラ書き「足」足立 部
431-KD22 S1547 26-2	(5.2) - (21.7)	3.0 919.4		《18・24》	端縁一面ヘラ削り	縦目 L9本		ヘラ削り	
431-KD21 S1547 26-3 13	- (15.0) (21.0)	3.3 1550.6			端縁一面ヘラ削 り、全面に指ナゲ 痕	縦目 L10本	広端縁一面ヘラ 削り	ヘラ削り	カマド出土

遺物番号 出土位置 図面番号 図版番号	炊爨幅 広さ 全長	厚 重 さ	素 材	布 目	凹面特徴	凸面叩き	凸面特徴	端面特徴	備 考
431-KD24 S1547 27-1 14-96	(18.1) - (28.8)	2.5 2915.7		19×18	狭端縁幅広くヘラ 削り、側端縁二面 ヘラ削り	斜格子 押型	押型「花」、側 端縁指ナゲ 19-18	ヘラ削り	押型「花」在京都 カマド出土
431-KD27 S1547 27-2 14	- 28.8 (23.7)	2.0 2052.8	横粘土板	24×23	ヘラ書き「4」、側 端縁幅広く一面ヘ ラ削り 190-19	罫目 L11本		広 端 面 ヘラ 削 り、側 端 面 指 ナ ゲ	カマド出土
431-KD25 S1547 27-3	(17.5) - (15.0)	2.2 1026.3	横粘土板	24×23	粘土板の接合痕を 指ナゲで消してい る、端縁一面ヘラ 削り	罫目 L9本	端縁一面ヘラ削 り	ヘラ削り	カマド出土
431-KD28 S1548 29-6	- (11.7)	2.5 538.8		18×21	側端縁指ナゲ？、 一部指ナゲ痕あり	正格子 押型？	押型「花」？、 右の圧痕あり 191-20	ヘラ削り	覆土下層 白色針状物質混入
431-KD29 S1548 29-7 15	28.5 - (19.7)	1.9 1720.7	粘土板	20×13	糸切り痕あり	正格子		狭 端 面 ヘラ 削 り、側 端 面 無 調 整	カマド出土 白色針状物質混入
431-KD33 S1548 30-1 15	(19.5) - (18.5)	2.6 2428.9	粘土板	25×24	端縁幅広くヘラ削 り、布合わせ目 痕、糸切り痕、広 端縁剥落としあり	斜格子	広端縁乾燥時の 圧痕あり	ヘラ削り	カマド出土
431-KD31 S1548 30-2	(7.1) - (6.9)	2.5 230.7	横粘土板	30×30	粘土板の接合痕を 指ナゲで消してい る、側端縁一面ヘ ラ削り、指ナゲ痕あ り	罫目 L14本		狭・側端面二面 ヘラ削り	カマド出土
431-KD32 S1548 30-3	- (12.2) (17.6)	2.0 1047.2		25×19	端縁一面ヘラ削り、 朱墨書あり	罫目 L10本	指ナゲ痕あり	ヘラ削り	カマド出土
431-KD34 S1548 30-4 16	(17.5) - (16.6)	1.9 723.0	横粘土板	33×30	狭端縁二面、側端 縁一面ヘラ削り	罫目 L10本	狭・側端縁一面 ヘラ削り	ヘラ削り	カマド出土 白色針状物質混入
431-KD35 S1548 30-5	- (15.3) (19.9)	2.3 1138.3		29×32	側端縁一部ヘラ削 り	罫目 L13本	神状圧痕	広 端 面 ヘラ 削 り、ワラ状圧痕 あり、側端面ナ ゲ	カマド内出土
431-KD36 S1548 31-1 16	- (17.0) (30.0)	2.1 1989.4		24×26	側端縁一面ヘラ削 り	罫目 L8本		ナゲ	カマド出土
431-KD39 S1548 31-2 16-94	(11.5) - (20.1)	2.5 1672.9	粘土板	19×22	押印「横」、狭端縁 ヘラ削り、側端縁 幅広くヘラ削り、糸 切り痕191-8	正格子		側 端 面 二 面 ヘ ラ 削り、乾燥時の 圧痕あり	押印「横」検沢郡 白色針状物質混入
431-KD38 S1548 31-3 17	- (24.0) (28.9)	2.0 1615.1	粘土板	17×20	ヘラ書き不明、広 端縁幅広くヘラ削 り、糸切り痕 190-20	罫目 L11本		ヘラ削り	
431-KD40 S1549 35-2 93	- (8.9)	1.5 109.6		24×24	ヘラ書き「豊」、 文字の部分のみヘ ラナゲ 190-1	罫目 L6本	指ナゲ痕あり	-	ヘラ書き「豊」豊島 郡
431-KD41 S1549 35-3	- (5.9) (7.6)	2.1 139.6	粘土板	18×21	広端縁幅広くヘラ 削り、糸切り痕	正格子？		ヘラ削り	
431-KD44 S1549 35-4 18	- (8.5) (15.4)	1.9 560.3	横粘土板	29×21	ヘラ書き？文字不 明 190-27	罫目 L9本		ヘラ削り	カマド出土
431-KD42 S1549 35-6 95	- (8.6)	1.9 196.8	粘土板	13×17		斜格子	押印「石津瓦印」 191-14		押印「石津瓦印」多 摩郡石津郷

遺物番号 出土位置 図面番号 図版番号	拡張幅 広縮幅 全 共	厚 さ	素 材	布 目	断面特徴	凸面叩き	凸面特徴	編み特徴	備 考
431-KD43 S1549 35-6 19	(14.7) -	2.1 823.6	-	22×25	-	縄目 L9本	側端縁幅広くナデ、 棒状圧痕	ヘラ削り後ナデ	
431-KD46 S1550 37-3 19	- 29.2 (21.9)	2.4 2721.0	横粘土紐	20×16	粘土紐の接合面あり、 端縁一面ヘラ削り、 指ナデ痕あり	縄目 L7本	側端縁ヘラ削り	ヘラ削り	カマド出土
431-KD45 S1550 37-4 20	(11.0) (12.7)	1.1 1272.1	横粘土紐	29×25	側端縁ヘラ削り、 指ナデ痕あり	縄目 L10本	指ナデ痕あり	ナデ	カマド出土
431-KD47 S1551 38-8	- -	2.3 241.6	粘土板	421×213	糸切り痕あり	正格子	-	-	カマド出土
494-KD02 S1551 38-9	- -	1.9 73.2	-	23×24	縄骨文字不明 191-38	縄目 L10本	-	-	
494-KD01 S1551 38-10	- -	2.7 485.2	-	22×18	側端縁一面ヘラ削り	正格子	-	二面ヘラ削り	
431-KD48 S1552 43-3 21	- 27.7 (16.3)	1.9 1399.1	-	17×14	指ナデ痕あり	縄目 L10本	広・側端縁指ナデ、 広端縁に棒状圧痕2条	広端縁ヘラ削り、 乾燥時の圧痕あり、 側端面指ナデ	覆土上層
431-KD50 S1552 43-4	22.9 -	1.6 636.3	横粘土紐	25×19	側端縁ヘラ削り	縄目 L7本	広・側端縁指ナデ	ナデ	覆土下層
431-KD55 S1552 43-5 21	25.1 -	1.7 993.6	-	20×30	端縁幅広くヘラ削り、 全体に縦に指ナデ痕あり、 煤の付着あり	縄目?	全面ナデ	ナデ	カマド出土
431-KD54 S1552 44-1 22	(13.5) (17.7)	2.2 2083.3	粘土板	13×16	狭・広・側端縁幅広く ヘラ削り、糸切り痕	縄目 L8本	糸切り痕残る	ヘラ削り	覆土下層
431-KD56 S1552 44-2	(13.4) -	2.1 511.5	粘土板	424×243	狭・側端縁幅広く ヘラ削りナデしている、 糸切り痕	縄目 L5本	布の圧痕あり、 指ナデ痕あり	ヘラ削り	カマド出土
431-KD53 S1552 44-3	- (7.6) (15.9)	2.8 783.8	-	30×32	側端縁幅広くヘラ削り、 指ナデ痕あり	縄目 L12本	広・側端縁幅広く 指ナデしている	広端縁ヘラ削り 後ナデ、側端面 指ナデ	覆土下層
431-KD57 S1552 44-4 95	- -	2.6 804.0	横粘土紐	26×21	押印「中」、布を縫いだ 痕あり	縄目 L9本	指ナデ痕あり	ヘラ削り	カマド出土 押印「中」墨河郡
431-KD51 S1552 45-1 96	- -	1.9 644.8	-	21×26	縄骨文字不明、指 ナデ痕あり	縄目 L13本	側端縁ヘラ削り、 縄を結んだ 痕あり	指ナデ	覆土下層
431-KD58 S1552 45-2 22	24.2 (27.6)	2.1 4020.8	横粘土紐	24×23	端縁幅広くヘラ削り、 棒状圧痕2条、 指ナデ痕あり	縄目 L10本	-	側端面部分的に 二面ヘラ削り、 広・端縁一面 ヘラ削り	白色針状物質混入
431-KD49 S1552 45-3	- -	1.8 167.6	-	17×20	-	縄目 L(9)本、 正格子	指ナデ痕あり、 縄叩き後?格子 叩きを施す	ヘラ削り	覆土上層
431-KD52 S1552 45-4	- -	2.5 218.7	粘土板	421×243	糸切り痕・指ナデ 痕あり	正格子	-	-	覆土上層

遺物番号 出土位置 図面番号 図版番号	表裏幅 広端幅 全長	厚さ 重さ	素材	布目	凹面特徴	凸面印き	凸面特徴	端面特徴	備考
431-KD59 S1553 48-1 23	- (9.6) (19.8)	1.6 1302.1		26×22	端縁一面ヘラ削り	罫目 L12本		広・側端縁ヘラ削り、さらに指ナデ	カマド出土
431-KD60 S1553 48-2	- (8.4) (26.4)	2.3 1383.9		21×31	ナゲ底あり、広端縁指ナデ、側端縁一面ヘラ削り	罫目 L7本		ヘラ削り	カマド出土
431-KD61 S1553 48-3 23-93	- (19.7) (24.5)	2.2 1688.2		18×24	ヘラ書き「足」、端縁一面ヘラナデ	罫目 L8本	一部布目痕、叩きの後、一部ナデ	側端面一面ヘラ削り、広端面無調整？ワラ状圧痕残す、自然輪	ヘラ書き「足」足立郡カマド出土
431-KD62 S1553 49-1	- (8.5)	2.2 135.6		《27×27》	ヘラ書き「父」BCA 190-3	罫目 L8本	自然輪・ヘラ痕		ヘラ書き「父」秩父郡
431-KD63 S1553 49-2 96	- (10.1)	1.5 228.4		19×20	横骨文字「中」BJA 191-33	罫目 L10本			
431-KD64 S1553 49-3	- (15.5)	1.8 596.4	横粘土紐	23×27	粘土紐の接合痕を指でナゲで磨り消している	罫目 L11本	細い串状（長さ、4.8・径、0.1）の痕跡	側端面ヘラ削り後指ナデ	カマド出土 支脚
431-KD65 S1553 49-4	- (13.1) (23.6)	2.1 939.6	横粘土紐	19×20	端縁一面ヘラ削り	罫目 L10本	狭端縁一面ヘラ削り	ヘラ削り	カマド出土
446-KD01 S1677P-8 51-14	(7.1) - (13.0)	2.3 364.1	粘七板	13×18	狭端縁一面ヘラ削り、側端縁二面ヘラ削り、糸切り痕	罫目 L9本		二端面一面ヘラ削り	
446-KD02 S1577 51-15	(3.3) - (11.2)	2.1 226.7		31×33	狭端縁一面ヘラ削り、布の縫い目痕	罫目 L9本		狭端面一面ヘラ削り	
460-KD01 S1685 52-12 96	- - (6.4)	2.3 119.4	不明	30×26	横骨文字「廣」逆字 191-26	罫目 L11本			カマド内出土 横骨文字「廣」豊島郡広岡郷？
460-KD02 S1585 52-13 24	(14.5) - (11.8)	1.9 479.4	不明	23×18	側端縁一面ヘラ削り、縫い目痕二本あり	正格子		二端面一面ヘラ削り	カマド内出土
460-KD03 S1686 54-1 26-93	(22.2) (28.7) 42.0	3.2 7536.0	横粘土紐	15×18	広端縁部分的に二面ヘラ削り	罫目 L6本	ヘラ書き「川口」、狭端縁一面ヘラ削り	三端面一面ヘラ削り	カマド内出土 ヘラ書き「川口」多摩郡川口郷？
460-KD04 S1586 55-1 26	24.5 (19.6) 34.0	2.2 4006.5	横粘土紐	22×22	ヘラ書き「×」、端縁一面ヘラ削り、糸切り痕 190-25	罫目 L9本	端縁ヘラ削り後ナデ	端面一面ヘラ削り	カマド内出土
460-KD05 S1586 55-2 27	- 29.5 (31.1)	2.6 3444.5	横粘土紐	18×19	部分的に指ナゲ	罫目 L10本	側端・広端縁ナデ	三端面ナデ、広端面ワラ状圧痕	カマド内出土
460-KD06 S1586 56-1 27-96	(16.3) - (15.9)	2.9 1231.5	粘土板	《21×24》	ヘラ書き「足」？端縁一面ヘラ削り、糸切り痕 190-9	斜格子	糸切り痕	狭端面に押印「中」、二端面一面ヘラ削り	押印「中」那珂郡カマド出土 白色針状物質混入
460-KD07 S1586 56-2	- - (15.0)	2.4 638.7	横粘土紐	16×18		正格子		左側端面一面ヘラ削り	カマド出土 白色針状物質混入
460-KD08 S1586 56-3	- (9.9) (12.6)	1.8 351.0		18×18	広端縁一面ヘラ削り	斜格子		広端面一面ヘラ削り	カマド出土

遺物番号 出土位置 図面番号 図版番号	供進編 広編編 全長	厚さ 重さ	素材	布目	凹面特徴	凸面叩き	凸面特徴	端部特徴	備考
460-KD09 S1586 56-4 27	- (5.2) (9.7)	3.0 239.9			彫状工具によるナ デ	斜格子	ヘラ削り	広端面ヘラ削り	カマド出土 白色針状物質混入
460-KD10 S1588A 57-15	(4.6) (8.4)	2.1 116.6	横粘土紐	25×25		縄目 L11本		ナデ	
460-KD12 S1588B 58-10	- (6.2) (23.0)	2.1 89.2	横粘土紐	28×28	粘土紐の接合痕を 指ナデで磨り消し ている	縄目 L15本	側端縁ナデ	広・側端面ヘラ 削り	
460-KD14 S1588B 58-11	- (12.6)	1.8 460.9	横粘土紐	24×22	側端縁一面ヘラ削 り	正格子		側端面一面ヘラ 削り	
460-KD15 S1588B 58-12	(16.2) (8.7)	2.5 550.7	横粘土紐	34×26	端縁一面ヘラ削り、 指ナデ痕	縄目 L10本	指ナデで粘土紐 痕を磨り消し	二端面一面ヘラ 削り	
460-KD11 S1588B 59-1 28-98	(12.4) (18.3)	1.8 983.1	横粘土紐	29×25	模骨文字「七」狭・ 側端縁幅狭く、ヘ ラ削り 191-28	縄目 L12本	側端縁ナデ	ナデ	
460-KD13 S1588B 59-2	- (16.8) (13.7)	3.3 1131.2	横粘土紐	17×19	端縁一面ヘラ削り	縄目 L9本		右側端面粗くヘラ 削り、広端面ワラ 状圧痕の上から即 端面側をヘラ削り	
460-KD16 S1589 60-8	- (13.6) (23.4)	1.6 1244.7	横粘土紐	25×30	側端縁一面ヘラ削 り、ヘラによる線 刻あり	縄目 L10本	広端縁ナデ	側・広端面ナ デ、広端面自然 輪	カマド出土
460-KD17 S1591 60-14	- (7.8)	1.6 149.9		19×21	模骨文字不明、自 然輪 191-40	縄目 L11本		-	
460-KD18 S1593 62-2	- (11.9)	2.2 686.3	横粘土紐	15×19	ヘラ書き「×」側 端縁一面ヘラ削り 190-26	縄目 L11本		ヘラ削り	カマド出土 白色針状物質混入
460-KD20 S1593 62-3	(5.5) (16.2)	2.1 511.0		《39×36》	端縁一面ヘラ削り、 縄目目痕、全体を 磨っている	縄目 L8本	縄叩きの上を押 圧	ヘラ削り	
460-KD19 S1593 62-4	- (11.0) (18.8)	3.0 1422.7	粘土板	17×18	塗縁一面ヘラ削 り、余切り痕、棒 状圧痕	縄目 L8本		広端面一面ヘラ 削り、側端面側 面調整	
460-KD23 S1594 64-3	- (10.0) (11.6)	2.5 505.3		17×17	端縁一面ヘラ削り	縄目 L8本		広端面一面ヘラ 削り	
460-KD21 S1594 65-1 30-96	(24.4) (30.7)	1.5 1959.4	横粘土紐	17×22	模骨「大」狭・側 端縁ナデ、左側端 縁棒状圧痕 191-29	縄目 L9本	三端縁ナデ	三端面ナデ、後 端面ワラ状圧痕	
460-KD22 S1594 65-2	- (16.7) (21.1)	2.3 1698.6	粘土板	28×29	側・広端縁幅広く 一面ヘラ削り	縄目 L7本	棒状圧痕	広端縁隅落とし、 二端面一面 ヘラ削り	
460-KD24 S1595 66-8 32	- (18.3) (36.6)	2.5 3981.7	粘土板	23×22	端縁一面ヘラ削り、 余切り痕	縄目 L8本	叩き締め内弧B	広端面一面ヘラ 削り、側端面部 分的に二面ヘラ 削り	カマド出土
431-KD66 SD325 67-1	- (4.4)	1.6 49.3		22×21		縄目 L9本		-	

遺物番号 出土位置 図面番号 図版番号	表端幅 広端幅 全長	厚さ 高さ	素材	布目	断面特徴	凸面叩き	凸面特徴	端面特徴	備考
431-KD67 SD325 67-2	- - (4.9)	1.6 43.9		27×23		罫目 L10本		-	
431-KD68 SD326 67-11	- - (8.4)	1.9 164.4	粘土板?	20×21	側端縁一面ヘラ削り	罫目 L9本	側端縁一面ヘラ削り	ナデ	
431-KD69 SD327 67-14	(4.8) - (6.4)	1.6 84.4		19×22	端縁一面ヘラ削り	斜格子		ヘラ削り、裏端面乾燥時の圧痕あり	
431-KD70 SD327 67-15	- - (7.1)	2.4 97.3	横粘土板	23×21	側端縁一面ヘラ削り	罫目 L((12))本	指ナデ痕あり	ナデ	
431-KD71 SK1699 68-4	- - (12.7)	2.6 560.0	粘土板	《21×30》	全体にヘラ削り、側端縁一面ヘラ削り、糸切り痕	斜格子	自然釉が認められる	自然釉が認められる・ヘラ削り	
431-KD72 SK1699 68-5	- - (10.3)	2.2 195.0		16×22	指ナデ痕あり	罫目 L8本	指ナデ痕あり	-	白色針状物質混入
431-KD73 SK1670 68-9	- - (5.3) (9.1)	2.7 315.0		20×21		罫目 L9本		乾燥時の圧痕あり	
431-KD74 SK1671 68-14	- - (7.1)	2.1 279.0	横粘土板	27×20	側端縁ヘラ削り	罫目 L10本		ヘラ削り後ナデ	
431-KD75 SK1675 69-11	- - (8.0)	2.0 66.4		19×20		罫目 L((9))本			
431-KD76 SK1676 69-18	- - (7.2) (8.7)	1.8 241.0		21×24	広・側端縁一面ヘラ削り	罫目 L7本		ヘラ削り	
431-KD77 SK1676 69-19	- - (12.2) (9.0)	1.9 289.0		26×24	ヘラ書き?不明 広・側端縁幅広くヘラ削り、自然釉が認められる	罫目 L8本	自然釉が認められる	自然釉が認められる、ヘラ削り	
431-KD78 SK1727 69-20	- - (10.3)	2.0 241.0	横粘土板	26×27	側端縁幅広くヘラ削り	罫目 L8本	側端縁一面ヘラ削り、自然釉が認められる	ナデ	
431-KD79 SK1727 69-21	- - (14.1) (10.8)	2.6 830.0		28×20	広端縁幅広くヘラ削り	罫目 L6本	指ナデ痕あり	乾燥時の圧痕あり、ナデ	
431-KD81 SK1743 70-12	- - (8.8)	1.6 155.6		20×29		罫目 L11本		-	
431-KD80 SK1743 70-13	- - (6.1)	1.5 43.4		《33×36》	側端縁一面ヘラ削り	罫目 L9本	側端縁指ナデ	ナデ	
431-KD82 SK1747 70-15	- - (9.7)	1.6 143.9		18×18	側端縁一面ヘラ削り		不規則に指の圧痕あり	ヘラ削り	
446-KD03 SK1914 70-16	(3.6) - (9.2)	1.9 107.2		28×35		罫目 L((12))本		鉄燻面ナデ	

遺物番号 出土位置 図面番号 図版番号	穴縁幅 広縁幅 全長	厚さ 重さ	素材	布目	面の特徴	凸面叩き	凸面特徴	縁面特徴	備考	
446-KD04 SK1918 72-5	- (18.6)	1.8 767.7	横粘土紐	21×21	側縁線一面ヘラ削り	縄目 L9本		側縁面ナゲ		
446-KD05 SK1918 72-6	- (20.0) (19.3)	2.5 1129.8	横粘土紐	24×23	広・側縁線幅広く一面ヘラ削り	縄目 L10本		二端面一面ヘラ削り、乾燥時の圧痕あり		
446-KD06 SK1918 72-7	(4.8) -	1.9 163.0	粘土板?		全面ナゲ	縄目 L12本		狭縁面ナゲ		
460-KD37 SK2060 73-6	(7.8) -	2.1 437.6	横粘土紐	16×20		縄目 L7本		狭・側縁面二面ヘラ削り		
460-KD28 SK2061 73-8	- (8.6) (15.0)	2.8 734.4	横粘土紐	21×21	広・側縁線一面ヘラ削り	縄目 L11本	側縁線一面ヘラ削り	二端面一面ヘラ削り		
460-KD28 SK2062 74-2 35-93	- (13.5) (21.3)	2.0 1110.7	粘土板	20×23	ヘラ書き「男」広縁線一面ヘラ削り、側縁線二面ヘラ削り、糸切り痕190-2	縄目 L10本		二端面一面ヘラ削り	ヘラ書き「男」男食部 白色針状物質混入	
460-KD27 SK2062 74-3 35	- (21.1) (19.2)	2.3 2075.7	横粘土紐	17×16	縁線一面ヘラ削り	縄目 L9本	縁線一面ヘラ削り	二端面ナゲ		
460-KD29 SK2062 74-4 35-96	- (14.4) (14.5)	2.3 841.8	横粘土紐	29×32	横骨文字「中」、ヘラ書き不明、広・側縁線一面ヘラ削り 190-12 191-31	縄目 L9本		二端面一面ヘラ削り		
460-KD30 SK2062 74-5	(7.0) -	1.6 893.9	横粘土紐	20×21	狭・広縁線一面ヘラ削り	縄目 L7本		二端面一面ヘラ削り		
460-KD31 SK2063 75-6	- -	2.5 753.7	横粘土紐	24×29		縄目 L12本		側縁面一面ヘラ削り		
460-KD32 SK2063 75-7	(6.5) -	1.5 264.3		17×25		縄目 L8本	狭・側縁線ナゲ、部分的に擦られている	二端面ナゲ		
460-KD33 SK2063 75-16	- (9.2) (14.0)	2.3 417.9		23×21		縄目 L8本	広縁線ナゲ	二端面ナゲ		
460-KD34 SK2072 78-9	- (1.4) (6.9)	1.8 103.3	横粘土紐	23×22	広・左側縁線一面ヘラ削り		正格子	二端面一面ヘラ削り、広縁隅磨し		
460-KD25 SX159 78-7 36	- (12.7)	1.9 473.0	横粘土紐		焼成後ヘラ書き「×」側縁線一面ヘラ削り、全面縦方向ナゲ190-22		正格子	叩き密	右側縁面一面ヘラ削り	白色針状物質混入
431-KD84 P-3 79-1	- -	2.2 194.0	横粘土紐		ヘラ書き不明、磨り消し 190-14	縄目 L(9)本		磨り消している	白色針状物質混入	
431-KD85 P-148 79-4	(11.8) -	2.0 566.0	粘土板	19×18	側縁線一面ヘラ削り、糸切り痕あり	縄目 L11本		乾燥時の圧痕ありヘラ削り	白色針状物質混入	

遺物番号 出土位置 断面番号 図取番号	狭端幅 広端幅 全長	厚さ 重さ	素材	布目	凹面特徴	凸面叩き	凸面特徴	端部特徴	備考
431-KD86 P-164 79-7	- - (7.0)	2.1 108.4		17×16	側端縁幅広くヘラ 削り、指ナゲ痕あ り	縄目 L14本		二面ヘラ削り	
431-KD87 P-280 79-10	- - (7.5)	2.2 198.7		24×26	側端縁一面ヘラ削 り、自然輪が認め られる	縄目 L11本	側端縁ヘラナゲ	ナゲ後ヘラ削り	
431-KD88 P-347 80-1	(16.3) - (12.9)	2.0 630.0		27×30	狭・側端縁一面ヘ ラ削り	縄目 L12本	側端縁ヘラナゲ	ナゲ	
431-KD89 P-399 80-6 37	- - (10.7)	2.2 200.0	粘土板	17×23	ヘラ書き「足」? 縦方向にヘラナゲ 190-10	縄目 L8本	指ナゲ痕あり	-	白色針状物質混入
431-KD90 P-478 80-7	(5.1) - (9.9)	1.6 187.8		31×34	側端縁一面ヘラ削 り	縄目 L10本	一部分に自然輪 が認められる	ヘラ削り	
431-KD91 P488 80-8	- - (16.6)	2.1 470.0	粘土板	23×19	糸切り痕あり	縄目 L8本	指ナゲ痕あり	-	
431-KD92 P-488 80-9	- (8.7) (9.1)	2.1 210.0	横粘土紐	28×21		縄目 L8本	縄目二方向あり	乾燥時の圧痕あ り、ナゲ	
431-KD93 P-489 80-10	- (2.6) (10.5)	2.5 300.0		26×28	広端縁一面ヘラ削 り、指ナゲ痕あり	縄目 L10本	広端縁一面ヘラ 削り	乾燥時の圧痕あ り	
431-KD94 P-489 80-11	- (10.9) (7.2)	2.3 278.0		32×27	広端縁指ナゲ痕あ り	縄目 L10本		ヘラ削り	
431-KD95 P-502 80-12	- - (12.0)	1.8 198.5		20×27		縄目 L9本	指ナゲ痕あり	-	
446-KD13 P-18 81-1	- - (6.2)	2.7 210.8	粘土板	《18×21》	糸切り痕	縄目 L7本		-	
446-KD16 P-20 81-2	(11.4) - (7.1)	2.2 265.6	横粘土紐	《30×33》	側端縁一面ヘラ削 り	縄目 L7本		側端面ナゲ狭端 面ワラ状圧痕	
446-KD07 P-110 81-5	- - (6.4)	2.1 106.4		21×19	側端縁一面ヘラ削 り	縄目 L9本		側端面一面ヘラ 削り	
446-KD08 P-122 81-8	(6.0) - (9.3)	1.9 178.9	横粘土紐	23×20		縄目 L9本		狭端面ナゲ	
446-KD09 P-126 81-9	- (5.9) (9.8)	2.8 272.8		19×21	広・側端縁一面ヘ ラ削り			側端面一面、広 端面二面ヘラ削 り	
446-KD10 P-132 81-11	- 7.5 (7.0)	2.4 171.6		20×19	広・側端縁一面ヘ ラ削り	縄目 L8本		二端面一面ヘラ 削り	
446-KD11 P-134 81-14	- - (7.0)	2.1 199.5		23×30	ヘラ書き文字不明 190-29	縄目 L9本			

遺物番号 出土位置 図面番号 図版番号	前後幅 広縮幅 全長	厚さ 重さ	素材	布目	両面特徴	凸面叩き	凸面特徴	端面特徴	備考
446-KD12 P-179 81-17	(16.7) -	1.7 765.7	横粘土板	19×21	側端縁一面ヘラ削り	縄目 L9本	側端縁一面ヘラ削り、棒状圧痕、叩き締めの内弧B	二端面一面ヘラ削り	
446-KD14 P-200 82-4	- 8.7 (16.0)	2 280.6		19×15		縄目 L10本	棒状圧痕あり	二端面ナゲ	
446-KD15 P-200 82-5	- -	1.5 (7.5)		21×23		縄目 L8本		側端面ナゲ	
446-KD17 P-258 82-19	- -	1.4 54.4		33×33	側端縁一面ヘラ削り	縄目 L9本		側端縁二面ヘラ削り	白色針状物質混入
446-KD18 P-259 82-11	- -	1.5 187.2		25×20	朱墨痕あり	縄目 L13本	側端縁ナゲ	ヘラ削り後ナゲ	
446-KD19 P-262 82-12	- -	2.2 119.8	粘土板	24×24	糸切り痕	正格子		-	
446-KD20 P-268 82-15	- (7.6)	2.2 404.5	横粘土板	21×17	広端縁一面ヘラ削り	縄目 L8本	広端縁一面ヘラ削り 棒状圧痕	広端面ナゲ	
446-KD21 P-269 82-16	- -	1.7 144.8		21×20		縄目 L8本		-	
446-KD22 P-289 82-20	- (13.8)	2.0 810.2		14×17	広・側端縁一面ヘラ削り、部分的に指ナゲ	縄目 L10本		二端面ナゲ	
431-KD96 遺構外 85-9 38	(22.0) -	2.9 2645.0	粘土板	22×20	側端縁幅広くヘラ削り、指ナゲ痕あり	斜格子	両側端縁ヘラ削り	側端面二面ヘラ削り	
431-KD97 遺構外 86-1	(11.3) -	2.2 860.5	横粘土板	39×33	側端縁ヘラ削り	縄目 L10本		ヘラナゲ	
431-KD98 遺構外 86-2	- (10.3)	1.9 273.5	粘土板	21×21	側端縁幅広くヘラ削り、広端縁幅広く指ナゲ、布縫い目痕、糸切り痕あり	縄目 L10本		乾燥時の圧痕あり	白色針状物質混入
431-KD100 HE16 86-3 94	- (14.5)	2.7 518.3		20×16	押印「企」、指ナゲ痕あり	縄目 L6本	指ナゲ痕あり	-	押印「企」比企彫白色針状物質混入
431-KD99 GS22 86-4	- (11.3)	1.9 330.4	横粘土板	34×28	側端縁一面ヘラ削り	縄目 L11本	側端縁一面ヘラ削り	ヘラ削り	
431-KD103 HE17 86-5	- (11.4)	2.3 332.0		19×16	側端縁一面ヘラ削り	縄目 L12本	側端縁ナゲ	ナゲ	白色針状物質混入
431-KD101 HE18 86-6	- (17.0)	3.4 1478.7	粘土板	19×21	糸切り痕あり	縄目 L8本	指ナゲ痕あり	-	白色針状物質混入
431-KD102 HI16 86-7	- (15.7)	2.7 605.6	横粘土板	15×19	自然軸が認められる	正格子		ヘラ削り	

遺物番号 出土位置 図面番号 図版番号	狭端幅 広端幅 全長	厚 重 さ さ	素 材	布 目	凹面特徴	凸面叩き	凸面特徴	端面特徴	備 考
431-KD104 HD14 86-8	- - (10.2)	2.6 267.4	粘土板	17×19		罫目 L6本		-	
431-KD105 HE47 86-9	- (5.5) (6.7)	2.0 113.1		23×24	広端縁幅広のヘラ 削り	正格子		ヘラ削り	
431-KD106 HC34 87-1	(4.7) - (10.7)	1.5 142.9		29×26		罫目 L10本	側端縁指ナデ	狭 端 面 ヘラ 削 り、側 端 面 指 ナ デ	
431-KD107 HB19 87-2	- - (11.1)	2.0 234.5	粘土板	19×19	糸切り痕あり、側 端縁ヘラ削り	罫目・ 斜格子	罫 叩きを磨り消 した後、斜格子 叩き		
446-KD23 GL32 87-3	- - (14.4)	2.0 646.7		21×23	側端縁一面ヘラ削 り	正格子		ヘラ削り	
446-KD24 GP32 87-4	(8.0) - (7.8)	2.6 287.2		19×23	狭・側端縁一面ヘ ラ削り	斜格子		二 端 面 一 面 ヘラ 削り	
446-KD25 GK46 87-5	- - (7.5)	1.9 142.6		21×21	ヘラ書き「ト」	罫目 L9本		-	
460-KD39 GE22 87-6 96	- - (8.9)	1.8 239.6		34×40	榜骨文字「中」	罫目 L12本		-	
460-KD38 GF32 87-7	- - (18.8)	2.1 668.8	粘土板	②4・33	部分的に縦方向に 指ナデ	罫目 L9本		側端縁一面ヘラ削 り	白色針状物質混入
460-KD38 GC15 87-8	- (10.4) (15.0)	2.5 787.9	横粘土板	16×22	広端縁一面ヘラ削 り、側端縁二面ヘ ラ削り	罫目 L10本		二 端 面 一 面 ヘラ 削り	白色針状物質混入

431・446・460次調査鬘斗瓦一覽

遺物番号 出土位置 図面番号 図版番号	狭端幅 広端幅 全長	厚 重 さ さ	素 材	布 目	凹面特徴	凸面叩き	凸面特徴	端面特徴	備 考
431-KE01 SI551 38-11	- - (20.7)	2.8 978.1	横粘土板	15×20		正格子	指ナデ痕あり	ナデ	カマド出土

431・446・460次調査埴一覽

遺物番号 出土位置 図面番号 図版番号	長辺長 短辺長	厚 重 さ さ	素 材	上面特徴	下面特徴	側面特徴	備 考
431-KH01 SI547 27-4 14	(11.2) 16.7	6.1 1648.3	粘土板	ナデ	ナデ	板状工具によるナデ	カマド出土、支脚 白色針状物質混入
431-KH02 SI551 38-12	(12.4) (9.5)	6.4 883.1	粘土板	布目痕 22×19 あり	ナデ	ヘラ削り	カマド出土 支脚

遺物番号 出土位置 図面番号 図版番号	長辺共 短辺長		厚 重 さ さ	素 材	上面特徴	下面特徴	側面特徴	備 考
431-KH03 S1553 49-5 23	(17.6) 18.6	2.4 1002.1	粘土板	ヘラ削り	粘土板の割れ口に糸切り痕	ヘラ書き文字不明、 ヘラ削り 190-15	ヘラ削り	カマド出土 白色針状物質混入
431-KH04 P-165 79-8	(14.2) (9.9)	6.3 816.0						

437 次調査宇瓦一覽

遺物番号 出土位置 図面番号 図版番号	上・下弦 幅 深	厚 重 さ さ	内 区		外 区				墓 区		全長	備 考
			厚さ	文様	上		下		幅	文様 深さ		
					厚さ	文様	厚さ	文様				
437-KB01 表土 134-12 64	— — —	5.6 432.9	2.5	H	1.3	a	1.8	a	1.3	0.1	(7.9)	頸の形體B2-C 技法D

437 次調査男瓦一覽

遺物番号 出土位置 図面番号 図版番号	次端幅 広端幅 全 長	厚 重 さ さ	素 材	布 目	凹面特徴	凸面叩き	凸面特徴	側面特徴	備 考	
437-KC01 S1555 133-12	— — (4.8)	1.3 100.7	横粘土板	24×30	側端縁ヘラ削り、布目を指ナゲで磨り滑している	縄目	縄叩き後ナゲ側端縁ヘラ削り	ナゲ	カマド出土	
437-KC03 P-9 134-7	— — (2.7)	1.2 17.3			布合わせ目痕	縄目	縄叩き後ナゲ	—		
437-KC02 P-21 134-9	— — (8.3)	1.4 116.8			22×25				ナゲ	
437-KC05 P-62 134-10	— — (7.1)	1.1 80.3			21×17				ナゲ	
437-KC04 表土 134-13 94	— — (9.7)	2.2 227.4			21×24	布合わせ目痕		叩印「花」 191-3		押印「花」窪原部 白色針状物質混入

437 次調査女瓦一覽

遺物番号 出土位置 図面番号 図版番号	次端幅 広端幅 全 長	厚 重 さ さ	素 材	布 目	凹面特徴	凸面叩き	凸面特徴	側面特徴	備 考
437-KD01 S1555 133-13 64	— — (18.9) (13.3)	2.8 1104.3	横粘土板	24×27	広端縁ヘラ削り	平行		乾燥時の圧痕あり	カマド出土
437-KD02 S1555 133-14	(9.5) — (20.5)	1.8 774.9	横粘土板	27×22	側端縁ヘラ削り	縄目 L9本		ヘラ削り	カマド出土
437-KD03 S1555 133-15	— — (16.7) (10.6)	2.1 597.4	横粘土板	29×30		縄目 L11本	自然輪が認められる	乾燥時の圧痕あり、自然輪が認められる	カマド出土

遺物番号 出土位置 図面番号 図版番号	狭幅幅 広幅幅 全長	厚 重 さ さ	素 材	布 目	凹面特徴	凸面叩き	凸面特徴	端面特徴	備 考
437-KD04 SI555 134-1 64-98	- (13.7)	1.9 711.7		30×30	鷹骨文字「本」? 側端縁ヘラ削り ヘラナデ痕あり 191-30	縄目 L11本	自然輪が認めら れる	自然輪が認められ る、ヘラ削り	カマド出土
437-KD06 SI555-02 134-2	- (12.2) (9.5)	2.2 474.8	横粘土紐	20×23	粘土紐の接合痕 を指ナデしてい る。広・側端縁 一部ヘラ削り	縄目 L10本		乾燥時の圧痕あ り、ナデ	カマド出土 KD07と同一個体か
437-KD08 SI555 134-3	- (11.8) (10.1)	2.0 503.9		29×24	ヘラ書き不明、 広・側端縁一面 ヘラ削り 190-28	縄目 L7本	端縁一面ヘラ削 り	乾燥時の圧痕あ り、ヘラ削り	カマド出土
437-KD07 SI555 134-4	- (17.7)	2.2 942.0	横粘土紐	20×21		縄目 L10本		ナデ	カマド出土 KD05と同一個体か
437-KD09 表上 134-14 98	- (8.2)	2.2 120.8		17×17		押型+正格子	押型「父」 191-23	-	押型「父」秩父郡

437 次調査埴一覽

遺物番号 出土位置 図面番号 図版番号	長辺長 短辺長	厚 重 さ さ	素 材	上面特徴	下面特徴	側面特徴	備 考
437-KD01 SI555 134-5 64	(8.5) 16.8	6.0 1172.0	粘土板	ヘラ削り	ヘラ削り	ヘラ削り	カマド出土 支脚転用

442 次調査男瓦一覽

遺物番号 出土位置 図面番号 図版番号	狭幅幅 広幅幅 全長	厚 重 さ さ	素 材	布 目	凹面特徴	凸面叩き	凸面特徴	端面特徴	備 考
442-KC01 SI559 137-1 66	- 20.8 (22.0)	1.5 1256.6	横粘土紐	16×23	端縁一面ヘラ削 り、布合わせ目 Sb		ヘラナデ、広・ 側端縁一面ヘラ 削り	広端面ヘラ削り後 ナデ、側端面ナデ	
442-KC02 SI559 137-2	- (8.9) (12.8)	1.5 349.4	横粘土紐	21×22	布合わせ目 Sa		ヘラナデ	側端縁一面 ヘラナデ 広端面ワラ状圧痕 残す	
442-KC03 SI560 141-10	(10.1) (19.0)	1.0 597.2	横粘土紐	20×23	布合わせ目 Sa、 一面ヘラ削り		側端縁一面ヘラ 削り		
442-KC05 SD337 142-12	- (5.8)	1.5 94.5		26×27	布合わせ目 Sb		ヘラナデ	一面ヘラ削り	

442 次調査女瓦一覽

遺物番号 出土位置 図面番号 図版番号	狹幅幅 広幅幅 全長	厚 重 さ	素材	布目	凹面特徴	凸面叩き	凸面特徴	端面特徴	備考
442-KD01 S1559 137-3	- - (12.8)	2.3 361.2	粘土板	24×20	押印文字不明 191-2	斜格子	-	-	押印不明「郡」か 「那」? カマド出土
442-KD01 S1559 137-4 65	(9.4) - (24.4)	1.1 464.2	横粘土板	16×14		罫目 L11本		伏・側端面ナデ	
442-KD02 S1559 137-5 66	- (13.9) (11.4)	1.7 645.1		24×24		罫目 L8本	乾燥時の棒状圧痕 あり		
442-KD03 S1559 137-6 66	(11.9) - (8.6)	2.3 398.4		24×20	側端縁一面ヘラ 削り、板状圧痕 あり	斜格子	叩き密		カマド出土
442-KD05 S1580 141-11	- - (22.5)	2.4 1039.8	横粘土板	17×21	側端縁一面ヘラ 削り 指ナデ?2条あり	罫目 L9本		側端面無整形	カマド出土
442-KD06 SD323 142-2	- - (8.6)	1.5 89.4		22×18	指書文字不明 190-30	罫目 L12本		-	
442-KD07 SD333 142-13 68	- - (12.8)	2.4 671.7	粘土板	22×21	側端縁一面ヘラ 削り	罫目 L9本	側端縁一面ヘラ削 り	一面ヘラ削り	
442-KD08 SD333 142-14	- - (11.7)	2.7 260.9		23×23		罫目	罫目を削り消して いる		
442-KD09 SD337 142-15	- (4.6) (8.6)	2.3 104.8		18×18		罫目 L9本		ナデ	
442-KD10 TG37 143-9	- - (10.4)	2.2 387.0		24×29	側端縁一面ヘラ 削り	罫目 L10本		ヘラナデ	

444 次調査燈瓦一覽

遺物番号 出土位置 図面番号 図版番号	直 径 さ	内 区					外 区					全 長	備 考
		中 層 径 形	蓮 子 数	弁 区 径 弁 形	弁 数 弁 形	幅	内 縁		外 縁				
							幅	文 様	幅	高	文 様		
444-KA01 S1568 161-1	- 196.5								1.3	1.7		(8.4)	
444-KA02 遺構外 173-12 82	(8.4) 250.0	((2.4))	(1)	((14.8)) 3.6	((6)) SC		1.1			0.3		(3.4)	

444 次調査字瓦一覽

遺物番号 出土位置 図面番号 図版番号	上・下弦 弧幅 弧深	厚 重 さ	内 区		外 区				編 区		全長	備 考
			厚さ	文様	上		下		幅	文様 深さ		
					厚さ	文様	厚さ	文様				
444-KB01 S1565 157-6	- -	279.9	-	-	-	-	-	-	-	-	(9.6)	
444-KB02 S1571 164-15	- -	3.8 232.2	1.2	唐草文	-	-	2.6	b	-	0.3	(7.2)	技法D
444-KB03 S1572 166-9	- -	- 626.0	-	-	-	-	-	-	-	-	(17.5)	カマド出土 技法D
444-KB04 HD28 173-13	- -	- 329.0	-	-	-	-	-	-	-	-	(10.6)	

444 次調査男瓦一覽

遺物番号 出土位置 図面番号 図版番号	狭幅幅 広幅幅 全長	厚 重 さ	素材	布目	凹面特徴	凸面叩き	凸面特徴	端部特徴	備 考
444-KC01 S1564 155-8	- (8.6) (17.9)	1.3 718.4	横粘土紐	23×19	端縁一面ヘラ削り		端縁一面ヘラ削り、 ヘラナゲ	一面ヘラ削り	カマド出土
444-KC02 S1566 157-13	- (11.9)	1.5 337.9	横粘土紐	21×19	広端縁タテ方向の 指ナゲ、左側 端縁二面ヘラ削り		ヘラナゲ 左側端縁ヘラ削り	ヘラ削り	覆瓦の可能性あり
444-KC03 S1567 168-17	- (15.5)	1.4 453.5	横粘土紐	17×18			板状工具による回 転ナゲ	ナゲ	カマド出土
444-KC04 S1567 158-18	(5.4) -	1.0 294.1	横粘土紐	23×25	布あわせ目 Sa	罫目	罫叩き後磨り消し ている	ナゲ	カマド出土
444-KC05 S1567 159-1	- (9.5) (23.5)	1.0 642.9	横粘土紐	23×16		罫目	ヘラナゲ		カマド出土
444-KC06 S1568 161-2	- (8.7) (20.9)	1.8 669.3	横粘土紐	19×15	指ナゲ	罫目	ヘラナゲ		
444-KC07 S1572 166-10 79-93	- (9.6) (20.0)	2.0 825.9	横粘土紐	22×20	端縁一面ヘラ削り		ヘラ書き「国」、ヘラ ナゲ 190-4		カマド出土
444-KC11 SK1924 170-6	- -	1.0 69.5		27×30	横脊痕あり			-	
444-KC12 SK2004 170-13	- -	1.5 77.9	横粘土紐	14×14			ヘラナゲ	-	
444-KC09 SX149 170-18	- (8.6) (11.1)	1.0 322.9	横粘土紐	28×26			ヘラナゲ	広端隅落とし	

遺物番号 出土位置 図面番号 図版番号	狭幅幅 広幅幅 全長	厚 重 さ き	素 材	布 目	凹面特徴	凸面叩き	凸面特徴	端面特徴	備 考
444-KC10 SX149 170-19	- - (9.6)	1.8 104.7	横粘土紐	《27×30》	粘土紐の接合痕を指ナゲで磨り消している			縦ナゲ	凹面朱墨痕?
444-KC08 SX149 171-1	- - (19.9)	1.3 769.0	横粘土紐	17×20	側端縁一面ヘラ削り		側端縁一面ヘラ削り、ヘラナゲ	ヘラ削り	
444-KC14 H016 173-14	- - (6.0)	1.5 96.2	横粘土紐	23×23	粘土紐の接合痕を指ナゲで消している	縄目	ヘラナゲ		西側調査区出土
444-KC13 H018 173-15	- - (11.4)	1.9 394.0	横粘土紐	35×32	側端縁一面ヘラ削り		側端縁一面ヘラ削り	ナゲ	西側調査区出土
444-KC15 H066 173-16	(5.3) - (10.9)	1.6 235.9		34×30	側端縁一面ヘラ削り		ヘラナゲ	突端面ナゲ	東側調査区出土

444 次調査女瓦一覽

遺物番号 出土位置 図面番号 図版番号	狭幅幅 広幅幅 全長	厚 重 さ き	素 材	布 目	凹面特徴	凸面叩き	凸面特徴	端面特徴	備 考
444-KD08 SI564 155-9	(7.9) - (10.0)	2.3 343.5	横粘土紐?	26×28	突端縁ヘラ削り	縄目 L12本	突端縁ヘラ削り	突端面ヘラナゲ ワラ状圧痕	カマド出土
444-KD09 SI564 155-10	(20.8) - (10.6)	2.0 766.0	横粘土紐	17×15	内面一部指ナゲ	縄目 L11本	棒状工具による圧痕あり	側端面ナゲ	カマド出土
444-KD01 SI564 155-11 76-96	(13.3) - (18.6)	1.7 1122.7		27×21	横骨「七」 191-27	縄目 L12本		側端面ナゲ、突端縁一面ヘラ削り	カマド出土
444-KD02 SI564 156-1	- - (18.3) (16.5)	2.7 1296.4	横粘土紐	21×21	側端縁二面ヘラ削り	縄目 L11本	ナゲ、棒状圧痕	広・側端面ナゲ	カマド出土
444-KD07 SI564 156-2	- - (10.4) (17.6)	2.8 660.2	横粘土紐	16×19	端縁一面ヘラ削り	正格子		側端面ヘラ削り	カマド出土
444-KD06 SI564 156-3 95	(14.9) - (10.7)	2.3 654.1	粘土板	22×24	突端縁一面、側端縁二面ヘラ削り	斜格子 押型	押型「花」 191-17	ナゲ	押型「花」在原郡カマド出土
444-KD04 SI564 156-4	(11.2) - (14.3)	2.4 818.6	横粘土紐	22×22	側端縁一面ヘラ削り	縄目 L9本		ナゲ	カマド出土
444-KD10 SI565 157-6	- - (10.4) (19.7)	2.4 779.7	粘土板	《30×30》	側端縁一面ヘラ削り、全面粗くナゲ	縄目 L8本	棒状圧痕	二端面一面ヘラ削り	カマド出土
444-KD09 SI565 157-7 78	(10.4) - (26.0)	1.5 857.3	横粘土紐	26×26	部分的に指ナゲ	縄目 L11本		表・側端面ナゲ	カマド出土
444-KD11 SI565 157-8	- - (13.2) (18.2)	1.6 536.9	横粘土紐	26×27		縄目 L10本		側端面ナゲ、広端面ヘラ削り	カマド出土

遺物番号 出土位置 図面番号 図版番号	狭幅縁 広幅縁 全長	厚さ 重さ	素材	布目	凹面特徴	凸面叩き	凸面特徴	端面特徴	備考
444-KD13 SI567 159-2 95	(8.0) - (27.6)	1.9 1378.5	横粘土紐	21×23	標骨「上」の逆 字、側縁縁一面 ヘラ削り 191-25	縄目 L10 本		二端面ナデ	カマド出土
444-KD12 SI567 159-3	(19.8) - (17.1)	1.9 1298.6	粘土板	20×24	狭・側縁縁幅広 くヘラ削り	斜格子		二端面一面ヘラ 削り	カマド出土
444-KD14 SI567 159-4 77-94	(15.2) - (22.8)	2.5 1202.0	粘土板	25×30	ヘラ書き「×」、 端縁幅広く一面 ヘラ削り 190-18	縄目 L8 本		ヘラ削り 狭端 面ワラ状圧痕	カマド出土
444-KD16 SI567 159-5	- (13.0) (15.1)	1.7 692.3	横粘土紐	13×18	広端縁部分的に 指ナデ	縄目 L10 本	部分的に指ナデ	側端面指ナデ 広端面ヘラ削 り、ワラ状圧痕	カマド出土
444-KD15 SI567 159-6	- - (17.5)	3.0 875.0	横粘土紐	16×22		正格子		側端面一面ヘラ 削り	カマド出土 白色針状物質混入
444-KD17 SI567 160-1	- (11.5) (13.0)	2.2 660.2		27×17	縦方向にヘラナ デ	斜格子		広・側端面ヘラ 削り	カマド出土
444-KD18 SI567 160-2	- - (15.1)	1.6 341.3	横粘土紐	20×25	縦方向にヘラナ デ 側縁縁一面 ヘラ削り	斜格子		ヘラ削り	カマド出土
444-KD20 SI567 160-3 77-95	- - (17.2)	2.1 193.2	横粘土紐	《24×18》	側縁縁二面ヘラ 削り	縄目 L9 本 正格子	縄目叩きの後に格 子叩き	側端面二面ヘラ 削り	カマド出土
444-KD19 SI567 160-4	- - (8.2)	3.2 346.5	粘土板	《18×21》	摩耗している	斜格子		側端面一面ヘラ 削り	カマド出土
444-KD21 SI568 161-3 95	- (17.3) (17.8)	1.8 781.2		28×24	広端縁ヘラ削り	正格子	押型「見」 191-24	広端面一面ヘラ 削り、側端面二 面ヘラ削り	押型「見」横見部 カマド出土 白色針状物質混入
444-KD23 SI568 161-4	- - (18.6)	3.4 1008.1	横粘土紐	32×27		縄目 L13 本	不規則にナデてい る	-	
444-KD22 SI568 161-5	- - (12.8)	2.0 704.9	横粘土紐	14×18		縄目 L10 本		側端面ヘラ削り	
444-KD24 SI570 163-7 78-94	23.7 - (17.2)	2.1 1531.4	横粘土紐	30×30	押印「男」、布合 わせ目 2b 模合 痕あり、狭・側 縁縁一面ヘラ削 り	縄目 L8 本		三端面一面ヘラ 削り	カマド出土部 押印「男」男金部 191-17
444-KD25 SI570 163-8 78	- 27.5 (18.9)	1.4 1418.8	横粘土紐	14×15	ひび割れを指ナ デ	縄目 L8 本	広・側縁縁ナデ部 分的にナデている	三端面ナデ	カマド出土
444-KD26 SI570 163-9	- (16.2) (12.1)	2.7 793.3	粘土板?	19×21	広・側縁縁一面 ヘラ削り	縄目 L8 本		二端面一面ヘラ 削り	白色針状物質混入
444-KD27 SI571 164-16 78-94	- (13.3) (17.6)	1.7 1699.1	横粘土紐	18×20		縄目 L9 本		側端面ナデ、広 端面ワラ状圧痕	押印「入」入間部
444-KD28 SI571 164-17	- (5.1) (6.2)	2.3 107.6		《24×27》	端縁一面ヘラ削 り	押型	押型「在」 191-19	側端面二面ヘラ 削り、広端面一 面ヘラ削り	押型「在」森原部

遺物番号 出土位置 図面番号 図面番号	接端幅 広端幅 全長	厚 重 さ き	素 材	布 目	凹面特徴	凸面叩き	凸面特徴	端部特徴	備 考
444-KD33 S1572 166-11	(12.2) - (18.1)	2.2 1132.5	横粘土紙	27×28	端縁一面ヘラ削り	縄目 L9本		二端面ナデ	カマド出土
444-KD34 S1572 166-12	- - (18.8)	3.0 778.9	横粘土紙	22×17	側端縁幅広く一 面ヘラ削り、部 分的に指ナデ	斜格子		側端面ヘラ削り	カマド出土
444-KD29 S1572 187-1 80	(13.7) (14.8) 40.0	2.5 2635.0	横粘土紙	21×21	押印「様」?、右 側端・広・狭端 縁一面ヘラ削り、左側端縁二 面ヘラ削り 191-16	縄目 L11本		右側端面二面ヘ ラ削り、左側端 面一面ヘラ削り	カマド出土 白色針状物質混入
444-KD36 S1572 187-2	(14.2) - (12.2)	2.0 513.2	横粘土紙?	28×28	端縁一面ヘラ削り	縄目 L9本		二端面一面ヘラ 削り	カマド出土
444-KD30 S1572 167-3 80	(17.2) (8.0) 34.0	2.0 1692.5	粘土板	27×27	端縁幅広く一面 ヘラ削り	縄目 L7本		広端左側隅落し 端部一面ヘラ削り	カマド出土
444-KD35 S1572 167-4	- (17.0) (12.4)	2.2 713.8	横粘土紙	16×18		縄目 R8本		二端面ナデ、広 端面ワラ状圧痕	カマド出土
444-KD31 S1572 168-1 81	23.5 - (21.7)	2.0 1887.1		14×18		縄目 R7本	叩き締めの円孔B	狭・側端面ナデ	カマド出土
444-KD32 S1572 188-2 81	- 27.9 (26.3)	2.2 2641.7	横粘土紙	28×28	指頭痕、棒状圧 痕2条	縄目 L8本	焼けた粘土が付着 全体を研磨されて いる	三端面ナデ	カマド出土
444-KD37 S1573 189-2	- (9.2) (8.9)	2.4 290.7		20×20	広・右側端縁、 一面ヘラ削り	縄目 L15本		広端面ナデ	
444-KD39 SK1897 169-8	- - (4.8)	1.3 134.4	横粘土紙	24×24		縄目 L14本			
444-KD40 SK1905 169-13	- - (5.6)	2.0 122.0		23×23		縄目 L10本			
444-KD41 SK2004 170-14	- - (5.8)	1.9 59.6		19×16		縄目 L10本		左側端面ナデ	
444-KD43 SX149 171-2	- (13.2) (18.9)	2.0 746.7	横粘土紙	14×16	広端縁一面幅広 くヘラ削り 右側端縁ナデ	縄目 L8本		ナデ、広端面加 面側をヘラ削り	
444-KD44 SX149 171-3	(7.8) - (11.8)	2.6 396.9	粘土板?	②4×2①	指骨痕あり	縄目 L12本	一部に布の圧痕、 端部に斜め方向の 浅い削り、指頭痕	狭端面一面ヘラ 削り	
444-KD46 SX149 171-4	- - (14.7)	2.4 573.9	横粘土紙?	18×20	左端縁二面ヘラ 削り	縄目 L9本		指の圧痕	側端面一面ヘラ 削り
444-KD47 SX149 171-5	- - (14.7)	2.0 354.6	横粘土紙	20×24		縄目 L9本		側端面ナデ	

遺物番号 出土位置 図面番号 図版番号	狭幅幅 広幅幅 全長	厚 重 さ さ	素 材	布 目	上面特徴	凸面叩き	凸面特徴	端面特徴	備 考
444-KD48 SX149 171-6	- (6.8)	2.0 112.2		29×29			正格子		
444-KD45 SX149 171-7	- (5.8) (8.9)	2.4 175.2		14×17	広端縁一面ヘラ 削り		正格子	二端面一面ヘラ 削り	
444-KD49 SX149 171-8	- (8.0)	2.4 355.4	横粘土板	30×30			罫目 L9 本	側端面ナゲ	
444-KD60 P-10 172-4	- (4.2)	2.0 66.4	横粘土板	15×16			罫目 R7 本	ナゲ	
444-KD52 P-13 172-5	- (4.9) (4.6)	2.1 62.5		27×24	ヘラ書き?文字 不明		罫目 L9 本	広端面ワラ状圧 痕	
444-KD63 P-35 172-9	(8.6) (12.1)	2.1 481.8	横粘土板	14×17			罫目 L9 本	側端面ナゲ、狭 端山降灰付着	
444-KD54 HQ62 174-1	(3.8) (7.8)	1.5 98.2		《36×33》	ヘラ書き文字不 明 190-16		罫目 R9 本	ヘラ削り	西側調査区出土
444-KD55 表板 174-2	- (9.6) (10.6)	2.4 419.7		26×26			罫目 L10 本	部分的に指ナゲ 広端面にヘラ書 き「4」、ワラ状 圧痕 190-23	西側調査区出土
444-KD57 H018 174-3	(3.2) (15.5)	2.6 347.8	粘土板	《33×36》	側端縁一面ヘラ 削り、粗いヘラ ナゲ		罫目 L9 本	狭・側端面ヘラ 削り	西側調査区出土
444-KD56 H018 174-4	(12.5) (18.5)	1.2 617.2	横粘土板	17×20			罫目 L9 本	叩き詰めのパズル B、 狭端縁ナゲ	西側調査区出土
444-KD59 HQ44 174-5	(8.7) (10.4)	2.7 316.6		《21×21》	端縁一面ヘラ削 り、稜骨痕残す		斜格子	二端面一面ヘラ 削り	東側調査区出土
444-KD58 HQ44 174-6 94	- (8.5)	2.1 399.6	横粘土板	24×20	押印「棒」、側端 縁一面ヘラ削り 191-10		罫目 L8 本	側端面二面ヘラ 削り	押印「棒」横紋部 東側調査区出土 白色針状物質混入
444-KD60 HM52 174-7	(6.8) (7.0)	1.7 103.9		21×27	狭端縁一面ヘラ 削り		斜格子	狭端面ヘラ削り	東側調査区出土

444 次調査場一覧

遺物番号 出土位置 図面番号 図版番号	長辺長 短辺長	厚 重 さ さ	素 材	上面特徴	下面特徴	側面特徴	備 考
444-KH01 S1567 160-5	(11.3) (6.8)	6.8 748.6	粘土板	ヘラ削り	ヘラ削り	ヘラ削り	カマド出土
444-KH02 S1572 168-3	(8.3) (6.8)	(4.0) 286.2		ヘラ削り			カマド出土

445 次調査男瓦一覽

遺物番号 出土位置 図面番号 図版番号	狭幅幅 広幅幅 全長	厚 さ 重 さ	素 材	布 目	凹面特徴	凸面印き	凸面特徴	端面特徴	備 考
445-K01 S1675 180-6 85	10.1 (12.3) 42.2	1.4 2310.1	横粘土紐	27×27	側縁線一面ヘラ削り、布合わせ目Zb		側縁線一面ヘラ削り	ヘラ削り、狭・広端隅落とし	

445 次調査女瓦一覽

遺物番号 出土位置 図面番号 図版番号	狭幅幅 広幅幅 全長	厚 さ 重 さ	素 材	布 目	凹面特徴	凸面印き	凸面特徴	端面特徴	備 考
445-KD01 S1675 180-7 85	25.7 (19.4)	2.6 1300.7	横粘土紐	19×19	端縁一面ヘラ削り	縄目 L8本	端縁ナデ 棒状圧痕1条	狭・広端面ナデ	
445-KD02 S1575 181-1 88-96	- (23.8)	1.7 1597.3	横粘土紐	20×27	横骨文字「土」 191-36	縄目 L10本		側端面ナデ	
445-KD03 S1575 181-2	- (10.5) (20.0)	2.7 998.9	横粘土紐	26×20	広端縁一面ヘラ削り、側縁線二面ヘラ削り、指ナデ	縄目 L12本	側縁線ヘラで軽くナデている	広・側端面ヘラ削り	
445-KD04 S1575 181-3 85	(17.3) (14.9)	2.2 781.4	横粘土紐	23×14	端縁一面ヘラ削り	縄目 L8本		二端面一面ヘラ削り、狭端面ワラ状圧痕	
445-KD05 P-27 181-6	(9.8) (12.0)	2.3 307.6		19×18		縄目 L10本	狭端縁ナデ	ナデ	

445 次調査磚一覽

遺物番号 出土位置 図面番号 図版番号	長辺長 短辺長	厚 さ 重 さ	素 材	上面特徴	下面特徴	側面特徴	備 考
445-KB01 P-14 181-6	(11.2) (7.7)	(2.8) 262.3		ヘラ削り		ヘラ削り	白色針状物質混入

459 次調査女瓦一覽

遺物番号 出土位置 図面番号 図版番号	狭幅幅 広幅幅 全長	厚 さ 重 さ	素 材	布 目	凹面特徴	凸面印き	凸面特徴	端面特徴	備 考
459-KD01 LM16 185-4	- (9.1)	2.1 98.4		29×24		斜格子		-	

421 次調査鉄製品一覧

図面番号 図原番号	出土位置	遺物番号	種 別	1 全長	2 幅	3 厚さ	4	5	6	7	8	9	重さ	備 考
4-2 4-3 2	SI637 覆土	421-MJ01	鎌	(14.4)	3.5	0.35							76.7	
4-4 2	SI637 覆土	421-MY01	鐵	(9.4)	7.2	(1.6)	1.1	0.5	0.4	(2.2)	0.5	0.5	11.2	錆により先端 が磨らんでい る
4-5 2	SI637 覆土	421-MZ01	不明鉄製品	6.0	0.6	0.9							18.9	
7-4	SZ1 覆土	421-MM06	釘	(3.6)	(0.8)	(0.8)	—						3.3	

431 (494)・446・460 次調査鉄製品一覧

図面番号 図原番号	出土位置	遺物番号	種 別	1 全長	2 幅	3 厚さ	4	5	6	7	8	9	重さ	備 考
20-6 10	SI544 覆土	431-MH01	刀子	(7.2)	(4.9)	(2.3)	1.2	0.8	1.5	0.4	0.3		5.3	
20-7 10	SI544 覆土	431-MH01	釘	(6.7)	0.5	0.5	—						5.5	頤欠失
20-8 10	SI644 カマド	431-MH02	釘	(5.2)	0.7	0.8	1.4						10.0	
20-9 10	SI544 覆土	431-MZ01	不明	(3.65)	1.2	0.5							3.7	鉄鏝か?
22-6 11	SI545 覆土	431-MH03	釘	(2.4)	0.5	0.6	—						0.9	木質遺存
32-2 17	SI548 覆土下層	431-MY03	鉄滓	10.0		3.5			0.8	0.3			223.0	磁状製品 木質遺存
32-3 17	SI548 覆土上層	431-MY01	鉄滓	4.4		1.5							24.7	
32-4 17	SI548 覆土下層	431-MY02	鉄滓	5.2		1.7							29.3	
32-5 17	SI548 覆土下層	431-MY04	鉄滓	6.5		2.1							70.8	
35-8 19	SI549 覆土	431-MH02	刀子	(9.1)	(3.2)	5.8	0.85	0.8	1.45	0.35	0.5		9.9	
35-9 19	SI549 覆土	431-MH03	刀子	9.2	6.0	3.2	1.0	0.7	1.1	0.3	0.5		7.5	
39-2 20	SI551 貼床下	431-MM05	釘	(4.1)	0.7	0.6							1.9	頤欠失
39-3 20	SI551 覆土	494-MZ01	不明鉄製品	12.7	2.06	0.55							12.9	鏝?
49-10	SI554 覆土	431-MM06	釘	7.0	0.7	0.6	1.7						14.5	
52-14 24	SI586 カマド	460-MM01	釘	(5.2)	0.4	0.35							2.0	頤欠失
52-16 24	SI586 覆土下層	460-MY01	鉄滓	1.25		0.9							1.9	
57-16 27	SI588A 覆土	460-MZ01	不明鉄製品	(4.8)	1.0	0.8							13.0	
59-3 28	SI588B 覆土	460-MH01	刀子	10.8	4.8	6.0	0.9	0.65	1.1	0.4	0.3		8.5	
59-4 28	SI588B 覆土	460-MH02	刀子	(6.6)	5.5	(1.05)	1.1	—	1.2	0.4	—		9.0	
59-5 28	SI588B 覆土	460-MH03	刀子	(9.2)	(9.2)	—	(0.9)	—	—	0.4	—		9.9	

図面番号 図位番号	出土位置	遺物番号	種別	1全長	2幅	3厚さ	4	5	6	7	8	9	重さ	備考
59-6	S1588B 覆土	460-M04	刀子	(3.2)	(3.2)	—	1.0	—	—	0.4	—		5.2	
59-7 28	S1588B 覆土	460-M102	鉄滓	2.2		1.25							13.5	
59-8 28	S1588B 覆土	460-M103	鉄滓	3.35		1.3							14.7	
59-9 28	S1588B 覆土	460-M202	不明鉄製品	(2.5)	0.55	0.4							1.2	鉄鏝か?
59-10 28	S1588B 覆土	460-M203	不明鉄製品	(4.4)	0.4	0.4							2.0	木質遺存
60-15 28	S1591 覆土	460-M002	釘	(4.0)	0.7	0.8	—						3.8	頰欠失
62-6 29	S1593 覆土	460-M003	釘	(5.9)	0.8	0.8	—						8.7	頰欠失
62-7 28	S1593 覆土	460-M104	鉄滓	2.4		1.3							17.6	
62-8 28	S1593 覆土	460-M204	不明鉄製品	(8.8)	0.65	0.65							6.2	
62-9 28	S1593 覆土	460-M205	不明鉄製品	1.9	(4.5)	0.8							10.5	
65-3 31	S1594 覆土	460-M006	刀子	(16.5)	(11.9)	(4.6)	1.2	1.0	1.4	0.3	0.35		18.2	
65-4 31	S1594 覆土	460-M206	不明鉄製品	11.8	1.0	0.7							20.1	鏟?
66-5 31	S1594 覆土	460-M207	不明鉄製品	(4.0)	0.6	0.6							5.8	
65-6 31	S1594 覆土	460-M209	不明鉄製品	(4.0)	0.7	0.35							4.2	
65-7 31	S1594 覆土	460-M208	刀鍬片	4.5	2.1	0.7	0.45						7.0	黄金具
68-21 32	SK1673 覆土	431-M203	不明鉄製品	5.9	5.6	0.6							26.9	
75-17	SK2088 覆土	460-M04	釘	(3.2)	0.76	0.8	1.9						8.1	
75-18 36	SK2088 覆土	460-M005	釘	(3.1)	0.6	0.6	—						1.8	頰欠失
75-19 36	SK2088 覆土	460-M105	鉄滓	1.4		1.4							9.1	
75-20 36	SK2088 覆土	460-M106	鉄滓	2.9		1.6							9.7	
75-21 36	SK2088 覆土	460-M107	鉄滓	1.9		1.95							9.4	
77-6 36	SK2087 覆土	460-M06	刀子	(5.1)	(5.1)	—	1.0	—	—	0.4	—		4.6	
77-7 36	SK2087 覆土	460-M07	釘	(4.6)	0.5	0.45	—						3.8	頰欠失
77-8 36	SK2087 覆土	460-M108	鉄滓	2.25		1.78							17.3	
77-9 36	SK2087 覆土	460-M212	不明鉄製品	(8.2)	0.7	0.65							17.8	
77-10 36	SK2087 覆土	460-M213	不明鉄製品	(3.5)	0.5	0.65							5.6	
78-18 37	SZ5 底面	439-M01	刀子	(16.5)	(10.6)	6.2	0.9	0.8	1.36	0.4	0.3		16.7	
79-11 37	P-336 覆土	431-M207	鈴	(2.3)	2.6	0.09							—	
83-15 37	P-124 覆土	460-M109	鉄滓	2.75		1.3							11.3	
83-16 37	P-124 覆土	460-M110	鉄滓	1.4		0.9							2.9	

図面番号 図版番号	出土位置	遺物番号	種別	1全長	2幅	3厚さ	4	5	6	7	8	9	重量	備考
87-11 38	遺構外	431-M07	釘	(2.0)	0.35	0.4	0.8						1.2	
87-12 38	遺構外	431-M08	釘	(2.6)	0.3	0.3	0.6						0.8	
87-13 38	遺構外	460-MY11	鉄滓	1.75		1.95							5.9	
87-14 38	遺構外	431-M206	不明鉄製品	(2.2)	(2.3)			0.4	0.4		0.7	0.5	1.6	錠状製品
87-15 38	遺構外	431-M205	不明鉄製品	4.7	1.3	1.5							17.6	方形錠状

442 次調査鉄製品一覧

図面番号 図版番号	出土位置	遺物番号	種別	1全長	2幅	3厚さ	4	5	6	7	8	9	重量	備考
138-6 66	S1559 覆土下層	442-M001	釘	(6.5)	0.7	0.7	1.2						15.1	
138-7 66	S1559 覆土下層	442-M002	釘	(6.6)	0.5	0.5	1.9						10.8	
138-8 66	S1559 覆土下層	442-M003	釘	(5.5)	0.4	0.4	-						3.9	頭欠失
138-9 66	S1559 床直	442-M004	釘	(4.2)	0.3	0.3	-						2.7	頭欠失
138-10	S1559 覆土	442-M005	釘	(3.6)	0.4	0.3	-						2.3	頭欠失
138-11	S1559 覆土	442-M006	釘	(2.1)	0.2	0.25	-						0.1	頭欠失
138-12 66	S1559 覆土上層	442-MY01	鉄滓	12.2		4.5							580.0	碗型鉄滓
138-13 66	S1559 覆土上層	442-MY02	鉄滓	7.8		2.1							55.0	
138-14	S1559 覆土上層	442-MY03	鉄滓	3.9		1.4							15.6	
138-15	S1559 覆土上層	442-MY04	鉄滓	5.4		1.6							17.6	
139-1 66	S1559 覆土下層	442-MY05	鉄滓	9.5		3.7							272.6	碗型鉄滓
139-2 66	S1559 覆土下層	442-MY06	鉄滓	8.3		4.1							182.9	
139-3 66	S1559 覆土下層	442-MY07	鉄滓	6.7		4.1							175.0	
139-4 66	S1559 覆土下層	442-MY12	鉄滓	6.0		3.5							150.1	
139-5 67	S1559 床直	442-MY12	鉄滓	6.5		2.1							94.1	
139-6 67	S1559 覆土下層	442-MY10	鉄滓	6.2		2.1							81.8	
139-7	S1559 覆土下層	442-MY08	鉄滓	5.2		2.3							41.0	
139-8 67	S1559 覆土下層	442-MY11	鉄滓	4.5		2.0							58.7	
139-9	S1559 覆土下層	442-MY09	鉄滓	3.25		1.5							8.0	
140-1 67	S1559 床直	442-MY15	鉄滓	5.4		1.9							42.3	
140-2 67	S1559 床直	442-MY17	鉄滓	7.5		2.8							141.6	
140-3	S1559 床直	442-MY16	鉄滓	4.1		2.1							31.9	

図面番号 図版番号	出土位置	遺物番号	種別	1全長	2幅	3厚さ	4	5	6	7	8	9	重さ	備考
140-4	SI559 床直	442-MY18	鉄滓	5.1		1.4							31.0	
140-5	SI559P-1	442-MY19	鉄滓	6.2		1.9							44.0	
140-6 67	SI559P-1	442-MY20	鉄滓	3.4		1.1							16.0	
140-7 67	SI559 床直	442-MY23	鉄滓	7.7		2.4							145.8	
140-8 67	SI559 床直	442-MY22	鉄滓	5.5		1.3							48.2	
140-9 67	SI559P-1	442-MY21	鉄滓	3.7		1.6							14.8	
140-10	SI559 攪乱	442-MY26	鉄滓	3.3		1.0							8.6	
140-11 67	SI559 攪乱	442-MY24	鉄滓	9.1		2.3							184.0	塊型鉄滓
140-12	SI559 覆土	442-MY28	鉄滓	2.95		1.3							22.1	
140-13 67	SI559 覆土下層	442-MZ01	不明鉄製品	2.15	2.1	0.3							6.0	
140-14	SI559 床直	442-MZ02	不明鉄製品 (2.8)	1.3	0.25								3.9	
140-15	SI559 床直	442-MZ03	不明鉄製品 (3.2)	1.5	0.2								4.2	
142-3 68	SD323 覆土上層	442-MZ04	不明鉄製品	1.7	1.5	0.8							2.6	

444 次調査鉄製品一覧

図面番号 図版番号	出土位置	遺物番号	種別	1全長	2幅	3厚さ	4	5	6	7	8	9	重さ	備考
161-7 77	SI568 覆土	444-MY01	鉄滓	(3.15)		2.0							25.7	
161-8 77	SI568 覆土	444-MY02	鉄滓	2.75		2.55							34.0	
161-9 77	SI568 覆土	444-MZ01	不明鉄製品	(2.4)	(2.4)	0.2							1.1	
165-1 79	SI571 覆土	444-MN01	釘	(6.75)	0.6	0.7	-						10.2	頭欠失
165-2 79	SI571 覆土	444-MY03	鉄滓	1.2		1.15							3.8	
165-3 79	SI571 覆土	444-MY04	鉄滓	1.9		1.45							12.9	
168-4	SI572 床直	444-MN02	釘	(2.0)	0.4	0.3	1.05						1.5	
168-5 81	SI572 東カマド	444-MN01	鏃	(3.6)	(2.1)	-	-	0.6	0.7	(1.5)	0.35	0.4	4.2	
168-6 81	SI572 覆土	444-MT01	鍬具	(2.9)		(3.2)	0.4	0.6					5.0	
168-7	SI572 東カマド	444-MT02	鍬具	(1.1)		(2.5)	0.46	0.35					1.3	
168-8 81	SI572 貼床	444-MY05	鉄滓	2.9		1.6							5.9	
168-9 81	SI572 東カマド	444-MZ02	不明鉄製品	(1.8)	3.2	0.5							2.6	
169-16 81	SK1907	444-MY06	鉄滓	4.2		1.9							41.9	
169-20 81	SK1909	444-MY07	鉄滓	2.55		1.4							3.4	

図面番号 図版番号	出土位置	遺物番号	種別	1全長	2幅	3厚さ	4	5	6	7	8	9	重さ	備考
170-15 81	SK2004	444-M703	鉸具	(2.0)		(2.5)	0.4	0.5					2.1	
174-9 82	HM76 表土	444-M203	不明鉄製品	3.7	6.3	0.9							18.2	

459 次調査鉄製品一覧

図面番号 図版番号	出土位置	遺物番号	種別	1全長	2幅	3厚さ	4	5	6	7	8	9	重さ	備考
185-5 89	LM16 表土	459-M201	不明鉄製品	(4.2)	0.5	0.5							4.5	

428 次調査石製品一覧

図面番号	図版番号	出土位置	遺物番号	種別	a最大長	b1最大幅	b厚さ	重さ	特徴
14-1		F-10	428-G201	不明石製品	(9.1)	(4.4)	(5.2)	67.3	

431・446・460 次調査石製品一覧

図面番号	図版番号	出土位置	遺物番号	種別	a最大長	b1最大幅	b厚さ	重さ	特徴
22-7		SI545 覆土	431-G201	台石	(9.5)	10.5	7.2	736.8	炭化物付着
32-1		SI548 覆土上層	431-G204	磨痕石	13.1	(8.7)	4.2	530.0	
35-7	19	SI549 覆土	431-GL01	砥石	(4.3)	(5.7)	(1.6)	36.6	
37-5		SI550 覆土	431-G205	磨痕石	18.7	7.2	5.5	1044.0	
39-1	20	SI581 貯蔵穴	431-G206	磨痕石	12.9	9.9	3.9	666.1	
49-6		SI563 覆土	431-G207	磨痕石	8.7	5.2	3.7	268.1	
51-11		SI577 覆土	446-GL01	砥石	(5.7)	3.4	2.1	47.5	
56-5		SI586 覆土	460-G201	台石	(21.5)	(11.1)	6.7	2105.8	
62-5	29	SI693 カマド内	460-G203	支脚	11.8	8.9	5.0	683.9	カマド支脚。スタンプ形石器の転用
68-6		SK1669 覆土	431-G208	台石	12.3	(12.3)	(7.2)	1435.0	
76-3		SK2069 覆土	460-G206	台石	(13.7)	(17.3)	8.2	1999.6	
87-9		GI22重 b層	446-GL02	砥石	7.9	3.6	2.1	78.9	
87-10	38	GC24 表土	460-GL01	砥石	8.4	4.8	1.4	71.9	

442 次調査石製品一覧

図面番号	図版番号	出土位置	遺物番号	種別	a最大長	b1最大幅	b厚さ	重さ	特徴
138-1	66	SI559 覆土下層	442-G201	磨痕石	13.2	4.7	2.7	259.8	

444 次調査石製品一覧

図面番号	図版番号	出土位置	遺物番号	種別	a 最大長	b1 最大幅	b 厚さ	重さ	特徴
156-5		S1564 カマド	444-G201	台石	(26.2)	(21.8)	13.3	6404.6	上部が磨れている
161-6		S1588P-3	444-G203	磨崖石	(12.8)	(10.8)	9.2	1615.7	削痕あり(支脚?)
162-11		S1589 炉内	444-G204	磨崖石	(13.2)	(16.3)	17.0	4141.9	欠損, 炉使用
162-12		S1589 炉	444-G206	磨崖石	12.2	11.2	3.9	734.7	上部に磨面, 炉使用
169-21		SK1911	444-G209	磨崖石	(14.2)	(11.5)	4.4	971.2	上部に磨面
171-9		SX149	444-G211	台石	19.7	18.5	6.3	3229.6	縄文時代の可能性あり
174-8	82	HN72 表土	444-GL01	砥石	(8.1)	4.5	1.4	70.0	

442 次調査土製品一覧

図面番号	図版番号	出土位置	遺物番号	種別	最大長	最大幅	厚さ	重さ	特徴
138-2		S1559 上層	442-TK01	羽口	(3.4)	6.3	(4.7)	37.6	
138-3		S1559 機皿	442-TK02	羽口	(2.6)	(3.1)	(1.65)	7.8	
138-4		S1559 機皿	442-TK03	羽口	(2.25)	(2.95)	(1.45)	6.4	
138-6		S1559 P-1	442-TK04	羽口	(2.6)	(3.1)	(1.5)	7.5	

421 次調査縄文土器一覧

図面番号	図版番号	出土位置	遺物番号	器形	時期 1	時期 2	特徴	重さ	備考
9-1	3	S1543J 埋裏	421-JE01	深鉢	中期前半	五領ヶ台 2 式土器	沈線文、波状口縁	1051.0	埋裏
9-2~4	3	S1543J 覆土	421-JE02	深鉢	中期前半	五領ヶ台 2 式土器	陸帯貼り付け、沈線文金雲母を多量に含む	250.5	
9-5		S1543J 覆土	421-JE04	深鉢	中期前半	五領ヶ台 2 式土器	磨き、陸帯貼り付け、その一方の下縁に押引文	464.3	
9-6~8	3	S1543J 覆土	421-JE03	深鉢	中期前半	五領ヶ台 2 式土器	沈線文、金雲母を多量に含む	164.5	
9-9	3	S1543J 覆土	421-JE05	深鉢	中期前半	五領ヶ台 2 式土器		23.6	
9-10	3	S1543J 覆土	421-JE06	深鉢	中期前半	五領ヶ台 2 式土器	磨き、陸帯貼り付け、両方の下端に押引文	22.4	
9-11	3	S1543J 覆土	421-JE07	深鉢	中期前半	五領ヶ台 2 式土器		20.0	
10-1	3	SS99 覆土	421-JB01	深鉢	早期前半	無文土器	外面擦痕	17.1	
10-2	3	SS60 覆土	421-JF03	深鉢	中期後半	加曾利 E IV 式土器	地文は縄文、沈線による壘重文	14.1	
10-3	3	SS60 覆土	421-JF04	深鉢	中期後半	加曾利 E 式土器		14.6	
10-4	3	SS60 覆土	421-JF05	深鉢	中期後半	加曾利 E 式土器	地文は縄文、口縁部に沈線	22.2	
10-5	3	D 区 PJ-8 覆土	421-JE08	深鉢	中期前半	五領ヶ台式土器		7.6	
10-6	3	A 区 III 層	421-JB02	深鉢	早期前半	無文土器	外面擦痕	26.5	
10-7	3	B 区 III 層	421-JB03	深鉢	早期前半	無文土器	外面擦痕	18.9	
10-8	3	D 1 区 III 層	421-JB04	深鉢	早期前半	無文土器	外面擦痕、縞線土器	7.8	
10-9	3	D 1 区 III 層	421-JB05	深鉢	早期前半	無文土器	外面擦痕	5.4	
10-10	3	D 2 区 表土	421-JB07	深鉢	早期前半	無文土器	外面擦痕	12.4	
10-11	3	D 1 区 包含層	421-JB09	深鉢	早期前半	無文土器	外面擦痕	8.6	
10-12	3	D 1 区 III 層	421-JC01	深鉢	早期後半	条痕文系土器	外面条痕文	12.1	東側出土
10-13	3	D 2 区 III 層	421-JC02	深鉢	早期後半		縞線土器	42.7	
10-14	3	D 3 区 III 層	421-JC03	深鉢	早期後半			7.8	
10-15	3	D 4 区 III 層	421-JC04	深鉢	早期後半	条痕文系土器	外面に細かな条痕文	11.5	
10-16	4	D 7 区 攪乱	421-JC05	深鉢	早期後半	条痕文系土器	押引文	9.0	
10-17	4	F 区 S21 覆土	421-JC06	深鉢	早期後半	条痕文土器		55.6	歴史時代層出土
10-18	4	D 2 区 表土	421-JD01	深鉢	前期	縞線式土器?		16.1	
10-19	4	F 区 S21 覆土	421-JD04	深鉢	前期	縞線式土器		6.2	歴史時代層出土
10-20	4	F 区 IK30 重層	421-JD03	深鉢	前期			11.8	
10-21		D 4 区 攪乱	421-JD02	深鉢	前期			31.4	西側攪乱出土
10-22	4	D 1 区 III 層	421-JE11	深鉢	中期前半	勝坂式土器	押引文	15.4	
10-23	4	B 区 III 層	421-JE10	深鉢	中期前半	勝坂式土器		22.3	
10-24	4	D 1 区 III 層	421-JE13	深鉢	中期前半		沈線文	18.6	
10-25	4	D 2 区 III b 層	421-JE14	深鉢	中期前半	五領ヶ台式土器	縦位の節飾縄文	13.5	
10-26	4	D 5 区 表層	421-JE26	深鉢	中期前半			33.0	西側出土
10-27	4	D 5 区 III 層	421-JE25	深鉢	中期前半	五領ヶ台式土器		14.5	南側出土
10-28	4	D 4 区 III 層	421-JE23	深鉢	中期前半	五領ヶ台式土器	地文縄文、内外面削り	62.6	
10-29	4	D 7 区 III 層	421-JE30	深鉢	中期前半	五領ヶ台式土器	地文縄文、金雲母を多量に含む	7.8	
10-30	4	D 2 区 表土	421-JE17	深鉢	中期前半	勝坂式土器		41.7	
10-31	4	D 4 区 III 層	421-JE20	深鉢	中期前半	勝坂式土器	沈線文、半截竹管による交互刺突	14.1	
10-32	4	A 区 表土	421-JE31	深鉢	中期前半	阿玉台式土器	半截竹管による交互刺突	14.0	
10-33		D 2 区 III b 層	421-JE16	浅鉢	中期前半	勝坂式土器	内面に押引文	20.6	

図面番号	図版番号	出土位置	遺物番号	器形	時期1	時期2	特徴	重さ	備考
10-34	4	F区S21覆土	421-JE27	深鉢	中期前半	勝坂式土器	爪形文による横凹区画	63.6	歴史時代墓出土
10-35	4	D4区Ⅲ層	421-JE19	深鉢	中期前半	五領ヶ台式土器	沈線文、金雲母を多量に含む	7.5	
10-36	4	D7区Ⅲ層	421-JE29	深鉢	中期前半	五領ヶ台式土器	沈線文、金雲母を多量に含む	20.9	
10-37		D4区Ⅲ層	421-JE22	深鉢	中期前半	五領ヶ台式土器		31.6	南側出土
10-38	4	D2区Ⅲb層	421-JE16	深鉢	中期前半	五領ヶ台式土器	縦位の沈線文	27.7	
10-39	4	D2区Ⅲb層	421-JE18	深鉢	中期前半	勝坂式土器		19.4	
10-40		F区S21覆土	421-JE28	深鉢	中期前半		調代痕、二本堀、二本漕り、一本漕り	18.8	歴史時代墓出土
10-41		D1区表土	421-JF06	深鉢	中期後半	加曾利E式土器	条線文	6.1	
10-42	4	D1区Ⅲ層	421-JF14	深鉢	中期後半	加曾利E式土器	逆弧文	8.8	東側出土
10-43		A区表土	421-JF07	深鉢	中期後半	加曾利E式土器		8.2	
10-44	4	A区表土	421-JF08	深鉢	中期後半	加曾利E式土器	無帯縄文	33.4	
11-1	4	A区Ⅲ層	421-JF09	深鉢	中期後半	唐草文系土器	太い沈線	27.1	
11-2	4	A区Ⅲ層	421-JF10	深鉢	中期後半	加曾利E式土器	懸垂文内磨消	77.2	
11-3	4	D4区Ⅲ層	421-JF11	深鉢	中期後半	加曾利E式土器	懸垂文内磨消	67.8	南側出土
11-4		D6区包含層	421-JF12	深鉢	中期後半	加曾利E色土器	懸垂文内磨消	4.9	
11-5		F区S21覆土	421-JF13	深鉢	中期後半	加曾利E式土器		42.8	
11-6	4	F区IK30Ⅲ層	421-JG01	深鉢	後期	堀之内Ⅱ式土器	磨消縄文、陸帯貼り付け、刺突、内面磨き	72.8	
11-7	4	F区IK30Ⅲ層	421-JG02	深鉢	後期	堀之内Ⅱ式土器	磨消縄文、陸帯貼り付け、刺突、内面磨き、沈線が逆る	11.8	
11-8		F区IK30Ⅲ層	421-JG03	深鉢	後期	堀之内Ⅱ式土器	磨消縄文、陸帯貼り付け、刺突、内面口縁彫突	6.9	
11-9	4	D4区Ⅲ層	421-JG10	深鉢	後期	堀之内Ⅱ式土器	磨消縄文、陸帯貼り付け、刺突、内面磨き	14.9	
11-10	4	F区I133Ⅲ層	421-JG04	深鉢	後期	堀之内Ⅱ式土器	磨消縄文	9.1	
11-11	5	F区IK30Ⅲ層	421-JG05	深鉢	後期	堀之内Ⅱ式土器	磨消縄文	14.8	
11-12	5	F区I133Ⅲ層	421-JG06	深鉢	後期	堀之内Ⅱ式土器	磨消縄文	6.2	
11-13	5	F区IR18Ⅲ層	421-JG07	深鉢	後期	堀之内Ⅱ式土器	磨消縄文	12.6	
11-14	5	F区I133Ⅲ層	421-JG08	深鉢	後期	堀之内Ⅱ式土器	磨消縄文	4.7	
11-15	5	F区I133Ⅲ層	421-JG09	深鉢	後期	堀之内Ⅱ式土器	磨消縄文	9.0	

428 次調査縄文土器一覧

図面番号	図版番号	出土位置	遺物番号	器形	時期1	時期2	特徴	重さ	備考
14-4	7	L139Ⅲb層	428-JB01	深鉢	早期前半	標布文系土器	標布文	16.3	
14-5	7	JD45Ⅲ層	428-JB02	深鉢	早期前半	標布文系土器	口縁外面に押圧による沈線	18.5	
14-6	7	JA47Ⅲ層	428-JB05	深鉢	早期前半	無文土器		22.8	
14-7	7	IQ46Ⅲ層	428-JB06	深鉢	早期前半	無文土器		17.1	
14-8	7	HR50Ⅲ層	428-JB07	深鉢	早期前半	無文土器	軽奥な粘土	63.2	
14-9	7	IN48Ⅲ層	428-JC01	深鉢	早期後半	条痕文系土器		14.0	
14-10	7	JE46Ⅲ層	428-JE01	深鉢	中期前半	阿玉台式土器	押引文、金雲母を多量に含む	13.3	
14-11	7	LK39攪乱	428-JE02	深鉢	中期前半	阿玉台式土器	粘土紐の接合を残す、金雲母を多量に含む	20.0	
14-12	7	LK39攪乱	428-JE03	深鉢	中期前半	勝坂式土器	爪形文、陸帯による区画、陸帯刺突	23.2	
14-13	7	JE46Ⅲ層	428-JE04	深鉢	中期前半	勝坂式土器	沈線による区画	34.8	

図面番号	図版番号	出土位置	遺物番号	器形	時期1	時期2	特徴	重さ	備考
14-14	7	JE46Ⅲ層	428-JF01		中期後半	加曾利EⅢ～IV	口縁下に沈線	5.7	
14-15	7	JE46Ⅲ層	428-JF02		中期後半	加曾利EⅠ式土器	磨消縄文	14.2	
14-16	7	JE46Ⅲ層	428-JF03		中期後半		模位の押引、沈線文	45.9	

431・446・460次調査縄文土器一覧

図面番号	図版番号	出土位置	遺物番号	器形	時期1	時期2	特徴	重さ	備考
88-1	39	SI604J 伊	460-JE02	深鉢	中期前半	五領ヶ台式土器	縄文を等間隔に磨り消している	1462.6	埋燹伊
88-2	39	SI604J 伊覆土	460-JE01	深鉢	中期前半	五領ヶ台式土器	胴部にY字状の隆帯、地文は縄文、胎土に金雲母を多く含む	2130.1	埋燹伊
88-3		SI604J 覆土	460-JE03	深鉢	中期前半	五領ヶ台式土器	縄文を等間隔に磨り消している	12.3	
88-4	39	SI604J 覆土	460-JE05	深鉢	中期前半	五領ヶ台式土器	縄文を等間隔に磨り消している	143.9	
88-5	39	SI604J 覆土	460-JE06	深鉢	中期前半	五領ヶ台式土器		61.0	
88-6	39	SI604J 覆土	460-JE07	深鉢	中期前半	五領ヶ台式土器		47.4	
88-7	39	SI604J 覆土	460-JE08	深鉢	中期前半	五領ヶ台式土器		681.8	
88-8	39	SI604J 伊覆土	460-JE09	深鉢	中期前半	五領ヶ台式土器		10.8	
88-9	39	SI604J 伊覆土	460-JE10	深鉢	中期前半	五領ヶ台式土器	波状口縁	10.6	
88-10	39	SI604J 覆土	460-JE11	深鉢	中期前半	五領ヶ台式土器		44.6	
89-9	40	SK176J 覆土	431-JB01	深鉢	早期前半	東山式土器	外面口縁直下にヘラ状工具による複数の沈線	47.9	
89-11	40	SK176J 覆土	431-JF01	深鉢	中期後半	加曾利EⅠ式土器	内外面をよく磨いている	186.6	
89-12	40	SK1974J 覆土	446-JB01	深鉢	早期前半	平板式土器	無文、外面口縁直下に沈線	2.8	
89-13	40	SK1978J 覆土	446-JB02	深鉢	早期前半	平板式土器	無文、外面口縁直下に沈線	36.2	
89-15	40	SK1990J 覆土	446-JB03	深鉢	早期前半	無文土器		21.0	
89-18	40	SK2120J 覆土	460-JE24	深鉢	中期前半	五領ヶ台式土器		18.6	
89-19	40	SK2120J 覆土	460-JE25	深鉢	中期前半	五領ヶ台式土器		23.3	
90-1		HC42Ⅲ層	431-JB02	深鉢	早期前半	橋本系土器		6.1	
90-2	40	HC42Ⅲ層	431-JB03	深鉢	早期前半	橋本系土器		6.6	
90-3	40	HC42Ⅲ層	431-JB04	深鉢	早期前半	橋本系土器		3.9	
90-4		HA42Ⅲ層	431-JB05	深鉢	早期前半	橋本系土器		1.9	
90-5		HA42Ⅲ層	431-JB06	深鉢	早期前半	橋本系土器		1.2	
90-6.7		HA42Ⅲ層	431-JB07	深鉢	早期前半	橋本系土器		6.1	
90-8		HC42Ⅲ層	431-JB08	深鉢	早期前半	橋本系土器		2.6	
90-9		HC42Ⅲ層	431-JB09	深鉢	早期前半	橋本系土器		1.5	
90-10	40	GK32Ⅲb層	446-JB04	深鉢	早期前半	橋本系土器	口縁が肥厚し、僅かに外反している	26.9	井草式
90-11	40	SI591 覆土	460-JB01	深鉢	早期前半	橋本系土器		47.7	歴史時代住居出土
90-12	40	GM47 表土	446-JB05	深鉢	早期前半	橋本系土器		23.2	井草式か？
90-13		G016 表土	446-JB15	深鉢	早期前半	橋本系土器		12.6	
90-14	40	SI577 覆土A	446-JB06	深鉢	早期前半	橋本系土器	口縁が肥厚し、口縁上部にも磨消文	8.1	歴史時代住居出土
90-16	40	SK1669 覆土	431-JB10	深鉢	早期前半	無文土器	外面口縁直下に沈線、内面に刷り	34.1	歴史時代土坑出土
90-16	40	GK37Ⅲb層	446-JB07	深鉢	早期前半	無文土器	外面口縁直下に沈線	14.9	
90-17	40	GK20Ⅲb層	446-JB08	深鉢	早期前半	無文土器	外面口縁直下に沈線	16.3	

図面番号	図取番号	出土位置	遺物番号	器形	時期1	時期2	特徴	重さ	備考
90-18	40	GG40Ⅲb層	446-JB09	深鉢	早期前半	無文土器	外面口縁直下に沈線	22.8	
90-19	40	GM42Ⅲb層	446-JB10	深鉢	早期前半	無文土器	外面口縁直下に沈線	7.1	
90-20	40	GI22Ⅲb層	446-JB11	深鉢	早期前半	無文土器	外面口縁直下に沈線	40.6	
90-21	40	P-118 覆土	446-JB26	深鉢	早期前半	無文土器	外面口縁直下に沈線、内外面に敷灰	17.2	歴史時代小穴出土
90-22	40	GN20Ⅲ層	460-JB03	深鉢	早期前半	無文土器	外面口縁直下に沈線	16.2	
90-23	40	GE34Ⅲ層	460-JB04	深鉢	早期前半	無文土器	外面口縁直下に沈線、外面に擦痕	18.9	
90-24		GO38Ⅲ層	431-JB11	深鉢	早期前半	無文土器	口縁部は肥厚しない	7.9	
90-25	40	HE16Ⅲ層	431-JB12	深鉢	早期前半	無文土器	外面に擦痕、胎土が軽装	61.6	
90-26		GI47Ⅲb層	446-JB27	深鉢	早期前半	無文土器	外面擦痕	14.8	
90-27		GO27 表土	446-JB28	深鉢	早期後半	無文土器	外面擦痕	12.7	
90-28	40	HD17 表土	431-JB13	深鉢	早期前半	無文土器	外面に擦痕、胎土が軽装	24.2	
90-29		HE16Ⅲ層	431-JB14	深鉢	早期前半	無文土器	外面に擦痕、胎土が軽装	15.6	
90-30		HE17 表土	431-JB15	深鉢	早期前半	無文土器	外面に擦痕、胎土が軽装	8.0	
90-31		HC20Ⅲ層	431-JB16	深鉢	早期前半	無文土器	外面に擦痕、胎土が軽装	13.1	
90-32	41	HC20Ⅲ層	431-JB17	深鉢	早期前半	無文土器	外面に擦痕、胎土が軽装	25.6	
90-33		HA46Ⅲ層	431-JB18	深鉢	早期前半	無文土器		15.3	
90-34		HG38Ⅲ層	431-JB19	深鉢	早期前半	無文土器	外面に擦痕	9.9	
90-35	41	HE17 表土	431-JB20	深鉢	早期前半	無文土器	外面磨き	17.6	
90-36		HC42Ⅲ層	431-JB21	深鉢	早期前半	無文土器	外面擦痕	14.8	
90-37	41	HB17Ⅲ層	431-JB22	深鉢	早期前半	無文土器	外面擦痕	16.7	
90-38		HC44Ⅲ層	431-JB23	深鉢	早期前半	無文土器		11.7	
90-39		GS42Ⅲ層	431-JB24	深鉢	早期前半	無文土器		8.0	
90-40		HE44Ⅲ層	431-JB25	深鉢	早期前半	無文土器		15.2	
90-41		GO36Ⅲ層	431-JB26	深鉢	早期前半	無文土器		12.8	
90-42	41	HC46Ⅲ層	431-JB27	深鉢	早期前半	無文土器	外面擦痕	21.4	
90-43	41	GO46Ⅲ層	431-JB28	深鉢	早期前半	無文土器	外面磨き	12.4	
90-44		HA16Ⅲ層	431-JB29	深鉢	早期前半	無文土器		11.6	
90-45	41	GN36Ⅲb層	446-JB12	深鉢	早期前半	無文土器	外面擦痕	40.9	
90-46	41	GJ14Ⅲb層	446-JB13	深鉢	早期前半	無文土器		27.8	
90-47		GP21 表土	446-JB14	深鉢	早期前半	無文土器		13.5	
90-48	41	GJ41Ⅲb層	446-JB16	深鉢	早期前半	無文土器	外面擦痕	22.9	
90-49		GM29Ⅲb層	446-JB17	深鉢	早期前半	無文土器	外面擦痕	11.3	
90-50		GI23Ⅲb層	446-JB18	深鉢	早期前半	無文土器	外面擦痕	10.1	
90-51	41	GN38Ⅲb層	446-JB19	深鉢	早期前半	無文土器		31.2	
90-52	41	GL21Ⅲb層	446-JB20	深鉢	早期前半	無文土器	外面磨き	16.8	
90-53	41	GK43Ⅲb層	446-JB21	深鉢	早期前半	無文土器		17.1	
91-1	41	G141Ⅲb層	446-JB22	深鉢	早期前半	無文土器		23.8	
91-2	41	GH35Ⅲb層	446-JB23	深鉢	早期前半	無文土器	外面擦痕	19.4	
91-3	41	GJ35Ⅲb層	446-JB24	深鉢	早期前半	無文土器		27.8	
91-4	41	GK48Ⅲb層	446-JB25	深鉢	早期前半	無文土器	外面擦痕	19.1	
91-5	41	GK23Ⅲb層	446-JB29	深鉢	早期前半	無文土器	外面磨り	18.9	
91-6	41	GM48Ⅲb層	446-JB30	深鉢	早期前半	無文土器	外面擦痕	18.8	
91-7		GM26Ⅲb層	446-JB32	深鉢	早期前半	無文土器	外面擦痕	14.3	

図面番号	図版番号	出土位置	遺物番号	器形	時期 1	時期 2	特徴	重さ	備考
91-8		G128Ⅲb層	446-JB34	深鉢	早期前半	無文土器	外面擦痕	10.4	
91-9	41	G015Ⅲb層	446-JB33	深鉢	早期前半	無文土器	外面擦痕	15.1	
91-10	41	G136Ⅲb層	446-JB31	深鉢	早期前半	無文土器	外面削り	11.1	
91-11		S1577 ±0.1	446-JB35	深鉢	早期前半	無文土器	外面磨き	14.6	歴史時代住居出土
91-12	41	GB34Ⅲ層	460-JB02	深鉢	早期前半	無文土器	外面擦痕	19.1	
91-13	41	GC19Ⅲ層	460-JB05	深鉢	早期前半	無文土器	外面擦痕	30.8	
91-14	41	GC38Ⅲ層	460-JB06	深鉢	早期前半	無文土器	外面擦痕	23.2	
91-15	41	GA31Ⅲ層	480-JB07	深鉢	早期前半	無文土器	外面擦痕、外面口縁直下が僅かに窪んでいる	11.7	
91-16	41	GC27表土	460-JB08	深鉢	早期前半	無文土器	外面擦痕	14.5	
91-17		S1589 覆土	460-JB09	深鉢	早期前半	無文土器	外面擦痕	11.6	歴史時代住居出土
91-18		GC36Ⅲ層	460-JB10	深鉢	早期前半	無文土器	外面擦痕	20.7	
91-19		FT43Ⅲ層	460-JB14	深鉢	早期前半	無文土器	外面擦痕	15.5	
91-20	41	GC38Ⅲ層	460-JB13	深鉢	早期前半	無文土器	外面擦痕	25.3	
91-21	41	GA30Ⅲ層	460-JB12	深鉢	早期前半	無文土器	外面擦痕	14.6	
91-22	41	GF18Ⅲ層	460-JB11	深鉢	早期前半	無文土器	外面擦痕	31.3	
91-23		GC44Ⅲ層	460-JB15	深鉢	早期前半	無文土器	外面削り	17.7	
91-24	41	GE36Ⅲ層	460-JB16	深鉢	早期前半	無文土器	口縁部外反	5.3	
91-25	41	GD28Ⅲ層	460-JB17	深鉢	早期前半	無文土器	口縁部が僅かに肥厚	8.5	
91-26	41	GC34Ⅲ層	460-JB18	深鉢	早期前半	無文土器	内外面磨き	22.3	
91-27		GF23表土	460-JB19	深鉢	早期前半	無文土器	外面磨き	15.9	
91-28	42	GC24表土	460-JB20	深鉢	早期前半	無文土器	外面磨き	26.5	
91-29		S1589 覆土	460-JB21	深鉢	早期前半	無文土器	外面磨き	17.2	歴史時代住居出土
91-30	42	GB40表土	460-JB22	深鉢	早期前半	無文土器	外面磨き	20.3	
91-31		GC24表土	460-JB23	深鉢	早期前半	無文土器	外面擦痕	16.3	
91-32	42	GB33Ⅲ層	460-JB24	深鉢	早期前半	無文土器	外面磨き	19.0	
91-33	42	GG15表土	460-JB25	深鉢	早期前半	無文土器	外面磨き	17.0	
91-34	42	GC27表土	460-JB26	深鉢	早期前半	無文土器	外面擦痕	15.2	
91-35		GB42Ⅲ層	460-JB27	深鉢	早期前半	無文土器	外面磨き	14.3	
91-36		GA32表土	460-JB28	深鉢	早期前半	無文土器	外面磨き	11.2	
91-37	42	GD41Ⅲ層	460-JB29	深鉢	早期前半	無文土器	外面磨き	35.8	
91-38	42	GF29Ⅲ層	460-JB30	深鉢	早期前半	無文土器	外面磨き	16.8	
91-39	42	GG15表土	460-JB31	深鉢	早期前半	無文土器	外面磨き	21.9	
91-40		GE34Ⅲ層	460-JB32	深鉢	早期前半	無文土器	外面擦痕	16.3	
91-41	42	GB32Ⅲ層	460-JB33	深鉢	早期前半	無文土器	外面磨き	23.5	
91-42	42	GF35表土	460-JB34	深鉢	早期前半	無文土器	外面擦痕	11.2	
91-43		GC42Ⅲ層	460-JB35	深鉢	早期前半	無文土器	外面擦痕	7.2	
91-44	42	GF32表土	460-JB36	深鉢	早期前半	無文土器	外面擦痕	27.5	
91-45	42	GF22Ⅲ層	460-JB37	深鉢	早期前半	無文土器		12.3	
91-46	42	GF39Ⅲ層	460-JB38	深鉢	早期前半	無文土器		18.8	
91-47	42	GG21Ⅲ層	460-JB39	深鉢	早期前半	無文土器	外面擦痕	27.2	
91-48	42	HA36Ⅲ層	431-JC01	深鉢	早期後半	条痕文系土器	内外面条痕文	28.6	
91-49	42	HG21Ⅲ層	431-JC02	深鉢	早期後半	条痕文系土器		15.6	
91-50	42	GH27Ⅲb層	446-JC01	深鉢	早期後半	条痕文系土器	内外面条痕文	18.7	

国面番号	国版番号	出土位置	遺物番号	器形	時期 1	時期 2	特徴	重さ	備考
91-51		GF30Ⅲ層	460-JC01	深鉢	早期後半	糸織文系土器		3.0	
92-1	42	GP22Ⅲb層	446-JD03	深鉢	前期	銘織b式土器	半截竹管による平行文と山形文	16.3	
92-2		GL23表層	446-JD01	深鉢	前期	羽来縄文系土器	縦線混入	4.1	
92-3		GL23表層	446-JD02	深鉢	前期	羽来縄文系土器	縦線混入	4.1	
92-4	42	GS46Ⅲ層	431-JE01	深鉢	中期前半	五領ヶ台式土器	波状口縁、沈線文	23.7	
92-5	42	HA36Ⅲ層	431-JE02	深鉢	中期前半	五領ヶ台式土器	波状口縁、押引文	39.9	
92-6	42	HA46Ⅲ層	431-JE03	深鉢	中期前半	五領ヶ台式土器	口縁下に沈線文	11.0	
92-7	42	GS42Ⅲ層	431-JE04	深鉢	中期前半	五領ヶ台式土器	沈線文による区画	27.6	
92-8	42	GS42Ⅲ層	431-JE05	深鉢	中期前半	五領ヶ台式土器	地文無文、Y字状の陰帯	30.5	
92-9	42	GL16Ⅲb層	446-JE01	深鉢	中期前半	五領ヶ台式土器	地文無文、金雲母を多量に含む	40.9	
92-10		GN46Ⅲb層	446-JE02	深鉢	中期前半	五領ヶ台式土器		26.7	
92-11	42	GK16Ⅲb層	446-JE03	深鉢	中期前半	五領ヶ台式土器	地文無文、押引文	37.7	
92-12	42	GA34攪乱	460-JE12	深鉢	中期前半	五領ヶ台式土器	押引文、口縁上部に竹管による刻突	14.4	
92-13	42	GR36Ⅲ層	460-JE16	深鉢	中期前半	五領ヶ台式土器	地文無文、Y字状の陰帯	52.4	
92-14	42	GF20Ⅲ層	460-JE17	深鉢	中期前半	五領ヶ台式土器	地文無文、沈線文	27.0	
92-15	42	GG15表土	460-JE18	深鉢	中期前半	五領ヶ台式土器	地文無文、陰帯	27.3	
92-16		GUX0Ⅲ層	460-JE19	深鉢	中期前半	五領ヶ台式土器	地文無文、金雲母を多量に含む	13.1	
92-17	42	GC30表土	460-JE20	深鉢	中期前半	五領ヶ台式土器		34.0	
92-18	43	GF32表土	460-JE21	深鉢	中期前半	五領ヶ台式土器	押引文	24.8	
92-19	43	HF32Ⅲ層	431-JE06	深鉢	中期前半	阿玉台式土器	輪帯痕を残す、金雲母を多量に含む	13.8	
92-20		GT11Ⅲb層	446-JE04	深鉢	中期前半	阿玉台式土器	輪帯痕を残す、金雲母を多量に含む	13.0	
92-21	43	GS44Ⅲ層	431-JE07	深鉢	中期前半	勝坂式土器	陰帯による楕円区画	61.1	
92-22	43	HE18 I層	431-JE08	深鉢	中期前半	勝坂式土器	押引文	23.5	
92-23	43	GF23表土	460-JE23	深鉢	中期前半		押引文、沈線による山形文	17.3	
92-24	43	HA44Ⅲ層	431-JE09	浅鉢	中期前半	勝坂式土器	口縁上部沈線、作部焼糸文	81.4	
92-25		GA34攪乱	460-JE13	深鉢	中期前半		押引文	11.7	
92-26	43	GA34攪乱	460-JE14	深鉢	中期前半		押引文	7.5	
92-27	43	GB33Ⅲ層	460-JE15	深鉢	中期前半	勝坂式土器		10.1	
92-28	43	HA42Ⅲ層	431-JF02	深鉢	中期後半	加曾利E式土器		47.0	
92-29	43	HC31表土	431-JF03	深鉢	中期後半	加曾利E1式土器	地文焼糸	39.5	
92-30	43	HA52Ⅲ層	431-JF04	深鉢	中期後半	加曾利E式土器		37.1	
92-31	43	HA52Ⅲ層	431-JF06	深鉢	中期後半	加曾利E式土器		35.6	
92-32	43	GD28Ⅲ層	460-JF02	深鉢	中期後半	加曾利E式土器		27.4	
92-33	43	GA34攪乱	460-JF01	深鉢	中期後半	加曾利E式土器		17.4	
92-34	43	HI17表土	431-JF07	深鉢	中期後半	加曾利E式土器		15.6	
92-35	43	GS48Ⅲ層	431-JF08	深鉢	中期後半	曾利式土器		15.1	
92-36	43	HG24表土	431-JF06	深鉢	中期後半	加曾利E式土器		37.5	
92-37	43	HA46Ⅲ層	431-JF09	深鉢	中期後半	曾利式土器		29.9	
92-38	43	HG48Ⅲ層	431-JF10	深鉢	中期後半	曾利式土器		51.0	
92-39	43	HC42Ⅲ層	431-JF11	深鉢	中期後半	唐草文系		191.5	
92-40	43	GJ29Ⅲb層	446-JF01	深鉢	中期後半	加曾利E式土器		43.0	
92-41	43	SI594覆土	460-JF04	深鉢	中期後半	加曾利E式土器	沈線文	25.5	歴史時代住居出土

図面番号	図版番号	出土位置	遺物番号	器形	時期 1	時期 2	特徴	重さ	備考
92-42	43	GE23 表土	460-JF03	深鉢	中期後半	加賀利E式土器		205.2	
93-1	43	III21 III層	431-JG02	深鉢	後期		外面ヘラ削り後、沈蝕、粗製土器	49.2	
93-2	43	III21、III15・17、E16・17・18、III15・16・17 I・II層	431-JG01	深鉢	後期	堀之内式土器	接合しないが、推定復元	200.0	
93-3	43	GA34 覆瓦	460-JG01	深鉢	後期	称名寺式土器		41.5	

437 次調査縄文土器一覧

図面番号	図版番号	出土位置	遺物番号	器形	時期 1	時期 2	特徴	重さ	備考
135-1	64	表土	437-JC01	深鉢	早期後半	糸波文系土器		16.7	

442 次調査縄文土器一覧

図面番号	図版番号	出土位置	遺物番号	器形	時期 1	時期 2	特徴	重さ	備考
144-1~4	69	SK185R 覆土	442-JG01	深鉢	後期	称名寺 I 式土器	縄文、沈蝕、口縁が内折	68.6	
144-5・6	69	SK185B 覆土	442-JG02	深鉢	後期	称名寺 I 式土器	縄文、沈蝕	24.9	
144-7	69	IN17 IIIb 層	442-JB01	深鉢	早期前半	徳永文系土器	徳永文	15.5	
144-8	69	IM14 覆瓦	442-JB11	深鉢	早期前半	無文土器	内面口縁下が沈蝕状に窪んでいる	10.4	
144-9	69	IE34 IIIb 層	442-JB02	深鉢	早期前半	無文土器	尖底、外面擦痕	83.3	
144-10	69	IE34 IIIb 層	442-JB03	深鉢	早期前半	無文土器	尖底、外面擦痕	32.5	
144-11	69	IE34 IIIb 層	442-JB04	深鉢	早期前半	無文土器	外面擦痕	13.2	
144-12	69	JH5 IIIb 層	442-JB05	深鉢	早期前半	無文土器	外面擦痕	19.2	
144-13	69	IS13 IIIb 層	442-JB06	深鉢	早期前半	無文土器	外面擦痕	18.6	
144-14	69	JH5 IIIb 層	442-JB07	深鉢	早期前半	無文土器	外面擦痕	17.7	
144-15	69	IF21 IIIb 層	442-JB08	深鉢	早期前半	無文土器	外面擦痕	15.9	
144-16	69	JH5 IIIb 層	442-JB09	深鉢	早期前半	無文土器	外面擦痕	7.8	
144-17	69	IN16 IIIb 層	442-JB10	深鉢	早期前半	無文土器	外面擦痕	14.4	
144-18	69	IP18 IIIb 層	442-JB12	深鉢	早期前半	無文土器	外面擦痕	15.5	
144-19	69	IM17 IIIb 層	442-JB13	深鉢	早期前半	無文土器		16.0	
144-20	69	IL15 覆瓦	442-JB07	深鉢	早期前半	無文土器	外面細かな擦痕	10.7	
144-21	69	JG6 IIIb 層	442-JB16	深鉢	早期前半	無文土器		14.2	
144-22	69	IQ10 IIIb 層	442-JB17	深鉢	早期前半	沈蝕文系土器	縦位の細い沈蝕文、内面もきれいに磨かれている	19.1	
144-23	69	IP10 IIIb 層	442-JB18	深鉢	早期前半	沈蝕文系土器	縦・横位の細い沈蝕文、17と同一個体	44.4	
144-24	69	JG7 IIIb 層	442-JB19	深鉢	早期前半	沈蝕文系土器	横位の沈蝕文	37.6	
144-25	69	JG8 IIIb 層	442-JB20	深鉢	早期前半	沈蝕文系土器	横位の沈蝕文	16.5	
144-26	69	JH8 IIIc 層	442-JB21	深鉢	早期前半	沈蝕文系土器	横位の太い沈蝕文	15.7	
144-27	69	JJ8 IIIb 層	442-JB22	深鉢	早期前半	沈蝕文系土器	横位の太い沈蝕文	11.4	
144-28	69	III36 IIIb 層	442-JD01	深鉢	前期	葎磯C式土器	浮線文	24.1	
144-29	69	JH8 IIIb 層	442-JE01	深鉢	中期前半		押引文、半截竹管による連続刺突	47.3	
144-30	69	JL9 IIIb 層	442-JE02	深鉢	中期前半		沈蝕文	59.2	
144-31	69	JL5 IIIb 層	442-JE03	深鉢	中期前半	五領ヶ台式土器	沈蝕文、削り取り	20.5	

図面番号	図版番号	出土位置	遺物番号	器形	時期 1	時期 2	特徴	重さ	備考
144-32	69	TH28Ⅲb層	442-JE04	深鉢	中期前半		口縁沈線文、押引きによる山形文	38.3	
144-33	69	IL14覆瓦	442-JE05	深鉢	中期前半		粘土紐の接合を残す	12.7	
144-34	69	TR11覆瓦	442-JE06	深鉢	中期前半		貼り付け	38.3	
144-35	69	IF30Ⅲb層	442-JF01	深鉢	中期後半	加曾利EⅡ式土器	貼付陰帯	58.5	
144-36	69	JG3Ⅲb層	442-JF02	深鉢	中期後半	加曾利EⅢ式土器	磨消縄文	41.6	
144-37	69	JL9Ⅲb層	442-JF03	深鉢	中期後半	加曾利EⅢ式土器	縦位の隆帯貼り付け	31.0	
144-38	70	J07Ⅲb層	442-JF04	深鉢	中期後半	加曾利EⅣ式土器	磨消縄文	44.4	
144-39	70	JJ6Ⅲb層	442-JF05	深鉢	中期後半	加曾利EⅣ式土器	磨消縄文	56.0	
144-40	70	IG21Ⅲb層	442-JF06	深鉢	中期後半	加曾利EⅢ式土器	磨消縄文	18.0	
145-1	70	IO17Ⅲb層	442-JG03	深鉢	後期		沈線文	14.7	
145-2	70	SD333上層	442-JG04	小型壺	後期		外面をよく磨いている	7.6	歴史時代出土
145-3	70	IN16Ⅲb層	442-JG05	深鉢	後期	称名寺式土器	縄文に鋭い沈線、口縁が極かに内折	32.9	
145-4	70	IM16覆瓦	442-JG06	深鉢	後期	称名寺式土器	縄文に鋭い沈線、口縁が一部弧状になる。	86.7	
145-6.8	70	IO17Ⅲb層	442-JG07	深鉢	後期	称名寺式土器	縄文に鋭い沈線、	230.9	
145-7	70	IO17Ⅲb層	442-JG08	深鉢	後期	称名寺式土器	縄文に鋭い沈線、口縁が一部弧状になる。	102.6	
145-8	70	IM17Ⅲb層	442-JG09	深鉢	後期	称名寺式土器	外面をよく磨いている	96.1	
145-9	70	IP17覆瓦	442-JG10	深鉢	後期	称名寺式土器		124.4	
145-10	70	IO18Ⅲb層	442-JG11	深鉢	後期	称名寺式土器		63.5	
145-11	70	SD333下層	442-JG12	深鉢	後期	称名寺式土器	把手、同心円文、中央が深く割突	15.7	歴史時代出土
145-12	70	IM16覆瓦	442-JG13	—	後期	称名寺式土器	細かな縄文、沈線も深い	3.5	
145-13	70	JL16表土	442-JG14	深鉢	後期	称名寺式土器	細かな縄文、沈線も深い	3.6	
145-14	70	IM16Ⅲ層	442-JG15	深鉢	後期	称名寺式土器	縄文、僅かに弧状の沈線文	23.4	

443 次調査縄文土器一覽

図面番号	図版番号	出土位置	遺物番号	器形	時期 1	時期 2	特徴	重さ	備考
153-1	75	HG6Ⅲb層	443-JB01	深鉢	早期前半	無文土器	外面擦痕	12.0	
153-2	75	HH6Ⅲb層	443-JB03	深鉢	早期前半	無文土器	外面擦痕	9.7	
153-3	75	HG3Ⅲb層	443-JB04	深鉢	早期前半	無文土器	外面擦痕	11.9	
153-4	75	HG3Ⅲ層	443-JB02	深鉢	早期前半	無文土器	外面擦痕	25.1	
153-5	75	HG3Ⅲ層	443-JC01	深鉢	早期後半	沈線文系土器	外面縦位の細かな沈線文	43.8	
153-6	75	HH3Ⅲb層	443-JE01	深鉢	中期前半	阿玉台式土器		9.7	
153-7	75	HG3Ⅲ層	443-JF01	深鉢	中期後半	加曾利EⅡ式土器	縄文、懸垂文	16.1	
153-8	75	HG4Ⅲ層	443-JF02	深鉢	中期後半	加曾利EⅡ式土器	隆帯による区画	24.6	
153-9	75	覆瓦	443-JF04	深鉢	中期後半	加曾利EⅡ式土器	縦沈線、縄文	5.0	
153-10	75	覆瓦	443-JF06	深鉢	中期後半	加曾利EⅡ式土器		13.2	
153-11	75	HG3Ⅲb層	443-JF03	深鉢	中期後半	加曾利EⅡ式土器	沈線間磨消し	489.4	
153-12	75	HG4Ⅲb層	443-JF08	浅鉢	中期後半	加曾利EⅡ式土器	条線文	249.9	
153-13	75	HG3Ⅲb層	443-JF07	浅鉢	中期後半	加曾利EⅡ式土器	口縁下に沈線、下部条線文	46.9	
153-14	75	HI4Ⅲ層	443-JF05	深鉢	中期後半	加曾利EⅡ式土器	磨消し縄文	41.7	

444 次調査縄文土器一覽

図面番号	図版番号	出土位置	遺物番号	器形	時期 1	時期 2	特徴	重さ	備考
175-1	82	HL37皿層	444-JB01	深鉢	早期前半	東山式土器	外面口縁下に沈線が巡る	10.6	
175-2	82	HM43皿層	444-JB02	深鉢	早期前半		外面に線底	8.3	
175-3	82	HQ04皿層	444-JB03	深鉢	早期前半		外面に線底	6.6	
175-4	82	HQ04皿b層	444-JB04	深鉢	早期前半		外面に線底	17.9	
175-5	82	HM67皿層	444-JB05	深鉢	早期前半	燃糸文系土器		17.6	
175-6	82	HM74皿層	444-JB06	深鉢	早期前半	燃糸文系土器		20.3	
175-7	82	HM66 表土	444-JB07	深鉢	早期前半	無文土器	外面に線底	10.3	
175-8	82	HM70 表土	444-JB08	深鉢	早期前半	無文土器	内外面に線底	7.2	
175-9	82	HM66 表土	444-JB09	深鉢	早期前半	無文土器	外面に線底	10.3	
175-10	82	E区擾乱	444-JB10	深鉢	早期前半	無文土器		26.3	
175-11	82	HE18 擾乱	444-JD01	深鉢	前期			18.7	
175-12	82	HQ04皿b層	444-JD02	深鉢	前期			14.2	
175-13	82	HM52 表土	444-JD03	深鉢	前期		素縄状貼り付け	8.3	
175-14	82	HR01皿層	444-JE01	深鉢	中期前半	阿玉台式土器	粘土紐の接合を残す、金雲母を多量に含む	13.7	
175-15	82	HR01皿層	444-JE02	深鉢	中期前半	勝板式土器	口縁下に沈線による山形文	25.9	
175-16	82	HR01皿層	444-JE03	深鉢	中期前半	勝板式土器	粘土紐貼り付け	44.9	
175-17	82	W区表土	444-JE04	浅鉢	中期前半	勝板式土器	口縁内面に押引文、外面沈線文	34.3	
175-18	82	HQ01皿層	444-JE05	深鉢	中期前半		金雲母を多量に含む。	28.2	
175-19	82	HM74 表土	444-JE06	深鉢	中期前半	五領ヶ台式土器	縦位の沈線文、金雲母を多量に含む。	20.8	
175-20	82	HM66 表土	444-JE07	深鉢	中期前半		押引文	6.8	
175-21	82	HM67皿層	444-JE08	深鉢	中期前半	五領ヶ台式土器	縦帯貼り付け、押引文	17.3	
175-22	82	HO60皿層	444-JE09	深鉢	中期前半	勝板式土器	口縁上部に粘土紐貼り付け	18.7	
175-23	82	SI564 覆土D	444-JE10	深鉢	中期前半		沈線による山形文	11.3	歴史時代住居出土
175-24	82	E区擾乱	444-JE11	深鉢	中期前半			21.6	
175-25	83	HM66皿層	444-JE12	深鉢	中期前半	勝板式土器		21.2	
175-26	83	SK1904 覆土	444-JE13	深鉢	中期前半			42.9	歴史時代土坑出土
175-27	83	HM72 表土	444-JE14	深鉢	中期前半		金雲母を多量に含む。	59.4	
175-28	83	HQ04皿層	444-JF01	深鉢	中期後半	加曾利E式土器	磨消し縄文	16.3	
175-29	83	SI564 覆土	444-JF02	深鉢	中期後半			15.2	歴史時代住居出土
175-30	83	HQ02 擾乱	444-JF03	深鉢	中期後半			32.1	
175-31	83	WK 表土	444-JF04	深鉢	中期後半		糸線文	16.1	
175-32	83	HM35皿層	444-JG01	深鉢	後期		磨消縄文、深い沈線	20.8	

445 次調査縄文土器一覽

図面番号	図版番号	出土位置	遺物番号	器形	時期 1	時期 2	特徴	重さ	備考
182-1	86	HK0 擾乱	445-JB01	深鉢	早期前半		縄文	7.8	
182-2	86	HM1皿層	445-JE01	深鉢	中期前半	阿玉台式土器	縦帯貼り付け、その下縁を押引文	32.8	
182-3	86	P-72 覆土	445-JE02	深鉢	中期前半		押引文	8.2	歴史時代小穴出土

図面番号	図版番号	出土位置	遺物番号	器形	時期1	時期2	特徴	重さ	備考
182-4	86	Ⅱ1Ⅲ層	445-JE03	深鉢	中期前半		磨消縄文	31.9	
182-6	86	Ⅱ1Ⅲ層	445-JE01	深鉢	中期後半	加曾利E式土器	磨消縄文	28.7	
182-6	86	Ⅱ2Ⅲ層	445-JE02	深鉢	中期後半	加曾利E式土器	口縁端部が外反	53.3	
182-7	86	Ⅱ2Ⅲ層	445-JE03	深鉢	中期後半			28.4	

449次調査縄文土器一覧

図面番号	図版番号	出土位置	遺物番号	器形	時期1	時期2	特徴	重さ	備考
183-1	87	Ⅲ層	449-JE01	深鉢	早期前半	無文土器	外面擦沢、内面炭化物付着	12.4	
183-2	87	Ⅲ層	449-JE01	深鉢	中期前半	五領ヶ台式土器	座帯下端沈線、その間を竹管による交互刺突	42.7	
183-3	87	Ⅲ層	449-JE02	深鉢	中期前半	五領ヶ台式土器	竹管による刺突	20.4	
183-4	87	Ⅲ層	449-JE03	深鉢	中期前半	五領ヶ台式土器	前期浮線文、金雲母を多量に含む	9.9	
183-5	87	Ⅲ層	449-JE04	深鉢	中期前半	五領ヶ台式土器	波状口縁、押引文	24.6	
183-6	87	Ⅲ層	449-JE05	深鉢	中期前半	五領ヶ台式土器	押引による区画	17.3	
183-7	87	Ⅲ層	449-JE06	深鉢	中期前半	五領ヶ台式土器	押引文	38.6	
183-8	87	Ⅲ層	449-JE07	深鉢	中期前半	五領ヶ台式土器	押引文	57.5	
183-9	87	Ⅲ層	449-JE08	深鉢	中期前半	五領ヶ台式土器		16.1	
183-10	87	Ⅲ層	449-JE09	深鉢	中期前半	五領ヶ台式土器	口縁上部へう状工具による圧痕	14.8	
183-11	87	Ⅲ層	449-JE10	深鉢	中期前半	五領ヶ台式土器		18.8	
183-12	87	Ⅲ層	449-JE11	深鉢	中期前半	五領ヶ台式土器	波状口縁	7.4	
183-13	87	Ⅲ層	449-JE12	深鉢	中期前半	五領ヶ台式土器		16.8	
183-14	87	Ⅲ層	449-JE13	深鉢	中期前半	五領ヶ台式土器		15.0	
183-15	87	Ⅲ層	449-JE14	深鉢	中期前半	五領ヶ台式土器		24.4	
183-16	87	Ⅲ層	449-JE15	深鉢	中期前半		沈線文	12.2	
183-17	87	Ⅲ層	449-JE16	深鉢	中期前半		沈線文	10.6	
183-18	87	Ⅲ層	449-JE17	深鉢	中期前半		条線文	20.7	
183-19	87	Ⅲ層	449-JE18	深鉢	中期前半		条線文	26.0	
183-20	87	Ⅲ層	449-JE19	深鉢	中期前半		横に深い沈線その下部荒い条線文	17.8	
183-21	87	Ⅲ層	449-JE21	浅鉢	中期前半		内面に4条及び4重の同心円の爪形文、金雲母を多量に含む	64.8	
183-22	87	Ⅲ層	449-JE20	浅鉢	中期前半		内面に4条の爪形文、金雲母を多量に含む	52.3	
183-23	87	Ⅲ層	449-JE22	深鉢	中期前半			71.7	
183-24	87	Ⅲ層	449-JE23	深鉢	中期前半			32.9	

459次調査縄文土器一覧

図面番号	図版番号	出土位置	遺物番号	器形	時期1	時期2	特徴	重さ	備考
185-6	89	SS63	459-JE01	深鉢	中期前半	五領ヶ台式土器	口縁が外反、沈線文	119.4	
185-7	89	SS63	459-JE02	深鉢	中期前半	五領ヶ台式土器	縄文、沈線文	34.2	
185-8	89	SS63	459-JE03	深鉢	中期前半	五領ヶ台式土器	沈線文	21.1	
185-9	89	SS63	459-JE04	深鉢	中期前半	阿玉台式土器	押引による槽内区画、口縁上部に押引、竹管による交互刺突	27.9	

図面番号	図版番号	出土位置	遺物番号	器形	時期1	時期2	特徴	重さ	備考
185-10	89	SS63	459-JE05	深鉢	中期前半	阿玉台式土器	押引による、山形文	16.9	
185-11	89	SS63	459-JE06	深鉢	中期前半	阿玉台式土器	粘土紐の接合痕を残す	19.8	
186-1	89	LL32 表土	459-JB01	深鉢	早期前半	無文土器	内面に敷麻有り	6.5	
186-2	89	LN21Ⅲ層	459-JE07	深鉢	中期前半	五領ヶ台式土器	沈線文	18.0	
186-3	89	LK26Ⅲ層	459-JE13	深鉢	中期前半	五領ヶ台式土器		34.4	
186-4	89	LM20Ⅲ層	459-JE14	深鉢	中期前半	五領ヶ台式土器		56.6	
186-5	89	LT1Ⅲ層	459-JE15	深鉢	中期前半	五領ヶ台式土器		49.6	
186-6	89	LM35Ⅲ層	459-JE08	深鉢	中期前半	阿玉台式土器	粘土貼り付け	23.1	
186-7	89	LM23Ⅲ層	459-JE09	深鉢	中期前半	阿玉台式土器	陸帯により懸垂文、金雲母を多量に含む。	16.4	
186-8	89	LM26 表土	459-JE10	深鉢	中期前半		粘土紐の接合痕を残す	17.3	
186-9	89	LL32Ⅲ層	459-JE11	深鉢	中期前半	勝坂式土器	縄文、押引文様	27.3	
186-10	89	LS3Ⅲ層	459-JE12	深鉢	中期前半	勝坂式土器		47.3	
186-11	89	LS3Ⅲ層	459-JF01	深鉢	中期後半			35.4	

446・460次調査土製円板一覧

図面番号	図版番号	遺構番号	遺物番号	a 最大長	b1 最大幅	c1 最大厚	重さ	特徴
93-4	43	GM30 表土	446-DE1	4.6	4.8	1.0	30.5	勝坂式土器
93-5	43	GF23 表土	460-DE1	4.0	3.7	0.8	12.8	

421 次調査石器一覽

図面番号	図版番号	出土位置	遺物番号	種別	a最大長	b1最大幅	c1最大厚	重さ	石質	特徴
9-12	3	S1543J 覆土	421-AB01	石鏃	1.6	1.2	0.4	0.4	黒曜石	無茎
9-13		S1543J 覆土	421-AL01	磨石	(5.6)	(6.0)	(2.2)	62.2	砂岩	
9-14		S1543J 覆土	421-AT01	剥片	1.4	1.6	0.4	0.9	チャート	
9-15		S1543J 覆土	421-AU01	砕片	1.1	0.8	0.2	0.1	黒曜石	
9-16		S1543J 覆土	421-AU02	砕片	0.8	0.5	0.2	0.1	黒曜石	
9-17	3	S1543J 覆土	421-AU03	砕片	1.6	1.0	0.3	0.1	砂岩	
9-18		SK1632J 覆土	421-AP01	石皿	(7.3)	(8.4)	3.4	253.0	礫岩	スタンプ形石器に転用の可能性あり
9-19		SK1632J 覆土	421-AZ01	不明石器	(9.6)	(4.3)	(3.3)	132.1	砂岩	
11-16	5	E6区	421-AB02	石鏃	1.7	1.5	0.4	0.5	黒曜石	無茎
11-17		D7区皿層	421-AD02	削器	8.8	5.8	2.2	97.0	片岩	
11-18	5	D2区皿b層	421-AD01	削器	8.1	4.3	1.2	44.0	粘板岩	赤変
11-19	5	A区表土	421-AG01	打製石斧	(6.5)	6.1	1.4	81.3	砂岩	短冊形
11-20	5	B区皿層	421-AG02	打製石斧	(11.7)	6.2	2.0	161.2	砂岩	短冊形
11-21	5	E4区表土	421-AG04	打製石斧	(14.4)	6.1	1.4	130.0	粘板岩	短冊形
11-22	5	B区覆土	421-AG03	打製石斧	(10.2)	9.6	2.1	168.4	粘板岩	分銅形、欠損後再利用
11-23	5	F区SZ1覆土	421-AG05	打製石斧	(8.3)	(9.2)	3.5	261.7	砂岩	歴史時代墓出土
12-1	5	D6区包含層	421-AD03	削器	5.7	4.0	1.1	16.0	砂岩	
12-2	5	B区皿層	421-AJ01	礫器	9.8	6.7	3.3	237.5	砂岩	
12-3	5	A区皿層	421-AL02	磨石	7.2	5.7	3.6	226.5	閃緑岩	両面中央に僅かな凹み、側面に取っ柄
12-4		A区皿層	421-AL03	磨石	(8.2)	(6.2)	3.4	247.6	閃緑岩	
13-1	6	D7区P-1	421-AS01	石匙	2.9	4.6	0.7	7.3	チャート	歴史時代小穴より出土
13-2	6	B区皿層	421-AT02	剥片	6.6	8.1	3.1	143.5	砂岩	
13-3	6	B区表土	421-AT03	剥片	4.2	6.3	1.1	24.6	チャート	
13-4	6	D1区皿層	421-AT04	剥片	11.0	16.7	5.8	914.5	チャート	
13-5	6	A区皿層	421-AT05	剥片	3.8	2.9	1.1	9.6	チャート	
13-6	6	A区皿層	421-AT06	剥片	3.0	2.8	1.2	9.2	チャート	

428 次調査石器一覽

図面番号	図版番号	出土位置	遺物番号	種別	a最大長	b1最大幅	c1最大厚	重さ	石質	特徴
14-17	7	J647皿層	428-AB01	石鏃	2.7	2.0	0.6	2.0	チャート	無茎
14-18	7	TQ46皿層	428-AD01	削器	6.3	6.5	1.5	73.8	粘板岩	
14-19	7	TQ46皿層	428-AD02	削器	6.8	6.8	1.6	66.8	砂岩	
14-20	7	HQ50皿層	428-AD04	削器	6.6	7.4	1.9	67.6	砂岩	
14-21	7	JC46皿層	428-AG01	打製石斧	8.6	3.5	1.2	35.4	片岩	短冊形
14-22	7	IK47皿層	428-AG03	打製石斧	14.7	7.4	2.4	275.9	粘板岩	分銅形
14-23	7	JC46皿層	428-AG02	打製石斧	13.4	4.7	2.2	169.8	砂岩	短冊形
14-24	7	HL48皿層	428-AH01	局部磨製石斧	11.4	5.3	2.8	295.8	片岩	
15-1		JM44皿層	428-AL01	磨石	10.0	7.6	3.9	397.7	閃緑岩	
15-2		JC46皿層	428-AL02	磨石	(11.8)	(9.0)	4.7	687.2	閃緑岩	全体に割傷が激しい
15-3		LM38皿b層	428-AL03	磨石	11.6	(9.9)	4.7	750.5	砂岩	

図面番号	図版番号	出土位置	遺物番号	種別	a最大長	b1最大幅	c1最大厚	重さ	石質	特徴
15-4		HL48Ⅲ層	428-AL04	磨石	11.6	6.2	2.5	300.7	砂岩	前面中央部に不整形の 凹み
15-5		IM46Ⅲ層	428-AL05	磨石	14.9	7.1	3.3	464.8	閃緑岩	
16-3		IO48Ⅲ層	428-AP01	石皿	(14.0)	(9.2)	3.2	510.9	閃緑岩	
16-4		JC46Ⅲ層	428-AP02	石皿	(12.4)	(11.7)	4.2	691.6	砂岩	スタンプに転用
16-5	8	HL48Ⅲ層	428-AT01	剥片	14.0	9.9	2.3	328.5	粘板岩	
16-6		JE44Ⅲ層	428-AT02	剥片	7.0	5.2	1.1	39.7	タフフェルス	
16-7		JA46Ⅲ層	428-AZ02	不明石器	(7.8)	(6.2)	(4.7)	169.6	砂岩	

431・446・460 次調査石器一覽

図面番号	図版番号	出土位置	遺物番号	種別	a最大長	b1最大幅	c1最大厚	重さ	石質	特徴
88-11		SI604J 覆土	460-AI04	調整剥片石器	0.9	1.0	0.3	0.3	黒曜石	
88-12		SI604J 覆土	460-AI05	調整剥片石器	0.8	1.2	0.5	0.2	黒曜石	
88-13	39	SI604J 覆土	460-AI06	調整剥片石器	1.3	1.1	0.2	0.3	黒曜石	
88-14		SI604J 覆土	460-AI07	調整剥片石器	1.0	0.5	0.3	計測不能	黒曜石	
88-15		SI604J 覆土	460-AI08	調整剥片石器	0.5	0.9	0.1	0.1	黒曜石	
88-16	39	SI604J 覆土	460-AL01	磨石	(8.7)	(8.3)	(3.1)	332.5	閃緑岩	外周に敲打痕
88-17	39	SI604J 覆土	460-AL02	磨石	6.6	7.1	(5.9)	389.0	砂岩	
89-1		SI604J 覆土	460-AT01	剥片	0.7	1.3	0.2	1.8	チャート	使用痕あり
89-2	39	SI604J 覆土	460-AT02	剥片	1.7	2.0	0.8	1.9	黒曜石	
89-3	39	SI604J 伊覆土	460-AT03	剥片	(2.4)	(1.8)	(0.6)	2.1	チャート	
89-4	39	SI604J 覆土	460-AT04	剥片	1.6	(1.3)	0.4	0.4	黒曜石	
89-5	39	SI604J 覆土	460-AT05	剥片	2.1	2.5	0.4	1.0	黒曜石	
89-6		SI604J 床下	460-AU01	砕片	0.6	1.2	0.3	0.1	黒曜石	
89-7		SI604J 覆土	460-AU02	砕片	0.4	0.9	0.3	0.1	黒曜石	
89-8		SI604J 床下	460-AW01	石核	1.0	0.7	0.6	0.4	黒曜石	
89-10		SK1765J 覆土	431-AL20	磨石	(4.2)	(6.4)	(1.4)	41.2	タフフェルス	裏面に割離痕あり
89-16	40	SK1990J	446-AT01	剥片	6.8	9.3	3.5	168.9	タフフェルス	
89-17		SK1990J	446-LZ02	不明石器	(4.1)	4.6	2.4	60.7	砂岩	
89-20		SK2131J 覆土	460-AI09	調整剥片石器	6.4	4.3	0.8	22.9	タフフェルス	
89-21	40	SK2131J 覆土	460-AT17	剥片	11.0	5.8	2.7	136.2	タフフェルス	
93-6	44	GO40Ⅲ層	431-AA01	尖頭器	(9.4)	3.7	1.3	37.5	安山岩	木炭形
93-7	44	HF17 I 層	431-AB01	石楯	(1.6)	1.2	0.3	0.5	チャート	無茎
93-8	44	HE47Ⅲ層	431-AB02	石楯	(1.5)	(1.1)	0.2	0.1	チャート	
93-9	44	GO30Ⅲb 層	446-AD01	石楯	(3.8)	1.8	0.6	2.9	頁岩	有茎
93-10	44	OG18Ⅲ層	460-AB01	石楯	1.8	1.4	0.4	0.6	チャート	無茎
93-11	44	SI552 覆土	431-AD02	削器	3.8	5.4	1.3	16.3	黒曜石	歴史時代住居出土
93-12	44	SI647 覆土	431-AD01	削器	3.5	4.7	0.8	14.0	タフフェルス	歴史時代住居出土
93-13	44	HA42Ⅲ層	431-AD03	削器	5.8	8.1	2.3	106.6	タフフェルス	
94-1	44	HA24Ⅲ層	431-AD04	削器	6.9	8.8	1.7	89.6	タフフェルス	
94-2		GS36Ⅲ層	431-AD05	削器	5.2	6.0	1.0	35.7	タフフェルス	
94-3		HC42Ⅲ層	431-AD06	削器	6.6	4.7	1.1	32.2	タフフェルス	
94-4		HE32Ⅲ層	431-AD07	削器	(6.4)	6.5	1.4	83.4	タフフェルス	

図面番号	図版番号	出土位置	遺物番号	種別	a最大長	bl最大幅	cl最大厚	重さ	石質	特徴
94-5	44	GM14Ⅲb層	446-AD05	削器	7.3	9.8	3.4	228.7	砂岩	
94-6		GG32Ⅲb層	446-AD06	削器	5.0	7.5	1.5	45.4	砂岩	
94-7	44	GL24Ⅲb層	446-AD01	扇形削器	7.8	9.9	3.3	207.1	砂岩	
94-8	44	GD36Ⅲb層	446-AD07	削器	6.0	7.1	1.2	53.1	粘板岩	
94-9		GI17Ⅲb層	446-AD02	扇形削器	8.1	11.0	2.7	239.7	砂岩	
94-10		GL27Ⅲb層	446-AD08	削器	7.5	7.3	1.4	68.2	砂岩	
94-11	44	G131Ⅲb層	446-AD03	扇形削器	7.9	10.5	3.4	292.0	砂岩	
94-12	45	GJ18Ⅲb層	446-AD10	掻器	9.9	7.9	2.0	187.0	砂岩	
94-13	44	GJ43Ⅲb層	446-AD09	削器	7.1	10.1	2.2	181.6	砂岩	
95-1	45	GO32Ⅲb層	446-AD04	扇形削器	6.5	13.0	2.9	224.1	砂岩	
95-2		GA33Ⅲ層	460-AD05	掻器	7.3	5.4	2.5	126.8	砂岩	
95-3	45	GC33Ⅲ層	460-AD03	削器	7.6	11.9	4.0	386.5	砂岩	
95-4	45	GC28Ⅲ層	460-AD01	削器	6.5	9.6	1.4	84.9	砂岩	
95-5	45	GE33Ⅲ層	460-AD02	削器	6.1	9.7	2.0	120.1	砂岩	
95-6	45	GE32Ⅲ層	460-AD06	掻器	7.8	9.1	2.6	203.7	砂岩	
95-7	45	GB30Ⅲ層	460-AD04	削器	8.2	12.9	3.4	308.8	砂岩	石皿転用か
95-8	45	IV層	431-AD08	削器	5.0	4.3	1.7	26.8	緑色凝灰岩	
95-9	45	HC42Ⅲ層	431-AD09	削器	3.5	5.4	1.6	17.7	黒曜石	
95-10	45	GN36Ⅲb層	446-AD11	削器	4.3	5.2	1.5	15.0	チャート	
95-11	46	GO19Ⅲb層	446-AD12	削器	3.6	3.3	1.3	12.5	チャート	
95-12	45	G138Ⅲb層	446-AD03	削器	4.0	2.7	1.2	11.2	チャート	
96-1	46	GF22Ⅲ層	460-AD07	削器	4.0	2.9	1.4	15.8	チャート	
96-2	46	GC23表土	460-AD08	削器	2.7	3.9	0.9	7.2	チャート	
96-3	46	HO35Ⅲ層	431-AG12	打製石斧	7.8	6.3	2.6	136.4	砂岩	
96-4	46	GB33Ⅲ層	460-AG01	打製石斧	7.6	4.6	2.5	88.7	輝緑岩	
96-5	46	HI16Ⅲ層	431-AG02	打製石斧	11.1	4.2	1.5	74.6	砂岩	短冊形
96-6	46	HI17表土	431-AG01	打製石斧	15.5	5.4	2.8	249.0	砂岩	短冊形
96-7	46	GO46Ⅲ層	431-AG05	打製石斧	11.0	6.2	2.5	163.2	砂岩	短冊形
96-8	46	HC46Ⅲ層	431-AG07	打製石斧	12.1	5.1	1.8	121.4	砂岩	短冊形
96-9		GO38Ⅲ層	431-AG08	打製石斧	(10.0)	4.2	1.8	103.1	安山岩	短冊形
96-10		GS34Ⅲ層	431-AG13	打製石斧	(12.5)	5.5	1.6	129.3	砂岩	短冊形
96-11		HG40Ⅲ層	431-AG14	打製石斧	(9.3)	6.6	1.5	127.3	砂岩	短冊形
96-12	46	HA16表土	431-AG15	打製石斧	(8.0)	4.7	1.4	67.6	砂岩	短冊形
96-13	46	GK15Ⅲb層	446-AG01	打製石斧	13.2	5.0	1.8	94.4	頁岩	短冊形
96-14	46	GH36Ⅲb層	446-AG02	打製石斧	11.2	5.5	2.5	153.9	砂岩	短冊形
97-1	47	HC46Ⅲ層	431-AG03	打製石斧	16.4	8.5	2.8	404.8	砂岩	分銅形
97-2	47	HE59Ⅲ層	431-AG04	打製石斧	10.8	5.5	2.2	141.8	砂岩	分銅形の可能性あり
97-3	47	GO30Ⅲ層	431-AG06	打製石斧	10.7	5.3	2.0	140.1	砂岩	分銅形
97-4	47	GI27Ⅲb層	446-AG04	打製石斧	12.5	7.1	2.0	190.5	砂岩	赤変
97-5	47	GF30Ⅲ層	460-AG04	打製石斧	10.6	6.7	2.7	149.8	砂岩	分銅形
97-6	47	HC28Ⅲ層	431-AG09	打製石斧	7.6	6.3	1.5	64.4	粘板岩	撥形
97-7	47	HE42Ⅲ層	431-AG11	打製石斧	10.5	9.8	4.0	409.9	砂岩	撥形
97-8		GT25Ⅲ層	431-AG10	打製石斧	8.1	6.8	2.5	117.6	砂岩	撥形、削器か?
98-1		GR2Ⅲb層	446-AG05	打製石斧	7.6	8.0	2.8	151.5	砂岩	撥形

図面番号	図版番号	出土位置	遺物番号	種別	a最大長	b)最大幅	c)最大厚	重さ	石質	特徴
98-2		GL22IIIb層	446-A606	打製石斧	10.9	8.2	3.2	315.7	斑ノフェルス	痕形
98-3	47	GH17III層	460-A602	打製石斧	9.4	8.3	1.9	134.8	粘板岩	痕形
98-4		HI16III層	431-A616	打製石斧	(7.7)	5.8	2.2	121.1	斑ノフェルス	
98-5	47	HP21表土	431-AG17	打製石斧	9.5	5.4	2.1	99.7	斑ノフェルス	不定形石器の可能性あり
98-6		GM20IIIb層	446-A603	打製石斧	(12.6)	(6.5)	2.9	246.6	砂岩	
98-7		GC15表土	460-A603	打製石斧	12.1	5.9	1.8	149.8	片岩	
98-8		GS46III層	431-AH01	磨製石斧	(12.8)	(5.5)	3.5	362.0	砂岩	石棒か
98-9	47	GH19III層	460-AH01	磨製石斧	(5.2)	5.5	1.3	50.2	棕色泥岩	
99-1		HE26表土	431-AI01	調整剥片石器	2.7	4.2	0.4	5.3	粘板岩	削器の可能性あり
99-2		HA40III層	431-AI03	調整剥片石器	4.5	3.5	0.8	13.3	粘板岩	
99-3		HE40III層	431-AI02	調整剥片石器	4.3	3.5	0.7	10.8	粘板岩	
99-4		GS38III層	431-AI04	調整剥片石器	4.2	4.5	0.8	11.9	粘板岩	
99-5	48	GS44III層	431-AI08	調整剥片石器	5.4	7.0	1.4	49.2	片岩	
99-6		HC44III層	431-AI05	調整剥片石器	4.8	5.0	0.9	20.7	斑ノフェルス	
99-7		HE40III層	431-AI09	調整剥片石器	2.8	6.7	0.9	18.5	斑ノフェルス	
99-8		HA36III層	431-AI07	調整剥片石器	6.6	7.5	1.1	65.0	粘板岩	
99-9		GQ46III層	431-AI16	調整剥片石器	(6.0)	6.4	1.7	71.6	砂岩	
99-10		GQ42III層	431-AI06	調整剥片石器	(4.7)	6.1	1.2	35.3	片岩	
99-11		HE42III層	431-AI13	調整剥片石器	6.4	8.3	2.3	98.2	斑ノフェルス	
99-12	48	HA38III層	431-AI12	調整剥片石器	11.7	5.3	1.5	100.1	斑ノフェルス	
99-13		GS22III層	431-AI18	調整剥片石器	(7.9)	5.7	2.8	137.5	斑ノフェルス	
99-14	48	HD17表土	431-AI14	調整剥片石器	11.3	7.2	1.5	117.9	斑ノフェルス	
99-15		HC34III層	431-AI15	調整剥片石器	6.5	10.3	1.6	114.3	斑ノフェルス	
99-16	48	GQ38III層	431-AI17	調整剥片石器	8.0	9.2	1.8	176.5	粘板岩	
99-17	48	GQ36III層	431-AI11	調整剥片石器	10.9	12.3	2.2	238.3	斑ノフェルス	
100-1	48	HE16表土	431-AI10	調整剥片石器	9.8	7.5	3.0	250.4	砂岩	磨痕あり
100-2		P-271覆土	446-AI01	調整剥片石器	8.5	4.5	1.3	50.3	斑ノフェルス	縄文時代小穴出土
100-3	48	GC20III層	460-AI03	調整剥片石器	13.0	5.6	2.2	161.0	斑ノフェルス	
100-4		GB43III層	460-AI02	調整剥片石器	(8.4)	5.5	1.5	73.3	斑ノフェルス	
100-5		GI29III層	460-AI01	調整剥片石器	(8.1)	4.1	1.3	41.9	砂岩	
100-6	49	HC48III層	431-AJ01	礫器	8.4	11.3	5.0	440.8	斑ノフェルス	
100-7		GQ42III層	431-AJ02	礫器	10.4	8.6	3.1	242.1	斑ノフェルス	
100-8	48	GT21III層	431-AJ03	礫器	13.4	8.6	3.2	455.4	斑ノフェルス	磨痕あり
100-9	48	HC52III層	431-AJ04	礫器	12.6	10.1	4.2	557.5	斑ノフェルス	
101-1		HC20III層	431-AJ05	礫器	(12.6)	10.5	2.1	327.2	斑ノフェルス	
101-2	49	HC34III層	431-AJ06	礫器	19.0	8.4	4.6	670.2	凝灰岩	
101-3		HA40III層	431-AJ07	礫器	8.0	11.0	3.3	222.6	安山岩	
101-4		HE16III層	431-AJ08	礫器	9.2	10.3	4.2	372.8	斑ノフェルス	
101-5		GQ23III層	431-AJ09	礫器	12.9	5.8	4.2	317.0	斑ノフェルス	
101-6	49	GL32IIIb層	446-AJ01	礫器	13.5	16.8	4.5	946.7	斑ノフェルス	
102-1		GC39III層	460-AJ01	礫器	10.1	8.1	4.5	533.0	斑ノフェルス	
102-2	49	GQ23III層	460-AJ02	礫器	9.7	9.6	2.8	375.3	安山岩	
102-3	49	GD16III層	460-AJ03	礫器	9.9	14.4	3.8	507.4	砂岩	
102-4	49	GE29III層	460-AJ04	礫器	13.4	7.0	6.0	500.9	斑ノフェルス	

図面番号	図版番号	出土位置	遺物番号	種別	a最大長	b1最大幅	c1最大厚	重さ	石質	特徴
102-6	49	G037Ⅲ層	460-AJ05	磁器	11.5	7.7	4.2	297.2	4477.2g	
102-6	50	H017表土	431-AK01	叩き石	14.0	7.6	3.8	527.6	砂岩	
102-7		G137Ⅲb層	446-AK01	叩き石	10.4	5.8	3.2	294.1	閃緑岩	全体に磨滅している表面に2ヶ所凹み
102-8	50	GJ16表土	446-AK02	叩き石	10.3	5.9	4.0	343.8	凝灰岩	
103-1		GG19Ⅲ層	460-AK01	叩き石	(11.1)	(5.6)	6.3	414.3	砂岩	
103-2	50	GC33Ⅲ層	460-AK02	叩き石	7.6	11.1	5.5	683.7	砂岩	
103-3		GF38Ⅲ層	460-AK03	叩き石	9.6	8.5	2.1	197.6	砂岩	
103-4		Q044Ⅲ層	431-AL01	磨石	(10.0)	9.1	4.6	575.6	閃緑岩	
103-5	50	HC20Ⅲ層	431-AL02	磨石	15.2	11.0	8.5	1994.1	砂岩	
103-6		HG38Ⅲ層	431-AL03	磨石	(9.8)	(8.1)	(10.5)	1022.1	砂岩	
103-7		Q044Ⅲ層	431-AL04	磨石	7.5	6.7	3.6	244.4	砂岩	
104-1	50	Q034Ⅲ層	431-AL05	磨石	13.8	9.4	5.5	1071.5	片岩	
104-2		HC46Ⅲ層	431-AL06	磨石	(9.7)	9.2	4.7	531.4	閃緑岩	
104-3		HE52Ⅲ層	431-AL07	磨石	10.2	(5.6)	6.4	423.1	閃緑岩	
104-4	50	Q042Ⅲ層	431-AL10	磨石	9.3	8.9	5.0	575.7	砂岩	両面中央に僅かな凹み
104-5	50	HC44Ⅲ層	431-AL11	磨石	9.4	7.9	2.1	228.3	閃緑岩	
104-6		HA48Ⅲ層	431-AL12	磨石	10.3	9.3	4.3	462.1	砂岩	上・下面に敲打痕あり
104-7	50	HE50Ⅲ層	431-AL08	磨石	7.0	6.0	4.7	298.7	閃緑岩	裏面に小さな凹みが5ヶ所
104-8	50	Q048Ⅲ層	431-AL09	磨石	13.1	11.0	5.9	976.2	閃緑岩	表面に大きな凹み
105-1		HG34Ⅲ層	431-AL13	磨石	(10.6)	(7.2)	3.7	416.5	閃緑岩	
105-2	50	HE40Ⅲ層	431-AL14	磨石	10.3	7.7	4.1	483.3	閃緑岩	両面中央に凹みと側面に敲打痕
105-3	50	GS44Ⅲ層	431-AL15	磨石	11.3	8.5	3.1	484.6	閃緑岩	両面中央部にわずかな凹み
105-4		GO38Ⅲ層	431-AL16	磨石	(5.9)	7.6	3.1	223.7	閃緑岩	両面中央に僅かな凹み
105-5		HE48Ⅲ層	431-AL17	磨石	(11.3)	6.8	5.4	489.2	砂岩	焼石、赤変
105-6	50	HG38Ⅲ層	431-AL18	磨石	13.0	6.5	6.2	713.8	閃緑岩	擦痕あり
105-7		HA40Ⅲ層	431-AL19	磨石	12.7	9.3	4.6	631.2	閃緑岩	
105-8	50	GH43Ⅲb層	446-AL01	磨石	10.5	9.8	4.5	698.6	閃緑岩	表面中央に僅かな凹み、側面に敲打痕
106-1		GN38Ⅲb層	446-AL02	磨石	8.3	7.4	4.9	408.4	閃緑岩	両面に凹み
106-2		GJ48Ⅲb層	446-AL03	磨石	8.2	7.6	4.3	457.3	閃緑岩	表面中央に僅かな凹み
106-3	51	GK38Ⅲb層	446-AL04	磨石	11.7	8.7	3.7	512.7	砂岩	側面に敲打痕
106-4		CI28Ⅲb層	446-AL05	磨石	12.7	7.5	4.3	614.0	閃緑岩	両面に僅かな凹み
106-5	51	GM46Ⅲb層	446-AL06	磨石	8.8	7.3	3.3	291.6	閃緑岩	側面の一部に敲打痕
106-6	51	GI43Ⅲb層	446-AL07	磨石	10.6	8.9	4.1	566.6	閃緑岩	
106-7		GJ38Ⅲb層	446-AL08	磨石	10.1	8.5	4.7	523.1	砂岩	
106-8	51	GH27Ⅲb層	446-AL09	磨石	8.9	7.0	5.6	443.6	砂岩	裏面に僅かな凹み
107-1		GK19Ⅲb層	446-AL10	磨石	10.0	8.6	3.4	415.0	閃緑岩	
107-2	51	GL18表土	446-AL11	磨石	10.8	9.8	5.9	938.6	閃緑岩	
107-3		GM36Ⅲb層	446-AL12	磨石	(7.8)	(6.9)	(4.1)	243.4	砂岩	
107-4	51	GN41Ⅲb層	446-AL13	磨石	5.6	5.4	4.0	155.9	砂岩	両面に僅かな凹み
107-5	51	GM32Ⅲb層	446-AL14	磨石	6.3	4.5	3.6	132.9	砂岩	
107-6	51	GM16Ⅲb層	446-AL16	磨石	(14.7)	(11.3)	(7.5)	1175.5	砂岩	

図面番号	図版番号	出土位置	遺物番号	種別	a最大長	b1最大幅	c1最大厚	重さ	石質	特徴
107-7		GR14Ⅲb層	446-AL15	磨石	6.0	5.5	4.3	179.3	閃緑岩	
107-8		GR23Ⅲb層	446-AL17	磨石	(8.5)	(6.5)	(3.2)	214.1	砂岩	
107-9		GC36Ⅲ層	460-AL03	磨石	13.7	12.2	7.3	1740.7	閃緑岩	
108-1		FT36Ⅲ層	460-AL05	磨石	(8.1)	(16.8)	7.1	800.7	閃緑岩	
108-2	51	GA33Ⅲ層	460-AL06	磨石	8.9	7.8	3.7	377.3	閃緑岩	
108-3		SI886 271*	460-AL04	磨石	10.1	9.2	4.8	833.2	砂岩	外周に敲打痕
108-4	51	GD32Ⅲ層	460-AL07	磨石	8.0	7.0	4.0	311.4	閃緑岩	外周の一部に敲打痕
108-5		GI17Ⅲ層	460-AL08	磨石	7.2	6.9	4.6	304.6	砂岩	外周の一部に敲打痕
108-6	51	GB34Ⅲ層	460-AL09	磨石	8.9	8.2	3.1	335.5	閃緑岩	両面中央に僅かに凹み、外周に敲打痕
108-7	51	GE36Ⅲ層	460-AL10	磨石	8.5	6.9	2.9	227.7	砂岩	
108-8		GR26Ⅲ層	460-AL11	磨石	9.9	9.1	3.1	401.2	閃緑岩	
109-1		GA34Ⅲ層	460-AL12	磨石	9.8	7.0	5.0	481.1	閃緑岩	
109-2		GC35Ⅲ層	460-AL13	磨石	11.5	9.6	3.6	610.8	閃緑岩	
109-3	51	GB33Ⅲ層	460-AL14	磨石	7.5	4.8	3.6	187.7	閃緑岩	両面中央部に複数の凹み
109-4	51	GD23Ⅲ層	460-AL15	磨石	7.8	5.6	2.8	196.2	閃緑岩	
109-5	51	GR22Ⅲ層	460-AL16	磨石	16.5	5.6	3.6	523.1	閃緑岩	
109-6	51	GB34Ⅲ層	460-AL17	磨石	17.4	8.6	4.0	887.6	閃緑岩	
109-7	51	GD24 表土	460-AL18	磨石	18.9	8.4	4.5	1029.4	閃緑岩	
109-8	52	HC40Ⅲ層	431-AM01	挟入磨石	(5.4)	(6.6)	(1.8)	59.0	砂岩	
109-9		GR35Ⅲb層	446-AM01	挟入磨石	(7.3)	(7.6)	3.0	222.4	砂岩	
122-4		HA20Ⅲ層	431-AP01	石皿	(11.8)	(9.1)	5.5	706.8	砂岩	
122-5		GR22Ⅲ層	431-AP02	石皿	(11.8)	(5.9)	5.8	551.5	砂岩	破損後スタンプに転用
122-6	58	GO38Ⅲ層	431-AP03	石皿	(9.9)	(8.0)	4.7	467.7	閃緑岩	破損後磨石に転用
122-7	58	GS50Ⅲ層	431-AP04	石皿	17.8	16.6	3.5	1473.4	砂岩	
122-8		HD15 表土	431-AP05	石皿	(13.7)	(8.6)	3.1	488.0	閃緑岩	
123-1		HD26 表土	431-AP06	石皿	(15.8)	(8.9)	5.4	638.0	砂岩	
123-2		HC50Ⅲ層	431-AP08	石皿	(14.7)	(7.7)	4.1	104.1	砂岩	
123-3		HE22Ⅲ層	431-AP07	石皿	(10.7)	(11.1)	(8.1)	840.4	閃緑岩	
123-4		GM24Ⅲb層	446-AP01	石皿	16.0	(15.5)	4.9	2435.5	閃緑岩	
123-5		GL23Ⅲb層	446-AP02	石皿	(9.7)	(9.7)	3.0	309.8	閃緑岩	
123-6		GR20Ⅲ層	460-AP02	石皿	(15.3)	(18.5)	4.9	1761.7	閃緑岩	
124-1		GE42Ⅲ層	460-AP03	石皿	(11.5)	16.0	4.2	1166.7	閃緑岩	
124-2	58	FE33Ⅲ層	460-AP04	石皿	(15.9)	(22.0)	(11.9)	4492.8	安山岩	
124-3		HB21 表土	431-AR01	台石	16.6	11.3	4.3	995.7	砂岩	
124-4	59	HG21Ⅲ層	431-AR02	台石	17.8	12.2	8.9	2401.1	橄欖岩	
124-5		GJ16Ⅲb層	446-AR01	台石	18.6	12.3	10.0	2847.8	砂岩	敲打痕あり
125-1		GL16Ⅲb層	446-AR02	台石	(8.2)	(13.6)	(5.4)	766.1	砂岩	
125-2		GM30Ⅲb層	446-AR03	台石	(9.2)	10.0	3.7	539.1	閃緑岩	
125-3		GE32Ⅲ層	460-AR01	台石	(10.9)	(6.5)	(8.8)	676.9	砂岩	
125-4	59	GE27Ⅲ層	460-AR02	台石	(17.3)	11.4	11.8	2590.2	砂岩	
125-5	59	HE40Ⅲ層	431-AS01	粗製大型石匙	10.1	4.9	1.3	67.2	粘板岩	
125-6		HC44Ⅲ層	431-AT01	剥片	4.6	8.6	0.8	23.1	砂岩	
125-7	59	HE44Ⅲ層	431-AT02	剥片	7.4	9.6	1.5	86.3	砂岩	

国産番号	国産番号	出土位置	遺物番号	種別	a 最大長	b1 最大幅	c1 最大厚	重量	石質	特徴
126-8	59	G040重層	431-AT03	剥片	14.2	8.2	1.6	178.5	鉄石英	
125-9		HC42重層	431-AT04	剥片	8.5	4.6	1.1	74.6	鉄石英	
125-10		HC20重層	431-AT05	剥片	5.9	6.7	1.8	59.7	鉄石英	
126-1		HC23重層	431-AT06	剥片	10.6	8.7	3.1	185.0	鉄石英	
126-2	59	HC34重層	431-AT07	剥片	9.3	8.2	3.4	210.2	鉄石英	
126-3	59	HC24重層	431-AT08	剥片	10.9	8.2	2.6	175.3	鉄石英	
126-4		G040重層	431-AT09	剥片	10.0	8.2	2.2	111.0	鉄石英	
126-5	59	HC46重層	431-AT11	剥片	11.0	13.7	3.9	591.6	鉄石英	
126-6		HC26重層	431-AT10	剥片	10.3	7.3	1.8	110.5	鉄石英	
126-7	59	HC44重層	431-AT12	剥片	10.2	13.9	2.8	373.8	砂岩	
126-8	60	GB24重層	460-AT07	剥片	12.3	6.8	2.8	220.0	鉄石英	
126-9		FT33重層	460-AT06	剥片	7.4	10.4	1.8	150.5	鉄石英	
126-10		GA28重層	460-AT08	剥片	6.2	7.7	0.8	42.1	鉄石英	
127-1	60	GG29重層	460-AT09	剥片	13.9	5.4	2.9	223.5	鉄石英	
127-2		GB05重層	460-AT10	剥片	8.1	6.6	1.5	100.4	鉄石英	
127-3	60	GB14重層	460-AT11	剥片	8.7	10.0	2.3	194.3	鉄石英	
127-4	60	GF24重層	460-AT13	剥片	6.6	7.4	2.2	101.1	鉄石英	
127-5	60	FT33重層	460-AT12	剥片	8.3	12.2	2.5	234.7	鉄石英	
127-6		GB26重層	460-AT14	剥片	6.3	6.0	2.0	96.7	鉄石英	
127-7	60	GG30重層	460-AT15	剥片	9.0	6.4	2.7	152.2	鉄石英	
127-8		GA40重層	460-AT16	剥片	9.0	5.9	4.6	269.2	鉄石英	
128-1	60	GS30重層	431-AT13	剥片	5.2	4.2	1.2	17.5	チャート	使用痕あり
128-2	60	GS46重層	431-AT14	剥片	5.9	6.3	1.6	46.4	チャート	
128-3	60	HA44重層	431-AT15	剥片	3.4	5.9	2.0	34.6	鉄石英	
128-4	60	GO38重層	431-AT17	剥片	4.2	6.3	0.8	11.4	鉄石英	
128-5		G040重層	431-AT16	剥片	4.0	1.9	1.7	14.4	チャート	
128-6	60	HAS2重層	431-AT18	剥片	2.8	4.1	1.6	10.9	チャート	
128-7	60	GQ46重層	431-AT19	剥片	4.5	2.1	0.9	6.5	チャート	
128-8	60	HE15表土	431-AT20	剥片	3.2	1.6	0.8	2.2	黒曜石	
128-9	60	GO30表土	446-AT02	剥片	2.0	3.8	1.0	5.6	黒曜石	使用痕あり
128-10	61	GK36重層	446-AT03	剥片	5.6	2.6	0.8	6.6	チャート	
128-11	61	GM38重層	446-AT04	剥片	6.2	3.0	1.7	22.7	鉄石英	
128-12	61	GJ37重層	446-AT05	剥片	7.1	5.1	1.2	34.3	鉄石英	
128-13	61	GB32重層	460-AT18	剥片	3.0	2.3	0.9	4.7	鉄石英	
128-14	61	GB32重層	460-AT19	剥片	1.6	2.2	0.7	2	チャート	
128-15	61	GB32重層	460-AT20	剥片	3.6	4.6	1.7	25.1	チャート	
129-1	61	GB31重層	460-AT21	剥片	3.1	2.7	1.0	7.7	チャート	
129-2	61	GB32重層	460-AT22	剥片	2.2	3.3	1.0	7.6	チャート	
129-3	61	GB32重層	460-AT23	剥片	3.0	3.2	1.1	8.2	チャート	
129-4	61	GA32重層	460-AT24	剥片	3.2	1.8	0.8	3.5	チャート	
129-5	61	GA30重層	460-AT25	剥片	1.8	2.7	0.7	2.9	チャート	
129-6	61	GB33重層	460-AT26	剥片	6.6	6.1	2.4	57.8	チャート	
129-7	61	GB32重層	460-AT27	剥片	2.7	1.9	0.8	1.9	チャート	
129-8	61	GB32重層	460-AT28	剥片	2.7	2.5	1.2	4.1	チャート	

図面番号	図版番号	出土位置	遺物番号	種別	a最大長	b1最大幅	c1最大厚	重さ	石質	特徴
129-9	61	GA33Ⅲ層	460-AT29	剥片	2.9	2.4	1.0	4.6	チャート	
129-10	62	GB32Ⅲ層	460-AT30	剥片	1.7	2.0	1.1	3.2	チャート	
129-11	62	GE18 表土	460-AT31	剥片	1.1	1.5	0.5	0.3	黒曜石	
129-12	62	GE22 表土	460-AT36	剥片	1.5	1.1	0.6	0.7	黒曜石	
129-13	61	GE42Ⅲ層	460-AT32	剥片	4.9	4.0	1.8	24.2	チャート	
129-14	61	GF41Ⅲ層	460-AT33	剥片	3.8	4.5	1.7	24.1	チャート	
129-15	61	GA37Ⅲ層	460-AT34	剥片	3.5	2.4	0.8	3.7	チャート	
129-16	62	SI590 覆土	460-AT36	剥片	2.0	3.6	1.4	7.2	頁岩	
129-17	62	GM43Ⅲb層	446-AW01	石核	14.5	8.4	6.2	715.0	緑色凝灰岩	
130-1		GT27Ⅲ層	431-AV01	原材	(15.4)	(17.3)	7.9	2424.1	4467.6x5	
130-2		SI547 覆土	431-AZ01	浮子	10.1	6.0	4.2	41.5	浮岩	
130-3	62	GS50Ⅲ層	431-AZ02	磨石?	9.4	9.2	3.8	517.9	砂岩	

437 次調査石器一覽

図面番号	図版番号	出土位置	遺物番号	種別	a最大長	b1最大幅	c1最大厚	重さ	石質	特徴
136-2	64	Ⅱ層	437-AG01	打製石斧	11.6	4.8	1.7	116.8	4467.6x5	短冊形
136-3		Ⅲb層	437-AJ01	磯器	10.5	13.1	3.4	429.9	4467.6x5	全体に刺離が激しい
136-4		Ⅲ層	437-AL02	磨石	(9.1)	(6.3)	(5.3)	347.5	砂岩	
136-5	64	Ⅱ層	437-AL01	磨石	9.2	8.4	5.1	610.2	閃綠岩	

442 次調査石器一覽

図面番号	図版番号	出土位置	遺物番号	種別	a最大長	b1最大幅	c1最大厚	重さ	石質	特徴
145-15	70	IJ15Ⅲb層	442-AA01	尖頭器	4.9	2.7	0.7	6.6	チャート	
145-16	70	II20Ⅲb層	442-AB01	石鏃	2.7	1.7	0.4	0.9	チャート	無蓋
145-17	70	IT31Ⅲb層	442-AB02	石鏃	1.8	1.6	0.3	0.6	黒曜石	無蓋
145-18		JE8Ⅲb層	442-AD01	扇形削器	6.5	9.6	1.9	108.1	頁岩	
145-19	70	JE5Ⅲb層	442-AD02	削器	5.2	10.4	1.5	82.6	4467.6x5	
145-20	70	JH2Ⅲb層	442-AD03	削器	6.6	12.4	2.0	146.0	4467.6x5	
146-1	70	IN17Ⅲb層	442-AD04	削器	3.2	3.3	1.6	11.2	チャート	
146-2	71	IH37Ⅲb層	442-AD05	削器	3.6	3.4	0.9	8.4	チャート	
146-3	71	JO7Ⅲc層	442-AD06	削器	2.7	1.5	0.4	1.4	黒曜石	
146-4	71	IQ15Ⅲb層	442-AG01	打製石斧	16.1	6.4	2.7	258.0	片岩	短冊形
146-5		JK7Ⅲb層	442-AG02	打製石斧	11.1	5.6	2.0	140.5	4467.6x5	短冊形
146-6		JL9Ⅲb層	442-AG03	打製石斧	9.5	5.1	2.1	99.4	片岩	短冊形
146-7		IH32Ⅲb層	442-AG04	打製石斧	(8.6)	10.8	3.3	272.6	4467.6x5	分朔形
146-8	71	JG6Ⅲb層	442-AT02	調整剥片石器	11.7	8.9	2.9	398.7	輝綠岩	
146-9	71	JH2Ⅲb層	442-AI01	調整剥片石器	5.8	3.7	1.4	30.3	4467.6x5	
146-10	71	IQ18Ⅲb層	442-AJ01	磯器	17.0	11.7	7.5	1807.2	砂岩	
147-1	71	IK19Ⅲb層	442-AJ02	磯器	12.5	15.4	5.5	1160.2	4467.6x5	
147-2	71	IN18Ⅲb層	442-AJ03	磯器	9.9	16.1	3.1	540.6	砂岩	台石・石皿の転用か?
147-3		IE24Ⅲb層	442-AK01	敲石	12.8	6.8	7.0	830.8	閃綠岩	磨石転用

図面番号	図版番号	出土位置	遺物番号	種別	a最大長	b1最大幅	c1最大厚	重さ	石質	特徴
147-4	71	IF27Ⅲb層	442-AL02	磨石	9.9	(7.0)	4.0	389.4	砂岩	
147-5	71	IR17Ⅲb層	442-AL01	磨石	7.5	6.5	2.8	202.1	閃緑岩	表面中央と側面に敲打痕
147-6	71	IT12Ⅲb層	442-AM01	挟入磨石	5.9	9.4	2.8	202.2	砂岩	
149-2		IH36Ⅲb層	442-AP04	石皿	(14.3)	(4.4)	4.3	843.2	閃緑岩	
149-3	72	IE24Ⅲb層	442-AP01	石皿	16.6	12.5	3.3	972.1	閃緑岩	
149-4		IN13Ⅲb層	442-AP02	石皿	15.2	15.7	4.2	1430.9	閃緑岩	
149-5		IF21Ⅲb層	442-AP03	石皿	(12.1)	(14.8)	6.0	1418.1	閃緑岩	
149-6		ID26Ⅲb層	442-AR03	台石	(14.6)	(6.5)	5.0	571.4	砂岩	
149-7		JG3Ⅲc層	442-AR02	台石	(10.6)	(16.2)	(5.6)	1221.0	砂岩	
150-1		IE29Ⅲb層	442-AR01	台石	14.8	(17.1)	8.6	3001.5	砂岩	
150-2	73	IS13Ⅲb層	442-AT11	剥片	13.9	5.1	5.1	317.8	砂岩	
150-3	73	IP12Ⅲb層	442-AT02	剥片	4.4	5.7	0.9	18.6	安山岩	
150-4	73	JH6Ⅲb層	442-AT01	剥片	8.9	4.8	1.4	51.8	砂岩	
150-5	73	IK15Ⅲb層	442-AT03	剥片	4.5	6.6	0.8	23.3	砂岩	
150-6	73	IN18Ⅲb層	442-AT04	剥片	6.5	4.4	1.3	40.2	頁岩	
150-7	73	IG37Ⅲ層	442-AT05	剥片	7.9	5.1	1.0	42.3	砂岩	
150-8	73	JN6Ⅲb層	442-AT06	剥片	5.0	8.1	1.7	58.0	砂岩	
150-9	73	IJ27Ⅲb層	442-AT07	剥片	8.6	10.2	1.9	123.0	砂岩	
150-10	73	JL7Ⅲb層	442-AT09	砕片	9.3	7.9	2.7	226.9	凝灰岩	
150-11	73	JN10Ⅲb層	442-AT08	剥片	8.3	13.8	2.4	254.3	砂岩	両石として使用、2ヶ所凹み
150-12	73	IK17Ⅲb層	442-AT10	剥片	7.3	6.1	2.4	132.3	粘板岩	
150-13		IJ27Ⅲb層	442-AT12	剥片	2.5	4.9	2.4	23.1	頁岩	

443 次調査石器一覽

図面番号	図版番号	出土位置	遺物番号	種別	a最大長	b1最大幅	c1最大厚	重さ	石質	特徴
153-15		IB15Ⅲb層	443-AD01	削器	9.3	13.7	2.6	271.7	砂岩	
153-16		IJ3Ⅲ層	443-AD02	削器	4.3	4.4	1.3	17.9	頁岩	
153-17		IB11表土	443-AD03	掻器	2.2	3.5	1.2	5.7	凝灰石	
153-19		IJ5Ⅲ層	443-AP01	石皿	(7.1)	(8.6)	(7.3)	602.7	閃緑岩	

444 次調査石器一覽

図面番号	図版番号	出土位置	遺物番号	種別	a最大長	b1最大幅	c1最大厚	重さ	石質	特徴
175-33	83	IB65Ⅲ層	444-AD01	削器	9.1	8.7	3.3	326.0	砂岩	
175-34	83	IB38Ⅲ層	444-AG01	打製石斧	10.9	5.7	2.2	144.7	砂岩	短冊形
176-1	83	IB27Ⅲ層	444-AG02	打製石斧	12.8	5.8	2.0	135.1	砂岩	短冊形
176-2	83	IB86Ⅲ層	444-MG03	打製石斧	12.0	4.4	2.0	114.5	砂岩	短冊形
176-3	83	IB68Ⅲ層	444-AG04	打製石斧	11.7	4.7	2.2	115.5	砂岩	短冊形
176-4	83	IB76Ⅲ層	444-AG05	打製石斧	13.2	5.9	2.2	162.8	砂岩	短冊形
176-5		IB15Ⅲ層	444-AI01	調整剥片石器	4.7	8.0	3.0	96.8	砂岩	全体に割離が激しい
176-6		IB73Ⅲ層	444-AI02	調整剥片石器	6.0	4.5	1.5	40.4	砂岩	
176-7	83	IB27Ⅲ層	444-AJ01	礫器	10.8	13.3	5.4	655.4	砂岩	

図面番号	図版番号	出土位置	遺物番号	種別	a最大長	b1最大幅	c1最大厚	重さ	石質	特徴
176-8	83	HN57Ⅲ層	444-AL01	磨石	8.4	7.6	4.9	437.9	閃緑岩	裏面中央が窪かに凹んでいる
176-9	83	SK1-49	444-AL03	磨石	11.5	9.0	3.5	541.1	閃緑岩	歴史時代遺構出土
177-1		HN77Ⅲ層	444-AL02	磨石	(11.3)	7.1	5.6	614.5	砂岩	
177-7		HO36Ⅲ層	444-AP01	石皿	(12.0)	12.8	3.1	729.1	閃緑岩	
178-1		HN82Ⅲ層	444-AP02	石皿	(16.4)	(9.6)	3.9	53.6	砂岩	
178-2		HN84Ⅲ層	444-AP03	石皿	(15.5)	(7.5)	6.9	1098.7	閃緑岩	
178-3		HN66Ⅲ層	444-AP04	石皿	(12.6)	(10.0)	6.0	1116.9	砂岩	
178-4	84	HL70Ⅲ層	444-AT01	剥片	6.5	3.6	0.8	24.3	タフツェルス	
178-5	84	HL79Ⅲ層	444-AT02	剥片	5.9	8.2	1.7	92.0	砂岩	
178-6		HL76Ⅲ層	444-AT03	剥片	11.0	8.0	2.1	238.1	チャート	
178-7	84	HN96Ⅲ層	444-AT04	剥片	11.2	6.2	1.9	128.6	タフツェルス	
178-8	84	HN53Ⅲ層	444-AT06	剥片	7.8	10.0	2.0	170.0	タフツェルス	
178-9		HN65Ⅲ層	444-AT07	剥片	6.9	10.7	3.0	217.8	タフツェルス	
179-1	84	HN64Ⅲ層	444-AT05	剥片	10.2	12.4	2.3	345.2	タフツェルス	
179-2		HN86Ⅲ層	444-AT08	剥片	5.4	9.1	3.1	202.6	タフツェルス	
179-3		HN62Ⅲ層	444-AT09	剥片	9.2	10.5	3.3	297.3	タフツェルス	

445 次調査石器一覽

図面番号	図版番号	出土位置	遺物番号	種別	a最大長	b1最大幅	c1最大厚	重さ	石質	特徴
182-8	86	HL5Ⅲ層	445-AD01	刮器	7.5	6.7	2.1	93.1	タフツェルス	
182-9		HL6Ⅲ層	445-AD02	刮器	7.8	9.0	2.2	156.2	タフツェルス	
182-10	86	HL5Ⅲ層	445-AJ01	礪器	11.3	13.8	5.1	840.5	タフツェルス	
182-11		HN2Ⅲ層	445-AJ02	礪器	10.2	13.0	3.6	582.1	砂岩	削痕あり
182-12		P-75 覆土	445-AR02	台石	(11.9)	(11.8)	(7.2)	1224.4	砂岩	歴史時代小穴出土
182-13		HN1Ⅲ層	445-AR01	台石	(3.6)	12.4	(5.4)	319.9	砂岩	
182-14	86	HN1Ⅲ層	445-AT01	剥片	3.5	4.8	1.4	18.4	チャート	

449 次調査石器一覽

図面番号	図版番号	出土位置	遺物番号	種別	a最大長	b1最大幅	c1最大厚	重さ	石質	特徴
183-25	88	Ⅲ層	449-AD01	刮器	6.6	7.9	1.4	71.6	タフツェルス	
183-26	88	Ⅲ層	449-AH01	磨製石斧	9.5	3.8	2.3	116.0	片岩	
183-27		Ⅲ層	449-AI01	調整剥片石器	5.8	5.9	1.7	52.2	砂岩	
184-1	88	Ⅲ層	449-AL01	磨石	10.1	10.5	3.8	575.0	砂岩	側面に敲打痕
184-2	88	Ⅲ層	449-AL02	閃石	9.3	6.9	3.3	282.9	砂岩	表面中央に窪かに凹み
184-5		Ⅲ層	449-AP01	石皿	(16.8)	(9.3)	(3.0)	525.0	砂岩	

459 次調査石器一覧

図面番号	図版番号	出土位置	遺物番号	種別	a 最大長	b1 最大幅	c1 最大厚	重さ	石質	特徴
185-12		SS63	459-AB01	石鏃	(1.1)	1.3	0.5	0.5	黒曜石	
185-13	89	SS63	459-AD01	削器	7.4	8.9	1.4	70.6	黒曜石	
186-14		SS63	459-AL02	磨石	(5.0)	(7.2)	5.4	293.1	砂岩	
186-15		SS63	459-AR01	台石	(6.8)	(4.5)	4.5	195.1	砂岩	
186-16		SS63	459-AT06	剥片	1.5	1.4	0.3	0.3	黒曜石	
186-12	90	LM6Ⅲ層	459-AD02	削型削器	7.6	12.0	4.2	371.1	砂岩	
186-13	90	LL28Ⅲ層	459-AD03	削器	4.0	6.8	2.0	42.6	安山岩	
186-14	90	LT1Ⅲ層	459-AG01	打製石斧	12.9	5.5	2.1	179.4	黒曜石	短冊形
186-15	90	LO2Ⅲ層	459-AG02	打製石斧	8.7	3.7	1.6	57.6	粘板岩	短冊形
186-16	90	LL32Ⅲ層	459-AG03	打製石斧	9.5	8.6	2.1	116.9	黒曜石	
186-17		LR6Ⅲ層	459-AJ01	礫器	13.1	11.4	5.6	1160.1	黒曜石	
186-18	90	LM0Ⅲ層	459-AK01	叩き石	11.3	5.9	4.4	413.4	砂岩	
187-1		LL28Ⅲ層	459-AL01	磨石	8.5	(8.5)	5.4	511.1	砂岩	
187-2	90	LS1Ⅲ層	459-AM01	抉入磨石	10.3	14.5	3.1	666.3	閃緑岩	
188-3		LR22Ⅲ層	459-AR02	台石	(11.3)	(13.5)	7.4	1839.1	砂岩	
188-4		LM29Ⅲ層	459-AR03	台石	(7.2)	(11.2)	(7.1)	672.1	砂岩	
188-5	91	LS6Ⅲ層	459-AT01	剥片	10.7	7.2	1.8	126.1	黒曜石	
188-6		LS1Ⅲ層	459-AT09	剥片	7.3	8.4	1.0	78.5	黒曜石	
188-7	91	LL22Ⅲ層	459-AT02	剥片	15.8	4.7	3.7	268.8	黒曜石	
188-8		LN0Ⅲ層	459-AT04	剥片	9.6	7.2	3.5	231.8	黒曜石	
188-9		LQ1Ⅲ層	459-AT05	剥片	1.7	1.2	0.5	0.9	チャート	

421 次調査スタンプ形石器一覧

図面番号	図版番号	出土位置	遺物番号	a 最大長	b1 最大幅	b2 握り部幅	c1 最大厚	c2 握り部厚	d 底面(基部)最大長	e 底部最大幅	重さ	石質	特徴
I2-5	5	E12 包含層	421-AN01	13.6	12.7	7.8	6.0	4.7	12.2	5.0	1093.4	閃緑岩	I C11ab
I2-6	5	E6 表土	421-AN02	9.9	9.8	6.0	4.2	3.2	9.8	4.1	473.3	砂岩	I E2ab
I2-7	6	E17 重層	421-AN03	10.0	8.5	8.1	3.0	2.8	8.3	2.8	422.6	砂岩	I A9cb
I2-8	6	F 区 S21 覆土	421-AN04	11.0	7.9	8.6	4.5	3.7	7.9	4.6	588.0	砂岩	I A11ub
I2-9	6	F 区 TK27 重層	421-AN05	12.1	10.2	8.9	4.4	3.8	8.9	3.2	636.8	砂岩	I Fou

428 次調査スタンプ形石器一覧

図面番号	図版番号	出土位置	遺物番号	a 最大長	b1 最大幅	b2 握り部幅	c1 最大厚	c2 握り部厚	d 底面(基部)最大長	e 底部最大幅	重さ	石質	特徴
I5-6	8	JA46 重層	428-AN01	11.0	7.5	6.0	4.4	3.9	7.5	4.4	375.5	砂岩	II D6bd
I6-7	8	IK48 重層	428-AN03	8.1	6.8	4.8	2.6	2.4	6.3	2.0	178.8	砂岩	I E1aa
I5-8	8	LP48 重層	428-AN02	13.3	11.2	6.9	3.9	3.7	11.2	3.8	751.5	砂岩	I E11ab
I6-1	8	HO60 重層	428-AN04	10.0	8.7	6.3	2.8	2.6	8.5	2.5	318.0	砂岩	I A7ab
I6-2	8	IO48 重層	428-AN06	14.6	9.3	6.6	4.8	3.6	9.3	4.8	774.9	砂岩	I Fbd

431 次調査スタンプ形石器一覧

図面番号	図版番号	出土位置	遺物番号	a 最大長	b1 最大幅	b2 握り部幅	c1 最大厚	c2 握り部厚	d 底面(基部)最大長	e 底部最大幅	重さ	石質	特徴
I10-1	52	HC48 重層	431-AN01	10.6	9.4	7.6	5.3	4.9	9.1	4.9	706.6	砂岩	II A1bd 先端部欠
I10-2		HA26 重層	431-AN02	12.4	8.4	4.9	5.5	4.0	7.2	5.1	639.0	砂岩	II E1ed
I10-3	52	GS46 重層	431-AN03	13.2	10.4	6.9	5.8	3.5	10.1	4.4	694.4	砂岩	II E2cd
I10-4	52	GS48 重層	431-AN04	12.1	5.9	2.9	5.7	4.8	5.1	5.5	546.2	砂岩	II E7cd
I10-5	52	HC39 重層	431-AN05	12.1	7.9	4.8	6.0	4.2	7.1	5.6	883.7	砂岩	II A2cd
I10-6		HC48 重層	431-AN06	11.8	7.2	6.8	6.6	6.4	6.3	5.4	888.2	閃緑岩	II B9ad 磨石転用か
I11-1		HG38 重層	431-AN07	11.8	8.8	5.8	7.1	4.9	8.8	5.8	826.3	砂岩	II Pau 磨石転用?
I11-2	52	HE34 重層	431-AN08	12.4	9.8	8.8	7.0	6.8	9.1	5.8	1145.6	閃緑岩	II Fed
I11-3	52	IJ15 重層	431-AN09	9.3	9.6	6.4	3.6	2.6	9.1	3.2	377.2	閃緑岩	I E11ab
I11-4	52	GQ30 重層	431-AN12	11.7	10.9	5.6	4.7	4.2	10.9	4.7	774.9	閃緑岩	I E3ed
I11-5	52	HE34 重層	431-AN11	11.3	10.6	6.2	3.8	3.0	10.2	3.4	612.0	閃緑岩	I C1bd
I11-6	53	GQ48 重層	431-AN10	11.8	10.2	6.6	3.1	2.3	9.6	2.8	460.4	閃緑岩	I E1aa
I11-7	53	HE24 重層	431-AN13	12.7	9.1	5.1	4.7	3.9	8.3	4.6	737.0	砂岩	I E11ab
I11-8	53	HE16 重層	431-AN14	10.0	11.1	7.9	3.6	3.4	11.1	3.6	648.3	砂岩	I E1ad
I12-1		GO48 重層	431-AN15	9.7	10.6	5.9	3.3	2.5	10.5	3.3	436.5	閃緑岩	I E7bc
I12-2	53	GO48 重層	431-AN16	11.4	10.7	6.0	4.3	3.8	10.7	4.2	664.8	閃緑岩	I E6cd
I12-3	53	GS36 重層	431-AN17	11.2	7.4	6.2	4.1	3.2	7.4	4.0	536.8	閃緑岩	I E9ab
I12-4		HE40 重層	431-AN18	13.4	11.3	7.5	5.2	4.3	10.4	5.0	1016.7	閃緑岩	I A9bd 頭部欠
I12-5		HA36 重層	431-AN19	11.5	11.2	8.1	2.6	2.3	11.2	2.6	444.4	砂岩	I E7bd
I12-6	53	GS36 重層	431-AN21	11.6	8.8	4.7	4.2	4.0	6.5	3.6	565.0	砂岩	I E7bb 底面周縁に調整痕あり
I12-7	53	HA40 重層	431-AN22	9.6	8.1	8.0	3.5	2.9	7.4	3.2	474.3	砂岩	I Fab
I12-8		GS40 重層	431-AN20	11.0	10.6	6.7	3.8	3.6	10.5	3.5	616.2	砂岩	I E7bd
I13-1	54	HG52 重層	431-AN23	11.0	8.3	6.3	4.6	3.8	7.1	4.2	604.3	閃緑岩	I Faa 底部外周に調整痕

図面番号	図版番号	出土位置	遺物番号	a最大長	b1最大幅	b2振り部幅	c1最大厚	c2振り部厚	d底面(基部)最大長	e底面最大幅	重さ	石質	特徴
113-2	53	HA42Ⅲ層	431-AN24	6.7	5.6	4.5	5.0	4.0	5.3	5.0	297.1	閃緑岩	ⅡF10nd 1面が磨れている
113-3	53	HF32Ⅲ層	431-AN25	7.4	6.0	4.1	4.0	2.9	5.8	3.8	239.7	閃緑岩	ⅡFaa 底面外周調整・磨滅、全体に磨れている
113-4		GS32Ⅲ層	431-AN29 (8.0)	10.8	—	4.8	—	—	10.0	4.2	666.9	砂岩	Ⅱ1bb 頭部欠B2と思われる
113-5		HA50Ⅲ層	431-AN27	8.0	6.4	5.1	5.6	4.1	6.3	5.6	395.9	砂岩	ⅡF1bd 2上面磨れている
113-6		G032Ⅲ層	431-AN28 (6.8)	12.3	—	4.2	—	—	12.3	3.9	478.8	閃緑岩	Ⅱ10aa 頭部欠、B2と思われる底面は全体に磨滅
113-7		HA40Ⅲ層	431-AN26	8.0	6.7	5.5	4.2	4.0	6.4	4.2	385.5	閃緑岩	ⅡFbb 磨石の転用か?

446 次調査スタンプ形石器一覽

図面番号	図版番号	出土位置	遺物番号	a最大長	b1最大幅	b2振り部幅	c1最大厚	c2振り部厚	d底面(基部)最大長	e底面最大幅	重さ	石質	特徴
89-14	40	SK1978j	446-AN01	9.2	8.8	6.1	4.3	4.1	8.4	3.9	474.0	砂岩	I E2aa
113-8	54	OK37Ⅲb層	446-AN02	13.6	11.5	8.2	4.0	4.0	10.9	3.9	926.9	砂岩	I C1cd
114-1	54	GG40表土	446-AN03	12.9	10.3	5.8	4.9	4.8	10.4	3.9	806.2	砂岩	I A1cd
114-2		GI28Ⅲb層	446-AN04	12.6	10.0	7.7	4.7	4.3	9.6	4.5	776.9	砂岩	I C1ab
114-3		GG46Ⅲb層	446-AN05	11.6	11.2	7.5	4.9	4.9	10.7	3.6	745.4	砂岩	I D1ab
114-4		GI37Ⅲb層	446-AN08	13.8	12.7	7.6	7.2	5.8	12.5	7.2	1430.2	閃緑岩	I B3bd
114-5	54	GI37Ⅲb層	446-AN07	14.2	12.6	8.8	8.2	4.7	12.6	5.1	1053.9	砂岩	I E1bc
115-1	54	GJ17Ⅲb層	446-AN08	11.8	10.1	7.3	4.2	2.9	9.6	3.8	695.1	閃緑岩	I E4aa
115-2	54	GJ14Ⅲb層	446-AN09	10.0	9.8	7.6	2.7	2.5	9.6	2.7	380.3	閃緑岩	I B1ab
115-3		GH49Ⅲb層	446-AN10	9.5	10.4	8.4	3.6	3.6	10.4	3.5	549.2	閃緑岩	I E4ab
115-4	54	GL22Ⅲb層	446-AN11	10.2	7.9	5.1	3.5	2.8	7.5	3.1	285.1	砂岩	I A5ac
115-5	55	GJ15Ⅲb層	446-AN12	13.5	13.7	7.3	4.9	4.8	13.6	4.8	1308.2	閃緑岩	I B6bc
115-6	54	GJ47Ⅲb層	446-AN13	11.4	8.4	5.6	2.9	2.1	8.2	2.8	322.4	閃緑岩	I B6bb
115-7		GI38Ⅲb層	446-AN14	10.9	7.7	5.6	4.0	4.0	7.0	3.3	453.4	閃緑岩	I B6aa
116-1		G032Ⅲb層	446-AN16	11.1	9.3	8.1	4.5	4.3	9.0	4.3	686.6	砂岩	I E8bd
116-2	55	GP23Ⅲb層	446-AN16	9.6	9.5	9.0	3.6	3.5	8.1	3.0	492.5	閃緑岩	I Fed
116-3	55	GP40Ⅲb層	446-AN17	13.7	9.1	6.8	5.0	4.4	8.8	5.0	866.1	砂岩	I Fad
116-4		OK28Ⅲb層	446-AN18	8.7	8.8	7.5	4.0	3.4	8.1	3.3	468.3	砂岩	I Fea
116-5	55	GI45Ⅲb層	446-AN19	10.2	9.1	—	5.7	—	9.1	5.6	689.7	閃緑岩	I Fbb
116-6	55	GI34Ⅲb層	446-AN20	8.2	7.2	6.5	5.3	5.0	7.2	5.2	456.7	砂岩	I Fad
116-7	55	G029Ⅲb層	446-AN21	11.1	6.8	6.7	5.0	4.5	6.3	4.9	557.5	砂岩	Ⅱ Fbc
116-8	55	GH40Ⅲb層	446-AN22	11.8	7.8	5.3	5.3	4.1	7.7	5.3	563.5	砂岩	Ⅱ E7cd
117-1	55	OK31表土	446-AN23	11.9	8.0	6.5	5.8	4.6	7.2	5.3	685.0	砂岩	Ⅱ E8bc
117-2	56	GM46Ⅲb層	446-AN24	7.8	5.6	—	3.3	—	5.6	3.0	200.0	砂岩	Ⅲ E8aa
117-3	56	GJ13Ⅲb層	446-AN25	4.8	4.3	—	2.7	—	4.2	2.8	71.8	閃緑岩	Ⅲ Fed
117-4		G036Ⅲb層	446-AN26 (6.9)	9.8	—	—	4.2	—	9.7	4.1	397.6	閃緑岩	I aa
117-5		OK16Ⅲb層	446-AN27 (5.6)	(8.7)	—	—	3.9	—	—	—	269.2	砂岩	I i
117-6		表紙	446-AN28 (6.2)	8.7	—	—	(2.6)	—	—	—	168.7	砂岩	I aa 詳細不明

460 次調査スタンプ形石器一覧

図面番号	図版番号	出土位置	遺物番号	a 最大長	b1 最大幅	b2 握り部幅	c1 最大厚	c2 握り部厚	d 底面(基部)最大長	e 底部最大幅	重さ	石質	特徴
117-7		GA25Ⅲ層	460-AN01	8.2	8.5		4.2		8.5	4.2	396.7	砂岩	I Fbd
117-8	56	GD36Ⅲ層	460-AN02	9.9	7.3	6.2	4.3	3.4	7.3	4.3	468.2	閃緑岩	I E8cb
117-9		GC24 表土	460-AN03	9.4	7.2		3.7		6.9	3.6	376.9	閃緑岩	I E8cb
117-10		GC31Ⅲ層	460-AN04	10.2	8.6		3.6		8.6	3.5	488.9	砂岩	I Fbd
118-1	56	FT36Ⅲ層	460-AN06	11.2	7.1	6.7	3.8	3.5	6.8	3.9	519.6	閃緑岩	I E8cd
118-2	56	FT33Ⅲ層	460-AN06	12.0	7.6		4.2		6.9	3.9	492.6	砂岩	I Fab
118-3	56	GC39Ⅲ層	460-AN07	11.2	8.0	7.0	4.1	3.8	7.9	4.1	581.9	閃緑岩	I Fcc
118-4	56	GR23Ⅲ層	460-AN08	12.4	9.8	8.8	3.8	3.5	8.2	3.9	732.7	閃緑岩	I C8bd
118-5		GF22Ⅲ層	460-AN09	12.4	9.4	7.0	3.6	3.3	9.2	3.0	561.2	砂岩	I A6ac
118-6	56	GC23 表土	460-AN11	9.7	8.6	6.2	2.7	2.4	7.9	2.3	320.6	砂岩	I E1ab
118-7		GC24 表土	460-AN10	10.8	12.9		4.4		12.9	4.0	719.5	閃緑岩	I Fad
119-1	56	GA34Ⅲ層	460-AN12	10.0	11.2	8.6	4.2	4.1	11.2	3.9	538.0	砂岩	I D5ab
119-2	56	GA38Ⅲ層	460-AN13	9.8	8.9	6.5	4.0	3.9	8.9	3.4	605.7	砂岩	I E1cd
119-3	57	GE25Ⅲ層	460-AN14	10.5	10.4	7.1	5.0	3.9	10.4	4.8	628.0	砂岩	I D1aa
119-4	57	GD26Ⅲ層	460-AN16	13.2	11.7	8.0	5.3	4.8	10.4	4.8	1051.0	砂岩	I E1ao
119-5	57	GF32Ⅲ層	460-AN16	12.3	11.7	8.1	5.2	4.1	11.4	5.2	840.1	閃緑岩	I B1ab
120-1	57	GC16Ⅲ層	460-AN17	11.4	11.3	7.6	3.9	3.2	10.4	3.6	577.8	閃緑岩	I B1bb
120-2		GG30Ⅲ層	460-AN18	11.4	10.7	7.1	4.8	4.5	10.6	4.4	748.2	砂岩	I E3ad
120-3	57	GF15Ⅲ層	460-AN23	10.3	9.6	5.4	4.0	3.0	9.6	3.7	488.6	砂岩	I A1cd
120-4	57	GF35 表土	460-AN19	13.0	10.6	7.9	5.0	4.9	10.1	4.4	957.8	砂岩	I A1ad
120-5	57	FS39Ⅲ層	460-AN24	12.3	9.7	5.1	4.0	3.7	9.4	3.8	592.4	砂岩	I A2ad
120-6	57	GD36Ⅲ層	460-AN20	11.8	10.1	5.7	3.2	2.6	9.9	3.1	485.2	閃緑岩	I A1ab
120-7	58	GD18Ⅲ層	460-AN22	10.0	9.7	6.6	3.8	2.9	9.4	3.8	483.4	砂岩	I E1ad
121-1		GF16Ⅲ層	460-AN21	12.3	12.8	8.5	4.5	4.4	12.1	4.2	1082.7	閃緑岩	I A1ad
121-2		GB34Ⅲ層	460-AN25	11.5	6.1		6.1		6.1	4.2	522.9	砂岩	II E8ad
121-3	58	GF30Ⅲ層	460-AN26	9.6	7.4		5.8		5.7	5.5	589.3	閃緑岩	II B3cd、不整形 石の転用か
121-4	58	GA42Ⅲ層	460-AN27	10.1	8.2		5.2		7.3	4.7	693.9	砂岩	II C3cd
121-5		GB39Ⅲ層	460-AN28	11.0	6.5	5.8	4.9	4.3	6.4	4.8	572.4	輝緑岩	II E8cd
121-6		GA45 表土	460-AN29	10.9	5.8		4.3		5.1	3.5	381.3	砂岩	II B7ac
121-7	58	GG20Ⅲ層	460-AN30	9.0	10.9	7.9	5.8	4.9	10.6	5.6	672.3	砂岩	II E1cd
121-8	58	SX160 覆土	460-AN31	7.0	6.6		3.9		6.5	3.6	254.0	閃緑岩	III B8ab、歴史時代不明 遺物出土
122-1	58	GB36Ⅲ層	460-AN32	7.5	6.2		4.7		5.6	4.2	276.0	砂岩	III Faa
122-2	58	GF37Ⅲ層	460-AN33	7.7	6.9		3.7		6.3	3.6	223.2	砂岩	III E8ac
122-3		GD45Ⅲ層	460-AN34	9.0	4.6		3.7		3.9	3.3	223.0	砂岩	III Fcd

437 次調査スタンプ形石器一覧

図面番号	図版番号	出土位置	遺物番号	a 最大長	b1 最大幅	b2 握り部幅	c1 最大厚	c2 握り部厚	d 底面(基部)最大長	e 底部最大幅	重さ	石質	特徴
135-6		Ⅲ層	437-AN01	(7.6)	6.6	4.0	5.2	3.5	5.6	5.2	292.6	砂岩	I 4bc
135-7		Ⅲ層	437-AN02	15.2	(12.2)	7.2	5.0	4.7	(6.6)	6.0	1021.2	砂岩	II E1cd
136-8	64	SI555 覆土	437-AN03	5.3	7.6	5.4	4.1	3.1	7.0	4.1	163.6	砂岩	III E8bd

442 次調査スタンプ形石器一覽

図面番号	図版番号	出土位置	遺物番号	a 最大長	b1 最大幅	b2 握り部幅	c1 最大厚	c2 握り部厚	d 底面(基部)最大長	e 底部最大幅	重さ	石質	特徴
148-1	72	1G37田層	442-AN01	13.4	13.2	6.9	4.5	4.3	11.6	4.2	978.1	閃緑岩	I E1bd
148-2	72	1G24田b層	442-AN02	12.7	8.8	5.6	4.8	3.9	8.8	4.8	645.3	閃緑岩	I E1ad
148-3	72	1G36田b層	442-AN03	10.6	8.3		3.3		7.4	2.9	355.2	閃緑岩	I E5ab
148-4	72	1M19田b層	442-AN04	10.5	9.5		5.3		9.4	5.2	724.6	閃緑岩	I A1bd
148-5	72	1K24田層	442-AN06	10.9	8.8	5.6	4.1	3.6	8.8	4.1	549.7	閃緑岩	I A6cd
148-6	72	1E29田b層	442-AN05	13.3	11.6	8.6	4.1	3.1	11.2	4.1	788.4	閃緑岩	I E7bc
148-7	72	1L17田b層	442-AN07	10.8	8.0		4.2		7.9	3.7	562.0	砂岩	I E3cd
149-1		1K19田b層	442-AN08 (7.4)	8.6		-	6.6	-	8.3	6.6	562.9	閃緑岩	II 7bd

443 次調査スタンプ形石器一覽

図面番号	図版番号	出土位置	遺物番号	a 最大長	b1 最大幅	b2 握り部幅	c1 最大厚	c2 握り部厚	d 底面(基部)最大長	e 底部最大幅	重さ	石質	特徴
153-18		1J3田b層	443-AN01	10.5	7.2		3.6		7.2	3.4	319.6	砂岩	I Fac

444 次調査スタンプ形石器一覽

図面番号	図版番号	出土位置	遺物番号	a 最大長	b1 最大幅	b2 握り部幅	c1 最大厚	c2 握り部厚	d 底面(基部)最大長	e 底部最大幅	重さ	石質	特徴
177-2	84	1H63田層	444-AN01	12.3	6.5		4.5		6.2	4.4	516.3	砂岩	II Fad、表面に剥離痕
177-3	84	1H86田層	444-AN02	10.0	7.3		4.1		7.3	4.1	498.6	閃緑岩	II Fbb
177-4		1H86田層	444-AN03	11.3	7.4	4.6	4.5	3.1	7.4	4.5	337.4	砂岩	II F7-bd
177-5		1H73田層	444-AN04	10.7	6.7	4.9	6.1	4.4	6.7	5.7	493.3	砂岩	II E7cd
177-6		1H02田層	444-AN05	9.9	8.6	6.6	5.2	5.2	9.2	5.1	582.8	砂岩	II A1aa

449 次調査スタンプ形石器一覽

図面番号	図版番号	出土位置	遺物番号	a 最大長	b1 最大幅	b2 握り部幅	c1 最大厚	c2 握り部厚	d 底面(基部)最大長	e 底部最大幅	重さ	石質	特徴
184-3	88	田層	449-AN01	16.7	16.2	7.9	5.2	5.1	15.1	5.2	1647.6	閃緑岩	I C1ab
184-4	88	田層	449-AN02	11.5	7.7		4.8		7.6	4.5	670.1	閃緑岩	I E8ad

459 次調査スタンプ形石器一覽

図面番号	図版番号	出土位置	遺物番号	a 最大長	b1 最大幅	b2 握り部幅	c1 最大厚	c2 握り部厚	d 底面(基部)最大長	e 底部最大幅	重さ	石質	特徴
187-3	90	表採	459-AN01	11.3	8.8		5.1		8.6	4.7	760.4	閃緑岩	I E8cd
187-4	90	LL16田層	459-AN02	10.6	10.7	6.6	4.0	3.3	10.1	4.0	566.4	砂岩	I E1bd
187-5	91	LP4田層	459-AN04	12.9	7.4	3.6	6.1	3.5	7.4	5.9	528.9	砂岩	I D2cd 石皿再利用
187-6	91	LM5田層	459-AN03	10.2	11.2	7.5	6.1	3.9	10.8	5.1	787.6	閃緑岩	I B1cc
188-1		LM26田層	459-AN05 (8.3)	7.8			3.7		7.3	3.4	410.1	閃緑岩	I bc
188-2	91	1K17田層	459-AN06	7.3	6.4		4.7		6.1	4.7	324.0	砂岩	田Fed

428 次調査旧石器時代石器一覽

図面番号	図版番号	出土位置	遺物番号	種別	a最大長	b1最大幅	c1最大厚	重さ	石質	特徴
16-8	8	調査坑 7Vb層	428-FL01	剥片	10.2	3.6	1.3	29.0	珪質頁岩	使用痕あり
16-9	8	調査坑 7Vb層	428-FL02	剥片	5.2	3.8	1.1	15.2	チャート	

446・460 次調査旧石器時代石器一覽

図面番号	図版番号	出土位置	遺物番号	種別	a最大長	b1最大幅	c1最大厚	重さ	石質	特徴
130-4	62	ST2 Vb層	446-FJ01	石核	5.8	5.6	2.5	87.4	頁岩	
130-5	62	ST2 Vb層	446-FJ02	石核	7.2	4.8	2.2	57.0	頁岩	
130-6		ST2 Vb層	446-FL01	剥片	2.5	3.7	1.3	8.1	頁岩	
130-7	62	ST2 Vb層	446-FL02	剥片	4.9	3.0	1.2	13.6	頁岩	
130-8	62	ST2 Vb層	446-FL03	剥片	4.5	2.1	0.9	6.2	頁岩	
131-1	62	ST2 Vb層	446-FL04	剥片	4.4	3.7	1.3	13.9	頁岩	
131-2		ST2 Vb層	446-FL05	剥片	5.1	4.2	1.7	32.3	頁岩	
131-3	62	ST2 Vb層	446-FL06	剥片	1.8	1.8	0.7	1.9	頁岩	
131-4	62	ST2 Vb層	446-FL07	剥片	1.2	2.8	0.6	1.6	頁岩	
131-5	62	ST2 Vb層	446-FL11	剥片	3.9	1.8	0.7	4.5	頁岩	
131-6		ST2 Vb層	446-FL09	剥片	3.0	1.8	0.5	2.0	頁岩	
131-7	62	ST2 Vb層	446-FL08	剥片	2.7	4.7	1.0	14.0	頁岩	
131-8		ST2 Vb層	446-FL10	剥片	2.4	5.3	2.7	33.0	頁岩	
131-9		ST2 Vb層	446-FL12	剥片	3.5	6.0	1.7	23.4	頁岩	
131-10	62	ST2 Vb層	446-FL13	剥片	4.8	4.4	1.7	29.9	頁岩	
131-11	63	ST2 Vb層	446-FN01	剥片	1.7	2.0	0.6	1.1	頁岩	
131-12		ST2 Vb層	446-FN02	剥片	1.3	1.9	0.9	1.6	頁岩	
131-13	63	ST2 Vb層	446-FN01	叩き石	8.7	6.0	4.6	346.8	閃緑岩	
131-14	63	ST3 Vb層	446-FA01	ナイフ形石器	(2.3)	1.2	0.6	0.9	黒曜石	
131-15	63	ST3 Vb層	446-FA02	ナイフ形石器	(2.1)	1.3	0.4	0.7	黒曜石	
131-16	63	ST3 Vb層	446-FL14	剥片	4.6	5.4	1.5	28.5	珪質頁岩	調整痕あり
131-17	63	ST3 Vb層	446-FL15	剥片	2.2	2.2	1.0	2.9	珪質頁岩	
131-18	63	ST3 Vb層	446-FL18	剥片	3.0	3.4	0.6	3.2	珪質頁岩	
131-19	63	ST3 Vb層	446-FL17	剥片	10.5	2.7	2.1	41.4	チャート	
132-1		ST3 Vb層	446-FL16	剥片	3.0	5.2	0.9	10.5	珪質頁岩	
132-2	63	ST3 Vb層	446-FL19	剥片	4.8	2.4	1.0	9.8	凝灰岩	
132-3	63	ST3 Va層	446-FL24	剥片	4.8	2.8	1.2	13.2	凝灰岩	
132-4		調査坑 NVa層	446-FJ03	石核	9.8	3.4	3.7	50.6	頁岩	
132-5	63	調査坑 QVc層	446-FJ04	石核	8.2	3.5	3.6	126.6	頁岩	
132-6	63	調査坑 RVb層	446-FJ06	石核	8.3	8.4	4.3	270.2	珪質頁岩	
132-7		調査坑 ACVc層	460-FL20	不定形剥片	4.5	5.2	3.5	61.3	チャート	
132-8	63	調査坑 NVa層	446-PQ1	石錐	(2.7)	1.1	0.9	2.0	黒曜石	

442 次調査旧石器時代石器一覧

図面番号	図版番号	出土位置	遺物番号	種別	a最大長	b1最大幅	c1最大厚	重さ	石質	特徴
151-1	73	ST1Va層	442-FA01	ナイフ形石器	6.0	1.8	0.9	4.6	黒曜石	
151-2	73	ST1Va層	442-FL01	刮片	5.2	3.1	1.3	20.4	チャート	
151-3	73	ST1Va層	442-FL02	刮片	3.1	2.5	0.8	4.8	チャート	
151-4		ST1Va層	442-FL10	刮片	1.6	3.4	0.4	2.6	頁岩	
151-5	74	ST1Va層	442-FL03	刮片	4.0	3.7	0.9	9.5	チャート	
151-6	74	ST1Va層	442-FL04	刮片	6.3	2.9	1.1	19.1	頁岩	
151-7	74	ST1Va層	442-FL05	刮片	4.1	2.8	1.1	6.1	頁岩	
151-8	74	ST1Va層	442-FL07	刮片	5.5	3.7	1.2	19.1	頁岩	
151-9	74	ST1Va層	442-FL08	刮片	4.5	2.3	1.0	7.7	頁岩	
151-10	74	ST1Va層	442-FL11	刮片	6.4	4.2	2.2	38.5	頁岩	
151-11	74	ST1Va層	442-FL13	刮片	4.5	3.8	1.7	28.1	チャート	
151-12		ST1Va層	442-FL12	刮片	4.1	2.3	2.0	10.7	チャート	
151-13	74	ST1Va層	442-FL06	刮片	7.5	7.2	2.5	90.7	頁岩	
151-14	74	ST1Va層	442-FL09	刮片	3.4	5.9	2.1	46.0	頁岩	
152-1	74	ST1Va層	442-FL14	刮片	5.9	6.3	2.3	68.2	チャート	
152-2		ST1Va層	442-FL15	刮片	4.2	4.3	2.6	37.6	チャート	
152-3	74	ST1Va層	442-FL16	刮片	3.4	3.9	1.1	9.3	チャート	
152-4	74	ST1Va層	442-FL19	刮片	5.8	6.1	1.8	63.9	頁岩	
152-5	74	ST1Va層	442-FL18	刮片	3.7	5.3	1.7	17.1	頁岩	
152-6		ST1Va層	442-FL17	刮片	4.5	3.3	0.8	5.3	頁岩	
152-7		ST1Va層	442-FM01	砕片	1.4	0.8	0.1	0.2	頁岩	
152-8	75	ST1Va層	442-FR01	白石	(9.6)	10.0	6.5	831.5	砂岩	
152-9	75	ST1Va層	442-FY01	原材	14.8	10.6	7.8	1449.9	チャート	
152-10		ST1Va層	442-FY02	原材	10.9	(6.1)	(6.1)	406.9	チャート	

444 次調査旧石器時代石器一覧

図面番号	図版番号	出土位置	遺物番号	種別	a最大長	b1最大幅	c1最大厚	重さ	石質	特徴
179-4	84	調査坑1 Va層	444-FA01	ナイフ形石器	(4.2)	1.7	0.7	4.1	火山岩	
179-5	84	調査坑4 Va層	444-FL01	刮片	2.2	1.0	0.4	0.7	黒曜石	調整痕あり

459 次調査旧石器時代石器一覧

図面番号	図版番号	出土位置	遺物番号	種別	a最大長	b1最大幅	c1最大厚	重さ	石質	特徴
189-1	91	ST4VI層	459-FL01	刮片	3.9	1.8	1.3	5.8	頁岩	角錐状石器か
189-2		ST4VI層	459-FL02	刮片	2.5	2.0	0.8	2.5	頁岩	
189-3	91	ST4Vb層	459-FL03	刮片	2.9	3.8	1.1	8.5	頁岩	
189-4	91	ST4Vb層	459-FL04	刮片	1.6	4.6	1.2	6.0	頁岩	
189-6	91	ST4Vb層	459-FL05	刮片	2.6	6.5	2.5	24.3	頁岩	
189-6		ST4Vb層	459-FL06	刮片	2.7	4.4	1.4	10.5	頁岩	
189-7	91	ST4Vb層	459-FL07	刮片	4.2	2.2	1.3	8.8	頁岩	
189-8		ST4Vb層	459-FL08	刮片	2.0	4.1	0.9	8.4	頁岩	
189-9	91	ST4Vb層	459-FL09	刮片	(4.4)	1.7	1.1	7.7	燧灰岩	ナイフの基部か

報告書抄録

ふりがな	むさしこくふんじあとおくつゆりょうさくせい							
書名	武蔵国分寺跡発掘調査概報 26							
副書名	北方地区・平成8～10年度西国分寺地区土地区画整理事業及び泉町公園事業に伴う調査							
巻次								
シリーズ名								
シリーズ番号								
編著者名	国分寺市遺跡調査団(団長 吉田権)上村昌男、吉田好孝、吉岡秀敏、中山哲也							
編集機関	国分寺市教育委員会							
所在地	〒185-8501 東京都国分寺市戸倉1-6-1 Tn042-325-0111							
発行年月日	西暦2002年3月25日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 ㎡	調査理由
		市町村	遺跡番号	°′″	°′″			
むさしこくふんじあとおくつゆりょうさくせい 武蔵国分寺跡	東京都国分寺市 西元町1丁目、 泉町2丁目(注6)	13-214	19	35度 41分 06秒	139度 28分 01秒	1996/01～ 1998/03/31	23,532.42	西国分寺地区 土地区画整理 事業及び泉町 公園事業に伴 う事前調査
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
武蔵国分寺跡	集落跡	旧石器時代 縄文時代 平安時代	独立柱建物 11棟 竪穴住居 40軒 溝 27基 土坑 459基 火葬墓 1基 地下式墓穴墓 1基 地下式土壇墓 1基 土壇墓 1基 集石 5基 ユニット 4基		土師器、須恵器、土師質土器、 灰被陶器、緑釉陶器、瓦、埴 羽口、鉄製品、鉄甲、縄文土 器、縄文時代石器、旧石器時 代ナイフ形石器、石器、刺片		武蔵国分寺跡伽藍地北側に広がる 国分寺西遺集落と、台地上に散在 する縄文時代中期の小規模集落、 及び旧石器時代の小規模な石器集 中区	

武蔵国分寺跡発掘調査概報26

—北方地区・平成8～10年度 西国分寺地区土地区画整理
事業及び泉町公園事業に伴う調査—

[木 文 編]

発行日	平成14年3月25日
編著者	国分寺市道跡調査団 ◎ (団長 吉田 格)
発行所	国分寺市道跡調査会 〒185-8501 国分寺市戸倉1-6-1 TEL 042-325-0111(代番) 東京都国分寺市教育委員会内
印刷所	〒144-0052 東京都大田区蒲田4-41-11 株式会社 東 プ リ

令和4年(2022)3月9日 デジタル版作成